2024年

独立行政法人国立病院機構
長崎医療センター

年　　報

（診療業績集）

NATIONAL
NAGASAKI
MEDICAL CENTER

独立行政法人国立病院機構長崎医療センター
シンボルマーク



高度専門医療を目指す独立行政法人国立病院機構長崎医療センターの
シンボルマークは、
国際的な視野での医療拠点（ブルー）
と
離島など地域に足場を置く心暖かい医療（ピンク）
という二つの翼で長崎の地(N)より飛び立つ水鳥をイメージする。
『高度医療』『臨床研究』『教育・研修』『国際医療協力』の四本柱より、
広く世界へ情報発信する図を表している。大いなる歴史と、
世界に目を向けた医療ネットワークの発信拠点である姿を
美しく、親しみやすく、そして雄大にデザインした。



第18回指導医・研修医合同ワークショップ

長崎医療センター診療年報2024

巻頭言

長崎医療センター診療年報2024年が出来ましたのでお届けします。

2024年は、医療界では医師の働き方改革が始動しました。当センターでは他の職種へのタスクシフトやチーム制への移行などの取組が既に行われており、大きな混乱もなく進んでいます。今後も、将来の専門医不足を見越して、取組を充実していく必要があります。また、新型コロナウイルス感染症が５類となり一年が経ち、社会は日常生活を取り戻しつつありますが、医療機関として感染に備えている状況は変わりありません。

当センターの経営状況は、耐性菌やCOVID-19の影響により医業収支では赤字の状況が続き、国立病院機構本部より重点支援病院に指定されました。様々な改善に向けた取り組みが求められています。更に追い打ちをかけるかのように、2024年６月の診療報酬改定においても収益向上が厳しい状況です。そのような中、各診療科や看護部の努力により、手術・治療処置の増加や病床利用率の増加を図り、医業収益が改善してきています。

また、令和８年度から「新たな地域医療構想」が始まります。2040年頃を見据えた医療体制を実現するためですが、当センターは「救急医療等の急性期の医療を広く提供する機能」を担い高齢者救急や在宅医療を支援して行きます。しかし、長崎県では2025年をピークに高齢者人口が減り始め、全国の2040年問題が既に始まっています。高齢者救急の入口と出口問題に対して早急に対応しなければいけません。関係機関との連携を強める必要があります。

今回の年報には、各部門の努力が反映されていますので、ご一読いただければ幸いです。

2025年３月

独立行政法人国立病院機構長崎医療センター

院長　髙　山　隼　人

基本理念

高い水準の知識と技術を培い
さわやかな笑顔と真心で
患者さん一人一人の人格を尊重し
高度医療の提供を目指します

長崎医療センターの使命

長崎医療センターは以下の活動を誠実に行い、地域拠点病院として住民と医療機関からの信頼を得る

1．安全で質の高い医療を提供する
2．救急医療の最後の砦となる
3．地域の医療機関、行政と密接に連携する
4．すべての医療人と学生に魅力的な教育研修を提供する
5．臨床研究を推進し、国際医療協力に貢献する

長崎医療センターの運営方針

地域・職員から信頼させる病院を目指す

・医療者が集う病院
・職員が達成感のある医療を提供できる病院
（働き方改革、ハラスメント防止）
・患者に安全、安心の医療提供する病院
（医療事故回避）
・安定した病院経営

患者さんの権利

○だれもが平等に安心して最善の医療を受ける権利があります

○病気や検査および治療について十分な説明と情報を得る権利があります

○治療法など自ら自由に選択できる権利があります

○個人の尊厳が保て、診療における個人情報の秘密が守られ、プライバシーが保護される権利があります

○病院内で起こった出来事で苦情を申し立てる権利があります

○患者さん自身の診療録の開示を求める権利があります

以上のことをお約束するため、患者さんのご協力をお願い致します

患者さんへのお約束

○全ての職員は、初めてお会いする時に自己紹介を致します

○全ての職員は、注射を行う時、薬をお渡しする時、お名前や注射・薬などを声を出して確認いたします

○患者さんには、検査や手術を行う前に、ご自分のお名前を声に出して言って頂きます
当院では、医療を安全に安心して受けて頂けるよう、患者さんへもご協力頂いております

医の倫理綱領

医学及び医療は、病める人の治療はもとより人びとの健康の維持もしくは増進を図るもので、医療人は責任の重大性を認識し、人類愛を基にすべての人に平等に奉仕するものである。

1．医療従事者は生涯学習の精神を保ち、つねに医学の知識と技術の習得に努めるとともに、その進歩・発展に尽くす

2．医療従事者はこの職業と責任を自覚し、教養を深め、人格を高めるように心掛ける

3．医療従事者は医療を受ける人びとの人格を尊重し、優しい心で接するとともに、医療内容についてよく説明し、信頼を得るように努める

4．医療従事者はお互いに尊厳し、他の医療関係者と協力して医療に尽くす

5．医療従事者は医療の公共性を重んじ、医療を通じて社会の発展に尽くすとともに、法規範の遵守及び法秩序の形成に努める

目　　次

病　院　概　要

病 院 沿 革 …… 1
学会の施設認定の状況 …… 10
病院功労賞　受賞チーム …… 11
学術奨励賞　表彰 …… 13

診 療 ・ 臨 床 統 計

腎 臓 内 科 …… 17
血 液 内 科 …… 22
内分泌・代謝内科 …… 32
リウマチ科 …… 36
総合診療科・総合内科 …… 40
精神科・精神リエゾンチーム …… 47
呼吸器内科 …… 49
消化管内科 …… 55
肝 臓 内 科 …… 59
循環器内科 …… 74
感染症内科 …… 80
小　児　科 …… 82
外　　科 …… 87
呼吸器外科 …… 100
整 形 外 科 …… 105
リハビリテーション科 …… 111
脳神経外科 …… 117
皮膚科・アレルギー科 …… 126
泌尿器科・腎臓外科 …… 129
産 婦 人 科 …… 135
眼　　科 …… 146
耳鼻咽喉科 …… 149
放 射 線 科 …… 155
麻　酔　科 …… 170
脳神経内科 …… 173
形 成 外 科 …… 176

心臓血管外科……184
臨床研究センター……189
海外研修生リスト……216
看　護　部……217
　診　療　病　棟……246
　手術センター……259
　治療検査センター……260
　外　　来……261
　医療相談支援センター……262
診療看護師（JNP）……263
薬　剤　部……270
病理診断科……284
臨床検査部臨床検査科……292
栄養管理室……309
緩和ケアチーム……314
褥瘡対策委員会……317
ＮＳＴ（栄養サポートチーム）……323
臨床工学室……328
医療安全管理室……333
ＢＬＳ研修……338
感染対策チーム……340
クリティカルパス……345
総合情報センター……347
診療情報管理室……349
県央がんセンター……353
治験管理室……358
教育センター……361
高度救命救急センター……373
長崎県ドクターヘリ……380
防災センター・ベッドセンター・車庫……385
NHO共同研究、その他研究等（治験含む）【2023年度】……389
COVID-19……402
医療情報統計部門……404
　医事統計……404
　eXChart 疾病統計……409
　腫瘍集計報告……417

病院概要

National Hospital Organization **NAGASAKI** Medical Center

病 院 沿 革

昭和

❶昭和17年７月１日　佐世保海軍病院大村病舎として創設

●昭和17年10月１日　大村海軍病院として運営開始







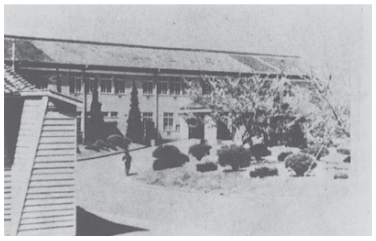
❷平成23年12月23日　厚生省へ移管され国立大村病院として発足

●昭和22年10月１日　高等看護学院を付設



●昭和25年７月１日　国立長崎病院を統合

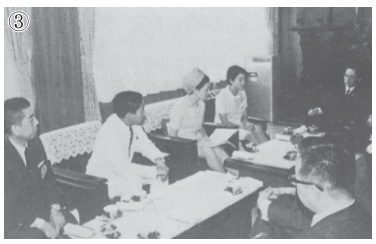
●昭和32年　小児医療センター未熟児室創設



●昭和35年８月　循環器センター開設

●昭和40年７月　がん診療施設開設

❸昭和45年　皇太子殿下、妃殿下御来院：小児センター入院中の病児ご慰問を兼ね、本院開催「長崎県離島医療医療事情に関するご懇談会」へご出席



●昭和46年４月１日　医師の臨床研修病院へ指定、救急医療センター開設



●昭和47年４月　血液透析センター開設

●昭和48年４月　僻地親元病院、臨床検査センターの指定、精神医療センター開設、医学的リハビリテーションセンター施設

❹ 昭和50年４月２日　国立長崎中央病院と名称変更


④

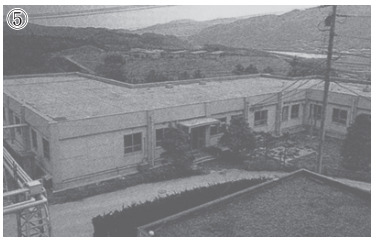
❺ 昭和51年４月　難病肝疾患基幹施設設置

❻ 昭和53年３月15日　救命救急センター設置（国立病院で初めて）



● 昭和53年４月５日　臨床研究部設置

● 昭和55年４月　母子医療センター設置


⑤

❼ 昭和56年10月　WHO肝炎協力センター指定

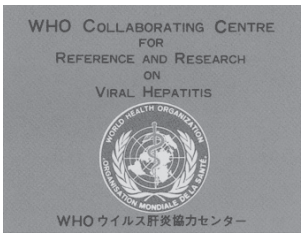
昭和56年11月30日　地方腎移植センター設置及び腎移植施設に指定（平成７年改編される）

● 昭和58年10月１日　地域医療研修センター設置


⑥

● 昭和61年　高度総合診療施設（九州ブロックセンター）に認定

平成



● 平成２年５月　肝臓電子カルテ開発

● 平成２年10月　総合診療センター

● 平成６年３月　エイズ拠点病院

● 平成７年６月　指定HLA検査センター

● 平成７年８月　赤ちゃんにやさしい病院（ユニセフとWHO）に認定

● 平成７年12月６日　腎移植施設登録

● 平成８年12月　基幹災害医療センター

● 平成10年６月　臓器提供施設

● 平成10年９月　脳死臓器移植指定病院

- ⑧ 平成11年３月１日　日本初の脳死腎移植
- 平成11年３月19日　高度専門医療施設（準ナショナルセンター）（肝疾患）の指定
- 平成11年３月　基幹医療施設（成育）の指定
- ⑨ 平成13年４月１日　国立病院長崎医療センターと名称変更
- 平成14年３月　電算化オーダリング開始
- 平成14年10月　臨床研究センター開設
- 平成15年４月　地域医療支援病院
- ⑩ 平成16年４月１日　独立行政法人国立病院機構長崎医療センターと名称変更
- 平成16年４月　長崎大学大学院医歯薬総合研究科連携講座（肝臓病講座）開設
- 平成16年10月12日　南京大学医学院附属病院鼓楼医院との学術交流調印式
- 平成17年１月　がん疾患診療拠点病院に指定
- ⑪ 平成17年４月25日　日本医療機能評価機構認定
- 平成17年５月12日～17日　南京大学医学院附属鼓楼病院との第二回日中学術交流会開催
- 平成18年７月１日　DPC運用開始
- ⑫ 平成18年11月３日　南京大学医学院附属鼓楼病院との第三回日中学術交流会開催
- 平成18年11月６日　北華大學との学術交流調印式
- ⑬ 平成18年12月１日　ドクターヘリ運用開始
- 平成19年４月　教育センター開設
- ⑭ 平成19年４月　カザフ国立循環器病学・内科学科学研究センター（カザフスタン）との学術交流締結
- 平成19年７月　総合周産期母子医療センターに指定
- 平成19年８月　肝疾患診療連携拠点病院に指定
- ⑮ 平成19年９月29日　附属看護学校60周年記念式典

⑧



⑨



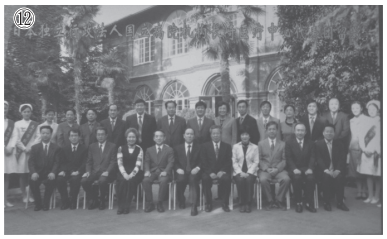
⑩



⑪

Japan Council for Quality Health Care
日本医療機能評価機構

⑫



⑬



⑭



⑮



- 平成20年２月28日　国立病院機構長崎医療センターホームページリニューアル
- 平成20年３月20日　日本輸血細胞治療学会Ｉ＆Ａ認定（国立病院機構の病院としても、九州の病院としても第１号認定）
- ⑯平成20年４月１日　米倉正大院長、国立病院機構九州ブロック担当理事を拝命


⑯

- 平成20年４月１日　小児循環器学会修練施設認定
- ⑰平成20年７月１日　ロシア連邦卒後教育医学アカデミー学長らの表敬訪問


⑰

- 平成20年７月10日　医療相談支援センター開設（地域医療連携室（前方支援）とMSW（後方支援）が合体）
- 平成21年３月20日　長崎県 DMAT 始動
- ⑱平成21年４月18日　長崎医療センター敷地内に活水女子大学看護学部開学


⑱

- 平成21年４月28日　長崎県ドクターヘリ出動1000件突破
- 平成21年６月12日～13日　第11回日本医療マネージメント学術総会を主催
- ⑲平成21年７月16日　皇太子殿下の長崎医療センターご訪問　第45回献血運動推進全国大会が佐世保で行われ、そのお帰りの際に長崎医療センターにお立ち寄りになられました


⑲

- 平成21年９月14日　新電子カルテシステムへの更新
- 平成21年10月14日　長崎・アルマティー（カザフスタン）心臓病診断・治療プロジェクト調印
- 平成21年11月９日　NPO 法人卒後臨床研修評価機構の『医師臨床研修に関する機能評価』を受審（平成22年１月１日認定）
- 平成22年２月24日～26日　病院機能評価（Ver.6）受審（同、５月７日認定）
- 平成22年４月１日　医療の質の公開（外来棟に診療科別診療業績を掲示）
- 平成22年９月２日　改正臓器移植法後の臓器提供（九州１例目）と腎臓移植
- ⑳平成22年11月26日～27日　第64回国立病院総合医学会開催
- 平成22年12月13日　脳死臓器提供



⑳

●平成23年２月１日　長崎県ドクターヘリ出動2000件達成

㉑平成23年３月８日　長崎医療センター附属看護学校第62回生卒業式

㉒閉校記念碑除幕式

㉓平成23年３月11日　東日本大震災

㉔平成23年３月13日　長崎医療センター附属
看護学校閉校記念式典


⑳

●平成23年４月１日　長崎医療センター附属看護学校閉校

●平成23年11月12日　第18回日本航空医療学会開催

●平成23年12月６日　南京大学医学院附属鼓楼医院との
第８回日中学術交流会開催


㉒


㉒


㉓



㉑



㉑

●平成24年１月29日　長崎県国民保護共同実働訓練～空港テロを想定～

●平成24年４月１日　江宏典院長新体制

●平成24年４月９日　予約入院支援センター開設

●平成24年６月３日　ドクターヘリ出動3000回を超える

●平成24年９月22日　カザフスタン医科大学との
学術交流協定調印


㉕

㉕平成24年10月５日　臨床研究センター
10周年記念式典

㉖平成24年10月20日　第15回久原会総会開催

●平成24年12月15日　南京大学医学院附属
鼓楼医院120周年記念式典


㉖


㉗

㉗平成25年２月16日　カザフスタン国立内科循環器病
～19日　研究所からの訪問団

㉘ 平成25年３月25日　長崎医療センター研修医同窓会
“あかしや医師の会” 設立

㉘



㉙ 平成25年４月12日　長崎新聞掲載記事より
経済連携協定（EPA）に基づいた
看護師候補者への教育支援
看護師国家試験外国人候補者合格

㉙



● 平成25年７月６日　第１回長崎医療センター
がんフォーラム開催

● 平成25年10月14日　南京大学医学院付属鼓楼医院訪問団
～ 18日　第９回学術交流会開催

㉚



㉚ 平成26年１月11日　第１回あかしや医師の会総会開催

平成26年1月11日(土)
第1回「あかしや医師の会」総会

㉛ 平成26年１月27日　カザフスタン国立医科大学副学長来院

● 平成26年２月　南京大学付属鼓楼醫院からの研修生２名
の研修終了

㉛



㉜ 平成26年８月26日　ドクターヘリヘリポート駐機場等落成式

㉜



㉜



● 平成26年10月１日　県央がんセンター開設

㉝ 平成26年10月18日　第16回久原会開催

㉝



第16回　国病久原会　平成26年10月18日

● 平成26年10月30日　カザフスタン国立医科大学との共同
若手医師教育プログラム締結

㉞ 平成27年３月５日　病院機能評価（３rdG：Ver1.0）
～６日　受審（認定）

㉞





● 平成27年３月27日　人材育成センター落成式

㉟ 平成27年４月20日　カザフスタン共和国厚生社会開発省発令
カザフ国立医科大学金メダル受賞
（４人同時受賞は初）

● 平成27年６月17日　ドクターヘリ
安全運航5000回記念式典

㉟



● 平成27年７月11日　第３回がんフォーラム開催

㊱平成27年８月８日　広島被爆エノキ植樹式

●平成27年11月14日　第10回健康フェスタ開催

㊲平成27年11月28日　あかしや医師の会　第２回総会開催

●平成28年３月　国立病院機構JNP（Japanese Nurse practitioner：診療看護師）研修終了

●平成28年４　長崎県内初のDPCⅡ群病院としてスタート

●平成28年４月14日　熊本地震への対応

㊳平成28年６月４日　第１回長崎医療センターしょうぶフォーラム開催

●平成28年８月６日　第４回がんフォーラム開催

●平成28年10月15日　第17回国病久原会開催

●平成28年11月16日～17日　医科特定共同指導受審

●平成28年11月26日　第11回健康フェスタ開催

㊴平成29年２月４日　第１回九州診療看護師（NP）研究会学術集会・総会を開催

●平成29年３月１日より
EMTAC（Emergency Medical Team on Ambulance Car）；
長崎医療センター救命救急センター医師が、同敷地内にある県央地区広域市町村圏組合消防本部大村署久原分署高規格救急車に同乗し現場へ出動するシステムが運用開始

●平成30年３月10日　九州沖縄スライドコンファランスを主催
於、長崎医療センターあかしやホール

㊵平成30年４月　高度救命救急センター指定

㊶平成30年３月25日　第１回パープルデイながさき2018
於、長崎県庁エントランスホール

●平成30年７月　長崎県ドクターヘリ新機種導入

●平成30年11月３日　平成30年度全国医師会勤務医部会連絡協議会於、長崎市
『ながさき宣言』

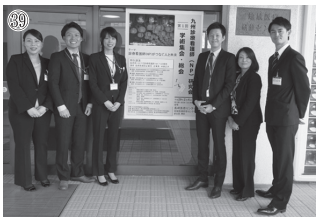
●平成31年４月30日　平成天皇陛下生前退位


㊱


㊲



㊳


㊴


㊵


㊶

令和

- 令和元年５月１日　新天皇陛下御即位
- ㊷令和元年６月14日　学校法人九州文化学園長崎国際大学と『教育・研究における連携・協力協定』を締結



- ㊸令和元年６月22日　第４回長崎医療センターしょうぶフォーラム開催



- ㊹令和元年６月27日　活水女子大学と『看護連携ユニフィケーション事業基本協定』を締結



- ㊺令和元年10月26日　第６回がんフォーラム開催



- ㊻令和２年１月22日～23日　日本医療機能評価機構による病院機能評価の訪問審査を受審
- 5月８日　3rdG：Ver.2.0 認定（証）



- ㊼令和２年１月25日　長崎医療センター研修医同窓会『あかしや医師の会』第４回総会開催



- 令和２年２月26日　特定行為研修指定研修機関指定（証）；指定研修機関番号2042002
- ３月14日　壱岐市で新型コロナ発生（長崎県第１例目）診療支援に
- 令和２年７月８日～10日　熊本豪雨災害へ長崎医療センター DMAT派遣



- ㊽令和２年９月９日　離島医療連携ヘリ事業開始（RIMCAS：Remote Island Medical Co-operaition Air Service）
- 令和２年12月28日　ドクターヘリ１万回出動
- ㊾令和３年２月28日　新型コロナワクチン接種開始



- ㊿　10月１日　第二種感染症指定医療機関に長崎県より指定



51 令和４年３月　第７回がんフォーラム開催（WEB）

52 ４月　八橋弘院長就任

９月　西九州新幹線開業

53 12月　救急外来隔離診療棟（Ｉ棟）開設

令和５年３月13日　第１回サイバー攻撃時対応訓練

５月13日から14日　G7長崎保健大臣会合

11月11日　第19回国病久原会総会

12月19日　ダビンチ手術第１例目

令和６年１月１日　石川・能登で震度７（能登半島地震）
長崎医療センター DMAT派遣

２月10日　第９回がんフォーラム

57 ４月１日　髙山隼人院長就任

７月　パリオリンピック
永瀬貴規選手柔道男子81kg級２連覇

58 ８月　純真学園大学との協定締結

59 赤ちゃんにやさしいNICU（BFNICU）
の認定

10月　ノーベル平和賞を「日本原水爆被害者団体協議会（被団協）」が受賞

60 第一回長崎医療センター病病・病診連携の会





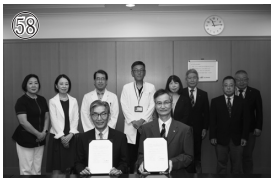
















学会の施設認定状況

日本アフェレシス学会
日本インターベンショナルラジオロジー学会
日本プライマリケア連合学会
日本リウマチ学会
日本医学放射線科学会
日本肝臓学会
日本肝胆膵外科学会
日本眼科学会
日本救急医学会
日本急性血液浄化学会
日本形成外科学会
日本血液学会
日本外科学会
日本血管外科学会
日本航空医療学会
日本高血圧学会
日本胸部外科学会
日本呼吸器学会
日本呼吸器外科学会
日本呼吸器内視鏡学会
日本呼吸療法医学会
日本産婦人科学会
日本周産期・新生児医学会（母体・胎児）
日本周産期・新生児医学会（新生児）
日本小児科学会
日本小児循環器学会
日本消化器外科学会
日本消化器内視鏡学会
日本消化器病学会
日本食道学会
日本耳鼻咽喉科・頭頸部外科学会
日本循環器学会
日本集中治療医学会専門医研修施設
日本静脈経腸栄養学会
日本神経学会
日本心臓外科学会
日本腎臓学会
日本膵臓学会
日本整形外科学会
日本精神神経学会
日本大腸肛門学会
日本消化管学会
日本胆道学会
日本超音波医学会
日本手外科学会
日本てんかん学会
日本透析医学会
日本糖尿病学会
内科専門研修プログラム　基幹施設
総合診療専門医プログラム　基幹施設
新・家庭医療専門研修プログラム　基幹施設
日本内分泌学会
日本内分泌外科学会
日本乳癌学会
日本熱傷学会
日本脳神経外科学会
日本脳卒中学会
日本皮膚科学会
日本泌尿器科学会
日本病理学会
日本不整脈心電図学会
日本放射線腫瘍学会
日本核医学学会
日本麻酔科学会
日本輸血細胞治療学会
日本臨床細胞学会
日本臨床腫瘍学会
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構
日本がん治療認定医機構
認定輸血検査技師制度協議会
日本ステントグラフト実施基準管理委員会
日本医療機能評価機構
日本乳がん検診精度管理中央機構
日本輸血・細胞治療学会Ｉ＆Ａ
日本臓器移植ネットワーク
臨床輸血看護師制度
JCOG参加施設認定証　乳がんグループ
JCOG参加施設認定証　リンパ腫グループ
日本専門医機構
総合診療専門医検討委員会
日本心血管インターベンション治療学会
日本医療薬学会　がん専門薬剤師研修認定施設（基幹施設）
日本医療薬学会　地域ケア専門薬剤師研修認定施設（基幹施設）
日本臨床腫瘍薬学会　がん診療病院連携研修施設
日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師研修施設
日本医療薬学会　医療薬学専門薬剤師研修施設（基幹施設）
日本医療薬学会　薬物療法専門薬剤師研修施設（基幹施設）
日本医学放射線学会　画像診断管理認証施設（画像人工知能安全管理・MR安全管理）
日本核医学学会ＰＥＴ撮像施設認（Ｉ）

病院功労賞　受賞チーム

令和６年度

	グループ名	代表受賞者	受賞理由
1	手術室看護師・臨床工学室ロボット手術導入チーム	榊原　チハル （手術室看護師長） 田代　博崇 （臨床工学技師長）	手術室看護師・臨床工学室ロボット手術導入チームが、今年度新規に導入したロボット手術の円滑・安全な運用と医業収益の増収アップに貢献したことに対して敬意をもって推薦いたします。
2	退院支援コアナースチーム	宮原　香織 （入退院支援コアナース会議代表）	地域医療構想の中で在宅を視野に入れた看護の実践が求められ、入退院支援は重要視されている。急性期病院である当院では、短い在院日数の中で円滑な入退院支援が課題であった。今回､コアナースが中心となってスタッフに教育と周知を行ったことにより、入退院支援の理解と実践が促進され、結果、入退院支援加算の算定件数が月平均で約4倍の増加をみとめるなど、病院の経営に大いに貢献したといえる。よって、ここに感謝の意をもって表彰する。

令和５年度

	グループ名	代表受賞者	受賞理由
1	医療安全管理部チーム	井手　時枝 （医療安全管理者） 松内　みゆき （専門職）	医療安全管理部チームが、病院内で発生する医療安全案件の顕性化を防ぐことにより患者や職員に安心感を齎したこと、また患者家族対応にも親身に根気よく対応されたこと、に対して敬意をもって表彰する。
2	めぐみの部屋チーム（教育センター）	斉藤　昌子 （副看護師長） 松本　温子 （看護師）	多忙な医療現場で感染対策のためコミュニケーションの取り辛い職場環境なども相まって、悩みを抱えながら勤務している職員は多くなっている。関係の質を向上する目的で開設されためぐみの部屋は、部署内では飲み込んでしまう心情を吐露し、気持ちを軽くしてくれる個人相談の窓口として月１件以上の相談を受け、相談者の気持ちに寄り添った対応をこころがけることで職員のメンタルヘルス維持に貢献していただいていると感謝の意をもって表彰する。

令和４年度

	グループ名	代表受賞者	受賞理由
1	ひまわりロードプロジェクトチーム	髙尾　珠江 （副看護部長）	コロナ禍において、新人職員スタッフへの心のケアが重視される中、看護部長室が中心となってひまわりロードプロジェクトを立ち上げるとともに、病棟や各部門においても師長や先輩看護師らが中心となって新人看護師の心のケアをおこなった結果、今年度新人看護師65名中、11月末までの離職者ゼロという実績を残されたことに対して敬意を持って表彰する。

2	入院基本料等加算取得検討チーム	田中　圭 （医療相談支援係長） 尾﨑　真人 （診療情報管理係長） 濱脇　正好 （診療報酬管理運営部長）	ポストコロナを見据えた上での安定した病院経営を目指す上で、新入院患者数の確保とともに診療報酬上の加算をできるだけ積み上げるという病院の方針に沿って、コロナ禍での新入院患者の確保、転院の促進、在院日数の短縮に加えて、新たな加算取得に向けての施設基準整備とともに、連携加算や救急加算などの加算取得に向けて尽力された結果、入院単価８千点以上を維持することができ、医業収支100％以上の達成月を増やすことが可能となったことに対して、敬意を持って表彰する。
3	計画停電プロジェクトチーム	寺下　真吾 （臨床工学士長） 岩﨑　吉洋 （企画課長）	20年間実施しなかった計画停電を想定内のトラブルで最小限に抑えたことは奇跡的で、周到な準備を丁寧に行った結果で、今年度のMVPに相当します。

令和３年度

	グループ名	代表受賞者	受賞理由
1	ワクチンプロジェックトチーム	小森　敦正 （難治性疾患研究部長）	新型コロナウイルス感染流行期に、感染予防と重症化予防目的に、多数の病院職員に対して迅速かつ安全に新型コロナウイルスワクチン投与を遂行したワクチンプロジェクトチームの活動は、研修医も含む多職種連携活動の模範となるものであり、職員への安心、病院における感染対策としても、その貢献度は大なることから職員表彰に該当するものとして推薦する。
2	総合情報センター	山﨑　一美 （情報管理室長）	電子カルテ更新に際し、現状調査、各職場からの要望への対応、部門システムベンダーとの調整等通常業務を越える莫大な作業を計画的に行い、スムーズな更新を実現した。

令和２年度

	グループ名	代表受賞者	受賞理由
1	DMATチーム	中道　親昭 （高度救命救急センター長）	2020年４月－５月のコスタアトランチカ号新型コロナウイルス感染対策と2020年７月の熊本南部豪雨災害において活発なDMAT活動をおこない、感染拡大を制御するとともに人命救助に貢献し、内外に長崎医療センター DMATの存在を知らしめた貢献度は極めて高く、院内表彰に値する活動と思われ、今年の職員表彰者として推薦いたします。
2	臨床研究部・臨床検査科	染矢　賢俊 （検査技師長）	小鶴技師は、新型コロナ感染拡大に伴う院内PCR検査体制の確立のため、検査科スタッフへのテクニカルトレーニング、環境指導などに尽力していただいた。 また、検査科スタッフはクラスター発生時の対応を可能とするためのトレーニングを重ね検査体制の確立に寄与した。

令和元年度

	グループ名	代表受賞者	受賞理由
1	感染対策チーム	三原　智 （感染制御室長）	１年間の院内感染の問題に対して、ICTチームが中心となり、病院全体での感染対策に尽力をつくした。

院内学術奨励賞　表彰

令和６年度

	受賞者	タイトル
1	吉永　龍史 （リハビリテーション科）	Yoshinaga R, Yamada N, Hanada M, Ishimatsu Y, Kozu R. Pre-Admission Predictors of Walking Independence in Critically Ill Patients. Respiratory Care. 2024 Sep 26；69(10)：1314-1322.【IF：2.4】
2	市原　幸大 （９Ａ病棟）	Ichihara K, Kitagawa M, Uemura T, Tachibana R, Kumashiro R, Hara K. Leveraging Virtual Reality for Advanced Scrub Nurse Education: A Non-Randomized Comparative Study of Training Effectiveness. Clinical Simulation in Nursing. Accepted：2024.11.03.【IF：3.4】
3	原　健太朗 （手術センター）	Hara K, Tachibana R, Kaneko S, Yamaguchi M, Fujioka M, Kuroki T, Honda S, Sawai T. Development of an estimation formula for preparation time of anesthesia induction and surgery accounting for clinical department factors in optimal surgery schedule management. Scientific Reports. 2024 Oct 24；4(1)：25185.【IF：3.8】
4	中里 有加 （７Ｂ病棟）	出産後の母乳育児状況と授乳トラブルへのセルフケア　１施設における産後６ヵ月間の縦断調査から. 母性衛生 65(1)：98-104, 2024.04.
5	米田　晃 （外科）	Yoneda A, Ogata R, Ryu S, Yoshino K, Fukui S, Kugiyama T, Kitasato A, Sugiyama N, Takeshita H, Minami S, Kuroki T. Prognostic value of systemic inflammation score in patients with esophageal cancer. Annals of Medicine and Surgery. 2024 May 15；86(7)：3852-3855.【IF：1.7】

令和５年度

	受賞者	タイトル
1	津野﨑　絹代 （JNP）	Comparison of dwell time and complications between peripheral venous catheters and midline catheters in infants weighing ≥ 1500 g at birth. Pediatrics International. 2023；65(1)：e15611.
2	福岡　操 （産婦人科）	Achievement of Target Glycemic Goal with Simple Basal Insulin Regimen in Women with Gestational Diabetes：A Prospective Cohort Study. Journal of Diabetes Research. 2023；2023：9574563.
3	立花　玲華 （手術室看護師）	全身麻酔下開腹肝胆膵手術におけるディスポーザブルリトラクター使用時の皮膚障害の予防 第４回SGHがん看護研究助成

令和４年度

	受賞者	タイトル
1	吉永　龍史 （リハビリテーション科 理学療法士）	Factors related to self-care behaviors among hospitalized patients with heart failure in Japan, based on the European Heart Failure Self-Care Behaviour Scale. Journal of Physical Therapy Science. 2022 Jun；34(6)：416-421.
2	内田　大貴 （脳神経外科医師）	Asymmetric epileptic spasms after corpus callosotomy in children with West syndrome may be a good indicator for unilateral epileptic focus and subsequent resective surgery. Epilepsia Open. 2022 Sep；7(3)：474-487.
3	百枝　裕太郎 （看護部（3A病棟））	救急外来を独歩受診した急性期脳梗塞患者に対するトリアージナース導入の効果 脳卒中　J-STAGE 早期公開 2022.10.21. doi：10.3995/jstroke.11048

令和３年度

	受賞者	タイトル
1	山之内　孝彰 （現：長崎県島原病院 外科）	Pretreatment Absolute Lymphocyte Count and Neutrophil-to-lymphocyte Ratio Are Prognostic Factors for Stage III Breast Cancer. Anticancer research. 2021 Jul；41(7)：3625-3634.
2	本田　涼子 （小児科医師）	Developmental outcome after corpus callosotomy for infants and young children with drug-resistant epilepsy. Epilepsy and Behavior. 2021 Apr；117：107799.
3	副島　航介 （研修医）	側副血行路起始部（A1）と前交通動脈に未破裂脳動脈瘤を伴う無症候性aplastic or twig-like middle cerebral artery－動脈硬化性頭蓋内血管多発狭窄を合併した 1 例. BRAIN and NERVE. 2021.4；73(4)：379-388

令和２年度

	受賞者	タイトル
1	本田　和也 （JNP）	脳卒中診療における日本版nurse practitionerの役割と将来的展望. 脳卒中学会機関誌『脳卒中』.　J-STAGE早期公開 2020.8.31.
2	三好　康広 （産婦人科レジデント）	Determinants of excessive weight loss in breastfed full-term newborns at a baby-friendly hospital：a retrospective cohort study. International breastfeeding journal. 2020 Mar 24；15(1)：19.
3	戸次　鎮宗 （肝臓内科医師）	Serum kynurenine levels are a novel biomarker to predict the prognosis of patients with hepatocellular carcinoma. PLoS One. 2020 Oct 21；15(10)：e0241002.
4	山下　洋 （産婦人科医長）	Fetal sex and maternal insulin resistance during mid-pregnancy：a retrospective cohort study. BMC pregnancy and childbirth. 2020 Sep 24；20(1)：560.
5	原　健太朗 （手術センター認定 看護師）	Prevention of Well-leg Compartment Syndrome Following Lengthy Operations in the Lithotomy Position. Surgery Open Science 3 (2021)：16-21.

令和元年度

	受賞者	タイトル
1	道辻　徹 （総合診療科 レジデント） （現長崎大学病院 第一内科）	Swollen joints and peripheral arthritis are signs of malignancy in polymyalgia rheumatica. Mod Rheumatol. 2018 Dec 18：1-4
2	安日　一郎 （産婦人科部長）	High-intensity breastfeeding improves insulin sensitivity during early post-partum period in obese women with gestational diabetes. Diabetes Metab Res Rev. 2019 May；35(4)：e3127.
3	日宇　健 （脳神経外科医長）	Efficacy of the Drip and Ship Method in 24-h Helicopter Transportation and Teleradiology for Isolated Islands. Neurol Med Chir (Tokyo). 2019 Nov 21. doi：10.2176/nmc.oa.2019-0111. [Epub ahead of print]

診療・臨床統計

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

腎臓内科

責任者　岡　哲

診療科の特色

腎臓内科で取り扱う疾患は、慢性腎臓病（CKD）、慢性腎炎症候群やネフローゼ症候群、糖尿病性腎症、急性腎不全などの腎疾患をはじめとして、二次性高血圧、電解質異常、透析患者の導入・管理、腎移植など様々な疾患にも対応しています。特にCKDは透析予備軍であり、原因疾患特定のために腎生検の検討や、腎機能障害進行抑制のための高血圧症や糖尿病、脂質異常症の管理などの集学的治療を行う必要があります。そのために地域の先生方との密接な病診連携を心がけるようにしています。腎機能障害が進行した場合には、患者背景も考慮しながら腎代替療法（血液透析、腹膜透析、腎移植）の選択を行い、スムーズな移行とその後の管理、合併症への対応など行っています。さらに泌尿器科と連携し、腎移植手術、内シャント造設や腹膜透析カテーテル留置など腎不全外科手術にも積極的に関与しており、腎移植後の内科的管理や移植腎生検も行っています。心疾患など他科で透析患者の併存疾患の治療が必要な場合は、入院中の透析治療の管理を担当します。また薬物療法のみでは治療が困難な難治性疾患（神経疾患や炎症性腸疾患、膠原病、血液疾患など）に対して、アフェレーシス治療（血漿交換や血漿吸着など）にも取り組んでいます。

入院診療実績

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	（再掲）死亡	
4,651人	12.7人	308人	357人	11人	14.0日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
112件	94.4％	679件	547.6％	1件	0.1％

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
202人（57.5％）	36人（10.3％）	13人（3.7％）	4人（1.1％）	2人（0.6％）	24人（6.8％）

島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
9人（2.6％）	18人（5.1％）	2人（0.6％）	1人（0.3％）	1人（0.3％）	12人（3.4％）

平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡（小値賀）	佐々町
6人（1.7％）	3人（0.9％）	1人（0.3％）	5人（1.4％）	2人（0.6％）	1人（0.3％）

壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外
1人（0.3％）		3人（0.9％）	5人（1.4％）

合計
351人

入院主要10疾患主要疾患別臨床統計ならびに治療成績

疾患名	ICD-10コード	症例数	死亡退院数
末期腎不全	N185	133	2
透析シャント機能低下・狭窄・閉塞	T82	54	0
IgA腎症	N028	17	0
慢性糸球体腎炎	N039	13	0
ネフローゼ症候群	N049	11	0
尿路感染症	N390	8	0
COVID-19	U071	7	0
急性腎不全	N17	7	0
うっ血性心不全	I500	7	0
CAPD腹膜炎・カテーテル位置異常	T857	5	0

主要検査件数

検査	症例数
固有腎生検	35
移植腎生検	30
経皮的シャント拡張術・血栓除去術、シャント造影	53

特殊検査ならびに治療成績

特殊治療法	合併症とその内容	症例数	延べ施行回数	死亡退院数
1）血液透析・血液濾過（透析）・限外濾過（ECUM）		362	3,847	20
2）腹膜透析		13	—	0
3）血液透析と腹膜透析の併用		4	—	—
4）顆粒球除去療法（GCAP）		7	53	—
5）単純血漿交換療法		5	13	—
6）血漿吸着療法		0	0	—
7）二重膜濾過血漿交換療法		2	4	—
8）腹水濾過濃縮再循環静注法（CART）		11	21	—
9）LDLアフェレーシス		1	23	—

研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
腎臓内科カンファランス	1回/週
透析センター多職種合同カンファランス	1回/週
泌尿器科・腎臓内科合同カンファランス	1回/週
5階A病棟多職種合同カンファランス	1回/週
院内腎病理カンファランス	1回/週

治験、共同臨床研究（症例登録する研究）

治験等参加研究一覧

No.	項目 ①治験、②医師主導治験、③GCP準拠製造販売後臨床試験、④受託臨床研究（文書同意あり）、⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）、⑥公費臨床試験、⑦製造販売後調査（文書同意あり）、⑧製造販売後調査（文書同意なし）、⑨その他	研究課題名	同意書有無	依頼者（または試験母体）	責任医師（または担当研究者名）
1	⑧製造販売後調査（文書同意なし）	サムスカ一般使用成績調査（SIADHにおける低ナトリウム血症）	無	大塚製薬株式会社	岡　哲
2	⑦製造販売後調査（文書同意あり）	バフセオ錠150mg/300mg特定使用成績調査（長期使用に関する調査）	有	田辺三菱製薬株式会社	岡　哲
3	⑦製造販売後調査（文書同意あり）	エナロイ 特定使用成績調査（長期）	有	鳥居薬品株式会社	岡　哲

学会・論文など

1）原著論文　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	0	2	0	0

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

2）学会発表　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	4	6	0

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

3）学術講演　　**（件数）**

種類	国際	国内		
件数	0	0		

4）学会座長　　**（件数）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	1	0

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

研究業績

論　文　発　表

B：和文

B-a1：和文原著

1）慢性腎臓病患者における低亜鉛血症スクリーニングに有用な臨床指標の探索.
安藤翔治、岡哲、千上みどり、四元有吏.
日本病態栄養学会誌 2024；27(4)：333-342.

B-a2：和文症例報告

1）急性バルプロ酸中毒に対して血液透析及び血漿交換を施行した 1 例.
古賀万貴、山下由恵、荒木慎平、岡哲、牟田久美子、西野友哉.
九州人工透析研究会誌 2024；8：37-41.

学会・研究会・講演

B：国内学会

B-b2：一般演題

＜口演＞

1）VAIVT施行中にガイドワイヤーの先端が離断しスネアを用いて回収した一例.
荒木慎平、池見悠太、山下由恵、岡哲、寺下真吾、牟田久美子、西野友哉.
一般演題Ⅵ. 第49回長崎県人工透析研究会. 長崎, 2024.2.4.

2）生体腎移植後にBKウイルス腎症および再発性IgA腎症を認めた 1 例.
岡哲、山下由恵、荒木慎平、岩田隆寿、大仁田亨、錦戸雅春、牟田久美子、西野友哉.
一般演題 口演15「再発性腎炎」. 第57回日本臨床腎移植学会. 名古屋, 2024.2.15.

3）血液透析下に胸腺癌に対し化学療法を施行した 1 例.
山下由恵、荒木慎平、岡哲、平野優太、牟田久美子、西野友哉.
その他の合併症/悪性腫瘍. 第69回日本透析医学会学術集会. 横浜, 2024.6.7.

4）生体腎移植後に速やかに改善した維持透析患者の心嚢液・胸水貯留の一例.
荒木慎平、山下由恵、岡哲、岩田隆寿、牟田久美子、西野友哉.
移植/その他２, 第69回日本透析医学会学術集会. 横浜, 2024.6.8.

5）アバコパン併用中の肺胞出血を伴うANCA関連血管炎再燃に対して血漿交換療法を施行した 1 例.
相浦章吾、岡哲、伊達雅浩、山下由恵、岩永希、牟田久美子、西野友哉.
血管炎・RPGN3, 第54回日本腎臓学会西部学術大会. 姫路, 2024.10.5.

6）Cladosporium属による壊死性筋膜炎を伴う黒色真菌症を発症した維持血液透析患者の 1 例.
奥平雅之、岡哲、伊達雅浩、山下由恵、三浦史郎、牟田久美子、西野友哉.
血液透析２, 第54回日本腎臓学会西部学術大会. 姫路, 2024.10.6.

7）Pseudomonas putidaおよびStaphylococcus aureusを原因菌とする腹膜透析関連腹膜炎の 1 例.
岡哲、伊達雅浩、山下由恵、牟田久美子、西野友哉.
一般演題23「腹膜炎２」, 第30回日本腹膜透析医学会学術集会. 福岡, 2024.11.16.

8）アンチトロンビンⅢ欠乏症合併血液透析患者の全身麻酔下および局所麻酔下手術における周術期管理経験.
岡哲、伊達雅浩、山下由恵、松島俊樹、鹿子木桂、大仁田亨、錦戸雅春、新井英之、楠本泰博、西野友哉.
一般演題16［血液浄化３］, 第56回九州人工透析研究会. 長崎, 2024.12.15.

＜ポスター＞

1）急性腎障害を伴うバンコマイシン中毒に対してオンライン血液透析濾過を施行した1例.
村田実佳子、岡哲、伊達雅浩、山下由恵、西野友哉.
ポスター８［合併症２］, 第56回九州人工透析研究会. 長崎, 2024.12.15.

2）多剤耐性アシネトバクター感染症患者に対する、隔離病棟での血液透析を経験して.
加来泰志、松本育海、寺下真吾、田代博崇、伊達雅浩、山下由恵、岡哲.
ポスター３［リハビリテーション・運動療法、危機管理・感染対策］, 第56回九州人工透析研究会. 長崎, 2024.12.15.

B-c：研究会発表

＜講演＞

1）腎重症化予防を目指したCKD診療を考える～腎性貧血治療を踏まえて～.
岡哲.
腎重症化予防を考える会. 大村, 2024.2.27.

2）糖尿病における早期腎症予防の必要性.
岡哲.
大村地区糖尿病講演会. 大村, 2024.4.25.

３）CKD治療における尿蛋白定量検査の重要性.
岡哲.
心腎連関を地域で考える会. 大村, 2024.5.29.
４）下腿蜂窩織炎の経過中に突然死した一例.
山下由恵.
第557回大村医師会CPC. 大村, 2024.6.19.
５）ARNIがもたらす高血圧治療のNext Stage ～腎臓内科医の立場から～ .
岡哲.
東彼杵郡医師会火曜会生涯教育講座. 東彼杵郡川棚町, 2024.7.9.
６）大村市の新規透析患者の減少にむけて何ができるか
岡哲.
大村CKD学術講演会. 大村, 2024.7.30.
７）CKD病態管理の重要性～蛋白尿の管理を中心に～ .
岡哲.
CKD病診連携セミナー . 大村, 2024.10.30.

F, G：学術講演他

F-b：学会・研究会座長［国内学会］

＜座長＞

１）岡哲.
Lecture Session Ⅰ , Cardio-Renal HK Seminar. 諫早, 2024.4.22.
２）岡哲.
一般演題19［腹膜透析３・腎移植］, 第56回九州人工透析研究会. 長崎, 2024.12.15.

＜司会＞

１）岡哲.
第557回大村医師会CPC. 大村, 2024.6.19.

G：その他

＜講演＞

１）腎臓を守ろう！ CKD（慢性腎臓病）を知る・防ぐ・治す.
岡哲.
腎臓の声を聞こう！県民公開講座 in 大村. 大村, 2024.11.23.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

血液内科

責任者　今泉 芳孝・吉田 真一郎

診療科の特色

血液内科では血液疾患全般の診療を行っています。白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの造血器悪性腫瘍や再生不良性貧血、特発性血小板減少性紫斑病といった血液難病がその主なものです。適応となる症例には自家末梢血幹細胞移植、同種造血幹細胞移植（長崎大学病院に紹介）、キメラ抗原受容体Ｔ細胞療法（長崎大学病院、九州大学病院などに紹介）を実施しています。造血器悪性腫瘍の治療ではJALSG（日本成人白血病治療共同研究グループ）、JCOG（日本臨床腫瘍研究グループリンパ腫グループ）などの全国的多施設共同臨床研究に参加し、全国の施設と共同して標準治療の確立と治療成績の向上に努めています。国立病院機構ネットワーク共同研究血液グループでも、血液疾患の治療成績向上のため臨床研究を行っています。化学療法センター病棟（９A病棟）には10室の無菌室があり、厳重な無菌管理を必要とする移植療法や急性白血病に対する寛解導入、抗がん剤大量療法などを安全に実施可能です。また長崎県のHIV診療拠点病院としてHIV感染者の外来、入院診療、カウンセリングを感染症内科と協力して行っています。

入院診療実績

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	（再掲）死亡	
11,729人	32.0人	551人	600人	37人	20.4日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
122件	85.2%	323件	216.8%		

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
244人(41.6%)	133人(22.7%)	13人(2.2%)	18人(3.1%)	4人(0.7%)	59人(10.1%)

島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
32人(5.5%)	56人(9.5%)	3人(0.5%)	3人(0.5%)		7人(1.2%)

平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町
			5人(0.9%)		

壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外
		9人(1.5%)	1人(0.2%)

合計
587人

入院主要10疾患主要疾患別臨床統計

疾患名	ICD-10コード	症例数	死亡退院数
1）非ホジキンリンパ腫	C82-C85	247	10
2）成人T細胞白血病・リンパ腫	C91.5	78	6
3）急性骨髄性白血病	C92.0、C92.4、C92.5	67	10
4）多発性骨髄腫	C90	33	2
5）急性リンパ性白血病	C91	31	1
6）骨髄異形成症候群（慢性骨髄単球性白血病を含む）	D46、C92.7	30	3
7）ホジキンリンパ腫	C81	19	0
8）COVID-19	U07	15	1
9）特発性血小板減少性紫斑病	D69.3	10	0
10）慢性リンパ性白血病	C92.1	9	0

主要検査件数

検査	症例数
骨髄穿刺	301

特殊検査ならびに治療成績

特殊治療法	合併症とその内容	症例数	延べ施行回数	死亡退院数
自家末梢血幹細胞移植	血球減少症	1	1	0

研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
血液カンファレンス	3/週
移植症例TVカンファレンス	必要時
スメアカンファレンス	1/週

治験、共同臨床研究（症例登録する研究）

治験等参加研究一覧

No.	項目 ①治験、②医師主導治験、③GCP準拠製造販売後臨床試験、④受託臨床研究（文書同意あり）、⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）、⑥公費臨床試験、⑦製造販売後調査（文書同意あり）、⑧製造販売後調査（文書同意なし）、⑨その他	研究課題名	同意書有無	依頼者（または試験母体）	責任医師（または担当研究者名）
1	①治験	一次治療のステロイドで十分な効果が得られなかったか治療後に再発した特発性血小板減少性紫斑病（ITP）患者を対象としてエルトロンボパグに追加するianalumab（VAY736）をプラセボと比較して評価する第Ⅲ相、ランダム化、二重盲検試験（VAYHIT2）（実施計画書№：CVAY736Q12301）	有	ノバルティス ファーマ（株）	今泉　芳孝

No.	項目 ①治験、②医師主導治験、③GCP準拠製造販売後臨床試験、④受託臨床研究（文書同意あり）、⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）、⑥公費臨床試験、⑦製造販売後調査（文書同意あり）、⑧製造販売後調査（文書同意なし）、⑨その他	研究課題名	同意書有無	依頼者（または試験母体）	責任医師（または担当研究者名）
2	①治験	抗CD38抗体及びレナリドミドを含む１～４ラインの前治療歴がある再発又は難治性の多発性骨髄腫患者を対象として、talquetamab及びポマリドミドの併用療法（Tal-P）、talquetamab及びteclistamabの併用療法（Tal-Tec）、並びに治験責任（分担）医師が選択するエロツズマブ、ポマリドミド、及びデキサメタゾン併用療法（EPd）又はポマリドミド、ボルテゾミブ、及びデキサメタゾン併用療法（PVd）を比較する第３相ランダム化試験（実施計画書№：64407564MMY3009）	有	ヤンセンファーマ(株)	今泉　芳孝
3	①治験	再発又は難治性のＴ細胞リンパ腫患者を対象としたBMS-986369（golcadomide）の安全性、忍容性、薬物動態及び有効性を検討する国内第1/2相試験（GOLSEEK-3）（実施計画書№：CA0731008）	有	ブリストル・マイヤーズ（株）	今泉　芳孝
4	①治験	自家幹細胞移植に非適応又は初回治療として自家幹細胞移植を予定していない未治療の多発性骨髄腫患者を対象としたteclistamab とダラツムマブ皮下投与製剤及びレナリドミドの併用（Tec-DR）並びにtalquetamab とダラツムマブ皮下投与製剤及びレナリドミドの併用（Tal-DR）と、ダラツムマブ皮下投与製剤、レナリドミド及びデキサメタゾンの併用（DRd）を比較する第３相ランダム化試験（実施計画書№：64007957MMY3005 ）	有	ヤンセンファーマ(株)	今泉　芳孝
5	②医師主導治験	成人Ｔ細胞白血病・リンパ腫を対象としたウイルス抗原を標的とする樹状細胞ワクチン療法　多施設共同非盲検無作為化比較試験（第Ⅱ相試験）（実施計画書№：ATL-DC-101-JP-P201）	有	医師主導治験	吉田真一郎
6	④受託臨床研究（文書同意あり）	再生不良性貧血におけるウサギATG＋シクロスポリン＋エルトロンボパグ療法の有用性に関する検討（W-JHS AA02）	有	一般社団法人九州臨床研究支援センター	吉田真一郎
7	④受託臨床研究（文書同意あり）	少量レナリドミド療法に再発・難治性となったMM患者に対するIld療法の効果と安全性（W-JHS　MM02）	有	一般社団法人九州臨床研究支援センター	吉田真一郎
8	④受託臨床研究（文書同意あり）	日本における初発ホジキンリンパ腫に対するA-AVD療法の成績　前向き登録研究（W-JHS HL01）	有	一般社団法人九州臨床研究支援センター	吉田真一郎
9	④受託臨床研究（文書同意あり）	未治療びまん性大細胞型Ｂ細胞リンパ腫患者（以下､「DLBCL」という。）に対するポラツズマブ ベドチン（以下「Pola」という。）＋R-CHP療法の有効性と安全性を検討する多機関共同前向き観察研究－W-JHS NHL03（POLASTAR）－	有	一般社団法人九州臨床研究支援センター	吉田真一郎

No.	項目 ①治験、②医師主導治験、③GCP準拠製造販売後臨床試験、④受託臨床研究（文書同意あり）、⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）、⑥公費臨床試験、⑦製造販売後調査（文書同意あり）、⑧製造販売後調査（文書同意なし）、⑨その他	研究課題名	同意書有無	依頼者（または試験母体）	責任医師（または担当研究者名）
10	④受託臨床研究（文書同意あり）	Tucidinostat（HBI 8000）の開発第Ⅱb相試験に参加した再発・難治末梢性T細胞リンパ腫患者における病型と治療効果との関連についての多施設共同後方視研究（研究計画書番号：Tucidinostat-TFH）	有	独立行政法人 国立病院機構 名古屋医療センター	吉田真一郎
11	⑥公費臨床試験	高齢者急性骨髄性白血病（AML）の層別化により化学療法が可能な症例に対して若年成人標準化学療法の近似用量を用いる第Ⅱ相臨床試験（JALSG GML219）	有	Japan Adult Leukemia Study Group（JALSG）	吉田真一郎
12	⑥公費臨床試験	初発BCR-ABL1陽性急性リンパ性白血病（Ph＋ALL）を対象としたダサチニブ、ポナチニブ併用化学療法および造血幹細胞移植の臨床第Ⅱ相試験（JALSG PhALL219）	有	Japan Adult Leukemia Study Group（JALSG）	吉田真一郎
13	⑥公費臨床試験	再発または難治性のFLT3遺伝子変異陽性急性骨髄性白血病患者を対象とする MEC（ミトキサントロン/エトポシド/シタラビン）とギルテリチニブの逐次療法の非盲検、多施設共同、前向き介入試験（JALSG-RR-FLT3-AML220）	有	Japan Adult Leukemia Study Group（JALSG）	吉田真一郎
14	⑥公費臨床試験	t（8；21）およびinv（16）陽性AYA・若年成人急性骨髄性白血病に対する微小残存病変を 指標とするゲムツズマブ・オゾガマイシン治療介入の有効性と安全性に関する臨床第Ⅱ相試験（JALSG-CBF-AML220）	有	Japan Adult Leukemia Study Group（JALSG）	吉田真一郎
15	⑥公費臨床試験	本邦の初発APLに対するATRA＋ATO療法の多施設共同第Ⅱ相試験（JALSG APL220 Study）	有	Japan Adult Leukemia Study Group（JALSG）	吉田真一郎
16	⑥公費臨床試験	高齢者急性骨髄性白血病における遺伝子異常と予後の関連に関する研究（JALSG GML219-Molecular）	有	Japan Adult Leukemia Study Group（JALSG）	吉田真一郎
17	⑥公費臨床試験	小児・AYA・成人に発症したB前駆細胞性急性リンパ性白血病に対する多剤併用化学療法の多施設共同第Ⅲ相臨床試験（JPLSG ALL-B19）	有	Japan Adult Leukemia Study Group（JALSG）	吉田真一郎
18	⑥公費臨床試験	小児・AYA・成人に発症したT前駆細胞性急性リンパ性白血病に対する多剤併用化学療法の多施設共同第Ⅲ相臨床試験（JPLSG ALL-T19）	有	Japan Adult Leukemia Study Group（JALSG）	吉田真一郎
19	⑥公費臨床試験	未治療低腫瘍量進行期濾胞性リンパ腫対するリツキシマブ療法早期介入に関するランダム化比較第Ⅲ相試験ver1.0（JCOG1411）	有	JCOGリンパ腫グループ	吉田真一郎
20	⑥公費臨床試験	高齢者または移植拒否若年者の未治療多発性骨髄腫患者に対するダラツムマブ＋メルファラン＋プレドニゾロン＋ボルテゾミブ（D-MPB）導入療法後のダラツムマブ単独療法とダラツムマブ＋ボルテゾミブ併用維持療法のランダム化第Ⅲ相試験（JCOG1911）	有	JCOGリンパ腫グループ	吉田真一郎
21	⑥公費臨床試験	多発性骨髄腫に対するダラツムマブ併用化学療法における効果予測因子および抵抗性機序に関する探索的研究（JCOG1911A1）	有	JCOGリンパ腫グループ	吉田真一郎

No.	項目 ①治験、②医師主導治験、③GCP準拠製造販売後臨床試験、④受託臨床研究（文書同意あり）、⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）、⑥公費臨床試験、⑦製造販売後調査（文書同意あり）、⑧製造販売後調査（文書同意なし）、⑨その他	研究課題名	同意書有無	依頼者（または試験母体）	責任医師（または担当研究者名）
22	⑥公費臨床試験	未治療高腫瘍量濾胞性リンパ腫に対するオビヌツズマブ＋ベンダムスチン療法後のオビヌツズマブ維持療法の省略に関するランダム化第Ⅲ相試験（JCOG2008）	有	JCOGリンパ腫グループ	吉田真一郎
23	⑥公費臨床試験	中枢神経系再発高リスクの未治療びまん性大細胞型Ｂ細胞リンパ腫に対する中枢神経系再発予防を組み入れた治療法のランダム化第Ⅲ相試験	有	JCOGリンパ腫グループ	今泉　芳孝
24	⑥公費臨床試験	未治療末梢性Ｔ細胞リンパ腫に対する初回導入化学療法後の完全奏効例に対する自家末梢血幹細胞移植併用大量化学療法のランダム化第Ⅲ相試験	有	JCOGリンパ腫グループ	今泉　芳孝
25	⑥公費臨床試験	JCOGバイオバンクプロジェクト	有	JCOGリンパ腫グループ	吉田真一郎
26	⑥公費臨床試験	再生不良性貧血におけるウサギATG＋シクロスポリン＋エルトロンボパグ療法の有用性に関する検討（W-JHS AA02）	有	西日本血液臨床研究グループ（W-JHS）	吉田真一郎
27	⑥公費臨床試験	移植非適応初発多発性骨髄腫患者に対するレナリドミド－デキサメタゾン（Rd）療法に効果不十分の症例に対しボルテゾミブを追加するレスポンスガイドセラピーの有用性と安全性（W-JHS MM01）	有	西日本血液臨床研究グループ（W-JHS）	吉田真一郎
28	⑥公費臨床試験	日本における初発ホジキンリンパ腫に対するA AVD療法の成績（W-JHS HL01）	有	西日本血液臨床研究グループ（W-JHS）	吉田真一郎
29	⑥公費臨床試験	アグレッシブATLの予後に影響する因子について検討する多施設共同前向き観察研究	有	福田隆浩（国立がん研究センター中央病院）	吉田真一郎
30	⑥公費臨床試験	HBV既往感染歴を有する造血器腫瘍におけるiTACTiTACT-HBcrAgモニタリングによるHBV再活性化対策の有用性：多施設共同前方視的観察研究	有	田中靖人（熊本大学病院消化器内科）	今泉　芳孝
31	⑦製造販売後調査（文書同意あり）	ノクサフィル錠100mg及びノクサフィル点滴静注300mg特定使用成績調査：低体重かつ高年齢の患者における安全性の確認	有	MSD（株）	吉田真一郎
32	⑦製造販売後調査（文書同意あり）	ハイヤスタ錠10mg再発または難治性の成人Ｔ細胞白血病リンパ腫（ATL）患者における一般使用成績調査（全例調査）	有	Meiji Seika ファルマ(株)	吉田真一郎
33	⑦製造販売後調査（文書同意あり）	ハイヤスタ錠10㎎再発又は難治性の末梢性Ｔ細胞リンパ腫（PTCL）患者における一般使用成績調査（全例調査）	有	Meiji Seika ファルマ(株)	吉田真一郎
34	⑦製造販売後調査（文書同意あり）	エザルミア錠一般使用成績調査	有	第一三共（株）	吉田真一郎
35	⑦製造販売後調査（文書同意あり）	イムブルビカカプセル140mg 原発性マクログロブリン血症/リンパ形質細胞リンパ腫を対象とした特定使用成績調査	有	ヤンセン　ファーマ(株)	今泉　芳孝
36	⑦製造販売後調査（文書同意あり）	アトガム点滴静注液250mg 一般使用成績調査（プロトコールNo.B5411004）	有	ファイザー（株）	今泉　芳孝

No.	項目 ①治験、②医師主導治験、③GCP準拠製造販売後臨床試験、④受託臨床研究（文書同意あり）、⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）、⑥公費臨床試験、⑦製造販売後調査（文書同意あり）、⑧製造販売後調査（文書同意なし）、⑨その他	研究課題名	同意書有無	依頼者（または試験母体）	責任医師（または担当研究者名）
37	⑦製造販売後調査（文書同意あり）	ボイデヤ　一般使用成績調査（全例調査）	有	アレクシオンファーマ合同会社	今泉　芳孝
38	⑧製造販売後調査（文書同意なし）	ベルケイド注射用３mgマントル細胞リンパ腫患者を対象とした使用成績調査	無	ヤンセンファーマ(株)	吉田真一郎
39	⑧製造販売後調査（文書同意なし）	デファイテリオ静注200mg一般使用成績調査	無	日本新薬（株）	吉田真一郎
40	⑧製造販売後調査（文書同意なし）	ガザイバ点滴静注1000mg　特定使用成績調査　CD20陽性濾胞性リンパ腫（GAZ180IN）	無	日本新薬（株）	吉田真一郎
41	⑧製造販売後調査（文書同意なし）	ノクサフィル錠100mg及びノクサフィル点滴静注300mg特定使用成績調査：希少真菌感染症患者における有効性の確認	無	MSD（株）	吉田真一郎
42	⑧製造販売後調査（文書同意なし）	カルケンスカプセル100mg　一般使用成績調査	無	アストラゼネカ（株）	吉田真一郎
43	⑧製造販売後調査（文書同意なし）	タズベリク錠200mg特定使用成績調査－再発又は難治性のEZH2遺伝子変異陽性の濾胞性リンパ腫患者(標準的な治療が困難な場合に限る)における安全性に関する調査（全例調査)－	無	エーザイ（株）	今泉　芳孝
44	⑧製造販売後調査（文書同意なし）	リクシアナ錠の副作用詳細調査	無	第一三共（株）	吉田真一郎
45	⑨その他	再発・難治性大細胞型Ｂ細胞リンパ腫に対するLisocabtagene maraleucel治療の多施設共同観察研究	有	加藤光次 （九州大学大学院医学研究院病態修復内科学分）	今泉　芳孝
46	⑨その他	70歳以上の高齢びまん性大細胞型Ｂ細胞リンパ腫患者を対象とした高齢者機能評価の意義を明らかにするための多施設前方視的観察研究	有	坂田麻実子 （筑波大学附属病院）	今泉　芳孝

NHOネットワーク共同研一覧

No.	区分（NHO/EBM）	研究課題名（採択番号）	研究代表者名	研究代表者施設名	研究責任者名	同意書の有無
1	NHO	Ｂ細胞性急性リンパ性白血病におけるターゲットキャプチャー RNA-seqを用いたサブタイプ診断の実行可能性に関する研究（NHOH-RNAseq-BALL）	安田　貴彦	名古屋医療センター	吉田真一郎	有
2	NHO	レジストリーデータを利用したAYA世代DLBCLの臨床的・生物学的特性を明らかにする観察研究（NHOH-DLBCL-AYA）	鈴木　康裕	名古屋医療センター	吉田真一郎	無
3	NHO	80歳以上未治療びまん性大細胞型Ｂ細胞リンパ腫に対するポラツズマブ ベドチン＋R-miniCHP療法の有効性と安全性を検証する多施設共同非盲検無対照試験（NHOH-Pola-R-miniCHP）	吉田　　功	四国がんセンター	今泉　芳孝	有
4	NHO	多発性骨髄腫患者における抗CD38抗体導入前後での治療成績に関する多施設後ろ向き観察研究	三道　康永	岡山医療センター	今泉　芳孝	無

競争的研究費一覧

No.	項目（財源別） ①文部科学省科学研究費、②科学研究費助成事業（科学研究費補助金）、③科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）、④科学技術振興機構科学研究費、⑤その他文部科学省関連研究費、⑥厚生労働科学研究費、⑦国立高度専門医療センター等研究費、⑧その他厚生労働省関連研究費、⑨日本医療研究開発機構研究費、⑩その他財団等からの研究費、⑪民間セクターからの寄附金	研究課題名	研究者名	研究事業名 （依頼業者名）	主任 分担	新規 継続
1	⑨日本医療研究開発機構研究費	成人Ｔ細胞白血病/リンパ腫の治癒を目指したHTLV-1ウイルス標的樹状細胞ワクチン療法の確立：薬事承認を目的とした第Ⅱ相医師主導治験	今泉　芳孝	革新的がん医療実用化研究事業	分担	継続

学会・論文など

1）原著論文　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	0（ 9 ）	0	1	0

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

2）学会発表　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0（ 2 ）	4（ 1 ）	1（ 1 ）	2（ 0 ）

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

3）学術講演　　**（件数）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	1	0	0

4）学会座長　　**（件数）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	1	1	3

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

研究業績

論　文　発　表

A：英文

A-a1：英文原著

1）RAISING revealed a heterogenous pattern of HTLV-1 clonality after HLA-haploidentical peripheral blood stem cell transplantation for ATL.
Itonaga H, Kato T, Sawayama Y, Katsuoka S, Furumoto T, Matsumoto N, Sasaki D, Yamada Y, Hashimoto M, Fujioka M, Sakamoto H, Hasegawa H, Imaizumi Y, Nagai K, Yanagihara K, Miyazaki Y.
Leuk Lymphoma. 2024；65(2)：275-278.

2）Development of Innate-Immune-Cell-Based Immunotherapy for Adult T-Cell Leukemia-Lymphoma.
Nakashima M, Tanaka Y, Okamura H, Kato T, Imaizumi Y, Nagai K, Miyazaki Y, Murota H.
Cells. 2024；13(2)：128.

3）RUNX1 expression is regulated by a super-enhancer and is a therapeutic target in adult T-cell leukemia/lymphoma.
Kobayashi Y, Ando K, Imaizumi Y, Sakamoto H, Kitanosono H, Taguchi M, Mishima H, Kinoshita A, Bekytbek S, Baba M, Kato T, Horai M, Itonaga H, Sato S, Yoshiura KI, Miyazaki Y.
Leuk Lymphoma. 2024；65(14)：2116-2128.

4）TIGIT expression on neoplastic cells is a poor prognostic factor for adult T-cell leukaemia/lymphoma.
Yamada Y, Miyoshi H, Takeuchi M, Nakashima K, Yamada K, Kato T, Tanaka K, Kohno K, Imaizumi Y, Miyazaki Y, Ohshima K.
Pathology 2024；56(7)：993-999.

5）Improved survival among elderly patients with aggressive adult T-cell leukemia/lymphoma: Impact of mogamulizumab-containing chemotherapy.
Hashimoto M, Kato T, Yokota K, Sakamoto H, Horai M, Taguchi M, Itonaga H, Sato S, Baba M, Ando K, Imaizumi Y, Miyazaki Y.
Int J Hematol 2024；120(6)：694-704.

6）Valemetostat monotherapy in patients with relapsed or refractory non-Hodgkin lymphoma: a first-in-human, multicentre, open-label, single-arm, phase 1 study.
Maruyama D, Jacobsen E, Porcu P, Allen P, Ishitsuka K, Kusumoto S, Narita T, Tobinai K, Foss F, Tsukasaki K, Feldman T, Imaizumi Y, Izutsu K, Morishima S, Yamauchi N, Yuda J, Brammer JE, Kawamata T, Ruan J, Nosaka K, Utsunomiya A, Wang J, Zain J, Kakurai Y, Yamauchi H, Hizukuri Y, Biserna N, Tachibana M, Inoue A, Horwitz SM.
Lancet Oncol 2024；25(12)：1589-1601.

7）Feasibility evaluation of a blood rotation system for efficient blood product utilization in remote island settings.
Nagai K, Tomari N, Egawa S, Koga Y, Itonaga H, Imanishi D, Yoshida S, Kinoshita I, Miyazaki Y, Tanaka A.
Vox Sang 2024；119(6)：548-555.

8）Long-term efficacy and safety of tucidinostat in patients with relapsed or refractory peripheral T-cell lymphoma: final analysis of phase IIb results.
Rai S, Kim WS, Ando K, Choi I, Izutsu K, Tsukamoto N, Maruyama D, Tsukasaki K, Kuroda J, Ando J, Hidaka M, Koh Y, Kato H, Uchida T, Yang DH, Ishitsuka K, Ishizawa K, Kim JS, Lee HG, Minami H, Eom HS, Kurosawa M, Lee JH, Lee JS, Lee WS, Nagai H, Shindo T, Yoon DH, Yoshida S, Gillings M, Onogi H, Tobinai K.
Haematologica 2024；109(10)：3357-3362.

A-a2：英文症例報告

1）Septic arthritis as breakthrough invasive fusariosis after cord blood transplantation.
Katsuoka S, Itonaga H, Sawayama Y, Chiwata M, Watanabe H, Yamada Y, Fujioka M, Kato T, Sato S, Ando K, Tashiro M, Takazono T, Imaizumi Y, Izumikawa K, Yanagihara K, Mukae H, Miyazaki Y.
Leuk Res Rep 2024；24；22：100483.

B：和文

B-a1：和文原著

1）第70回学術集会シンポジウム７：HTLV-1感染における検査の進歩（4）ATL発症診断と治療.
今泉芳孝.
日本臨床検査医学会雑誌 2024；72(5)：425-430.

学会・研究会・講演

A：国際学会，国際会議

A-b2：一般演題

＜ポスター＞

1 ）Impact of central nervous system (CNS) involvement on prognosis and identification of associated risk factors with CNS involvement in patients with adult T-cell leukemia-lymphoma: Nagasaki Lymphoma Study Group.
Junya Makiyama, Yoshitaka Imaizumi, Yuji Kobayashi, Jun Nakashima, Takeharu Kato, Shinichiro Yoshida, Yukiyoshi Moriuchi, Yasushi Miyazaki.
HTLV Conference 2024；London, 2024.6.3.

2 ）Impact of Mogamulizumab-containing Chemotherapy on HBV Reactivation in Patients with adult T-cell leukemia-lymphoma（ATL）.
Kisato Nosaka, Shigeru Kusumoto, Yoshitaka Imaizumi, Junya Makiyama, Makoto Yoshimitsu, Hiroya Hashimoto, Rie Sugimoto, Tomoharu Yoshizumi, Masashi Mizokami.
HTLV Conference 2024；London, 2024.6.3.

B：国内学会

B-b1：シンポジウム，パネルディスカッション等

＜口演＞

1 ）再発難治ATLの治療：現状と課題
今泉芳孝
アフタヌーンセミナー . 第10回日本HTLV-1学会学術集会. 東京, 2024.11.9.

2 ）無人航空機を用いた赤血球製剤搬送の品質に及ぼす影響.
長井一浩.
優秀演題セッション. 日本輸血・細胞治療学会　九州支部会　第71回総会・第92回例会. 福岡, 2024.11.30.

B-b2：一般演題

＜口演＞

1 ）血小板増多症で発症しG分染法でフィラデルフィア染色体が検出されなかった慢性骨髄性白血病.
小谷龍太郎、榊智佳、西村紗央里、小林裕児、三浦史郎、伊藤正博、今泉芳孝、吉田真一郎.
第14回日本血液学会九州地方会. 福岡, 2024.3.9.

2 ）Valemetostat in relapsed/refractory non-Hodgkin lymphomas: A first-in-human Phase 1 clinical trial.
Dai Maruyama, Pierluigi Porcu, Kensei Tobinai, Pamela B. Allen, Kenji Ishitsuka, Kunihiro Tsukasaki, Shigeru Kusumoto, Tomoko Narita, Francine Foss, Nobuhiko Yamauchi, Junichiro Yuda, Satoko Morishima, Yoshitaka Imaizumi, Koji Izutsu, Tatyana Feldman, Toyotaka Kawamata, Yasuyuki Kakurai, Hideyuki Yamauchi, Noha Biserna, Ai Inoue, Masaya Tachibana, Yoshiyuki Hizukuri, Steven M. Horwitz, Eric Jacobsen.
第86回日本血液学会学術集会. 京都, 2024.10.11.

3 ）再発難治成人T細胞白血病リンパ腫に対するモガムリズマブ併用レナリドミド療法.
今泉芳孝、野坂生郷、高起良、吉満誠、崔日承、楠本茂、下川元継、石塚賢治.
第86回日本血液学会学術集会. 京都, 2024.10.13.

4 ）モガムリズマブ併用化学療法後に長期寛解を維持している成人T細胞白血病リンパ腫.
西村紗央里、今泉芳孝、榊智佳、小林裕児、三原裕美、三浦史郎、伊東正博、吉田真一郎.
第86回日本血液学会学術集会. 京都, 2024.10.13.

＜ポスター＞

1）無治療経過観察で無増悪生存を得られている予後不良因子を有する慢性型成人T細胞白血病リンパ腫.
宇佐俊哉、今泉芳孝、西村紗央里、榊智佳、小林裕児、吉田真一郎.
第86回日本血液学会学術集会. 京都, 2024.10.11.

2）バレメトスタットが有効であった再発難治成人T細胞白血病リンパ腫.
西村紗央里、今泉芳孝、渡辺春香、小林裕児、添田季子、三浦史郎、伊東正博、吉田真一郎.
第10回日本HTLV-1学会学術集会. 東京, 2024.11.9.

C，F，G：学術講演他

C-b：学術講演［国内］

＜口演＞

1）Ph＋ALLにおけるPonatinibの使用経験.
渡辺春香.
Hematology Web Seminar in Nagasaki. 長崎, 2024.7.9.

2）長期寛解後にATLを発症したHodkin lymphoma.
西村紗央里.
第21回長崎造血器腫瘍研究会. 長崎, 2024.11.16.

F-b：学会・研究会座長［国内学会］

＜座長＞

1）吉田真一郎.
一般演題Ⅲ「医療安全・感染対策」. 医療マネジメント学会　第23回長崎支部学術集会. 長崎, 2024.2.17.

2）Immune-based Therapy －免疫再構築の意義－.
今泉芳孝.
特別講演Ⅰ. 第14回長崎IMiDs研究会. 長崎, 2024.4.15.

3）今泉芳孝.
一般演題2-15C ／ ATL：新規治療. 第86回日本血液学会学術集会. 京都, 2024.10.12.

4）LBCLの病態と治療について.
今泉芳孝.
講演1. 長崎県CAR T細胞療法セミナー. 長崎, 2024.11.1.

＜司会＞

1）今泉芳孝.
高齢DLBCLの治療について（パネルディスカッション）. DLBCL治療を考えるin長崎. 長崎, 2024.6.26.

G：その他

1）Closing Remarks.
吉田真一郎.
レブロジル発売記念講演会in長崎. 長崎, 2024.8.23.

National Hospital Organization **NAGASAKI** Medical Center

内分泌・代謝内科

責任者　**安井 順一**

診療科の特色

内分泌・代謝内科は、糖尿病を中心とした代謝性疾患と、下垂体・甲状腺・副腎疾患を中心とした内分泌疾患を主に診療している。糖尿病では種々の合併症を来たすため、その発症予防・進展阻止が重要である。入院が必要な患者には、治療・合併症検査・教育並びに支援（糖尿病看護認定看護師による療養指導や管理栄養士による栄養指導を含む）を行っている。

また、産婦人科と定期的に合同カンファレンスを行い、妊娠糖尿病・糖尿病合併妊娠・甲状腺疾患を含む内分泌疾患を合併した妊婦（必要に応じて妊娠前から介入）の情報を共有し、妊娠前・妊娠中のリスク管理を行っている。妊娠糖尿病の既往があり、産後に糖尿病と診断された場合も早期に介入している。

内分泌疾患に関しては、二次性高血圧症の原因として頻度の高い原発性アルドステロン症に対し、３日間のクリニカルパスを使用し、円滑に検査を行えるようにしている。また、甲状腺腫瘍に関しては、適応があれば甲状腺穿刺吸引細胞診を行い、外科や耳鼻咽喉科と連携し、診療を行っている。

糖尿病性ケトアシドーシス・高血糖高浸透圧症候群、甲状腺クリーゼ、副腎クリーゼなど緊急入院が必要な疾患に関しては、救命科を中心に複数の診療科と連携し、診療を行っている。

入院診療実績

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	（再掲）死亡	
1,562人	4.3人	126人	153人	３人	11.2日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
146件	79.3%	481件	255.9%		

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
84人(56.4%)	31人(20.8%)	５人(3.4%)	１人(0.7%)		９人(6.0%)

島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
４人(2.7%)	８人(5.4%)	５人(3.4%)			２人(1.3%)

平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町

壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外

合計
149人

入院主要疾患別臨床統計ならびに治療成績

疾患名	ICD-10コード	症例数	死亡退院数
２型糖尿病	E11	92	0
１型糖尿病	E10	10	0
副腎不全	E27	6	0
その他の糖尿病	E13	5	0
低カリウム血症・低ナトリウム血症	E87	4	0
バセドウ病・甲状腺眼症	E05	3	0
下垂体前葉機能低下症	E23	3	0
急性代謝失調 （糖尿病性ケトアシドーシスなど）	E14	3	0

主要検査件数

検査	症例数
甲状腺穿刺吸引細胞診	61

研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
内分泌代謝内科カンファレンス	毎週金曜日
産婦人科合同カンファレンス	第４火曜日

学会・論文など

１）原著論文　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	0	0	0	0

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

２）学会発表　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0（　1　）	2（　1　）	1	0

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

３）学術講演　　**（件数）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	0	3

４）学会座長　　**（件数）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	0	8

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

研究業績

学会・研究会・講演

A：国際学会, 国際会議

A-b2：一般演題

1）Real-World Study of the Efficacy of an Adjunctive Use of Ipragliflozin for Prevention of Chronic Kidney Disease in People with Type 1 Diabetes（IPRA-CKD）：A Multicenter Retrospective Study.
YUTA NAKAMURA, ICHIRO HORIE, NORIO ABIRU, HIROSHI YANO, The IPRA-CKD Study Group [2)], ATSUSHI KAWAKAMI.
第84回米国糖尿病学会. オーランド, 2024.6.23.

B：国内学会

B-b2：一般演題

1）1型糖尿病におけるイプラグリフロジン補助療法の腎機能への影響に関する多機関共同研究（IPRA-CKD）.
中村祐太、堀江一郎、矢野浩史、阿比留教生、IPRA-CKD研究グループ[1)]、川上純.
第67回日本糖尿病学会年次学術集会. 東京都, 2024.5.17.

2）皮膚筋炎類似の関節炎・筋炎の所見を呈した原発性副腎不全の一例.
片岡こころ、森英毅、岩永希、安井順一.
第24回日本内分泌学会九州地方会. 福岡県北九州市, 2024.9.7.

3）糖尿病教育入院患者における筋量とインスリン分泌能の関連.
東隼、林勝仁、吉永龍史、土井広貴、安井順一.
第78回国立病院総合医学会. 大阪市, 2024.10.18.

4）糖尿病教育患者の理解度と心理的負担感の関連性について －糖尿病問題領域質問票（PAID）を用いて－
土井広貴、中島貴太、谷端みのり、辻智子、山下由紀子、安井順一.
第78回国立病院総合医学会. 大阪市, 2024.10.19.

B-c：研究会発表

1）当院での糖尿病診療 ～紹介患者さんの経過～ .
安井順一.
第91回大村地区糖尿病講演会. 大村市, 2024.1.25.

2）血糖変動と症例検討 1
明島淳也.
第３回長崎シュガーロード研究会. 長崎市, 2024.2.19.

F，G：学術講演他

F-b：学会・研究会座長［国内学会］

1）安井順一.
ARNI Web Symposium，大村市，2024.1.30.

2）安井順一.
脂質代謝WEBカンファレンス，大村市，2024.2.1.

3）安井順一.
内分泌・代謝疾患のトータルケアを考える会. 大村市, 2024.3.14.

4）安井順一.
CRM（Cardio-Renal-Metabolism）Conference in NAGASAKI. 大村市, 2024.4.12.

５）安井順一.
心腎連関を地域で考える会. 大村市, 2024.5.29.

６）安井順一.
糖尿病治療 UpDate. 大村市, 2024.9.19.

７）安井順一.
DM-CKD-高血圧を考える会. 大村市, 2024.9.27.

８）安井順一.
DKD診療Next Stage. 大村市, 2024.12.5.

G：その他

１）「実践に生かす！糖尿病の最新知識とセルフケア支援」.
明島淳也.
長崎県看護協会 講義. 長崎市, 2024.1.14.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

リウマチ科

責任者　岩永 希

診療科の特色

当科の担当疾患は、関節リウマチや全身性エリテマトーデスなどの膠原病、自己炎症性疾患、不明熱など岐にわたる。

関節リウマチに関しては、血液検査に関節エコーやMRIなどの画像検査を組み合わせ、早期診断、早期治療開始を行っている。メトトレキサートなどの標準的治療で効果不十分な症例に対しては生物学的製剤やJAK阻害剤を積極的に導入している。重症例や合併症による入院診療例も多い。

また膠原病患者の多くは、初診時にはほとんど診断がついておらず、総合診療科を中心に他科から紹介となることが多い。入院症例は総合診療科と一緒に診療にあたっている。県内から紹介となる重症膠原病患者は増加傾向にある。多臓器障害を認めることも多く、複数科と協力して集学的治療を行っている。また関節リウマチ、膠原病に対する生物学的製剤および低分子化合物を用いた分子標的療法の臨床治験に参加している。

入院診療実績

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	(再掲) 死亡	
1,967人	5.4人	64人	91人		25.4日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
62件	79.0%	240件	296.3%		

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
46人(52.3%)	16人(18.2%)	4人(4.5%)			6人(6.8%)

島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
9人(10.2%)	4人(4.5%)	2人(2.3%)		1人(1.1%)	

平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町

壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外

合計
88人

入院主要10疾患主要疾患別臨床統計ならびに治療成績

疾患名	ICD-10コード	症例数	死亡退院数
RS3PE症候群	M0600	2	0
成人スティル病	M0610	3	0
関節リウマチ	M0690	20	0
多発性筋炎	M332	2	0
皮膚筋炎	M331	5	0
IgG4関連疾患	M359	4	0
シェーグレン症候群	M350	2	0
リウマチ性多発筋痛症	M353	2	0
顕微鏡的多発血管炎	M317	6	0
キャッスルマン病	D477	2	0

研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
膠原病カンファランス	週１回

学会・論文など

1）原著論文　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	0（ 5 ）	0（ 0 ）	0	0

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

2）学会発表　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0（ 0 ）	2（ 0 ）	4（ 0 ）	0（ 0 ）

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

3）学術講演　　**（件数）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	0	0

4）学会座長　　**（件数）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	0	0

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

研究業績

論　文　発　表

A：英文

A-a1：英文原著

1）Clinical and ultrasound features of difficult-to-treat rheumatoid arthritis：A multicenter RA ultrasound cohort study.
Michitsuji T, Fukui S, Morimoto S, Endo Y, Nishino A, Nishihata S, Tsuji Y, Shimizu T, Umeda M, Sumiyoshi R, Koga T, Iwamoto N, Origuchi T, Ueki Y, Yoshitama T, Eiraku N, Matsuoka N, Okada A, Fujikawa K, Ohtsubo H, Takaoka H, Hamada H, Tsuru T, Nawata M, Arinobu Y, Hidaka T, Tada Y, Kawakami A, Kawashiri SY.
Scand J Rheumatol. 2024；53(2)：123-129.

2）The impact of glucocorticoid use on the outcomes of rheumatoid arthritis in a multicenter ultrasound cohort study.
Nonaka F, Fukui S, Michitsuji T, Endo Y, Nishino A, Shimizu T, Umeda M, Sumiyoshi R, Koga T, Iwamoto N, Origuchi T, Ueki Y, Eiraku N, Suzuki T, Okada A, Matsuoka N, Takaoka H, Hamada H, Tsuru T, Arinobu Y, Hidaka T, Fujikawa K, Yoshitama T, Tada Y, Ohtsubo H, Ishizaki J, Asano T, Maeda T, Kawakami A, Kawashiri SY.
Int J Rheum Dis 2024；27(3)：e15118.

3）Influences of advanced age in rheumatoid arthritis: A multicentre ultrasonography cohort study.
Kawahara C, Fukui S, Michitsuji T, Nishino A, Endo Y, Shimizu T, Umeda M, Sumiyoshi R, Koga T, Iwamoto N, Origuchi T, Ueki Y, Eiraku N, Suzuki T, Okada A, Matsuoka N, Takaoka H, Hamada H, Tsuru T, Arinobu Y, Hidaka T, Fujikawa K, Yoshitama T, Tada Y, Ohtsubo H, Ishizaki J, Asano T, Kawakami A, Kawashiri SY.
Mod Rheumatol. 2024；34(6)：1142-1148.

4）Successful treatment of systemic lupus erythematosus with residual disease activity by switching from belimumab to anifrolumab.
Umeda M, Kojima K, Michitsuji T, Tsuji Y, Shimizu T, Fukui S, Sumiyoshi R, Koga T, Kawashiri SY, Naoki I, Iagawa T, Tamai M, Origuchi T, Furuyama M, Tsuboi M, Matsuoka N, Okada A, Aramaki T, Kawakami A.
Mod Rheumatol 2024；34(6)：1281-1283.

5）Preferable effect of CTLA4-Ig on both bone erosion and bone microarchitecture in rheumatoid arthritis revealed by HR-pQCT.
Iwamoto N, Chiba K, Sato S, Tashiro S, Shiraishi K, Watanabe K, Ohki N, Okada A, Koga T, Kawashiri SY, Tamai M, Osaki M, Kawakami A.
Sci Rep 2024；14(1)27673.

学会・研究会・講演

B：国内学会

B-b2：一般演題

＜口演＞

1）シェーグレン症候群、関節リウマチの治療中に発症した肺原発性悪性リンパ腫の一例.
塚田裕介、岩永希、赤城翠、三浦史郎、岡田覚丈、和泉泰衛、伊東正博、川上純.
初期研修医セッション 1 . 第67回九州リウマチ学会. 宮崎, 2024.3.2.

２）抗MDA-5抗体の再上昇を伴って再燃した臨床的無筋症性皮膚筋炎（CADM）の２例.
福田裕大、岩永希、赤城翠、岡田覚丈、和泉泰衛、川上純.
初期研修医セッション１. 第67回九州リウマチ学会. 宮崎, 2024.3.2.

３）SARS-CoV-2ワクチン7回目接種後、血小板減少と皮膚血管炎を契機に悪性リンパ腫の診断に至った１例.
森民生、和泉泰衛、塩塚高史、安田淳、赤城翠、岡田覚丈、三浦史郎、今泉芳孝、岩永希.
一般演題８　血管炎. 第67回九州リウマチ学会. 宮崎, 2024.3.3.

４）血管炎診療におけるPET-CTの有用性と問題点.
岡田覚丈、岩永希、馬場あかね、川原知瑛子、鳥巣裕一、和泉泰衛、川上純.
一般演題２　血管炎. 第68回九州リウマチ学会. 佐賀, 2024.9.7.

＜ポスター＞

１）COVID-19ワクチン接種後に痙攣重積で発症した自己免疫性肝炎の２例.
西浦藍、岩永希、岡田覚丈、和泉泰衛、川上純.
ポスタービューイング２. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会. 神戸, 2024.4.18-20.

２）肝生検が診断に有用であった医原性免疫不全症関連リンパ増殖性疾患の一例.
中野颯斗、岡田覚丈、岩永希、和泉泰衛、末廣智之、三原裕美、伊東正博、川上純.
近未来のリウマチ医セッション. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会. 神戸, 2024.4.18-20.

National Hospital Organization **NAGASAKI** Medical Center

総合診療科・総合内科

責任者　和泉 泰衛

診療科の特色

＜診療＞当科では、「フットワークが軽く何でも相談に乗り、常に全体に注意を払いながら、継続性を重視する診療を、現場のニーズに合わせて日常的に行なっている臨床医」をジェネラリストと定義しており、そのような臨床医として日々の診療を実践している。総合外来、時間外外来、救急外来、病棟において、その患者の背景、症状、疾患の種類に関わらず、幅広い診療を行うことを心がけ、実践している。

＜教育＞臨床教育における当科が果たす役割は大きい。医学生、初期研修医、専攻医、診療看護師、特定行為研修者に対する教育を行っている。医学生、初期研修医、診療看護師、特定行為研修者に対しては臨床の基本を教えている。専門医研修としてはジェネラリストになるための教育に力を入れている。当科は日本プライマリ・ケア連合学会が認定する家庭医療後期研修プログラム、新専門医制度での内科・総合診療科の専門研修を担当しており、地域の医療機関と協力して、各専門医を育成している。

＜研究＞初期・後期研修医、診療看護師の学会発表、論文作成に力を入れている。また、今後問題となってくる高齢者医療を中心にプライマリ・ケア、地域医療、医学教育領域のリサーチも行っている。AIを使った臨床研究やワクチン・抗生剤の新規治験などにも積極的に参加している。

入院診療実績

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	（再掲）死亡	
19,528人	53.4人	2,006人	1,190人	68人	12.2日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
856件	94.2%	1,498件	104.2%	2件	2.97%

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
853人(68.0%)	180人(14.4%)	52人(4.1%)	13人(1.0%)	1人(0.1%)	43人(3.4%)

島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
14人(1.1%)	27人(2.2%)	27人(2.2%)	1人(0.1%)	2人(0.2%)	8人(0.6%)

平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町
	1人(0.1%)	3人(0.2%)	3人(0.2%)		

壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外
	1人(0.1%)	4人(0.3%)	21人(1.7%)

合計
1,254人

入院患者数・死亡数

主な疾患名	患者数	死亡者数
★特殊目的コード　ICD-10 U ～ （COVID-19・COVID-19の疑い）	123	3
★呼吸器系疾患 ICD-10 J ～ （肺炎・インフルエンザ・気管支喘息・膿胸・胸膜炎・肺気腫・扁桃炎・肺結核等）	224	21
★消化器系疾患 ICD-10 K ～ （虚血性腸炎・憩室炎・虫垂炎・イレウス・胆管炎・穿孔性腹膜炎・消化管潰瘍等）	137	5
★腎疾患 ICD-10 N ～ （急性腎盂腎炎・尿路感染症・前立腺炎・急性腎不全・水腎症など）	99	3
★ウイルス感染症および寄生虫症 ICD-10 A ～ B ～ （感染性腸炎・ウイルス感染・敗血症・菌血症・帯状疱疹等）	101	10
★損傷、中毒及びその他の外因の影響 ICD-10 T ～ （熱中症・薬物中毒・低体温・アナフィラキシーショック・CO中毒等）	60	
★筋骨格系および結合組織疾患 ICD-10 M ～ （関節リウマチ・リウマチ性多発筋痛・線維筋痛症・ベーチェット病・偽痛風・血管炎・化膿性関節炎等）	54	1
★循環器系疾患（循環器・脳血管疾患）ICD-10 I ～ （心不全・感染性心内膜炎・起立性低血圧・脳梗塞・不整脈・深部静脈血栓症等）	82	15
★神経系疾患 ICD-10 G ～ R ～ （てんかん・失神・一過性意識障害・睡眠時無呼吸・薬物熱等）	68	
★内分泌・代謝疾患 ICD-10 E ～ （電解質異常・脱水症・甲状腺機能異常・糖尿病・脱水症等）	82	3
★耳及び乳様突起の疾患 ICD-10 H ～ （良性発作性頭位めまい症・メニエール病・前庭神経炎等）	31	
★皮膚及び皮下組織の疾患 ICD-10 L ～ （蜂巣炎・薬疹・褥瘡等）	33	
★血液・造血器・免疫機構の障害 ICD-10 D ～ （貧血・好酸球増加症・脳腫瘍等）	17	
★新生物（悪性）ICD-10 C ～ （悪性リンパ腫・転移性骨腫瘍・胃癌・直腸癌・肺癌・癌性腹膜炎等）	35	6
★整形外科疾患 ICD-10 S ～ （脊椎圧迫骨折・脊髄損傷・外傷等）	30	1
★精神及び行動の障害 ICD-10 F ～ （神経症・うつ病・解離性障害・アルコール離脱せん妄等）	13	
★その他	1	
総　　計	1,190	68

研修・教育

初期研修医、後期研修医、医学部学生に対する教育を日常実践している。初期研修医には１年目２か月、２年目２か月の計４ヶ月のローテーションが義務付けられており常時数名の初期研修医が診療に参加している。医学部学生については毎年４－５名の高次臨床研修（１か月間）を担当し、教育を行っている。後期研修医に対しては新専門医制度に則った教育研修を行っている。また、看護師の特定行為研修や診療看護師の実践研修も担当しており、常に診療看護師、特定行為研修者が当科で研修している。

院外活動として、当科スタッフはJMECC（日本内科学会認定内科救急・ICLS講習会）のインストラクターとして年に４－５回、臨床研修指導者講習会や特定行為指導者講習会のタスクとしても年に６－７回参加している。

カンファレンス

名称	参加職種	参加人数（平均）	実施回数
入院患者カンファランス	医師・診療看護師・特定行為研修生・医学生	25名	３/週
勉強会	同上	25名	１/週
レジデントアワー	医師	15名	１/週
コアレクチャー	医師	10名	１/週

学会・論文など

１）原著論文　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	１（　１　）	４（　０　）	０（　０　）	８（　０　）

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

２）学会発表　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	０（　０　）	7	14	6

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

３）学術講演　　**（件数）**

種類	セミナー	シンポジウム	研修会	
件数		1		

４）学会座長　　**（件数）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数			2	

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

研究業績

論　文　発　表

A：英文

A-a1：英文原著

1）Clinical Characteristics and Risk Factors for Severe Japanese Spotted Fever: A Retrospective Multicenter Study in Nagasaki Prefecture, Western Japan.
Matsui K., Masuda S, Koizumi Y, Yamanaka Y, Izumi Y, Chris Smith, Miyahara R, Ariyoshi K.
Japanese Journal of Infection Disease 2024.

A-a2：英文症例報告

1）Sternoclavicular Septic Arthritis Caused by Parvimonas micra and Fusobacterium nucleatum Infection with Intra-articular Corticosteroid Administration.
Saishoji Y, Mori K, Izumi Y.
Intern Med. 2024；Vol.63 No2 341-344.

B：和文

B-b：和文総説

1）総合診療医が活躍するフィールドの最新エビデンス健康診断・予防医療.
森英毅.
CHIRYO 治療 2024；Vol.106 No.9.

B-c2：和文著書［分担］

1）ポピュレーションアプローチとは何か？.
森英毅.
Medical Practice　予防医療の羅針盤 2024；Volume41 p.37-39.

2）各国のスクリーニング推奨の違いをどのように理解すべきか？.
安田淳、森英毅.
Medical Practice　予防医療の羅針盤 2024；Volume41 p.30-32.

学会・研究会・講演

B：国内学会

B-b1：シンポジウム，パネルディスカッション等

＜講師＞

1）『ポートフォリオフェスティバル』.
鳥巣裕一、横山大輔、渡部なつき、川口湧水、金弘子、本村和久.
ワークショップ２. 日本プライマリ・ケア連合学会　第18回九州支部総会・学術大会. 宮崎, 2024.1.20.

B-b2：一般演題

＜口演発表＞

1）シェーグレン症候群、関節リウマチの治療中に発症した肺原発悪性リンパ腫の一例.
塚田裕介、岩永希、赤城翠、三浦史郎、岡田覚丈、和泉泰衛、伊東正博、川上純.
初期研修医セッション１. 第67回九州リウマチ学会. 宮崎, 2024.3.2.

２）抗MDA-5抗体の再上昇を伴って再燃した臨床的無筋症性皮膚筋炎（CADM）の２例.
福田裕大、岩永希、赤城翠、岡田覚丈、和泉泰衛、川上純.
初期研修医セッション２. 第67回九州リウマチ学会. 宮崎, 2024.3.2.

３）SARS-CoV-2ワクチン７回目接種後、血小板減少と皮膚血管炎を契機に悪性リンパ腫の診断に至った１例.
森民生、和泉泰衛、塩塚高史、安田淳、赤城翠、岡田覚丈、三浦史郎、今泉芳孝、岩永希.
一般演題８　血管炎. 第67回九州リウマチ学会. 宮崎, 2024.3.2.

４）人工知能による消化器疾患診断の新展開：舌画像の深層学習による急性虫垂炎および消化器疾患の新規診断モデル開発と検証.
森英毅、山崎一美、八橋弘.
一般演題. 第110回日本消化器病学会総会. 徳島, 2024.5.11.

５）口喝を主症状としたつつが虫病の一例.
柴田直人、最勝寺佑介、西浦壮志、成田雅、和泉泰衛.
感染症２. 第345回日本内科学会九州地方会. 宮崎, 2024.5.25.

６）末梢動脈疾患における下肢脱毛の診断精度に関する単施設前向き観察研究.
最勝寺佑介、森英毅、野口大気、藤田寿之、和泉泰衛.
一般演題6　診断/検査/治療. 第15回日本プライマリ・ケア連合学術大会. 浜松, 2024.6.8.

７）致死的な経過をたどった気腫性胃炎の２例.
梅木悠希、森英毅、和泉泰衛、伊東正博.
感染症２. 第346回日本内科学会九州地方会. 福岡, 2024.8.31.

８）皮膚筋炎類似の関節炎・筋炎の所見を呈した原発性副腎不全の一例.
片岡こころ、森英毅、岩永希、安井順一.
一般演題（副腎）. 日本内分泌学会九州支部学術集会. 福岡, 2024.9.7.

９）「舌所見は急性虫垂炎の診断に有効である」舌画像の深層学習による急性虫垂炎の新規診断モデル開発と検証
森英毅、山崎一美.
一般演題１「診断エクセレンス・エラー」. 第29回日本病院総合診療医学会学術総会. 東京, 2024.9.7.

10）脳出血に至った播種性帯状疱疹の1例.
相浦章吾、山領優斗、大野渚、徳田昌紘、原口渉、和泉泰衛.
感染症２. 第347回日本内科学会九州地方会. 熊本, 2024.11.17.

＜ポスター＞

１）総合診療プライマリ・ケアサークル「そぷら」の取り組み～２年目を迎えて見えてきたこと～.
橋爪凜、橋爪凜、上田尚佳、濵田航一郎、浦野あおい、大石佳奈、大塩達也、後藤光、尾﨑遥、岩下徹哉、小栁蘭、横山拓海、大賀千瑚、橋本康史、増田真吾、山梨啓友.
ポスターセッション　グループA. 日本プライマリ・ケア連合学会長崎県支部会　第11回学術集会・講演会.
長崎, 2024.3.16.

２）発熱、盗汗を伴う多発皮下結節に対して皮下脂肪織炎様T細胞リンパ腫（SPTCL）と診断した一例.
野口栞、三原裕美、三浦史郎、森英毅.
ポスターセッション　グループB. 日本プライマリ・ケア連合学会長崎県支部会　第11回学術集会・講演会.
長崎, 2024.3.16.

３）急性・慢性リチウム中毒患者について臨床経過の実態調査（記述研究）.
野口大気、森英毅、和泉泰衛.
ポスターセッション　グループB. 日本プライマリ・ケア連合学会長崎県支部会　第11回学術集会・講演会.
長崎, 2024.3.16.

4）急性期医療と新興感染症診療の両立 ～コロナ診療から学んだ地域医療連携とは～ .
和泉泰衛、藤田利枝.
ポスターセッション　グループB. 日本プライマリ・ケア連合学会長崎県支部会　第11回学術集会・講演会. 長崎, 2024.3.16.

5）待ったなし！公衆衛生行政医師に係る課題と解決策を考える.
藤田利枝、和泉泰衛.
ポスターセッション　グループB. 日本プライマリ・ケア連合学会長崎県支部会　第11回学術集会・講演会. 長崎, 2024.3.16.

6）大腿骨近位部骨折後の骨粗鬆症治療薬導入に関する実態調査.
吉岡瑞姫、森英毅、橋本貴美子、福原聡、岡本渉大、新城安原、長友雅也.
ポスターセッション　グループB. 日本プライマリ・ケア連合学会長崎県支部会　第11回学術集会・講演会. 長崎, 2024.3.16.

7）診断に難渋した多発神経根病変を伴う神経サルコイドーシスの一例.
馬場あかね、安田淳、吉原聖智、最勝寺佑介、足利裕哉、原敦子、添田李子、伊東正博、和泉泰衛.
ポスター発表【第17ブース】神経②. 日本内科学会　ことはじめ 2024 東京. 東京, 2024.4.13.

8）COVID-19ワクチン接種後に痙攣重積で発症した自己免疫性脳炎の２例.
西浦藍、岩永希、岡田覚丈、和泉泰衛、川上純.
P2-065. 第68回日本リウマチ学会学術集会. 神戸, 2024.4.19.

9）発熱、盗汗を伴う多発皮下結節に対して皮下脂肪織炎様T細胞リンパ腫（SPTCL）と診断した１例.
野口栞、三原裕美、三浦史郎、森英毅.
一般演題（ポスター）２　診断/検査/治療②. 第15回日本プライマリ・ケア連合学術大会. 浜松, 2024.6.8.

10）帯状疱疹後掻痒症に対してプレガバリン及びミロガバリンが有効であった一例.
大野渚、最勝寺佑介.
一般演題（ポスター）５　診断/検査/治療⑦. 第15回日本プライマリ・ケア連合学術大会. 浜松, 2024.6.9.

B-c：研究会発表

＜口演発表＞

1）就労施設で心因性非てんかん発作（PENS）を発症した患者に対して、ケアを実践した一例.
野口栞.
ポートフォリオ. 日本プライマリ・ケア連合学会長崎県支部会　第10回長崎県ポートフォリオ研修会. 長崎, 2024.3.16.

2）“癒し”となるために.
梅木悠希.
ポートフォリオ. 日本プライマリ・ケア連合学会長崎県支部会　第10回長崎県ポートフォリオ研修会. 長崎, 2024.3.16.

3）オピオイド流量の投与ミスへの再発予防を検討した事例.
安田淳.
ポートフォリオ. 日本プライマリ・ケア連合学会長崎県支部会　第10回長崎県ポートフォリオ研修会. 長崎, 2024.3.16.

4）家族により抗ウイルス薬治療を拒否されたCOVID-19肺炎患者に対して倫理カンファを実施した１例.
鋸崎翔太.
ポートフォリオ. 日本プライマリ・ケア連合学会長崎県支部会　第10回長崎県ポートフォリオ研修会. 長崎, 2024.3.16.

５）積極的治療が困難な進行がんの透析患者とどう関りつづけるか.
　樋口悠真.
　ポートフォリオ. 日本プライマリ・ケア連合学会長崎県支部会　第10回長崎県ポートフォリオ研修会. 長崎, 2024.3.16.
６）自身の精神的ケアのために省察を行った一例.
　吉岡瑞姫.
　ポートフォリオ．日本プライマリ・ケア連合学会長崎県支部会　第10回長崎県ポートフォリオ研修会. 長崎, 2024.3.16.

F：学術講演他

F-b：学会・研究会座長［国内学会］

＜座長＞

１）森英毅.
　ポスターセッション【グループＢ】. 日本プライマリ・ケア連合学会長崎県支部会　第11回学術集会・講演会. 長崎, 2024.3.16.
２）阿部千鶴.
　ポートフォリオ【グループＣ】. 日本プライマリ・ケア連合学会長崎県支部会　第11回学術集会・講演会. 長崎, 2024.3.16.

National Hospital Organization **NAGASAKI** Medical Center

精神科・精神リエゾンチーム

責任者　蓬莱 彰士

診療科の特色

1－1．診療科の紹介

＜外来部門＞２階外来月曜日から金曜日まで初診の方は受付時間９：30から10：00まで。院内紹介のみ

1－2．診療内容

精神障害全般の診断・治療を行っています。

1－3．診療スタッフの紹介（医長）、専門医・指導医

	氏名	資格	所属学会	専門分野
医　長	蓬莱　彰士	精神保健指定医 日本精神神経学会 指導医・専門医	日本精神神経学会日本総合病院精神医学会日本サイコオンコロジー学会	コンサルテーション・リエゾン精神医学サイコオンコロジー
心理士	越本　莉香	臨床心理士		心理検査

1－4．特色、特殊治療、先端医療の紹介

◆他の身体科との連携により、主に入院中の患者に生じた、精神科的問題に対して診察・治療（コンサルテーション・リエゾン精神医学：Consultation-LiaisonPsychiatry）を行います。またチーム医療の一環で精神リエゾンチーム、緩和ケアチーム、拘束最小化チームに参加し、回診を通して相談、助言等を行っています。

※精神・リエゾンセンターは精神科医の減少に伴い令和６年５月より休止中となっています。

入院診療実績

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	（再掲）死亡	
986人	2.7人	20人	47人		29.4日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
12件	59.1％	417件			

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
10人(27.8％)	８人(22.2％)		１人(2.8％)		２人(5.6％)

島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
２人(5.6％)	４人(11.1％)	１人(2.8％)	１人(2.8％)		５人(13.9％)

平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町
１人(2.8％)					

壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外
			１人(2.8％)

合計
36人

特殊検査ならびに治療成績

特殊治療法	合併症とその内容	症例数	延べ施行回数	死亡退院数
1）m-ECT	なし	1	7	0

研修・教育

カンファレンス

名称	参加職種	参加人数（平均）	実施回数
病棟カンファレンス	医師・看護師	10名	1/日
新患カンファレンス	医師	3名	1/週

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

呼吸器内科

責任者　近藤 晃

診療科の特色

呼吸器内科では、スタッフ医師５名と修練医１名が在籍し、呼吸器疾患全般の診療を行っています。年間の呼吸器疾患による退院患者数は894名で、その主な内訳は肺癌460名、肺炎121名、間質性肺炎109名です。

中でも患者数が多い肺癌に関しては、長崎県央地区を中心に多くの患者さんが受診し、治療を受けています。治療は、細胞障害性抗癌剤や分子標的治療薬のほか免疫チェックポイント阻害薬による治療を行っています。また、呼吸器内科、呼吸器外科、放射線科が参加する呼吸器合同カンファレンスを通じて治療方針を検討し、治療成績の向上に努めています。

さらに、呼吸器感染症の診療にも注力しており、特に肺炎については救命救急科や総合診療科と連携し、迅速な診断と適切な治療を提供しています。そのほか、間質性肺炎、気管支喘息、COPDなど、多岐にわたる呼吸器疾患にも対応しています。

検査としては、画像診断や呼吸機能検査に加え、呼吸器内視鏡検査を実施しています。通常の気管支内視鏡検査のほか、ガイドシース併用気管支腔内超音波断層法（EBUS-GS）、超音波気管支鏡ガイド下針生検（EBUS-TBNA）、極細径気管支内視鏡を用いた診断技術により、診断率の向上を目指しています。また、内視鏡治療として気管支鏡下レーザー治療、気管支充填術、気道異物除去術なども行っています。

長崎医療センターは、数多くの学会から認定を受けた施設です。呼吸器内科関連では、日本内科学会教育病院、日本呼吸器学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本がん治療認定医機構、日本臨床腫瘍学会、日本感染症学会の認定施設となっています。そのため、呼吸器専門医、臨床腫瘍専門医、感染症専門医を目指す医師にとって、専門医取得に必要な環境が十分に整っています。研修医や修練医も多数在籍し、日々研鑽を積んでいます。

入院診療実績

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	（再掲）死亡	
12,372人	33.8人	719人	894人	56人	15.3日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
265件	77.3%	527件	142.4%		

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
531人(60.5%)	152人(17.3%)	26人(3.0%)	33人(3.8%)	12人(1.4%)	39人(4.4%)

島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
21人(2.4%)	32人(3.6%)	7人(0.8%)	1人(0.1%)		5人(0.6%)

平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町
2人(0.2%)			2人(0.2%)		

壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外
1人(0.1%)	1人(0.1%)	12人(1.4%)	1人(0.1%)

合計
878人

入院主要10疾患主要疾患別臨床統計ならびに治療成績

疾患名	ICD-10コード	症例数	死亡退院数
肺癌	C34.0-9	460	18
縦隔腫瘍その他の悪性腫瘍	C79, C78, C45, C37, C48, C47, C80, C77, C83, C38	36	1
肺炎	J15, J69, J18, A48, B59, J14, J13, J12	121	8
肺炎以外の感染症（TB含む）	U07, A31, J86, J85, B44, A18, B45, B24, A15, A17, A16, J20, B25, B20, H58, A49, N39, B02, L03, A09, A19	82	0
呼吸不全（COPD含む）	J44, J96	15	1
気管支喘息	J46, J45	9	0
間質性肺炎	J84, J70, J82, J67, J99, M33	109	3
気胸	J93, S27	22	0
サルコイドーシス	D86	4	0
その他	I50, J90, M34, T17, M35, D70, J47, K52, K31, I46, J98, K92, E10, E27, J61, D50, R04, J80, D68, J81, E86, N41, T61, I80	36	0

主要検査件数

検査	症例数
気管支内視鏡検査（総数）	396
気管支超音波内視鏡（EBUS）	191
異物除去・気管支充填術・ステント留置	7

研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
呼吸器カンファレンス	1回/週
新患紹介	1回/週
呼吸器合同カンファレンス	1回/週

治験等参加研究一覧

No.	項目 ①治験、②医師主導治験、③GCP準拠製造販売後臨床試験、④受託臨床研究（文書同意あり）、⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）、⑥公費臨床試験、⑦製造販売後調査（文書同意あり）、⑧製造販売後調査（文書同意なし）、⑨その他	研究課題名	同意書有無	依頼者（または試験母体）	責任医師（または担当研究者名）
1	⑨その他	市中肺炎/医療・介護関連肺炎の耐性菌出現及び予後に関する後方視研究	無	長崎大学病院 呼吸器内科	近藤　晃
2	⑨その他	成人ウイルス性肺炎後アj視研究	無	長崎大学病院 呼吸器内科	近藤　晃
3	④受託臨床研究（文書同意あり）	日本におけるカルバペネム耐性グラム陰性感染症患者に対する，細菌学的情報を付加したセフィデロコルの有効性及び安全性の評価研究	有	塩野義製薬	近藤　晃
4	⑨その他	進展型小細胞肺癌に対する複合免疫療法後のイリノテカン療法の第Ⅱ相試験	有	長崎大学病院 呼吸器内科	池田喬哉
5	④受託臨床研究（文書同意あり）	早期特発性肺線維症患者に対するニンテダニブ投与の有効性と安全性に関する解析	有	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科呼吸器内科学	原　敦子

学会・論文など

1）原著論文　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	1（　4　）	0	0	0

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

2）学会発表　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	3	2	4

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

3）学術講演　　**（件数）**

種類				
件数				

4）学会座長　　**（件数）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	0	2

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

研究業績

論　文　発　表

A：英文

A-a1：英文原著

1）Efficacy and safety of lascufloxacin for nursing- and healthcare-associated pneumonia：A single-arm, open-label clinical trial.
Takazono T, Kondo A.
Journal of Infection and Chemotherapy 2024；30(7)：597-602.

2）Clinical Significance of a Prospective Large Genomic Screening for SCLC：The Genetic Classification and a Biomarker-Driven Phase 2 Trial of Gedatolisib.
Shigeki Umemura, Takaya Ikeda.
J Thorac Oncol. 2024；10：S1556-0864(24)02378-5.

3）Phase II study of ramucirumab and docetaxel for previously platinum-treated patients with non-small cell lung cancer and malignant pleural effusion (PLEURAM study).
Shinnosuke Takemoto, Takaya Ikeda.
Transl Lung Cancer Res. 2024；31；13(10)：2673-2682.

A-a2：英文症例報告

1）Case report and literature review of refractory fungemia caused by Candidavulturna.
Setoguchi D, Kondo A.
Heliyon 2024；10(10)e31464.

2）A Case of Ramucirumab for Radiation Necrosis Following Stereotactic Radiotherapy for Brain Metastases From Lung Cancer.
Tatsuya Takeda, Takaya Ikeda.
Cureus 2024；29；16(9)：e70460.

学会・研究会・講演

B：国内学会

B-b2：一般演題

＜口演＞

1）当院における肺結核診療の現況.
平野優大、瀬戸口大地、伊藤裕也、吉田将孝、武田和明、岩永直樹、井手昇太郎、近藤晃、高園貴弘、泉川 公一、栁原克紀、迎寛.
第99回日本結核・非結核性抗酸菌症学会総会・学術講演会. 長崎, 2024.5.31.

2）気管支・肺結核合併妊娠の一例.
谷口裕太郎、瀬戸口大地、平野優大、伊藤裕也、吉田将孝、武田和明、岩永直樹、井手昇太郎、近藤晃、高園貴弘、泉川公一、栁原克紀、迎寛.
第99回日本結核・非結核性抗酸菌症学会総会・学術講演会. 長崎, 2024.5.31.

3）Rhodotorula属と誤同定されたExophiala dermatitidisによる呼吸器感染症の臨床的検討.
瀬戸口大地、伊藤裕也、吉田将孝、武田和明、岩永直樹、井手昇太郎、近藤晃、高園貴弘、泉川公一、栁原克紀、迎寛.
第98回日本感染症学会学術講演会. 第72回日本化学療法学会総会合同学会. 神戸, 2024.6.27.

４）縦隔リンパ節腫大を認め、気胸術後検体評価で肺腺癌の診断に至った１例.
野田知生、末原照大、池田喬哉、原敦子、松本博文、松岡優毅、三浦史郎、近藤晃、田川努、迎寛.
第93回日本呼吸器学会・日本結核 非結核性 抗酸菌症学会・日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会 九州支部秋季学術講演会 .福岡, 2024.10.11.

５）慢性骨髄性白血病治療中の患者に発症した自己免疫性肺胞蛋白症の一例.
村橋舞、夫津木遼、末原照大、乗富大地、原敦子、池田喬哉、近藤晃、添田李子、三浦史郎、迎寛.
第93回日本呼吸器学会・日本結核 非結核性 抗酸菌症学会・日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会 九州支部秋季学術講演会. 福岡, 2024.10.11.

＜ポスター＞

１）慢性線維化性特発性間質性肺炎（CFIIPs）の適正な診断治療法開発のための調査研究（NHO多施設研究PRDM第１報）.
井上義一、赤川志のぶ、柴山卓夫、北俊之、小栗晋、大湾勤子、齋藤武文、伊井敏彦、若松謙太郎、遠藤健夫、上村光弘、篠原勉、谷本安、恐田尚幸、三輪清一、佐々木信、辻忠克、阿部聖裕、是枝快房、日高孝子、森山寛史、井端英憲、澄川裕充、新井徹.
びまん性肺疾患　統計２. 第64回日本呼吸器学会学術講演会. 横浜, 2024.4.7.

２）海外からの帰国者に端を発した多剤耐性アシネトバクターのアウトブレイク事例.
近藤晃、瀬戸口大地、永井友基、三原智、迎寛.
第98回日本感染症学会学術講演会. 第72回日本化学療法学会総会合同学会. 神戸, 2024.6.28.

３）当院での多剤耐性アシネトバクターアウトブレイク事例における感染対策.
近藤晃、瀬戸口大地、永井友基、三原智、迎寛.
第98回日本感染症学会学術講演会. 第72回日本化学療法学会総会合同学会. 神戸, 2024.6.28.

４）当院における肺結核診療の現況.
原田英鷹、瀬戸口大地、伊藤裕也、吉田将孝、武田和明、岩永直樹、井手昇太郎、近藤晃、高園貴弘、泉川公一、栁原克紀、迎寛.
第98回日本感染症学会学術講演会. 第72回日本化学療法学会総会合同学会. 神戸, 2024.6.28.

B-c：研究会発表

＜パネルディスカッション＞

１）難病法改正後のILD診療について.
原敦子.
ILD Conference in Nagasaki. 長崎, 2024.6.24.

２）EGFR陽性IV期NSCLC治療戦略について.
池田喬哉.
AZ IV期NSCLC治療を考える会. 長崎, 2024.9.3.

＜講演＞

１）間質性肺疾患の概念・紹介基準
原敦子.
長崎県間質性肺疾患 疾患啓発WEBセミナー . 大村（Web）, 2024.12.9.

＜座長＞

１）池田喬哉.
Lung Cancer Web Seminar. 大村, 2024.4.24

２）池田喬哉.
　　がん診療地域連携セミナー . 大村, 2024.11.8.

G：学術講演他

G：その他

＜講演＞

１）プライマリ・ケアを担う先生方に知って頂きたい，がん薬物療法とirAEについて.
　　乗富大地.
　　がん診療地域連携セミナー . 大村, 2024.11.8.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

消化器内科

責任者　西山 仁

診療科の特色

消化管腫瘍（癌・ポリープ・その他）、消化管救急疾患（出血性消化管疾患・イレウスなど）、炎症性腸疾患（クローン病・潰瘍性大腸炎など）の診断・治療を重点的に行っている。

特に、内視鏡を用いた診断・治療には最も力を注いでいる。

内視鏡診療は、最新機器を用いた各種画像強調内視鏡や超音波内視鏡での診断を行っている。炭酸ガス送気の導入で、より安全で苦痛のない検査・治療が可能となっている。早期癌に対しては従来の粘膜切除術（EMR）の他、大きな病変に対しては内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）での内視鏡的一括切除術を行っている。当科は保険収載前から先進医療としてこれらを施行しており豊富な症例数と良好な治療成績を有し、各地よりご紹介頂いている。最近は胃粘膜下腫瘍に対して外科と共同で腹腔鏡・内視鏡合同胃局所切除（Laparoscopy and Endoscopy Cooperative Surgery;LECS）も積極的に導入している。

切除不能進行癌に対する化学療法は、従来の抗癌剤に加え分子標的薬や免疫チェックポイント阻害剤を用い、ガイドラインに沿った標準治療を行なっている。化学療法の適応がなくなった患者さんは、地域の開業医の先生と綿密な連携の上でよりよい緩和医療が行えるよう努力している。

消化管救急疾患診療としては、消化管出血に対して緊急内視鏡による止血術、イレウスに対しては経鼻内視鏡を使用した経鼻又は経肛門イレウスチューブ挿入などを行っている。

炎症性腸疾患に対しては従来の治療に加え、白血球除去療法、タクロリムス、生物学的製剤などを積極的に導入し良好な治療成績が得られている。生物学的製剤もかつては抗TNF-α抗体製剤のみだったが、近年使用可能となった各種抗IL抗体、抗インテグリン抗体、JAK阻害剤も積極的に使用している。

入院診療実績

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	（再掲）死亡	
7,828人	21.4人	996人	1,102人	15人	7.5日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
277件	92.4%	863件	273.1%	1件	0.1%

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
539人(49.0%)	225人(20.4%)	38人(3.5%)	34人(3.1%)	12人(1.1%)	65人(5.9%)

島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
32人(2.9%)	111人(10.1%)	14人(1.3%)	2人(0.2%)	6人(0.5%)	9人(0.8%)

平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町
		1人(0.1%)			6人(0.5%)

壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外
	1人(0.1%)	4人(0.4%)	2人(0.2%)

合計
1,101人

入院主要10疾患主要疾患別臨床統計ならびに治療成績

疾患名	ICD-10コード	症例数	死亡退院数
食道癌	C15.0-9	138	5
胃癌	C16.0-9	145	3
大腸癌・直腸癌	C18.0-9	202	0
大腸ポリープ・大腸腺腫	K635,D12.0-9	153	0
潰瘍性大腸炎	K51.0-9	88	0
クローン病	K50.0-9	129	0
胃・十二指腸潰瘍	K25.0-9,K26.0-9	20	1
イレウス（腸閉塞）	K56-0.7	32	2

主要検査件数

検　査	症例数
上部消化管内視鏡検査	2496
上部消化管超音波内視鏡検査	274
下部消化管内視鏡検査	1261
下部消化管超音波内視鏡検査	44
小腸内視鏡検査（ダブルバルーン）	4

治療成績（入院のべ数）

特殊治療法	症例数
上部消化管腫瘍内視鏡的切除術	68
下部消化管腫瘍内視鏡的切除術	236
イレウス管挿入・stent挿入	イレウス管44（上部；35、下部；9） Stent36（食道；16、大腸；20）
内視鏡的消化管出血止血術	99（上部；69、下部；30）
内視鏡的消化管拡張術	58（上部；49、下部；9）
食道癌化学療法	80
胃癌化学療法	35
大腸癌化学療法	43
白血球除去療法	2
抗TNF-α抗体投与療法	219

研修・教育

カンファレンス

名　　称	開催頻度
消化管回診（8：45）	一時中断中
消化管臨床カンファランス（16：00）	1回/週（月）
消化器（管・肝臓）内科カンファランス（8：45）	1回/週（水）
消化器内科・外科合同カンファランス（16：00）	1回/週（火）

学会・論文など

1）原著論文　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	0(0)	0(0)	0	0

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

2）学会発表　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	1	4

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

3）学術講演　　**（件数）**

種類	研究会			
件数	2			

4）学会座長　　**（件数）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	0	1

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

研究業績

学会・研究会・講演

B：国内学会

B-b2：一般演題

＜一般演題＞

1）比較的若年に発症した横行結腸髄様癌の 1 例.
松田悠佑、西山仁、中島悠史郎、後藤高介、今村祥子、峯彩子.
. 第124回日本消化器病学会九州支部例会. 鹿児島, 2024.11.14.

B-c：研究会発表

＜症例提示＞

1）小腸の症例.
中島悠史郎、西山仁、後藤高介、今村祥子、三根祥一郎、小出明妃.
大村胃疾患検討会. 大村, 2024.1.19.

2）食道の症例.
今村祥子、西山仁、後藤高介、中島悠史郎、三根祥一郎、小出明妃.
大村胃疾患検討会. 大村, 2024.1.19.

3）胃の症例.
西山仁、中島悠史郎、後藤高介、今村祥子、峯彩子、松田悠佑.
大村胃疾患検討会. 大村, 2024.6.14.

4）胃の症例.
西山仁、中島悠史郎、後藤高介、今村祥子、峯彩子、松田悠佑.
長崎胃疾患検討会. 長崎, 2024.8.28.

C，F：学術講演他

C-b：学術講演［国内］

＜講演＞

1）大腸癌.
　西山仁.
　市民公開講座. 大村, 2024.2.10.

2）大腸の線維化の質は大腸がんの予後を規定する因子となるか.
　峯彩子.
　大村胃疾患検討会. 大村, 2024.6.14.

F-b：学会・研究会座長［国内学会］

1）西山仁.
　精神疾患合併の慢性便秘治療の考え方. 大村, 2024.3.8.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

肝臓内科

責任者　長岡 進矢

診療科の特色

当院は2007年８月長崎県の肝疾患診療連携拠点病院に選定され、長崎県における肝疾患ネットワークにおける中心的な役割を担っております。当科では毎年約900人の肝胆膵疾患患者が入院しております。

医療スタッフにより下記に示すような医療を行っております。

１．データに基づいた肝臓病に関する高度な診断と治療
２．長期生存を目指した肝癌治療
３．抗ウイルス薬を用いたウイルス肝炎の治療
４．治験への積極的関与
５．臨床研究センターとの連携による新たな診断法や治療法開発の模索
６．胆膵疾患に対する内視鏡診断・治療、外科との連携、化学療法

１．データに基づいた肝臓病に関する高度な診断と治療

当科では1990年以降に入院した肝臓病患者の２万人を超えるデータベースをもとに肝疾患の診断と治療法を決定しています。例えば、肝癌の診断においては個々の患者の発癌リスクを判断しハイリスクグループを囲い込むことによる肝癌の早期診断を行い、ハイリスクグループに対しては、肝癌抑止を目標とした内服の抗ウイルス療法などを行っています。原因不明の肝障害、自己免疫性肝疾患、非アルコール性脂肪肝炎（NASH）など診断困難な症例に対しては、肝生検を行い診断することにより治療を行っています。

２．長期生存を目指した肝癌治療

肝癌の治療は、内科医、外科医、放射線科医、病理医らの合同カンファレンスを行い個々の症例の治療方針を決定しています。外科切除、経皮的ラジオ波焼灼療法（RFA）、経カテーテル的肝動脈化学塞栓療法（TACE）が従来の主要な治療でしたが、定位放射線治療も積極的に行うようになっています。進行肝癌に対してはソラフェニブ、レンバチニブなど分子標的阻害剤による治療に加え、免疫チェックポイント阻害剤であるアテゾリズマブ＋ベバシズマブ、デュルバルマブ＋トレメリムマブの治療も行っています。ウイルス性肝炎の治療が劇的に改善したことで背景肝の炎症が制御可能となり、肝予備能が保たれるようになったことにより、肝癌の予後が更に改善し、また肝癌発生率も減少しています。

３．抗ウイルス薬を用いたウイルス肝炎の治療

Ｃ型慢性肝炎では、1990年代よりインターフェロンが治療の中心となっていましたが、2014年よりジェノタイプ1bウイルスに対してインターフェロンを使用しない経口抗ウイルス剤DAAが保険適応になり、2015年からは100％に近い奏功率で副作用が非常に少ない配合剤（核酸型NS5B阻害剤＋NS5A阻害剤）が、保険適応になりました。2017年にはウイルスの遺伝子型や透析の有無などを考慮する必要のない第３世代とも言われるDAA製剤が承認され、最短８週間でウイルス駆除が可能となりました。その結果、Ｃ型慢性肝炎は治る病気になりました。

Ｂ型慢性肝炎に対しては核酸アナログ製剤の登場によってＢ型慢性肝炎の病状進展抑制が可能となりました。更に発癌リスクを減らすためにHBs抗原量を低下させることが、有効であることが報告されています。2014年HBs抗原量をより低下させる作用があるとされる新たな核酸アナログ製剤（テノホビル）が保険適応になりました。さらに副作用を抑えたテノホビルのプロドラッグも2017年に保険適応となりました。これらを用いて積極的にＢ型肝炎治療を行っています。

4．治験への積極的関与

治験は医薬品などの承認申請のために実施する臨床試験ですが、新たな薬剤の承認には必須のものです。当院では臨床研究コーディネーター（CRC）を配備し、積極的に治験への関与を行っています。当科におきましても治験に大きく関わっており、患者さんは効果が期待される治療法を早めに試みております。

5．臨床研究センターとの連携による新たな診断法や治療法の模索

臨床研究センターと連携して、肝炎ウイルスの遺伝子解析やサイトカイン測定、各種薬物濃度測定など、治療方針に関わる因子を解析し、個々の患者さんに応じた情報を提供し診療に役立てています。また、新たな診断法や検査法、治療法をいち早く試みることが可能です。肝線維化マーカーであるM2BPGiがC型慢性肝炎の発癌予測に有用であることを2014年当院より報告しました。現在は保険収載もされています。

6．胆膵疾患に対する内視鏡診断・治療、外科との連携、化学療法

最近では高齢化に伴い膵癌、胆管癌などの悪性腫瘍、また胆嚢結石、総胆管結石による胆嚢炎、胆管炎の患者さんが増えています。閉塞性黄疸、胆管炎、胆管結石などに対する、内視鏡的ドレナージや乳頭切開術、結石除去などの胆道内視鏡治療は増加の一途を辿っております。膵腫瘍などの診断を行うために超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診（EUS-FNA）など高度な診断体制を構築しております。これにより早期の膵癌診断が可能となっています。胆膵疾患は特に外科との連携を要します。膵癌に対する化学療法も有効なレジメンが増えています。合同カンファランスで診断、治療方針を決定し、癌の場合には術前化学療法・術後化学療法を含め積極的に治療介入を行っています。

入院診療実績

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	（再掲）死亡	
10,120人	27.7人	720人	862人	28人	12.8日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
418件	90.4%	677件	140.7%	1件	0.0%

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
367人（42.4%）	183人（21.1%）	30人（3.5%）	27人（3.1%）	4人（0.5%）	70人（8.1%）

島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
50人（5.8%）	75人（8.7%）	10人（1.2%）	1人（0.1%）		14人（1.6%）

平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡（小値賀）	佐々町
1人（0.1%）		1人（0.1%）	1人（0.1%）		

壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外
	6人（0.7%）	18人（2.1%）	8人（0.9%）

合計
866人

入院主要10疾患主要疾患別臨床統計ならびに治療成績

疾患名	ICD-10コード	症例数	死亡退院数
1）肝細胞癌	C220	166	3
2）肝硬変	B181, B182, K703, K746	100	4
3）慢性肝炎	B181, B182, K739	24	0
4）急性肝炎	B159, B169, B171, B172, K720	4	0
5）自己免疫性肝炎	K732	8	1
6）原発性胆汁性胆管炎	K743	13	1
7）胆管癌	C221,C240	48	1
8）膵癌	C250, C251, C252, C253, C257, C259	136	5
9）胆嚢癌	C23, C240	15	3
10）総胆管結石	K805	136	0

主要検査件数

検査	症例数
1）経皮的肝生検	25
2）肝腫瘍生検	41
3）経内視鏡的胆管膵管造影（ERCP）	475
4）管腔内超音波検査法（IDUS）	98
5）超音波内視鏡（EUS）	134
6）超音波内視鏡下穿刺吸引術（EUS-FNA）	55

特殊検査ならびに治療成績

特殊治療法	合併症とその内容	症例数	延べ施行回数	死亡退院数
1）経皮的ラジオ波焼灼術	発熱、疼痛	27	27	0
2）肝動脈塞栓療法	発熱、疼痛	62	62	0
3）定位放射線治療	なし	15	15	1
4）レンバチニブ	血圧上昇	16	17	0
5）アテゾリズマブ＋ベバシズマブ	血圧上昇、嘔気	8	8	0
6）デュルバルマブ＋トレメリムマブ	なし	10	10	0
7）インターフェロンフリー療法	なし	0	0	0
8）内視鏡的食道静脈瘤結紮術	なし	41	41	1
9）内視鏡的乳頭切開術	なし	135	135	3
10）チューブステント留置	膵炎	310	310	0
11）メタリックステント留置	膵炎	30	30	0
12）内視鏡的結石除去術	膵炎	140	140	1
13）内視鏡的逆行性胆嚢ドレナージ（ERGBD）	なし	9	9	0

研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
肝疾患センター診療カンファランス	週 1 回
肝疾患病理検討会	隔週
内科・外科・放射線科合同カンファランス	週 1 回
肝疾患リサーチミーティング	

治験、共同臨床研究（症例登録する研究）

治験等参加研究一覧

No.	項目 ①治験、②医師主導治験、③GCP準拠製造販売後臨床試験、④受託臨床研究（文書同意あり）、⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）、⑥公費臨床試験、⑦製造販売後調査（文書同意あり）、⑧製造販売後調査（文書同意なし）、⑨その他	研究課題名	同意書有無	依頼者（または試験母体）	責任医師（または担当研究者名）
1	①治験	Long-term Safety and Tolerability Study of Linerixibat for the Treatment of Cholestatic Pruritus in Participants with Primary Biliary Cholangitis （実施計画書№：212358）	有	グラクソ・スミスクライン（株）	小森　敦正
2	①治験	A two-part, randomized, placebo controlled, double blind, multicenter, Phase 3 study to evaluate the efficacy and safety of linerixibat for the treatment of cholestatic pruritus in participants with primary biliary cholangitis (PBC).（実施計画書№：212620）	有	グラクソ・スミスクライン（株）	小森　敦正
3	①治験	成人の肝硬変移行前の非アルコール性脂肪肝炎患者を対象としたGSK4532990の有効性及び安全性を評価する二重盲検、プラセボ対照、第Ⅱb相試験 A Double-Blind, Placebo-Controlled Phase 2b Study to Evaluate the Efficacy and Safety of GSK4532990 in Adults with Pre-Cirrhotic Non-Alcoholic Steatohepatitis （HORIZON） （実施計画書№：218672）	有	グラクソ・スミスクライン（株）	小森　敦正
4	①治験	Phase 3 Multicenter, Randomized, Double Blind, Study to Assess the Efficacy and Safety of Treatment with Bepirovirsen in HBeAg negative Nucleos(t)ide Analogue treated Participants with Chronic Hepatitis B Virus（B-Well 2） 核酸アナログ治療を受けているHBe抗原陰性のB型肝炎ウイルス持続感染患者を対象としたbepirovirsen投与の有効性及び安全性を評価する第III相、多施設共同、ランダム化、二重盲検試験（B-Well 2） （実施計画書№：219288）	有	グラクソ・スミスクライン（株）	小森　敦正

No.	項目 ①治験、②医師主導治験、③GCP準拠製造販売後臨床試験、④受託臨床研究（文書同意あり）、⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）、⑥公費臨床試験、⑦製造販売後調査（文書同意あり）、⑧製造販売後調査（文書同意なし）、⑨その他	研究課題名	同意書有無	依頼者（または試験母体）	責任医師（または担当研究者名）
5	①治験	A Randomised, Double-blind, Placebo-controlled, Multi-centre Phase 2b Study to Evaluate the Efficacy, Safety and Tolerability of AZD2693 in Participants with Non-cirrhotic Non-alcoholic Steatohepatitis（NASH）with Fibrosis Who Are Carriers of the PNPLA3 rs738409 148M Risk Allele リスク対立遺伝子PNPLA3 rs738409148Mを保有する、線維化を伴う非肝硬変非アルコール性脂肪肝炎（NASH）の患者を対象にAZD2693の有効性、安全性、及び忍容性を評価するランダム化二重盲検プラセボ対照多施設共同第Ⅱb相試験（実施計画書№：D7830C00004）	有	アストラゼネカ（株）	小森　敦正
6	①治験	ウルソデオキシコール酸及び/又はオベチコール酸の治療で効果不十分な原発性胆汁性胆管炎患者を対象とした、K-808（ペマフィブラート）の２用量の有効性及び安全性を評価する第２相、ランダム化、プラセボ対照、並行群間比較、多施設共同、52週間継続評価を伴う12週間試験（実施計画書№：K-808-2.01）	有	興和（株）	小森　敦正
7	①治験	原発性胆汁性胆管炎（PBC）患者を対象に胆汁うっ滞性そう痒症に対する Volixibat の有効性及び安全性を評価する無作為化、二重盲検、プラセボ対照試験（VANTAGE）（実施計画書№：VLX-601）	有	サイネオス・ヘルス・クリニカル（株）	小森　敦正
8	①治験	日本人の成人原発性胆汁性胆管炎（PBC）患者を対象に、Elafibranor 80mgの有効性及び安全性を検討する第Ⅲ相、非盲検、単群試験（実施計画書№：CLIN-60190-462）	有	（治験国内管理人） ICONクリニカルリサーチ合同会社	小森　敦正
9	①治験	ウルソデオキシコール酸で効果不十分又は不耐容の原発性胆汁性胆管炎患者を対象にしたKC-8025 の検証的試験（第Ⅲ相）（実施計画書№：KC-8025-02）	有	科研製薬（株）	小森　敦正
10	④受託臨床研究（文書同意あり）	HAMRET Study　切除不能肝細胞癌における薬物療法の前向き観察研究	有	一般社団法人 九州消化器癌 化学療法研究会	小森　敦正
11	④受託臨床研究（文書同意あり）	新型コロナ組換えタンパクワクチン初回シリーズおよび追加接種にかかわる免疫持続性および安全性調査（コホート調査）（ノババックス）	有	学校法人順天堂	小森　敦正
12	④受託臨床研究（文書同意あり）	切除不能肝細胞癌に対するアテゾリズマブ+ベバシズマブにTACE療法を追加することの有効性を検証する多施設共同第Ⅲ相臨床研究（IMPACT Study）	有	一般社団法人 九州消化器癌 化学療法研究会	本吉　康英
13	④受託臨床研究（文書同意あり）	切除不能肝細胞癌に対する薬物療法に関する前向き観察研究（PRISM Study）	有	一般社団法人 IIS支援センター	本吉　康英

No.	項目 ①治験、②医師主導治験、③GCP準拠製造販売後臨床試験、④受託臨床研究（文書同意あり）、⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）、⑥公費臨床試験、⑦製造販売後調査（文書同意あり）、⑧製造販売後調査（文書同意なし）、⑨その他	研究課題名	同意書有無	依頼者（または試験母体）	責任医師（または担当研究者名）
14	⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）	肝炎患者におけるM2BPGi試薬の臨床有用性の検討	無	シスメックス（株）	八橋　弘
15	⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）	化学発光免疫測定法（CLIA法）におけるHBs定量試薬の基礎評価	無	シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス(株)	八橋　弘
16	⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）	慢性肝疾患におけるWFA（＋）M2BP、AFP-L3とautotaxinの病態生理学的意義の検討	無	東ソー（株）	山﨑　一美
17	⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）	医療従事者を対象としたSARS-CoV-2抗体モニタリング	有	シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス(株)	八橋　弘
18	⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）	慢性肝疾患における可溶性免疫チェックポイント分子測定の有用性の検証	無	国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 国立大学法人 東京大学 シスメックス（株）	山﨑　一美
19	⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）	鼻腔拭い液及び唾液検体を用いた「ケミルミ SARS-CoV-2Ag」によるSARS-CoV-2感染の臨床性能の検証	無	シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス(株)	八橋　弘
20	⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）	肝疾患関連バイオマーカーを用いたＢ型肝炎持続感染患者における予後予測の検討	無	富士レビオ（株）	山﨑　一美
21	⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）	ルミパルスプレストグリピカン-３の肝細胞癌診断補助における臨床性能試験	無	富士レビオ（株）	山﨑　一美
22	⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）	血清HBs抗原糖鎖異性体を用いたＢ型肝炎持続感染患者における臨床的有用性の検討	無	（株）RCMG	山﨑　一美
23	⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）	慢性肝疾患におけるサイトケラチン18フラグメントの有用性に関する検討	無	（株）特殊免疫研究所	末廣　智之
24	⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）	肝疾患関連マーカー測定試薬の性能評価に関する検討	無	シスメックス（株）	山﨑　一美
25	⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）	抗ミトコンドリア抗体陰性原発性胆汁性胆管炎に対する、QUANTA Lite gp210 ELISAおよびQUANTA Lite sp100 ELISAの診断特性：多施設共同検証試験	無	アイ･エル･ジャパン(株) INOVA Diagnostics, Inc.	小森　敦正
26	⑦製造販売後調査（文書同意あり）	Ｃ型非代償性肝硬変患者におけるエプクルーサ配合錠の長期有効性（生存状況及び肝細胞癌の発症）を評価することが目的の特定使用成績調査	有	ギリアド・サイエンシズ（株）	八橋　弘
27	⑧製造販売後調査（文書同意なし）	エドルミズ特定使用成績調査〔がん悪液質:非小細胞肺癌、胃癌、膵癌、大腸癌〕＿肝臓内科	無	小野薬品工業（株）	佐伯　哲
28	⑧製造販売後調査（文書同意なし）	イミフィンジ点滴静注120mg・500mg 治癒切除不能な胆道癌患者を対象とした特定使用成績調査	無	アストラゼネカ（株）	佐伯　哲
29	⑧製造販売後調査（文書同意なし）	イジュド点滴静注25mg・300mg イミフィンジ点滴静注120mg・500mg　切除不能な肝細胞癌患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）	無	アストラゼネカ（株）	長岡　進矢

学会・論文など

1）原著論文　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	5（ 13 ）	0	5（ 0 ）	0

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

2）学会発表　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	6（ 2 ）	11（ 6 ）	2（ 0 ）	6（ 0 ）

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

3）学術講演　　**（件数）**

種類	学術講演			
件数	11			

4）学会座長　　**（件数）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	2	9	1	3

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

研究業績

論　文　発　表

A：英文

A-a1：英文原著

1）Zinc supplementation with polaprezinc was associated with improvements in albumin, prothrombin time activity, and hemoglobin in chronic liver disease.
Abiru S, Kugiyama Y, Suehiro T, Motoyoshi Y, Saeki A, Nagaoka S, Yamasaki K, Komori A, Yatsuhashi H.
J Clin Biochem Nutr 2024；74(2)：162-168. doi：10.3164/jcbn.23-89. Epub 2023 Nov 10.

2）Atherosclerotic cardiovascular disease risk profile of patients with chronic hepatitis B treated with tenofovir alafenamide or tenofovir disoproxil fumarate for 96 weeks.
Fung SK, Pan CQ, Wong GL, Seto WK, Ahn SH, Chen CY, Hann HL, Jablkowski MS, Kim YJ, Yurdaydin C, Peng CY, Nguyen T, Yatsuhashi H, Flaherty JF, Yee LJ, Abramov F, Wang H, Abdurakhmanov D, Lim YS, Buti M .
Aliment Pharmacol Ther 2024；59(2)：217-229. doi：10.1111/apt.17764. Epub 2023 Oct 31.

3）iATT liver fat quantification for steatosis grading by referring to MRI proton density fat fraction：a multicenter study.
Hirooka M, Ogawa S, Koizumi Y, Yoshida Y, Goto T, Yasuda S, Yamahira M, Tamai T, Kuromatsu R, Matsuzaki T, Suehiro T, Kamada Y, Sumida Y, Hiasa Y, Toyoda H, Kumada T .
J Gastroenterol 2024；59(6)：504-514. doi：10.1007/s00535-024-02096-w. Epub 2024 Mar 30.

4）A genome-wide association study identified PTPN2 as a population-specific susceptibility gene locus for primary biliary cholangitis.
Hitomi Y, Ueno K, Aiba Y, Nishida N, Kono M, Sugihara M, Kawai Y, Kawashima M, Khor SS, Sugi K, Kouno H, Kouno H, Naganuma A, Iwamoto S, Katsushima S, Furuta K, Nikami T, Mannami T, Yamashita T, Ario K, Komatsu T, Makita F, Shimada M, Hirashima N, Yokohama S, Nishimura H, Sugimoto R, Komura T, Ota H, Kojima M, Nakamuta M, Fujimori N, Yoshizawa K, Mano Y, Takahashi H, Hirooka K, Tsuruta S, Sato T, Yamasaki K, Kugiyama Y, Motoyoshi Y, Suehiro T, Saeki A, Matsumoto K, Nagaoka S, Abiru S, Yatsuhashi H, Ito M, Kawata K, Takaki A, Arai K, Arinaga T, Abe M, Harada M, Taniai M, Zeniya M, Ohira H, Shimoda S, Komori A, Tanaka A, Ishigaki K, Nagasaki M, Tokunaga K, Nakamura M.
Hepatology 2024；80(4)：776-790. doi：10.1097/HEP.0000000000000894. Epub 2024 Apr 23.

5）Reply to correspondence on “Comparison of four histological scoring systems for autoimmune hepatitis to improve diagnostic sensitivity”.
Komori A, .
Clin Mol Hepatol 2024；2024；30(4)：1035-1036.

6）Diagnostic performance of shear wave measurement in the detection of hepatic fibrosis：A multicenter prospective study.
Kumada T, Toyoda H, Ogawa S, Gotoh T, Yoshida Y, Yamahira M, Hirooka M, Koizumi Y, Hiasa Y, Tamai T, Kuromatsu R, Matsuzaki T, Suehiro T, Kamada Y, Sumida Y, Tanaka J, Shimizu M.
Hepatol Res 2024；54(9)：851-858. doi：10.1111/hepr.14026. Epub 2024 Feb 13.

7）Sequential Peg-IFN after bepirovirsen may reduce post-treatment relapse in chronic hepatitis B.
Buti M, Heo J, Tanaka Y, Andreone P, Atsukawa M, Cabezas J, Chak E, Coffin CS, Fujiwara K, Gankina N, Gordon SC, Janczewska E, Komori A, Lampertico P, McPherson S, Morozov V, Plesniak R, Poulin S, Ryan P, Sagalova O, Sheng G, Voloshina N, Xie Q, Yim HJ, Dixon S, Paff M, Felton L, Lee M, Greene T, Lim J, Lakshminarayanan D, McGonagle G, Plein H, Youssef A, Elston R, Kendrick S, Theodore D .
J Hepatol. 2024；S0168-8278(24)02488-7. doi：10.1016/j.jhep.2024.08.010. Online ahead of print. .

8）Experience and impact of stigma in people with chronic hepatitis B：a qualitative study in Asia, Europe, and the United States.
Mondher Toumi, Toumi M, Wallace J, Cohen C, Marshall C, Kitchen H, Macey J, Pegram H, Slagle AF, Gish RG, Ning Q, Yatsuhashi H, Cornberg M, Brunetto M, van Bömmel F, Xie Q, Lee D, Habuka N, Sbarigia U, Beumont-Mauviel M, Keever AV, Takahashi Y, Lu Y, Liu A, Chen Q, Ito T, Radunz O, Puggina A, Hilgard G, Chan EKH, Wang S.
BMC Public Health 2024；24(1)：611. doi：10.1186/s12889-023-17263-6.

9）An open-label, randomized, controlled trial on the benefit of β-hydroxy-β-methyl butyrate, l-arginine, l-glutamine combination beverages and locomotion training as supportive care for the treatment of unresectable hepatocellular carcinoma using lenvatinib：A pilot study（HELLO study）.
Naganuma A, Makita F, Sugimoto R, Kikuchi M, Furuta K, Iwamoto S, Sakamori R, Kouno H, Ario K, Yatsuhashi H.
Clin Nutr ESPEN 2024；S2405-4577(24)01550-X. doi：10.1016/j.clnesp.2024.12.005. Online ahead of print.

10）M2BPgs-HCC：An Automated Multilectin Bead Array Indicating Aberrant Glycosylation Signatures Toward Hepatitis C Virus-Associated Hepatocellular Carcinoma Prognosis.
Shimazaki H, Uojima H, Yamasaki K, Obayashi T, Fuseya S, Sato T, Mizokami M, Kuno A.
Molecules 2024；29(23)：5640. doi：10.3390/molecules29235640.

11）Factors involved in gastroesophageal varix-related events in patients with hepatitis C virus-related compensated and decompensated cirrhosis after direct-acting antiviral therapy.
Tahata Y, Hikita H, Mochida S, Enomoto N, Kawada N, Ido A, Miki D, Kurosaki M, Yoshiji H, Sakamori R, Kuroda H, Yatsuhashi H, Yamashita T, Hiasa Y, Kato N, Miyaaki H, Ueno Y, Itoh Y, Matsuura K, Takami T, Asahina Y, Suda G, Akuta N, Tateishi R, Nakamoto Y, Kakazu E, Terai S, Shimizu M, Miyazaki M, Nozaki Y, Sobue S, Yano H, Miyaki T, Moriuchi A, Hori T, Shirai K, Murai K, Saito Y, Kodama T, Tatsumi T, Yamada T, Takehara T.
Hepatol Res 2024；doi：10.1111/hepr.14131. Online ahead of print.

12）Safety and effectiveness of SARS-CoV-2 vaccines for patients with intractable hepatobiliary diseases：A multicenter, questionnaire-based, cross-sectional study.
Tanifuji A, Ohfuji S, Matsumoto K, Abe M, Komori A, Takahashi A, Kawata K, Sato K, Joshita S, Umemura T, Ueno M, Nakayama N, Kakisaka K, Arinaga-Hino T, Ito K, Kanai S, Miura R, Arizumi T, Asaoka Y, Ito T, Shimizu T, Yoshida H, Ohta M, Mizuno S, Isayama H, Morimoto Y, Mochida S, Ohira H, Tanaka A .
Hepatol Res 2024；54(7)：706-715. doi：10.1111/hepr.14018. Epub 2024 Feb 1.

13）Quantitative measurements of M2BPGi depend on liver fibrosis and inflammation.
Uojima H, Yamasaki K, Sugiyama M, Kage M, Ishii N, Shirabe K, Hidaka H, Kusano C, Murakawa M, Asahina Y, Nishimura T, Iijima H, Sakamoto K, Ito K, Amano K, Kawaguchi T, Tamaki N, Kurosaki M, Suzuki T, Matsuura K, Taketomi A, Joshita S, Umemura T, Nishina S, Hino K, Toyoda H, Yatsuhashi H, Mizokami M.
J Gastroenterol 2024；59(7)：598-608. doi：10.1007/s00535-024-02100-3. Epub 2024 Apr 16.

14）Anti-integrin αvβ6 autoantibody in primary sclerosing cholangitis：a Japanese nationwide study.
Yasuda M, Shiokawa M, Kuwada T, Nishikawa Y, Nakanishi R, Takimoto I, Chikugo K, Yokode M, Muramoto Y, Matsumoto S, Nakamura T, Ota S, Matsumori T, Kuroda K, Hachiya T, Yamazaki H, Uza N, Kodama Y, Chiba T, Fujisawa T, Komori A, Abe M, Yamaguchi I, Matsuda F, Isayama H, Tanaka A, Seno H；Japan PSC Study Group（JPSCSG）.
J Gastroenterol 2025；60(1)：118-126. doi：10.1007/s00535-024-02169-w. Epub 2024 Nov 16.

15）Serum Mac-2 binding protein glycosylation isomer and galectin-3 levels in adult-onset Still's disease and their association with cytokines.
Yoshida S, Koga T, Fujita Y, Yatsuhashi H, Matsumoto H, Sumichika Y, Saito K, Sato S, Asano T, Kobayakawa M, Ohira H, Mizokami M, Sugiyama M, Migita K.
Front Immunol 2024；15：1385654. doi：10.3389/fimmu.2024.1385654. eCollection 2024.

A-b：英文総説

1）Hard-to-treat autoimmune hepatitis and primary biliary cholangitis：The dawn of a new era of pharmacological treatment.
Komori A, Kugiyama Y.
Clin Mol Hepatol 2024；doi：10.3350/cmh.2024.0821. Online ahead of print.

2）A novel clinical trial for primary sclerosing cholangitis from Asia：all regional endeavors should improve global management of PSC.
Komori A.
Clin Mol Hepatol 2024；doi：10.3350/cmh.2024.0945. Online ahead of print.

3）Evaluation of the histological scoring systems of autoimmune hepatitis：A significant step towards the optimization of clinical diagnosis.
Komori A.
Clin Mol Hepatol 2024；30(2)：157-159. doi：10.3350/cmh.2024.0131. Epub 2024 Feb 23.

B：和文

B-b：和文総説

1）【今月のテーマ：自己免疫性肝・胆道疾患up to date】原発性胆汁性胆管炎 up to date.
小森敦正.
日本消化器病学会雑誌 2024；121(1)：17-25.

2）【自己免疫性肝疾患～病因、診断、治療～】原発性胆汁性胆管炎レジストリ.
小森敦正.
Precision Medicine 2024；6(14)：1160-1163.

3）治療法の再整理とアップデートのために　専門家による私の治療　原発性胆汁性胆管炎.
小森敦正.
日本医事新報 2024；5229：49.

4）【自己免疫性肝疾患とICI（免疫チェックポイント阻害薬）による肝障害】自己免疫性肝疾患　原発性胆汁性胆管炎（PBC）　治療を巡る課題.
小森敦正.
臨床消化器内科 2024；39(10)：1264-1270.

B-c2：和文著書［分担］

1 ） 5.感染症検査/ B.ウイルス, 11. C 型肝炎ウイルス.
山﨑一美、八橋弘.
臨床検査ガイド 2025年改訂版, これだけは必要な検査のすすめかた・データのよみかた 2024；pp791-794.

学会・研究会・講演

A：国際学会, 国際会議

A-a：特別講演 ,教育講演, 招待講演

＜招待講演＞

1 ）Second-Line Pharmacotherapies for Hard-to-Treat Autoimmune Hepatitis and Primary Biliary Cirrhosis.
Komori A.
Special Interest Group 2 ；Advancing and Discovering Cures for Rare Liver Disease, The Liver Week 2024.
Seoul, Korea, 2024.6.29.

A-b1：シンポジウム, パネルディスカッション等

＜Symposium＞

1 ）Rethinking the Disease Status of Chronic Hepatitis B: The Roles of Novel Detection Methods for HBV Markers.
Komori A,
HBV2 Novel Detection Methods for HBV Markers；HBV2-1, APASL (Asian Pacific Association for the Study of the Liver) 2024 Kyoto. Kyoto, 2024.3.28.

A-b2：一般演題

＜poster＞

1 ）Durvalumab plus Tremelimumab treatment in patients with unresectable HCC; an early experience.
Motoyoshi Y, Wataya M, Matsumoto K, Kugiyama Y, Suehiro T, Saeki A, Nagaoka S, Yamasaki K, Komori A, Yatsuhashi H.
Group077；Systemic Chemotherapy & Oncology, APASL (Asian Pacific Association for the Study of the Liver) 2024 Kyoto. Kyoto, 2024.3.29.

2 ）Contrast-Enhanced Low-MI THI：A useful imaging support for the locoregional therapy for liver tumor.
Motoyoshi Y, Wataya M, Matsumoto K, Kugiyama Y, Suehiro T, Saeki A, Nagaoka S, Yamasaki K, Komori A, Yatsuhashi H.
Group044；Ablation & Image-Guided Procedure, APASL (Asian Pacific Association for the Study of the Liver) 2024 Kyoto. Kyoto, 2024.3.29.

3 ）Evaluation of iATT liver fat quantification for steatosis grading with reference to magnetic resonance imaging-based proton density fat fraction：a multicenter study.
Hirooka M, Ogawa S, Koizumi Y, Yoshida Y, Goto T, Yasuda S, Yamahira M, Tamai T, Kuromatsu R, Matsuzaki T, Suehiro T, Kamada Y, Sumida Y, Hiasa Y, Toyoda H, Kumada T.
EASL Congress 2024. Milan, Italy, 2024.6.5.

4 ）Identification of serum metabolome signatures associated with hepatocellular carcinoma in metabolic dysfunction-associated steatohepatitis.
Komori A, Matsumoto K, Kugiyama Y, Suehiro T, Motoyoshi Y, Saeki A, Nagaoka S, Yamasaki K, Yatsuhashi H.
EASL Congress 2024. Milan, Italy, 2024.6.5.

5 ）Baseline gamma-glutamyl transpeptidase levels are associated with aggravation of esophagogastric varix after direct-acting antiviral therapy in cirrhotic patients with hepatitis C virus.
Tahata Yuki, Hikita H, Mochida S, Ido A, Miki D, Sakamori R, Yoshiji H, Kawada N, Enomoto N, Yamashita T, Kurosaki M, Kuroda H, Hiasa Y, Nakao K, Kato N, Suda G, Nakamoto Y, Yatsuhashi H, Matsuura K, Takami T, Kakazu E, Itoh Y, Asahina Y, Ueno Y, Tateishi R, Terai S, Shimizu M, Akuta N, Kodama T, Tatsumi T, Yamada T, Takehara T.
EASL Congress 2024. Milan, Italy, 2024.6.6.

6）Effectiveness of Immune Checkpoint Inhibitor Therapy with Locoregional Therapy Versus ICI Alone in Unresectable Hepatocellular Carcinoma: A Retrospective Analysis.
Motoyoshi Y, Nakamura M, Kojima T, Kugiyama Y, Suehiro T, Saeki A, Nagaoka S, Yamasaki K, Komori A, Yatsuhashi H.
Poster Session 20; Systemic Therapy (4), APASL Oncology 2024 Chiba. Chiba, 2024.09.25.

B：国内学会

B-b1：シンポジウム, パネルディスカッション等

＜パネルディスカッション＞

1）非代償性肝硬変の課題克服を目指して
田畑優貴、疋田隼人、高木章乃夫、黒崎雅之、松浦健太郎、八橋弘、黒田英克、上野義之、阪森亮太郎、竹原徹郎.
パネルディスカッション12；非代償性肝硬変の課題克服を目指して, 第110回日本消化器病学会総会. 徳島, 2024.5.9.

＜特別企画＞

1）米澤敦子、八橋弘.
特別企画３；肝がんゼロを目指した肝炎等克服政策研究の成果（疫学、検査、連携、人材育成、人権、政策), 第60回日本肝臓学会総会. 熊本, 2024.6.14.

2）サルコイドーシスを合併した自己免疫性肝炎の一例.
釘山有希、末廣智之、三浦史郎、小森敦正.
特別企画；症例に学ぶ（自己免疫性肝疾患）（１), 第45回日本肝臓学会東部会. 仙台, 2024.12.6.

B-b2：一般演題

＜口演＞

1）体幹部定位放射線治療とラジオ波焼灼療法の長期成績比較・肝予備能との関連についての検討.
本吉康英、綿屋摩湖人、松本耕輔、釘山有希、末廣智之、佐伯哲、長岡進矢、山﨑一美、小森敦正、八橋弘.
プレナリーセッション１；肺・腎・骨軟部、甲状腺、乳房など. 第２回日本アブレーション研究会. 岡山, 2024.2.10.

2）肝生検が診断に有用であった医原性免疫不全症関連リンパ増殖性疾患の一例.
中野颯斗、岡田覚丈、岩永希、和泉泰衛、末廣智之、三原裕美、伊東正博、川上純.
近未来のリウマチ医セッション４；臨床研修医 症例報告. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会. 神戸, 2024.4.20.

3）ゲノムワイド関連解析（GWAS）による新規原発性胆汁性胆管炎（PBC）感受性遺伝子PTPN2の同定.
人見祐基、植野和子、相葉佳洋、小森敦正、中村稔.
プレナリー；肝 プレナリー . 第110回日本消化器病学会総会. 徳島, 2024.5.10.

4）人工知能による消化器疾患診断の新展開：舌画像の深層学習による急性虫垂炎および消化器疾患の新規診断モデル開発と検証.
森英毅、山﨑一美、八橋弘.
ミニオーラル；腫瘍・感染症・その他. 第110回日本消化器病学会総会. 徳島, 2024.5.11.

5）原発性胆汁性胆管炎の臨床データと肝組織網羅的遺伝子発現データを用いた治療標的の探索.
相葉佳洋、植野和子、人見祐基、小森敦正、中村稔.
口演１；PBC・PSC. 第60回日本肝臓学会総会. 熊本, 2024.6.13.

6）Identification of new exosomal microRNA markers for Non-alcoholic fatty liver disease using artificial intelligence approach.
Kitab Bouchra、小原恭子、小森敦正、八橋弘、木村昌倫、木村公則、小原道法.
口演17；脂肪性肝疾患１. 第60回日本肝臓学会総会. 熊本, 2024.6.14.

７）脂肪肝におけるサイトケラチン18F測定の意義.
末廣智之、松本耕輔、釘山有希、本吉康英、佐伯哲、長岡進矢、山﨑一美、小森敦正、八橋弘.
ミニオーラル28；脂肪性肝疾患 診断１. 第60回日本肝臓学会総会. 熊本, 2024.6.14.

８）非アルコール性脂肪性肝炎の門脈圧亢進症発症に関連する、血清代謝産物の探索.
小森敦正、松本耕輔、釘山有希、末廣智之、本吉康英、佐伯哲、長岡進矢 、山﨑一美、八橋弘.
口演18；脂肪性肝疾患２. 第60回日本肝臓学会総会. 熊本, 2024.6.14.

９）PSE 術前にアバトロンボパグ投与が有効であったアルコール性肝硬変に伴う脾機能亢進症の一例.
古賀万貴、釘山有希、宮村周人、綿屋摩湖人、松本耕輔、末廣智之、本吉康英、佐伯哲、長岡進矢、山﨑一美、小森敦正、八橋弘.
研修医発表；肝胆膵１. 第123回日本消化器病学会九州支部例会. 北九州, 2024.6.21.

10）切除不能肝細胞癌に対するDurvalumab＋Tremelimumab療法の初期経験.
本吉康英、綿屋摩湖人、松本耕輔、釘山有希、末廣智之、佐伯哲、長岡進矢、山﨑一美、小森敦正、八橋弘.
一般口演９；薬物療法２. 第60回日本肝癌研究会. 姫路, 2024.7.12.

11）デュルバルマブ＋トレメリムマブ併用療法中に甲状腺クリーゼを発症した進行肝細胞癌の一例.
釘山有希、松本耕輔、末廣智之、本吉康英、佐伯哲、長岡進矢、山崎一美、小森敦正、八橋弘.
一般演題３；症例報告１. 第30回日本肝がん分子標的治療研究会. 東京, 2024.7.26.

12）切除不能肝細胞癌に対するDurvalumab＋Tremelimumab療法の初期経験.
本吉康英、中村理貴、松本耕輔、釘山有希、末廣智之、佐伯哲、長岡進矢、山﨑一美、小森敦正、八橋弘.
一般演題11；Durvalumab＋Tremelimumab 併用療法３. 第30回日本肝がん分子標的治療研究会. 東京, 2024.7.27.

13）「舌所見は急性虫垂炎の診断に有効である」舌画像の深層学習による急性虫垂炎の新規診断モデル開発と検証.
森英毅、山﨑一美.
一般演題１；診断エクセレンス・エラー. 第29回日本病院総合診療医学会学術総会. 東京, 2024.9.7.

14）長崎医療センターにおけるSMO導入に向けた取り組み.
川崎美幸、白川敦規、久保三紀子、木村梨沙、大久保房庫、冨田英里、松井亜紀、小森敦正.
一般演題（口頭発表）８；実施体制の整備②. 第24回CRCと臨床試験のあり方を考える会議. 札幌, 2024.9.15.

15）予測不能なアクシデント～ある日突然電子カルテが使用不能になったら～.
木村梨沙、大久保房庫、久保三紀子、冨田英里、川崎美幸、小森敦正.
一般演題（口頭発表）12；院内調整・チーム医療②／臨床研究・トランスレーショナルリサーチ②／実施体制の整備③. 第24回CRCと臨床試験のあり方を考える会議. 札幌, 2024.9.15.

16）治験薬承認時の取り組み～創薬から育薬への橋渡し～.
木村梨沙、冨田英里、久保三紀子、大久保房庫、川崎美幸、野田晃洋、小川志帆、本田涼子、小森敦正.
一般演題（口頭発表）34；被験者対応・保護③. 第24回CRCと臨床試験のあり方を考える会議. 札幌, 2024.9.16.

17）原発性胆汁性胆管炎の末梢血における網羅的遺伝子発現解析.
相葉佳洋、植野和子、人見祐基、杉和洋、河野博孝、長沼篤、万波智彦、岩本諭、古田清、廣岡可奈、小森敦正、中村稔.
一般演題４；肝胆・腸疾患と免疫応答. 第61回日本消化器免疫学会総会. 長崎, 2024.12.5.

＜ポスター＞

１）膵癌術後に肝転移再発を認めるも集学的治療によりtumor freeとなり長期経過中の２例.
佐伯哲、黒木保、北里周.
一般演題（ポスター）11；膵癌（集学的治療）. 第55回日本膵臓学会大会. 宇都宮, 2024.7.26.

２）当院で経験した肝原発平滑筋肉腫の１例.
十時花帆、武藤憲太、喜多なつみ、藤田美和子、浦山智子、藤野達也、釘山有希、添田李子、三原裕美.
ポスター 218；生理検査. 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.19.

３）複合免疫療法における免疫関連有害事象とステロイド使用.
佐々木龍、中尾康彦、福島真典、原口雅史、三馬聡、宮明寿光、曽山明彦、江口晋、松崎寿久、釘山有希、本吉康英、八橋弘、石田智士、山島美緒、山道忍、市川辰樹、重野賢也、加茂泰広、岩津伸一、中尾一彦.
デジタルポスターセッション肝017；原発性肝癌（薬物療法）２. 第32回日本消化器関連学会（JDDW 2024）/第28回日本肝臓学会大会. 神戸, 2024.10.31.

＜ワークショップ＞

１）九州地域における肝がんの新規発生状況.
中野聖士、八橋弘、矢野博久.
ワークショップ７；高齢社会における肝疾患の問題点. 第60回日本肝臓学会総会. 熊本, 2024.6.14.

２）原発性胆汁性胆管炎全国調査における臨床・病理学的背景とステロイド治療の検討.
釘山有希、小森敦正、仲野俊成、田中篤.
ワークショップ１；肝胆膵領域における免疫疾患の現状と課題. 第124回日本消化器病学会九州支部例会. 鹿児島, 2024.11.15.

３）空間トランスクリプトーム解析を用いた、原発性胆汁性胆管炎肝組織における空間的炎症および組織可塑性の検証.
小森敦正、釘山有希、三浦史郎.
ワークショップ３；自己免疫性肝胆疾患を探究する. 第45回日本肝臓学会東部会. 仙台, 2024.12.7.

B-c：研究会発表

１）SVR症例における血清ATX測定の意義.
末廣智之.
講演③, 第15回DAA研究会. 鹿児島, 2024.3.2.

２）Ｃ型肝硬変に対するDAA治療-生命予後と死因に関する検討.
八橋 弘.
セッション３；肝硬変. 第34回犬山シンポジウム. 名古屋, 2024.8.1.

C, F, G：学術講演他

C-b：学術講演［国内］

＜講演＞

１）肝がん・肝硬変、NASH、PBC、AIHについて.
小森敦正.
長崎県肝炎医療コーディネーター養成研修会（令和５年度）. 長崎（Web）, 2024.2.9.

２）①B型肝炎、C型肝炎について　②「ウイルス肝炎の感染性についての理解度に関するアンケート調査」.
八橋弘.
長崎県肝炎医療コーディネーター養成研修会（令和５年度）. 長崎（Web）, 2024.2.9.

３）肝細胞癌集学的治療におけるLenvatinibの使用経験からの考察.
釘山有希.
一般演題（講演）HCC Sequential Therapy Meeting. 佐世保, 2024.3.7.

４）穿刺手技のための最良の画像支援を目指して.
本吉康英、綿屋摩湖人、松本耕輔、釘山有希、末廣智之、佐伯哲、長岡進矢、山﨑一美、小森敦正、八橋弘.
第三回九州肝がん焼灼座談会. 長崎（Web), 2024.3.7.

５）肝細胞癌に対する複合免疫療法について.
釘山有希.
基調講演②. 長崎肝細胞がん治療 Meeting. 大村, 2024.5.13.

６）Ｂ型慢性肝炎患者が希望すること、HBs抗原の消失と発癌抑止.
八橋弘.
ランチョンセミナー . 第50回日本急性肝不全研究会. 熊本, 2024.6.12.

７）C 型肝炎患者におけるM2BPGiの測定意義.
山﨑一美.
イブニングセミナー２；肝線維化評価におけるM2BPGi定量測定の意義と臨床応用. 第60回日本肝臓学会総会. 熊本, 2024.6.13.

８）生活習慣と肝疾患 ～あなたの肝臓は大丈夫？～ .
釘山有希.
令和６年度 日本肝臓学会 肝がん撲滅運動「市民公開講座」. 大村, 2024.11.11.

９）ウイルス性肝疾患の助成制度 2024.
小森敦正.
令和６年度 日本肝臓学会 肝がん撲滅運動「市民公開講座」. 大村, 2024.11.11.

10）長崎県離島における肝炎撲滅の取り組み.
山﨑一美.
臨床検査の日 肝炎撲滅のためのWEB Seminar. 福岡, 2024.11.15.

＜ディスカサント＞

１）本吉康英.
ディスカッション「STRiDEレジメン　対象は？タイミングは？」複合免疫療法の臨床応用を考える会. 福岡, 2024.4.27.

F-a：学会・研究会座長［国際学会］

＜Moderator＞

１）Komori A.
Liver Cirrhosis 05, APASL (Asian Pacific Association for the Study of the Liver) 2024 Kyoto. Kyoto, 2024.3.30.

２）Komori A.
Liver Cirrhosis 06, APASL (Asian Pacific Association for the Study of the Liver) 2024 Kyoto. Kyoto, 2024.3.30.

F-b：学会・研究会座長［国内学会］

＜座長＞

１）山﨑一美.
一般演題（講演）；消化器②. 第28回日本病院総合診療医学会学術総会. 福岡, 2024.3.30.

２）本吉康英.
特別講演. 長崎肝細胞がん治療 Meeting. 大村, 2024.5.13.

３）小森敦正.
ランチョンセミナー１；ウイルス肝炎のEliminationに向けて－世界と日本の現状と課題. 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.18.

４）小森敦正.
研修医発表；肝１. 第124回日本消化器病学会九州支部例会. 鹿児島, 2024.11.15.

＜司会＞

1）八橋弘.
ランチョンセミナー７；糖鎖科学から見出された新しいHBVマーカー HBsAgGiとその可能性. 第60回日本肝臓学会総会. 熊本, 2024.6.13.

2）八橋弘.
特別企画８；Towards elimination of viral hepatitis, 第60回日本肝臓学会総会. 熊本, 2024.6.13.

3）小森敦正.
パネルディスカッション７；自己免疫性肝胆膵疾患診療Cutting edge. 第60回日本肝臓学会総会. 熊本, 2024.6.13.

4）八橋弘.
特別企画３；肝がんゼロを目指した肝炎等克服政策研究の成果（疫学、検査、連携、人材育成、人権、政策）. 第60回日本肝臓学会総会. 熊本, 2024.6.14.

5）小森敦正.
教育講演会５；肝疾患とサルコペニア・栄養～肝臓リハビリ. 2024年度日本肝臓学会前期教育講演会. 熊本, 2024.6.15.

6）小森敦正.
演題４；糖尿病合併慢性肝疾患における肝発癌危険因子の検討. 第１回肝疾患バイオマーカー研究会. 神戸, 2024.11.1.

7）小森敦正.
第１回肝疾患バイオマーカー研究会. 神戸, 2024.11.1.

8）八橋弘.
ランチョンセミナー 59；M2BPGi定量系の開発～背景から今後の応用まで～. 第32回日本消化器関連学会（JDDW 2024）/第28回日本肝臓学会大会. 神戸, 2024.11.1.

＜ディスカサント＞

1）小森敦正.
シンポジウム７；若手医師フォーラム. 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.18.

G：その他

＜開催＞

1）八橋弘.
長崎県肝炎医療コーディネーター養成研修会（令和５年度）. 長崎（Web）, 2024.2.9.

＜長崎県責任者＞

1）小森敦正.
令和６年度 日本肝臓学会 肝がん撲滅運動「市民公開講座」. 大村, 2024.11.11.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

循環器内科

責任者　於久 幸治

診療科の特色

循環器内科の特徴

1）冠動脈疾患の治療成績向上と長期予後の改善
2）心房細動を含む不整脈疾患に対するカテーテルアブレーション治療
3）心臓リハビリテーション・和温療法から両室同期ペーシング治療まで幅広い心不全治療
4）学会活動
5）研修医指導

現在循環器内科はスタッフ５名とレジデント１名からなり、そのうちスタッフの４名は日本循環器学会の循環器専門医でかつ当院は日本循環器学会認定循環器専門医研修施設です。2023年はPCI症例が191例とここ10年で200例に届きませんでしたが、2024年のPCI症例は214例と200症例を超えました。また下肢血管形成術（EVT）も2023年は39例でしたが2024年は53例と増加しました。最近では糖尿病を合併した透析患者さんの重症下肢虚血が増加しているように思えます。他科やかかりつけ医の先生方とも連携し、さらに地域医療に貢献して行きたいと思います。

不整脈疾患に対するカテーテルアブレーション治療

2024年は、アブレーション数は91例（cf.前年：106例）で、内72例（79％）が心房細動例でした。また、心臓電気生理学的検査を１例に行っています。

不整脈で悩まれている症例にとってカテーテルアブレーションは良い治療法です。今後、当院では従来の温熱（加熱または冷却）を利用したカテーテルアブレーションとは異なるパルスフィールドアブレーション（PFA）の導入を検討しています。従来の治療と比較し、PFAは、有効性は同等であるものの、安全性と手技時間短縮が期待されます。

引き続き、医療の安全な提供を行えるよう万全の注意を払うとともに、仕事の効率化を図っていきます。

PCI治療成績の向上、長期予後の改善

当院は県下でも少ない日本心血管インターベンション治療学会研修施設で、県内でもっとも早くから認定されています。そのためPCIの治療成績向上のみならず、日本心血管インターベンション治療学会専門医が３人在籍し、患者さんの治療、若手医師の教育や指導を行っています。また2024年度の長崎PCIライブデモンストレーションを2025年２月１日に行う予定です。県内外から多くの先生方にご参加いただき、４症例の複雑病変のPCIをディスカッションしながら、質の高いPCI治療を目指して頑張りたいと思います。

心臓リハビリテーション・和温療法から両室同期ペーシング治療まで幅広い心不全治療

高齢化に伴い日本全体で心不全患者が増加し、重症心不全患者さんには内服強化療法と心臓リハビリテーションを行っています。それでも心不全がコントロール出来なければ両室同期ペーシング治療や和温療法を行っています。積極的に和温療法を行っているのは県内でも当院のみです。

看護師や理学療法士を中心とした心不全療養指導士８名（今年度予定）が在籍し心不全患者の指導（心不全リハビリを含め）に頑張っています。

学会活動

2024年はCOVID-19の影響が小さくなり学会や研究会の多くがウエブから対面での開催になり、それに伴い下記の頁にありますように数多くの発表を行いました。今後も学会活動は積極的に続けていきます。

研修医指導

毎月１名から２名の研修医がローテーションで循環器内科を廻っています。研修医には可能な限り地方会等での学会発表を行うように指導し、一方毎週一回金曜日の午後に研修医回診を行っています。

入院診療実績

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	（再掲）死亡	
6,535人	17.9人	705人	777人	12人	8.8日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
368件	88.2%	826件	170.7%		

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
379人(48.6%)	170人(21.8%)	16人(2.1%)	25人(3.2%)	7人(0.9%)	68人(8.7%)

島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
17人(2.2%)	36人(4.6%)	8人(1.0%)		3人(0.4%)	4人(0.5%)

平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町
2人(0.3%)		13人(1.7%)	6人(0.8%)		1人(0.1%)

壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外
9人(1.2%)	1人(0.1%)	6人(0.8%)	9人(1.2%)

合計
780人

入院主要10疾患主要疾患別臨床統計ならびに治療成績

疾患名	ICD-10コード	症例数	死亡退院数
1）心不全	I5.0-9, I11.0	110	7
2）急性心筋梗塞	I21.0-9	61	2
3）陳旧性心筋梗塞	I25.2	59	0
4）狭心症	I20.0-9, I25.6	249	0
5）拡張型心筋症	I42.0	4	0
6）肥大型心筋症	I42.1-2	6	0
7）弁膜症	I05.0-9, I06.0-9, I35.0-9, I34.0	18	1
8）頻脈性不整脈	I45.6, I47.0-9, I48, I49.0-91	138	0
9）洞不全症候群	I49.5	10	0
10）完全房室ブロック	I44.2	12	0

主要検査件数

検査	症例数
1）心臓カテーテル検査	520
2）臨床電気生理学的検査	1
3）心エコー（病棟）	約300
4）経食道心エコー	106
5）CPX検査	6

特殊検査ならびに治療成績

特殊治療法	合併症とその内容	症例数	死亡退院数
1）経皮的冠動脈形成術		214	0
2）経皮的僧帽弁裂開術		0	0
3）経皮的血管形成術		53	0
4）ペースメーカ植え込み術	（交換術）	40(13)	0
5）カテーテルアブレーション	（心房細動）	91(72)	0
6）植え込み型除細動器	（交換術）	6(4)	0
7）心臓再同期療法	（交換術）	2(0)	0
8）植え込み型心電計		2	0
9）下大静脈フィルター		5	0

＊ペースメーカ植え込み症例の内、リードレスペースメーカは17症例です。

研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
読影カンファレンス	4 /週
心カテカンファレンス	4 /週
心外科合同カンファレンス	1 /週
循環器内科研修医回診	1 /週
循環器セミナー	1 /週
循環器内科抄読会	1 /週

学会・論文など

1）原著論文　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	0	0	0	0

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

2）学会発表　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	3	9

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

3）学術講演　　**（件数）**

種類	五島薬剤師会			
件数	1			

4）学会座長　　**（件数）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	5	10

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

研究業績

論　文　発　表

B：和文

B-e：その他（ラジオ・新聞・雑誌等）

1）【診療茶話№536】経皮的冠動脈形成術進歩の歴史と今.
　於久幸二.
　長崎県医師会報 2024；第942号：49-53.

学会・研究会・講演

B：国内学会

B-b2：一般演題

＜口演＞

1）再狭窄病変治療にIVUS/OCTが有用であった症例.
　井手下清香、杉山哲司、寺下真吾、深江貴芸、於久幸治.
　一般演題（メディカルスタッフ）2. 第36回日本心血管インターベンション治療学会 九州・沖縄地方会. 福岡, 2024.1.13.

2）閉塞性動脈硬化症に対して総腸骨動脈に留置したステントの変形を繰り返した円背の高齢女性の一例.
　川添綾子、於久幸治、石松卓、福田侑甫、深江貴芸、森彩、松尾崇史、福田侑甫、鶴川晃二郎.
　研修医セッション1. 第136回日本循環器学会九州地方会. 鹿児島, 2024.6.29.

3）左脚前枝領域を起源とするベラパミル感受性心室頻拍に対してアブレーションを実施した1例.
　福田侑甫、石松卓、小出俊郎、森彩、松尾崇史、深江貴芸、於久幸治、古山准二郎.
　一般演題；不整脈3. 第137回日本循環器学会九州地方会. 別府, 2024.12.14.

4）下肢SFAのCTOに対してOne puncture retrograde approach（OPRA法）を実施した症例についての検討.
　福田侑甫.
　EVT Challenging Case 2. 近畿心血管治療ジョイントライブ（KCJL）2024. 大阪, 2024.4.12.

C，F，G：学術講演他

C-b：学術講演［国内］

＜講演＞

1）高齢者心不全患者に対するSGLT2阻害薬の使い方について.
　於久幸治.
　Heart Failure web Seminar. Web, 2024.2.21.

2）糖尿病合併症の虚血性心疾患の予防・治療について～経口GLP-1受容体作動薬への期待～
　於久幸治.
　レクチャー②. 第47回糖尿病診療を考える会. 佐世保, 2024.3.26.

3）循環器内科の立場からみたGLP-1受容体作動薬～心腎イベント発症予防を見据えた非肥満の２型糖尿病治療～.
　於久幸治.
　小浜糖尿病連携フォーラム. 小浜, 2024.5.22.

4）糖尿病合併症の虚血性心疾患の予防・治療について～経口GLP-1受容体作動薬への期待～.
　於久幸治.
　講演2. 大村地区糖尿病講演会. 大村, 2024.7.25.

5）心臓病手帳（vol.3）活用による医療成果.
　於久幸治.
　一般講演. 第15回長崎県央循環器地域連携パス研究会. 大村, 2024.11.21.

＜特別講演＞

1）心筋梗塞の再発予防に向けての脂質管理の重要性
　於久幸治.
　五島薬剤師会講演会. 五島, 2024.2.28.

2）腎疾患合併心不全とSGLT2阻害薬について.
　於久幸治.
　循環器疾患Joint Conference講演会. Web, 2024.10.8.

＜パネルディスカッション＞

1）ACS ２次予防における脂質異常症治療の現状と課題＆治療戦略.
　福田侑甫.
　第２回レクビオ Web Symposium in 九州. Web, 2024.9.5.

2）当院でのインクリシランの使用経験について.
　福田侑甫.
　LEQVIO Expert Symposium in 長崎. 長崎, 2024.11.14.

＜研究会＞

1）閉塞性動脈硬化症において総大腿動脈に留置したステント変形を繰り返した円背の高齢女性の一例.
　川添綾子.
　第８回長崎循環器卒後セミナー . 長崎, 2024.6.15.

F-b：学会・研究会座長［国内学会］

＜座長＞

1）於久幸治.
　一般演題（医師）５；ACS2. 第36回日本心血管インターベンション治療学会 九州・沖縄地方会. 福岡, 2024.1.12.

2）於久幸治.
　ランチョンセミナー１；深部静脈血栓症. 第36回日本心血管インターベンション治療学会 九州・沖縄地方会. 福岡, 2024.1.12.

3）於久幸治.
　LECTURE SESSION ２；慢性心不全のアウトカム向上のために～フォシーガの適応を再考する～ . 心腎連携を地域で考える会. Web, 2024.5.29.

4）於久幸治.
　特別講演；人生100年時代の将来・生涯を見据えた抗凝固療法～新たなガイドラインを高齢心房細動治療に活かす～ . 大村市循環器疾患Webセミナー . 大村, 2024.6.18.

5）於久幸治.
　特別講演；心臓と肝臓の変化からみる心不全. 脂質代謝WEBカンファレンス. Web, 2024.8.5.

6）於久幸治.
　講演Ⅱ；心機能低下を伴うSevereASに対するTAVIの効果. 高齢者の心不全と心臓弁膜症を考える会. 大村, 2024.12.6.

＜司会＞

1）於久幸治.
　第８回長崎循環器卒後セミナー . 長崎, 2024.6.15.

２）於久幸治.
ディスカッション；各職種から考える心臓病患者の地域連携について. 長崎の循環器診療の展望を考える～地域で連携して心臓病患者を診る～. 長崎, 2024.10.10.

G：その他

＜コメンテーター＞

１）深江貴芸.
一般演題（医師）1 ；LMT Complex. 第36回日本心血管インターベンション治療学会 九州・沖縄地方会. 福岡, 2024.1.12.

２）於久幸治.
CTO Course Session 2. 近畿心血管治療ジョイントライブ（KCJL）2024. 大阪, 2024.4.11.

３）深江貴芸.
Live2（Coronary）. 近畿心血管治療ジョイントライブ（KCJL）2024. 大阪, 2024.4.12.

４）松尾崇史.
一般演題（医師）9 ；LMT. 第37回日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会. 佐賀, 2024.8.23.

５）深江貴芸.
一般演題（医師）5 ；集学的治療・ショック３／その他. 第37回日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会. 佐賀, 2024.8.23.

６）於久幸治.
ディスカッション；①心房細動に介入して心不全を治療しよう／②非薬物療法から心不全診療を考える. 循環器疾患Joint Conference講演会. Web, 2024.10.8.

７）福田侑甫.
みんなでPCIの治療を身につけよう～会場と、もう一つの空間：OpenCath ARIA ～応用編. ARIA（Alliance for Revolution and Interventional Cardiology Advancement）2024. 福岡, 2024.11.21.

＜審査員＞

１）於久幸治.
Young Investigator's Award（VIA）, 第37回日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会. 佐賀, 2024.8.23.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

感染症内科

責任者　近藤 晃

診療科の特色

当院は、旧大村海軍病院長 泰山弘道 著「長崎原爆の記録」に記されているように、戦後まもなくペニシリン治療を導入したことで、日本国内における感染症治療の先駆けとなった病院です。平成26年４月１日付で、感染症内科は院内の診療科の一つとして標榜されました。感染症内科はICDの医師で構成され、ICT/ASTチームとして薬剤師、臨床検査技師、看護師も参加し、毎週、コンサルテーション症例、許可制抗菌薬や届出制抗菌薬の長期投与症例、血液培養陽性症例のカンファレンスを行っています。また、各診療科で診断・治療に難渋する感染症症例のコンサルテーションを受けています。依頼された症例を主治医と協同して併診し、エビデンスに基づいた診療を行うよう心がけています。新型コロナウイルス感染症に関しては、主にクラスター対応や隔離対応・治療方針に関してのコンサルテーションを中心に対応を行なっております。また、MDRAを始めとする薬剤耐性菌などの院内感染対策に主導的に取り組んでいます。とくに今年はCREの院内アウトブレイクに対しての介入を行い、当該科当該病棟と緊密に協議を行いながらアウトブレイクの鎮静化およびその後の継続的な感染対策への寄与を行いました。その他、地域の医療機関や施設などへの訪問や相互評価を行ない、保健所等との行政機関との連携を図りながら、感染症の知識共有や啓蒙啓発活動も担っています。

今後一層の感染症診療の強化、院内感染対策、抗菌薬適正使用の推進、さらに研修医・レジデント・コメディカルへの教育も積極的に行うよう努力していき、感染症専門医の育成にも取り組んでいきたいと考えています。

【活動】

1．入院患者を対象とした感染症診療のコンサルテーション
　依頼に応じてラウンドし、週１回カンファレンスで治療方針の検討を行っている。
2．ICT活動として、血液培養陽性症例に対して、適切な治療計画がなされているかカンファレンスで検討。
3．AST活動として、抗菌薬の適正使用へ向けての評価・助言・介入の活動。
4．近隣の医療機関などとの感染対策向上への医療連携。
5．治験、研究への取り組み
　呼吸器内科と共同し、感染症治療薬の治験や臨床研究への取り組み。
6．各種院内アウトブレイクへの介入。

研修・教育

カンファレンス

名　　称	年	開催頻度
感染症内科カンファレンス	48回	１回/週

AST活動

項　　目	数
コンサルテーション	55例
血培陽性者	703例
抗MRSA・広域抗菌約届出制薬剤	318件
抗MRSA許可制薬剤＋カルバペネム系	129件
その他広域抗菌薬（TAZ/PIPC＋CFPM）	596件

〈届出・許可抗菌薬長期使用者　検討数〉

届出薬	318件
許可薬	34件
カルバペネム系抗菌薬	95件
TAZ/PIPC　5日以上使用	441件
CFPM	155件

〈指定抗菌薬使用届　提出件数〉

・抗MRSA薬使用届：476件

・抗MRSA薬使用届（許可制薬剤）：28件

・カルバペネム系抗菌薬使用届：120件

〈血培陽性者検討数〉　703件

診療科	件数	診療科	件数
総合診療科	213	精神科	3
肝臓内科	87	呼吸器内科	12
外科	66	消化管内科	18
血液内科	62	代謝内科	8
循環器内科	14	整形外科	14
心臓血管外科	7	形成外科	21
呼吸器外科	1	産婦人科	13
耳鼻咽喉科	5	脳神経外科	36
腎臓内科	35	神経内科	16
泌尿器科	33	リウマチ科	4
皮膚科	0	救急科	7
乳腺外科	4	内科当直	1
小児科	23		

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

小児科

責任者　本村 秀樹・青木 幹弘

診療科の特色

長崎県県央地区の中核病院ならびに離島医療における親元病院として位置づけられています。胎児期から思春期までの子どもたちに対応しています。受け入れ範囲はヘリコプター搬送により島原半島を含めた県央、県北・佐賀県西部、五島、対馬、壱岐などの離島など広範囲にわたっています。

－NICU－

長崎県総合周産期センターの指定をうけ、超低体重出生児の対応を含めた高度な周産期医療を行っています。病床数はNICU ９床で対応しています。NICUの入院数は2022年131人、2023年126人でした。2024年116人でした。2024年に「baby friendly NICU」の認定を受けています。

－一般小児科－

24時間・365日体制で一次から三次医療まで対応しています。この３年間の一般小児科入院年間入院数は2022年982人、2023年1220人、2024年1174人でした。また、救急外来受診者は2022年1445人（入院254人）、2023年1858人（入院370人）、2024年1790人（入院353人）でした。診療分野は、血液・腫瘍疾患以外の疾患にほぼ対応しています。

－専門診療－

てんかん診療に関しては2014年からてんかんセンターとして機能しており、長崎県てんかんセンターに指定されました。ビデオモニタリングシステム、SPECTなど術前評価を行い、手術を行っています。脳神経外科（てんかん外科）、理学療法士と協力し、周術期管理から発達支援を行っています。2024年の小児のてんかん外科手術は21人に行い、その平均年齢は６歳９か月でした。沖縄や静岡など全国から来院されています。小児循環器領域では小児心臓カテーテル検査にも対応しています。また、胎児期から心疾患が疑われる場合は産婦人科の先生と一緒に出生後の経過を予測し、分娩施設の選択を行っています。乳児血管腫のβ遮断薬療法について形成外科の先生とクリニカルパスを導入し一緒に管理しています。

－専門医育成－

日本専門医機構から小児科専攻医研修基幹施設ならびに小児科専攻医研修支援施設に認定されています。また、日本周産期・新生児医学会研修基幹施設、日本小児循環器学会研修施設、日本小児神経学会研修基幹施設にも認定されており、若手医師の育成・指導にも力を入れています。小児科専門医育成については当院のプログラムで過去６人の小児科専門医を育成しています。

入院診療実績

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	（再掲）死亡	
10,560人	28.9人	1,174人	1,175人	１人	9.0日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
649件	94.3％	1,405件	140.6％		

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
605人(51.4%)	167人(14.2%)	26人(2.2%)	13人(1.1%)	5人(0.4%)	39人(3.3%)

島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
52人(4.4%)	45人(3.8%)	35人(3.0%)	7人(0.6%)		13人(1.1%)

平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町
2人(0.2%)	1人(0.1%)	4人(0.3%)	3人(0.3%)		1人(0.1%)

壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外
4人(0.3%)	8人(0.7%)	34人(2.9%)	114人(9.7%)

合計
1,178人

入院主要10疾患主要疾患別臨床統計ならびに治療成績

疾患名	ICD-10コード	症例数	死亡退院数
1）喘息・喘息性気管支炎	J450, J451, J458, J459, J46	38	0
2）気管支炎	J20	98	0
3）肺炎	J15	87	1
4）RSウイルス感染症	B348, J205, J210, J121	37	0
5）川崎病	M303	34	0
6）てんかん	G40, G40-G409	198	0
7）心室中隔/心房中隔欠損症	Q210, Q211	4	0
8）アナフィラキシー	T780, T781	14	0
9）超低出生体重児	P070	12	0
10）極低体重出生児	P071a	16	0

主要検査件数

検査	症例数
1）脳波ビデオモニタリング	225
2）低身長精査	13
3）心臓カテーテル検査	5

特殊検査ならびに治療成績

特殊治療法	症例数	死亡退院数
人工換気（NICU）	23	0
サーファクタント補充療法	20	0
PDAに関する薬物療法	10	0
インダシン	5	0
イブリーフ	5	0
低体温療法	5	0
NO吸入療法	0	0
腸重積整復	2	0

研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
一般小児病棟カンファレンス	毎週月曜　16時から
NICUカンファレンス	毎週金曜　15時から
抄読会	毎週木曜　８時30分から
NICU・一般合同カンファレンス	第３木曜日　８時30分から

学会・論文など

1）原著論文　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数		1		

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

2）学会発表　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	1	7	2	3

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

3）学術講演　　**（件数）**

種類	医師会関連	研究会		
件数		2		

4）学会座長　　**（件数）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数				1

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

研究業績

論　文　発　表

B：和文

B-b：和文総説

1）薬剤抵抗性てんかんに対する新しいアプローチ.
本田涼子.
脳と発達, 2024；56(1)：18-23.

学会・研究会・講演

A：国際学会, 国際会議

A-b1：シンポジウム, パネルディスカッション等

＜シンポジウム＞

1）Is surgical treatment effective for patients with developmental and epileptic encephalopathy?
Honda R,Ono T, Toda K, Ikeda N, Nishiguchi N, Yasu T, Baba H.
the 23rd annual meeting of infantile seizure society. 名古屋, 2024.6.1.

B：国内学会

B-b1：シンポジウム, パネルディスカッション等.

＜パネルディスカッション＞

1）納涼離断はデバイス治療よりも先にけんとうするべき.
本田涼子、池田憲呼、西口奈菜子、佐藤和明、小野智憲.
ディベート 5 . 第57回日本てんかん学会学術集会. 福岡, 2024.9.13.

＜シンポジウム＞

1）移行期医療の現状と今後.
本田涼子.
第57回日本てんかん学会学術集会. 福岡, 2024.9.12.

2）VNS療法を患者や家族に受け入れてもらうには.
本田涼子.
第57回日本てんかん学会学術集会. 福岡, 2024.9.12.

3）併存症を考慮した治療と成人期を見据えた対応.
本田涼子.
第57回日本てんかん学会学術集会. 福岡, 2024.9.13.

B-b2：一般演題

＜ポスター＞

1）６か月前のCOVID-19罹患歴から診断に苦慮したMIS-C症例.
石橋信弘、山口倫人、山田洸夢、石橋洋子、本村秀樹.
第127回日本小児科学会学術集会. 福岡, 2024.4.20.

2）抗血栓療法中の乳歯自然脱落により輸血を要したFontan術後症例.
山田洸夢、本村秀樹、安忠輝、本田涼子、石橋洋子、石橋信弘、山口倫人.
血液腫瘍. 第127回日本小児科学会学術集会. 福岡, 2024.4.21.

3）当院で経験したドクターヘリ搬送を要した小児循環器疾患の検討.
山田洸夢、石橋信弘、石橋洋子、本村秀樹.
第60回日本小児循環器学会学術集会. 福岡, 2024.7.12.

4）Wernicke野をてんかん原性領域に含む薬剤抵抗性てんかんに対する焦点切除術の切除範囲も苦慮した一例.
谷口裕太郎、西口奈菜子、石川太郎、池田憲呼、本田涼子、佐藤和明、後藤純寛、小野智憲、本村秀樹.
小児、生育医療. 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.18.

＜口演＞

1）イネ科花粉によるアナフィラキシーが疑われた中学生.
谷口裕太郎、石橋信弘、石川太郎、山田洸夢、池田憲呼、西口奈菜子、石橋洋子、本田涼子、本村秀樹.
session ３. 第221回日本小児科学会長崎地方会. 佐賀, 2024.7.21.

2）心疾患のない新生児心室頻拍の症例.
石橋信弘、山田洸夢、石橋洋子、本村秀樹.
第222回日本小児科学会長崎地方会. 長崎, 2024.12.15.

3）病型分類、術式によらずてんかん手術は術後 1 年間の発達を好転させる可能性がある.
西口奈菜子、本田涼子、小野智憲、池田憲呼、安忠輝.
てんかん 1 . 第66回日本小児神経学会学術集会. 名古屋, 2024.5.30.

B-c：研究会発表

＜口演＞

1 ）新生児のNSVTとの鑑別.
石橋信弘、山田洸夢、石橋洋子、本村秀樹.
第36回九州不整脈研究会. 佐賀, 2024.11.10.

＜ワークショップ＞

1 ）小児のてんかん発作症候学.
本田涼子.
第54回小児神経学セミナー . 大阪, 2024.11.2.

D，F，G：学術講演他

D：学会・研究会開催

1 ）会長.
本村秀樹.
第22回九州川崎病研究会. 大村, 2024.5.25.

F-b：学会・研究会座長［国内学会］

＜座長＞

1 ）急性期治療及び遠隔期の川崎病における心血管機能.
豊野学朋.
特別講演. 第22回九州川崎病研究会. 大村, 2024.5.25.

G：その他

＜講演＞

1 ）けいれん.
石橋信弘.
小児救急市民公開フォーラムin福岡. 福岡, 2024.5.19.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

外科

責任者　黒木 保・南 恵樹・竹下 浩明・北里 周・米田 晃・釘山 統太

診療科の特色

高い知識と技術の修得に努め、各科と綿密に連携をとり、患者に優しい治療を目指している。具体的には、1）安全・確実な手術　2）低侵襲治療の提供　3）先端医療の提供　4）診療成績の公表　5）かかりつけ医との密な連携　6）臨床研修指定病院としての初期／後期臨床研修の教育、外科医師教育　7）臨床研究の推進である。

入院診療実績

外科

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	（再掲）死亡	
10,486人	28.7人	748人	816人	14人	13.4日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
200件	82.9%	933件	325.1%		

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
378人(46.6%)	168人(20.7%)	16人(2.0%)	19人(2.3%)	3人(0.4%)	59人(7.3%)

島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
40人(4.9%)	57人(7.0%)	11人(1.4%)	2人(0.2%)		14人(1.7%)

平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町
	1人(0.1%)	10人(1.2%)	1人(0.1%)		1人(0.1%)

壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外
1人(0.2%)	4人(0.5%)	14人(1.7%)	11人(1.4%)

合計
811人

乳腺内分泌外科

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	（再掲）死亡	
1,850人	5.1人	297人	300人	3人	6.2日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
230件	94.7%	399件	163.5%		

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
130人(42.9%)	92人(30.4%)	4人(1.3%)	12人(4.0%)	2人(0.7%)	22人(7.3%)
島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
14人(4.6%)	16人(5.3%)		1人(0.3%)		

平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町
		3人(1.0%)			

壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外
		5人(1.7%)	2人(0.7%)

合計
303人

入院主要10疾患主要疾患別臨床統計ならびに治療成績

疾患名	ICD-10コード	症例数	死亡退院数
食道癌	C15	16	0
胃癌	C16	54	1
結腸癌	C18	67	1
直腸癌	C20	63	0
肝癌	C 22	31	0
胆道癌	C 24	7	0
膵癌	C 25	20	0
乳癌	C 50	218	2
胆のう結石、胆のう炎	K 80	118	1
鼠経ヘルニア	K 40	55	0

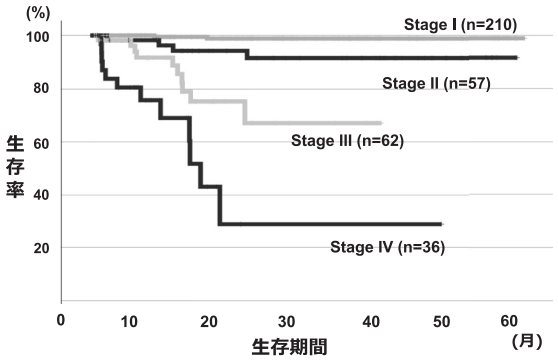
主要10手術方法臨床統計ならびに治療成績

主要手術	症例数
胸部食道切除再建	9
甲状腺・副甲状腺手術	57
乳腺手術	152
幽門側胃切除術	26
胃全摘術	13
噴門側胃切除術	3
結腸切除術	66
直腸切除術	47
肝部分切除術	21
肝区域切除・肝葉切除術	23
胆のう摘出術	153
膵頭十二指腸切除術	34
膵全摘術	0

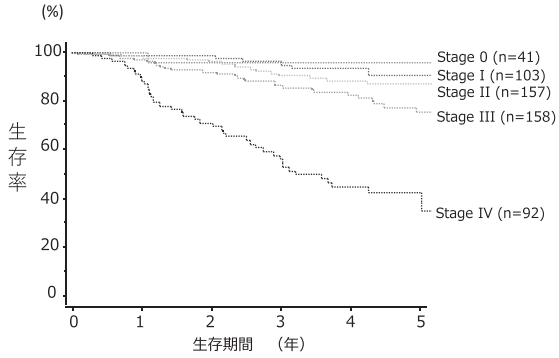
手術件数と麻酔

総手術数	全身麻酔	腰椎麻酔・硬膜外麻酔	静脈麻酔	局所麻酔	緊急手術	待機手術
1,067	914	0	0	153	139	928

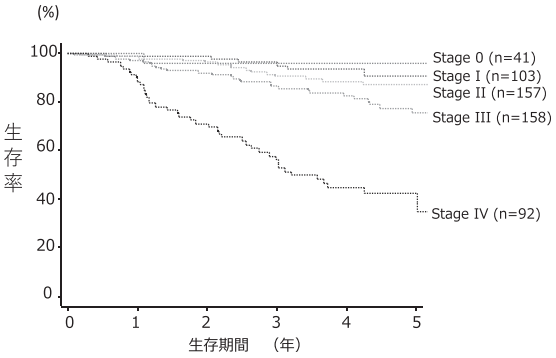
胃癌全生存率（2016 ～ 2024）



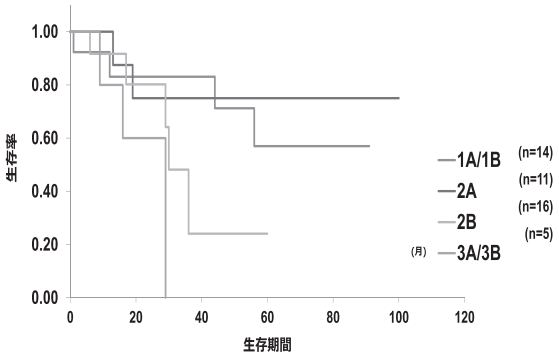
大腸癌全生存率（2016 ～ 2023）



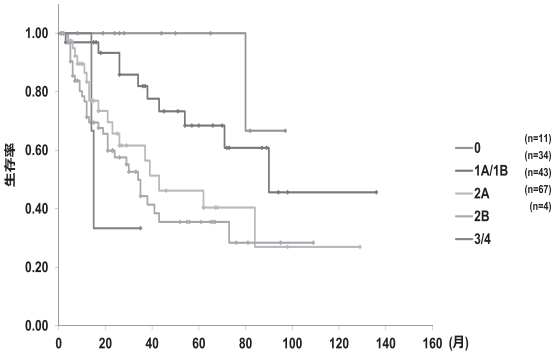
肝細胞癌全生存率（2003 ～ 2024）



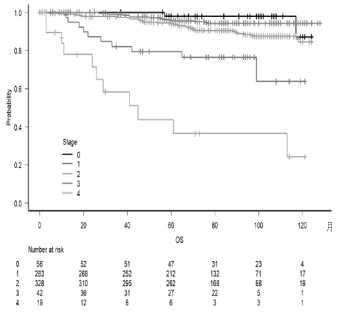
遠位胆管癌全生存率（2016 ～ 2024）



膵癌全生存率（2013 ～ 2024）



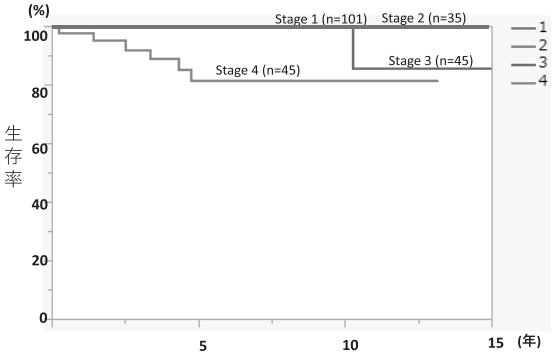
乳癌全生存率（2014.01 ～ 2019.12）



n=728
観察期間の中央値：77カ月

Stage	5年生存率
0	98.0
I	95.6
II	94.1
III	78.5
IV	43.8

甲状腺癌全生存率（2000 ～ 2022）



研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
術前カンファランス	1回/週
術後カンファランス	1回/週
新患カンファランス	1回/週
抄読会・勉強会	不定期
カルテ廻診	1回/週

治験、共同臨床研究（症例登録する研究）

競争的研究費一覧

No.	項目（財源別） ①文部科学省科学研究費、②科学研究費助成事業（科学研究費補助金）、③科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）、④科学技術振興機構科学研究費、⑤その他文部科学省関連研究費、⑥厚生労働科学研究費、⑦国立高度専門医療センター等研究費、⑧その他厚生労働省関連研究費、⑨日本医療研究開発機構研究費、⑩その他財団等からの研究費、⑪民間セクターからの寄附金	研究課題名	研究者名	研究事業名 （依頼業者名）	主任 分担	新規 継続
1	⑩その他財団等からの研究費	進行大腸癌におけるオキサリプラチン使用による肝類洞閉塞症候群の臨床的評価とバイオマーカーの関連に関する単施設前向きコホート研究	福井彩恵子	NHO PI育成	主任	新規

学会・論文など

1）原著論文　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	8（ 18 ）	0	2（ 0 ）	0

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

2）学会発表　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	1（ 1 ）	28（ 8 ）	9	3

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

3）学術講演　　**（件数）**

種類	国内			
件数	4			

4）学会座長　　**（件数）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	5	2	1

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

研究業績

論　文　発　表

A：英文

A-a1：英文原著

1）Development of an estimation formula for preparation time of anesthesia induction and surgery accounting for clinical department factors in optimal surgery schedule management.
Hara K, Tachibana R, Kaneko S, Yamaguchi M, Fujioka M, Kuroki T, Honda S, Sawai T.
Sci Rep 2024；14(1)：25185. doi：10.1038/s41598-024-75631-7.

2）Surgical risk and cause of death among octogenarian and nonagenarian patients with colorectal cancer：a Japanese multicenter study.
Hashimoto S, Nonaka T, Tominaga T, Shiraishi T, Noda K, Ono R, Hisanaga M, Takeshita H, Fukuoka H, Fukuoka KT, Tanaka K, Kunizaki M, Sawai T, Matsumoto K.
Jpn J Clin Oncol 2024；hyae171. doi：10.1093/jjco/hyae171. Online ahead of print. .

論　文　発　表

A：英文

A-a1：英文原著

1）Development of an estimation formula for preparation time of anesthesia induction and surgery accounting for clinical department factors in optimal surgery schedule management.
Hara K, Tachibana R, Kaneko S, Yamaguchi M, Fujioka M, Kuroki T, Honda S, Sawai T.
Sci Rep 2024；14(1)：25185. doi：10.1038/s41598-024-75631-7.

2）Surgical risk and cause of death among octogenarian and nonagenarian patients with colorectal cancer：a Japanese multicenter study.
Hashimoto S, Nonaka T, Tominaga T, Shiraishi T, Noda K, Ono R, Hisanaga M, Takeshita H, Fukuoka H, Fukuoka KT, Tanaka K, Kunizaki M, Sawai T, Matsumoto K.
Jpn J Clin Oncol 2024；hyae171. doi：10.1093/jjco/hyae171. Online ahead of print. .

3）Factors Affecting Nonfunctioning Small Pancreatic Neuroendocrine Neoplasms and Proposed New Treatment Strategies.
Hijioka S, Yamashige D, Esaki M, Honda G, Higuchi R, Masui T, Shimizu Y, Ohtsuka M, Kumamoto Y, Katanuma A, Gotohda N, Akita H, Unno M, Endo I, Yokoyama Y, Yamada S, Matsumoto I, Ohtsuka T, Hirano S, Yasuda H, Kawai M, Aoki T, Nakamura M, Hashimoto D, Rikiyama T, Horiguchi A, Fujii T, Mizuno S, Hanada K, Tani M, Hatori T, Ito T, Okuno M, Kagawa S, Tajima H, Ishii T, Sugimoto M, Onoe S, Takami H, Takada R, Miura T, Kurita Y, Kamei K, Mataki Y, Okazaki K, Takeyama Y, Yamaue H, Satoi S；Japan Pancreas Society Clinical Research Promotion Committee. Group (Corporate Authorship).
【Collaborators】Japan Pancreas Society Clinical Research Promotion Committee Group (Corporate Authorship)：Tsuchikawa T, Taniguchi T, Iseki M, Shimura M, Watanabe T, Gyoten K, Shimizu A, Maehira H, Eguchi H, Isayama H, Komoto I, Doi R, Furuse J, Okusaka T, Morizane C, Igarashi H, Kitano M, Kuroki T, Tanno S, Tsuji Y, Masamune A, Hirooka Y.
Clin Gastroenterol Hepatol 2024；22(7)：1416-1426.e5. doi：10.1016/j.cgh.2024.03.029. Epub 2024 Apr 13.

4）Comparison of robotic and laparoscopic approaches in short- and long-term outcomes of lateral pelvic lymph node dissection for advanced rectal cancer：a Japanese multicenter study.
Ishii M, Tominaga T, Nonaka T, Takamura Y, Oishi K, Hashimoto S, Shiraishi T, Noda K, Ono R, Hisanaga M, Takeshita H, Fukuoka H, Oyama S, Sawai T, Matsumoto K.
Langenbecks Arch Surg 2024；410(1)：18. doi：10.1007/s00423-024-03596-2.

5）Inferior pancreaticoduodenal artery early ligation can reduce blood loss during pancreaticoduodenectomy.
Kuroki T, Okamoto T, Kitasato A, Ikeda T, Fukui S, Miyoshi T, Yoneda A, Takeshita H.
Acta Medica Nagasakiensia 2024；67(2)：81-84. .

6）Prognostic value of lymph node distribution after laparoscopic colectomy with Japanese D3 dissection.
Noda K, Tominaga T, Nonaka T, Ono R, Oishi K, Takamura Y, Ishii M, Hisanaga M, Takeshita H, Oyma S, Ishimaru K, Nagayasu T.
Langenbecks Arch Surg 2024；409(1)：28. doi：10.1007/s00423-023-03222-7.

7）Laparoscopic colectomy for patients with poor American Society of Anesthesiology classifications.
Noda K, Nonaka T, Tominaga T, Takamura Y, Oishi K, Hashimoto S, Shiraishi T, Ono R, Ishii M, Hisanaga M, Takeshita H, Fukuoka H, Oyama S, Ishimaru K, Kunizaki M, Sawai T, Matsumoto K.
Asian J Endosc Surg 2024；17(4)：e13393. doi：10.1111/ases.13393.

8）Risk factors for reoperation within 30 days in laparoscopic colorectal cancer surgery：A Japanese multicenter study.
Oishi K, Tominaga T, Ono R, Noda K, Hashimoto S, Shiraishi T, Takamura Y, Nonaka T, Ishii M, Fukuoka H, Hisanaga M, Takeshita H, To K, Tanaka K, Sawai T, Nagayasu T.
Asian J Endosc Surg 2024；17(1)：e13257. doi：10.1111/ases.13257. Epub 2023 Nov 9.

9）Short-term outcomes of delta-shaped anastomosis versus functional end-to-end anastomosis using linear staplers for colon cancer.
Ono R, Tominaga T, Ishii M, Hisanaga M, Araki M, Sumida Y, Nonaka T, Hashimoto S, Shiraishi T, Noda K, Takeshita H, Fukuoka H, Oyama S, Ishimaru K, Sawai T, Matsumoto K.
Tech Coloproctol 2024；28(1)：131. doi：10.1007/s10151-024-03006-1.

10）Effect of endoscopic surgical skill qualification system for laparoscopic rectal surgery：Japanese multicenter analysis.
Ono R, Nonaka T, Tominaga T, Ishii M, Hisanaga M, Araki M, Sumida Y, Shiraishi T, Hashimoto S, Noda K, Takeshita H, Fukuoka H, To K, Tanaka K, Sawai T, Matsumoto K.
Surg Endosc 2024；doi：10.1007/s00464-024-11407-4. Online ahead of print..

11）Evaluation of the advantage of surgeons certified by the endoscopic surgical skill qualification system participating in laparoscopic low anterior rectal resection.
Sawada N, Akagi T, Shimomura M, Todate Y, Nagakari K, Takeshita H, Maruyama S, Takata M, Ichikawa N, Hida K, Iijima H, Yamaguchi S,Taketomi A,Naitoh T,Japan Soc Laparoscopic Colorectal.
Ann Gastroent Surg 2023；8(3)：464-470. doi：10.1002/ags3.12763. eCollection 2024 May.

12）Short- and Long-term Outcomes After Colonic Stent Insertion as a Bridge to Surgery in Elderly Colorectal Cancer Patients.
Shiraishi T, Tominaga T, Ono R, Noda K, Hashimoto S, Oishi K, Takamura Y, Nonaka T, Hisanaga M, Ishii M, Takeshita H, To K, Ishimaru K, Sawai T, Nagayasu T.
Anticancer Res 2024；44(4)：1637-1643. doi：10.21873/anticanres.16962.

13）Effect of the lymphocyte-to-monocyte ratio on the prognosis of patients with obstructive colorectal cancer with a colonic stent：a retrospective multicenter study in Japan.
Shiraishi T, Shiraishi T, Tominaga T, Nonaka T, Takamura Y, Oishi K, Hashimoto S, Noda K, Ono R, Hisanaga M, Takeshita H, Ishii M, Oyama S, Ishimaru K, Kunizaki M, Sawai T, Matsumoto K.
Surg Today 2024；doi：10.1007/s00595-024-02875-1. Online ahead of print.

14）The C-reactive protein-albumin-lymphocyte (CALLY) index is a useful predictor of postoperative complications in patients with a colonic stent for obstructive colorectal cancer：a Japanese multicenter study.
Shiraishi T, Nonaka T, Tominaga T, Takamura Y, Oishi K, Hashimoto S, Noda K, Ono R, Hisanaga M, Takeshita H, Ishii M, Oyama S, Ishimaru K, Kunizaki M, Sawai T, Matsumoto K.
Surg Today 2024；doi：10.1007/s00595-024-02924-9. Online ahead of print.

15）Three Molecular Developmental Pathways of Remnant Pancreatic Cancer after Resection：A Nationwide Project Study of Japan Pancreas Society.
Suzuki S, Omori Y, Ono Y, Hirose K, Itoh T, Karasaki H, Shimoda M, Nagakawa Y, Higuchi R, Endo I, Rikiyama T, Unno M, Fujii T, Sunagawa Y, Eguchi H, Sasanuma H, Akahori T, Okano K, Tani M, Hirano S, Shimizu Y, Kitago M, Mizuno S, Yamamoto T, Furukawa M, Ohtsuka M, Sugimoto M, Matsushita A, Hakamada K, Igarashi H, Kuroki T, Tanno S, Tsuji Y, Masamune A, Mizumoto K, Hirooka Y, Yamaue H, Okazaki K, Satoi S, Takeyama Y, Mizukami Y, Furukawa T.
Ann Surg 2024；doi：10.1097/SLA.0000000000006444. Online ahead of print.

16）Impact of institutional volume on short- and long-term outcomes after laparoscopic colectomy.
Takamura Y, Tominaga T, Nonaka T, Oishi K, Noda K, Hashimoto S, Shiraishi T, Ono R, Hisanaga M, Takeshita H, Ishii M, Fukuoka H, To K, Tanaka K, Sawai T, Nagayasu T.
Asian J Endosc Surg 2024；17(2)：e13295. First published：27 February 2024.

17）Correlations of age with clinicopathological features, perioperative outcomes and the prognosis in patients with colorectal cancer：a Japanese multicenter study.
Tominaga T, Nonaka T, Hashimoto S, Shiraishi T, Noda K, Hisanaga M, Takeshita H, Fukuoka H, Sawai T, Nagayasu T.
Surg Today 2024；54(4)：310-316. Epub 2023 Jul 14.

18）Utility of Transanal Tube for Preventing Severe Anastomotic Leakage Following Low Anterior Resection for Patients With Diverting Stoma.
Tominaga T,Nonaka T, Fukuda A, Moriyama M, Oyama S, Ishii M, Sumida Y, Takeshita H, Hisanaga M, Fukuoka H, Tou K, Tanaka K, Sawai T, Nagayasu T.
Int Surg 2024；107(3)：120–129. https：//doi.org/10.9738/INTSURG-D-22-00002.1.

19）Risk factors for pulmonary complications after colorectal cancer surgery：a Japanese multicenter study.
Tominaga T, Nonaka T, Takamura Y, Oishi K, Hashimoto S, Shiraishi T, Noda K, Ono R, Ishii M, Hisanaga M, Takeshita H, Fukuoka H, Oyama S, Ishimaru K, Kunizaki M, Sawai T, Matsumoto K.
Int J Colorectal Dis 2024；39(1)：76. doi：10.1007/s00384-024-04652-5.

20）Quality-Adjusted Survival in Patients with Recurrence of Breast Cancer Diagnosed by Asymptomatic or Symptomatic Opportunities.
Yamanouchi K, Maeda S.
Kurume Med J 2024；69(3.4)：175-184. doi：10.2739/kurumemedj.MS6934015. Epub 2024 Jan 16.

21）Short-term outcomes after laparoscopic colorectal cancer surgery in patients over 90 years old：a Japanese multicenter study.
Yamashita M, Tominaga T, Nonaka T, Hisanaga M, Takeshita H, Fukuoka H, To K, Tanaka K, Sawai T, Nagayasu T.
BMC Surg 2024；24(1)：2. doi：10.1186/s12893-023-02298-8.

22）Prognostic value of systemic inflammation score in patients with esophageal cancer.
Yoneda A, Ogata R, Ryu S, Yoshino K, Fukui S, Kugiyama T, Kitasato A, Sugiyama N, Takeshita H, Minami S, Kuroki T.
Ann Med Surg (Lond) 2024；86(7)：3852-3855. doi：10.1097/MS9.0000000000002157. eCollection 2024 Jul.

A-a2：英文症例報告

1）A Case of 5-Fluorouracil-Induced Hyperammonemia and Lactic Acidosis Successfully Treated With Continuous Hemodiafiltration Dialysis.
Asano T, Yamada N, Nakamichi C, Miyoshi T, Takeshita H.
Cureus 2024；16(10)：e72536. doi：10.7759/cureus.72536. eCollection 2024 Oct.

2）Human Epidermal Growth Factor Receptor Type 2 (HER2)-Positive Metastatic Breast Cancer With HER2-Negative Conversion：A Case Report and Treatment With Cyclin-Dependent Kinase (CDK) 4/6 Inhibitor for the Luminal Type.
Funakushi R, Kuba S, Morita M, Akashi M, Eguchi S.
Cureus 2024；16(9)：e69771. doi：10.7759/cureus.69771. eCollection 2024 Sep.

3）Primary Malignant Melanoma of the Esophagus Treated with Surgical Resection at an Early Stage.
Yoneda A, Ogata R, Ryu S, Yoshino K, Fukui S, Ikeda T, Kitasato A, Sugiyama N, Takeshita H, Minami S, Ito M, Kuroki T.
Case Rep Gastroenterol 2024；18(1)：189-194. doi：10.1159/000538161. eCollection 2024 Jan-Dec.

4）膵壊死,胃壊死を伴った特発性脾梗塞の1例.
門田優太、釘山統太、吉野恭平、岡本辰哉、福井彩恵子、池田貴裕、米田晃、北里周、竹下弘明、南恵樹、三原裕美、三浦史郎、黒木保.
長崎医学会雑誌 2024；99(1)：25-29.

B：和文

B-b：和文総説

1）【外科医の働き方改革を考える】働き方改革実現に向けた具体的な取り組み　特定行為研修修了看護師　診療看護師（NP）の役割と展望.
中原未智、米田晃、福井彩恵子、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
手術 2024；78(1)：65-70.

2）【十二指腸・小腸疾患アトラス】腫瘍,腫瘍様病変　粘膜下腫瘍/粘膜下腫瘍様病変　神経内分泌腫瘍(NEN)：十二指腸乳頭部/副乳頭部.
黒木保、釘山統太、福井彩恵子、北里周、佐伯哲、三浦史郎.
消化器内視鏡 2024；36(4)：510-511.

学会・研究会・講演

A：国際学会, 国際会議

A-b2：一般演題

＜publication only＞

1）Treatment Outcomes and Survival of Breast Cancer Patients Aged 75 and Older:A Comparative Study Using Propensity Score-Adjusted Analysis.
Maeda S, Sugiyama N, Yoneda A, Kitasato A, Takeshita H, Minami S, Kurok T.
2024 American Society of Clinical Oncology (ASCO) Annual Meeting. Chicago, USA, 2024.05.23.

2）Sentinel Lymph Node Biopsy in Clinical T3-4c Breast Cancer: A Retrospective Multicenter Cohort Study.
Yasuaki Sagara, Sayaka Kuba, Hiroshi Yano, Shigeto Maeda, Takehiko Sakai, Yasuyuki Kojima, Masaya Hattori, Sota Asaga, Eriko Tokunaga, Toshihiko Shien, Hiroko Bando, Keisei Anan, Nobutaka Iwakuma, Miki Yamaguchi, Michiko Harao, Masahiro Oikawa, Takafumi Sangai, Masato Ishitobi, Takahiro Nakayama, Naoki Hayashi.
ESMO Congress 2024. Barcelona, Spain, 2024.09.13-17.

B：国内学会

B-b1：シンポジウム, パネルディスカッション等

＜パネルディスカッション＞

1）進行直腸癌に対する適切な術前治療～ watch & wait を行った症例の検討～.
竹下浩明、福田明子、又野護、福井彩恵子、吉野恭平、森田道、釘山統太、米田晃、北里周、南恵樹、黒木保.
進行直腸癌に対する各施設の取り組み. 第49回日本大腸肛門病学会九州地方会. 福岡, 2024.9.21.

2）大腸癌腹膜播種に対する治療方針の検討.
久永真、野中隆、野田恵祐、富永哲郎、福岡秀敏、竹下浩明、黨和夫、田中賢治、國﨑真己.
第79回日本大腸肛門病学会学術集会. 横浜, 2024.11.29.

３）傍ストーマヘルニア、ストマ脱出に対するVASCS（Video Assisted SubCutaneous Surgery）による修復術.
竹下浩明、中村裕紀子、福田明子、又野護、福井彩恵子、吉野恭平、森田道、釘山統太、米田晃、北里周、南恵樹、黒木保.
ビデオパネルディスカッション２；われわれの手技：合併症低減に向けたストーマ造設手技と合併症に対する外科的対応（主に緊急手術時、傍ストーマヘルニア、ストーマ脱）. 第79回日本大腸肛門病学会学術集会. 横浜, 2024.11.29.

＜シンポジウム＞

１）誰もが健全に活躍するために～研修医の意識からみた働き方改革の必要性～ .
福田明子、竹下浩明、又野護、福井彩恵子、吉野恭平、松本理宗、釘山統太、森田道、米田晃、北里周、南恵樹、黒木保、田川努.
臓器横断シンポジウム２；低侵襲手術における女性外科医の活躍. 第34回九州内視鏡・ロボット外科手術研究会. 長崎, 2024.10.5.

B-b2：一般演題

＜口演＞

１）悪性が否定できず腹腔鏡下に切除した肝血管腫の１例.
北里周、笠伸大郎、吉野恭平、福井彩恵子、釘山統太、米田晃、杉山望、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
症例報告・一般演題２. 第44回九州肝臓外科研究会学術集会. 福岡, 2024.1.27.

２）妊娠初期に発症した胆石性胆嚢炎に対して待機的に腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した１例.
笠伸大郎、釘山統太、織方良介、福井彩恵子、吉野恭平、米田晃、北里周、杉山望、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
一般演題. 第30回長崎内視鏡外科研究会. 長崎, 2024.2.10.

３）当科における胆嚢高度炎症例に対する胆嚢亜全摘術の検討.
福井彩恵子、織方良介、笠伸大郎、吉野恭平、釘山統太、米田晃、北里周、杉山望、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
一般演題１；第12回腹腔鏡下胆道手術研究会. 東京, 2024.2.17.

４）異物誤飲による消化管閉塞の１例.
橋本康史、北里周、織方良介、笠伸大郎、吉野恭平、福井彩恵子、釘山統太、米田晃、杉山望、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
第255回長崎外科集談会. 長崎, 2024.3.2.

５）腹腔鏡下手術を施行した盲腸軸捻転症の１例.
松尾大輔、笠伸大郎、吉野恭平、竹下浩明、織方良介、福井彩恵子、釘山統太、米田晃、北里周、杉山望、南恵樹、黒木保.
第255回長崎外科集談会. 長崎, 2024.3.2.

６）妊娠中期に発症した胆石性胆嚢炎に対して腹腔鏡下胆 嚢摘出術を施行した３例.
平戸優樹、釘山統太、織方良介、笠伸大郎、福井彩恵子、吉野恭平、米田晃、北里周、杉山望、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
第255回長崎外科集談会. 長崎, 2024.3.2.

７）乳房全切除と腋窩リンパ節郭清後に後出血をきたし翌日に止血術と血腫除去術を施行した一例.
塩塚高史、南恵樹、杉山望、緒方良介、笠伸大郎、吉野恭平、釘山統太、北里周、竹下浩明、黒木保.
研修医セッション；内分泌外科. 第60回九州外科学会／第60回九州小児外科学会／第59回九州内分泌外科学会. 大分, 2024.3.8.

９）術前診断困難であった肝血管筋脂肪腫の一切除例.
橋本康史、北里周、織方良介、笠伸大郎、吉野恭平、福井彩恵子、釘山統太、米田晃、杉山望、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
研修医セッション；肝胆膵, 第60回九州外科学会／第60回九州小児外科学会／第59回九州内分泌外科学会. 大分, 2024.3.8.

10）膵・胆管合流異常に合併したBillNとIPNBの一例.
古賀潤紀、釘山統太、笠伸大郎、吉野恭平、福井彩恵子、米田晃、北里周、杉山望、竹下浩明、南恵樹、三浦史郎、黒木保.
研修医セッション；肝胆膵. 第60回九州外科学会／第60回九州小児外科学会／第59回九州内分泌外科学会. 大分, 2024.3.8.

11）甲状腺手術における術後出血を早期に発見するための工夫.
野々村美香、南恵樹、杉山望、織方良介、笠伸大郎、吉野恭平、釘山統太、北里周、竹下浩明、黒木保.
研修医セッション；内分泌外科. 第60回九州外科学会／第60回九州小児外科学会／第59回九州内分泌外科学会. 大分, 2024.3.8.

12）Highr-risk StageIIとlow-risk StageIII大腸癌患者のSurvival paradoxと補助療法の有用性.
野田恵佑、富永哲郎、石井光寿、久永真、野中隆、福岡秀敏、角田順久、竹下浩明、黨和夫、澤井照光、永安武.
第124回日本外科学会定期学術集会. 愛知, 2024.4.19.

13）徹底的な胃管の授動と胃管静脈吻合により食道癌術後縫合不全発生を限りなくゼロにできる.
米田晃、織方良介、笠伸大郎、吉野恭平、福井彩恵子、釘山統太、北里周、杉山望、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
サージカルフォーラム（38）；食道－周術期管理－１. 第124回日本外科学会定期学術集会. 愛知, 2024.4.19.

14）外科医と外科専属診療看護師（NP）の協働による持続可能な外科チーム医療の実現.
中原未智、米田晃、福井彩恵子、織方良介、笠伸大郎、吉野恭平、釘山統太、北里周、杉山望、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
わが国の資源で持続可能な外科診療を考える11；パートナーシップで目標達成を. 第124回日本外科学会定期学術集会. 愛知, 2024.4.20.

15）外科医の暗黙知は手術後予後を予測する－Visual Analogue Scale（VAS）の有用性－.
福井彩恵子、米田晃、織方良介、笠伸大郎、吉野恭平、釘山統太、北里周、竹下浩明、杉山望、南恵樹、黒木保.
サージカルフォーラム（68）；SDGs関連_技術革新. 第124回日本外科学会定期学術集会. 愛知, 2024.4.20.

16）Pancreaticoduodenectomy after steroid therapy for ampullary region carcinoma associated with IgG4-related sclerosing cholangitis and autoimmune pancreatitis: A case report.
Kugiyama T, Yoshino K, Fukui S, Kitasato A, Kuroki T.
Mini-Oral 13；Biliary 6. 第36回日本肝胆膵外科学会・学術集会. 広島, 2024.6.28.

17）傍人工肛門ヘルニア・人工肛門脱出に対する皮下鏡下の外科的治療（VASCS）.
竹下浩明、中村祐紀子、織方良介、笠伸大郎、福井彩恵子、吉野恭平、釘山統太、米田晃、北里周、黒木保.
一般演題008；大腸：ストマ１. 第79回日本消化器外科学会総会. 下関, 2024.7.17.

18）肝門部領域胆管癌に対する術前胆道ドレナージが手術および術後に与える影響.
釘山統太、織方良介、笠伸大郎、福井彩恵子、吉野恭平、米田晃、北里周、竹下浩明、黒木保.
一般演題018；胆道：悪性２. 第79回日本消化器外科学会総会. 下関, 2024.7.17.

19）High-risk StageIIとlow-risk StageIII大腸癌患者のSurvival paradoxと術後補助療法の有用.
野田恵佑、富永哲郎、野中隆、石井光寿、久永真、竹下浩明、黨和夫、田中賢治、澤井照光.
第79回日本消化器外科学会総会. 下関, 2024.7.17.

20）結腸・直腸癌に対するDST（Double stapling technique）吻合に対する縫合不全予防への取り組み.
山﨑翔斗、久永真、野中隆、竹下浩明、福岡秀敏、黨和夫、田中賢治、國﨑真己、荒木政人、角田順久.
第79回日本消化器外科学会総会. 下関, 2024.7.17.

21）横行結腸癌に対する横行結腸切除術と半結腸切除術の短期および長期成績の比較検討.
石井光寿、富永哲郎、野中隆、福岡秀敏、久永真、竹下浩明、黨和夫、田中賢治、澤井照光、永安武.
第79回日本消化器外科学会総会. 下関, 2024.7.17.

22）原発性空腸癌に対して腹腔鏡下にリンパ節郭清を伴う切除を行なった一例.
宇佐俊哉、竹下浩明、笠伸大郎、福井彩恵子、吉野恭平、釘山統太、米田晃、北里周、南恵樹、黒木保.
研修医セッション006；小腸３. 第79回日本消化器外科学会総会. 下関, 2024.7.18.

23）当科における腹腔鏡下噴門側胃切除後mSOFY法再建の治療成績.
米田晃、織方良介、笠伸大郎、吉野恭平、福井彩恵子、釘山統太、北里周、竹下浩明、黒木保.
一般演題242；胃・十二指腸：噴門側胃切除２. 第79回日本消化器外科学会総会. 下関, 2024.7.19.

24）当院における膵手術後の仮性動脈瘤の検討.
吉野恭平、釘山統太、福井彩恵子、北里周、織方良介、笠伸大郎、米田晃、杉山望、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
一般演題（口演）60；手術（合併症）. 第55回日本膵臓学会大会. 宇都宮, 2024.7.26.

25）急性虫垂炎として切除した虫垂子宮内膜症の一例.
小村隼平、米田晃、又野護、吉野恭平、福井彩恵子、福田明子、森田道、釘山統太、北里周、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
研修医発表；大腸・その他. 第124回日本消化器病学会九州支部例会. 鹿児島, 2024.11.15.

26）上腸間膜動脈症候群が原因と疑われる十二指腸腸管気腫を呈した１例.
彌重海、釘山統太、吉野恭平、又野護、福井彩恵子、福田明子、森田道、米田晃、北里周、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
研修医発表；胃・十二指腸１. 第124回日本消化器病学会九州支部例会. 鹿児島, 2024.11.15.

27）若年性大腸癌症例の検討.
福田明子、竹下浩明、又野護、福井彩恵子、吉野恭平、釘山統太、森田道、米田晃、北里周、南恵樹、黒木保.
一般演題（口演）94；若年性大腸癌１. 第86回日本臨床外科学会学術集会. 宇都宮, 2024.11.22.

28）正中腹壁ヘルニアに対する VASCS（video assisted subcutaneous surgery）によるonlay mesh修復術.
竹下浩明、福田明子、又野護、福井彩恵子、吉野恭平、米田晃、北里周、黒木保.
一般演題（口演）62；ヘルニア　腹壁１. 第37回日本内視鏡外科学会総会. 福岡, 2024.12.5.

29）腹腔鏡下に切除した成人小腸腸間膜リンパ管腫の１例.
米田晃、又野護、吉野恭平、福井彩恵子、福田明子、釘山統太、北里周、竹下浩明、黒木保.
ミニオーラル 116；小腸４. 第37回日本内視鏡外科学会総会. 福岡, 2024.12.6.

30）術前治療後の直腸癌に対するロボット支援下手術と腹腔鏡下手術の比較検討.
久永真、野中隆、富永哲郎、福岡秀敏、黨和夫、竹下浩明、田中賢治、小野李香、石井光寿、荒木政人、角田順久.
第37回日本内視鏡外科学会総会. 福岡, 2024.12.7.

31）ロボットおよび腹腔鏡手術による側方リンパ節郭清の短期・長期成績.
石井光寿、富永哲郎、野中隆、髙村祐磨、大石海道、橋本慎太郎、白石斗士雄、野田恵佑、小野李香、久永真、竹下浩明、福岡秀敏、小山正三朗、澤井照光、松本桂太郎.
第37回日本内視鏡外科学会総会. 福岡, 2024.12.7.

32）BMI25㎏ /㎡以上の結腸癌患者に対する腹腔鏡下結腸切除の開腹移行について.
土谷祐樹、杉本起一、小島豊、坂本一博、藤井善章、竹下浩明、赤木智徳、中嶋健太郎、中村隆俊、賀川義規、大沼忍、猪股雅史、山本聖一郎、内藤剛
第37回日本内視鏡外科学会総会. 福岡, 2024.12.7.

＜ポスター＞

１）消化器がん手術においてBody mass indexと大腰筋指数を組み合わせた術前低栄養評価と腹壁瘢痕ヘルニアの関連について.
吉野恭平、北里周、織方良介、笠伸大郎、福井彩恵子、釘山統太、米田晃、杉山望、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
ポスターセッション（58）；腹壁・ヘルニア－４. 第124回日本外科学会定期学術集会. 愛知, 2024.4.18.

２）胃切除後に膵液漏を合併するリスク因子の検討.
笠伸大郎、米田晃、織方良介、吉野恭平、福井彩恵子、釘山統太、北里周、杉山望、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
ポスターセッション（70）；胃-合併症－１. 第124回日本外科学会定期学術集会. 愛知, 2024.4.19.

３）Ｓ状結腸間膜腹膜垂を起源とする腸間膜脂肪腫の１例.
柴田直人、笠伸大郎、竹下浩明、織方良介、吉野恭平、福井彩恵子、釘山統太、米田晃、北里周、杉山望、南恵樹、黒木保.
研修医の発表セッション（ポスター）（１）；下部消化管－１. 第124回日本外科学会定期学術集会. 愛知, 2024.4.19.

４）傍ストーマヘルニア・ストーマ脱出に対するビデオ補助下皮下手術（VASCS）に関する検討.
竹下浩明、中村祐紀子、織方良介、笠伸大郎、福井彩恵子、吉野恭平、釘山統太、米田晃、北里周、黒木保.
ポスターセッション（78）；大腸－全般－１. 第124回日本外科学会定期学術集会. 愛知, 2024.4.19.

５）妊娠中期に発症した胆石性胆嚢炎に対して腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した２例.
平戸優樹、福井彩恵子、釘山統太、織方良介、笠伸大郎、吉野恭平、米田晃、北里周、杉山望、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
研修医の発表セッション（ポスター）（７）；肝胆膵－３. 第124回日本外科学会定期学術集会. 愛知, 2024.4.19.

６）大腸癌肝転移切除後の残肝再発に対する再肝切除の予後に関する検討.
北里周、織方良介、笠伸大郎、吉野恭平、福井彩恵子、釘山統太、米田晃、杉山望、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
ポスターセッション（94）；肝臓－転移性肝癌－１. 第124回日本外科学会定期学術集会. 愛知, 2024.4.19.

７）自験11例から見た乳腺扁平上皮癌に対する診療の検討.
杉山望、南恵樹、緒方良介、笠伸太郎、福井彩恵子、吉野恭平、釘山統太、米田晃、北里周、竹下浩明、黒木保.
ポスターセッション（172）；乳腺－病理・症例. 第124回日本外科学会定期学術集会. 愛知, 2024.4.20.

８）自験11例から見た乳腺扁平上皮癌に対する診療の検討.
杉山 望, 南 恵樹, 緒方良介, 笠 伸太郎, 福井彩恵子, 吉野恭平, 釘山統太, 米田 晃, 北里 周, 竹下浩明, 黒木 保.
ポスターセッション（172）；乳腺―病理・症例. 第124回日本外科学会定期学術集会. 愛知, 2024.4.20.

９）腰椎転移で発症し肝転移で診断された甲状腺濾胞癌の 1 例.
南恵樹.
ポスター 22；甲状腺　集学的治療. 第36回日本内分泌外科学会総会. 久留米, 2024.5.25.

10）自験11例から見た乳腺扁平上皮癌に対する診療の検討.
杉山望、南恵樹、織方良助、笠 伸太郎、福井彩恵子、吉野恭平、釘山統太、米田晃、北里周、竹下浩明、三浦史郎、黒木保.
e-Poster；薬物療法（転移・再発）：その他（薬物療法）. 第32回日本乳癌学会学術総会. 仙台, 2024.7.11.

11）男性腋窩副乳原発と考えられるアポクリン癌の１例.
南恵樹、杉山望、三原裕美、三浦史郎、伊東正博.
e-Poster；病理診断：特殊型. 第32回日本乳癌学会学術総会. 仙台, 2024.7.11.

12）膵癌術後に肝転移再発を認めるも集学的治療によりtumor freeとなり長期経過中の２例.
佐伯哲、黒木保、北里周.
一般演題（ポスター）11；膵癌（集学的治療）. 第55回日本膵臓学会大会. 宇都宮, 2024.7.26.

13）膵頭十二指腸切除術後の肝内結石に対し，開腹下経腸アプローチが奏効した２例.
釘山統太、福井彩恵子、吉野恭平、北里周、黒木保.
ポスター 19；腹腔鏡手術１. 第60回日本胆道学会学術集会. 名古屋, 2024.10.10.

＜ワークショップ＞

１）当科における早期胆嚢癌疑診例に対する腹腔鏡下胆嚢全層切除術の検討.
福井彩恵子、黒木保、釘山統太.
ワークショップ１；胆嚢病変の診断と至適術式の再考. 第60回日本胆道学会学術集会. 名古屋, 2024.10.10.

C，F：学術講演他

C-b：学術講演［国内］

＜講演＞

１）下部消化管に対する外科的治療と大腸癌に対する集学的治療.
竹下浩明.
講演１. 第58回長崎県診療情報管理研究会. 大村, 2024.1.27.

２）膵臓外科に魅せられて膵臓外科医にあこがれて.
黒木保.
膵疾患セミナー in Okinawa. 那覇, 2024.2.6.

３）大腸がんに対する集学的治療とダビンチによるロボット支援下手術.
竹下浩明.
講演１. 第９回長崎医療センター市民公開講座　がんフォーラム「大腸がん 最新の話題」. 大村, 2024.2.10.
４）当院では外科専属診療看護師が大活躍しています.
黒木保.
Nurse and clinical engineer in Kagoshima seminar（NACKS）. 鹿児島, 2024.6.15.

F-b：学会・研究会座長［国内学会］

＜コメンテーター＞

１）黒木保.
主題４；急性胆嚢炎に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術. 第12回腹腔鏡下胆道手術研究会. 東京, 2024.2.17.

＜座長＞

１）黒木保.
ポスターセッション（35）；胆道－良性－３. 第124回日本外科学会定期学術集会. 愛知, 2024.4.18.
２）黒木保.
専攻医発表；肝胆膵３. 第123回日本消化器病学会九州支部例会. 北九州, 2024.6.21.
３）黒木保.
一般演題143；膵臓：鏡視下１. 第79回日本消化器外科学会総会. 下関, 2024.7.18.
４）黒木保.
一般演題（口演）53；膵腫瘍１. 第55回日本膵臓学会大会. 宇都宮, 2024.7.26.
５）竹下浩明.
一般演題. 第22回Nagasaki Bowel Club. 長崎, 2024.10.10.
６）福田明子.
一般演題（口演）124；虫垂炎１. 第86回日本臨床外科学会学術集会. 宇都宮, 2024.11.23.
７）黒木保.
一般演題（口演）215；胆嚢　急性胆嚢炎の治療戦. 第37回日本内視鏡外科学会総会. 福岡, 2024.12.7.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

呼吸器外科

責任者　田川 努・朝重 耕一・松本 理宗

診療科の特色

①最新かつ最高レベルの呼吸器外科診療を提供する。
②早期肺癌は患者さんにやさしい胸腔鏡下手術を行う。
③進行肺癌の手術を安全かつ確実に行う。
④地域医療に貢献する。
⑤修練医師の教育を行い、外科治療のすばらしさ、やりがいを伝える。
⑥基幹病院として学会発表、論文などで国内外に発信していく。
⑦臨床試験に積極的に参加する。

入院診療実績

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	（再掲）死亡	
1,281人	3.5人	109人	123人		11.0日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
20件	55.3%	83件	218.4%		

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
57人(47.1%)	18人(14.9%)	3人(2.5%)	6人(5.0%)		8人(6.6%)

島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
13人(10.7%)	10人(8.3%)				1人(0.8%)

平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町
			1人(0.8%)		

壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外
		2人(1.7%)	2人(1.7%)

合計
121人

入院主要疾患別臨床統計ならびに治療成績

疾患名	ICD-10コード	症例数	胸腔鏡手術数	死亡退院数
1）肺癌	C34	71	69(97.2%)	0
2）転移性肺腫瘍	C78	13	12(92.3%)	0
3）気胸	J939	19	19(100%)	0
4）縦隔腫瘍	D383	8	8(100%)	0
5）膿胸	J869	5	5(100%)	0
6）肺良性	D143	4	4(100%)	0
7）肺感染症	A31.0, B44	1	1(100%)	0
8）その他		6	5(83.3%)	0

手術件数と麻酔

総手術数	全身麻酔	全身麻酔＋硬膜外麻酔	静脈麻酔	局所麻酔	緊急手術	待機手術
127	127	0	0	0	5	122

手術成績

	件数	在院死亡	1ヶ月以内死亡	再手術
待機手術	122	0	0	0
緊急手術	5	0	0	0

研修・教育

カンファレンス

名称	参加職種	参加人数（平均）	実施回数
手術前カンファレンス	呼吸器内科、放射線科、呼吸器外科	11	1回/週
手術後カンファレンス	呼吸器内科、放射線科、呼吸器外科	11	1回/週
呼吸器カンファレンス	呼吸器内科、放射線科、呼吸器外科	11	1回/週

治験、共同臨床研究（症例登録する研究）

NHOネットワーク共同研究

なし

厚生労働科学研究費補助金（難病・がん等の疾患分野の医療の実用化）

なし

日本学術振興会

なし

臨床研究

No.	分類NW共同研究（グループ名）多施設共同	研究課題名	本研究の主任研究者	当院分担研究者	同意文書あり/なし	当院実施症例数
1	長崎大学病院呼吸器外科	TLG-DS-19009「呼吸器外科術後神経障害性疼痛患者にミロガバリンを追加併用した際の有効性と安全性の検討」	永安　武	田川　努	あり	5

学会・論文など

1）原著論文　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	0（ 1 ）			

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

2）学会発表　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数		3（ 0 ）	5（ 0 ）	

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

3）学術講演　　**（件数）**

種類	学術講演			
件数				

4）学会座長　　**（件数）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	その他
件数		2	0	

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

研究業績

論　文　発　表

A：英文

A-a1：英文原著

1）Efficacy and safety of add-on mirogabalin to conventional therapy for the treatment of peripheral neuropathic pain after thoracic surgery：the multicenter, randomized, open-label ADMIT-NeP study.
Miyazaki T, Matsumoto K, Sato T, Sano I, Furukawa K, Shimoyama K, Kamohara R, Suzuki M, Kondou M, Ikeda N, Tabata S, Shiosakai K, Nagayasu T；ADMIT-NeP Study group.
BMC Cancer 2024；24(1)：80. doi：10.1186/s12885-023-11708-2.

学会・研究会発表・講演

B：国内学会

B-b1：シンポジウム, パネルディスカッション等

＜特別企画＞

1）腹腔鏡下噴門側胃切除術後の縫合不全および膿胸に対する早期手術の重要性.
松本理宗、田川努、朝重耕一.
特別企画２；他科（胸部外科）との合同手術. 第57回日本胸部外科学会九州地方会総会. 福岡, 2024.8.2.

2）腫瘍離断した反回神経温存、誤嚥を起こす前の内視鏡的胃瘻造設、是か非か.
田川努、町野隆介、松本理宗、田口駿介、嶋田隆志、朝重耕一、有吉毅子男.
特別企画１；反回神経麻痺. 第57回日本胸部外科学会九州地方会総会. 福岡, 2024.8.2.

B-b2：一般演題

【全国学会】

＜口演＞

1）術後エアリークを胸膜癒着せず、水封し排液を貯め手術側下側臥位しゃべらない咳しないリハビリなしで止める.
田川努、朝重耕一、織方良介、町野隆介、下山孝一郎.
ミニオーラル20；周術期管理、術後合併症５. 第41回日本呼吸器外科学会学術集会. 軽井沢, 2024.5.31.

2）不全分葉のS1＋2/S6に生じた肺癌に対しcVATS-fissureless S1＋2＋S6区域切除を行った一例.
朝重耕一、織方良介、田川努.
ミニオーラル 53；肺癌-その他５. 第41回日本呼吸器外科学会学術集会. 軽井沢, 2024.6.1.

3）心拍動同期シネMRIは肺悪性腫瘍大動脈浸潤の正診率が高い.
田川努、松本理宗、朝重耕一.
Rapid Fire セッション　呼吸器８；検査・診断・その他. 第77回日本胸部外科学会定期学術集会. 金沢, 2024.11.3.

【地方会】

＜口演＞

1）胸腔鏡下切除後に診断された前縦隔血管腫の１例.
織方良介、朝重耕一、田川努.
一般演題；縦隔疾患. 第64回日本肺癌学会九州支部学術集会/第47回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会. 宮崎, 2024.3.1.

2）縦隔血管腫に対して胸腔鏡下部分切除施行した一例.
兼行勇輔、朝重耕一、松本理宗、三原裕美、三浦史郎、田川努.
JATS Case Presentation Awards1；肺１. 第57回日本胸部外科学会九州地方会総会. 福岡, 2024.8.1.

3）前縦隔膿瘍オープンドレナージ後に壁側胸膜と骨性胸郭が自発呼吸により剥離しフレイルチェストを生じた１例.
田川努、松本理宗、朝重耕一.
一般演題；縦隔・胸壁疾患. 第57回日本胸部外科学会九州地方会総会. 福岡, 2024.8.2.

E，F：学術講演他

E：学会・研究会　世話人

1）田川 努.
県央地区外科研究会代表世話人

2）田川努.
長崎呼吸器疾患と移植再生フォーラム

3）田川努.
長崎呼吸器外科研究会

4）田川努.
長崎胸部腫瘍セミナー

F-b；学会・研究会座長＜国内学会＞

【全国学会】

1）田川努.
ミニオーラル 68；トラブルシューティング. 第41回日本呼吸器外科学会学術集会. 軽井沢, 2024.6.1.

２）田川努.
Oralセッション18；気管支鏡の安全対策. 合併症. 第47回日本呼吸器内視鏡学会学術集会. 大阪, 2024.6.28.

【査読委員】

１）田川努.
第41回日本呼吸器外科学会学術集会. 軽井沢, 2024.5.31-6.1.

２）田川努.
第47回日本呼吸器内視鏡学会学術集会. 大阪, 2024.6.27-28.

【その他】

１）田川努.
審査委員；JATS Case Presentation Awards5：肺１. 第57回日本胸部外科学会九州地方会総会. 福岡, 2024.8.1.

２）田川努.
長崎大学非常勤講師（腫瘍外科学）

３）田川努.
日本呼吸器外科学会　会誌編集委員会委員

４）田川努.
日本呼吸器外科学会　医療安全地域個別調査部会員

５）田川努.
日本肺癌学会　利益相反管理委員会委員
日本肺癌学会　指導医・専門医資格認定委員会委員

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

整形外科

責任者　宮本 俊之

診療科の特色

当科は2022年より関節外科と救急整形治療に特化して診療をおこなっており、外傷に関しては長崎県の県央地区を中心に搬送依頼があった症例は殆どを引きけています。早期手術加算が付け加えられた大腿骨近位部骨折を例にすると48時間以内の手術加療が昨年度も95％以上を超え維持しております。また組織での働き方として重要なものが人にできるだけ頼らないシステム作りと常々考えており、すでに高齢者骨折にとって必要不可欠な総合診療科や診療看護師（JNP）などとの多職種連携のシステムを確立させており、今後もシステム向上を図っております。

入院診療実績

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	（再掲）死亡	
8,369人	22.9人	574人		2人	14.8日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
319件	89.0%	609件	124.5%		

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
265人(46.9%)	166人(29.4%)	18人(3.2%)	11人(1.9%)	2人(0.4%)	24人(4.2%)

島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
14人(2.5%)	15人(2.7%)	18人(3.2%)		1人(0.2%)	5人(0.9%)

平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町
1人(0.2%)		1人(0.2%)	4人(0.7%)		

壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外
1人(0.2%)		2人(0.4%)	17人(3.0%)

合計
565人

入院主要10疾患主要疾患別臨床統計ならびに治療成績

疾患名	ICD-10コード	症例数	死亡退院数
大腿骨頸部骨折、転子部骨折	S7200，S7210	160	2
下腿の骨折（足首含む）	S82	67	0
前腕の骨折	S52	60	0
腰椎及び骨盤の骨折	S32	51	0
肩および前腕の骨折	S42	38	0
膝関節症	M17	32	0
股関節症	M16	21	0
人工関節周囲骨折	M96	16	0
足の骨折（足首を除く）	S92	15	0
肋骨、胸骨および胸椎骨折	S22	14	0

主要10手術方法臨床統計ならびに治療成績

手術名	Kコード	患者数
骨折観血的手術（大腿）	K0461	109
人工骨頭挿入術（股）	K0811	59
骨折観血的手術（下腿）	K0462	53
骨折観血的手術（前腕）	K0462	48
一時的創外固定骨折治療術	K046-3	40
人工関節置換術（膝）	K0821	27
人工関節置換術（股）	K0821	25
関節内骨折観血的手術（足）	K0732	19
創傷処理（筋肉、臓器に達する５cm以上未満）	K0002	19
骨折観血的手術（上腕）	K0461	15

手術件数と麻酔

総手術数	全身麻酔	腰椎麻酔・硬膜外麻酔	静脈麻酔	局所麻酔	緊急手術	待機手術
584	570	7		2	300	284

学会・論文など

1）原著論文　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数		4		

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

2）学会発表　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	4	24		8

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

3）学術講演　　**（件数）**

種類	学術講演会（国際）	学術講演会（国内）	研究会開催	
件数	8	5	2	

研究業績

論　文　発　表

B：和文

B-b1：和文原著

1）多発肋骨骨折に対する手術療法.
宮本俊之.
関節外科 2024；43（6）：639-645.

2）大腿骨転子部骨折に対する髄内釘固定～ shortとlongの比較とlong nailにラーニングカーブはあるか～ .
向井順哉.
骨折 2024；46（4）：875-879, 2024.

3）当院での大腿骨骨転移に対する治療報告.
花谷拓哉.
整形外科と災害外科 2024；73巻４号 Page850-854.

4）四肢病的骨折はどう治療するのか？ .
宮本俊之.
関節外科 2024；43（12）：1268-1272.

学会・研究会・講演

A：国際学会, 国際会議

A-a：特別講演, 教育講演, 招待講演

＜教育講演＞

1 ）Nailing segmental femoral fracture.
Takashi Miyamoto.
12th Thailand Orthopaedic Trauma Annual Congress. Chian Mai, Thailand, 2024.2.23.

2 ）Reduction techniques for nailing in the proximal and distal tibia fracture.
Takashi Miyamoto.
12th Thailand Orthopaedic Trauma Annual Congress. Chian Mai, Thailand, 2024.2.23.

A-b1：シンポジウム, パネルディスカッション等

＜Oral＞

1 ）Distal tibia fracture treated by open reduction intramedullary nailing.
Takashi Miyamoto.
14th AO TC Trauma Experts Symposium. Seoul, Korea, 2024.4.6.

2 ）Fragment specific fisation for the unstable ankle fracture.
Takashi Miyamoto.
16th Annual meeting of Taiwan Orthopaedic Trauma Association. Kaohsiung. Taiwan, 2024.7.13.

B ：国内学会

B-a：特別講演, 教育講演

＜教育講演＞

1 ）長崎Velcaのチームドクターとしての活動.
宮本俊之.
長崎県スポーツ医学研修会. 長崎, 2024.2.25.

2 ）術中放射線ひばくを軽減する整形外科医の取り組み.
宮本俊之.
第３回Knee osteotomy and joint preservation研究会. 高松, 2024.4.20.

3 ）非定型大腿骨骨折に対する手術療法.
宮本俊之.
第50回日本骨折治療学会. 仙台, 2024.6.28.

4 ）整形外傷医が取り組むべき大腿骨近位部骨折の二次骨折予防.
宮本俊之.
第50回日本骨折治療学会. 仙台, 2024.6.29.

B-b1：シンポジウム, パネルディスカッション等

＜シンポジウム＞

1 ）当院における大腿骨近位部骨折早期手術の現状と時間外労働.
宮本俊之.
第97回日本整形外科学会学術総会. 福岡, 2024.5.24.

＜パネルディスカッション＞

1 ）大学整形腫瘍外科医との病的骨折治療連携.
宮本俊之.

第50回日本骨折治療学会. 仙台, 2024.6.28.

＜口演＞

1）医師の働き方改革を本気で実施するとこうなります.
宮本俊之.
第148回西日本整形災害外科学会学術集会. 鹿児島, 2024.12.21.

B-b2：一般演題

1）当院におけるインプラント周囲骨折の治療経験.
森圭介.
第37回日本四肢再建・創外固定学会学術集会. 兵庫県, 2024.3.22.

2）小児前腕骨骨折に対するElastic Stable Intramedullary Nailの治療成績.
山口圭太.
第147回西日本整形災害外科学会学術集会. 福岡, 2024.6.1.

3）高エネルギー外傷に伴う大腿骨骨幹部骨折において初診時診断できなかった同側大腿骨頸部骨折の1例.
江川航星.
第147回西日本整形災害外科学会学術集会. 福岡, 2024.6.1.

4）CT-based navigationを用いた人工股関節全置換術の検討.
大場陽介.
第147回西日本整形災害外科学会学術集会. 福岡, 2024.6.1.

5）大腿骨近位部骨折の早期手術を可能にするチーム作り.
森圭介.
第50回骨折治療学会学術集会. 横浜, 2024.6.28.

6）地方外傷整形外科医師の働き方改革と早期手術.
山口圭太.
第50回骨折治療学会学術集会. 横浜, 2024.6.28.

7）近位骨幹端から骨幹部に至る脛骨骨幹部骨折（AO42C3）に対し一期的に髄内釘固定を行った2例.
出口大智.
第148回西日本整形災害外科学会学術集会. 鹿児島, 2024.12.21.

＜口演＞

1）当院における大腿骨近位部骨折治療の現状.
宮本俊之.
12th FFN Japan学術集会. 東京, 2024.3.2.

2）大腿骨近位部の骨微細構造は末梢骨, 特に荷重肢である脛骨遠位部で間接的に評価しうる.
向井順哉.
第97回日本整形外科学会学術総会. 博多, 2024.5.25.

3）高齢者大腿骨転子部骨折に対してCTは必ずしも必要ではない.
向井順哉.
第50回骨折治療学会学術集会. 横浜, 2024.6.28.

4）外側depression骨片を伴ったplateau骨折に対するrim plateの治療経験.
太田真悟.
第50回骨折治療学会学術集会. 横浜, 2024.6.28.

５）大腿骨骨幹部骨折にDISHを伴う椎体骨折を合併した１例.
梅木雅史.
第148回西日本整形災害外科学会学術集会. 鹿児島, 2024.12.21.
６）非定型大腿骨骨折に対する手術治療の検討.
向井順哉.
第148回西日本整形災害外科学会学術集会. 鹿児島, 2024.12.21.

＜ポスター＞
１）大腿骨近位部の骨微細構造は末梢骨, 特に荷重肢である脛骨遠位部で間接的に評価しうる.
向井順哉.
第26回日本骨粗鬆症学会. 金沢, 2024.10.13.

B-c：研究会発表
１）術前計画の立て方.
山口圭太.
第29回長崎整形外傷勉強会. Web, 2024.5.27.

＜口演＞
１）高齢者大腿骨転子部骨折にCTは必要か？～単純X線における特徴的な所見～ .
向井順哉.
第113回長崎整形外科懇話会. 長崎, 2024.5.18.
２）非定型大腿骨転子下骨折.
向井順哉.
第29回長崎整形外傷勉強会. Web, 2024.8.26.

C-a：学術講演［国際］
＜Oral＞
１）Periprosthetic fravture of the proximal femur.
Takashi Miyamoto.
Lower Limb Masters Course. Bangkok, Thailand, 2024.6.15.
２）Challenges in per-trochanteric and sub-trochanteric fracture.
Takashi Miyamoto.
Lower Limb Masters Course. Bangkok, Thailand, 2024.6.15.
３）Fibulink.
Takashi Miyamoto.
Lower Limb Masters Course. Bangkok, Thailand, 2024.6.15.
４）Tips and tricks in subtrochanteric fracture redustion.
Takashi Miyamoto.
Ganga Operative Trauma Course. Coimbatore, India, 2024.6.21.
５）Suprapatellar appraoch for nailing of tibial fractures.
Takashi Miyamoto.
Ganga Operative Trauma Course. Coimbatore, India, 2024.6.23.
６）Japanese experience and collaboration between teams.

Takashi Miyamoto.
1st Advanced Management Course in Rib fracture. Hongkong, 2024.8.31.

7）Open appraoch to Glenoid fractures.
Takashi Miyamoto.
1st Advanced Management Course in Rib fracture. Hongkong, 2024.8.31.

8）AC joint separation.
Takashi Miyamoto.
1st Advanced Management Course in Rib fracture. Hongkong, 2024.8.31.

C-b：学術講演［国内］

＜教育口演＞

1）長崎県における外傷治療.
宮本俊之.
第20回和歌山骨関節靱帯フォーラム. 和歌山, 2024.9.7.

2）県央における高齢者骨折治療の現在と未来.
宮本俊之.
第49回長崎県央整形外科懇話会. 大村, 2024.9.20.

3）大腿骨近位部骨折の治療.
宮本俊之.
岡山骨脆弱性骨折懇話会. 岡山, 2024.11.1.

4）地域で管理する骨粗鬆症.
宮本俊之.
諫早医師会学術講演会. 諫早, 2024.11.22.

5）長崎県の外傷治療システム.
宮本俊之.
帝京大学TTT. 東京, 2024.12.21.

D：学会・研究会開催

1）診療看護師を交えた当院における骨折リエゾンサービス.
宮本俊之.
第３回長崎県FLS web説明会. Web, 2024.5.15.

＜口演＞

1）肋骨骨接合のすゝめ.
宮本俊之.
Zimmer Biomet Trauma Channel 32. Web, 2024.7.17.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

リハビリテーション科

責任者　宮本 俊之・藤﨑 暢

診療科の特色

リハビリテーション科は、リハビリテーション科医長１名（整形外科部長併任）、理学療法士12名、作業療法士４名、言語聴覚士２名、事務助手１名が在籍しており、施設基準は運動器リハ（Ⅰ）・脳血管疾患等リハ（Ⅰ）・廃用症候群リハ（Ⅰ）・心大血管疾患リハ（Ⅰ）・呼吸器リハ（Ⅰ）・がん患者リハを取得しています。

2024年は24診療科より新規リハビリ介入依頼があり、多岐多様な疾患に対応しています。主な疾患は、整形外科では骨接合術・人工関節置換術の症例、脳外科・脳神経内科では脳血管疾患の術後また発症直後の症例、外科では悪性腫瘍摘出術後の症例であり早期介入を行っています。また高度救命センターにおける早期離床リハビリテーションやNICUにも対応しています。

スタッフの資格取得状況は、心臓リハビリテーション指導士３名、心不全療養指導士２名、３学会合同呼吸療法認定士７名、がんのリハビリテーション研修受講者が16名であり、より専門的なリハビリの提供へつなげています。また土曜・祝日勤務も行い急性期病院として早期介入、早期離床を図り効果的な機能回復に向けて取り組んでいます。

院内チーム医療として、糖尿病教室やNSTに参加しています。また今年再開された4A病棟主催のさくらんぼクラブ（未熟児病棟を退院された児と家族の集い）へ参加しています。当院DMATにおいてスタッフ１名が業務調整委員として活動しています。

地域連携においては、大腿骨頚部骨折の地域連携パスや診療情報提供書を使用し後方支援病院・施設等との密な連携を図っています。

地域貢献においては、県央地区広域リハビリテーションセンターの協力施設として登録し、市内各地域で行われる出前講座や通いの場での地域住民への支援を行っています。

入院診療実績

理学療法・作業療法実績

	理学療法	作業療法	合計
実施延べ件数	31,039	9,660	40,699
実施延べ単位数	40,232	12,065	52,297

※実施延べ件数・単位数は2024年に理学療法・作業療法を実施した件数・単位数
※2024年の新規介入依頼数は3,230件
※2024.4より3A早期離床リハビリテーション加算算定に関してPT1名配置

リハビリ処方主要10疾患　疾患別臨床統計

疾患名	ICD-10コード	症例数
1）廃用症候群	M6259	327
2）脳梗塞	I630 ～ I660	259
3）肺炎等	J120 ～ J189	181
4）消化器の悪性腫瘍	C151 ～ C252	174
5）大腿骨骨折	S7200 ～ S7240	171
6）呼吸不全	J9600 ～ J9699	155
7）頭蓋内出血	I600 ～ I619	149
8）心不全	I500 ～ I518	125
9）関節疾患	M0096 ～ M2457	120
10）誤嚥性肺炎	J690	102

※2024年　主病名にてリハ処方件数を分類集計

リハビリ処方患者の主な診療科と実患者数・比率

診療科	患者人数	比率（%）
総合診療科	568	17.59
整形外科	467	14.46
脳神経内科	324	10.03
脳外科	319	9.88
外科	234	7.24
呼吸器内科	220	6.81
血液内科	197	6.10
循環器内科	197	6.10

※上記診療科を含め、24診療科よりリハビリ介入依頼あり

言語聴覚療法実績

	入院	外来
疾患別算定件数	3,901	91
疾患別算定単位数	4,712	212
摂食・嚥下療法件数	675	46

※2024年に言語療法、摂食・嚥下療法（嚥下評価のみも含む）を実施した件数
※VE検査・VF検査は耳鼻咽喉科医師と共に施行

研修・教育

1．カンファレンス等

	参加職種	参加人数（平均）	開催頻度
整形外科カンファレンス	医師、看護師、薬剤師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、地域連携室	10	2/週
地域連携診療パス会議（大腿骨頸部骨折）	医師、看護師、理学療法士、作業療法士、MSW等	40	非開催
7Aカンファレンス	医師、看護師、理学療法士、作業療法士	5～8	1/週
緩和ケアカンファレンス	医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、薬剤師、MSW	10	1/週
救命病棟リハカンファレンス	医師、看護師、理学療法士、作業療法士	5	月～金
循環器カンファレンス	医師、理学療法士、看護師、薬剤師、管理栄養士、MSW	8	1/週
3B病棟カンファレンス	医師、看護師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、地域連携室	8	1/週
血液内科カンファレンス	医師、看護師、理学療法士、作業療法士、薬剤師、管理栄養士	8	1/週
呼吸器外科カンファレンス	医師、看護師、理学療法士、MSW	7	1/週
心臓外科カンファレンス	医師、看護師、理学療法士、薬剤師、MSW	8	1/週
RSTカンファレンス	医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、臨床工学技士	8	1/週
摂食・嚥下カンファレンス	医師、看護師、管理栄養士、言語聴覚士	8	1/2週

※新型コロナウイルス感染拡大以降、現在も非開催となっているカンファレンスおよび会議あり

2．研修（国立病院機構等主催分）

1）R6年度　医療職（二）等職場長管理研修
6.3(AM) 6.6(PM) Web　藤﨑暢、鶴丸広大、伏谷志保

2）R6年度　リハビリテーション職特定派遣技能研修（Ⅰ）「摂食・嚥下」
7.3-5(PM) Web　鶴丸広大

3）R6年度　本部研修「急性期」
8.23(一日) Web　指山博伸

4）R6年度　副職場長管理研修
8.30(PM) 9.10(AM) Web　田口志津

5）R6年度　中堅職員マネジメント力向上研修
11.11(PM) Web　米永敬子

3．講師・座長等（国立病院機構等主催分）

1）R6年度リハビリテーション職特定派遣技能研修（Ⅰ）「摂食・嚥下」
7.5(PM) Web　伏谷志保

4．リハビリテーション科勉強会

1）電気刺激療法について	1.25	鶴丸広大
2）緩和ケア病棟について	2.22	南口紀子
3）リハビリ室における緊急時対応	4.18	田縁尚
4）DMAT活動報告	6.27	北村恵一
5）発話障害のメカニズム	8.22	木原忠俊
6）脳卒中患者への装具療法の一例	10.24	朝日大介
7）てんかんの治療薬、心臓の病気でよく使う薬	12.3	田中薬剤師 松永薬剤師

院内研修（11月７日開催）
「適正なリハビリテーション処方・算定について」
長崎大学病院　リハビリテーション科　高畠英昭　教授

5．理学・作業療法士等養成校臨床実習受け入れ

R6.10.7-11　見学実習１名　長崎リハビリテーション学院　理学療法学科　１年
指導者：野副章乃

R6.11.11-12.20　評価実習１名　長崎リハビリテーション学院　理学療法学科　２年
指導者：東隼、吉永龍史

研究業績

論　文　発　表

A：英文

A-a1：英文原著

1 ）Pre-Admission Predictors of Walking Independence in Critically Ill Patients.
Yoshinaga Ryuji, Narumi Yamada, Masatoshi Hanada, Yuji Ishimatsu, Ryo Kozu.
Respiratory Care 2024；69(10)：1314-1322.

学会・研究会・講演

A：国際学会, 国際会議

A-b2：一般演題

＜Poster＞

1 ）Association between Trunk Muscle Mass and Persistent Postpartum Low Back and Pelvic Pain
Hayashi Katsuhito, Megumi K, Kotaro T, Ichiro Y
Poster Session 1 Society for Maternal-Fetal Medicine(SMFM) 2024 Pregnancy MeetingWashington USA, 2024.2.13.

2 ）Pre-admission predictors of walking independence among critically ill patients in an emergency and critical care center: A prospective cohort study.
Yoshinaga R, Yamada N, Momoeda Y, Kubota Y, Nakamichi C, Hanada M, Kozu R.
Poster Session, TJP-2. The 3rd Joint Scientific Congress of TSCCM, TSECCM and JSICM with the 51st Annual Meeting of the Japanese Society of Intensive Care Medicine. Sapporo. JPN. 2024.3.16.

B ：国内学会

B-b2：一般演題

＜口演＞

1 ）高度救命救急センターで人工呼吸管理された重症患者における歩行自立の入院前予測因子の存在：コホート研究.
吉永龍史、山田成美、百枝裕太郎、窪田佳史、中道親昭、花田匡利、神津玲.
一般演題26「Pre ICU」. 第51回日本集中治療医学会学術集会. 札幌, 2024.3.14.

2 ）重症患者における高度救命救急センター退室時の握力は歩行自立を予測する：前向きコホート研究.
吉永龍史、山田成美、神津玲.
一般口述８ 人工呼吸器管理. 第10回日本呼吸理学療法学会学術大会. 岐阜, 2024.9.7.

3 ）糖尿病教育入院患者における筋量とインスリン分泌能との関連.
東隼、林勝仁、吉永龍史、土井広貴、安井順一.
口演12. リハビリテーション２. 理学療法　脳疾患・内科疾患. 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.18.

4 ）心不全患者における基本的緩和ケアのアドバンス・ケア・プランニング（ACP）導入の試み.
吉永龍史、松下佳矢、藤崎暢、坂田葵、三輪真理、田淵貴子、松尾崇史、於久幸治.
口演32［O1-32-6 循環器疾患 心不全］. 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.18.

5 ）人工呼吸器管理された重症患者における高度救命救急センター退室時のICU獲得性筋力低下と握力の関係.
吉永龍史、百枝裕太.
口演24［O1-24-1 リハビリテーション４ 理学療法 救命治療・集中治療］. 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.18.

６）がんばらんば長崎！「長崎県心不全療養指導士を繋ぐ会」、なんでんかんでん、しとります.
濱田真理、吉永龍史、道脇一輝、川口禎仁、松川絵理、桑原薫、丸山真理子.
一般演題２ 運動負荷試験 高齢者. 第10回心臓リハビリテーション学会九州支部地方会. 別府, 2024.12.15.

＜ポスター＞

１）長崎県心不全療養指導士を繋ぐ会の活動報告と今後の展望.
吉永龍史、濱田真理、桑原薫、川口禎仁、松川絵理、道脇一輝、於久幸治.
チーム医療セッション 一般演題（ポスター）５「心不全療養指導士の活動１」. 第88回日本循環器学会学術集会. 神戸, 2024.3.8.

B-c：研究会発表

＜口演＞

１）長崎県心不全療養指導士を繋ぐ会の活動報告と今後の展望.
濱田真理、吉永龍史、道脇一輝、川口禎仁、松川絵理、桑原薫、丸山真理子、岡秀樹
【一般演題】第18回長崎心臓リハビリテーション研究会「長崎県における心不全と地域連携を再考する」. 長崎, 2024.7.27.

＜講演＞

１）循環器領域のフィジカルアセスメント.
吉永龍史.
夢塾臨床勉強会（循環器グループ）. 長崎（Web）, 2024.8.28.

２）英文抄読会「Total Hip Replacement or Resistance Training for Severe Hip Osteoarthritis」.
吉永龍史.
共同研究をみんなで考える会（英語論文を読む会）. Web, 2024.11.19.

C，D，E，F：学術講演他

C-b：学術講演［国内］

＜講演＞

１）YIA受賞報告「Handgrip strength as a predictor of independent walking upon discharge in critically ill adults: a prospective study in advanced emergency and critical care center」
吉永龍史、山田成美、神津玲.
令和６年長崎夢塾合同勉強会（長崎大学大学院内部障害リハビリテーション研究室主催）. 長崎（ハイブリッド）, 2024.1.7.

２）急性期における理学療法士の現状と課題.
吉永龍史,
令和５年度 職域別ネットワーク推進研修会（長崎県理学療法士協会 職能推進局 社会事業部 管理者研修班主催）. 長崎（Web）. 2024.1.20.

３）胸部X線写真の基礎とそこから考える呼吸理学療法戦略.
吉永龍史.
熊本県理学療法士協会（熊本市北ブロック勉強会）. Web, 2024.7.5.

＜講演, 司会＞

１）心不全患者症例検討会－当院におけるカンファレンスデモンストレーション－.
吉永龍史、松下佳矢、津田美怜、坂田葵、松永望東子、鶴川晃二郎、古殿真之介.
第４回心不全療養指導士地域勉強会（長崎県心不全療養指導士を繋ぐ会主催）. 大村（Web）. 2024.3.6.

D：学会・研究会開催

＜勉強会主催＞

1）吉永龍史、濱田真理、桑原薫、川口禎仁、松川絵理、道脇一輝、丸山真理子.
第 4 回心不全療養指導士地域勉強会（長崎県心不全療養指導士を繋ぐ会主催）. 大村（Web）. 2024.3.6.

E：研究会世話人

＜コメンテーター＞

1）第 5 回 心不全療養指導士地域勉強会～地域で相談し合える仲間作り～ .
吉永龍史、濱田真理、道脇一輝、川口禎仁、松川絵理、桑原薫、丸山真理子.
長崎県心不全療養指導士を繋ぐ会. Web, 2024.6.20.

2）長崎県心不全療養指導士cafe ～普段の取り組みを語り合い繋がろう～ .
吉永龍史、濱田真理、道脇一輝、川口禎仁、松川絵理、桑原薫、丸山真理子.
長崎県心不全療養指導士を繋ぐ会. 長崎, 2024.9.28.

F-b：学会・研究会座長［国内学会］

＜座長＞

1）吉永龍史.
長崎県心不全療養指導士を繋ぐ会. Web, 2024.6.20.

2）吉永龍史.
一般演題 8 呼吸・循環・代謝. 第34回長崎県理学療法学術大会. 島原, 2024.6.23.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

脳神経外科

責任者　案田 岳夫

診療科の特色

５名の脳神経外科学会専門医（うち日本脳卒中学会専門医２名、日本脳卒中の外科学会技術指導医１名、日本脳神経血管内治療学会専門医１名、脳血栓回収療法実施医１名、日本てんかん学会専門医１名、日本小児神経外科学会認定医２名、日本臨床神経生理学会専門医１名）が、主に脳神経外科診療に携わっています。対象疾患は、脳卒中、未破裂脳動脈瘤、てんかん、頭部外傷、脳腫瘍、水頭症、機能的脳神経外科疾患（顔面けいれんなど）などで、年間手術症例は毎年約400例です。一次脳卒中センターに認定されている当院では、本土・離島に関わらず広く、また365日24時間絶え間なく患者さんを受け入れています。救急患者受け入れにおいては、救命救急医、脳神経内科医と連携し脳卒中ホットラインを運用しています。離島発症超急性期脳梗塞患者に対しては、画像伝送システムを駆使し全国に先駆けて“t-PA drip and ship”を実施しています。近年ではさらに血管内治療による血栓回収療法を組み合わせた“drip, ship and retrieve”を行っています。脳動脈瘤に対するカテーテル塞栓術の進歩も劇的で、全国的に従来の直達手術によるクリッピング術から、塞栓術へのシフトが進んでいますが、当院でもその傾向がみられています。てんかんセンターでもある当院では、てんかん患者に対し的確に診断を行い、特に難治症例に対する手術治療を行っています。全国から患者さんが来院し、小児科医、臨床心理士、およびMSWと連携し包括的な診療を提供しています。その他、公的、私的研究費を獲得し、臨床研究にも励んでおり多数の研究発表を行っています。患者さんに速やかに良質の医療を提供することをモットーとして我々は働いていますが、ワーク・ライフバランスも重要視しており、新たな勤務体制づくりに取り組んでいるところです。

入院診療実績

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	（再掲）死亡	
13,335人	36.4人	524人	507人	22人	25.9日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
267件	94.6%	495件	122.5%		

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
161人(31.0%)	115人(22.1%)	13人(2.5%)	11人(2.1%)	３人(0.6%)	24人(4.6%)

島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
８人(1.5%)	13人(2.5%)	18人(3.5%)	２人(0.4%)	１人(0.2%)	14人(2.7%)

平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町
		21人(4.0%)	15人(2.9%)		１人(0.2%)

壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外
11人(2.1%)	９人(1.7%)	18人(3.5%)	62人(11.9%)

合計
520人

入院主要10疾患主要疾患別臨床統計ならびに治療成績

疾患名	ICD-10コード	症例数	死亡退院数
1）脳腫瘍	C71	29	1
2）クモ膜下出血	I60	50	3
3）未破裂脳動脈瘤	I67.1	51	0
4）脳動静脈奇形	G28.3	2	0
5）脳梗塞	I63	17	2
6）脳出血	I61	92	10
7）頭部外傷	S09	60	5
8）慢性硬膜下血腫	I62	42	0
9）水頭症	G91	6	0
10）てんかん	G40	108	0

主要10手術方法臨床統計ならびに治療成績

手術名	Kコード	患者数	死亡退院数
1）脳動脈瘤頸部クリッピング	39.51	31	0
2）脳出血血腫除去術	1.39	16	0
3）脳腫瘍摘出術	1.59	14	0
4）頭部外傷開頭血腫除去術	1.24	13	3
5）慢性硬膜下血腫穿頭血腫ドレナージ術	1.31	49	1
6）難治てんかん手術	4	35	0
7）水頭症脳室腹腔シャント術	2.34	17	0
8）脳梗塞血管吻合術	38.31	5	0
9）動脈血栓内膜摘出術		5	0
10）血管内手術（コイル塞栓など）	38.81	108	5

手術件数と麻酔

総手術数	全身麻酔	腰椎麻酔・硬膜外麻酔	静脈麻酔	局所麻酔	緊急手術	待機手術
383	248	0	0	133	214	169

手術成績

	件数	在院死亡	1ヶ月以内死亡	再手術	手術部位感染症
待機手術	169	1	1	0	0
緊急手術	214	10	8	1	1

手術症例数

総手術症例数：381（A＋B)＋4（C)＝385例

（A）　直達手術：273例

・脳血管障害：67例

脳動脈瘤：32例

	破裂20例	未破裂12例
中大脳動脈瘤	7例	9例
内頚動脈瘤	4例	2例
前交通動脈瘤	4例	0例
前大脳動脈瘤	1例	1例
後下小脳動脈瘤	4例	0例

脳内出血：24例

	開頭術18例	内視鏡４例	定位手術２例
被殻出血	８例	１例	２例
皮質下出血	８例	１例	０例
小脳出血	２例	０例	０例
その他	０例	２例	０例

内頚動脈内膜剥離術：５例

頭蓋内血管バイパス術：５例

STA-MCA吻合５例（うちもやもや病２例）

脳動静脈奇形：１例

・脳腫瘍：19例

神経膠芽腫：５例

乏突起神経膠腫：１例

髄膜腫：７例

転移性脳腫瘍：５例

悪性リンパ腫：１例

・頭部外傷：69例

急性硬膜下血腫：８例

急性硬膜外血種：２例

外傷性脳内血種：１例

慢性硬膜下血腫：59例

・てんかん：35例

側頭葉海馬・偏桃体（切除）：４例

脳梁離断：10例

皮質焦点切除／離断：８例

頭蓋内電極埋め込み：４例

迷走神経刺激装置埋め込み：５例

迷走神経刺激装置入れ替え：４例

・水頭症：33例

VP shunt：16例

VA shunt：２例

LP shunt：９例

シャント抜去/延長：６例

・減圧開頭術：16例

・頭蓋形成術：13例

・脳室ドレナージ術：18例

・感染：3例

(B)　血管内治療：108例

・脳動脈瘤コイル塞栓術：43例

	破裂30例	未破裂13例
内頚動脈瘤	１例	３例
前交通動脈瘤	９例	３例
前大脳動脈	１例	１例
中大脳動脈瘤	２例	１例
椎骨動脈瘤	６例	２例
脳底動脈瘤	４例	１例
後交通動脈瘤	７例	２例

・脳動脈瘤Flow Diverter留置：３例

・硬膜動静脈瘻：８例

・内頚動脈狭窄：４例

・血栓回収：45例

・頭蓋内血管狭窄（PTA）：１例
・TAE（腫瘍）：２例
・脳動静脈奇形：１例
・慢性硬膜下血腫（MMA塞栓術）：１例

（C）　放射線治療：10例
・定位放射線治療：４件
・定位放射線治療以外：６例

治験、共同臨床研究（症例登録する研究）

治験等参加研究一覧

No.	項目 ①治験、②医師主導治験、③GCP準拠製造販売後臨床試験、④受託臨床研究（文書同意あり）、⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）、⑥公費臨床試験、⑦製造販売後調査（文書同意あり）、⑧製造販売後調査（文書同意なし）、⑨その他	研究課題名	同意書有無	依頼者（または試験母体）	責任医師（または担当研究者名）
1	①治験	迷走神経刺激療法で治療されたてんかん患者における、包括的な転帰に関する登録研究	有	リヴァノヴァ株式会社	小野智憲（主任）
2	①治験	部分てんかん患者に対するcenombamate追加療法の有効性及び安全性を評価する無作為化、二重盲検、プラセボ対照、多施設共同試験及び非盲検継続試験	有	SK Biopharmaceuticals社	小野智憲（主任）
3	①治験	部分発作を有する日本人てんかん患者を対象としたCenobamateの長期安全性を評価する第2相多施設共同非盲検継続投与試験	有	小野薬品工業株式会社	小野智憲（主任）
4	①治験	Streotyped prolonged seizureを有する12歳以上の患者を対象として、staccato alprazolamの有効性及び安全性を評価する二重盲検、無作為化、プラセボ対照、多施設共同、並行群間比較試験	有	ユーシービージャパン株式会社	小野智憲（主任）
5	①治験	小児及び成人レノックスガストー症候群患者を対象とした二部構成ZX008評価試験：パート1：発作に対する補助療法として２種類の固定要領のZx008.	有	サイネオス・ヘルス・クリニカル株式会社	小野智憲（分担）
6	①治験	ドラベ症候群又はレノックス・ガストー症候群患者を対象に併用療法として投与した時のsoticlestatの長期的な安全性及び忍容性を評価する、第3相、前向き、非盲検、他施設共同試験	有	武田薬品工業株式会社	小野智憲（分担）
7	①治験	CDKL5欠損症患者を対象としたZX008の有効性及び安全性を検討する第Ⅲ相、無作為化、二重盲検、プラセボ対象、固定用量、他施設共同試験、及び非盲検継続投与試験	有	ユーシービージャパン株式会社	小野智憲（分担）
8	②医師主導治験	てんかん患者におけるペランパネル一時単剤療法の有効性・安全性に関する観察研究（PORTABLE STUDY）	有	国際医療福祉大学成田病院	小野智憲（主任）

競争的研究費一覧

No.	項目（財源別） ①文部科学省科学研究費、②科学研究費助成事業（科学研究費補助金）、③科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）、④科学技術振興機構科学研究費、⑤その他文部科学省関連研究費、⑥厚生労働科学研究費、⑦国立高度専門医療センター等研究費、⑧その他厚生労働省関連研究費、⑨日本医療研究開発機構研究費、⑩その他財団等からの研究費、⑪民間セクターからの寄附金	研究課題名	研究者名	研究事業名 （依頼業者名）	主任 分担	新規 継続
1	①文部科学省科学研究費	発達性てんかん性脳症における皮質アストロサイトの未熟性を遺伝子レベルで解析する	小野智憲	文部科学省科学研究費助成	主任	新規
2	⑩その他財団等からの研究費	いわゆる「てんかん性脳症」における未熟アストロサイト機能の解明	小野智憲	公益財団法人てんかん治療研究振興財団研究助成	主任	継続
3	③科学研究費助成事業 （学術研究助成基金助成金）	悪性神経膠腫に対する薬剤封入リポソームの送達治療と脳内薬物動態の三次元解析	吉田道春	日本学術振興会 若手研究	主任	継続
4	③科学研究費助成事業 （学術研究助成基金助成金）	悪性脳腫瘍に対するマイクロバブルと集束超音波によるmRNA医薬非侵襲的送達法の開発	吉田道春	日本学術振興会 基盤研究（C）	分担	継続
5	③科学研究費助成事業 （学術研究助成基金助成金）	悪性神経膠腫に対するsiRNAを使用した核酸医薬導入への挑戦	吉田道春	日本学術振興会 基盤研究（C）	分担	継続

研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
脳神経疾患症例検討会 （脳神経外科、脳神経内科、救命救急科、研修医）	週1回
脳卒中モーニングカンファレンス （脳神経外科、脳神経内科、研修医）	平日毎日
院内てんかんカンファレンス	月1回
長崎てんかんグループカンファレンス	月1回
リハビリカンファレンス （脳神経外科、脳神経内科、看護師、リハビリスタッフ、栄養士、MSW）	週1回

学会・論文など

1）原著論文　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	1	1		

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

2）学会発表　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	2	25	2	6

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

3）学術講演　　**（件数）**

種類	国際	国内		
件数	2	33		

4）学会座長　　**（件数）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	2	1	0

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

研究業績

論　文　発　表

A：英文

A-a1：英文原著

1）WONOEP appraisal: The role of glial cells in focal malformations associated with early onset epilepsies.
Cases-Cunillera S, Quatraccioni A, Rossini L, Ruffolo G, Ono T, Baulac S, Auvin S, O'Brien TJ, Henshall DC, Akman Ö, Sankar R, Galanopoulou AS.
Epilepsia. 2024. Dec；65(12)：3457-3468.

B：和文

B-a1：和文原著

1）治療抵抗性てんかんに対する緩和的治療　治療目標の設定とその達成のための迷走神経刺激療法.
小野智憲、本田涼子、佐藤和明.
難病と在宅ケア 2024.10；30(7)：22-25.

学会・研究会・講演

A：国際学会, 国際会議

A-b1：シンポジウム, パネルディスカッション等

＜シンポジウム＞

1）Stepwise surgery of callosotomy and subsequent resective/disconnecitive surgery for patients with generalized onset seizures.
Ono T.
28th Annual Scientific Meeting of Indonesian Neurosurgical Society. BSD city/Jakarta, 2024.6.6-9.

2）Corpus callosotomy and subsequent　resective/disconnective surgery for generalized epilepsy
Ono T.
The 18th Asian Epilepsy Surgery Congress 2024. Surabaya (Indonesia), 2024.10.10-12.

B：国内学会

B-a：特別講演、教育講演

＜教育講演＞

1）治療ギャップを減らすために地域で考えるてんかん診療.
小野智憲.
地域で考えるてんかんセミナー in 県北. 佐世保, 2024.2.6.

2）急性期から慢性期まで、「60点」のてんかん診療
小野智憲
Epilepsy Management Seminar in 沖縄. 那覇, 2024.3.15.

3）小児てんかん外科の術前説明で話していること.
小野智憲.
2024年度第２回てんかん診療支援コーディネーター研修会. 東京, 2024.12.22.

＜特別講演＞

1）てんかん外科治療は小児発達を改善させ得るのか？
小野智憲
Joint Web Conference ～小児科と脳神経外科のてんかん診療連携を考える. 横浜, 2024.2.22.

B-b1：シンポジウム，パネルディスカッション等

＜座長＞

1）これから半球離断術を学ぶ者たちへ伝えたいこと：「必ずしも教科書通りでなくてよい」
小野智憲、本田涼子、内田大貴、馬場史郎、戸田啓介、下川能史、馬場啓至.
第47回日本てんかん外科学会. 札幌, 2024.2.1-2

1）てんかんセンターのない地域での診療連携.
小野智憲、池田ちづる、今村久司、高橋章夫、松田浩幸.
第57回日本てんかん学会学術集会. 福岡, 2024.9.12.-14.

＜シンポジウム＞

1）発達性てんかん性脳症に対して外科治療は有効か？.
本田涼子、小野智憲、戸田啓介、池田憲呼、西口奈菜子、安忠輝、馬場啓至.
第66回小児神経学会学術集会. 名古屋, 2024.5.30-6.1

2）てんかん外科と知的発達症：臨床場面での対応のヒント
小野智憲、本田涼子、佐藤和明.
第57回日本てんかん学会学術集会. 福岡, 2024.9.12.-14.

3）あなたの診療科に物申す：脳神経外科の立場から.
小野智憲.
第57回日本てんかん学会学術集会. 福岡, 2024.9.12.-14.

＜パネルディスカッション＞

1）脳梁離断はデバイス治療よりも先に検討するべき.
本田涼子、池田憲呼、西口奈菜子、佐藤和明、小野智憲.
第57回日本てんかん学会学術集会. 福岡, 2024.9.12.-14.

2）てんかん外科における硬膜下電極記録～ポリシーとプライド～
小野智憲、本田涼子、佐藤和明.
第57回日本てんかん学会学術集会. 福岡, 2024.9.12.-14.

3）小児脳機能研究会：小児てんかん外科の将来を考える.
小野智憲.
第54回日本臨床神経生理学会学術大会. 札幌, 2024.10.24-26.

＜教育講演＞

1）てんかん診療ギャップを減らす「60点」のてんかん診療
小野智憲.
地域で考えるてんかん診療セミナー . 大村, 2024.12.10.

B-b2：一般演題

＜口演＞

1）てんかん発作の画像認識AIによる動態解析.
内田大貴、小野智憲、山内三郎、定方英作、吉田道春、原口渉、案田岳夫、本田涼子、佐藤和明、馬場史郎、松尾孝之.
第47回日本てんかん外科学会. 札幌, 2024.2.1-2.

2）てんかん外科領域における臨床心理士・公認心理士の役割～長崎医療センターてんかんセンターでの取り組み
越本莉香、足立耕平、本田涼子、小野智憲.
第47回日本てんかん外科学会. 札幌, 2024.2.1-2.

3）救急医を目指す初期研修医として学んだ緊急脳波記録の大切さ.
堤春菜、小野智憲、内田大貴、定方英作、吉田道春、原口渉、案田岳夫.
第29回日本脳神経救急医学会. 東京, 2024.2.2-3.

4）傍シルビウス裂症候群に対するてんかん外科治療.
小野智憲、内田大貴、佐藤和明、西口奈菜子、池田憲呼、本田涼子.
第31回九州山口てんかん外科研究会. 福岡, 2024.2.17.

5）腫瘍性病変による側頭葉てんかん：単一施設での治療経験.
内田大貴、小野智憲、定方英作、吉田道春、原口渉、案田岳夫、馬場史郎、戸田啓介、馬場啓至.
第146回日本脳神経外科学会九州支部会. 福岡, 2024.3.2.

6）病型分類、術式によらずてんかん手術は術後 1 年間の発達を好転させる可能性がある.
西口奈菜子、本田涼子、小野智憲、池田憲呼、安忠輝、馬場啓至.
第66回小児神経学会学術集会. 名古屋, 2024.5.30-6.1

7）破裂左椎骨後下小脳動脈分岐部動脈瘤に対し後下小脳動脈にtrans radial approachでステント留置を行った一例.
後藤純寛、定方英作、吉田道春、小野智憲、原口渉、案田岳夫
セッション９血管障害(3). 第147回日本脳神経外科学会九州支部会. 鹿児島, 2024.6.3.

8）Development of neuronal conduction velocity of the human corpus callosum and myelination.
Ono T、Honda R、Sato K、Uchida D、Uchida D、Baba S、Toda K、Baba H.
第57回日本てんかん学会学術集会. 福岡, 2024.9.12.-14.

9）Successful recanalizationにもかかわらずno-reflow phenomenonを呈する症例の特徴と後療法の可能性：再開通療法の質について.
堀江信貴、定方英作、岡村宗晃、諸藤陽一、原健司、桑原政志、近藤浩、石井大造.
AIS2. 第40回日本脳神経血管内治療学会学術集会. 熊本, 2024.11.21.

＜座長＞

1）脳神経外科の中の機能神経外科
小野智憲.
第10回若手のためのてんかん外科 実践セミナー in 九州・沖縄. 福岡, 2024.7.14.

＜oral＞

1）A case of multiple cerebral aneurysms which was difficult to identify the rupture site
後藤純寛、吉田道春、定方英作、小野智憲、原口渉、案田岳夫.
セッション5 English session. 第148回日本脳神経外科学会九州支部会. 長崎, 2024.9.28.

＜**講演**＞

1 ）破裂内頚動脈Blood blister like aneurysmに対してステント併用コイル塞栓術を行った 1 例.
定方英作、原口渉、森塚倫也、本田和也、後藤純寛、松野聡夏、小野智憲、案田岳夫.
一般演題. 長崎脳血管内治療研究会. 長崎, 2024.12.13.

＜**ポスター**＞

1 ）「実効力」長崎県のてんかん支援活動.
小野智憲.
第11回全国てんかんセンター協議会総会. 徳島,　2024.3.2.

2 ）脳底動脈の窓形成に伴う未破裂脳動脈瘤に対してステント併用でのコイル塞栓術を行った 1 例.
定方英作、原口渉、松野聡夏、忽那史也、内田大貴、吉田道春、小野智憲、案田岳夫.
出血性脳血管障害. STROKE 2024. 横浜, 2024.3.7-9.

3 ）可動性血栓を有する総頚動脈狭窄に対して急性期血管内治療を行った 1 例
定方英作、原口渉、森塚倫也、本田和也、後藤純寛、松野聡夏、吉田道春、小野智憲、案田岳夫.
急性期脳梗塞04. 日本脳神経外科学会第83回学術総会. 横浜, 2024.10.16.

4 ）Wernicke野をてんかん原性領域に含む薬剤抵抗性てんかんに対する焦点切除術の切除範囲に苦慮した一例.
谷口裕太郎、西口奈菜子、石川太郎、池田憲呼、本田涼子、佐藤和明、後藤純寛、小野智憲、本村秀樹.
第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.18-19.

5 ）Direct CCF治療後にCS-dAVFを合併した 1 例
定方英作、堀江信貴、諸藤陽一、案田岳夫、松尾孝之.
dAVF4. 第40回日本脳神経血管内治療学会学術集会. 熊本, 2024.11.21.

6 ）陽子線治療を行った再発rhabdoid meningiomaの一例.
後藤純寛、案田岳夫.
ポスター 39 症例検討 5 . 第42回日本脳腫瘍学会学術集会. 志摩, 2024.12.2.

B-c：研究会発表

＜**口演**＞

1 ）CTAが治療戦略決定に有用であった急性硬膜下血腫の 1 症例.
原口渉、本田和也、後藤純寛、松野聡夏、定方英作、吉田道春、小野智憲、森塚倫也、案田岳夫.
第47回長崎脳神経外科研究会. 長崎市, 2024.12.21.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

皮膚科

責任者　石川 博士

診療科の特色

○皮膚炎・蕁麻疹・中毒疹

それぞれの疾患の原因の特定に努め、原因を含めて治療を行います。各種アレルギーの原因検索も行っています。難治性の蕁麻疹にも複数の生物学的製剤が使用できるようになりました。

難治例のアトピー性皮膚炎には生物学的製剤やJAK阻害剤内服も使用しています。そのおかげで入院治療が激減しました。

○尋常性乾癬

内服外用薬に加えて、難治例には免疫抑制剤や生物学的製剤を用いた治療を行います。重症例も長期の入院は不要となり、ほぼ皮疹が消退し、外用剤を少し使用するのみのレベルまで改善が期待できる時代になりました。ほとんどの症例が外来治療可能となりました。

○薬疹

最近の分子標的薬などの抗癌剤では半数以上の症例で何らかの皮膚障害が発生します。しかし、抗ヒスタミン薬やステロイド内服などの対応で殆どの症例で治療継続ができます。原疾患の治療をおし進めることが重要と考えています。

○皮膚腫瘍

種々の皮膚腫瘍に対し、ダーモスコピー、超音波検査、CT、MRI検査や病理検査などの必要な検査を行い、良悪性を判断し、手術や化学療法など最適な治療を提供します。

○帯状疱疹

皮膚症状に加えて難治性の神経疼痛に対して早期の治療を行い最適の治療薬を選択して早期の治癒を目指します。

入院診療実績

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	（再掲）死亡	
830人	2.3人	144人	150人	1人	5.6日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
284件	73.6%	224件	57.9%		

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
88人(59.5%)	24人(16.2%)	8人(5.4%)	2人(1.4%)		8人(5.4%)

島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
3人(2.0%)	11人(7.4%)	1人(0.7%)	1人(0.7%)		1人(0.7%)

平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町
		1人(0.7%)			

壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外

合計
148人

入院主要10疾患主要疾患別臨床統計ならびに治療成績

疾患名	ICD-10コード	症例数	死亡退院数
皮膚悪性腫瘍 （有棘細胞癌、基底細胞癌等）	C44	47	0
皮膚良性新生物	D23	45	0
蜂巣炎	L03	13	0
帯状疱疹＋水痘	B02	10	0
薬疹　中毒疹	D21	9	0
円形脱毛症	L638	6	0
皮膚潰瘍	L98	4	0
水疱症	L12	3	0

主要10手術方法臨床統計ならびに治療成績

手術名	ICD-9コード	患者数	死亡退院数
皮膚腫瘍摘出術	86.3	45	0
皮膚悪性腫瘍切除術	86.3	47	0

手術件数と麻酔

総手術数	全身麻酔	腰椎麻酔・硬膜外麻酔	静脈麻酔	局所麻酔	緊急手術	待機手術
92	3	0	0	89		92

手術成績

	件数	在院死亡	1ヶ月以内死亡	再手術	手術部位感染症
待機手術	92	0	0	0	0
緊急手術	0	0	0	0	0

その他診療科別の実績資料

外来皮膚生検＋外来小手術　308例

研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
県央皮膚科研究会	2カ月に1回
病理医・皮膚科医、病理検討会	1カ月に1回
皮膚科臨床フォトカンファレンス	1週間に1回
皮膚科病理組織カンファレンス	1週間に1回

学会・論文など

1）原著論文　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	0	0	0	

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

2）学会発表　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	3	

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

3）学術講演　　**（件数）**

種類	研究会	市民講座		
件数	1	0		

4）学会座長　　**（件数）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	1	1

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

研究業績

学会・研究会・講演

B：国内学会

B-b2：一般演題

＜Oral＞

1）ナスの皮療法が著効した難治性尋常性疣贅の1例.
石川博士.
第354回日本皮膚科学会長崎地方会. 長崎, 2024.4.14.

2）初老の成人水痘の2例.
里見直義.
第354回日本皮膚科学会長崎地方会. 長崎, 2024.4.14.

3）顔面、四肢に不規則に分布する皮疹を認めた1例.
中牟田瑠璃.
第355回日本皮膚科学会長崎地方会. 長崎, 2024.12.

B-c：研究会発表

＜講演＞

1）乾癬、関節症性乾癬のリウマチ科との連携治療について～ビンゼレックスの使い方～.
石川博士.
乾癬. 2024.7.28.

F：学術講演他

F-b：学会・研究会座長［国内学会］

＜座長＞

1）石川博士.
第355回日本皮膚科学会長崎地方会. 長崎, 2024.12.

2）乾癬領域　ソーティクツ錠、乾癬治療勉強会.
石川博士.
乾癬治療勉強会. 2024.7.31.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

泌尿器科

責任者　錦戸 雅春

診療科の特色

2024年も県央地区の泌尿器科の基幹病院として診療を行ってきました。４月より長崎大学から松島俊樹先生がレジデントとして赴任され、活躍されています。長年ご指導いただきました松屋福蔵先生は引き続き現在週に１回外来をお願いしております。2023年11月にようやく念願の手術支援ロボット「ダヴィンチ」が当院に導入され12月に第１例目のロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘術（RARP）を行うことができました。その後、2024年はRALPが26例、また10月よりロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術（RAPN）も開始、４例行いました。次はロボット支援腹腔鏡下膀胱全摘出術（RARC）の導入も予定しております。手術数もコロナ前の2018年のレベルまで戻ってきており、結石のレーザー手術も再増加、前立腺肥大症に対する水蒸気治療も軌道に乗ってきております。また昨年は４例の生体腎移植と２例の脳死腎移植を施行しました。引き続き腎臓内科と連携してすべての腎代替療法に対応しております。今後とも専門医集団として、レベルの高い医療を提供できるよう頑張っていきたいと思っております。

入院診療実績

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	（再掲）死亡	
4,757人	13.0人	640人	656人	４人	7.3日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
323件	88.3%	417件	108.3%		

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
414人（62.5%）	67人（10.1％）	32人（4.8%）	23人（3.5%）	４人（0.6%）	16人（2.4%）

島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
18人（2.7%）	44人（6.6%）	８人（1.2%）	２人（0.3%）	１人（0.2%）	８人（1.2%）

平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡（小値賀）	佐々町
	１人（0.2%）	３人（0.5%）	２人（0.3%）		１人（0.2%）

壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外
		12人（1.8%）	６人（0.9%）

合計
662人

入院主要10疾患主要疾患別臨床統計ならびに治療成績

疾患名	ICD-10コード	症例数	死亡退院数	コメント
前立腺癌	C61	147	3	疑い87
膀胱癌	C679	126		疑い 4
腎尿管結石	N202	86		
水腎症	N133	77		
腎癌	C64	27	2	
腎盂癌	C65	27		疑い 1
結石性腎盂腎炎	C20.9.1	23		
前立腺肥大症	N40	12		
急性腎盂腎炎	N10	9		
尿管癌	C66	9		疑い 5

主要10手術方法臨床統計ならびに治療成績

手術名	Kコード	患者数	死亡退院数
尿管ステント関連手術	K783-2,3	171	0
経尿道的膀胱悪性腫瘍手術（TUR-Bt）	K803　6	89	0
尿道的尿路結石除去術（TUL）	K781 1	81	0
バスキュラーアクセス関連手術	K610-3　他	70	0
ロボット支援腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(RARP)	K843-4	26	0
腹腔鏡下腎尿管悪性腫瘍手術	K773-2	16	0
膀胱結石　異物摘出術	K798 1	9	0
陰嚢水腫根治術	K835 1,2	9	0
経尿道的前立腺水蒸気治療	K841-7	7	0
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	803-2	7	0

手術件数と麻酔

総手術数	全身麻酔	腰椎麻酔・硬膜外麻酔	静脈麻酔	局所麻酔	緊急手術	待機手術
677	222	252	6	198	85	592

手術成績

	件数	在院死亡	1 ヶ月以内死亡	再手術	手術部位感染症
待機手術	592	0	0	0	0
緊急手術	85	0	0	0	0

その他診療科別の実績資料

ロボット支援下腹腔鏡下腎部分切除術　4例
腹腔鏡下副腎摘除術　5例
生体腎移植術　4例
腹腔鏡下移植用腎採取術　4例
献腎移植術　2例
停留精巣手術　6例
経尿道的前立腺切除術　4例
前立腺生検　94例

研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
症例カンファランス	1回/週
病棟カンファランス	1回/週
中地区カンファランス	1回/月
県央腎カンファランス	3回/年
泌尿器科カンファランス	1回/週
腎カンファランス（腎内合同）	1回/週

治験、共同臨床研究（症例登録する研究）

治験等参加研究一覧

No.	項目 ①治験、②医師主導治験、③GCP準拠製造販売後臨床試験、④受託臨床研究（文書同意あり）、⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）、⑥公費臨床試験、⑦製造販売後調査（文書同意あり）、⑧製造販売後調査（文書同意なし）、⑨その他	研究課題名	同意書有無	依頼者（または試験母体）	責任医師（または担当研究者名）
1	①治験	過去２万人に尿路感染症の既往がある60歳以上の成人を対象にExPEC9Vを接種したときの侵襲性腸管外病原性大腸菌感染症の予防における有効性、安全性及び免疫原性を評価するランダム化、二重盲検、プラセボ対照、多施設共同、第３相試験	有	ヤンセンファーマ(株)	錦戸雅春（担当研究者）
2	①治験	新規ホルモン剤（NHA）及びタキサン系化学療法による前治療を受けた転移性去勢抵抗性前立腺癌（mCRPC）患者を対象に、MK-5684とアビラテロン酢酸エステル又はエンザルタミドを比較する無作為化非盲検第Ⅲ相試験	有	MSD（株）	錦戸雅春
3	①治験	一剤の新規ホルモン剤（NHA）の治療中又は治療後に疾患進行した転移性去勢抵抗性前立腺癌（mCRPC）患者を対象に、MK-5684とアビラテロン酢酸エステル又はエンザルタミドを比較する無作為化非盲検第Ⅲ相試験	有	MSD（株）	錦戸雅春
4	⑦製造販売後調査（文書同意あり）	バベンチオ点滴静注200mg特定使用成績調査（根治切除不能または転移性の腎細胞癌）	有	メルクバイオファーマ（株）	錦戸雅春
5	⑦製造販売後調査（文書同意あり）	バベンチオ点滴静注200mg特定使用成績調査（根治切除不能な尿路上皮癌における化学療法後の維持療法）	有	メルクバイオファーマ（株）	錦戸雅春

学会・論文など

1）原著論文　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	0	0	0	0

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

2）学会発表　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	4	4	0

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

3）学術講演　　**（件数）**

種類	全国規模の研修会	企業関連セミナー		
件数	1	1		

4）学会座長　　**（件数）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	4	2	1

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

5）その他

（社会活動）

錦戸雅春

日本泌尿器科学会　　代議員
日本透析医学会　　評議員
専門医制度委員会　カリキュラム小委員会
研修カリキュラム・指導医カリキュラムワーキンググループ委員
評議員選出委員会　委員
研究者の利益相反等検討委員会　委員
総務委員会　VA血管内治療認定医制度検討小委員会委員
危機管理委員会　医療安全対策小委員会調査委員
統計調査委員会　地域協力委員
日本臨床腎移植学会　　評議員
臓器提供推進委員会　　委員
日本腎臓学会　　腎移植施設資格審査部会　委員
日本アフェレシス学会　　評議員
同　九州地方会　　世話人
西日本泌尿器科　　保険委員
九州腎臓移植研究会　　常任幹事
九州人工透析研究会　　幹事
長崎県腎不全対策協会　　幹事（事務局）
長崎県移植医療推進協議会　委員
長崎県透析医会　　幹事
向陽学園看護専攻科　　非常勤講師

大仁田亨

活水大学看護学部　　非常勤講師

研究業績

論　文　発　表

B：英文

B-e：その他（ラジオ・新聞・雑誌等）

1）長崎の腎移植あれこれ.
錦戸雅春.
長崎県医師会報　2024；940(5)46-50.

学会・研究会・講演

B：国内学会

B-b2：一般演題

＜口演＞

1）腎移植後VURに対して腹腔鏡下移植尿管・固有尿管吻合で再建を行った症例.
岩田隆寿、柿田聖太、大仁田亨、錦戸雅春.
外科的合併症. 第57回日本臨床腎移植学会. 名古屋, 2024.2.14.

2）移植腎に発生した尿瘻に対してフィブリン糊注入で治癒し得た1例.
岩田隆寿、柿田聖太、本多弘幸、池見悠太、山下由恵、岡　哲、大仁田亨、錦戸雅春.
外科的合併症. 第57回日本臨床腎移植学会. 名古屋, 2024.2.14.

3）生体腎移植後にBKウイルス腎症および再発性IgA腎症を認めた1例.
岡哲、山下由恵、荒木慎平、岩田隆寿、大仁田亨、錦戸雅春、牟田久美子、西野友哉.
再発性腎炎. 第57回日本臨床腎移植学会. 名古屋, 2024.2.14.

4）長崎県における臓器提供と献腎移植～臓器移植法前後の比較検討～
望月保志、倉田博基、原田淳樹、荒木杏平、中村裕一郎、安田拓司、中西裕美、光成健輔、松尾朋博、岩田隆寿、大庭康司郎、竹田昭子、大仁田亨、錦戸雅春、今村亮一.
一般啓発・普及啓発・臓器提供・社会システム. 第57回日本臨床腎移植学会. 名古屋, 2024.2.14.

5）遺伝性平滑筋腫瘍細胞癌が疑われた若年発腎細胞癌の1例.
大仁田亨、松島俊樹、鹿子木桂、錦戸雅春、添田李子、伊東正博、三浦史郎、山口純子、岩田隆寿、柿田聖太、青木大勇.
セッション2. 第102回長崎泌尿器科学会. 第281回日本泌尿器科学会地方会. 長崎, 2024.6.15.

6）アンチトロンビンⅢ欠乏症合併血液透析患者の全身麻酔下および局所麻酔下手術における週術期管理経験.
岡哲、伊達雅浩、山下由恵、松島俊樹、鹿子木桂、大仁田亨、錦戸雅春、新井英之、楠本泰博、西野友哉.
血液浄化3. 第56回九州人工透析研究会総会. 長崎, 2024.12.15.

7）当院におけるstageⅣ腎細胞癌に対する一次治療の現状.
松島俊樹、鹿子木桂、大仁田亨、錦戸雅春.
セッション1. 第103回長崎泌尿器科学会. 第281回日本泌尿器科学会地方会. 長崎, 2024.12.21.

8）当院におけるロボット支援下前立腺全摘除術の初期成績.
大仁田亨、松島俊樹、鹿子木桂、錦戸雅春、岩田隆寿、柿田聖太.
セッション3. 第103回長崎泌尿器科学会. 第281回日本泌尿器科学会地方会. 長崎, 2024.12.21.

C，F：学術講演他

C-b：学術講演［国内］

＜口演＞

1）「当院におけるStaje Ⅳ　腎細胞癌に対する一次治療の現状」
大仁田亨.
一般演題. Urolojic Oncology Seminar in Nagasaki. 長崎Web, 2024.2.29.

2）「腎移植」
錦戸雅春.
第一部　腎移植に関する基礎知識. 第２回腎代替医療推進セミナー in 長崎. 長崎Web, 2024.3.3.

F-b：学会・研究会座長［国内学会］

＜座長＞

1）錦戸雅春.
ABO不適合腎移植・de novo DSA. 第57回日本臨床腎移植学会. 名古屋, 2024.2.14.

2）錦戸雅春.
腎腫瘍/薬物療法③. 第111回日本泌尿器科学会総会. 横浜, 2024.7.25-27.

3）錦戸雅春.
VAモニタリング・管理１. 第69回日本透析医学会学術集会・総会. 横浜, 2024.6.7-9.

4）錦戸雅春.
レシェピント手術. 第39回腎移植・血管外科研究会. 大阪. 2024.6.13-14.

5）錦戸雅春.
一般演題. RCC Expert Meeting in 長崎. 長崎, 2024.11.7.

6）錦戸雅春.
シンポジウム「腎代替療法の新展開～九州から望む新しい景色、地域における多職種連携のすすめ～」.
第56回九州人工透析研究会総会. 長崎, 2024.12.15.

7）錦戸雅春.
スイーツセミナー　皮膚科専門医の視点で診るCKD関連掻痒症. 第56回九州人工透析研究会総会. 長崎, 2024.12.15.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

産婦人科

責任者　福田 雅史

診療科の特色

(1) 総合周産期母子医療センター

新生児集中治療認定病床（NICU）９床、母体胎児集中治療室（MFICU）６床を有する県内最大の周産期母子医療センターである。長崎県央および離島地域の第２次・第３次周産期医療センターとして、さらに長崎県全体の第３次周産期医療センターとして、県内最多の母体搬送を受け入れている。救命救急センター、ドクターヘリを併設する総合周産期母子医療センターは全国的にも数カ所しかなく、きわめて緊急性を要する重症疾患の母体搬送に効果を挙げている。切迫早産の子宮収縮抑制剤の短期投与法、経口子宮収縮抑制剤の廃止、分娩時のクリステレル法の撤廃、低い会陰切開施行率など、エビデンスに基づく周産期医療を実践している。糖代謝異常妊娠の管理では臨床研究で全国をリードする。日本周産期・新生児医学会基幹研修施設。全国母体胎児医療連絡協議会（MFICU）幹事施設。

(2) 婦人科がん治療センター

婦人科がんの治療センターとして、各種婦人科がんに対する手術、化学療法、放射線療法などの集学的治療を実施している。放射線治療センター（腔内照射を含む）、外来化学療法センター、PETセンターを有するがん拠点病院である。2022年５月より最新の腔内照射装置を導入し、進行子宮頸がん治療症例数が増加している。子宮頚がんに対する広汎子宮全摘術では、神経温存術式により術後患者のQOL改善に寄与している。近年の化学療法の進歩に伴い、新規薬物を用いた化学療法にも積極的に取り組んでいる。

(3) 産科オープンシステム

2003年７月、全国に先駆けてオープンシステムを導入し約20年の実績がある。産科オープンシステムは、ローリスク妊娠を対象に、大村市内の１つの産婦人科診療所と完全オープンシステムとして連携し実績を上げている。2025年度からは、市内開業医の分娩取り辞めに伴い、同産婦人科診療所とあらたにオープンシステム契約を結び、地域産科医療の維持に貢献している。

(4) 産婦人科専門医研修プログラム基幹施設

2017年度より開始した産婦人科専門医制度の基幹施設。九州を中心とした総合周産期母子医療センター４基幹施設と連携したプログラムで、これまで亀田総合病院、沖縄中部病院、飯塚病院、鹿児島市立病院から専修医を受け入れている。

(5) 臨床研究活動

臨床実績とともに臨床研究に力を入れており、国内外の産婦人科関連学会に多数の臨床研究を報告し、とくに「妊娠と糖尿病」の分野では国内外の臨床研究をリードする。また、国立病院機構ネットワーク研究では、全国のNHO周産期センターとの多施設共同研究の代表研究者施設として、周産期分野の臨床研究の発展に貢献している。

(6) 産科シミュレーション教育

Advanced Life Support in Obstetrics（ALSO）、Basic Life Support in Obstetrics（BLSO）などの産科シミュレーション教育を毎年開催し地域医療レベルの向上に貢献している。ALSOは、離島の周産期医療従事者、救命救急医、助産師、研修医を対象に、BLSOは、おもに救命救急士、救急隊員を対象に、「安心・安全なお産を提供する」ことをテーマにした周産期の医療安全教育コースである。それらコースの認定インストラクターとしてコースの開催・指導を行っている。

入院診療実績

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	（再掲）死亡	
11,156人	30.5人	1,264人	1,256人	8人	8.9日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
658件	95.5%	851件	119.9%	2件	0.3%

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
524人(41.4%)	217人(17.1%)	28人(2.2%)	28人(2.2%)	8人(0.6%)	70人(5.5%)

島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
112人(8.8%)	77人(6.1%)	21人(1.7%)	4人(0.3%)		38人(3.0%)

平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町
3人(0.2%)		3人(0.2%)	2人(0.2%)		3人(0.2%)

壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外
6人(0.5%)	21人(1.7%)	22人(1.7%)	79人(6.2%)

合計
1,266人

産科入院主要10疾患

疾患名	ICD-10コード	症例数
1）切迫早産	O470	83
2）前期破水	O429	22
3）多胎妊娠	O849	38
4）妊娠高血圧症候群	O130, O141	47
5）糖尿病・妊娠糖尿病	O240, O241, O244	97
6）子宮内胎児発育制限	O365	22
7）胎児奇形・その他の胎児異常・羊水量異常	O359	37
8）常位胎盤早期剝離・NRFS	O459, O683	35
9）前置胎盤	O441	7
10）その他の合併症妊娠		33

婦人科入院主要10疾患

疾患名	ICD-10コード	症例数
1）子宮頸がん	C539	48
2）子宮頸部上皮内新生物	N872	25
3）子宮体がん・子宮肉腫	C542, C549	42
4）子宮内膜増殖症	N850, N851	11
5）卵巣がん・卵管がん・腹膜がん	C482, C56	33
6）子宮筋腫	D259	25
7）良性卵巣腫瘍	D27	34
8）異所性妊娠・卵巣出血	O009、N838	13
9）子宮脱	N81	2
10）外陰がん・腟がん	C519, C52	3

主要産科手術

手術名	Kコード	患者数
帝王切開　緊急	K8981, 8983	107
帝王切開　選択的	K8982	102
頸管縫縮術　緊急	K9061, K9062	19
頸管縫縮術　選択的	K9061, K9062	2
吸引分娩	K893	19
子宮内容清掃術（人工妊娠中絶術を含む）	K909	15
不妊手術	K887-21	27
その他の産科手術		8

主要産科手術

手術名	Kコード	患者数
子宮頸がん手術　広汎	K877	6
子宮頸がん手術　準広汎または単摘	K877	6
子宮頸がん手術　治療的円切	K867	1
子宮頸部上皮内新生物　単摘	K877	15
子宮頸部上皮内新生物　円切	K867	13
子宮体がん手術	K877	28
卵巣がん手術	K889	24
単純子宮全摘術（腹式または腟式）	K877	12
単純子宮全摘術（腹腔鏡）	K877	34
子宮筋腫　核出術（開腹）	K8721, 8722	3
子宮筋腫　核出術（腹腔鏡）	K8722	2
子宮鏡手術	K8723	8
良性卵巣腫瘍手術（開腹）	K8881	8
良性卵巣腫瘍手術（腹腔鏡）	K8882	30
異所性妊娠・卵巣出血手術（開腹）	K9121	4
異所性妊娠・卵巣出血手術（腹腔鏡）	K9122	4
子宮脱手術	K865	1
腟腫瘍・外陰腫瘍手術	K549, 856	3
子宮内膜掻爬術	K861	26
その他の婦人科手術		6

手術件数と麻酔

総手術数	全身麻酔	腰椎麻酔・硬膜外麻酔	静脈麻酔	局所麻酔	緊急手術	予定手術	開腹術	開腹術（帝切除く）	腹腔鏡手術
471	191	240	36	3	144	327	311	102	69

その他診療科別の実績資料

分娩数

	単胎	双胎	品胎	多胎	単胎帝切	単胎帝切率	双胎帝切	品胎帝切	多胎帝切	多胎帝切率	全体分娩数	全体帝切数	全体帝切率
早産	71	10	0	10	36	50.7%	10	0	10	100.0%	81	46	56.8%
正期産	454	22	0	22	142	31.3%	21	0	21	95.5%	476	163	34.2%
過期産	0	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%	0	0	0.0%
合計	525	32	0	32	178	33.9%	31	0	31	96.9%	557	209	37.5%

週数別分娩数

分娩時妊娠週数	単　胎	双　胎	品胎以上	総　数
22	2	0	0	2
23	1	0	0	1
24	4	0	0	4
25	2	0	0	2
26	1	0	0	1
27	1	0	0	1
28	4	1	0	5
29	3	0	0	3
30	2	0	0	2
31	4	0	0	4
32	4	0	0	4
33	3	1	0	4
34	8	3	0	11
35	11	0	0	11
36	21	5	0	26
37	48	5	0	53
38	104	15	0	119
39	186	2	0	188
40	81	0	0	81
41	35	0	0	35
42	4	0	0	4
計	525	32	0	557

週数別分娩数（帝切例）

分娩時妊娠週数	単　胎	双　胎	品胎以上	総　数
22	0	0	0	0
23	1	0	0	1
24	3	0	0	3
25	2	0	0	2
26	1	0	0	1
27	1	0	0	1
28	4	1	0	5
29	2	0	0	2
30	1	0	0	1
31	2	0	0	2
32	3	0	0	3
33	2	1	0	3
34	1	3	0	4
35	5	0	0	5
36	8	5	0	13
37	20	4	0	24
38	47	15	0	62
39	63	2	0	65
40	7	0	0	7
41	5	0	0	5
42	0	0	0	0
計	178	31	0	209

出生体重別分娩数

出生体重	単　胎	双　胎	品胎以上	総　数
500g未満	3	1	0	4
500g-999g	11	0	0	11
1,000g-1,499g	11	3	0	14
1,500g-1,999g	20	7	0	27
2,000g-2,499g	58	20	0	78
2,500g-2,999g	171	27	0	198
3,000g-3,499g	197	6	0	203
3,500g-3,999g	49	0	0	49
4,000g-4,499g	5	0	0	5
4,500g以上	0	0	0	0
計	525	64	0	589

救急搬送受け入れ数

月	搬送数
1月	4
2月	5
3月	6
4月	7
5月	10
6月	2
7月	4
8月	13
9月	8
10月	12
11月	11
12月	6
合計	115
平均	9.6

研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
周産期カンファレンス	週1回
術前カンファレンス	週1回
抄読会	週1回
婦人科がん症例カンファレンス	月2回
糖尿病と妊娠カンファレンス	月1回
リサーチミーティング	月1回

学会・論文など

1）原著論文　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数				

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

2）学会発表　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数				

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

3）学術講演　　**（件数）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数				

4）学会座長　　**（件数）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数				

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

研究業績

論　文　発　表

A：英文

A-a1：英文原著

1）Novel method for determining fibrin/fibrinogen degradation product and fibrinogen threshold criteria by artificial intelligence in cases of massive hemorrhage during delivery with hematuria.
Miyagi Y, Tada K, Yasuhi I, Nomiyama M, Maegawa Y, Tanaka N, Mizunoe T, Emoto I, Maeda K, Kawakami K, for the Collaborative Research in National Hospital Organization Network Pediatric and Perinatal Group.
J Clin Med 2024；21；13(6)：1826. doi：10.3390/jcm13061826.

2）Current status of screening and management of gestational diabetes in early pregnancy：a questionnaire survey in Japan.
Yokoyama M, Miyakoshi K, Nakanishi S, Iwama N, Aoki S, Yasuhi I, Sugiyama T.
Diabetology International online 2024；doi.org/10.1007/s13340-024-00700-1.

3）Risk of fetal undergrowth in the management of gestational diabetes mellitus in Japan.
Kawasaki M, Arata N, Sugiyama T, Moriya T, Itakura A, Yasuhi I, Uchigata Y, Kawasaki Esone H, Hiramatsu Y, DREAMBee study gestational diabetes mellitus group.
J Diabetes Investig 2023；14：614–622.

4）Is early pregnancy hemoglobin A1c useful to predict gestational diabetes mellitus diagnosed during mid pregnancy?.
Nakanishi S, Aoki S, Iwama N, Yasuhi I, Sugiyama T, Miyakoshi K.
J Obstet Gynaecol Res 2024；doi：10.1111/jog.16108.

5）Impact of maternal overweight/obesity and high fasting plasma glucose on adverse perinatal outcomes in early gestational diabetes mellitus.
Iwama N, Yokoyama M, Yamashita H, Miyakoshi K, Yasuhi I, Kawasaki M, Arata N, Sato S, Iimura Y, Masako W, Kawaguchi H, Masaoka N, Nakajima Y, Hiramatsu Y, Sugiyama T；DREAMBee Study Gestational Diabetes Mellitus Group.
J Diabetes Investig 2025；doi：10.1111/jdi.14411. Epub ahead of print. PMID：39856811.

6）Early-onset preeclampsia/gestational hypertension may be associated with a low incidence of cerebral palsy at 3 years old in singleton very low-birth-weight infants born at 28–31 weeks of gestation (EOPE-DQ study)：a multi-center retrospective cohort study in 2013–2016.
Ohkuchi A, Suzuki H, Kanai A, Fukuda M, Takeda Y, Fuseya C, Nomiyama M, Ushida T, Watanabe K, Kono Y, Naruse K, Seki H, Saito S.
Hypertension Research 2024；doi：10.1038/s41440-024-01929-8.

B：和文

B-a2：和文症例報告

1）腹腔鏡手術が有効であった子宮漿膜下筋腫の自然出血により腹腔内出血を生じた２症例.
山口純子、松口一道、小川真幸.
日本産科婦人科学会内視鏡学会雑誌 2024；40(1)：155-160.

B-b：和文総説

1）巨大児発症のメカニズムはどこまでわかっているか？.
安日一郎.
周産期医学 2024；53（増刊号）：194-197.

２）周産期における研修医・新人助産師／看護師教育の必須知識：産科編：妊娠中の管理「妊娠糖尿病」.
安日一郎.
周産期医学 2024；54 (2)：215-219.

３）特集『「次」につなぐ周産期医療：次回妊娠への対策と次世代への影響を考える」妊娠症候群の次回妊娠：妊娠糖尿病（GDM）.
山下洋.
周産期医学 2024；54 (4)：457-459.

B-d：和文報告書

１）高度肥満妊娠糖尿病妊婦の妊娠糖尿病診断後の light-for-dates児の発症.
山下洋、五十川智司、山口純子、杉見創、古賀恵、安日一郎.
糖尿病と妊娠 2024；24 (2)：S95-97.

２）妊娠糖尿病の産褥早期の骨格筋量に関する検討.
古賀恵、林勝仁、山下洋、菅幸恵、福田雅史、安日一郎.
糖尿病と妊娠 2024；24 (2)：S126-127.

３）妊娠糖尿病の診断時期と周産期予後および産後耐糖能異常との関連についての検討.
横山真紀、岩間憲之、宮越敬、山下洋、安日一郎、川﨑麻紀、荒田尚子、佐藤志織、飯村祐子、和栗雅子、川口晴菜、正岡直樹、中島義之、平松祐司、杉山隆.
糖尿病と妊娠 2025.

学会・研究会・講演

A：国際学会, 国際会議

A-b2：一般演題

＜ポスター＞

１）Early postpartum appendicular skeletal muscle mass in Japanese women with gestational diabetes.
Koga M, Hayashi K, Yamashita H, Yasuhi I.
SMFM2024：44th Pregnancy Meeting. National Harbor, MD, USA, 2024.2.9-14.

２）Association between Trunk Muscle Mass and Persistent Postpartum Low Back and Pelvic Pain.
Hayashi K, Koga M, Takazawa K, Yasuhi I.
SMFM2024：44th Pregnancy Meeting. National Harbor, MD, USA, 2024.2.9-14.

３）Efficacy of glycated albumin in the management of gestational diabetes.
Sugimura Y, Fukuoka M, Ashimoto K, Yamashita H, Yasuhi I.
SMFM2024：44th Pregnancy Meeting. National Harbor, MD, USA, 2024.2.9-14.

B：国内学会

B-a：特別講演, 教育講演

＜特別講演＞

１）子宮頸がんとHPVワクチン.
安日一郎.
2024年度長崎県助産師会. 長崎, 2024.5.26.

２）進行・再発子宮体癌の治療戦略と多職種連携：レンバチニブ・ペムブロリズマブ療法の使用経験をふまえて
古賀恵.
大村東彼薬剤師会第 1 回臨床連携セミナー . 大村, 2024.7.11.

３）妊娠糖尿病を考える.
安日一郎.
第48回DOHaD寺子屋. Web, 2024.9.21.
４）妊娠糖尿病.
安日一郎.
嘉穂市役所健康課講演会. 嘉穂, 2024.12.9.

＜教育講演＞
１）妊娠高血圧症候群と妊娠糖尿病：リスク因子から考える共通した病態の視点：産後フォローアップ、プレコンセプション・ケア、さらに、post-reproductive careへ.
安日一郎.
2024年度長崎県助産師会. 長崎, 2024.9.8.
２）妊娠中の血糖コントロールの達成度と分娩時の血糖管理、新生児合併症.
菅幸恵.
市立恵那病院産婦人科講演会. 恵那, 2024.10.11.
３）妊娠中のインスリン導入法と簡易インスリン療法：「産婦人科医が主役です」.
安日一郎.
市立恵那病院産婦人科講演会. 恵那, 2024.10.11.
４）新糖尿病の新たな展開.
安日一郎.
第62回日本糖尿病学会九州地方会. 福岡, 2024.10.26.

B-b1：シンポジウム，パネルディスカッション等
＜シンポジウム＞
１）人工知能を用いた分娩後異常出血におけるフィブリノゲンおよびFDP境界閾値の決定方法.
多田克彦、宮木康成、吉田瑞穂、安日一郎、野見山亮、山口恭平、田中教文、水之江知哉、江本郁子、前田和寿、川上浩介.
第34回日本産婦人科・新生児血液学会学術集会. 松山, 2024.6.7.
２）母体搬送と新生児搬送を考える.
福田雅史.
第６回長崎県周産期医療フォーラム. 長崎, 2024.11.4.
３）ペダーセン仮説の病態理論：糖尿病性胎児・新生児病の病態生理論の展開.
安日一郎.
第40回日本糖尿病・妊娠学会. 大宮, 2024.11.22-23.
４）妊娠糖尿病既往女性の産後の体重変化と糖代謝異常発症.
山下洋勘、澤晴美、安日一郎.
第40回日本糖尿病・妊娠学会. 大宮, 2024.11.22-23.

＜パネルディスカッション＞
１）『しまのうまれる』から、『日本のうまれる』を考える.
山口純子.
第15回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会. 浜松, 2024.6.7-9.

B-b2：一般演題

＜口演＞

1）当院における再発子宮頸癌に対するセミプリマブ投与の現状.
小川昌幸、古賀恵、福田雅史、五十川智司、杉見創、山口純子、菅幸恵、山下洋、安日一郎.
276回長崎産科婦人科学会. 長崎, 2024.5.12.

2）GDM妊婦は産後うつ病のリスクが高い.
末英明、古賀恵、山下洋、五十川智司、杉見創、菅幸恵、福田雅史、安日一郎.
第60回日本周産期・新生児医学会. 大阪, 2024.7.13-15.

3）妊娠後期に感染が判明した梅毒合併妊娠の一例.
藤本拓也、山口純子、菅幸恵、林田啓佑、末英明、小川真幸、五十川智司、杉見創、古賀恵、福田雅史、山下洋、安日一郎.
第60回日本周産期・新生児医学会. 大阪, 2024.7.13-15.

4）過去10年間の当院における梅毒合併妊娠についての検討.
林田啓佑、藤本拓也、山口純子、末英明、小川真幸、五十川智司、杉見創、古賀恵、菅幸恵、山下洋、福田雅史、安日一郎.
第60回日本周産期・新生児医学会. 大阪, 2024.7.13-15.

5）妊娠糖尿病既往女性の産後の体重復帰は糖尿病発症予防になる.
山下洋勘、澤晴美、五十川智司、山口純子、杉見創、古賀恵、菅幸恵、福田雅史、安日一郎.
第60回日本周産期・新生児医学会. 大阪, 2024.7.13-15.

6）子宮頸部中等度異形成（CIN2）の臨床経過に関する検討.
小川昌幸、福田雅史、五十川智司、古賀恵、杉見創、山口純子、菅幸恵、山下洋、安日一郎、三浦史郎.
第66回日本婦人科腫瘍学会学術講演会. 鹿児島, 2024.7.17-19.

7）妊娠糖尿病におけるエジンバラ産後うつ病質問表の有用性についての検討.
末英明、古賀恵、山下洋、小川真幸、五十川智司、杉見創、菅幸恵、安日一郎、福田雅史.
277回長崎産科婦人科学会. 長崎, 2024.9.23.

8）妊娠糖尿病女性の産褥早期の骨格筋量と妊娠中のインスリン抵抗性.
古賀恵、林勝仁、菅幸恵、山下洋、福田雅史、安日一郎.
第40回日本糖尿病・妊娠学会. 大宮, 2024.11.22-23.

9）骨格筋量は妊娠中の体重増加と関連するか？.
古賀恵、林勝仁、菅幸恵、山下洋、福田雅史、安日一郎.
第40回日本糖尿病・妊娠学会. 大宮, 2024.11.22-23.

10）妊娠糖尿病妊婦のHbA1c値およびグリコアルブミン値と周産期予後.
菅幸恵、福岡操、古賀恵、山下洋、福田雅史、安日一郎.
第40回日本糖尿病・妊娠学会. 大宮, 2024.11.22-23.

11）母乳哺育は妊娠糖尿病既往女性の産後早期の脂質プロファイルを改善する.
勘澤晴美、山下洋、安日一郎、江藤宏美.
第40回日本糖尿病・妊娠学会. 大宮, 2024.11.22-23.

＜Poster＞

1）Perinatal and Postpartum Outcomes in Women with Delayed Diagnosis of Gestational Diabetes.
Sue H, Yamashita H, Isokawa S, Yamaguchi J, Sugimi S, Koga M, Suga S, Fukuda M, Yasuhi I.
第76回日本産科婦人科学会学術講演会. 横浜, 2024.4.19-21.

２）Weight management after the diagnosis of gestational diabetes in severely obese women.
Yamashita H, Isokawa S, Yamaguchi J, Sugimi S, Koga M, Suga S, Fukuda M, Yasuhi I.
第76回日本産科婦人科学会学術講演会. 横浜, 2024.4.19-21.

３）妊娠糖尿病と正常妊婦の産褥早期の骨格筋量の比較検討.
古賀恵、小川真幸、末英明、五十川智司、山口純子、杉見創、菅幸恵、福田雅史、山下洋、安日一郎.
第76回日本産科婦人科学会学術講演会. 横浜, 2024.4.19-21.

４）当院における再発子宮頸癌に対するセミプリマブ投与の現状.
小川昌幸、古賀恵、福田雅史、五十川智司、杉見創、山口純子、菅幸恵、山下洋、安日一郎.
第76回日本産科婦人科学会学術講演会. 横浜, 2024.4.19-21.

５）母乳哺育が妊娠糖尿病既往女性の産後早期の脂質プロファイルに与える影響.
勘澤晴美、山下洋、安日一郎.
第76回日本産科婦人科学会学術講演会. 横浜, 2024.4.19-21.

６）妊娠中のヘマトクリット値と妊娠高血圧腎症発症の関連.
鈴木賢哉、菅幸恵、藤井彩乃、末英明、小川真幸、五十川智司、杉見創、古賀恵、山口純子、福田雅史、山下洋、安日一郎.
第76回日本産科婦人科学会学術講演会. 横浜, 2024.4.19-21

７）単胎妊婦における治療的子宮頸管縫縮術の予後とそのリスク因子の検討.
藤井彩乃、菅幸恵、鈴木賢哉、末英明、小川真幸、五十川智司、杉見創、古賀恵、山口純子、福田雅史、山下洋、安日一郎.
第76回日本産科婦人科学会学術講演会. 横浜, 2024.4.19-21.

８）敗血症性ショックによる母体死亡と考えられたが起炎菌が検出されなかった一例.
山下慶、山口純子、菅幸恵、末英明、小川真幸、五十川智司、杉見創、古賀恵、山下洋、福田雅史、安日一郎.
第60回日本周産期・新生児医学会. 大阪. 2024.7.13-15.

F：学術講演他

F-b：学会・研究会座長［国内学会］

＜座長＞

１）一般演題（口演セッション）：胎児心拍数モニタリング.
菅幸恵.
第60回日本周産期・新生児医学会. 大阪, 2024.7.13-15.

２）一般演題（ポスターセッション）：肝／消化器.
菅幸恵.
第60回日本周産期・新生児医学会. 大阪, 2024.7.13-15.

３）一般演題セッション.
福田雅史.
277回長崎産科婦人科学会. 長崎, 2024.9.23.

４）県央地区のすくすく運用に関して.
福田雅史.
長崎県周産期医療支援システム研修会. 長崎, 2024.12.4.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

眼科

責任者　前川 有紀

診療科の特色

眼科診療において、長崎県央および島原地区の中核病院として幅広い役割を担っています。外来では、一般的な眼科検査機器に加え、広角でのフルオレセイン・インドシアニングリーン蛍光眼底造影検査や、皮膚電極網膜電図、涙道内視鏡検査なども実施可能となり、糖尿病網膜症、加齢黄斑変性、ぶどう膜炎、網膜色素変性、鼻涙管狭窄・閉塞症などの幅広い疾患に対応しています。各種注射（硝子体内注射、眼瞼痙攣に対するボトックス注射）やレーザー治療（網膜光凝固術、選択的レーザー繊維柱帯形成術など）、日帰り白内障手術などを外来で実施しております。また、水曜午後に斜視・弱視、金曜午後にロービジョンケアの専門外来を設けており、NICUにおける未熟児網膜症診療も専門性が高い医師が担当しております。手術は白内障手術が最多ですが、成熟白内障やチン氏帯断裂などの難症例が多く、精神発達遅滞や認知症がある場合には全身麻酔での手術も選択肢となります。裂孔原性網膜剥離や糖尿病網膜症、黄斑円孔などに対する網膜硝子体手術や、内斜視・外斜視に対する斜視手術、緑内障に対するiStentW挿入術、線維柱帯切開術（眼内法）、Ahmed緑内障インプラント挿入術のほか、鼻涙管閉鎖症に対する涙嚢鼻腔吻合術（鼻内法）を耳鼻咽喉科と合同で行うなど、多岐にわたる手術に対応しております。

入院診療実績

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	（再掲）死亡	
1,056人	2.9人	492人	491人		2.1日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
545件	93.8%	1,814件	310.6%		

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
230人(46.8%)	52人(10.6%)	2人(0.4%)	3人(0.6%)	4人(0.8%)	18人(3.7%)

島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
77人(15.7%)	96人(19.6%)	3人(0.6%)			4人(0.8%)

平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町
1人(0.2%)					

壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外
		1人(0.2%)	

合計
491人

入院主要10疾患主要疾患別臨床統計ならびに治療成績（外来手術を含む、重複あり）

疾患名	ICD-10コード	眼数	死亡退院数
白内障	H25	548	0
網膜剥離	H33	42	0
緑内障	H40	69	0
黄斑円孔	H35	35	0
黄斑前膜	H35	31	0
糖尿病網膜症	H36	8	0
水晶体のその他の障害	H27	4	0
翼状片	H11	15	0
眼内レンズの合併症	T85	10	0
斜視	H50	24	0

主要10手術方法臨床統計ならびに治療成績（重複あり）

手術名	Kコード	手術件数(眼)	死亡退院数
水晶体再建術	K282	658	0
（うち、眼内レンズ強膜内固定術）	K282-1イ	18	0
（うち、水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術）	K268-6	32	0
緑内障手術（流出路再建術　眼内法）	K268-2イ	35	0
硝子体茎顕微鏡下離断術（網膜付着組織を含むもの）	K280-1	94	0
硝子体茎顕微鏡下離断術（その他のもの）	K280-2	16	0
硝子体切除術	K279	10	0
増殖性硝子体網膜症手術	K281	11	0
斜視手術	K242	25	0
翼状片手術	K244	15	0

手術件数と麻酔

総手術数	全身麻酔	腰椎麻酔・硬膜外麻酔	静脈麻酔	局所麻酔	緊急手術	待機手術
751	30	0	0	721	39	712

手術成績

	件数	在院死亡	1ヶ月以内死亡	再手術	手術部位感染症
待機手術	712	0	0	0	0
緊急手術	39	0	0	1	0

研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
診療カンファランス	2回/週

学会・論文など

1）原著論文　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	0	0	0	0

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

2）学会発表　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	2	1	0

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

3）学術講演　　**（件数）**

種類	シンポジウム			
件数	1			

4）学会座長　　**（件数）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0			

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

研究業績

学会・研究会・講演

A：国際学会, 国際会議

A-b2：一般演題

＜口演＞

1）未熟児網膜症に対する網膜光凝固術の長期経過.
斉藤淳哉、木下明夫、大槻早紀、中尾史郎、佐藤健人、前川有紀.
第78回日本臨床眼科学会. 京都, 2024.11.14.

B：国内学会

B-b1：シンポジウム, パネルディスカッション等

＜シンポジウム＞

1）始めるのにあと一歩勇気がでない方に聞いてほしいロービジョンケア症例集Ⅱ.
石子智士、仲泊聡、山口正和、森隆史、横峯弘隆、田辺直彦.
インストラクションコースIC５. 第78回日本臨床眼科学会. 京都, 2024.11.14.

B-b2：一般演題

＜Poster＞

1）長崎医療センターにおけるロービジョンケア普及と外来開設の経過.
前川有紀、西川久美子、江草和香.
第25回日本ロービジョン学会学術総会. 東京, 2024.5.24.

B-c：研究会発表

＜口演＞

1）網膜光凝固術を受けた未熟児網膜症既往児の長期経過.
斉藤淳哉、木下明夫、大槻早紀、中尾史郎、佐藤健人、前川有紀.
第232回長崎県眼科集談会. 長崎, 2024.9.8.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

耳鼻咽喉科

責任者　田中 藤信

診療科の特色

常勤スタッフ医師４名、言語聴覚士（ST）２名で診療を行っています。嚥下機能検査、訓練も充実しています。当科は頭頸部領域の腫瘍や慢性中耳炎・慢性副鼻腔炎などの難治性疾患に対して、外科治療を中心に、抗がん剤動注併用放射線治療などの形態温存治療にも力を入れています。また急性の炎症性疾患や急性の難聴、めまい、顔面神経麻痺など入院が必要な方の治療も行っています。

＜手術＞

「脳」と「眼」を除いた頭頸部領域全般の手術を行っています。

【頭頸部悪性腫瘍】頭頸部領域の腫瘍摘出術や頸部郭清術から口腔・咽頭・上顎などの広範囲摘出術と再建手術などは形成外科・外科と協力して行っています。

【耳】鼓膜形成術、鼓室形成術、乳突削開術、耳小骨再建術ほか

【鼻】内視鏡下鼻内手術、鼻中隔矯正術ほか

【咽頭】口蓋扁桃摘出術、アデノイド切除術ほか

【喉頭】顕微鏡下声帯手術、音声改善手術ほか

【唾液腺】耳下腺手術、顎下腺手術、がま腫摘出術ほか

【甲状腺】甲状腺手術（葉切除、全摘、気管合併切除など）

【頸部】頸部良性腫瘍摘出術、正中頸嚢胞摘出術、側頸嚢胞摘出術、頸部リンパ節生検ほか

【気道】気管切開術、喉頭気管分離術ほか

＜特殊検査＞

【聴性脳幹反応（ABR）検査・聴性定常反応（ASSR）検査】新生児に対する脳波を用いた聴力検査

【COR】条件詮索反応聴力検査

【平衡機能検査】めまいに対する検査

【VF検査・VE検査】嚥下機能評価検査

＜ST訓練＞

嚥下障害の嚥下機能評価検査を行い。摂食・嚥下の間接・直接訓練、顔面神経麻痺の理学療法、構音訓練、失語に対する訓練、発声訓練などを行っています。

入院診療実績

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	（再掲）死亡	
6,592人	18.0人	571人	574人	４人	11.5日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
602件	88.5%	585件	85.2%		

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
207人(35.9%)	157人(27.3%)	14人(2.4%)	9人(1.6%)	3人(0.5%)	45人(7.8%)

島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
36人(6.3%)	62人(10.8%)	20人(3.5%)	1人(0.2%)	1人(0.2%)	3人(0.5%)

平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町
		2人(0.3%)	2人(0.3%)		

壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外
	3人(0.5%)	8人(1.4%)	3人(0.5%)

合計
576人

入院主要10疾患主要疾患別臨床統計ならびに治療成績

疾患名	ICD-10コード	症例数	死亡退院数
中耳炎	H65, H66, H71	80	
慢性副鼻腔炎	J32	50	
扁桃およびアデノイドの慢性疾患	J35	34	
中咽頭の悪性新生物	C10	34	
甲状腺がん	C73	27	
梨状陥凹がん	C12	22	1
大唾液腺の良性新生物	D11	22	
舌の悪性新生物	C02	19	
下咽頭がん	C13	16	
伝音性、感音性難聴以外の難聴	H91	14	

主要10手術方法臨床統計ならびに治療成績

手術名	Kコード	患者数	死亡退院数
内視鏡下鼻内手術	K340, K347	71	0
鼓膜形成・鼓室形成・アブミ骨手術	K318, K319, K320	62	0
扁桃摘出術・アデノイド切除	K370, K377	41	0
鼓膜チューブ留置術	K309	30	0
口腔癌、咽頭癌、喉頭癌	K394, K395, K410, K415	28	0
耳下腺腫瘍（良性＋悪性）	K457, K458	24+4	0
甲状腺腫瘍（良性＋悪性）	K461, K463	4+22	0
リンパ節生検	K626	26	0
気管切開（救命病棟を除く）	K386	18	0
頚瘻・頚嚢摘出術	K467	10	0

手術件数と麻酔

総手術数	全身麻酔	腰椎麻酔・硬膜外麻酔	静脈麻酔	局所麻酔	緊急手術	待機手術
392	341	0	0	51	19	373

手術成績

	件数	在院死亡	1ヶ月以内死亡	再手術	手術部位感染症
待機手術	373	0	0	3	0
緊急手術	19	0	0	0	0

その他診療科別の実績資料

摂食嚥下介入

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
入院	51	44	45	51	58	59	76	55	59	55	58	64
外来	3	6	4	3	3	6	4	2	4	5	3	3

研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
病棟症例カンファレンス	週1回
摂食嚥下カンファレンス	隔週

治験、共同臨床研究（症例登録する研究）

NHOネットワーク共同研一覧

No.	区分（NHO/EBM）	研究課題名（採択番号）	研究代表者名	研究代表者施設名	研究責任者名	同意書の有無
1	NHO	聞こえにくい方を対象としたオンライン聴覚検査精度に関する観察研究（R5-NHO(感覚)-02）	南修司郎	東京医療センター	吉田晴郎	有
2	NHO	先天性および若年性に発症する難聴の遺伝的原因および詳細な臨床的特徴の解明（採択番号：R3-NHO(感覚器)-02）	松永達雄	東京医療センター	吉田晴郎	有
3	NHO	難聴者に対する補聴器介入の有無における認知機能の影響に関する比較試験 R5-NHO(感覚)-03	神崎　晶	東京医療センター	田中藤信	有
4	NHO	内頚動脈変位走行異常による咽喉頭異常感の把握と、その診断法の標準化を目指す研究－咽喉頭異常感における内頚動脈変位走行異常の把握と臨床的意義の研究－ R5-NHO(感覚)-[01]	角田晃一	東京医療センター	田中藤信	有

競争的研究費一覧

No.	項目（財源別） ①文部科学省科学研究費、②科学研究費助成事業（科学研究費補助金）、③科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）、④科学技術振興機構科学研究費、⑤その他文部科学省関連研究費、⑥厚生労働科学研究費、⑦国立高度専門医療センター等研究費、⑧その他厚生労働省関連研究費、⑨日本医療研究開発機構研究費、⑩その他財団等からの研究費、⑪民間セクターからの寄附金	研究課題名	研究者名	研究事業名（依頼業者名）	主任分担	新規継続
1	②科学研究費助成事業（科学研究費補助金）	難聴児見逃しゼロを目指した小児聴覚スクリーニングシステムの構築	吉田晴郎	科学研究費 基盤C	主任	継続

学会・論文など

1）原著論文　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	4	3		1

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

2）学会発表　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数		11		8

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

3）学術講演　　**（件数）**

種類				
件数				

4）学会座長　　**（件数）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数				

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

研究業績

論　文　発　表

A：英文

A-a1：英文原著

1）Questionnaire Survey to Identify the Medical Departments That Patients With Possible Head and Neck Cancer (HNC) Symptoms Tend to Choose.
Matsumoto Kouhei, Matsumoto K, Tanaka F, Kumai Y.
Cureus 2024；16(3)：e55715.

2）Analysis of Magnetic Resonance Imaging in Paranasal Mucocele with Visual Disturbance.
Yoshida H, Tanaka F, So K, Kumai Y.
ORL J Otorhinolaryngol Relat Spec 2024；86(3-4)：132-139.

3）Support Desired by Parents of Infants With Hearing Impairments Diagnosed Through Newborn Hearing Screening: A Questionnaire-Based Survey.
Shojinaga S, Yoshida H, Kanda Y, Kumai Y, Takahashi H.
Cureus 2024；16(12)：e75482.

A-a2：英文症例報告

1）Organized hematoma of the sphenoid sinus with epistaxis.
Kitaoka K, Yoshida H, Kumagami H.
Radiol Case Rep 2024；19(3)：1171-1175.

B：和文

B-a1：和文原著

1）顎下腺導管移行部唾石における鼻用内視鏡観察下での口内法の有用性.
松本浩平、吉田晴郎、田中藤信、熊井良彦.
頭頸部外科 2024；33(3), 341-346.

B-a2：和文症例報告

1）成人後の反復する副鼻腔炎を契機に診断された原発性免疫不全症例.
北岡杏子、吉田晴郎、隈上秀高.
日本鼻科学会誌 2024；63(1), 119-126.

2）矢状断により評価した両側の固有鼻腔内逆生歯牙例.
沖田奈菜、吉田晴郎、田中藤信、三浦史郎.
日本鼻科学会誌 2024；63(1), 112-118.

B-c2：和文著書［分担］

1）インピーダンスオージオメトリ.
吉田晴郎.
専門医のための耳鼻咽喉科検査法. 金原出版 2024：pp50-53.

学会・研究会・講演

B：国内学会

B-a：特別講演, 教育講演

＜講演＞

1）耳管ピン手術の実際. 手術の注意点と最新画像診断.
吉田晴郎.
耳管ピン手術実施医認定講習会. 第34回日本耳科学会. 名古屋市, 2024.10.5.

2）耳管機能検査.
吉田晴郎.
実技講習６. 第38回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会　秋季大会. 京都市, 2023.11.4.

B-b2：一般演題

＜口演＞

1）鼻涙管原発の扁平上皮癌の一例.
森彩加、田中藤信、吉田晴郎、熊井良彦.
第47群鼻副鼻腔腫瘍２. 第33回日本頭頸部外科学会. 松山市. 2024.2.1.

2）手術から10年後に心膜転移から心臓浸潤をきたした甲状腺乳頭癌の１例.
松井彰子、田中藤信、永井友基、三浦史郎、佐藤俊輔、有吉毅子男、熊井良彦.
第39群甲状腺４. 第33回日本頭頸部外科学会. 松山市, 2024.2.1.

3）健聴者と両側高度難聴者の内側膝状体体積の検討.
南修司郎、増田佐和子、西村洋、加藤健、小島敬史.
第16群　聴覚基礎・画像検査. 第69回日本聴覚医学会. 豊島区, 2024.10.24.

4）喉頭クリプトコッカス症の１例.
諸富幸、田中藤信、松井彰子、吉田晴郎.
第176回日耳鼻長崎県地方部会学術講演会. 長崎市, 2024.12.8.

＜ポスター＞

1）手術治療を要した前頭洞の骨形成性線維腫および骨腫症例.
吉田晴郎、田中藤信.
Ｐ３群. 第63回日本鼻科学会. 新宿, 2024.9.26.

２）乳幼児健診に他覚的聴力検査および耳鼻科医の診察を導入することの効果.
小路永聡美、熊井良彦.
Ｐ４群. 第19回日本小児耳鼻咽喉科学会. 奈良市, 2024.7.12.

３）乳幼児健診に他覚的聴力検査を導入した結果.
小路永聡美、熊井良彦.
聴覚・耳科・平衡. 第19回日本小児耳鼻咽喉科学会. 大阪市, 2024.5.16.

４）頸部に発生したLangerhans cell sarcomaの一例.
森彩加、田中藤信、沖田奈菜、二宮直樹、吉田晴郎、三原祐美、三浦史郎.
Ｐ３群　唾液腺. 第48回日本頭頸部癌学会. 浜松市, 2024.6.20.

B-c：研究会発表

＜口演＞

１）舌根部甲状舌管嚢胞の１例
沖田奈菜、二宮直樹、森彩加、田中藤信.
大村耳鼻咽喉科研究会. 大村市, 2024.2.28.

２）前頭洞の骨性閉鎖２症例.
吉田晴郎、沖田奈菜、二宮直樹、森彩加、田中藤信.
大村耳鼻咽喉科研究会. 大村市, 2024.2.28.

３）顎下部膿瘍の加療後に開口障害をきたした一例.
二宮直樹、沖田奈菜、森彩加、吉田晴郎、田中藤信.
大村耳鼻咽喉科研究会. 大村市, 2024.2.28.

４）前頭洞骨腫による副鼻腔炎.
吉田晴郎、諸富幸、松井彰子、田中藤信.
大村耳鼻咽喉科研究会. 大村市, 2024.5.22.

５）特異な経過をたどった中咽頭癌症例.
田中藤信、諸富幸、松井彰子、吉田晴郎.
大村耳鼻咽喉科研究会. 大村市, 2024.5.22.

６）成人の咽後膿瘍の１例.
松井彰子、諸富幸、吉田晴郎、田中藤信.
大村耳鼻咽喉科研究会. 大村市, 2024.11.20.

７）口腔底から顎下部の嚢胞性病変～類皮嚢胞と類表皮嚢胞、ガマ腫の鑑別～.
諸富幸、田中藤信、松井彰子、吉田晴郎.
大村耳鼻咽喉科研究会. 大村市, 2024.11.20.

８）広範な喉頭粘膜病変の１例.
田中藤信、諸富幸、松井彰子、吉田晴郎.
大村耳鼻咽喉科研究会. 大村市, 2024.11.20.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

放射線科

責任者　藤本 俊史・酒本 司

放射線科の現状

令和６年度診療報酬改定が実施され、放射線関連では、「画像診断管理加算３」が新設された。当院もその要件に該当するように手続きを進め、「画像診断管理加算３」を取得した。

これにより、年間約２千万円の増収が見込まれる。新型コロナウイルス感染症の収束に向かい、ようやくコロナ前の業務量に戻り医業収益の増加を期待している。一方で、スタッフの増員が難しい現状が継続しており、働きやすい環境の構築に苦慮している。

2024年の放射線部門業務統計について、昨年同様引き続き厳しい運営状況ではあるが、放射線科検査総人数としては、対前年度比約1.5％増加した。これは、CT検査数が201人、核医学検査数が94人、一般撮影が940人増加したことが要因である。

放射線治療部門は、体外照射やRALS（密封小線源治療）による婦人科領域の子宮頸がん・子宮体がん・膣がんの治療が増え、特に早期子宮頸がんに対して手術と並ぶ治療法とされており、外照射との併用により根治的治療法を提供できている。また、画像誘導小線源治療（IGRT）を導入し、長崎県内で最も多くの治療人数を誇っている。更に、婦人科および手術室の協力を得て、組織内併用腔内照射（ハイブリッド照射）を実施しており、治療成績の向上が期待される。

装置関係では、核医学検査（PET-CT）が、更新時期を迎える。昨年の828人から876人と増加したが、採算ベース（4.0人／日）に到達していない。このままでは、装置更新が厳しい状況である。令和６年度診療報酬改定でアルツハイマー病治療薬レカネマブ投与の要否を判断する目的でアミロイドPETが保険適用となった。県内にこのPET検査が実施できる施設は、大学以外に当院を含め３施設しかなく、地域連携室と協働で院外予約を受ける体制を整えた。他の高額医療機器である血管造影装置やCT装置ならびに放射線治療装置も数年後に更新時期を迎えるため、病院の経営状況を鑑みながら計画的な更新が求められる。

診療支援では、原子力災害拠点病院の一員として、派遣チーム研修修了者４人、中核人材研修修了者４人、甲状腺簡易測定研修修了者７人、基礎研修修了者13人と原子力災害医療の人材育成に取り組んでいる。

教育・研修関係では、放射線科医と協働で症例検討会（月１）を実施していたが新型コロナ感染症後から開催を中断している。若手技師の教育の一環として読影能力を向上させるため月1回「夕やけカンファランス」（救急における症例検討）を開催している。

学会・論文関係は、医師：英語論文２編（原著１編・症例報告１編）、学会発表全国２演題、地方会４演題。診療放射線技師：和文論文３編、学会発表全国２演題、地方会２演題であった。

今後も各診療科を後方支援する中央部として信頼される放射線科を目指し、活気あふれる部門運営に取り組んでいきたい。

（文責　診療放射線技師長　酒本　司）

入院診療実績

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	（再掲）死亡	
92人	0.3人	7人	8人		12.3日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
1,050件	97.9%	1,266件	118.0%		

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
1人（14.3%）	2人（28.6%）				

島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
	1人（14.3%）				3人（42.9%）

平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町

壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外

合計
7人

治験、共同臨床研究（症例登録する研究）

治験等参加研究一覧

No.	項目 ①治験、②医師主導治験、③GCP準拠製造販売後臨床試験、④受託臨床研究（文書同意あり）、⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）、⑥公費臨床試験、⑦製造販売後調査（文書同意あり）、⑧製造販売後調査（文書同意なし）、⑨その他	研究課題名	同意書有無	依頼者（または試験母体）	責任医師（または担当研究者名）
1	⑧製造販売後調査（文書同意なし）	経カテーテル的動脈塞栓術における「製品改良点抽出のための臨床評価」	無	株式会社ジェイ・エム・エス	宮崎　敦史

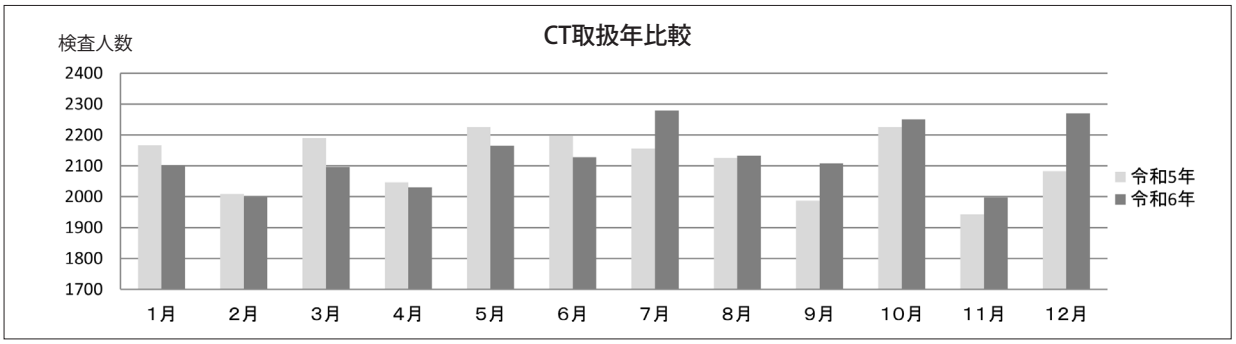
放射線部門診療取扱数年比較

		令和５年	令和６年
総数（人数）		95,075	96,029
一般撮影	総数（人数）	47,550	48,490
	胸部　【件数】	42,270	42,654
	腹部　【件数】	8,311	8,367
	骨　【件数】	14,898	15,672
	乳房　【件数】	4,923	4,711
	造影撮影　【件数】	0	0
	その他　【件数】	8	2
透視	総数（人数）	2,772	2,853
	消化管造影	251	248
	その他造影	2,503	2,605
	透視・撮影のみ	18	0
CT	総数（人数）	25,354	25,555
	頭部	5,917	5,646
	頭部以外	19,437	19,909
MR	総数（人数）	8,185	8,100
	頭部	4,484	4,338
	頭部以外	3,701	3,762
造血管影	総数（人数）	1,032	1,056
	アンギオ	424	414
	心カテ	608	642
核医学	総数（人数）	1,389	1,483
	心筋	158	159
	脳血流	52	55
	骨	128	146
	その他	1,044	1,117
	PET-CT	828	876
	非密封RI治療	7	6
放射線治療	総数（人数）	8,793	8,492
	体外照射	8,415	8,111
	密封小線源治療	108	96
	全身照射	0	0
	定位放射線治療	270	285
	（治療計画）　別掲	578	536

CT取扱年比較

令和５年		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
入院	人数	538	459	491	525	551	502	461	498	413	538	407	444	5,827
	件数	673	569	609	653	670	618	584	609	509	679	518	575	7,266
外来	人数	1,628	1,550	1,699	1,522	1,674	1,696	1,695	1,628	1,574	1,687	1,536	1,638	19,527
	件数	2,003	1,974	2,116	1,887	2,126	2,113	2,113	2,018	1,943	2,088	1,914	2,023	24,318
小計	人数	2,166	2,009	2,190	2,047	2,225	2,198	2,156	2,126	1,987	2,225	1,943	2,082	25,354
	件数	2,676	2,543	2,725	2,540	2,796	2,731	2,697	2,627	2,452	2,767	2,432	2,598	31,584

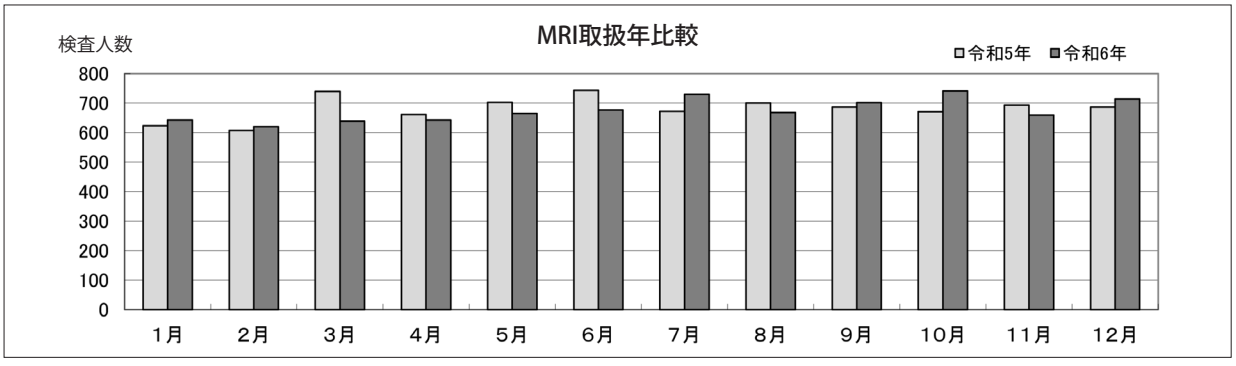
令和６年		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
入院	人数	471	421	444	463	517	483	538	477	478	508	435	482	5,717
	件数	609	529	559	570	665	608	670	598	599	642	547	614	7,210
外来	人数	1,631	1,577	1,652	1,567	1,647	1,645	1,741	1,656	1,630	1,742	1,562	1,788	19,838
	件数	2,047	1,951	2,045	1,942	2,061	2,056	2,162	2,051	2,007	2,170	1,947	2,210	24,649
小計	人数	2,102	1,998	2,096	2,030	2,164	2,128	2,279	2,133	2,108	2,250	1,997	2,270	25,555
	件数	2,656	2,480	2,604	2,512	2,726	2,664	2,832	2,649	2,606	2,812	2,494	2,824	31,859



MRI取扱年比較

令和５年		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
入院	人数	177	156	199	175	192	197	194	201	198	175	180	171	2,215
	件数	198	173	224	198	228	223	214	220	222	205	205	199	2,509
外来	人数	446	451	540	486	510	546	478	499	489	496	513	516	5,970
	件数	558	566	676	5984	641	683	601	596	620	616	627	652	12,820
小計	人数	623	607	739	661	702	743	672	700	687	671	693	687	8,185
	件数	756	739	900	6182	869	906	815	816	842	821	832	851	15,329

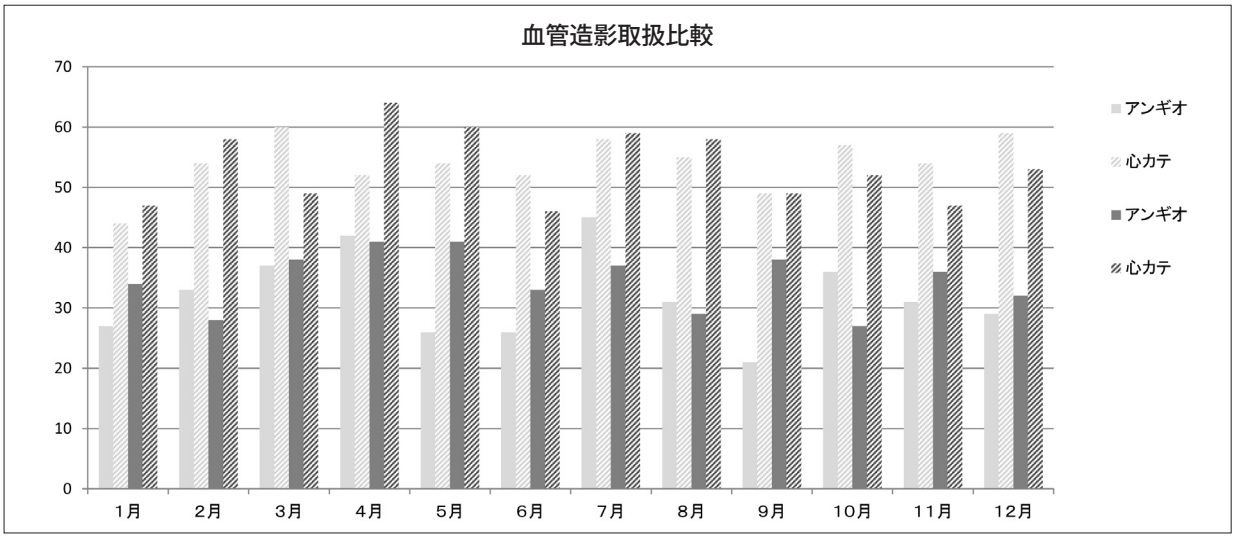
令和６年		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
入院	人数	165	154	145	174	157	168	189	177	177	185	161	181	2,033
	件数	188	175	171	204	190	191	226	208	218	211	181	207	2,370
外来	人数	478	466	494	469	508	509	541	491	524	556	498	533	6,067
	件数	604	583	626	580	633	641	674	632	637	694	625	667	7,596
小計	人数	643	620	639	643	665	677	730	668	701	741	659	714	8,100
	件数	792	758	797	784	823	832	900	840	855	905	806	874	9,966



血管造影検査年比較

令和５年		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
アンギオ	人数	27	33	37	42	26	26	45	31	21	36	31	29	384
（放射線科分）	件数	485	513	426	531	349	414	450	652	317	626	451	387	5,601
心カテ	人数	44	54	60	52	54	52	58	55	49	57	54	59	648
（循環器科分）	件数	687	689	882	729	723	786	945	862	905	1,041	833	1,194	10,276
合　計	人数	71	87	97	94	80	78	103	86	70	93	85	88	1,032
	件数	1,172	1,202	1,308	1,260	1,072	1,200	1,395	1,514	1,222	1,667	1,284	1,581	15,877

令和６年		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
アンギオ	人数	34	28	38	41	41	33	37	29	38	27	36	32	414
（放射線科分）	件数	600	326	599	819	732	614	898	595	633	411	558	427	7,212
心カテ	人数	47	58	49	64	60	46	59	58	49	52	47	53	642
（循環器科分）	件数	875	796	700	888	969	787	975	1,155	817	851	754	918	10,485
合　計	人数	81	86	87	105	101	79	96	87	87	79	83	85	1,056
	件数	1,475	1,122	1,299	1,707	1,701	1,401	1,873	1,750	1,450	1,262	1,312	1,345	17,697



年間　　令和６年手技別血管取扱数（総数）

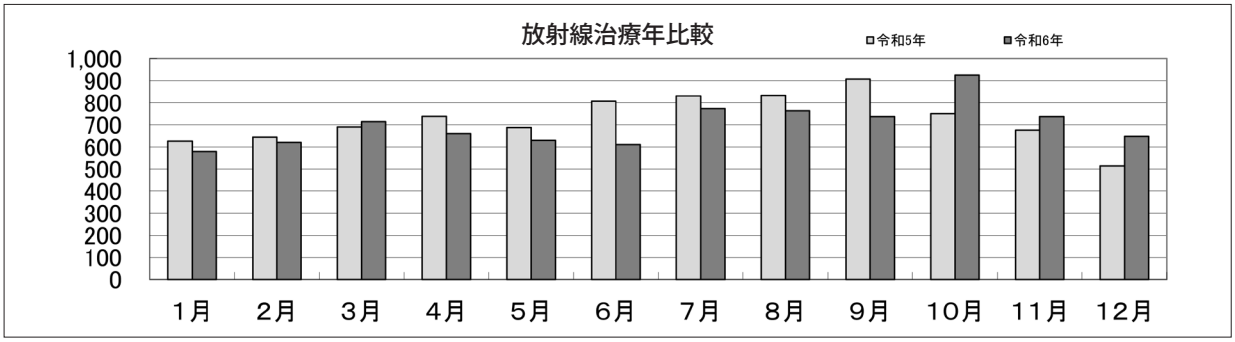
手技区分		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
心カテ診断（大人）	人数	15	27	16	22	23	18	21	19	17	22	22	23	245
	件数	161	185	113	200	204	172	178	198	174	239	250	266	2,340
PCI	人数	16	16	22	21	23	15	18	21	19	18	13	16	218
	件数	489	403	509	461	582	420	539	692	489	477	325	476	5,862
カテーテル アブレーション	人数	9	8	6	10	10	7	11	6	7	6	4	7	91
	件数	62	61	38	71	76	51	128	38	63	16	25	43	672
心カテ診断（小児）	人数	0	0	1	0	0	0	0	2	1	0	1	0	5
	件数	0	0	1	0	0	0	0	28	8	0	13	0	50
頭部血管診断	人数	4	5	3	12	4	6	7	5	8	4	9	2	69
	件数	58	33	13	152	106	36	120	100	142	68	139	31	998
脳血管内手術	人数	4	6	4	6	5	7	4	3	5	5	6	6	61
	件数	121	128	156	202	201	296	184	119	186	171	195	179	2,138
脳血栓回収	人数	6	1	9	2	6	4	2	2	2	0	5	3	42
	件数	132	22	221	339	145	112	51	89	30	0	90	66	1,297
腹部血管診断	人数	0	1	2	1	2	1	0	0	1	1	2	2	13
	件数	0	1	10	1	14	10	0	0	1	7	10	10	64
腹部TAE	人数	9	5	6	3	5	3	2	4	6	2	5	4	54
	件数	131	42	58	16	70	48	37	72	76	19	51	32	652
腹部TACE	人数	6	6	1	6	5	3	10	3	6	6	5	4	61
	件数	99	63	14	59	39	25	391	30	96	77	57	49	999
ステントグラフト	人数	2	1	1	3	1	1	2	3	0	1	1	3	19
	件数	15	5	8	11	12	4	28	37	0	6	1	20	147
シャント拡張術	人数	2	1	6	3	4	6	6	6	9	7	2	4	56
	件数	14	17	45	24	29	75	63	74	97	62	14	21	535
IVCフィルター	人数	0	0	0	2	0	0	1	0	1	0	0	0	4
	件数	0	0	0	4	0	0	3	0	4	0	0	0	11
その他部位TAE	人数	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	件数	0	0	0	0	31	0	0	0	0	0	0	0	31
EVT	人数	0	0	0	2	2	0	1	2	0	1	0	0	8
	件数	0	0	0	12	42	0	20	47	0	1	0	0	122
静脈血管診断	人数	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	件数	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	5
その他	人数	8	4	10	12	10	8	11	11	7	8	8	11	108
	件数	193	160	113	155	150	152	131	226	79	119	142	152	1,772
令和６年 月合計	人数	81	81	87	105	101	79	96	87	90	81	83	85	1,056
	件数	1475	1120	1299	1707	1701	1401	1873	1750	1450	1262	1312	1345	17,695
平成５年 月合計	人数	65	77	97	102	78	73	96	89	71	96	80	88	1,012
	件数	1,127	1,042	1,341	1,329	1,063	1,108	1,369	1,532	1,238	1,651	1,188	1,527	15,515

（注）人数：血管造影人数、 件数：部位数（ショット数）

放射線治療年比較

令和５年		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
リニアック	人数	626	644	690	738	688	806	831	833	907	750	675	514	8,702
腔内（ラルス）	人数	0	4	20	7	8	14	2	10	11	6	12	14	108
治療管理	人数	32	32	33	38	32	39	32	41	38	40	26	29	412

令和６年		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
リニアック	人数	580	620	714	660	630	611	773	763	737	925	737	648	8,398
腔内（ラルス）	人数	8	16	9	4	4	4	5	6	7	10	12	11	96
治療管理	人数	36	32	31	28	34	32	38	35	27	39	32	25	389



令和６年新規登録症例（原発巣で分類）

疾患名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	6年合計	5年合計
1．脳・脊髄	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	3	5
2．眼窩	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	4	6
3．頭頚部　口腔	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
上咽頭	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中咽頭	0	1	0	1	0	2	1	2	3	1	1	2	14	2
下咽頭	1	0	1	1	1	0	1	1	0	1	2	0	9	6
喉頭	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	1	0	4	2
副鼻腔	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	3	6	3	1	1	3	1	3	1	7	0	0	29	26
4．肺・気管・縦隔	6	6	9	5	8	7	4	5	8	5	7	7	77	51
5．食道	5	1	4	2	1	5	3	2	1	1	2	0	27	23
6．胃、十二指腸、小腸	2	2	0	1	2	0	1	1	0	0	0	1	10	6
7．大腸	2	0	0	3	0	2	2	6	0	1	0	2	18	7
8．肝・胆・膵	1	4	4	4	3	1	0	2	0	4	1	4	28	28
9．乳腺	7	0	3	2	7	7	6	2	3	3	7	2	49	37
10．泌尿器・男性性器	1	0	4	2	1	3	8	1	5	2	6	2	35	29
11．子宮	8	7	4	3	6	1	3	4	6	9	6	3	60	30
12．その他の女性性器	0	2	2	0	0	1	3	0	0	1	0	0	9	4
13．骨	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3	52
14．皮膚・軟部	0	0	0	0	0	0	4	1	0	2	1	1	9	7
15．悪性リンパ腫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
16．造血器(除悪性リンパ腫)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
17．小児（全）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
18．原発不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
19．良性疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20．転移（骨）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21．転移（脳）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
22．その他	1	2	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	7	7
令和６年合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	395	
令和５年合計	1	2	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0		331

令和６年超音波検査年報（検査人数）

	1月		2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月	
集計項目	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来
胸腹部	40	308	20	329	31	358	12	327	14	316	18	286	20	226	17	203	8	179	15	240	8	219	24	286
甲状腺	2	71	1	89	6	81	1	70	5	75	2	89	4	49	3	36	3	38	7	47	1	47	5	80
頭頚部	38	20	29	16	38	10	35	15	31	9	36	11	21	13	20	4	22	6	13	8	11	5	25	10
乳　腺	0	40	7	33	3	21	1	36	3	39	1	43	2	32	6	33	4	32	1	55	4	51	1	40
その他体表	50	17	39	16	45	21	35	28	41	23	48	22	29	10	41	11	29	11	29	14	35	12	47	20
心　臓	135	154	138	157	120	176	139	177	139	194	143	202	23	16	9	18	29	29	13	7	14	13	136	173
計	265	610	234	640	243	667	223	653	233	656	248	653	99	346	96	305	95	295	78	371	73	347	238	609
	875		874		910		876		889		901		445		401		390		449		420		847	

令和５年計	825	917	1009	917	894	879	945	971	962	957	1003	870

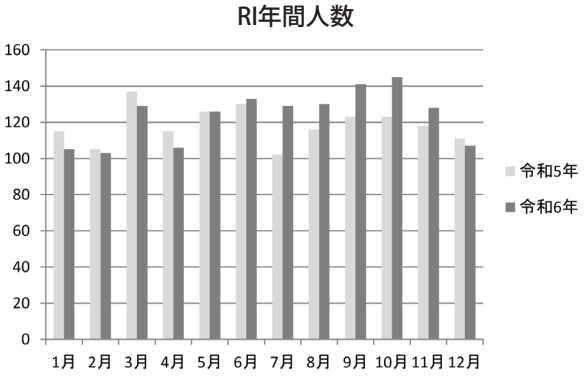
令和６年核医学検査取扱数

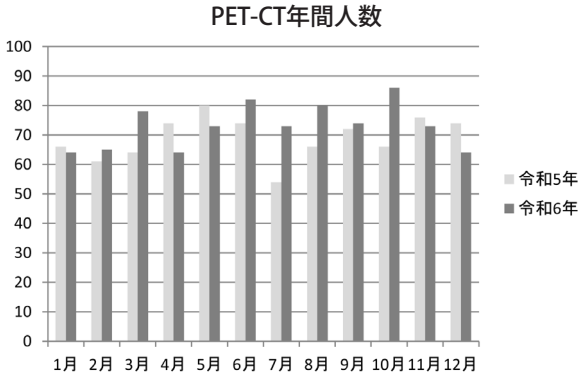
A.イメージング検査		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
中枢神経	人数	1	5	7	7	11	10	10	14	13	13	10	7	108
	件数	1	6	9	7	13	12	12	16	14	15	11	7	123
循環器	人数	10	13	14	12	17	10	18	15	15	14	12	9	159
	件数	20	26	28	24	34	20	36	30	30	28	24	18	318
呼吸器	人数	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	2	0	6
	件数	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	2	0	6
内分泌器	人数	14	10	12	14	12	12	7	7	17	13	14	8	140
	件数	14	13	12	14	15	15	7	7	17	13	14	8	149
消化器	人数	4	1	3	3	2	2	3	2	5	2	3	2	32
	件数	4	1	3	3	2	2	3	2	5	2	3	2	32
骨・関節・軟部	人数	12	9	11	6	8	15	17	11	16	14	11	16	146
	件数	24	18	22	12	16	30	34	22	32	28	22	32	292
尿路・生殖器	人数	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	2	1	6
	件数	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	2	1	6
腫瘍・炎症	人数	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	3
	件数	0	0	2	0	4	0	0	0	0	0	0	0	6
C.PET-CT	人数	64	65	78	64	73	82	73	80	74	86	73	64	876
	件数	64	65	78	64	73	82	73	80	74	86	73	64	876
B.非密封RIによる治療	人数	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	0	6
	件数	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	0	6
その他（SPECT 再掲）	人数	40	35	45	38	44	47	47	42	58	55	46	41	538
	件数	48	47	56	47	57	59	59	52	69	68	55	48	665
総合計	人数	105	103	129	106	126	133	129	130	141	145	128	107	1,482
	件数	127	129	157	124	158	163	166	158	173	175	152	132	1,814

RI・PET年間

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
RI	令和５年	115	105	137	115	126	130	102	116	123	123	118	111	1,421
	令和６年	105	103	129	106	126	133	129	130	141	145	128	107	1,482

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
PET-CT	令和５年	66	61	64	74	80	74	54	66	72	66	76	74	827
	令和６年	64	65	78	64	73	82	73	80	74	86	73	64	876





診療放射線技師　資格・認定取得状況

氏　　名	取得資格・認定	認定機関・団体名
技師長：酒本　司	第一種作業環境測定士	日本作業環境測定協会
	衛生工学衛生管理者	中央労働災害防止協会
副技師長：小濵　義幸	放射線治療専門放射線技師	日本放射線治療専門技師認定機構
	放射線治療品質管理士	放射線治療品質管理機構
	塩化ラジウム治療安全取扱講習修了	日本医学放射線学会
副技師長：山下　一也	第一種放射線取扱主任者	原子力規制委員会
	第一種作業環境測定士	安全衛生技術試験協会
	衛生工学衛生管理者	中央労働災害防止協会
	PET研修セミナー修了者	日本核医学会
	X線CT認定技師	日本X線CT専門技師認定機構
	画像等手術支援認定技師	日本放射線技師会
	Ai認定診療放射線技師	日本放射線技師会
	放射線管理士	日本診療放射線技師会
主任技師：石田　秀樹	放射線治療専門放射線技師	日本放射線治療専門技師認定機構
	放射線治療品質管理士	放射線治療品質管理機構
	第二種作業環境測定士	日本作業環境測定協会
	衛生工学衛生管理者	中央労働災害防止協会
	ガンマ線透過写真撮影作業主任者	厚生労働省
	X線作業主任者	厚生労働省
主任技師：秋田　智和	X線CT認定技師	日本X線CT専門技師認定機構
	シニア放射線技師	日本診療放射線技師会
	磁気共鳴専門技術者	日本磁気共鳴専門技術者認定機構
	Ai認定放射線技師	日本放射線技師会
	国際認定試験　MRI	国際専門診療放射線技師認定機構
	原子力災害派遣チーム研修終了	原子力規制庁/厚生労働省
	画像等手術支援認定技師	日本放射線技師会
主任技師：宮嵜　義章	第１種作業環境測定士	厚生労働省
	衛生工学衛生管理者	厚生労働省
	エックス線作業主任者	厚生労働省
	ガンマ線透過写真撮影作業主任者	厚生労働省
	X線CT認定技師	特定非営利活動法人　日本X線CT専門技師認定機構

氏　　名	取得資格・認定	認定機関・団体名
	肺がんCT検診認定技師	特定非営利活動法人　肺がんCT検診認定機構
	救急撮影認定技師	日本救急撮影技師認定機構
	検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師	非特定営利活動法人　日本乳がん検診精度管理中央機構
	胃がん検診専門技師	一般社団法人日本消化器がん検診学会
	下部消化管（注腸）認定診療放射線技師認定	公益社団法人日本診療放射線技師会
	Ai認定診療放射線技師	公益社団法人日本診療放射線技師会
	PET研修セミナー修了者	日本核医学会
	塩化ラジウム（Ra-223）注射液を用いたRI内用療法における適正使用に関する安全取扱講習会	公益社団法人日本アイソトープ協会
	I-131（1,110MBq）による残存甲状腺破壊（アブレーション）の外来治療における適正使用に関する講習会	公益社団法人日本アイソトープ協会
	大腸CT検査認定技師	一般社団法人日本消化器がん検診学会
	診療情報管理士	一般社団法人日本病院会含む５団体
	胃X線検診読影補助認定技師	一般社団法人日本消化器がん検診学会
	診療放射線技師実習施設指導者	公益財団法人　医療研修推進財団
	JQ医療安全管理者	公益財団法人　日本医療機能評価機構
主任技師：黒木　慶彦	第１種作業環境測定士	日本作業環境測定協会
	衛生工学衛生管理者	中央労働災害防止協会
	放射線管理士	日本診療放射線技師会
	放射線機器管理士	日本診療放射線技師会
	医療画像情報精度管理士	日本診療放射線技師会
	医療情報技師	医療情報学会
主任技師：森　政裕	第一種放射線取扱主任者	文部科学省
	血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師	血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師認定機構
	放射線機器管理士	日本診療放射線技師会
	PET研修セミナー修了者	日本核医学会
	放射線管理士	日本診療放射線技師会
	X線CT認定技師	日本X線CT専門技師認定機構
主任技師：森　康哲	放射線治療専門放射線技師	日本放射線治療専門技師認定機構
	放射線治療品質管理士	放射線治療品質管理機構
	DMAT隊員	厚生労働省
主任技師：水町 嘉宏	第一種放射線取扱主任者	文部科学省
	磁気共鳴専門技術者	日本磁気共鳴専門技術者認定機構
	PET研修セミナー修了者	日本核医学会
	塩化ラジウム（Ra-223）注射液を用いたRI内用療法における適正使用に関する安全取扱講習会	公益社団法人日本アイソトープ協会
主任技師：柳澤　克典	X線CT認定技師	日本X線CT専門技師認定機構
	Ai認定診療放射線技師	日本診療放射線技師会
	原子力災害派遣チーム研修終了	原子力規制庁/厚生労働省
技師：秋山　亜樹	衛生工学衛生管理者	中央労働災害防止協会
	第一種作業環境測定士	日本作業環境測定協会
	マンモグラフィー認定技師	日本乳がん検診精度管理中央機構
	放射線治療専門放射線技師	日本放射線治療専門技師認定機構
	放射線治療品質管理士	放射線治療品質管理機構
	乳癌超音波検診実施者	日本乳がん検診精度管理中央機構
	超音波検査士（体表臓器領域）	日本超音波医学会
技師：古川　明美	マンモグラフィー認定技師	日本乳がん検診精度管理中央機構
	第一種放射線取扱主任者	文部科学省
技師：緒方　翔吾	原子力災害派遣チーム研修終了	原子力規制庁/厚生労働省
	救急撮影認定技師（試験合格）	日本救急撮影技師認定機構
技師：有村　勇輝	X線CT認定技師	日本X線CT専門技師認定機構

氏　　名	取得資格・認定	認定機関・団体名
技師：西嶋　快斗		
技師：下田　将暉	第一種放射線取扱主任者	文部科学省
	PET研修セミナー修了	日本核医学会
	塩化ラジウム（Ra-223）注射液を用いたRI内用療法における適正使用に関する安全取扱講習会	公益社団法人日本アイソトープ協会
	原子力災害派遣チーム研修終了	原子力規制庁/厚生労働省
技師：伊東　翔太郎	第一種放射線取扱主任者	文部科学省
	医学物理士	医学物理士認定機構
技師：園田 隼平	第一種放射線取扱主任者	文部科学省
技師：木場　亮	第一種放射線取扱主任者(試験合格)	文部科学省
技師：中村 日向子		
技師：黒石　采花		
技師：儀間　絢音	第一種放射線取扱主任者	文部科学省
	PET研修セミナー修了者	日本核医学会
	塩化ラジウム（Ra-223）注射液を用いたRI内用療法における適正使用に関する安全取扱講習会	公益社団法人日本アイソトープ協会
技師：三又　望愛		
技師：村岡　芽依	第一種放射線取扱主任者(試験合格)	文部科学省
技師：村上まゆ美（非常勤）		
技師：伊東由紀子	第一種放射線取扱主任者	文部科学省
	マンモグラフィー認定技師	日本乳がん検診精度管理中央機構

研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
症例検討会	1回/週
夕焼けカンファレンス	1回/月

学会・論文など

【医師】

1）原著論文　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	1	1		

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

2）学会発表　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数		2	1	1

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

3）学術講演　　**（件数）**

種類	医師会関連	研究会		
件数				

4）学会座長　　**（件数）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数			1	1

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

学会・論文など

【診療放射線技師】

1）原著論文　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数		3		

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

2）学会発表　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数		2	2	

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

3）学術講演　　**（件数）**

種類	医師会関連	研究会		
件数		1		

4）学会座長　　**（件数）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数			1	1

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

研究業績

【医師】

論　文　発　表

A：英文

A-a1：英文原著

1）Stereotactic body radiation therapy for clinically diagnosedearly-stage non-small cell lung cancer: Importance of accurateCT interpretation by experts.
Daisuke Nakamura, Koichi Honda, Takuya Yamazaki, Hideyuki Hayashi, Shin Tsutsui, Aya Fukushima, Sumihisa Honda, Masataka Uetani, Kazuto Ashizawa.
Precision Radiation Oncology 4536；2024；8:30–36.

A-a2：英文症例報告

1）A Case of Ramucirumab for Radiation Necrosis Following Stereotactic Radiotherapy for Brain Metastases From Lung Cancer.
武田達哉、中村太祐、池田喬哉.
Cureus 2024；16(9)：e70460.

学会・研究会・講演

B：国内学会

B-b2：一般演題

＜口演＞

1）地域の小線源治療を維持するための取り組み.
中村太祐、武田達也.
小線源治療を支えるネットワーク・コミュニティ . 日本放射線腫瘍学会小線源治療部会第26回学術大会.
高崎市, 2024.5.25.

２）覚醒剤による脳血管障害が疑われた一例.
平尾真希、宮村周人、北村慶、牧野謙二、宮崎敦史、藤本俊史.
第199回日本医学放射学会九州地方会. 長崎, 2024.6.23.
３）Co-axial needleを用いた穿刺トラクト塞栓が有用であった多血性腎腫瘍生検の２例.
平尾真希、牧野謙二、宮村周人、宮崎敦史、北村慶、藤本俊史.
第46回九州IVR研究会. 福岡, 2024.12.21.

＜ポスター＞

１）動脈内ステントグラフト留置により止血しえた外腸骨動脈尿管瘻の２例.
宮村周人、藤本俊史、宮崎敦史、牧野謙二、北村慶.
第53回IVR学会総会. 和歌山, 2024.5.25.

F：学術講演他

F-b：学会・研究会座長［国内学会］

＜座長＞

１）武田達哉.
放射線治療１. 第199回日本医学放射学会九州地方会. 長崎, 2024.6.23.
２）宮村周人.
第46回九州IVR研究会. 福岡, 2024.12.21.

【診療放射線技師】

論　文　発　表

B：和文

B-a1：和文原著

１）胸部X線撮影における生殖腺防護プロテクタが皮膚線量に与える影響について.
伊東翔太郎、池田啓介、木須康太、北口貴教、今西美嘉、大浦弘樹.
九州国立病院機構診療放射線技師会誌 2024；No140：43-46.
２）バルサルバ効果を考慮した肺動脈造影CT撮影の検討.
下田将輝、秋田智和、吉田淳一、南出哲也、酒本司.
九州国立病院機構診療放射線技師会誌 2024；138：25-29.
３）バルサルバ効果を考慮した肺動脈撮影の検討.
下田将輝、秋田智和、吉田淳一、南出哲也、酒本司.
医療の広場 2024；64：8：23-27.

学会・研究会・講演

B：国内学会

B-b2：一般演題

＜口演＞

１）心臓カテーテル検査における透視被ばく線量率適正化の試み.
木場亮、森政裕、宮崎義章、山下一也、小濵義幸、酒本司、藤本俊史、於久幸治.
令和６年度国立病院機構診療放射線技師会学術大会. 熊本県, 2024.10.16.
２）内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査における放射線防護具を用いた介助看護師の被ばく低減の検討.
森政裕、原田由香、伊東ますみ、米丸雄太、山下一也、小濱義幸、酒本司.
一般研究プログラム. 放射線管理. 第19回九州放射線医療技術学術大会. 宮崎市, 2024.12.21.

＜Poster＞

1 ）REICA法を用いた脳血流定量の有用性.
宮嵜義章、亀山征史、中溝玲、野口智幸、酒本司.
第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.19.

2 ）脳血流定量解析においてREICA法が有用であった症例.
宮嵜義章、亀山征史、中溝玲、野口智幸、酒本司.
第１回日本放射線医療技術学術大会. 沖縄, 2024.11.1.

B-c：研究会発表

＜口演＞

1 ）QUAD shot.
石田秀樹.
施設における緩和治療の実際. 第20回放射線治療セミナー（Web）. Web, 2024.9.5.

D, E, F, G：学術講演他

D：学会・研究会開催

1 ）秋山亜樹.
九州国立病院機構診療放射線技師会超音波部会世話人会開催. Web, 2024.1.17.

2 ）秋山亜樹.
九州国立病院機構診療放射線技師会超音波部会世話人会開催. Web, 2024.4.16.

3 ）超音波の症例検討.
秋山亜樹.
第10回超音波セミナー . 福岡市, 2024.4.20.

4 ）秋山亜樹.
九州国立病院機構診療放射線技師会超音波部会世話人会開催. Web, 2024.10.28.

5 ）超音波の症例検討.
秋山亜樹.
第11回超音波セミナー . 福岡市, 2024.11.16.

＜講演＞

1 ）IVRにおける患者皮膚線量の測定.
森政裕.
第８回医療被ばく線量評価実務セミナー . 熊本市, 2024.5.25.

E：研究会世話人

1 ）秋山亜樹.
長崎乳房研究会世話人会. Web, 2024.1.16.

2 ）秋山亜樹.
長崎乳房研究会世話人会. Web, 2024.11.7.

3 ）秋山亜樹.
九州国立病院機構診療放射線技師会超音波部会・核医学部会合同世話人会開催. Web, 2024.11.27.

＜司会＞

1）小濵義幸.
　令和6年度フレッシャーズセミナー . 佐賀市, 2024.4.25.

2）小濵義幸.
　令和6年度佐賀県放射線技師学術大会. 佐賀市, 2024.6.16.

3）小濵義幸.
　令和6年度リフレッシュセミナー①. 佐賀市, 2024.7.20.

＜世話人＞

1）水町嘉宏.
　第48回CT・MR研究会. 佐世保市, 2024.9.7.

F-b：学会・研究会座長[国内学会]

＜座長・世話人＞

1）水町嘉宏.
　第47回CT・MR研究会. 長崎市, 2024.3.23.

＜座長＞

1）水町嘉宏.
　西日本地区学術講演会. 広島市, 2024.7.6.

G：その他

＜講演＞

1）エチケットマナー .
　小濵義幸.
　令和6年度フレッシャーズセミナー . 佐賀市, 2024.4.25.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

麻酔科

責任者　山口 美知子

診療科の特色

術前に病棟へ伺い、身体診察、情報収集と合わせて、麻酔についてのわかりやすい説明を行っています。問題症例のコンサルテーションと休日および手術当日入院患者に対しては、外来で手術室看護師とともに診察・説明を行います。

術中は、適切な麻酔計画、モニタリングにより安全に術中管理できるよう努めています。

手術に関連する痛みを和らげる術後疼痛管理を積極的に行っています。鎮痛薬使用や超音波ガイド下神経ブロック施行により、痛みや不安から解放された快適な周術期を提供することを心掛けています。

2024年４月より、術後疼痛管理チームが発足し、多職種で連携して行う術後疼痛管理を開始しました。

入院診療実績

手術件数と麻酔

総手術数	全身麻酔	脊麻・硬麻（脊硬麻）	神経ブロック	局麻・鎮静	緊急手術	待機手術
3304	3008	290・285（182）	1101	4	756	2248

研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
麻酔前カンファランス	５回/週
抄読会	１回/週

学会・論文など

１）原著論文　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	2			

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

２）学会発表　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数		2（　1　）	2	1

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

３）学術講演　　**（件数）**

種類	地方会			
件数	1			

４）学会座長　　**（件数）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数				

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

研究業績

論　文　発　表

A：英文

A-a1：英文原著

1）Prevention of Postoperative Skin Disorders and Pressure Injuries in the Neurosurgical Park Bench Position Surgery：A Prospective Cohort Study.
Hara K, Uemura T, Tachibana R, Kumashiro R, Yamaguchi M, Kawahara I, Fujioka M.
Cureus. 16(4)：e58552, 2024.4.18.

2）Development of an estimation formula for preparation time of anesthesia induction and surgery accounting for clinical department factors in optimal surgery schedule management.
Hara K, Tachibana R, Kaneko S, Yamaguchi M, Fujioka M, Kuroki T, Honda S, Sawai T.
scientific resorts. 14：25185, 2024.10.24.

学会・研究会・講演

B：国内学会

B-a：特別講演，教育講演

＜講演＞

1）「麻酔」について.
山口美知子.
医療講演, 第61回長崎県診療情報管理研究会. 大村, 2024.10.12.

B-b2：一般演題

＜口演＞

1）術中アナフィラキシーショックに対するアドレナリン静脈内投与による循環変動－多施設後方視敵検討－.
横山明弘、関野元裕、森尾千香子、松隈遥、西垣明久、横山陽香、一ノ宮大雅、東島潮、吉富修、原哲也.
臨床研究 4 . 第51回日本集中治療医学会学術集会. 札幌, 2024.3.16.

＜ポスター＞

1）緊急整復加算制定後の大腿骨近位部骨折手術における早期手術と術後30日死亡の検討：単施設後方視研究.
西垣明久、森本崇之、田代佳子、原健太朗、谷口美和、山口美知子.
高齢者麻酔・その他. 日本麻酔科学会第71回学術集会. 神戸, 2024.6.7.

2）睡眠時無呼吸症候群を合併した高度肥満妊婦（BMI50kg/m2）の帝王切開術においてRAMP体位とNPPVを用いて管理した一例.
荻野裕行、森本崇之、田代佳子、中尾秋葉、長岡京子、山口美知子.
産科麻酔. 九州麻酔科学会第62回大会. 久留米, 2024.9.7.

3）術前に非機能性と診断された副腎腫瘍に対する腹腔鏡下副腎腫瘍摘出術において術中異常高血圧により褐色細胞腫が疑われ手術を中止した一例.
原田英鷹、森本崇之、山口碧、岡田恭子、谷口美和、山口美知子.
麻酔経験. 九州麻酔科学会第62回大会. 久留米, 2024.9.7.

＜ポスターディスカッション＞

1）胸腔鏡補助下肺切除術における術後オピオイドフリー管理と食事摂取量の関係.
濵田梢、下山孝一郎、原健太朗、中尾秋葉、長岡京子、山口美知子.
周術期管理. 日本麻酔科学会第71回学術集会. 神戸, 2024.6.6.

B-c：研究会発表

＜口演＞

1 ）睡眠時無呼吸症候群を合併した高度肥満妊婦（BMI50kg/m2)の帝王切開術における麻酔管理.
荻野裕行、森本崇之、田代佳子、山口碧、中尾秋葉、岡田恭子、長岡京子、谷口美和、山口美知子.
麻酔管理. 長崎麻酔研究会第19回学術集会. 長崎, 2024.5.11.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

脳神経内科

責任者　岩永 洋

診療科の特色

当科は脳外科と共同し脳卒中対応を中心とした診療にあたっている。ドクターヘリのある病院の特色を生かした離島からの搬送や、入院や外来に計上される以外にも離島からの画像転送システムを利用したコンサルトも実施している。また当院の脳外科を中心とするてんかんセンターにも参画しており、近年はてんかん診療にもさらに貢献できるようになった。従来型の神経内科的疾患の診療も充実しており、日本神経学会の準教育施設の認定を受けている。

入院診療実績

2024年は440名が当科退院し前年よりも増加した。長年、当科の脳卒中関連の入院数は６割ほどとなっていたが、てんかん患者の増加もあり、今年は５割強となった。当院のてんかんセンターは脳外科を中心に小児科、精神科、当科も参画しているが、高齢化にともなって今後も成人の二次性てんかん患者が増加すると見込まれ人員の補充が望まれる。

なお死亡退院は19名であった。

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	（再掲）死亡	
8,796人	24.0人	407人	440人	19人	20.8日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
236件	90.9％	498件	129.7％	１件	0.1％

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
233人(51.2％)	76人(16.7％)	22人(4.8％)	14人(3.1％)	１人(0.2％)	38人(8.4％)

島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
12人(2.6％)	10人(2.2％)	10人(2.2％)		３人(0.7％)	２人(0.4％)

平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町
１人(0.2％)		２人(0.4％)	１人(0.2％)		１人(0.2％)

壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外
１人(0.2％)	5人(1.1％)	12人(2.6％)	11人(2.4％)

合計
455人

入院主要10疾患主要疾患別臨床統計ならびに治療成績

疾患名	ICD-10コード	症例数	死亡退院数	コメント
脳卒中関連	I63など	230	11	
てんかん関連	G40など	87	1	
重症筋無力症	G70	22	0	
CIDP	G61	12	0	
パーキンソン病	G20	6	0	
脳炎	G04など	6	0	
ALS/運動ニューロン病	G12	4	1	
視神経炎	H46など	4	0	MOG含
ギランバレー症候群	G61	3	0	
多発性硬化症	G35	3	0	

主要検査件数

検査	症例数
神経電動速度検査	約150

特殊検査ならびに治療成績

特殊治療法	合併症とその内容	症例数	延べ施行回数	死亡退院数
rt-PA投与		24		
血栓回収療法（脳外科と共同）		13		

研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
脳神経内科カンファ	週に１回
脳外科合同カンファ	週に１回
脳卒中カンファ	週に５回

学会・論文など

1）原著論文　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	0	1	0	0

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

2）学会発表　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	1	0

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

3）学術講演　　**（件数）**

種類				
件数				

4）学会座長　　**（件数）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	0	0

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

研究業績

論　文　発　表

B：和文

B-a2：和文症例報告

1 ）繰り返す一過性脳虚血発作様症状で発症したリウマチ性髄膜炎の 1 例.
忽那史也、荒田昌彦、足利裕哉、佐藤和明、徳田昌紘、岩永洋.
脳卒中（0912-0726）－2024；46巻 4 号 Page321-325.

学会・研究会・講演

B：国内学会

B-b2：一般演題

＜口演＞

1 ）rhythmic γから始まる発作時脳波を呈したてんかん合併妊娠の一例.
中島健翔、足利裕哉、山下魁理、佐藤和明、徳田昌紘、岩永洋.
第246回日本神経学会九州地方会. 長崎市, 2024.12.14.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

形成外科

責任者　藤岡 正樹

診療科の特色

形成外科は先天性あるいは後天性に生じた変形や機能障害に対して外科的手技を駆使することにより、形態および機能を回復させ、さらに精神的な安寧を持たせせしめ患者のQuality of Lifeの向上に貢献する外科系専門分野です。

基本は創傷処置をはじめとする外傷学ですが、先天奇形、再建、マイクロサージェリー、顎顔面外科レーザー治療へと拡がりを見せています。形成外科では腫瘍、外傷、先天奇形などによる傷や変形を正常に近くなるよう作り直す手術を行います。具体的には、①良性、悪性腫瘍の切除と再建②新鮮外傷③顔面骨骨折④手の外傷⑤熱傷⑥瘢痕とケロイド⑦褥瘡・糖尿病性潰瘍⑧劇症皮膚感染症⑨手足、顔面の先天奇形⑩顎顔面変形に対する治療を主に行っています。形成外科は上記のように、特定の臓器（呼吸器外科、脳神経外科など）の病気を治療対象とする外科ではなく、全身のあらゆる部位の異常や形態変化を治療対象としています。

2010年からは創傷センターを立ち上げ、従来は難治であった慢性創傷の治療を集学的に行っています。

手術治療概要

国立病院機構長崎医療センター形成外科では毎年800例以上の手術を行っています。多彩な分野に及ぶ形成外科手術ですが、その中でも長崎医療センターは外傷、骨軟部組織感染症といった緊急性の高い疾患と、腫瘍の症例数を多く集めており、全国でも有数の手術数を誇っています。

入院診療実績

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	（再掲）死亡	
4,880人	13.3人	444人	447人	8人	11.0日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
443件	93.7%	356件	68.5%		

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
131人(29.6%)	105人(23.7%)	14人(3.2%)	7人(1.6%)	2人(0.5%)	35人(7.9%)

島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
48人(10.8%)	39人(8.8%)	17人(3.8%)			6人(1.4%)

平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町
1人(0.2%)		1人(0.2%)	1人(0.2%)		

壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外
	3人(0.7%)	17人(3.8%)	16人(3.6%)

合計
443人

2024年入院主要10疾患主要疾患別臨床統計ならびに治療成績

疾患名	ICD-10コード	症例数	死亡退院数
外傷	Q70.0-9, C44.0-9, S02.0-9	286	3
腫瘍、母斑、血管腫	D22.0-9, D18.0, D23.0-9, C43.0-9, C44.0-9	364	
難治性潰瘍	L98	158	
軟部組織感染症	L97	35	
瘢痕・ケロイド		24	
先天異常	Q69.0-9, Q70.0-9	17	
その他		8	
合計		892	3

2024年主要10手術方法臨床統計ならびに治療成績

手術名	Kコード	患者数	死亡退院数
創傷処理	86.22	310	
良性腫瘍摘出術	86.21-86	302	
植皮術	86.11-86.3	290	3
皮弁形成術	86.70-75	101	
悪性腫瘍切除術	86.2-86.4	62	
瘢痕形成術	86.84	22	
唇裂・口蓋裂形成術	27.51-59, 27.61-69	12	
筋・動脈皮弁形成術		38	
顔面骨観血的整復術	76.70-79	31	
遊離皮弁形成術複合組織移植術	86.6	25	

手術件数と麻酔

総手術数	全身麻酔	腰椎麻酔・硬膜外麻酔	静脈麻酔	局所麻酔	緊急手術	待機手術
892	366	36	0	490	212	680

研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
手術・入院カンファランス	毎日
病棟回診	1回/週
褥瘡回診	1回/週

治験、共同臨床研究（症例登録する研究）

競争的研究費一覧

No.	項目（財源別） ①文部科学省科学研究費、②科学研究費助成事業（科学研究費補助金）、③科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）、④科学技術振興機構科学研究費、⑤その他文部科学省関連研究費、⑥厚生労働科学研究費、⑦国立高度専門医療センター等研究費、⑧その他厚生労働省関連研究費、⑨日本医療研究開発機構研究費、⑩その他財団等からの研究費、⑪民間セクターからの寄附金	研究課題名	研究者名	研究事業名 （依頼業者名）	主任 分担	新規 継続
1	③科学研究費助成事業 （学術研究助成基金助成金）	bFGFの組織再生能力に着目した統合失調症治療法の開発	藤岡正樹	基盤（C）一般	分担	継続

製造販売後調査（文書同意あり）

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）

基盤研究（C）（一般）bFGFの組織再生能力に着目した統合失調症治療法の開発

（代表研究者　林田麻衣子　島根大学）

学会・論文など

1）原著論文　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	12（　1　）	3（　3　）	0	0

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

2）学会発表　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	21	13	3

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

3）学術講演　　**（件数）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	3	1	0

4）学会座長　　**（件数）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	2	1	1

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

研究業績

論　文　発　表

A：英文

A-a1：英文原著

1）Why has the outcome of Gustilo-Anderson type III fracture not improved over 2 decades?：Considerations for recommended initial debridement and secondary wound covering time limits.
Fujioka M, Fukui K, Idemitsu M, Koga K.
Int. J. Surg. Wound Care 2024；5(2)：39-45.

2 ）Dynamic Reconstruction Using Accessory-innervated Pedicled Latissimus Dorsi Flap for Upper Trapezius Muscle Defect.
Fujioka M, Koga K.
Plast Reconstr Surg Glob Open 2024；12(4)：e5748. doi：10.1097/GOX.0000000000005748. eCollection 2024 Apr.

3 ）Prevention of Postoperative Skin Disorders and Pressure Injuries in the Neurosurgical Park Bench Position Surgery：A Prospective Cohort Study.
Hara K, Uemura T, Tachibana R, Kumashiro R, Yamaguchi M, Kawahara I, Fujioka M.
Cureus 2024；16(4)：e58552. doi:10.7759/cureus.58552.

4 ）Development of an estimation formula for preparation time of anesthesia induction and surgery accounting for clinical department factors in optimal surgery schedule management.
Hara K, Tachibana R, Kaneko S, Yamaguchi M, Fujioka M, Kuroki T, Honda S, Sawai T.
Sci Rep 2024；14(1)：25185. doi：10.1038/s41598-024-75631-7.

5 ）Succsessful sclerotherapy for a cervical large lymphatic malformation with Cobb syndrome patient. .
Fujioka M.
Journal of Vascular Surgery Cases and Innovative Techniques.

6 ）The decline in the number of plastic surgeries under the novel coronavirus epidemic in Japan was attributed to the decline in patients with acute diseases such as trauma and malignant tumors.
Fujioka M, Fukui K, Yoshino K, Idemitsu M.
Medical Research Archives 2023；[online] 11(4)：DOI：https://doi.org/10.18103/mra.v11i4.3715.

A-a2：英文症例報告

1 ）Successful Ventral onlay Peripheral deEpthelialized Skin Graft for Reconstruction of Penile Urethral Defect Due to Fournier's Gangrene.
Fujioka M, Onita T.
Journal of Urology and Renal Diseases 2024；9(1)：1363. DOI：10.29011/2575-7903.001363.

2 ）Two Cases of Lobular Capillary Hemangioma in the Finger Suspected of Malignancy due to Rapid Growth.
Fujioka M, Koga K, Soeda M and Miura S.
Ann Plast Reconstr Surg 2024；8(1)：1116.

3 ）Tetra-combined Z-plasty for wide-scar hip contracture including the anus.
Fujioka M, , Fukui K, Koga K.
Burns Open 2024；8(2)：125-127.

A-c：英文著書

1 ）Rheumatoid and Systemic Collagenosis Vasculitis.
Fujioka M.
Skin Necrosis. 2nd.ed. Eds. Teot L, Meaume S, Del Mamol V, Akita S, Ennis WI, Springer-Verlag, Heidelberg. 2024；Chap25；179-186. https://doi.org/10.1007/978-3-031-60954-1.

2 ）Rheumatoid and Systemic Collagenosis Vasculitis.
Fujioka M.
Skin Necrosis. 2nd.ed. Eds. Teot L, Meaume S, Del Mamol V, Akita S, Ennis WI, Springer-Verlag, Heidelberg. 2024；Chap25；179-186. https://doi.org/10.1007/978-3-031-60954-1.

3）How to Manage Radiation Injuries.
Senju C, Fujioka M, Tanak K, Akita S.
Skin Necrosis. 2nd.ed. Eds.Teot L, Meaume S, Del Mamol V, Akita S, Ennis WI, Springer-Verlag, Heidelberg. 2024；Chap14；109-115. https://doi.org/10.1007/978-3-031-60954-1.

B：和文

B-a2：和文症例報告

1）【動静脈奇形症例集［2］－顔面－】顔面耳介CM-AVMに対して塞栓－硬化療法に耳介形成手術を組み合わせた1例.
野口美帆、井町賢三、福井季代子、藤岡正樹、石丸英樹、秋田定伯.
形成外科 2024；67(1)：37-42.

2）【動静脈奇形症例集［3］－躯幹－】胸壁に生じた巨大AVMに対してモノエタノールアミンオレイン酸塩を用いた塞栓－硬化療法が奏効した1例.
野口美帆、井町謙三、福井季代子、藤岡正樹、石丸英樹、秋田定伯.
形成外科 2024；67(2)：125-130.

学会・研究会・講演

B：国内学会

B-b1：シンポジウム，パネルディスカッション等

＜シンポジウム＞

1）急性期病院での褥瘡発生患者のうち9％は防ぎきれない褥瘡である：防ぎきれない褥瘡の実態調査報告.
藤岡正樹、福井季代子、吉野健太郎、出光茉莉江.
公募シンポジウム2. 第26回日本褥瘡学会学術集会. 姫路, 2024.9.6.

2）ガイドライン等を参考に過不足のない切除を.
藤岡正樹.
皮膚腫瘍外科 分野指導医 シンポジウム. 第33回日本形成外科学会基礎学術集会. 東京, 2024.10.17.

B-b2：一般演題

＜口演＞

1）鼻涙管原発の扁平上皮癌の一例.
森彩加、田中藤信、沖田奈菜、二宮直樹、吉田晴郎、藤岡正樹.
第47群；鼻副鼻腔腫瘍2. 第33回日本頭頸部外科学会総会. 愛媛, 2024.2.1.

2）熱中症に伴う熱傷により大腿切断に至った1例.
古賀一史、出光茉莉江、藤岡正樹、福井季代子.
第34回日本熱傷学会九州地方会. 北九州, 2024.2.24.

3）肛門周囲の帯状（索状）股関節瘢痕拘縮に対する全く新しいTetra-combined Z-plastyの紹介.
藤岡正樹、福井季代子、出光茉莉江、古賀一史.
一般演題（シェーマ付き演題）；工夫（手技、アイデア1）. 第29回日本形成外科手術手技学会. 佐賀, 2024.3.2.

4）Hydraulic lymphatics dilation technique（HD法）リンパ管低水圧拡張術より細いリンパ管へのLymTracer挿入法.
福井季代子.
一般演題（映像付き演題）；手技を伝える 脈管の手術. 第29回日本形成外科手術手技学会. 佐賀, 2024.3.2.

5）上部僧帽筋全欠損に対する副神経支配有茎広背筋弁を用いた動的再建.
藤岡正樹、福井季代子、出光茉莉江、古賀一史.
第122回九州・沖縄形成外科学会学術集会. 長崎, 2024.3.9.

６）迅速なLVAのための簡便リンパ管ICG蛍光造影時短法.
浜田裕一、福井季代子、石田裕之.
第122回九州・沖縄形成外科学会学術集会. 長崎, 2024.3.9.

７）防ぎきれない褥瘡の実態調査.
藤岡正樹、福井季代子、出光茉莉江、古賀一史.
一般演題；口演１. 第21回日本褥瘡学会 九州•沖縄地方会 学術集会. 熊本, 2024.4.27.

８）受傷後10日以上経過したDB2症例に対するネキソブリッドの焼痂除去効果.
古賀一史、出光茉莉江、藤岡正樹、福井季代子.
一般演題２（口演）；デブリードマン２. 第50回日本熱傷学会総会・学術集会. 大阪, 2024.6.13.

９）骨髄炎で骨融解を来した右母指末節骨が保存加療のみで骨の再形成を認めた稀な症例の経験.
藤原洸平、塩沢啓、杉原佳奈、古賀一史、松尾優美、松本鉱子、西村剛三.
一般演題18；感染１. 第16回日本創傷外科学会総会・学術集会. 金沢, 2024.7.12.

10）高齢女性の頬部に発生したメルケル細胞癌の二例.
西園馨子、古賀一史、藤岡正樹、藤原洸平、日吉尚.
第123回九州・沖縄形成外科学会学術集会. 福岡, 2024.7.20.

11）劇症型Ａ群溶血性連鎖菌（GAS）により壊死性筋膜炎に至った２例.
日吉尚、西園馨子、古賀一史、藤岡正樹、藤原洸平.
一般演題Ｃ. 第32回長崎救急医学会. 島原, 2024.9.7.

12）Cladosporium属による壊死性筋膜炎を伴う黒色真菌症を発症した維持血液透析患者の１例.
奥平雅之、岡哲、伊達雅浩、山下由恵、三浦史郎、牟田久美子、西野友哉、藤岡正樹.
一般演題（口演）；血液透析２. 第54回日本腎臓学会西部学術大会. 姫路, 2024.10.6.

13）ガイドラインが推奨するマージン以上で切除したにも関わらず再発した悪性黒色腫の３例.
古賀一史、藤岡正樹、藤原洸平、日吉尚、西園馨子.
一般演題１；腫瘍・移植ほか. 第33回日本形成外科学会基礎学術集会. 東京, 2024.10.17.

14）アルカリによる化学損傷の３例.
西園馨子、藤岡正樹、藤原洸平、古賀一史、日吉尚.
第124回九州・沖縄形成外科学会学術集会. 熊本, 2024.10.26.

＜ポスター＞

１）なぜGustilo-Anderson Ⅲ骨折の転帰は20年前から改善しないのか？：推奨される創被覆時間制限に関する考察.
藤岡正樹、福井季代子、出光茉莉江、古賀一史.
デジタルポスター９；下腿・足（外傷、その他）. 第67回日本形成外科学会総会・学術集会. 神戸, 2024.4.10-12.

２）重症四肢外傷の感染率を改善できるか？ 2001年から20年間のナラティブレビューを検討して.
藤岡正樹、古賀一史.
一般演題（ポスター）：感染. 第16回日本創傷外科学会総会・学術集会. 金沢, 2024.7.11.

３）悪性の疑いを払拭できなかった急速増大するlobular capillary hemangioma（pyogenic granuloma）の経験.
古賀一史、藤岡正樹、藤原洸平、西園馨子、日吉尚、三浦史郎、伊東正博.
ポスター71；皮膚疾患. 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.18.

４）ガイドラインが推奨するマージン以上で切除したにも関わらず再発した悪性黒色腫の３例.
古賀一史、藤岡正樹、藤原洸平、西園馨子、日吉尚.
ポスター71；皮膚疾患. 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.18.

５）同日に集中して発生したイノシシ咬創の２例.
西園馨子、藤岡正樹、藤原洸平、古賀一史、日吉尚.
ポスター23；救急治療・集中治療１. 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.18.

６）高齢女性の頬部に発生したメルケル細胞癌の二例.
西園馨子、藤岡正樹、藤原洸平、古賀一史、日吉尚.
ポスター 71；皮膚疾患. 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.18.

７）重症四肢外傷の感染率を改善できるか？
藤岡正樹、古賀一史、藤原洸平、日吉尚、西園馨子.
ポスター 46；骨折・その他. 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.18.

８）上部僧帽筋全欠損に対する副神経支配有茎広背筋弁を用いた動的再建.
藤岡正樹、古賀一史、藤原洸平、日吉尚、西園馨子.
ポスター 46；骨折・その他. 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.18.

９）肛門周囲の帯状（索状）股関節瘢痕拘縮に対する全く新しい皮弁Tetra-combined Z-plastyの開発.
藤岡正樹、古賀一史、藤原洸平、日吉尚、西園馨子.
ポスター 71；皮膚疾患. 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.18.

10）熱中症に伴う熱傷により大腿切断に至った１例.
日吉尚、藤岡正樹、福井季代子、藤原洸平、出光茉莉江、古賀一史、西園馨子.
ポスター 23；救急治療・集中治療１. 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.18.

11）乳房増大術に用いたアクアフィリングにより手根管症候群を呈した１例.
古賀一史、藤岡正樹、藤原洸平、西園馨子、日吉尚.
ポスター 154；医療安全７/医療安全その他１, 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.19.

12）受傷後10日以上経過した３度熱傷２症例に対するネキソブリッドの焼痂除去効果.
古賀一史、藤岡正樹、藤原洸平、西園馨子、日吉尚.
ポスター 161；救急治療・集中治療２. 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.19.

13）地域急性期病院における「避けられない褥瘡」の実態調査.
藤岡正樹、古賀一史、藤原洸平、日吉尚、西園馨子.
ポスター 132；褥瘡/病院管理. 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.19.

14）外傷手術件数の推移から見たCOVID-19流行期の社会レジリエンス.
藤岡正樹、藤原洸平、古賀一史、日吉尚、西園馨子.
ポスター 114；HIV・抗酸菌・新型コロナウイルス２. 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.19.

B-c：研究会発表

１）ガイドラインが推奨するマージン以上で切除したにも関わらず再発した悪性黒色腫の３例.
古賀一史、藤岡正樹、藤原洸平、日吉尚.
第116回長崎形成外科懇話会. 長崎, 2024.05.18.

２）カンボジアにおける医療支援活動の報告と現地医療状況の変化.
西條広人、藤岡正樹.
第117回長崎形成外科懇話会. 武雄, 2024.11.02.

３）高齢者の上部耳介欠損はどこまで単純縫縮が許容できるか.
藤岡正樹、藤原洸平、古賀一史、日吉尚、西園馨子.
第117回長崎形成外科懇話会. 武雄, 2024.11.02.

４）前腕コンパートメントシンドロームの治療経験.
西園馨子、藤岡正樹、藤原洸平、古賀一史、日吉尚.
長崎手外科研究会. 長崎, 2024.11.12.

５）遊離脂肪移植は痩せるって偉そうに論文にしたのに、ムッチャ太った脂肪弁もあってｗｗｗ.
藤岡正樹、林田健志、村上千佳子、古賀康史、増田加奈、今村禎伸.
第２回長崎医療センター形成外科研究会. 嬉野, 2024.12.7.

＜口演＞

1 ）遊離空腸による竹輪大の再建食道が狭窄してマカロニになった一例.
藤原洸平、藤岡正樹、古賀一史、日吉 尚、西園馨子.
第２回長崎医療センター形成外科研究会. 嬉野, 2024.12.7.

C，F：学術講演他

C-b：学術講演[国内]

＜講演＞

1 ）原著論文の書き方　その２：原著論文の始めの一歩と茨の道.
藤岡正樹.
日形会誌編集委員会企画セミナー；さあ書こう、はじめての医学論文. 第67回日本形成外科学会総会・学術集会. 神戸, 2024.4.12.

F-b：学会・研究会座長［国内学会］

＜座長＞

1 ）藤岡正樹.
一般口演48；腫瘍５, 第67回日本形成外科学会総会・学術集会. 神戸, 2024.4.12.

＜司会＞

1 ）藤岡正樹.
公募シンポジウム２；防ぎきれない褥瘡にどう向き合うか. 第26回日本褥瘡学会学術集会. 姫路, 2024.9.6.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

心臓血管外科

責任者　有吉 毅子男

診療科の特色

国立病院機構長崎医療センター心臓血管外科は、大村市を拠点とした県央地区を中心とする心臓血管外科治療の基幹施設です。高齢化社会となり心・大血管疾患に対して外科的治療介入を必要とする患者数はますます増加し、重症化することが予想されます。

心臓血管外科の診療目標
1．安全な診療（低い死亡率・合併症罹患術）
2．質の高い手術（低侵襲手術）

・安全な診療を目指して（低い死亡率、合併症罹患率）

高齢化によって症例数が増加し、特に最近では80歳以上の患者も珍しくなくなってきました。高齢化自体が手術の大きなリスクとなることから、「安全な診療」という目標には相反するリスクの増加が心臓血管外科手術には内在しているという大きなジレンマを抱えています。

このため入念な手術計画、確かな手術手技・術後管理を行うことが成績向上には必須となります。

長崎医療センターではスタッフが新しくなった過去13年間で行われた開心術・胸部大血管手術において緊急症例を含めた術後在院死亡率は0.6％と良好な成績を収めています。

・質の高い手術を目指して（手術の低侵襲化）

低侵襲心臓手術

心臓血管外科の「低侵襲」手術には①人工心肺を使用しない②創自体が小さいことによる低侵襲化の２通りが存在します。

前者は心拍動下冠動脈バイパス術（オフポンプ手術）が代表的であり、現在は広く全国に普及しています。一方で①と②の利点を合わせ持つ大動脈瘤治療に対するステントグラフト留置術もほとんどの心臓血管外科を有する施設で可能となっており、当院でも2014年から積極的に取り組んでいます。

心臓手術に目を向けますと、心臓大血管手術には、安全でより低侵襲・美容にも配慮した術式が求められるようになってきました。MICS（Minimally invasive cardiac surgery）といわれる低侵襲心臓手術では、従来の胸骨正中切開（胸骨を縦に離断）を行わず第４肋間切開（約６cm）、右開胸によるアプローチ法により、弁形成術や弁置換術を行うことができます。限られた視野の中で手術を行う必要があり、より高度な技術が求められる手術術式です。

従来の胸骨正中切開に比較して、①胸骨切断を行わないため、胸骨からの術後出血がない。②骨癒合を待つ必要が無いため、より早期の社会活動復帰が可能である。③正中切開よりも創が小さいため、美容上優れるなど数々の利点を有しています。

当科ではこれまで行ってきた僧帽弁領域での手術に加え、2021年度からは大動脈弁領域でのMICS手術を行っています。

末梢血管治療においても低侵襲化は進んでいます。閉塞性動脈硬化症に対する従来型の末梢動脈へのバイパス手術は減少傾向にあります。これにはカテーテルによる血管形成術の成績向上によるところが大きいと思います。しかしながら高齢化に伴い下肢の冷感や痺れ、ABI（Ankle-brachial index：足関節上腕血圧比）の低下で当科に紹介となる患者さんは多く、薬物・運動療法やカテーテル治療、バイパス手術などさまざまな治療の利点・欠点を踏まえ患者さん個々人の生活強度に合わせ、これらを選択していくことがわれわれの役割と考えています。

さらに、2023年秋からは下肢静脈瘤に対して県央地区では初めてレーザー治療が可能となりました。下肢静脈瘤の99％での主な治療法となりえるもので、皮膚切開を必要としない術式となっています。

入院診療実績

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	（再掲）死亡	
1,629人	4.5人	116人	116人	1人	14.0日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
113件	94.7%	175件	133.6%		

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
30人(25.4%)	26人(22.0%)	3人(2.5%)	5人(4.2%)	1人(0.8%)	9人(7.6%)

島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
17人(14.4%)	13人(11.0%)	3人(2.5%)	1人(0.8%)		2人(1.7%)

平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町
		1人(0.8%)			

壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外
1人(0.8%)	4人(3.4%)	1人(0.8%)	1人(0.8%)

合計
118人

手術件数と麻酔

総手術数	全身麻酔	腰椎麻酔・硬膜外麻酔	静脈麻酔	局所麻酔	緊急手術	待機手術
107	79	0	0	28	13	94

1．胸部大血管（N＝15）

	総数	上行	弓部	下行	（うちopen stent）	TEVAR	基部置換	在院死亡
大動脈解離	**5**	2	1	0	1	1	1	0
大動脈瘤	**10**	2	4	0	5	2	2	0

基部置換としてBentall 3例

2．虚血性心疾患（N＝16）

2．冠動脈バイパス手術	総数	1枝	2枝	3枝以上	OPCAB	on beating	CKD (HD)	在院死亡
	16	1	10	5	10	0	1	0

3．弁膜症（N＝23）

	総数	弁置換	弁形成	Maze	Bentall	在院死亡
大動脈弁	**18**	18	0	2	3	0
単弁（MICS 1例）	7	7	0	1	0	
大動脈弁＋CABG	3	3	0	1	0	
大動脈弁＋上行大動脈置換術	5	5	0	0	3	
大動脈弁＋心房中隔欠損	1	1	0	0	0	
大動脈弁＋僧帽弁	1	1	0	1	0	
大動脈弁＋心臓腫瘍	1	1	0	0	0	

僧帽弁		**6**	0	6	1	0
	単弁	3	0	3	0	
	僧帽弁＋大動脈弁	2	0	2	1	
	僧帽弁＋CABG	1	0	1	0	
三尖弁		**1**	0	1	1	0
	単弁	1	0	1	1	

4．腹部大動脈（N＝18）

	総数	（開腹）	（bypass）	EVAR	在院死亡
	18	3		15	0
破裂性動脈瘤	0	0		0	
非破裂性動脈瘤	18	3		15	

5．末梢動脈手術（N＝6）

総数	（AK）	（BK）	（FF）	Interpose	血管形成 内膜摘除	血栓除去	在院死亡
6	1	0	1	1	2	1	0

6．下肢静脈瘤（N＝26）

下肢静脈瘤手術	総数	レーザー焼灼	Stripping	高位結紮	在院死亡
	26	25	0	1	0

7．その他

		在院死亡
ペースメーカー交換	**1**	0
Coil塞栓	**2**	0

手術成績

	件数	在院死亡	1ヶ月以内死亡	再手術	手術部位感染症
待機手術	94	0	0	0	0
緊急手術	13	0	0	0	0

研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
循環器内科・心臓血管外科合同カンファランス	一回/週
術前カンファランス（心臓血管外科・ME・手術看護師）	不定期
病棟回診	一回/週
病棟勉強会	不定期
心臓リハビリテーションカンファランス	一回/週

治験、共同臨床研究（症例登録する研究）

治験等参加研究一覧

No.	項目 ①治験、②医師主導治験、③GCP準拠製造販売後臨床試験、④受託臨床研究（文書同意あり）、⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）、⑥公費臨床試験、⑦製造販売後調査（文書同意あり）、⑧製造販売後調査（文書同意なし）、⑨その他	研究課題名	同意書有無	依頼者（または試験母体）	責任医師（または担当研究者名）
1	⑧製造販売後調査（文書同意なし）	弁膜症術後経過の研究	無	日本メドトロニクス	有吉　毅子男
2	⑧製造販売後調査（文書同意なし）	人工弁の臨床症状に対する改善効果研究	無	センチュリーメディカル	有吉　毅子男

学会・論文など

1）原著論文　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	0	2	0	0

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

2）学会発表　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	1	0

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

3）学術講演　　**（件数）**

種類				
件数				

4）学会座長　　**（件数）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	0	0

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

研究業績

論　文　発　表

B：和文

B-a2：和文症例報告

1）上縦隔リンパ節損傷をリンパ造影によって診断・治療しえた冠動脈バイパス術後4の1例.
嶋田隆志、有吉毅子男.
日本心臓血管外科学会誌 2024；53巻第5号　p126-266.

2）下壁心筋梗塞に合併した心室中隔解離、心室中隔穿孔に対するパッチ修復術の1例.
嶋田隆志、田崎雄一、迫史朗、三浦崇.
日本心臓血管外科学会誌 2025；54巻第1号　p1-4.

学会・研究会・講演

B：国内学会

B-b2：一般演題

＜口演＞

1）上縦隔リンパ節損傷をリンパ管造影によって診断・治療しえた冠動脈バイパス術後の 1 例.
嶋田隆志、有吉毅子男、宮崎敦史、大塚哲洋.
日本胸部外科学会　九州地方総会. 福岡市, 2024.8.2.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

臨床研究センター

責任者　田川 努

診療科の特色

肝疾患高度専門医療施設：高度総合医療施設としての長崎医療センターでは、肝臓内科、肝臓外科、放射線部、病理部、救命救急センター等、関係各部署と密接に連携をとりながら、肝疾患分野での高度の専門的診療を行っています。また、多くの治験を行い、肝疾患治療薬の開発に貢献しています。

臨床研究センター：国が推進すべき政策医療の一つである肝疾患の分野での先駆的な医療や難治性の疾病等に関する診断、治療技術の機能強化を図る目的で2002年に臨床研究センターが設置されました。組織としては、治療研究部、難治性疾患研究部、病因解析研究部、外科治療研究部、機能形態研究部の５つの研究部、14の研究室から構成されています。各研究部は専任研究部長と室長および研究員が配置され、それぞれ連携を保ちながら研究を行っています。

また、2004年に国立病院から国立病院機構へと病院組織の変更に伴い、臨床研究センターは上記のような肝疾患だけではなく、リウマチなどの自己免疫性疾患、国際甲状腺病理、肝がんの外科および血管造影下治療、創傷治癒などの形成外科治療、てんかんの脳外科治療、国際医療協力、等も主たる研究テーマとして臨床研究を展開しています。

NHO肝疾患共同研究ネットワーク：国立病院機構肝疾患ネットワークのグループリーダーとして、ウイルス肝炎・肝癌、肝疾患難病に関して、参加施設から収集した情報、試料を解析して、EBMのためのエビデンスを作るべく研究を推進しています。

厚生労働省肝疾患研究班：厚生労働省科学研究費補助金により研究班を組織し、全国の研究者とともに、国が推進する肝疾患政策を支える研究を行っています。文科省・学術振興会科学研究費も獲得して、基礎的な研究も行っています。

長崎大学大学院（連携講座）：平成16年度より長崎大学大学院医歯薬学総合研究科新興感染症病態制御学専攻「肝臓病学講座」として連携講座の役割を担っており、６名の教員（教授）が大学院生の教育にあたっており、これまでに16名が卒業しています。

肝疾患診療連携拠点病院：平成19年８月に、全国に先駆けて長崎県の肝疾患診療連携拠点病院としての指定を受けました。長崎県における拠点病院として、県内の肝疾患診療施設と連携してウイルス肝炎・肝癌を中心とした肝疾患の診療、診療支援、医療相談、情報発信を実施するとともに、肝疾患患者の相談に応じています。

研修・教育

カンファレンス

名称	参加職種	参加人数（平均）	実施回数
臨床研究センター運営委員会	部長、室長	11	１回/月
臨床研究実践セミナー	全職員	46	５回/年
院内臨床研究発表会	全職員	41	３回/年

競争的資金獲得状況

○厚生労働省　科学研究費補助金　※（病院全体）

No.	区分	代表分担	研究代表者	分担者	研究事業名	研究課題名
1	継	代表	八橋　弘	八橋　弘	肝炎等克服政策研究事業	様々な生活の場における肝炎ウイルス感染者の人権への望ましい配慮に関する研究
2	新	分担	山口　照英	八橋　弘	医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業	C型肝炎特措法に基づく薬害C型肝炎患者救済を推進するための実態調査研究
3	新	分担	大隅　和	八橋　弘	医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業	安全な血液製剤の安定供給に資する適切な採血事業体制の構築のための研究
4	新	分担	四柳　宏	八橋　弘	肝炎等克服政策研究事業	様々な状況での肝炎ウイルス感染予防・重症化・再活性化予防の方策に資する研究
5	新	分担	江口　晋	八橋　弘	エイズ対策政策研究事業	血液製剤によるHIV/HCV重複感染患者に対する外科治療の標準化に関する研究
6	継	分担	白阪　琢磨	八橋　弘	友愛福祉財団委託事業	エイズ発症予防に資するための血液製剤によるHIV感染者の調査研究事業
7	継	分担	田中　篤	小森　敦正	難治性疾患政策研究事業	難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究
8	継	分担	田中　純子	山﨑　一美	肝炎等克服政策研究事業	全国規模の肝炎ウイルス感染状況把握及びウイルス性肝炎eliminationに向けた方策の確立に資する疫学研究
9	新	分担	今井　克美	本田　涼子	難治性疾患政策研究事業	希少てんかんの診療指針と包括医療の研究
10	新	分担	田中　朝志	長井　一浩	厚生労働科学特別研究事業	へき地・離島等での血液製剤の有効利用のための研究
11	新	分担	猪口　貞樹	髙山　隼人	地域医療基盤開発推進研究事業	各地域救急医療体制におけるドクターヘリの適正運用と安全運航に関する研究
12	継	分担	横田　裕行	髙山　隼人	地域医療基盤開発推進研究事業	地域医療構想を踏まえた救急医療体制の充実に関する研究

○国立研究開発法人　日本医療研究開発機構（AMED）研究費

No.	区分	代表分担	研究代表者	分担者	研究事業名	研究課題名
1	新	代表	八橋　弘	八橋　弘	肝炎等克服実用化研究事業　肝炎等克服緊急対策研究事業	肝硬変患者の重症度別のQOLと長期経過、予後及びその改善に関する研究
2	継	分担	竹原　徹郎	八橋　弘	肝炎等克服実用化研究事業　肝炎等克服緊急対策研究事業	インターフェロンフリー治療がC型肝硬変患者の予後を含めたアウトカムに与える影響を明らかにする研究
3	継	分担	本多　政夫	小森　敦正	肝炎等克服実用化研究事業　肝炎等克服緊急対策研究事業	肝類洞内皮のバリア破綻を契機とする非アルコール性脂肪性肝炎の発症と肝発がん機序の解明

No.	区分	代表分担	研究代表者	分担者	研究事業名	研究課題名
4	継	分担	徳永　勝士	山﨑　一美	肝炎等克服実用化研究事業　肝炎等克服緊急対策研究事業	Ｂ型肝炎の個別化医療を目指した臨床ゲノム解析に関する研究と肝炎データストレージの利活用
5	継	分担	村田　一素	山﨑　一美	肝炎等克服実用化研究事業　肝炎等克服緊急対策研究事業	Nucleotide analog製剤の宿主免疫賦活能を利用してＢ型肝炎のHBs抗原消失率向上を目指す治療法の開発および創薬に関する研究
6	継	分担	國土　典宏	中村　　稔	難治性疾患実用化研究事業	難病のゲノム医療実現に向けた全ゲノム解析の実施基盤の構築と実践
7	継	分担	末廣　陽子	今泉　芳孝	革新的がん医療実用化研究事業	成人Ｔ細胞白血病/リンパ腫の治療を目指したHTLV-1ウイルス標的樹状細胞ワクチン療法の確立

○日本学術振興会　科学研究費補助金

No.	区分	代表分担	研究代表者	分担者	研究事業名	研究課題名
1	新	代表	小野　智憲	小野　智憲	基盤（Ｃ）一般	発達性てんかん性脳症における皮質アストロサイトの未熟性を遺伝子レベルで解析する
2	継	代表	相葉　佳洋	相葉　佳洋	基盤（Ｃ）一般	原発性胆汁性胆管炎の門脈域におけるPOU2AF1とその関連分子の解析
3	継	代表	中村　　稔	中村　　稔	基盤（Ｃ）一般	原発性胆汁性胆管炎の新たな病態解明と治療標的の同定を目指した臨床ゲノム解析
4	継	代表	本田　和也	本田　和也	基盤（Ｃ）一般	脳卒中診療におけるナースプラクティショナー（NP）を活用したマンパワーの提案
5	継	代表	吉田　晴郎	吉田　晴郎	基盤（Ｃ）一般	難聴児見逃しゼロを目指した小児聴覚スクリーニングシステムの構築
6	継	代表	原　健太朗	原　健太朗	若手研究	手術室における滅菌有効期限を事象依存型無菌性維持に設定するための基礎学研究
7	新	分担	相葉　佳洋	伊東　正博	基盤（Ｃ）一般	原発性胆汁性胆管炎の門脈域におけるPOU2AF1とその関連分子の解析
8	新	分担	中村　　稔	相葉　佳洋	基盤（Ｃ）一般	原発性胆汁性胆管炎の新たな病態解明と治療標的の同定を目指した臨床ゲノム解析
9	新	分担	小野　智憲	伊東　正博	基盤（Ｃ）一般	発達性てんかん性脳症における皮質アストロサイトの未熟性を遺伝子レベルで解析する
10	新	分担	小野　智憲	三浦　史郎	基盤（Ｃ）一般	発達性てんかん性脳症における皮質アストロサイトの未熟性を遺伝子レベルで解析する
11	継	分担	林田麻衣子	藤岡　正樹	基盤（Ｃ）一般	bFGFの組織再生能力に着目した統合失調症治療法の開発
12	継	分担	本田　和也	森塚　倫也	基盤（Ｃ）一般	脳卒中診療におけるナースプラクティショナー（NP）を活用したマンパワーの提案
13	継	分担	本田　和也	諸藤　陽一	基盤（Ｃ）一般	脳卒中診療におけるナースプラクティショナー（NP）を活用したマンパワーの提案
14	延長	分担	光武　範吏	伊東　正博	国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（Ｂ））	チェルノブイリ放射線誘発甲状腺がんの遺伝子バンク設立と分子遺伝疫学国際共同研究

○NHOネットワーク共同研究費

No.	区分	代表分担	研究代表者	分担者	領域	研究課題名
1	新	代表	山﨑　一美	山﨑　一美	R6-EBM（消化）-01	急性肝炎の発生状況および重症化、劇症化に関する因子に関する研究
2	新	代表	安日　一郎	安日　一郎	R6-EBM（小産）-01	多職種による糖尿病女性のプレコンセプション・ケア・バンドルの開発とその有効性に関する研究
3	新	代表	福田　雅史	福田　雅史	R6-EBM（小産）-02	子宮頚部中等度異形成の自然寛解に関する臨床研究
4	新	代表	福井彩恵子	福井彩恵子	R6-NHO（PI）-07	進行大腸癌におけるオキサリプラチン使用による肝類洞閉塞症候群の臨床的評価とバイオマーカーの関連に関する単施設前向きコホート研究
5	継	代表	中村　　稔	中村　　稔	R2-NHO（消化）-01	原発性胆汁性胆管炎の新しい病型分類と創薬のための長期観察研究
6	新	分担	成本　　治	岡田　覚丈	R6-EBM（免アレ）-04	関節リウマチに伴う間質性肺病変の急性発症/急性増悪に関わる病原体の探索
7	新	分担	松永　達雄	吉田　晴郎	R6-EBM（感覚）-01	早期発症・進行性の両側性感音難聴の遺伝要因の解明に関する横断研究
8	継	分担	阪森亮太郎	小森　敦正	R5-NHO（消化）-01	脂肪性肝疾患患者の自然経過とイベント発生に関する前向き観察研究
9	継	分担	吉田　　功	今泉　芳孝	R5-NHO（血液）-01	80歳以上未治療びまん性大細胞型B細胞リンパ腫に対するポラツズマブメドチン＋R-miniCHP療法の有効性と安全性を検証する他施設共同非盲検無対照試験
10	継	分担	菅田　　健	森　　英毅	R5-NHO（感染）-02	網羅的遺伝子診断技術を用いた感染性胃腸炎病原体解析
11	継	代表	森　　英毅	森　　英毅	R5-NHO（感染）-03	グラム染色画像深層学習による新規薬剤耐性菌診断モデルの開発と検証
12	継	分担	南　修司郎	吉田　晴郎	R5-NHO（感覚）-02	聞こえにくい方を対象としたオンライン聴覚検査精度に関する観察研究
13	継	分担	角田　晃一	田中　藤信	R5-NHO（感覚）-01	内頚動脈変位走行異常による咽喉頭異常感の把握と、その診断法の標準化を目指す研究
14	継	分担	古川　　宏	岡田　覚丈	R4-NHO（免アレ）-02	関節リウマチに伴う肺非結核性抗酸菌症の新規バイオマーカーの探索
15	継	分担	星田　義彦	岩永　　希	R4-NHO（多共）-01	Liquid biopsyを用いたMTX-LPDの診断及び病態予測の検討
16	継	分担	星田　義彦	伊東　正博	R4-NHO（多共）-01	Liquid biopsyを用いたMTX-LPDの診断及び病態予測の検討
17	継	代表	八橋　　弘	八橋　　弘	肝疾患	コア・グループリーダー予算

○東京都特別研究

No.	区分	代表分担	研究代表者	分担者	研究事業名	研究課題名
1	継	分担	小原　道法	八橋　　弘	公益財団法人東京都医学総合研究所感染制御プロジェクト	肝硬変治療薬の開発を促進する肝機能回復メカニズムの解明研究

学会・論文など

1）論文

	原著	症例報告	総説	著書	その他
英文	23	4	5	2	0
和文	0	3	8	1	0
計	23	7	13	3	0

2）学会・研究会

	特別・教育・招待講演	シンポジウム、パネルディスカッション	一般演題	研究会発表
国際	1	3	12	0
国内	0	15	132	12
計	1	18	144	12

3）学術講演

種類	国際	国内
件数	0	15

4）学会・研究会等　座長

	座長
国際	2
国内	26
計	28

研究業績

論　文　発　表

A：英文　　**※筆頭者alphabet順**

A-a1：英文原著（23）

1）Zinc supplementation with polaprezinc was associated with improvements in albumin, prothrombin time activity, and hemoglobin in chronic liver disease.
Abiru S, Kugiyama Y, Suehiro T, Motoyoshi Y, Saeki A, Nagaoka S, Yamasaki K, Komori A, Yatsuhashi H.
J Clin Biochem Nutr 2024；74(2)：162-168.

2）Why has the outcome of Gustilo-Anderson type III fracture not improved over 2 decades?：Considerations for recommended initial debridement and secondary wound covering time limits.
Fujioka M, Fukui K, Idemitsu M, Koga K.
Int. J. Surg. Wound Care 2024；5(2)：39-45.

3）Dynamic Reconstruction Using Accessory-innervated Pedicled Latissimus Dorsi Flap for Upper Trapezius Muscle Defect.
Fujioka M, Koga K.
Plast Reconstr Surg Glob Open 2024；12(4)：e5748.

4）Prevention of Postoperative Skin Disorders and Pressure Injuries in the Neurosurgical Park Bench Position Surgery：A Prospective Cohort Study.
Hara K, Uemura T, Tachibana R, Kumashiro R, Yamaguchi M, Kawahara I, Fujioka M.
Cureus 2024；16(4)：e58552.

5）Development of an estimation formula for preparation time of anesthesia induction and surgery accounting for clinical department factors in optimal surgery schedule management.
Hara K, Tachibana R, Kaneko S, Yamaguchi M, Fujioka M, Kuroki T, Honda S, Sawai T.
Sci Rep 2024；14(1)：25185.

6）Factors Affecting Nonfunctioning Small Pancreatic Neuroendocrine Neoplasms and Proposed New Treatment Strategies.
Hijioka S, Yamashige D, Esaki M, Honda G, Higuchi R, Masui T, Shimizu Y, Ohtsuka M, Kumamoto Y, Katanuma A, Gotohda N, Akita H, Unno M, Endo I, Yokoyama Y, Yamada S, Matsumoto I, Ohtsuka T, Hirano S, Yasuda H, Kawai M, Aoki T, Nakamura M, Hashimoto D, Rikiyama T, Horiguchi A, Fujii T, Mizuno S, Hanada K, Tani M, Hatori T, Ito T, Okuno M, Kagawa S, Tajima H, Ishii T, Sugimoto M, Onoe S, Takami H, Takada R, Miura T, Kurita Y, Kamei K, Mataki Y, Okazaki K, Takeyama Y, Yamaue H, Satoi S；Japan Pancreas Society Clinical Research Promotion Committee. Group (Corporate Authorship).
【Collaborators】Japan Pancreas Society Clinical Research Promotion Committee Group (Corporate Authorship)：Tsuchikawa T, Taniguchi T, Iseki M, Shimura M, Watanabe T, Gyoten K, Shimizu A, Maehira H, Eguchi H, Isayama H, Komoto I, Doi R, Furuse J, Okusaka T, Morizane C, Igarashi H, Kitano M, Kuroki T, Tanno S, Tsuji Y, Masamune A, Hirooka Y.
Clin Gastroenterol Hepatol 2024；22(7)：1416-1426.e5.

7）Identification of the hybrid gene LILRB5-3 by long-read sequencing and implication of its novel signaling function.
Hirayasu K, Khor SS, Kawai Y, Shimada M, Omae Y, Hasegawa G, Hashikawa Y, Tanimoto H, Ohashi J, Hosomichi K, Tajima A, Nakamura H, Nakamura M, Tokunaga K, Hanayama R, Nagasaki M.
Front Immunol 2024；15：1398935.

8）rs10924104 in the expression enhancer motif of CD58 confers susceptibility to human autoimmune diseases.
Hitomi Y, Ueno K, Aiba Y, Nishida N, Kawai Y, Kawashima M, Khor SS, Takada S, Iwabuchi C, Nagasaki M, Tokunaga K, Nakamura M.
Hum Genet 2024；143(1)：19-33.

9）A genome-wide association study identified PTPN2 as a population-specific susceptibility gene locus for primary biliary cholangitis.
Hitomi Y, Ueno K, Aiba Y, Nishida N, Kono M, Sugihara M, Kawai Y, Kawashima M, Khor SS, Sugi K, Kouno H, Kouno H, Naganuma A, Iwamoto S, Katsushima S, Furuta K, Nikami T, Mannami T, Yamashita T, Ario K, Komatsu T, Makita F, Shimada M, Hirashima N, Yokohama S, Nishimura H, Sugimoto R, Komura T, Ota H, Kojima M, Nakamuta M, Fujimori N, Yoshizawa K, Mano Y, Takahashi H, Hirooka K, Tsuruta S, Sato T, Yamasaki K, Kugiyama Y, Motoyoshi Y, Suehiro T, Saeki A, Matsumoto K, Nagaoka S, Abiru S, Yatsuhashi H, Ito M, Kawata K, Takaki A, Arai K, Arinaga T, Abe M, Harada M, Taniai M, Zeniya M, Ohira H, Shimoda S, Komori A, Tanaka A, Ishigaki K, Nagasaki M, Tokunaga K, Nakamura M.
Hepatology 2024；80(4)：776-790.

10）Preferable effect of CTLA4-Ig on both bone erosion and bone microarchitecture in rheumatoid arthritis revealed by HR-pQCT.
Iwamoto N, Chiba K, Sato S, Tashiro S, Shiraishi K, Watanabe K, Ohki N, Okada A, Koga T, Kawashiri SY, Tamai M, Osaki M, Kawakami A.
Sci Rep 2024；14(1)：27673.

11）Influences of advanced age in rheumatoid arthritis：A multicentre ultrasonography cohort study.
Kawahara C, Kawahara C, Fukui S, Michitsuji T, Nishino A, Endo Y, Shimizu T, Umeda M, Sumiyoshi R, Koga T, Iwamoto N, Origuchi T, Ueki Y, Eiraku N, Suzuki T, Okada A, Matsuoka N, Takaoka H, Hamada H, Tsuru T, Arinobu Y, Hidaka T, Fujikawa K, Yoshitama T, Tada Y, Ohtsubo H, Ishizaki J, Asano T, Kawakami A, Kawashiri SY.
Mod rheumatol 2024；34(6)：1142-1148.

12）Reply to correspondence on “Comparison of four histological scoring systems for autoimmune hepatitis to improve diagnostic sensitivity.”
Komori A.
Clin Mol Hepatol 2024；2024；30(4)：1035-1036.

13）Inferior pancreaticoduodenal artery early ligation can reduce blood loss during pancreaticoduodenectomy.
Kuroki T, Okamoto T, Kitasato A, Ikeda T, Fukui S, Miyoshi T, Yoneda A, Takeshita H.
Acta Medica Nagasakiensia 2024；67(2)：81-84.

14）Sequential Peg-IFN after bepirovirsen may reduce post-treatment relapse in chronic hepatitis B.
Buti M, Heo J, Tanaka Y, Andreone P, Atsukawa M, Cabezas J, Chak E, Coffin CS, Fujiwara K, Gankina N, Gordon SC, Janczewska E, Komori A, Lampertico P, McPherson S, Morozov V, Plesniak R, Poulin S, Ryan P, Sagalova O, Sheng G, Voloshina N, Xie Q, Yim HJ, Dixon S, Paff M, Felton L, Lee M, Greene T, Lim J, Lakshminarayanan D, McGonagle G, Plein H, Youssef A, Elston R, Kendrick S, Theodore D.
J Hepatol 2025；82(2)：222-234.

15）Clinical and ultrasound features of difficult-to-treat rheumatoid arthritis：A multicenter RA ultrasound cohort study.
Michitsuji T, Fukui S, Morimoto S, Endo Y, Nishino A, Nishihata S, Tsuji Y, Shimizu T, Umeda M, Sumiyoshi R, Koga T, Iwamoto N, Origuchi T, Ueki Y, Yoshitama T, Eiraku N, Matsuoka N, Okada A, Fujikawa K, Ohtsubo H, Takaoka H, Hamada H, Tsuru T, Nawata M, Arinobu Y, Hidaka T, Tada Y, Kawakami A, Kawashiri SY.
Scand J Rheumatol 2024；53(2)：123-129.

16）The impact of glucocorticoid use on the outcomes of rheumatoid arthritis in a multicenter ultrasound cohort study.
Nonaka F, Fukui S, Michitsuji T, Endo Y, Nishino A, Shimizu T, Umeda M, Sumiyoshi R, Koga T, Iwamoto N, Origuchi T, Ueki Y, Eiraku N, Suzuki T, Okada A, Matsuoka N, Takaoka H, Hamada H, Tsuru T, Arinobu Y, Hidaka T, Fujikawa K, Yoshitama T, Tada Y, Ohtsubo H, Ishizaki J, Asano T, Maeda T, Kawakami A, Kawashiri SY.
Int J Rheum Dis 2024；27(3)：e15118.

17）M2BPgs-HCC：An Automated Multilectin Bead Array Indicating Aberrant Glycosylation Signatures Toward Hepatitis C Virus-Associated Hepatocellular Carcinoma Prognosis.
Shimazaki H, Uojima H, Yamasaki K, Obayashi T, Fuseya S, Sato T, Mizokami M, Kuno A.
Molecules 2024；29(23)：5640.

18）Three Molecular Developmental Pathways of Remnant Pancreatic Cancer after Resection：A Nationwide Project Study of Japan Pancreas Society.
Suzuki S, Omori Y, Ono Y, Hirose K, Itoh T, Karasaki H, Shimoda M, Nagakawa Y, Higuchi R, Endo I, Rikiyama T, Unno M, Fujii T, Sunagawa Y, Eguchi H, Sasanuma H, Akahori T, Okano K, Tani M, Hirano S, Shimizu Y, Kitago M, Mizuno S, Yamamoto T, Furukawa M, Ohtsuka M, Sugimoto M, Matsushita A, Hakamada K, Igarashi H, Kuroki T, Tanno S, Tsuji Y, Masamune A, Mizumoto K, Hirooka Y, Yamaue H, Okazaki K, Satoi S, Takeyama Y, Mizukami Y, Furukawa T.
Ann Surg 2025；281(6)：1015-1025. Epub 2024 Jul 17.

19）Safety and effectiveness of SARS-CoV-2 vaccines for patients with intractable hepatobiliary diseases：A multicenter, questionnaire-based, cross-sectional study.
Tanifuji A, Ohfuji S, Matsumoto K, Abe M, Komori A, Takahashi A, Kawata K, Sato K, Joshita S, Umemura T, Ueno M, Nakayama N, Kakisaka K, Arinaga-Hino T, Ito K, Kanai S, Miura R, Arizumi T, Asaoka Y, Ito T, Shimizu T, Yoshida H, Ohta M, Mizuno S, Isayama H, Morimoto Y, Mochida S, Ohira H, Tanaka A.
Hepatol Res 2024；54(7)：706-715.

20）Successful treatment of systemic lupus erythematosus with residual disease activity by switching from belimumab to anifrolumab.
Umeda M, Kojima K, Michitsuji T, Tsuji Y, Shimizu T, Fukui S, Sumiyoshi R, Koga T, Kawashiri SY, Naoki I, Iagawa T, Tamai M, Origuchi T, Furuyama M, Tsuboi M, Matsuoka N, Okada A, Aramaki T, Kawakami A.
Mod Rheumatol 2024；34(6)：1281-1283.

21）Quantitative measurements of M2BPGi depend on liver fibrosis and inflammation.
Uojima H, Yamasaki K, Sugiyama M, Kage M, Ishii N, Shirabe K, Hidaka H, Kusano C, Murakawa M, Asahina Y, Nishimura T, Iijima H, Sakamoto K, Ito K, Amano K, Kawaguchi T, Tamaki N, Kurosaki M, Suzuki T, Matsuura K, Taketomi A, Joshita S, Umemura T, Nishina S, Hino K, Toyoda H, Yatsuhashi H, Mizokami M.
J Gastroenterol 2024；59(7)：598-608.

22）Anti-integrin αvβ6 autoantibody in primary sclerosing cholangitis：a Japanese nationwide study.
Yasuda M, Shiokawa M, Kuwada T, Nishikawa Y, Nakanishi R, Takimoto I, Chikugo K, Yokode M, Muramoto Y, Matsumoto S, Nakamura T, Ota S, Matsumori T, Kuroda K, Hachiya T, Yamazaki H, Uza N, Kodama Y, Chiba T, Fujisawa T, Komori A, Abe M, Yamaguchi I, Matsuda F, Isayama H, Tanaka A, Seno H；Japan PSC Study Group (JPSCSG).
J Gastroenterol 2025；60(1)：118-126. Epub 2024 Nov 16.

23）Prognostic value of systemic inflammation score in patients with esophageal cancer.
Yoneda A, Ogata R, Ryu S, Yoshino K, Fukui S, Kugiyama T, Kitasato A, Sugiyama N, Takeshita H, Minami S, Kuroki T.
Ann Med Surg (Lond) 2024；86(7)：3852-3855.

A-a2：英文症例報告（4）

1）Successful Ventral onlay Peripheral deEpthelialized Skin Graft for Reconstruction of Penile Urethral Defect Due to Fournier's Gangrene.
Fujioka M , Onita T.
Journal of Urology and Renal Diseases 2024；9(1)：1363.

2）Two Cases of Lobular Capillary Hemangioma in the Finger Suspected of Malignancy due to Rapid Growth.
Fujioka M, Koga K, Soeda M and Miura S.
Ann Plast Reconstr Surg 2024；8(1)：1116.

3）Tetra-combined Z-plasty for wide-scar hip contracture including the anus.
Fujioka M, Fukui K, Koga K.
Burns Open 2024；8(2)：125-127.

4）Primary Malignant Melanoma of the Esophagus Treated with Surgical Resection at an Early Stage.
Yoneda A, Ogata R, Ryu S, Yoshino K, Fukui S, Ikeda T, Kitasato A, Sugiyama N, Takeshita H, Minami S, Ito M, Kuroki T.
Case Rep Gastroenterol 2024；18(1)：189-194.

A-b1: 英文総説（5）

1）WONOEP appraisal：The role of glial cells in focal malformations associated with early onset epilepsies.
Cases-Cunillera S, Quatraccioni A, Rossini L, Ruffolo G, Ono T, Baulac S, Auvin S, O'Brien TJ, Henshall DC, Akman Ö, Sankar R, Galanopoulou AS.
Epilepsia 2024；65(12)：3457-3468.

2）Hard-to-treat autoimmune hepatitis and primary biliary cholangitis：The dawn of a new era of pharmacological treatment.
Komori A, Kugiyama Y.
Clin Mol Hepatol 2025；31(1)：90-104. Epub 2024 Nov 11.

3）A novel clinical trial for primary sclerosing cholangitis from Asia：all regional endeavors should improve global management of PSC.
Komori A, .
Clin Mol Hepatol 2025；31(2)：584-588. Epub 2024 Nov 6.

4）Evaluation of the histological scoring systems of autoimmune hepatitis：A significant step towards the optimization of clinical diagnosis.
Komori A, .
Clin Mol Hepatol 2024；30(2)：157-159.

5）Osteoporosis and Primary Biliary Cholangitis：A Trans-ethnic Mendelian Randomization Analysis.
Wu Y, Qian Q, Liu Q, Wang R, Pu X, Li Y, Zhang H, You Z, Miao Q, Xiao X, Lian M, Wang Q, Nakamura M, Gershwin ME, Li Z, Ma X, Tang R.
Clin Rev Allergy Immunol 2024；66(2)：138-148.

A-c：英文著書（2）

1）Rheumatoid and Systemic Collagenosis Vasculitis.
Fujioka M, .
Skin Necrosis. 2nd.ed. Eds.Teot L,Meaume S,Del Mamol V, Akita S, Ennis WI, Springer-Verlag, Heidelberg. 2024；Chap25；179-186. https：//doi.org/10.1007/978-3-031-60954-1.

2）How to Manage Radiation Injuries.
Senju C, Fujioka M, Tanak K, Akita S.
Skin Necrosis. 2nd.ed. Eds.Teot L,Meaume S,Del Mamol V, Akita S, Ennis WI, Springer-Verlag, Heidelberg. 2024；Chap14；109-115. https：//doi.org/10.1007/978-3-031-60954-1.

和文

B-a2：和文症例報告（3）

1）膵壊死、胃壊死を伴った特発性脾梗塞の1例.
門田優太、釘山統太、吉野恭平、岡本辰哉、福井彩恵子、池田貴裕、米田晃、北里周、竹下弘明、南恵樹、三原裕美、三浦史郎、黒木保.
崎医学会雑誌 2024；99(1)：25-29.

2）【動静脈奇形症例集［2］－顔面－】顔面耳介CM-AVMに対して塞栓-硬化療法に耳介形成手術を組み合わせた1例.
野口美帆、井町賢三、福井季代子、藤岡正樹、石丸英樹、秋田定伯.
形成外科 2024；67(1)：37-42.

3）【動静脈奇形症例集［3］－躯幹－】胸壁に生じた巨大AVMに対してモノエタノールアミンオレイン酸塩を用いた塞栓－硬化療法が奏効した1例 .
野口美帆、井町謙三、福井季代子、藤岡正樹、石丸英樹、秋田定伯.
形成外科 2024；67(2)：125-130.

B-b：和文総説（8）

1）てんかん　治療抵抗性てんかんに対する緩和的治療　治療目標の設定とその達成のための迷走神経刺激療法.
小野智憲、本田涼子、佐藤和明.
難病と在宅ケア 2024；30(7)：22-25.

2）【十二指腸・小腸疾患アトラス】腫瘍,腫瘍様病変　粘膜下腫瘍/粘膜下腫瘍様病変　神経内分泌腫瘍（NEN）：十二指腸乳頭部/副乳頭部.
黒木保、釘山統太、福井彩恵子、北里周、佐伯哲、三浦史郎.
消化器内視鏡 2024；36(4)：510-511.

3）【今月のテーマ：自己免疫性肝・胆道疾患up to date】原発性胆汁性胆管炎up to date.
小森敦正.
日本消化器病学会雑誌 2024；121(1)：17-25.

4）【自己免疫性肝疾患～病因、診断、治療～】原発性胆汁性胆管炎レジストリ.
小森敦正.
Precision Medicine 2024；6(14)：1160-1163.

5）治療法の再整理とアップデートのために　専門家による私の治療　原発性胆汁性胆管炎.
小森敦正.
日本医事新報 2024；5229：49.

6）【自己免疫性肝疾患とICI（免疫チェックポイント阻害薬）による肝障害】自己免疫性肝疾患　原発性胆汁性胆管炎（PBC） 治療を巡る課題.
小森敦正.
臨床消化器内科 2024；39(10)：1264-1270.

7）【外科医の働き方改革を考える】働き方改革実現に向けた具体的な取り組み　特定行為研修修了看護師　診療看護師（NP）の役割と展望.
中原未智、米田晃、福井彩恵子、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
手術 2024；78(1)：65-70 .

8）【自己免疫性肝疾患～病因、診断、治療～】自己免疫性肝疾患の遺伝因子.
中村稔.
Precision Medicine 2024；6(14)：1136-1140.

B-c2：和文著書〔分担〕（1）

1） 5 . 感染症検査/ B .ウイルス、11. C 型肝炎ウイルス.
山﨑一美、八橋弘.
臨床検査ガイド 2025年改訂版, これだけは必要な検査のすすめかた・データのよみかた 2024；pp791-794.

学会・研究会・講演

A：国際学会, 国際会議　　**※筆頭者alphabet順**

A-a：　特別講演, 教育講演, 招待講演等（1）

1）＜Invited lecture＞Second-Line Pharmacotherapies for Hard-to-Treat Autoimmune Hepatitis and Primary Biliary Cirrhosis.
Komori A.
Special Interest Group 2; Advancing and Discovering Cures for Rare Liver Disease, The Liver Week 2024. Seoul, Korea, 2024.6.29.

A-b1：シンポジウム, パネルディスカッション等（3）

1）＜Symposium＞Rethinking the Disease Status of Chronic Hepatitis B：The Roles of Novel Detection Methods for HBV Markers.
Komori A.
HBV2 Novel Detection Methods for HBV Markers；HBV2-1, APASL（Asian Pacific Association for the Study of the Liver）2024 Kyoto. Kyoto, 2024.3.28.

2）＜Symposium＞Stepwise surgery of callosotomy and subsequent resective/disconnecitive surgery for patients with generalized onset seizures.
Ono T.
28th Annual Scientific Meeting of Indonesian Neurosurgical Society. BSD city/Jakarta, 2024.6.6-9.

3）＜Symposium＞Corpus callosotomy and subsequent　resective/disconnective surgery for　generalized epilepsy.
Ono T.
The 18th Asian Epilepsy Surgery Congress 2024（第18回アジアてんかん外科学会）. Surabaya, Indonesia, 2024.10.10-12.

A-b2：一般演題（12）

1）＜poster＞Durvalumab plus Tremelimumab treatment in patients with unresectable HCC；an early experience.
Motoyoshi Y, Wataya M, Matsumoto K, Kugiyama Y, Suehiro T, Saeki A, Nagaoka S, Yamasaki K, Komori A, Yatsuhashi H.
Group077；Systemic Chemotherapy & Oncology, APASL (Asian Pacific Association for the Study of the Liver) 2024 Kyoto. Kyoto, 2024.3.29.

2）＜poster＞Contrast-Enhanced Low-MI THI：A useful imaging support for the locoregional therapy for liver tumor.
Motoyoshi Y, Wataya M, Matsumoto K, Kugiyama Y, Suehiro T, Saeki A, Nagaoka S, Yamasaki K, Komori A, Yatsuhashi H.
Group044；Ablation & Image-Guided Procedure, APASL (Asian Pacific Association for the Study of the Liver) 2024 Kyoto. Kyoto, 2024.3.29.

3）＜Oral＞Successful treatment of Systemic Lupus Erythematosus with Residual Disease Activity by Switching from Belimumab to Anifrolumab.
Umeda M, Kojima K, Michitsuji T, Tsuji Y, Shimizu T, Fukui S, Sumiyoshi R, Koga T, Kawashiri SY, Iwamoto N, Igawa T, Tamai M, Origuchi T, Furuyama M, Tsuboi M, Matsuoka N, Okada A, Aramaki T, Kawakami A.
第68回日本リウマチ学会総会・学術集会. 神戸, 2024.4.18.

4）＜International Conference＞A new approach to develop computer-aided screening system using artificial intelligence for gastric biopsy specimens.
Taniyama D, Taniyama K, Kuraoka K, Mano M, Teramoto N, Miura S, Akagi M, Katayama N, Kawasaki T, Nakajima C.
Pathology Informatics Summit 2024. Michigan, USA, 2024.5.20-23.

5）＜Poster＞Identification of serum metabolome signatures associated with hepatocellular carcinoma in metabolic dysfunction-associated steatohepatitis.
Komori A, Matsumoto K, Kugiyama Y, Suehiro T, Motoyoshi Y, Saeki A, Nagaoka S, Yamasaki K, Yatsuhashi H.
EASL Congress 2024. Milan, Italy, 2024.6.5.

6）＜Oral＞Pancreaticoduodenectomy after steroid therapy for ampullary region carcinoma associated with IgG4-related sclerosing cholangitis and autoimmune pancreatitis：A case report.
Kugiyama T, Yoshino K, Fukui S, Kitasato A, Kuroki T.
Mini-Oral 13；Biliary 6 , 第36回日本肝胆膵外科学会・学術集会. 広島, 2024.6.28.

7）＜Oral＞A new approach to develop computer-aided diagnosis using artificial intelligence for gastric biopsy specimens - 5th report.
Kiyomi Taniyama, Daiki Taniyama, Kazuya Kuraoka, Masayuki Mano, Norihiro Teramoto, Shiro Miura, Morihisa Akagi, Norihiko Katayama, Tomonori Kawasaki, Chika Nakajima.
一般口演（英語）, 第22回日本デジタルパソロジー・AI研究会総会. 沖縄, 2024.8.29.

8）＜Oral＞Development of neuronal conduction velocity of the human corpus callosum and myelination.
Ono T, Honda R, Sato K, Uchida D, Baba S, Toda K, Baba H.
一般口演（英語）6 , 第57回日本てんかん学会学術集会. 福岡, 2024.9.13.

9）＜Poster＞Effectiveness of Immune Checkpoint Inhibitor Therapy with Locoregional Therapy Versus ICI Alone in Unresectable Hepatocellular Carcinoma：A Retrospective Analysis.
Motoyoshi Y, Nakamura M, Kojima T, Kugiyama Y, Suehiro T, Saeki A, Nagaoka S, Yamasaki K, Komori A, Yatsuhashi H.
Poster Session 20；Systemic Therapy (4), APASL Oncology 2024 Chiba. Chiba, 2024.9.25.

10）＜Oral＞A case of multiple cerebral aneurysms which was difficult to identify the rupture site.
後藤純寛、吉田道春、定方英作、小野智憲、原口渉、案田岳夫.
セッション５；English session, 第148回日本脳神経外科学会九州支部会. 長崎, 2024.9.28.

11）＜Oral＞Identification of PTPN2 as a susceptibility locus for primary biliary cholangitis by genome-wide association study.
人見祐基、植野和子、相葉佳洋、西田奈央、河野通大、杉原実樹、河合洋介、川嶋実苗、Seik-Soon Khor、石垣和慶、長崎正朗、徳永勝士、中村稔.
Oral Session 11；Complex Disorders, 日本人類遺伝学会第69回大会. 札幌, 2024.10.12.

12）＜Workshop＞Identification of PTPN2 as a population-specific susceptibility locus for primary biliary cholangitis through genome-wide association study.
Hitomi Y, Aiba Y, Ishigaki K, Nakamura M.
WS20 Organ-Specific Immune Diseases, 第53回日本免疫学会学術集会. 長崎, 2024.12.4.

B-b1：シンポジウム, パネルディスカッション等（15）

1）＜シンポジウム＞これから半球離断術を学ぶ者たちに伝えたいこと：「必ずしも教科書通りでなくてよい」.
小野智憲.
シンポジウム５（ビデオシンポジウム）；次世代に託したい離断手術の基本再考と工夫, 第47回日本てんかん外科学会. 札幌, 2024.2.2.

2）＜パネルディスカッション＞非代償性肝硬変の課題克服を目指して.
田畑優貴、疋田隼人、高木章乃夫、黒崎雅之、松浦健太郎、八橋弘、黒田英克、上野義之、阪森亮太郎、竹原徹郎.
パネルディスカッション12；非代償性肝硬変の課題克服を目指して, 第110回日本消化器病学会総会. 徳島, 2024.5.9.

3）＜シンポジウム＞発達性てんかん性脳症に対して外科治療は有効か？.
本田涼子、小野智憲、戸田啓介、池田憲呼、西口奈菜子、安忠輝、馬場啓至.
JSCN–ISS Joint Symposium： Overview of the latest development in developmental and epileptic encephalopathy（DEE）, 第66回日本小児神経学会学術集会. 名古屋, 2024.5.30.

4）＜特別企画＞腫瘍離断した反回神経温存、誤嚥を起こす前の内視鏡的胃瘻造設、是か非か.
田川努、町野隆介、松本理宗、田口駿介、嶋田隆志、朝重耕一、有吉毅子男.
特別企画１；反回神経麻痺, 第57回日本胸部外科学会九州地方会総会. 福岡, 2024.8.2.

5）＜特別企画＞腹腔鏡下噴門側胃切除術後の縫合不全および膿胸に対する早期手術の重要性.
松本理宗、田川努、朝重耕一.
特別企画２；他科（胸部外科）との合同手術, 第57回日本胸部外科学会九州地方会総会. 福岡, 2024.8.2.

6）＜シンポジウム＞急性期病院での褥瘡発生患者のうち９％は防ぎきれない褥瘡である：防ぎきれない褥瘡の実態調査報告.
藤岡正樹、福井季代子、吉野健太郎、出光茉莉江.
公募シンポジウム２, 第26回日本褥瘡学会学術集会. 姫路, 2024.9.6.

7）＜シンポジウム＞てんかん外科と知的発達症：臨床場面での対応のヒント.
小野智憲、本田涼子、佐藤和明.
シンポジウム４；知的発達症とてんかん：臨床場面での課題と対応, 第57回日本てんかん学会学術集会. 福岡, 2024.9.12.

8）＜パネルディスカッション＞Cons てんかん外科における硬膜下電極記録：ポリシーとプライド.
小野智憲、本田涼子、佐藤和明.
ディベート６；頭蓋内脳波検査；SEEGと硬膜下電極のどちらを選ぶべきか, 第57回日本てんかん学会学術集会. 福岡, 2024.9.13.

9）＜パネルディスカッション＞Pros 脳梁離断はデバイス治療よりも先に検討するべき.
本田涼子、池田憲呼、西口奈菜子、佐藤和明、小野智憲.
ディベート５；てんかん緩和治療 脳梁離断がデバイス治療より先である, 第57回日本てんかん学会学術集会. 福岡, 2024.9.13.

10）＜パネルディスカッション＞進行直腸癌に対する適切な術前治療～ watch & wait を行った症例の検討～ .
竹下浩明、福田明子、又野護、福井彩恵子、吉野恭平、森田道、釘山統太、米田晃、北里周、南恵樹、黒木保.
進行直腸癌に対する各施設の取り組み, 第49回日本大腸肛門病学会九州地方会. 福岡, 2024.9.21.

11）＜シンポジウム＞誰もが健全に活躍するために～研修医の意識からみた働き方改革の必要性～ .
福田明子、竹下浩明、又野護、福井彩恵子、吉野恭平、松本理宗、釘山統太、森田道、米田晃、北里周、南恵樹、黒木保、田川努.
臓器横断シンポジウム２；低侵襲手術における女性外科医の活躍, 第34回九州内視鏡・ロボット外科手術研究会. 長崎, 2024.10.5.

12）＜シンポジウム＞ガイドライン等を参考に過不足のない切除を.
藤岡正樹.
皮膚腫瘍外科 分野指導医 シンポジウム, 第33回日本形成外科学会基礎学術集会. 東京, 2024.10.17.

13）＜パネルディスカッション＞小児脳機能研究会：小児てんかん外科の将来を考える.
小野智憲.
サテライトシンポジウム６；小児てんかん外科の将来を考える, －小児てんかん治療に携わる人、全員参加のタウンミーティング－第54回日本臨床神経生理学会学術大会.
札幌, 2024.10.24.

14）＜パネルディスカッション＞傍ストーマヘルニア，ストマ脱出に対するVASCS（Video Assisted SubCutaneous Surgery）による修復術.
竹下浩明、中村裕紀子、福田明子、又野護、福井彩恵子、吉野恭平、森田道、釘山統太、米田晃、北里周、南恵樹、黒木保.
ビデオパネルディスカッション２；われわれの手技：合併症低減に向けたストーマ造設手技と合併症に対する外科的対応（主に緊急手術時，傍ストーマヘルニア，ストーマ脱）, 第79回日本大腸肛門病学会学術集会.
横浜, 2024.11.29.

15）＜特別企画＞サルコイドーシスを合併した自己免疫性肝炎の一例.
釘山有希、末廣智之、三浦史郎、小森敦正.
特別企画；症例に学ぶ（自己免疫性肝疾患）(1), 第45回日本肝臓学会東部会. 仙台, 2024.12.6.

B-b2：一般演題（132）

１）＜口演＞悪性が否定できず腹腔鏡下に切除した肝血管腫の1 例.
北里周、笠伸大郎、吉野恭平、福井彩恵子、釘山統太、米田晃、杉山望、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
症例報告・一般演題２, 第44回九州肝臓外科研究会学術集会. 福岡, 2024.1.27.

２）＜口演＞手術から10年後に心膜転移から心臓浸潤をきたした甲状腺乳頭癌の１例.
松井彰子、田中藤信、永井友基、三浦史郎、佐藤俊輔、有吉毅子男、熊井良彦.
第39群；甲状腺４, 第33回日本頭頸部外科学会総会. 愛媛, 2024.2.1.

３）＜口演＞鼻涙管原発の扁平上皮癌の一例.
森彩加、田中藤信、沖田奈菜、二宮直樹、吉田晴郎、藤岡正樹.
第47群；鼻副鼻腔腫瘍２, 第33回日本頭頸部外科学会総会. 愛媛, 2024.2.1.

４）＜口演＞てんかん外科領域における臨床心理士・公認心理師の役割～長崎医療センターてんかんセンターでの取り組みと展望～ .
越本莉香、足立耕平、本田涼子、小野智憲.
一般口演６；周術期患者支援, 第47回日本てんかん外科学会. 札幌, 2024.2.1.

５）＜口演＞てんかん発作の画像認識AIによる動態解析.
内田大貴、小野智憲、山内三郎、定方英作、吉田道春、原口渉、案田岳夫、本田涼子、佐藤和明、馬場史郎、松尾孝之.
一般口演２；基礎研究・トランスレーショナルリサーチ, 第47回日本てんかん外科学会. 札幌, 2024.2.1.

６）＜口演＞救急医を目指す初期研修医として学んだ緊急脳波記録の大切さ.
堤春菜、小野智憲、内田大貴、定方英作、吉田道春、原口渉、案田岳夫.
企画セッション４；YNS Case Report Award, 第29回日本脳神経外科救急学会. 東京, 2024.2.2-3.

７）＜口演＞体幹部定位放射線治療とラジオ波焼灼療法の長期成績比較・肝予備能との関連についての検討.
本吉康英、綿屋摩湖人、松本耕輔、釘山有希、末廣智之、佐伯哲、長岡進矢、山﨑一美、小森敦正、八橋弘.
プレナリーセッション１；肺・腎・骨軟部、甲状腺、乳房など, 第２回日本アブレーション研究会. 岡山, 2024.2.10.

８）＜口演＞妊娠初期に発症した胆石性胆嚢炎に対して待機的に腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した１例.
笠伸大郎、釘山統太、織方良介、福井彩恵子、吉野恭平、米田晃、北里周、杉山望、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
一般演題, 第30回長崎内視鏡外科研究会. 長崎, 2024.2.10.

９）＜口演＞当科における胆嚢高度炎症例に対する胆嚢亜全摘術の検討.
福井彩恵子、織方良介、笠伸大郎、吉野恭平、釘山統太、米田晃、北里周、杉山望、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
一般演題１；第12回腹腔鏡下胆道手術研究会. 東京, 2024.2.17.

10）＜ポスター＞ヒト脳梁におけるMRI-DTIの加齢に伴う変化が大脳白質髄鞘形成の発達を表すという直接的な証拠.
小野智憲.
ポスター１；発達、発達障害、認知機能障害, 第26回日本ヒト脳機能マッピング学会. 宇都宮, 2024.2.23.

11）＜口演＞熱中症に伴う熱傷により大腿切断に至った１例.
古賀一史、出光茉莉江、藤岡正樹、福井季代子.
第34回日本熱傷学会九州地方会. 北九州, 2024.2.24.

12）＜口演＞胸腔鏡下切除後に診断された前縦隔血管腫の１例.
織方良介、朝重耕一、田川努.
一般演題；縦隔疾患, 第64回日本肺癌学会九州支部学術集会/第47回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会. 宮崎, 2024.3.1.

13）＜ポスター＞「実効力」長崎県のてんかん支援活動.
小野智憲.
第11回全国てんかんセンター協議会総会. 徳島, 2024.3.2.

14）＜口演＞腫瘍性病変による側頭葉てんかん：単一施設での治療経験.
内田大貴、小野智憲、定方英作、吉田道春、原口渉、案田岳夫、馬場史郎、戸田啓介、馬場啓至.
セッション６；脊髄脊椎／機能的脳神経外科, 第146回日本脳神経外科学会九州支部会福岡, 2024.3.2.

15）＜口演＞異物誤飲による消化管閉塞の１例.
橋本康史、北里周、織方良介、笠伸大郎、吉野恭平、福井彩恵子、釘山統太、米田晃、杉山望、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
第255回長崎外科集談会. 長崎, 2024.3.2.

16）＜口演＞腹腔鏡下手術を施行した盲腸軸捻転症の１例.
松尾大輔、笠伸大郎、吉野恭平、竹下浩明、織方良介、福井彩恵子、釘山統太、米田晃、北里周、杉山望、南恵樹、黒木保.
第255回長崎外科集談会. 長崎, 2024.3.2.

17）＜口演＞妊娠中期に発症した胆石性胆嚢炎に対して腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した３例.
平戸優樹、釘山統太、織方良介、笠伸大郎、福井彩恵子、吉野恭平、米田晃、北里周、杉山望、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
第255回長崎外科集談会. 長崎, 2024.3.2.

18）＜口演＞肛門周囲の帯状（索状）股関節瘢痕拘縮に対する全く新しいTetra-combined Z-plastyの紹介.
藤岡正樹、福井季代子、出光茉莉江、古賀一史.
一般演題（シェーマ付き演題）；工夫（手技、アイデア１）, 第29回日本形成外科手術手技学会. 佐賀, 2024.3.2.

19）＜口演＞シェーグレン症候群、関節リウマチの治療中に発症した肺原発悪性リンパ腫の一例.
塚田裕介、岩永希、赤城翠、三浦史郎、岡田覚丈、和泉泰衛、伊東正博、川上純 .
初期研修医セッション１, 第67回九州リウマチ学会. 宮崎, 2024.3.2.

20）＜口演＞抗MDA-5抗体の再上昇を伴って再燃した臨床的無筋症性皮膚筋炎（CADM）の２例.
福田裕大、岩永希、赤城翠、岡田覚丈、和泉泰衛、川上純.
初期研修医セッション２, 第67回九州リウマチ学会. 宮崎, 2024.3.2.

21）＜口演＞SARS-CoV-2 ワクチン７回目接種後、血小板減少と皮膚血管炎を契機に悪性リンパ腫の診断に至った１例.
森民生、和泉泰衛、塩塚高史、安田淳、赤城翠、岡田覚丈、三浦史郎、今泉芳孝、岩永希.
一般演題８；血管炎, 第67回九州リウマチ学会. 宮崎, 2024.3.3.

22）＜ポスター＞Bypass を併用し AVM を摘出した一例.
案田岳夫、内田大貴、定方英作、吉田道春、原口渉、小野智憲、佐藤俊輔、三浦史郎.
一般ポスター２（卒外 P02）；出血性脳血管障害, STROKE 2024. 横浜, 2024.3.7-9.

23）＜ポスター＞脳底動脈の窓形成に伴う未破裂脳動脈瘤に対してステント併用でのコイル塞栓術を行った１例.
定方英作、原口渉、忽那史也、松野聡夏、内田大貴、吉田道春、小野智憲、案田岳夫.
一般ポスター２（卒外 P02）；出血性脳血管障害, STROKE 2024. 横浜, 2024.3.7-9.

24）＜口演＞乳房全切除と腋窩リンパ節郭清後に後出血をきたし翌日に止血術と血腫除去術を施行した一例.
塩塚高史、南恵樹、杉山望、緒方良介、笠伸大郎、吉野恭平、釘山統太、北里周、竹下浩明、黒木保.
研修医セッション；内分泌外科, 第60回九州外科学会／第60回九州小児外科学会／第59回九州内分泌外科学会. 大分, 2024.3.8.

25）＜口演＞術前診断困難であった肝血管筋脂肪腫の一切除例.
橋本康史、北里周、織方良介、笠伸大郎、吉野恭平、福井彩恵子、釘山統太、米田晃、杉山望、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
研修医セッション；肝胆膵, 第60回九州外科学会／第60回九州小児外科学会／第59回九州内分泌外科学会. 大分, 2024.3.8.

26）＜口演＞膵・胆管合流異常に合併したBillNとIPNBの一例.
古賀潤紀、釘山統太、笠伸大郎、吉野恭平、福井彩恵子、米田晃、北里周、杉山望、竹下浩明、南恵樹、三浦史郎、黒木保.
研修医セッション；肝胆膵, 第60回九州外科学会／第60回九州小児外科学会／第59回九州内分泌外科学会. 大分, 2024.3.8.

27）＜口演＞甲状腺手術における術後出血を早期に発見するための工夫.
野々村美香、南恵樹、杉山望、織方良介、笠伸大郎、吉野恭平、釘山統太、北里周、竹下浩明、黒木保.
研修医セッション；内分泌外科, 第60回九州外科学会／第60回九州小児外科学会／第59回九州内分泌外科学会. 大分, 2024.3.8.

28）＜口演＞上部僧帽筋全欠損に対する副神経支配有茎広背筋弁を用いた動的再建.
藤岡正樹、福井季代子、出光茉莉江、古賀一史.
第122回九州・沖縄形成外科学会学術集会. 長崎, 2024.3.9.

29）＜口演＞血小板増多症で発症しＧ分染法でフィラデルフィア染色体が検出されなかった慢性骨髄性白血病.
小谷龍太郎、榊智佳、西村紗央里、小林裕児、三浦史郎、伊東正博、今泉芳孝、吉田真一郎.
セッション１；骨髄系腫瘍, 第14回日本血液学会九州地方会. 福岡, 2024.3.9.

30）＜ポスター＞甲状腺乳頭癌により癌性心膜炎を来した１剖検例.
三浦史郎、佐藤俊輔、二宮直樹、田中藤信、松井彰子、ムサジャノワ ジャンナ、中島正洋、添田李子、三原裕美、伊東正博.
ポスター（一般）52；内分泌２, 第113回日本病理学会総会. 名古屋, 2024.3.29.

31）＜ポスター＞なぜGustilo-Anderson Ⅲ骨折の転帰は20年前から改善しないのか？：推奨される創被覆時間制限に関する考察.
藤岡正樹、福井季代子、出光茉莉江、古賀一史.
デジタルポスター９；下腿・足（外傷、その他）, 第67回日本形成外科学会総会・学術集会. 神戸, 2024.4.10-12.

32）＜口演＞日本のリウマチ性多発筋痛症の疫学的特徴.
古川宏、野木真一、岡笑美、樋口貴士、東孝典、杉山隆夫、平野史倫、藤森美鈴、寶來吉朗、岡田覚丈、井畑淳、片山雅夫、吉澤滋、松井利浩、右田清志、當間重人.
第68回日本リウマチ学会総会・学術集会. 神戸, 2024.4.18.

33）＜ポスター＞消化器がん手術においてBody mass indexと大腰筋指数を組み合わせた術前低栄養評価と腹壁瘢痕ヘルニアの関連について.
吉野恭平、北里周、織方良介、笠伸大郎、福井彩恵子、釘山統太、米田晃、杉山望、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
ポスターセッション（58）；腹壁・ヘルニア－４, 第124回日本外科学会定期学術集会. 愛知, 2024.4.18.

34）＜ポスター＞COVID-19ワクチン接種後に痙攣重積で発症した自己免疫性脳炎の２例.
西浦藍、岩永希、岡田覚丈、和泉泰衛、川上純.
ポスタービューイング２－９；リウマチ性疾患と感染症　COVID-19、帯状疱疹, 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会. 神戸, 2024.4.19.

35）＜ポスター＞胃切除後に膵液漏を合併するリスク因子の検討.
笠伸大郎、米田晃、織方良介、吉野恭平、福井彩恵子、釘山統太、北里周、杉山望、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
ポスターセッション（70）；胃－合併症－１, 第124回日本外科学会定期学術集会. 愛知, 2024.4.19.

36）＜ポスター＞S状結腸間膜腹膜垂を起源とする腸間膜脂肪腫の１例.
柴田直人、笠伸大郎、竹下浩明、織方良介、吉野恭平、福井彩恵子、釘山統太、米田晃、北里周、杉山望、南恵樹、黒木保.
研修医の発表セッション（ポスター）(1)；下部消化管－１, 第124回日本外科学会定期学術集会. 愛知, 2024.4.19.

37）＜ポスター＞傍ストーマヘルニア・ストーマ脱出に対するビデオ補助下皮下手術（VASCS）に関する検討.
竹下浩明、中村祐紀子、織方良介、笠伸大郎、福井彩恵子、吉野恭平、釘山統太、米田晃、北里周、黒木保.
ポスターセッション（78）；大腸－全般－１, 第124回日本外科学会定期学術集会. 愛知, 2024.4.19.

38）＜ポスター＞妊娠中期に発症した胆石性胆嚢炎に対して腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した２例.
平戸優樹、福井彩恵子、釘山統太、織方良介、笠伸大郎、吉野恭平、米田晃、北里周、杉山望、竹下 浩明、南恵樹、黒木保.
研修医の発表セッション（ポスター）（７）；肝胆膵－３, 第124回日本外科学会定期学術集会. 愛知, 2024.4.19.

39）徹底的な胃管の授動と胃管静脈吻合により食道癌術後縫合不全発生を限りなくゼロにできる.
米田晃、織方良介、笠伸大郎、吉野恭平、福井彩恵子、釘山統太、北里周、杉山望、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
サージカルフォーラム（38）；食道－周術期管理－１, 第124回日本外科学会定期学術集会. 愛知, 2024.4.19.

40）＜ポスター＞大腸癌肝転移切除後の残肝再発に対する再肝切除の予後に関する検討.
北里周、織方良介、笠伸大郎、吉野恭平、福井彩恵子、釘山統太、米田晃、杉山望、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
ポスターセッション（94）；肝臓－転移性肝癌－１, 第124回日本外科学会定期学術集会. 愛知, 2024.4.19.

41）＜口演＞コロナウイルスワクチン７回目接種後に血小板減少を伴う皮膚血管炎を発症した１例.
森民生、和泉泰衛、塩塚高史、安田淳、赤城翠、岡田覚丈、岩永希、添田李子、三浦史郎、今泉芳孝.
第68回日本リウマチ学会総会・学術集会. 神戸, 2024.4.19.

42）＜ポスター＞COVID-19ワクチン接種後に痙攣重積で発症した自己免疫性脳炎の２例.
西浦藍、岩永希、岡田覚丈、和泉泰衛、川上純.
ポスタービューイング２－９；リウマチ性疾患と感染症　COVID-19、帯状疱疹, 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会. 神戸, 2024.4.19.

43）＜口演＞バリシチニブによるHR-pQCTにおける関節リウマチの骨びらん進行抑制効果の検討.
道辻徹、岩本直樹、渡邉航之助、白石和輝、大木望、岡田覚丈、古賀智裕、千葉恒、尾崎誠、川上純.
第68回日本リウマチ学会総会・学術集会. 神戸, 2024.4.19.

44）＜ポスター＞自験11例から見た乳腺扁平上皮癌に対する診療の検討.
杉山望、南恵樹、緒方良介、笠伸太郎、福井彩恵子、吉野恭平、釘山統太、米田晃、北里周、竹下浩明、黒木保.
ポスターセッション（172）；乳腺－病理・症例, 第124回日本外科学会定期学術集会. 愛知, 2024.4.20.

45）外科医と外科専属診療看護師（NP）の協働による持続可能な外科チーム医療の実現.
中原未智、米田晃、福井彩恵子、織方良介、笠伸大郎、吉野恭平、釘山統太、北里周、杉山望、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
わが国の資源で持続可能な外科診療を考える11；パートナーシップで目標達成を, 第124回日本外科学会定期学術集会. 愛知, 2024.4.20.

46）外科医の暗黙知は手術後予後を予測する－Visual Analogue Scale（VAS）の有用性－.
福井彩恵子、米田晃、織方良介、笠伸大郎、吉野恭平、釘山統太、北里周、竹下浩明、杉山望、南恵樹、黒木保.
サージカルフォーラム（68）；SDGs関連_技術革新, 第124回日本外科学会定期学術集会. 愛知, 2024.4.20.

47）＜口演＞肝生検が診断に有用であった医原性免疫不全症関連リンパ増殖性疾患の一例.
中野颯斗、岡田覚丈、岩永希、和泉泰衛、末廣智之、三原裕美、伊東正博、川上純.
近未来のリウマチ医セッション４；臨床研修医 症例報告, 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会. 神戸, 2024.4.20.

48）＜口演＞防ぎきれない褥瘡の実態調査.
藤岡正樹、福井季代子、出光茉莉江、古賀一史.
一般演題；口演１, 第21回日本褥瘡学会 九州・沖縄地方会 学術集会. 熊本, 2024.4.27.

49）＜口演＞ゲノムワイド関連解析（GWAS）による新規原発性胆汁性胆管炎（PBC）感受性遺伝子PTPN2の同定.
人見祐基、植野和子、相葉佳洋、小森敦正、中村稔.
プレナリー；肝 プレナリー, 第110回日本消化器病学会総会. 徳島, 2024.5.10.

50）＜口演＞人工知能による消化器疾患診断の新展開：舌画像の深層学習による急性虫垂炎および消化器疾患の新規診断モデル開発と検証.
森英毅、山﨑一美、八橋弘.
ミニオーラル；腫瘍・感染症・その他, 第110回日本消化器病学会総会. 徳島, 2024.5.11.

51）＜口演＞診断に苦慮した粘膜類天疱瘡による喉頭横隔膜症の１例.
最勝寺佑介、岩永希、森彩加、鳥巣裕一、永井友基、三浦史郎、石井文人、和泉泰衛.
一般, 第345回日本内科学会九州地方会. 宮崎, 2024.5.25.

52）＜ポスター＞動脈内ステントグラフト留置により止血しえた外腸骨動脈尿管瘻の２例.
宮村周人、宮崎敦史、藤本俊史、牧野謙二、北村慶、大塚哲洋.
ポスター４；泌尿器, 第53回日本IVR学会総会. 和歌山, 2024.5.25.

53）＜口演＞病型分類，術式によらずてんかん手術は術後１年間の発達を好転させる可能性がある.
西口奈菜子、本田涼子、小野智憲、池田憲呼、安忠輝、馬場啓至.
一般演題（口演）11；てんかん１, 第66回日本小児神経学会学術集会. 名古屋, 2024.5.30.

54）＜口演＞術後エアリークを胸膜癒着せず、水封し排液を貯め手術側下側臥位しゃべらない咳しないリハビリなしで止める.
田川努、朝重耕一、織方良介、町野隆介、下山孝一郎.
ミニオーラル20；周術期管理、術後合併症５, 第41回日本呼吸器外科学会学術集会. 軽井沢, 2024.5.31.

55）＜口演＞破裂左椎骨後下小脳動脈分岐部動脈瘤に対し後下小脳動脈にtrans radial approachでステント留置を行った一例.
後藤純寛、定方英作、松野聡夏、吉田道春、小野智憲、原口渉、案田岳夫.
セッション９；血管障害（3）, 第147回日本脳神経外科学会九州支部会. 鹿児島, 2024.6.1.

56）＜口演＞不全分葉のS1＋2/S6に生じた肺癌に対しcVATS-fissureless S1＋2＋S6区域切除を行った一例.
朝重耕一、織方良介、田川努.
ミニオーラル53；肺癌－その他５, 第41回日本呼吸器外科学会学術集会. 軽井沢, 2024.6.1.

57）＜ポスター＞発熱、盗汗を伴う多発皮下結節に対して皮下脂肪織炎様Ｔ細胞リンパ腫（SPTCL）と診断した１例.
野口栞、三原裕美、三浦史郎、森英毅.
一般演題（ポスター）２；診断/検査/治療②（血液/内分泌/代謝), 第15回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会. 浜松, 2024.6.8.

58）＜ポスター＞全身転移をきたした類粘液平滑筋肉腫の１例.
鹿島星林、平野純、小島真代、佐田勇樹、豊岡辰明、染矢賢俊、三浦史郎、伊東正博、山下洋.
ポスター；地域推薦演題２, 第65回日本臨床細胞学会総会（春期大会). 大阪, 2024.6.8.

59）＜口演＞受傷後10日以上経過したDB2症例に対するネキソブリッドの焼痂除去効果.
古賀一史、出光茉莉江、藤岡正樹、福井季代子.
一般演題２（口演）；デブリードマン２, 第50回日本熱傷学会総会・学術集会. 大阪, 2024.6.13.

60）＜口演＞原発性胆汁性胆管炎の臨床データと肝組織網羅的遺伝子発現データを用いた治療標的の探索.
相葉佳洋、植野和子、人見祐基、小森敦正、中村稔.
口演１；PBC・PSC, 第60回日本肝臓学会総会. 熊本, 2024.6.13.

61）＜口演＞原発性胆汁性胆管炎（PBC）を対象としたゲノムワイド関連解析（GWAS）による新規疾患感 受性遺伝子PTPN2の同定.
人見祐基、植野和子、相葉佳洋、西田奈央、中村稔.
口演１；PBC・PSC, 第60回日本肝臓学会総会. 熊本, 2024.6.13.

62）＜口演＞Identification of new exosomal microRNA markers for Non-alcoholic fatty liver disease using artificial intelligence approach.
Kitab Bouchra、小原恭子、小森敦正、八橋弘、木村昌倫、木村公則、小原道法.
口演17；脂肪性肝疾患１, 第60回日本肝臓学会総会. 熊本, 2024.6.14.

63）＜口演＞非アルコール性脂肪性肝炎の門脈圧亢進症発症に関連する，血清代謝産物の探索.
小森敦正、松本耕輔、釘山有希、末廣智之、本吉康英、佐伯哲、長岡進矢 、山﨑一美、八橋弘.
口演 18；脂肪性肝疾患２, 第60回日本肝臓学会総会. 熊本, 2024.06.14.

64）＜口演＞脂肪肝におけるサイトケラチン 18F 測定の意義.
末廣智之、松本耕輔、釘山有希、本吉康英、佐伯哲、長岡進矢、山﨑一美、小森敦正、八橋弘.
ミニオーラル28；脂肪性肝疾患 診断１, 第60回日本肝臓学会総会. 熊本, 2024.6.14.

65）＜口演＞遺伝性平滑筋腫症腎細胞癌が疑われた若年発症腎細胞癌の１例.
大仁田亨、松島俊樹、鹿子木圭、錦戸雅春、添田李子、伊東正博、三浦史郎、山口純子、岩田隆寿、柿田聖太、青木大勇.
第102回長崎泌尿器科学会. 長崎, 2024.6.15.

66）＜ポスター＞Prime Editorを活用した免疫疾患原因バリアントの同定.
人見祐基、河野通大、植野和子、相葉佳洋、長崎正朗、徳永勝士、石垣和慶、中村稔.
ポスターディスカッション, 日本ゲノム編集学会第９回大会. 大阪, 2024.6.18.

67）＜ポスター＞頸部に発生したLangerhans cell sarcomaの一例.
森彩加、田中藤信、沖田奈菜、二宮直樹、吉田晴郎、三原祐美、三浦史郎.
Ｐ第３群 唾液腺, 第48回日本頭頸部癌学会. 浜松, 2024.6.20.

68）＜口演＞PSE 術前にアバトロンボパグ投与が有効であったアルコール性肝硬変に伴う脾機能亢進症の一例.
古賀万貴、釘山有希、宮村周人、綿屋摩湖人、松本耕輔、末廣智之、本吉康英、佐伯哲、長岡進矢、山﨑一美、小森敦正、八橋弘.
研修医発表；肝胆膵1, 第123回日本消化器病学会九州支部例会. 北九州, 2024.6.21.

69）＜座長＞黒木保.
専攻医発表；肝胆膵３, 第123回日本消化器病学会九州支部例会. 北九州, 2024.6.21.

70）＜ポスター＞重症四肢外傷の感染率を改善できるか？ 2001年から20年間のナラティブレビューを検討して.
藤岡正樹、古賀一史.
一般演題（ポスター）：感染, 第16回日本創傷外科学会総会・学術集会. 金沢, 2024.7.11.

71）＜ポスター＞自験11例から見た乳腺扁平上皮癌に対する診療の検討.
杉山望、南恵樹、織方良助、笠伸太郎、福井彩恵子、吉野恭平、釘山統太、米田晃、北里周、竹下浩明、三浦史郎、黒木保.
e-Poster；薬物療法（転移・再発）：その他（薬物療法), 第32回日本乳癌学会学術総会. 仙台, 2024.7.11.

72）＜ポスター＞男性腋窩副乳原発と考えられるアポクリン癌の１例.
南恵樹、杉山望、三原裕美、三浦史郎、伊東正博.
e-Poster；病理診断：特殊型, 第32回日本乳癌学会学術総会. 仙台, 2024.7.11.

73）＜口演＞切除不能肝細胞癌に対する Durvalumab+Tremelimumab 療法の初期経験.
本吉康英、綿屋摩湖人、松本耕輔、釘山有希、末廣智之、佐伯哲、長岡進矢、山﨑一美、小森敦正、八橋弘.
一般口演９；薬物療法２, 第60回日本肝癌研究会. 姫路, 2024.7.12.

74）＜口演＞傍人工肛門ヘルニア・人工肛門脱出に対する皮下鏡下の外科的治療（VASCS）.
竹下浩明、中村祐紀子、織方良介、笠伸大郎、福井彩恵子、吉野恭平、釘山統太、米田晃、北里周、黒木保.
一般演題008；大腸：ストマ1, 第79回日本消化器外科学会総会. 下関, 2024.7.17.

75）＜口演＞肝門部領域胆管癌に対する術前胆道ドレナージが手術および術後に与える影響.
釘山統太、織方良介、笠伸大郎、福井彩恵子、吉野恭平、米田晃、北里周、竹下浩明、黒木保.
一般演題018；胆道：悪性２, 第79回日本消化器外科学会総会. 下関, 2024.7.17.

76）＜口演＞原発性空腸癌に対して腹腔鏡下にリンパ節郭清を伴う切除を行なった一例.
宇佐俊哉、竹下浩明、笠伸大郎、福井彩恵子、吉野恭平、釘山統太、米田晃、北里周、南恵樹、黒木保.
研修医セッション006；小腸３, 第79回日本消化器外科学会総会. 下関, 2024.7.18.

77）＜口演＞当科における腹腔鏡下噴門側胃切除後mSOFY法再建の治療成績.
米田晃、織方良介、笠伸大郎、吉野恭平、福井彩恵子、釘山統太、北里周、竹下浩明、黒木保.
一般演題242；胃・十二指腸：噴門側胃切除２, 第79回日本消化器外科学会総会. 下関, 2024.7.19.

78）＜口演＞高齢女性の頬部に発生したメルケル細胞癌の二例.
西園馨子、古賀一史、藤岡正樹、藤原洸平、日吉尚.
第123回九州・沖縄形成外科学会学術集会. 福岡, 2024.7.20.

79）＜口演＞デュルバルマブ＋トレメリムマブ併用療法中に甲状腺クリーゼを発症した進行肝細胞癌の一例.
釘山有希、松本耕輔、末廣智之、本吉康英、佐伯哲、長岡進矢、山崎一美、小森敦正、八橋弘.
一般演題３；症例報告１, 第30回日本肝がん分子標的治療研究会. 東京, 2024.7.26.

80）＜口演＞当院における膵手術後の仮性動脈瘤の検討.
吉野恭平、釘山統太、福井彩恵子、北里周、織方良介、笠伸大郎、米田晃、杉山望、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
一般演題（口演）60；手術（合併症), 第55回日本膵臓学会大会. 宇都宮, 2024.7.26.

81）＜ポスター＞膵癌術後に肝転移再発を認めるも集学的治療によりtumor freeとなり長期経過中の２例.
佐伯哲、黒木保、北里周.
一般演題（ポスター）11；膵癌（集学的治療), 第55回日本膵臓学会大会. 宇都宮, 2024.7.26.

82）＜口演＞切除不能肝細胞癌に対する Durvalumab+Tremelimumab 療法の初期経験.
本吉康英、中村理貴、松本耕輔、釘山有希、末廣智之、佐伯哲、長岡進矢、山﨑一美、小森敦正、八橋弘.
一般演題11；Durvalumab＋Tremelimumab 併用療法３, 第30回日本肝がん分子標的治療研究会. 東京, 2024.7.27.

83）＜口演＞縦隔血管腫に対して胸腔鏡下部分切除施行した一例.
兼行勇輔、朝重耕一、松本理宗、三原裕美、三浦史郎、田川努.
JATS Case Presentation Awards1；肺１, 第57回日本胸部外科学会九州地方会総会. 福岡, 2024.8.1.

84）＜口演＞前縦隔膿瘍オープンドレナージ後に壁側胸膜と骨性胸郭が自発呼吸により剥離しフレイルチェストを生じた１例.
田川努、松本理宗、朝重耕一.
一般演題；縦隔・胸壁疾患, 第57回日本胸部外科学会九州地方会総会. 福岡, 2024.8.2.

85）＜口演＞血管炎診療におけるPET-CTの有用性と問題点.
岡田覚丈、岩永希、馬場あかね、川原知瑛子、鳥巣裕一、和泉泰衛、川上純.
一般演題２；血管炎, 第68回九州リウマチ学会. 佐賀, 2024.9.7.

86）＜口演＞「舌所見は急性虫垂炎の診断に有効である」舌画像の深層学習による急性虫垂炎の新規診断モデル開発と検証.
森英毅、山﨑一美.
一般演題１；診断エクセレンス・エラー, 第29回日本病院総合診療医学会学術総会. 東京, 2024.9.7.

87）＜口演＞劇症型A群溶血性連鎖菌（GAS）により壊死性筋膜炎に至った２例.
日吉尚、西園馨子、古賀一史、藤岡正樹、藤原洸平.
一般演題C, 第32回長崎救急医学会. 島原, 2024.9.7.

88）＜口演＞腹膜炎を併発した腸管Behcet病の一例.
塚田敏明、猪口薫、平野憲二、岡田覚丈、岩永希、河合紀生子、岸川正大.
第68回九州リウマチ学会. 佐賀, 2024.9.7.

89）＜ワークショップ＞あなたの診療科に物申す：脳神経外科の立場から.
小野智憲.
ワークショップ５；あなたの診療科に物申す, 第57回日本てんかん学会学術集会. 福岡, 2024.9.14.

90）＜口演＞長崎医療センターにおけるSMO導入に向けた取り組み.
川崎美幸、白川敦規、久保三紀子、木村梨沙、大久保房庫、冨田英里、松井亜紀、小森敦正.
一般演題（口頭発表）8；実施体制の整備②, 第24回CRCと臨床試験のあり方を考える会議. 札幌, 2024.9.15.

91）＜口演＞予測不能なアクシデント～ある日突然電子カルテが使用不能になったら～.
木村梨沙、大久保房庫、久保三紀子、冨田英里、川崎美幸、小森敦正.
一般演題（口頭発表）12；院内調整・チーム医療②／臨床研究・トランスレーショナルリサーチ②／実施体制の整備③, 第24回CRCと臨床試験のあり方を考える会議. 札幌, 2024.9.15.

92）＜口演＞治験薬承認時の取り組み～創薬から育薬への橋渡し～.
木村梨沙、冨田英里、久保三紀子、大久保房庫、川崎美幸、野田晃洋、小川志帆、本田涼子、小森敦正.
一般演題（口頭発表）34；被験者対応・保護③, 第24回CRCと臨床試験のあり方を考える会議. 札幌, 2024.9.16.

93）＜口演＞ゲノムワイド関連解析（GWAS）を用いた日本人原発性胆汁性胆管炎（PBC）感受性遺伝子の同定.
人見祐基、植野和子、相葉佳洋、西田奈央、河野通大、杉原実樹、河合洋介、川嶋実苗、Seik-Soon Khor、石垣和慶、長崎正朗、徳永勝士、中村稔.
一般口頭２（疾患・動物）, 第32回日本組織適合性学会. 名古屋, 2024.9.26.

94）＜口演＞Cladosporium属による壊死性筋膜炎を伴う黒色真菌症を発症した維持血液透析患者の１例.
奥平雅之、岡哲、伊達雅浩、山下由恵、三浦史郎、牟田久美子、西野友哉、藤岡正樹.
一般演題（口演）；血液透析２, 第54回日本腎臓学会西部学術大会. 姫路, 2024.10.6.

95）＜ポスター＞膵頭十二指腸切除術後の肝内結石に対し，開腹下経腸アプローチが奏効した２例.
釘山統太、福井彩恵子、吉野恭平、北里周、黒木保.
ポスター 19；腹腔鏡手術１, 第60回日本胆道学会学術集会. 名古屋, 2024.10.10.

96）＜ワークショップ＞当科における早期胆嚢癌疑診例に対する腹腔鏡下胆嚢全層切除術の検討.
福井彩恵子、黒木保、釘山統太.
ワークショップ１；胆嚢病変の診断と至適術式の再考, 第60回日本胆道学会学術集会. 名古屋, 2024.10.10.

97）＜口演＞血液疾患に合併した自己免疫性肺胞蛋白症の１例.
村橋舞、夫津木遼、末原照大、乗富大地、原敦子、池田喬哉、近藤晃、添田李子、三浦史郎、迎寛.
一般演題12；嚢胞性肺疾患・肺胞蛋白症・その他, 第93回日本呼吸器学会・日本結核 非結核性抗酸菌症学会・日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会 九州支部秋季学術講演会. 福岡, 2024.10.11.

98）＜口演＞縦隔リンパ節腫大を認め、気胸術後検体評価で肺腺癌の診断に至った１例.
野田知生、末原照大、池田喬哉、原敦子、松本博文、松岡優毅、三浦史郎、近藤晃、田川努、迎寛.
一般演題１；肺腫瘍, 第93回日本呼吸器学会・日本結核 非結核性抗酸菌症学会・日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会 九州支部秋季学術講演会. 福岡, 2024.10.11.

99）＜口演＞中咽頭転移が疑われた KRAS G12C 変異陽性肺多形癌術後再発の1例.
木場杏夏、菅崎七枝、峯慧輔、古賀哲、林徳真吉、竹本真之輔、西秀昭、三浦史郎、田川努、迎寛.
一般演題19；遺伝子変異陽性肺癌1, 第93回日本呼吸器学会・日本結核 非結核性抗酸菌症学会・日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会 九州支部秋季学術講演会. 福岡, 2024.10.12.

100）＜口演＞モガムリズマブ併用化学療法後に長期寛解を維持している成人T細胞白血病リンパ腫.
西村紗央里、今泉芳孝、榊智佳、小林裕児、三原裕美、三浦史郎、伊東正博、吉田真一郎.
一般演題；ATL・HTLV-1：その他, 第86回日本血液学会学術集会. 京都, 2024.10.13.

101）＜ポスター＞可動性血栓を有する総頚動脈狭窄に対して急性期血管内治療を行った１例.
定方英作、原口渉、森塚倫也、本田和也、後藤純寛、松野聡夏、吉田道春、小野智憲、案田岳夫.
ポスター 11；急性期脳梗塞04, 日本脳神経外科学会第83回学術総会. 横浜, 2024.10.16.

102）＜口演＞ガイドラインが推奨するマージン以上で切除したにも関わらず再発した悪性黒色腫の３例.
古賀一史、藤岡正樹、藤原洸平、日吉尚、西園馨子.
一般演題1；腫瘍・移植ほか, 第33回日本形成外科学会基礎学術集会. 東京, 2024.10.17.

103）＜ポスター＞悪性の疑いを払拭できなかった急速増大するlobular capillary hemangioma（pyogenic granuloma）の経験.
古賀一史、藤岡正樹、藤原洸平、西園馨子、日吉尚、三浦史郎、伊東正博.
ポスター 71；皮膚疾患, 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.18.

104）＜ポスター＞ガイドラインが推奨するマージン以上で切除したにも関わらず再発した悪性黒色腫の３例.
古賀一史、藤岡正樹、藤原洸平、西園馨子、日吉尚.
ポスター 71；皮膚疾患, 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.18.

105）＜ポスター＞同日に集中して発生したイノシシ咬創の２例.
西園馨子、藤岡正樹、藤原洸平、古賀一史、日吉尚.
ポスター 23；救急治療・集中治療１, 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.18.

106）＜ポスター＞高齢女性の頬部に発生したメルケル細胞癌の二例.
西園馨子、藤岡正樹、藤原洸平、古賀一史、日吉尚.
ポスター 71；皮膚疾患, 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.18.

107）＜ポスター＞Wernicke野をてんかん原性領域に含む薬剤抵抗性てんかんに対する焦点切除術の切除範囲に苦慮した一例.
谷口裕太郎、西口奈菜子、石川太郎、池田憲呼、本田涼子、佐藤和明、後藤純寛、小野智憲、本村秀樹.
ポスター 107；小児、成育医療１, 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.18.

108）＜ポスター＞重症四肢外傷の感染率を改善できるか？
藤岡正樹、古賀一史、藤原洸平、日吉尚、西園馨子.
ポスター 46；骨折・その他, 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.18.

109）＜ポスター＞上部僧帽筋全欠損に対する副神経支配有茎広背筋弁を用いた動的再建.
藤岡正樹、古賀一史、藤原洸平、日吉尚、西園馨子.
ポスター 46；骨折・その他, 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.18.

110)＜ポスター＞肛門周囲の帯状（索状）股関節瘢痕拘縮に対する全く新しい皮弁Tetra-combined Z-plastyの開発.
藤岡正樹、古賀一史、藤原洸平、日吉尚、西園馨子.
ポスター 71；皮膚疾患, 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.18.

111)＜ポスター＞熱中症に伴う熱傷により大腿切断に至った 1 例.
日吉尚、藤岡正樹、福井季代子、藤原洸平、出光茉莉江、古賀一史、西園馨子.
ポスター 23；救急治療・集中治療 1 , 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.18.

112)＜ポスター＞乳房増大術に用いたアクアフィリングにより手根管症候群を呈した 1 例.
古賀一史、藤岡正樹、藤原洸平、西園馨子、日吉尚.
ポスター 154；医療安全7/医療安全その他 1 , 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.19.

113)＜ポスター＞受傷後10日以上経過した３度熱傷２症例に対するネキソブリッドの焼痂除去効果.
古賀一史、藤岡正樹、藤原洸平、西園馨子、日吉尚.
ポスター 161；救急治療・集中治療 2 , 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.19.

114)＜ポスター＞甲状腺乳頭癌術後12年後に癌性心膜炎・心臓転移を来した 1 剖検例.
石飛俊介、三浦史郎、佐藤俊輔、二宮直樹、田中藤信、松井彰子、ムサジャノワ ジャンナ、添田李子、三原裕美、伊東正博.
ポスター 138；病理検査 2 , 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.19.

115)＜ポスター＞診断に苦慮した胸部SMARCA4欠損未分化腫瘍の 1 例.
添田李子、三浦史郎、石飛俊介、三原裕美、伊東正博、近藤 晃、田川努.
ポスター 138；病理検査 2 , 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.19.

116)＜ポスター＞地域急性期病院における「避けられない褥瘡」の実態調査.
藤岡正樹、古賀一史、藤原洸平、日吉尚、西園馨子.
ポスター 132；褥瘡/病院管理, 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.19.

117)＜ポスター＞外傷手術件数の推移から見たCOVID-19流行期の社会レジリエンス.
藤岡正樹、藤原洸平、古賀一史、日吉尚、西園馨子.
ポスター 114；HIV・抗酸菌・新型コロナウイルス 2 , 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.19.

118)＜口演＞アルカリによる化学損傷の３例.
西園馨子、藤岡正樹、藤原洸平、古賀一史、日吉尚、三浦史郎、三原裕美、添田李子.
第124回九州・沖縄形成外科学会学術集会. 熊本, 2024.10.26.

119)＜ポスター＞複合免疫療法における免疫関連有害事象とステロイド使用.
佐々木龍、中尾康彦、福島真典、原口雅史、三馬聡、宮明寿光、曽山明彦、江口晋、松崎寿久、釘山有希、本吉康英、八橋弘、石田智士、山島美緒、山道忍、市川辰樹、重野賢也、加茂泰広、岩津伸一、中尾一彦.
デジタルポスターセッション肝017；原発性肝癌（薬物療法）2 , 第32回日本消化器関連学会（JDDW 2024）/第28回日本肝臓学会大会. 神戸, 2024.10.31.

120)＜口演＞心拍動同期シネMRIは肺悪性腫瘍大動脈浸潤の正診率が高い.
田川努.
Rapid Fire セッション　呼吸器８；検査・診断・その他, 第77回日本胸部外科学会定期学術集会. 金沢, 2024.11.3.

121)＜ポスター＞バレメトスタットが有効であった再発難治成人Ｔ細胞白血病リンパ腫.
西村紗央里、今泉芳孝、渡辺春香、小林裕児、添田李子、三浦史郎、伊東正博、吉田真一郎.
第10回日本HTLV-1学会学術集会. 東京, 2024.11.09.

122)＜口演＞未熟児網膜症に対する網膜光凝固術の長期経過.
斉藤淳哉、木下明夫、大槻早紀、中尾史郎、佐藤健人、前川有紀.
第78回日本臨床眼科学会. 京都, 2024.11.14

123)＜口演＞急性虫垂炎として切除した虫垂子宮内膜症の一例.
小村隼平、米田晃、又野護、吉野恭平、福井彩恵子、福田明子、森田道、釘山統太、北里周、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
研修医発表；大腸・その他, 第124回日本消化器病学会九州支部例会. 鹿児島, 2024.11.15.

124)＜口演＞比較的若年者に発生した横行結腸髄様癌の一例.
松田悠佑、西山仁、中島悠史郎、後藤高介、今村祥子、峯彩子.
専攻医発表；大腸２, 第124回日本消化器病学会九州支部例会. 鹿児島, 2024.11.15.

125)＜ワークショップ＞原発性胆汁性胆管炎全国調査における臨床・病理学的背景とステロイド治療の検討.
釘山有希、小森敦正、仲野俊成、田中篤.
ワークショップ１；肝胆膵領域における免疫疾患の現状と課題, 第124回日本消化器病学会九州支部例会.
鹿児島, 2024.11.15.

126)＜口演＞上腸間膜動脈症候群が原因と疑われる十二指腸腸管気腫を呈した１例.
彌重海、釘山統太、吉野恭平、又野護、福井彩恵子、福田明子、森田道、米田晃、北里周、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
研修医発表；胃・十二指腸１, 第124回日本消化器病学会九州支部例会. 鹿児島, 2024.11.15.

127)＜口演＞若年性大腸癌症例の検討.
福田明子、竹下浩明、又野護、福井彩恵子、吉野恭平、釘山統太、森田道、米田晃、北里周、南恵樹、黒木保.
一般演題（口演）94；若年性大腸癌１, 第86回日本臨床外科学会学術集会. 宇都宮, 2024.11.22.

128)＜ポスター＞陽子線治療を行った再発rhabdoid meningiomaの一例.
後藤純寛、日宇健、小川由夏、塩崎絵理、近松元気、松尾彩香、馬場史郎、氏福健太、諸藤陽一、吉田光一、松尾孝之.
ポスター 39；症例検討５, 第42回日本脳腫瘍学会学術集会. 三重, 2024.12.2.

129)＜口演＞正中腹壁ヘルニアに対するVASCS（video assisted subcutaneous surgery）によるonlay mesh修復術.
竹下浩明、福田明子、又野護、福井彩恵子、吉野恭平、米田晃、北里周、黒木保.
一般演題（口演）62；ヘルニア　腹壁１, 第37回日本内視鏡外科学会総会. 福岡, 2024.12.5.

130)＜口演＞原発性胆汁性胆管炎の末梢血における網羅的遺伝子発現解析.
相葉佳洋、植野和子、人見祐基、杉和洋、河野博孝、長沼篤、万波智彦、岩本論、古田清、廣岡可奈、小森敦正、中村稔.
一般演題４；肝胆・腸疾患と免疫応答, 第61回日本消化器免疫学会総会. 長崎, 2024.12.5.

131)＜口演＞腹腔鏡下に切除した成人小腸腸間膜リンパ管腫の１例.
米田晃、又野護、吉野恭平、福井彩恵子、福田明子、釘山統太、北里周、竹下浩明、黒木保.
ミニオーラル116；小腸４, 第37回日本内視鏡外科学会総会. 福岡, 2024.12.6.

132)＜ワークショップ＞空間トランスクリプトーム解析を用いた，原発性胆汁性胆管炎肝組織における空間的炎症および組織可塑性の検証.
小森敦正、釘山有希、三浦史郎.
ワークショップ３；自己免疫性肝胆疾患を探究する, 第45回日本肝臓学会東部会. 仙台, 2024.12.07.

研　究　会　発　表

B-c：研究会発表（12）

１）甲状腺癌のフォロー中に心不全に至って死亡した１例
二宮直樹、三浦史郎.
大村CPCカンファレンス. 大村, 2024.1.24.

２）傍シルビウス裂症候群に対する外科治療.
小野智憲.
第31回九州山口てんかん外科研究会. 福岡（Web), 2024.2.17.

３）SVR症例における血清ATX測定の意義.
末廣智之.
講演③, 第15回DAA研究会. 鹿児島, 2024.3.2.

４）ガイドラインが推奨するマージン以上で切除したにも関わらず再発した悪性黒色腫の３例.
古賀一史、藤岡正樹、藤原洸平、日吉尚.
第116回長崎形成外科懇話会. 長崎, 2024.5.18.

５）＜口演＞傍シルビウス裂症候群のてんかん発作に対する脳梁離断術の経験.
後藤純寛、小野智憲、定方英作、吉田道春、原口渉、案田岳夫.
セッション２, 第46回長崎脳神経外科研究会. 長崎, 2024.6.22.

６）カンボジアにおける医療支援活動の報告と現地医療状況の変化.
西條広人、藤岡正樹.
第117回長崎形成外科懇話会. 武雄, 2024.11.2.

７）高齢者の上部耳介欠損はどこまで単純縫縮が許容できるか.
藤岡正樹、藤原洸平、古賀一史、日吉尚、西園馨子.
第117回長崎形成外科懇話会. 武雄, 2024.11.2.

８）前腕コンパートメントシンドロームの治療経験.
西園馨子、藤岡正樹、藤原洸平、古賀一史、日吉尚.
長崎手外科研究会. 長崎, 2024.11.12.

９）遊離脂肪移植は痩せるって偉そうに論文にしたのに、ムッチャ太った脂肪弁もあってwww.
藤岡正樹、林田健志、村上千佳子、古賀康史、増田加奈、今村禎伸.
第２回長崎医療センター形成外科研究会. 嬉野, 2024.12.7.

10）＜口演＞遊離空腸による竹輪大の再建食道が狭窄してマカロニになった一例.
藤原洸平、藤岡正樹、古賀一史、日吉尚、西園馨子.
第２回長崎医療センター形成外科研究会. 嬉野, 2024.12.7.

11）破裂内頚動脈Blood blister like aneurysmに対してステント併用コイル塞栓術を行った１例.
定方英作、原口渉、森塚倫也、本田和也、後藤純寛、松野聡夏、小野智憲、案田岳夫.
一般演題長崎脳血管内治療研究会. 長崎, 2024.12.13.

12）＜口演＞CTAが治療戦略決定に有用であった急性硬膜下血腫の１症例.
原口渉、本田和也、後藤純寛、松野聡夏、定方英作、吉田道春、小野智憲、森塚倫也、案田岳夫.
第47回長崎脳神経外科研究会. 長崎, 2024.12.21.

学　術　講　演

C-b：学術講演＜国内＞（15）

１）＜教育講演＞治療ギャップを減らすために地域で考えるてんかん診療.
小野智憲.
地域で考えるてんかんセミナー in 県北. 佐世保, 2024.2.6.

２）＜講演＞膵臓外科に魅せられて膵臓外科医にあこがれて.
黒木保.
膵疾患セミナー in Okinawa. 那覇, 2024.2.6.

３）＜講演＞肝がん・肝硬変, NASH, PBC, AIHについて.
小森敦正.
長崎県肝炎医療コーディネーター養成研修会（令和５年度）. 長崎（Web）, 2024.2.9.

４）＜特別講演＞てんかん外科治療は小児発達を改善させ得るのか？
小野智憲.
Joint Web Conference ～小児科と脳神経外科のてんかん診療連携を考える. 横浜, 2024.2.22.

５）肝細胞癌集学的治療におけるLenvatinibの使用経験からの考察.
釘山有希.
一般演題（講演）HCC Sequential Therapy Meeting. 佐世保, 2024.3.7.

６）＜講演＞穿刺手技のための最良の画像支援を目指して.
本吉康英、綿屋摩湖人、松本耕輔、釘山有希、末廣智之、佐伯哲、長岡進矢、山﨑一美、小森敦正、八橋弘.
第三回九州肝がん焼灼座談会. 長崎（Web）, 2024.3.7.

７）＜教育講演＞急性期から慢性期まで、「60点」のてんかん診療.
小野智憲.
Epilepsy Management Seminar in 沖縄. 那覇, 2024.3.15.

８）＜講演＞原著論文の書き方　その２：原著論文の始めの一歩と茨の道.
藤岡正樹.
日形会誌編集委員会企画セミナー；さあ書こう、はじめての医学論文, 第67回日本形成外科学会総会・学術集会. 神戸, 2024.4.12.

９）＜講義＞消化器系　胃腫瘍.
三浦史郎.
長崎大学医学部 系統講義. 長崎, 2024.5.23.

10）＜講演＞Ｃ型肝炎患者におけるM2BPGiの測定意義.
山﨑一美.
イブニングセミナー２；肝線維化評価におけるM2BPGi定量測定の意義と臨床応用, 第60回日本肝臓学会総会. 熊本, 2024.6.13.

11）＜講演＞当院では外科専属診療看護師が大活躍しています.
黒木保.
Nurse and clinical engineer in Kagoshima seminar（NACKS）. 鹿児島, 2024.6.15.

12）＜講演＞ウイルス性肝疾患の助成制度 2024.
小森敦正.
令和６年度日本肝臓学会 肝がん撲滅運動「市民公開講座」. 大村, 2024.11.11.

13）＜講演＞長崎県離島における肝炎撲滅の取り組み.
山﨑一美.
臨床検査の日 肝炎撲滅のためのWEB Seminar. 福岡, 2024.11.15.

14）＜教育講演＞てんかん診療ギャップを減らす「60点」のてんかん診療.
小野智憲.
地域で考えるてんかん診療セミナー . 大村, 2024.12.10.

15）＜教育講演＞小児てんかん外科の術前説明で話していること.
小野智憲.
2024年度第２回てんかん診療支援コーディネーター研修会. 東京, 2024.12.22.

学会発表・研究会開催・座長等

F-a：学会・研究会座長＜国際学会＞（2）

１）＜Moderator＞Komori A.
Liver Cirrhosis 05, APASL (Asian Pacific Association for the Study of the Liver) 2024 Kyoto. Kyoto, 2024.3.30.

２）＜Moderator＞
Komori A.
Liver Cirrhosis 06,APASL (Asian Pacific Association for the Study of the Liver) 2024 Kyoto. Kyoto, 2024.3.30.

F-b：学会・研究会座長＜国内学会＞（26）

1）＜座長＞小野智憲.
シンポジウム５（ビデオシンポジウム）；次世代に託したい離断手術の基本再考と工夫, 第47回日本てんかん外科学会. 札幌, 2024.2.2.

2）＜コメンテーター＞黒木保.
主題４；急性胆嚢炎に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術, 第12回腹腔鏡下胆道手術研究会. 東京, 2024.2.17.

3）＜座長＞小野智憲.
シンポジウム３；小児てんかん、トランジションにおける多職種連携と実際, 第11回全国てんかんセンター協議会総会　徳島大会2024. 徳島, 2024.3.3.

4）＜座長＞山﨑一美.
一般演題（講演）；消化器②, 第28回日本病院総合診療医学会学術総会. 福岡, 2024.3.30.

5）＜座長＞藤岡正樹.
一般口演48；腫瘍５, 第67回日本形成外科学会総会・学術集会. 神戸, 2024.4.12.

6）＜司会＞黒木保.
ポスターセッション（35）；胆道－良性－３, 第124回日本外科学会定期学術集会. 愛知, 2024.4.18.

7）＜ディスカサント＞本吉康英.
ディスカッション「STRiDEレジメン　対象は？タイミングは？」複合免疫療法の臨床応用を考える会. 福岡, 2024.4.27.

8）＜座長＞本吉康英.
特別講演, 長崎肝細胞がん治療 Meeting. 大村, 2024.5.13.

9）＜座長＞田川努.
ミニオーラル 68；トラブルシューティング, 第41回日本呼吸器外科学会学術集会. 軽井沢, 2024.6.1.

10）＜司会＞小森敦正.
パネルディスカッション７；自己免疫性肝胆膵疾患診療Cutting edge, 第60回日本肝臓学会総会. 熊本, 2024.6.13.

11）＜司会＞小森敦正.
教育講演会５；肝疾患とサルコペニア・栄養～肝臓リハビリ, 2024年度日本肝臓学会前期教育講演会. 熊本, 2024.6.15.

12）＜座長＞田川努.
Oralセッション18；気管支鏡の安全対策, 合併症, 第47回日本呼吸器内視鏡学会学術集会. 大阪, 2024.6.28.

13）＜座長＞三浦史郎.
一般口演. 第38回長崎県臨床細胞学会総会および学術集会. 長崎（Web）, 2024.6.29.

14）＜座長＞小野智憲.
脳神経外科の中の機能神経外科, 第10回若手のためのてんかん外科 実践セミナー in 九州・沖縄. 福岡, 2024.7.14.

15）＜座長＞黒木保.
一般演題143；膵臓：鏡視下１, 第79回日本消化器外科学会総会. 下関, 2024.7.18.

16）＜座長＞黒木保.
一般演題（口演）53；膵腫瘍１, 第55回日本膵臓学会大会. 宇都宮, 2024.7.26.

17）＜座長＞田川努.
JATS Case Presentation Awards1；肺１, 第57回日本胸部外科学会九州地方会総会. 福岡, 2024.8.1.

18）＜司会＞藤岡正樹.
公募シンポジウム２；防ぎきれない褥瘡にどう向き合うか, 第26回日本褥瘡学会学術集会. 姫路, 2024.9.6.

19）＜座長＞小野智憲.
シンポジウム10；てんかんセンターのない地域での診療連携, 第57回日本てんかん学会学術集会. 福岡, 2024.9.12.

20）＜座長＞小野智憲.
一般ポスター（英語）1；English session1, 第57回日本てんかん学会学術集会. 福岡, 2024.9.12.

21）＜ディスカサント＞小森敦正.
シンポジウム７；若手医師フォーラム, 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.18.

22）＜座長＞小森敦正.
ランチョンセミナー１；ウイルス肝炎のEliminationに向けて－世界と日本の現状と課題, 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.18.

23）＜司会＞小森敦正.
演題４；糖尿病合併慢性肝疾患における肝発癌危険因子の検討, 第１回肝疾患バイオマーカー研究会. 神戸, 2024.11.1.

24）＜司会＞小森敦正.
第１回肝疾患バイオマーカー研究会. 神戸, 2024.11.1.

25）＜座長＞小森敦正.
研修医発表；肝１, 第124回日本消化器病学会九州支部例会. 鹿児島, 2024.11.15.

26）＜司会＞黒木保.
一般演題（口演）215；胆嚢　急性胆嚢炎の治療戦, 第37回日本内視鏡外科学会総会. 福岡, 2024.12.7.

G：その他（２）

１）＜査読委員＞田川努.
第47回日本呼吸器内視鏡学会学術集会. 大阪, 2024.6.27-28.

２）＜長崎県責任者＞小森敦正.
令和６年度日本肝臓学会 肝がん撲滅運動「市民公開講座」. 大村, 2024.11.11.

National Hospital Organization **NAGASAKI** Medical Center

海外研修生リスト

責任者　小森 敦正

派遣母体

	2020年				2021年				2022年				2023年				2024年				合計（名）
	医師	検査技師	看護師	その他	医師	検査技師	看護師	その他	医師	検査技師	看護師	その他	医師	検査技師	看護師	その他	医師	検査技師	看護師	その他	
JICA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	1	3	0	0	0	**9**
合計（名）	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**5**	**0**	**0**	**1**	**3**	**0**	**0**	**0**	**9**

出身国

	2020年				2021年				2022年				2023年				2024年				合計（名）
	医師	検査技師	看護師	その他	医師	検査技師	看護師	その他	医師	検査技師	看護師	その他	医師	検査技師	看護師	その他	医師	検査技師	看護師	その他	
カザフスタン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	1	3	0	0	0	**9**
合計（名）	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**5**	**0**	**0**	**1**	**3**	**0**	**0**	**0**	**9**

※2020年～ 2022年は、COVID-19の影響により海外からの研修生受け入れ実績なし。

※【講師派遣】 小森 敦正（難治性疾患研究部長）

派遣期間：2024.11.17 ～ 11.23
派遣場所：カザフスタン国立医科大学付属心臓病内科学研究所（Almaty, Kazakhstan）
派遣目的：客員教授として訪問、診療指導、卒後教育指導

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

看護部

責任者　太田 恵子

看護部の理念・方針

「その人が　その人らしく」

病む人個々の生活信条を大切にし、一人ひとりに気持ちを傾け、
科学的根拠に基づいた個別的かつ専門的な看護を提供する。

【令和６年度　看護部目標】

Ⅰ．財務の視点

１．地域の医療ニーズに合致した医療連携の推進

２．看護力を活かした経営参画（医業収支率100％達成への取り組み）

１）効果的かつ効率的な病床運用（診療科にこだわらない病床利用）

２）経営を意識した病棟運営（算定可能な加算の取得と算定漏れの防止）

3．時間外勤務の削減とワークライフバランスの推進

Ⅱ．顧客の視点

１．互いをリスペクトしあう職場風土の醸成（関係の質醸成）

２．ベッドサイドケアの充実を図り、快適な入院環境の提供

３．退院後の生活を見据えた入退院支援の強化

４．患者の訴えに真摯に向きあう倫理的視点をもった看護実践

Ⅲ．内部プロセスの視点

１．看護の専門性に資するタスクシフト・シェアの体制整備

２．リスク感性を醸成し、ルールに基づいた実践による医療安全の質の向上

３．子育て世代等多様な働き方を支援、働き続けられる職場環境整備

４．看護部の魅力をPRし、優秀な人材の獲得

Ⅳ．学習と成長の視点

１．各ラダーの段階に応じた実践能力と対人関係能力等を備えた看護師の育成

２．自己・他者の成長に繋がる学習行動が促進できる心理的安全性の高い組織風土の醸成

３．特定看護師、CN、NS、JNPとの協働による看護職員のアセスメント力向上

４．CREATEに基づき、看護を創造し、人と組織を大切にする看護管理者の育成

【令和６年の看護部運営】

財務の視点では、経営改善目標として病床利用率の目標値が設定され、各部署が看護師長医長を中心に目標達成に向けた病床運用について検討する機会を持ち、協働して取り組むことができた。後期は患者数が増加し、６割の部署が最終目標値を達成することができた。新しい加算として術後疼痛管理チーム加算、早期離床リハビリテーション加算、重症患者初期診療充実加算などの急性期の加算取得が開始できた。一方で患者数の増加に伴い、急性期看護補助体制加算（25：１）夜間看護補助体制加算の取得が難しくなってきており約25万点/月の減収となるため、安定的な看護補助者、夜間看護補助者（ナースサポーター）の配置が課題となっている。

顧客の視点として退院後の生活を見据えた退院支援の強化で入退院支援の実践を地域医療連携室から病棟に徐々にシフトしていった。入退院支援について知識を獲得し理解を深め、対象となる患者のケアの充実を図っていくこ

とができた。同時に加算の算定が前年と比較して200件から800件と増加し約４倍の収益増につながった。

内部プロセスの視点では子育て支援やキャリア支援について取り組みをおこない、働きやすい職場環境の整備に取り組むことができた。また優秀な看護師確保に向けて推薦採用の体制を整えたことと、リクルート活動についても看護部全体で取り組むことができた。

学習の成長としてはめぐみの部屋などを活用しながら心理的安全性をキーワードに学生指導、新人教育をおこなった。

看護管理者育成としては、長崎県内の看護管理者育成研修、NHO長崎県内看護管理者研修の開催や院内では看護師長プロジェクト、副看護師長研究会で管理的視点での課題解決に向けての取り組みがおこなえて、発表会ができた。今後もCREATEを活用しながらあらゆる場面において管理的能力を発揮できる管理者の育成を目指して取り組んでいく。

2024年　院外研修受講状況

【国立病院機構本部主催】

研　修　名	期　　間	受　講　者
令和６年度　新任評価者研修	4/19 ～ 5/20	山下由起子　原　　知里 稲田　鮎美
認定看護管理者教育課程サードレベル	6/12 ～ 7/31	岩﨑　藤子
看護師特定行為研修指導者講習会	6/18 ～ 6/27	中村　裕子
認定看護管理者教育課程セカンドレベル	10/9 ～ 11/28	宮本　瑠美　廣瀬　智美 菅　　明美
ハラスメント相談員研修	11/13	穴井久美子
メンタルヘルス・ハラスメント研修	11/28	榊原チハル　尾上嘉周子

【九州グループ主催】

研　修　名	期　　間	受　講　者
認知症ケア研修	1/9 ～ 1/23	山口　絢凪　三浦　成大
看護補助者の更なる活用のための看護管理者研修	1/23 ～ 2/28	牧山　隼人　前川　一樹 吉川　　遥　下釜　絵美
独立行政法人国立病院機構認知症ケア研修	1/9、1/25（WEB） 1/9 ～ 1/23　eラーニング	道副　照美　直塚　　愛 一瀬かえで　山口　桜羅 門畑　綾花　松永　祥子 三浦　綾梨　山口　律子
医療メディエーター研修	2/7 ～ 2/9（対面）	川﨑多恵子
チーム医療推進のための研修会（輸血）	2/5（WEB）	藤原　淳子　木下結希加 白濱　若菜
看護補助者の更なる活用のための看護管理者研修	1/30、2/29 1/30 ～ 2/13　eラーニング	富永　裕美　野口　早世 牧　亜里沙　岸川しおり 池田こなつ
クリティカルパス実践研修会	2/16（対面）	大原千奈美
災害従事者研修（Ｉ）	3/4WEB	堀　　加世　橋本　　咲 城　　彩子　山田　　萌
令和６年度　新任労務管理研修　前期 後期	4/22 ～ 4/23 5/20 ～ 5/21（対面）	沖田　典子
令和６年度　新任副看護部長研修	6/11	沖田　典子
看護補助者の更なる活用のための看護管理者研修（前期）	6/6 ～ 7/11	芦刈　智美　安田　祐子 岩永　恵子　宮原　香織 梅野　香織

研　修　名	期　　間	受　講　者
看護師新任副師長研修	7/8 ～ 7/9	安田　祐子　吉川　　遥 梅野　香織　石橋　和子
院内教育担当者研修	7/23 ～ 7/24	稲田　鮎美
医療安全研修Ⅱ	7/29 ～ 7/30	井手　時枝
看護師長新任研修	6/20 ～ 6/21	稲田　鮎美
実習指導者講習会	7/16 ～ 8/23　eラーニング 8/26 ～ 9/19　講義	清水　周二　堂口　香織 弓削亜矢香　服部　美里
実習指導者講習会	9/24 ～ 11/1　eラーニング 11/5 ～ 11/28　講義	宮﨑　千佳　玉屋さつき 直塚　　愛　濱田　彩香 舩原　一穂
がん看護エキスパートナース研修	9/19 ～ 9/21	高見　　栞　田端久美子 松尾　綾華
入院支援に関する実践力向上研修	8/27 ～ 9/17　1/16	碇　祐美子　松尾　真帆
チーム医療推進のための研修（NST）	9/2 ～ 9/6	里吉　拓海　井口　　駿 下川早紀子
感染管理エキスパートナース研修	10/2 ～ 10/4	岩永　恵子　橋口　里佳
がんチーム医療研修会	10/4	坂口　早苗　西山　果穂
看護教員インターンシップ研修	10/4　10/7 ～ 10/8	宇田川真希
医療安全研修Ⅰ（40時間）	11/7 ～ 12/12	山下由起子　稲田　鮎美 泉野　真樹
救急看護エキスパートナース研修	10/28 ～ 10/31	富永　麻友
労務管理研修（副看護部長）	10/29	岩﨑　藤子　穴井久美子 沖田　典子
成育医療エキスパートナース研修	12/2 ～ 12/3	浦　　結菜　山本　光琳
院内感染対策研修	11/21 ～ 11/22	川畑　貴寛

【その他】

主　　催	研　修　名	期　　間	受　講　者
長崎県障害福祉課	精神病院虐待防止対策研修会	1/29（WEB）	小森みづほ
厚生労働省医政局 東京医科大学	災害時小児周産期リエゾン養成研修	2/18	泉井　綾夏
厚生労働省 長崎県医療政策課	ドクターヘリ事業従事者研修（基礎コース）	3/2 ～ 3	松尾　悠美　中根　秀聡
S-QUE研究会	看護補助者の更なる活用のための看護管理者研修	3/27（WEB）	内野紀代美
長崎県看護協会	2024年度長崎県保健師助産師看護師実習指導者講習会	6/1 ～ 9/30 eラーニング 11/7 ～ 12/10（対面）	山下　主税　城　　彩子 平尾　早苗　井ノ上実穂
長崎県看護協会	認定看護管理者教育課程ファーストレベル	10/3 ～ 1/26	酒谷　紀子　田淵　貴子 原　　知里　大塩あゆみ 江濱　弥生
航空医療学会 フライトナース委員会	九州フライトナース勉強会	6/8（対面)	里吉　拓海　平原　拓馬 上田　幸枝　塩塚　　築 内野　佳樹
長崎県	令和６年度院内感染対策講習会	9月～２月 eラーニング	田淵　貴子　堂口　香織 下田さやか　一ノ瀬陽介 松岡佳奈子

主　　催	研　修　名	期　　間	受　講　者
長崎医療センター	看護管理者育成研修	11/11 ～ 11/12	岸川しおり　牧山　隼人 中野　直美　下釜　絵美
九州厚生局	令和６年度九州・沖縄地区医療安全に関するワークショップ	11/27	井手　時枝　尾上嘉周子 牧亜　理沙　西田　美咲
長崎県（医療政策課） 厚生労働省	ドクターヘリ事業従事者研修（アドバンストコース）	2/1	百枝裕太郎
国立研究開発法人　国立循環器病研究センター	循環器病診療に従事する看護師の研修	12/3 ～ 12/5	森　　彩
国立精神神経医療研究センター	第２回てんかん診療支援コーディネーター研修	12/22	長野みのり

【災害訓練関係】

研　修　名	期　　間	受　講　者
第３回原子力災害医療派遣チーム研修	1/13	中村　裕子
日本DMAT隊員養成研修（兵庫）	1/17	中尾　直子
第３回原子力災害医療派遣チーム研修（長崎大学）	1/20	野口みどり　中村　裕子
令和５年度九州・沖縄ブロックDMAT実動訓練（沖縄）	1/26	内野　佳樹　上田　幸枝
原子力災害防災訓練（鹿児島）被ばく傷者対応訓練）	2/10	内野　佳樹　中村　裕子
令和５年度旅客船事故対応訓練（佐世保）	2/13	百枝裕太郎　平原　拓馬 木下　美咲
原子力災害防災訓練（長崎）	2/17	森塚　倫也　塩塚　　築 里吉　拓海
第６回原子力災害医療基礎研修	2/19	平原　拓馬　里吉　拓海
北部九州地区洋上救急慣熟訓練	2/29	内野　佳樹　中根　秀聡
日本DMAT隊員養成研修（東京）	3/12	青山　育美
長崎県総合防災訓練	5/25	塩塚　　築　山口　詩織
第一回原子力医療中核人材研修（長崎大学）	8/1 ～ 8/3	平原　拓馬
DMAT養成研修（名古屋）	8/20 ～ 8/22	山口　詩織
第１原子力災害派遣チーム研修	8/23 ～ 8/24	中道　大夢
第１回九州・沖縄ブロックDMAT技能維持研修	9/18	中尾　直子　上田　幸枝
令和６年度第２回原子力災害医療派遣チーム研修	9/20 ～ 9/21	塩塚　　築
令和６年度大規模地震時医療活動訓練	9/27 ～ 9/28	平原　拓馬　青山　育美
令和６年度長崎DMAT養成研修	10/26 ～ 10/27	森　　勇介
令和６年度緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練（長崎）	11/17	内野　佳樹　木崎　　愛
原子力災害防災訓練（佐世保総合医療センター）	11/30	塩塚　　築　上田　幸枝
令和６年度九州・沖縄ブロックDMAT実動訓練（長崎）	11/23 ～ 11/24	中道　大夢　百枝裕太郎 中村　裕子　里吉　拓海 中尾　直子　泉野　真樹

2024年　講師派遣等

【看護系大学専門学校講師】

日　程	依　頼　施　設	講　義　内　容	氏　名
5月9日・16日・23日・30日 6月27日	長崎市医師会看護専門学校	看護の臨床判断	本田　和也
11月8日・29日 12月12日	長崎県央看護学校	成人臨床看護の実際Ⅱ（中枢神経障害）	森塚　倫也
1月16日・23日		小児臨床看護の実際	野口　早世
12月6日	NHO嬉野医療センター附属看護学校	成人・老年看護学方法論Ⅱ（がん治療に対する看護：造血幹細胞移植と看護）	渡邊　依里
5月17日	活水女子大学	基礎1実習オリエンテーション	太田　恵子
6月17日		看護管理論Ⅱ	太田　恵子
6月18日・25日		フィジカルアセスメント	平原　拓馬
7月10日・12日		母性看護学方法論演習	古賀　千怜
7月10日		看護学統合演習 看護部の組織と概況	穴井久美子
7月15日・29日		看護学統合演習 複数受け持ちロールプレイ	松本　温子
7月11日		看護学統合演習 医療安全管理体制	井手　時枝
7月11日		看護学統合演習 感染管理体制	木場みちよ
12月11日		看護医療情報学	西田　美香
1月5日			田中　　圭

【一般講師】

日　時	依　頼　施　設	講　義　内　容	氏　名
1月24日 2月7日	長崎県看護協会	災害支援ナース養成研修 新型コロナなど新興感染症患者の看護	野口みどり
1月24日 2月7日	長崎県看護協会	災害支援ナース養成研修 感染拡大時の看護職の活動の実際	木場みちよ
1月13日 2月13日	長崎県消防学校	応急処置の総論 （包帯法、各論・看護（高齢者））	野口みどり
1月9日	長崎大学病院	診療看護師の役割と実践	本田　和也
1月10日～	長崎県看護協会	災害支援ナース養成研修の企画・指導者研修	木場みちよ
2月2日	長崎県移植情報担当者協議会	令和5年度脳死下臓器提供症例報告	宮本　瑠美 高崎　美穂
2月5日	九州グループ	チーム医療推進のための研修会（輸血）	下釜　恵美
2月29日	九州グループ	看護補助者の更なる活用のための看護管理者研修	穴井久美子
3月5日	メンリッケヘルスケア	WEBセミナー	原　健太朗
3月9日	長崎県手術看護認定看護師会	NAGASAKIオペナースセミナー	原　健太朗

日　時	依　頼　施　設	講　義　内　容	氏　名
3月9日～10日	長崎医療センター　ALSO	長崎ALSOプロバイダーコース	泉井　綾夏
5月9日～11日	長崎県病院企業団（長崎県対馬病院、長崎県上五島病院） 公益社団法人　地域医療振興協会 長崎県支部	ALSO-Japanプロバイダーコース	松井　知子 安田　祐子 石丸　　絢 泉井　綾夏 本多　菜美
5月12日	NHO長崎医療センター	BLSOプロバイダーコース	相川　秀美 泉井　綾夏
5月21日	看護師キャリア支援センター	新人看護職員研修・交流会 感染管理の基本	木場みちよ
6月13日	九州グループ内感染管理担当看護師連絡会	複数感染症同時流行による大規模アウトブレイクの対応と他施設からの緊急支援事例の共有	木場みちよ
6月14日	大村市福祉健康部長寿介護課	ケアマネジメント学習会「ACP」	田中　　圭
6月16日	長崎ISLS事務局/長崎北徳洲会病院	第44回長崎ISLSコース	山田　昌恵
7月3日	看護協会	中堅ナースに役立つスキル 今だから見直そう感染対策とリーダーシップ	中村　みさ
7月31日	看護師キャリア支援センター	侵襲的な器具や処置の感染予防策の実際	木場みちよ
9月21日	看護師キャリア支援センター	看護スキルアップ研修1 感染管理　標準予防策～感染予防策を再確認しよう～	木場みちよ
7月6日	上五島病院	BLSOプロバイダーコース	泉井　綾夏
8月25日	日本ベクトン・ディッキンソン株式会社	ミカエラ・オルセン先生と共に院内の世界基準の暴露対策に取り組む	村上　摩利
10月3日	九州グループ感染エキスパートナース研修	洗浄・消毒・滅菌　感染性廃棄物	木場みちよ
10月4日	九州グループ感染エキスパートナース研修	グループワーク　アウトブレイク対応医療関連感染管理の課題における対策の検討	中村　みさ
12月13日	医療法人和光会恵寿病院	冬場に気を付ける感染症対策	中村　みさ
11月24日	熊本総合病院	熊本ISLSコースファシリテーター	山田　昌恵
12月1日	日本手術看護学会教育研修	麻酔看護の応用「個別性のある看護」	原　健太朗
12月7日	マイクロセレクトロンHDR研究会	RALS再開から組織内照射開始の経験（看護師の目線から）	大石　景子
12月2日	国立病院機構嬉野医療センター	ICUダイヤリーの活用	百枝裕太郎

【小中学校・高等学校講師】

日　時	依　頼　施　設	講　義　内　容	氏　名
1月12日	東彼杵町立千綿小学校	がんを予防するため、日常生活で心がけておきたいことについて	田中　　圭
1月16日	壱岐市立八幡小学校	生活習慣の確立とがんの予防について	田中　　圭
1月25日	大村市こども家庭課 桜が原中学校	思春期こころとからだの健康づくり	古賀　千怜
3月6日	長崎県看護協会 諫早市立北諫早中学校	性教育セミナー　知ってほしい性のはなし	泉　美穂子

日　時	依　頼　施　設	講　義　内　容	氏　名
7月3日	大村市こども家庭課 大村中学校	思春期こころとからだの健康づくり	西田　莉瑚
7月5日	大村市こども家庭課 玖島中学校	思春期こころとからだの健康づくり	坂本　早苗
7月18日	大村市役所国保けんこう課/松原中学校	がん教育	田中　　圭
9月3日	大村市こども家庭課/郡中学校	思春期こころとからだの健康づくり	畠中裟也加
9月27日	大村市こども家庭課/萱瀬中学校"	思春期こころとからだの健康づくり	山本　光琳
11月15日	大村市役所国保けんこう課/中央小学校	がん教育	田中　　圭
11月19日	大村市こども家庭課/桜が原中学校	思春期こころとからだの健康づくり 性講話	永田　　雅
11月22日	大村市役所国保けんこう課/鈴田小学校	がん教育	田中　　圭
12月13日	大村市こども家庭課/大村高等学校	思春期こころとからだの健康づくり 性講話	宇田川真希
12月13日	大村市立三浦小学校	がん教育	田中　　圭
12月18日	大村市役所国保けんこう課/竹松小学校	がん教育	田中　　圭

施設見学・研修・実習受け入れ状況

【研修・実習】

日　付	研修内容	施　設　名	人数
12月2日～27日	がん放射線療法看護認定看護師教育課程 B課程　看護師特定行為実習	久留米大学認定看護師 教育センター	1
6月1日～1月31日	看護師特定行為研修	NHO長崎病院 長崎医療センター	3
8月21日	認定看護管理者教育課程 サードレベル統合演習Ⅲ（実習）	佐世保総合医療センター	1
11月11日～11月12日	第12回看護管理者育成研修	長崎県内 12施設※①	19
8月22日～8月30日	放射線看護専門コース　放射線看護実習	鹿児島大学保健学研究科	1

※①上五島病院、長崎県壱岐病院、長崎県島原病院、聖フランシスコ病院、田上病院、市立大村市民病院、
みどりの園病院、NHO長崎病院、みさかえの園あゆみの家、諫早記念病院、貞松病院、NHO長崎医療センター

【施設見学】

日　付	研修内容	施設名	人数
8月7日	ふれあい看護体験	大村高等学校	15
9月26日	NPの実践に関するフィールドワーク	慶応義塾大学	2
10月30日	病院見学、意見交換会	活水高等学校	13
12月11日	産婦人科領域における放射線治療の実際について	長崎大学病院	2

【看護学生実習】

学　校		学年	人数	受け入れ病棟
活水女子大学看護学部	基礎看護学実習Ⅰ	1年次	67	3B，5A5B，6A，6B，7A，8A，8B，9A
	基礎看護学実習Ⅱ	2年次	33	3B，5A5B，6A，6B，7A，8A，8B，9A
	成人看護学実習Ⅰ	3年次	63	3A，5B，6A，6B，7A，OP
	成人看護学実習Ⅱ	3年次	63	5A，8A，8B，9A，透析室，化学療法センター
	小児看護学実習	3年次	63	4A，外来
	母性看護学実習	3年次	63	4B，NICU，外来
	統合実習	4年次	63	3B，4B，5A，5B，6A，6B，7A，8A，8B，9A
向陽高等学校看護専攻科	小児看護学実習	2年次	39	4A
	母性看護学実習	2年次	4	4B，外来
西九州大学	次世代育成看護学実習Ⅰ（母性）	3年生	8	4B

リクルート活動

【病院見学、就職説明会】　　令和7年度採用分

	実施回数	延べ参加人数
当院主催病院見学会	16	62
マイナビ主催就職説明会	2	142
学校主催就職説明会	7	206
九州グループ主催就職説明会	2	40
ナース専科主催合同就職説明会	1	22
長崎県主催合同説明会	1	74

【卒業生と在校生の交流会等参加】

独立行政法人国立病院機構岡山看護助産学校
独立行政法人岩国医療センター附属岩国看護学校
活水女子大学看護学部
長崎市医師会看護専門学校
長崎県看護キャリア支援センター
長崎県立大村城南高等学校

研究業績

論　文　発　表

A：英文

A-a1：英文原著

1）Current status analysis of the prevalence and regional disparities of robot-assisted laparoscopic prostatectomy in Japan using diagnosis procedure combination data.
Hara K, Kanda M, Kobayashi Y, Kuwabara Hiroyo, Inoue T.
Scientific reports. 14(1)：24823. 2024.10.

2）Development of an estimation formula for preparation time of anesthesia induction and surgery accounting for clinical department factors in optimal surgery schedule management.
Hara K. Tachibana R, Kaneko S, Yamaguchi M, Fujioka M, Kuroki T, Honda S, Sawai T.
Scientific reports. 14(1)：25185. 2024.10.

B：和文

B-a1：和文原著

1）T総合入院体制加算施設の手術室における他部署からの看護支援の現状と影響要因の解析.
原健太朗、徳山薫、山本千恵、後藤紀久、大﨑健吾、ミルズしげ子、井上貴裕.
日本看護管理学会誌. 28(1)：125-132. 2024.8.

2）胸腔鏡下肺切除術におけるアンダーボディブランケットとアッパーボディブランケットを比較した術中加温効果の検討.
市原幸大、神代竜育、原健太朗.
日本手術看護学会誌. 20(1)：3-8. 2024.10.

学会・研究会・講演

B：国内学会

B-b1：シンポジウム，パネルディスカッション等

＜シンポジウム＞

1）達人から学ぼう！術中褥瘡対策のポイント.
原健太朗.
第38回日本手術看護学会. 札幌, 2024.10.20.

2）手術看護の協奏曲：実践と研究が奏でる患者ケアの未来.
原健太朗.
第46回日本手術医学会総会. 大阪, 2024.12.21.

＜口演＞

1）次世代のがん医療を支える“多職種協働型人材養成”.
田中圭.
第38回日本がん看護学会. 神戸, 2024.2.24.

2）九州がんセンター・長崎医療センターでの地域緩和ケア連絡調整員の活動報告.
田中圭.
地域緩和ケア連絡調整員フォーラム. 東京（Web）, 2024.3.9.

B-b2：一般演題

＜口演＞

1）急性期充実体制加算取得施設における手術室看護師の配置人数の解析.
原健太朗、徳山薫、山本千恵、後藤紀久、大﨑健吾、ミルズしげ子、井上貴裕.
第26回日本医療マネジメント学会学術集会. 福岡, 2024.6.21.

2）脳神経疾患センターにおけるづくたーコールの発生状況－発生要因についての基礎調査－.
藏満和樹.
第20回日本クリティカルケア看護学会学術集会. 沖縄県宜野湾市　2024.6.22.

3）手術室看護師の血液曝露の実態に焦点を当てたルミノール化学発光法の応用研究.
橋口里佳、井上彩衣、原健太朗.
第39回日本環境感染学会総会・学術集会. 京都, 2024.7.26.

4）手術室看護実習におけるロールモデルを担う手術室看護師 の思考過程の分析.
原健太朗、楠原香代子、藤川省子.
第50回日本看護研究学会学術集会. 奈良, 2024.8.24.

5）病棟助産師による性教育が中学生の自尊感情に与える影響.
宇田川真希、西田美香.
第43回日本思春期学会総会・学術集会. 兵庫県, 2024.8.25.

6）高度救命救急センターでABCDEFGHバンドルを導入して.
堀加世.
第32回長崎救急学会. 長崎, 2024.9.7.

7）看護提供方式の見直しと効果の検証　～バディ制を導入して～ .
大石奈津子.
第32回長崎救急学会. 長崎, 2024.9.7.

8）組織内における心理的安全性の醸成に向けた取り組み～中間管理職として活動した 1 分間スピーチ導入後の変化～ .
瀧口尚.
第78回国立病院総合医学会. 大阪府, 2024.10.18.

9）「めぐみの部屋」活動報告　～看護職員が自分らしく就業を継続できる環境をめざして～ .
斉藤昌子、太田恵子、松本温子.
第78回国立病院総合医学会. 大阪府, 2024.10.18

10）糖尿病教育患者の理解度と心理的負担感の関連性について　～糖尿病 問題領域質問票（PAID）を用いて～ .
土井広貴.
第78回国立病院総合医学会. 大阪府, 2024.10.18

11）当院に搬送となった病院前分娩の新生児予後についての検討
石丸絢、本多菜美、泉井綾夏、菅幸恵、安日一郎.
第65回日本母性衛生学会総会・学術集合. 宮崎市, 2024.10.18-19.

12）高度肥満患者（BMI46）で見えた外回り看護の実際と課題.
髙見宗太郎、弓削亜矢香、原健太朗.
第38回日本手術看護学会. 札幌, 2024.10.20.

13）皮膚障害を発生させない術前皮膚状態の客観的指標となり得る経表皮水分蒸散量の解析　－前向きコホート研究－.
原健太朗、高見宗太郎、上村貴弘、立花玲華、神代竜育、弓削亜矢香.
第38回日本手術看護学会. 札幌, 2024.10.20.

14）ドクターヘリ体験搭乗が及ぼすワーク・エンゲージメントの変化.
塩塚築.
第31回日本航空医療学会. 沖縄県, 2024.11.15.

15）血液透析患者の口腔内環境および口腔保健行動に関する自己効力感との関連.
山口茜.
第56回九州人工透析研究会総会. 長崎, 2024.12.15.
16）本邦の急性期病院における手術室看護師の感情分析：ChatGPTを用いた周術期看護への情熱の解明.
原健太朗、市原 幸大、北川舞、立花玲華、神代竜育、上村貴弘.
第46回日本手術医学会総会. 大阪, 2024.12.21.
17）大腿骨近位部骨折手術におけるVirtual Realityを用いた器械出し看護教育の効果の検討.
市原幸大、原健太朗、北川舞.
第46回日本手術医学会総会. 大阪, 2024.12.21.
18）小児科病棟におけるてんかん外科看護力向上のための取り組み.
林優奈.
第12回全国てんかんセンター協議会学総会. 石川県金沢市, 2025.3.22.

＜ポスター発表＞

1）高度救命救急センターにおける早期経腸栄養プロトコル導入の取り組み.
平原拓馬.
第78回国立病院総合医学会. 大阪府, 2024.10.18.
2）救命救急センターにおける医療電子記録を活用した多職種連携の取り組み　～効果的なABCDEF　Bundle実技を目指して～.
百枝裕太郎.
第78回国立病院総合医学会. 大阪府, 2024.10.18.
3）高度救命救急センターにおける院内トリアージの現状分析とアンダートリアージの要因.
内野佳樹.
第78回国立病院総合医学会. 大阪府, 2024.10.18.
4）高度救命救急センターにおけるICUダイアリーの運用報告.
光武愛梨.
第78回国立病院総合医学会. 大阪府, 2024.10.18.
5）高度救命救急センターにおけるICUダイアリーの導入が看護師に及ぼす影響.
田島綾花.
第78回国立病院総合医学会. 大阪府, 2024.10.18.
6）大腿骨近位部骨折術後患者の早期離床介入後のADLに関する実態調査　～入院時と術後８週のADLを比較して～
山口由香里.
第78回国立病院総合医学会. 大阪府, 2024.10.18.

D, F：学術講演他

D：学会・研究会開催

＜大会長講演＞

1）田中圭.
頭頸部がんサポート研究会. 福岡, 2024.1.27.

F-b：学会・研究会座長［国内学会］

＜座長＞

1）放射線看護におけるコラボレーションの構築.
大石景子.
日本放射線看護学会第13回学術集会. 鹿児島, 2024.9.15.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

専門看護師・認定看護師・特定看護師

■専門看護師・認定看護師状況

専門看護師：３分野３名

分　野	資格取得人数	職員名
がん看護	1	田中　　圭
感染症看護	1	中村　みさ
放射線看護	1	大石　景子

認定看護師：10分野13名

分野	資格取得人数	職員名
感染管理	2	木場みちよ　　中村　みさ
緩和ケア	1	石丸　美幸
がん化学療法看護	2	村上　摩利　　富永　美希
皮膚排泄ケア	1	中村裕紀子
新生児集中ケア	1	野口　早世
がん放射線療法看護	1	大石　景子
クリティカルケア	3	野口みどり　　平原　拓馬　　平川　雅子
糖尿病看護	1	土井　広貴
手術看護	1	原　健太朗

特定行為研修修了者：10名

４区分８行為	7	玉屋さつき　　中村　裕子　　田中　恵里　　荒木　明花 中道　大夢　　磯本　莉穂　　平川　雅子
３区分11行為	2	平原　拓馬　　野口みどり
２区分３行為	1	原　　文佳

認定看護管理者：３名

役職名	職員名
看護部長	太田　恵子
副看護部長	穴井久美子　　沖田　典子

■「がん看護」専門看護師活動報告

田中　圭

■役割

がんの予防から診断・治療・共生・終末期での質の高い実践を行い、外来化学療法センター・放射線治療室・緩和ケアチーム・緩和ケアセンター・相談支援センター・がんゲノム外来などにおいて多職種による質の高い医療が提供できるように、円滑なチーム作りを推進する。また、倫理事例の検討・臨床倫理カンファレンス・看護倫理委員会などを担当し積極的に患者の擁護者役割が求められている。

都道府県および地域がん診療連携拠点病院の整備に参画し、がん医療の均てん化や、地域医療連携を促進する。

■実践報告

＜実　践＞

がん相談などを通してがん患者、家族の意思決定支援を行っている。また、セカンドオピニオン外来の窓口も務めており、がん患者、家族の個々の治療や生活背景にあった情報提供を行っている。

＜相　談＞

緩和ケアチームの専従看護師、専任看護師、県央がんセンターのがん化学療法看護認定看護師からがん看護実践・教育の相談に応じている。また、各診療科や病棟からもがん看護のコンサルテーションを受けている。

＜調　整＞

緩和ケアチーム、がん相談支援センターがチームとして円滑に機能するように医師、看護師、MSW等の役割や業務をコーディネートしている。また、他医療機関や在宅医療との地域緩和ケアネットワークづくりも行っている。

＜倫理調整＞

院内の毎月１回開催されるキャンサーボード、倫理カンファレンスの司会や事例検討の相談窓口を担っている。また、臨床倫理委員会の委員でもあり、院内の倫理的問題に積極的に介入している。

＜教育＞

院内のがん看護教育には当院がん関連認定専門看護師の支援を行う形で間接的に関わっている。院外の県民、医療福祉従事者への教育活動としては、長崎県の小中高校生にがんの予防や命の大切さを学んでもらうためのがん教育を行っており、医療福祉従事者へは学会や研修会などの講演活動を行っている。

＜研究＞

2024年の学会発表には２つ関わっている。その内、当方が筆頭演者で発表したのは１題である。当院が事務局である地域緩和ケア連絡協議会の中で大村市遺族調査を実施した。

【院内の意思決定支援の指針とフローを作成し意思決定支援における体制整備を行った】
【がん看護専門看護師の介入による算定件数　特になし】

■感染症看護専門看護師（感染管理認定看護師）活動報告

中村　みさ

■役割

感染症看護専門看護師は、「病院だけでなく地域の集団に対する感染管理」と「感染症や易感染状態にある複雑で解決困難な看護問題を持つ個人または家族に対して水準の高い看護ケア」を効率良く提供する役割がある。

■実践報告

＜実践＞

感染管理の主となる実践はサーベイランスである。

サーベイランス	担　当	目　標	結　果
中心静脈カテーテル血流感染	3A	感染　0件/年未満	4件/年
尿道留置カテーテル尿路感染		感染 10件/年未満	20件/年
手術部位感染	整形外科（6B）	感染　0件/年未満	0件/年
人工呼吸器関連イベント（疑）	一般病棟	感染　0件/年未満	1件/年

制限された入院生活をする患者に対して、スタッフと話し合いながら最善のケア提供に努めていった。

＜指導・教育＞

指導

配属病棟では、病棟の感染対策マニュアルの修正の相談を受けていった。配属病棟外では、電話やラウンド時などに相談あり、現場訪問し直接指導をおこなった。

教育　6件

感染管理について3件、災害看護について2件、中堅ナースに役立つスキルについて1件、院外教育を行った。

＜相談＞

相談件数　8件

医師や看護師から感染面での病床管理に関する相談があった。感染症や易感染患者の看護ケアの相談や意見交換を増やしていくことを目指している。

＜倫理調整＞

病棟目標に沿って、看護・倫理カンファレンスを行っている。受け持ち看護師を中心とした多職種カンファレンスを実施し、多剤耐性アシネトバクター陽性患者を自宅へ外出できた。感染対策だけに拘らず、看護･倫理カンファレンスを継続し、その人らしくを目標にケア向上に貢献していく。

＜調整＞

院外研修の調整や会議の調整を行っていった。

＜研究＞

テーマ「多剤耐性アシネトバクターアウトブレイクに関する報告」を倫理審査委員会に申請した。論文投稿、学会発表を予定している。

■「放射線看護専門」「がん放射線療法看護認定」看護師活動報告

大石　景子

■役割

がん放射線療法看護の分野において、がん放射線療法効果を最大限に得られるよう放射線療法の治療過程に生じる患者の身体、心理、社会的問題の解決を支援し、長期にわたる治療を患者自身が主体的に継続し、安全に完遂することを目的とし水準の高い専門的看護を提供する。

■実践報告

＜実践＞

放射線治療を受ける患者に対し初診時の診察へ同席することで治療選択への支援のため放射線に対する恐怖心や副作用に対する不安への対応、放射線治療によって生じる副作用症状への処置方法や日常生活管理など、治療開始前から治療終了後まで、患者本人および家族へ直接的な処置介入及び指導など、心理的支援とともに日常生活に関わる支援などの看護活動を実施した。

＜相談＞

がん放射線治療を受ける患者・家族に対しての副作用に対する処置方法や看護技術について、放射線治療室および病棟看護師が対応に困った内容についてのコンサルテーションを実施した。

＜調整＞

放射線治療を受ける患者の治療導入時、治療中、治療終了後の状況に応じ、介入の必要性を検討し主治医や必要な医療関係者へ連絡調整するなどして患者サポートに努めている。また、遠隔操作密封小線源治療Remote After Loading System（以下、RALS）に組織内照射も加わったことにより、RALS件数が増加し組織照射を含み年間100件程度実施している。そのため放射線科看護師および各病棟看護師に対し治療内容の詳細と必要な看護について指導を行っている。また、治療前指示書を活用し、治療内容についての情報提供や必要物品などの情報交換を行い、治療室と病棟看護師とが共通した認識を持ち患者の看護に臨めるよう活動した。

＜倫理調整＞

放射線治療を受ける患者の治療方針について、各診療科のカンファレンスに積極的に参加し、患者の意向や生活背景をもとに患者の代弁者として発言し治療方針が決定されるよう活動した。

＜教育＞

令和６年度がん診療リンクナース会議の企画運営及びがん看護コース放射線治療部門を担当

＜研究＞

院内臨床研究：「乳がん乳房全摘術後の放射線治療における急性放射線皮膚炎の予防に薄型フィルムドレッシング材を使用した効果の検討」を実施

【学術・学会】

・令和６年９月14日　第13回日本放射線看護学会学術集会
　１）交流集会「 看護師が実施している放射線看護養育の現状と未来」発表
・令和６年11月21日　第37回日本放射線腫瘍学会学術大会
　１）「ポリウレタンフィルムによるPMRTの急性放射線皮膚炎の予防効果」示説発表（最優秀演題賞）

■「感染管理」認定看護師活動報告

木場　みちよ

■役割

感染管理認定看護師の主な役割として、１．病院感染サーベイランス、２．感染防止技術、３．病院環境管理、４．職業感染防止、５．感染管理教育、６．相談がある。自施設の現状を的確に把握し、効果的・効率的な感染対策を立案し、実践する。安全で良質な医療の提供に貢献するために、組織横断的に病院感染低減およびコントロールに努める。

■実践報告

＜実践＞

１）サーベイランス：厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業に手術部位感染サーベイランスの報告を行なっている。

サーベイランス	対象病棟	感染件数
手指衛生サーベイランス	全部署	―
中心静脈カテーテル関連血流感染サーベイランス	全病棟	21件/年
尿道留置カテーテル関連尿路感染サーベイランス	全病棟	94件/年
手術部位感染サーベイランス	脳外科	５件

２）活動

- ICTミーティング、ICTラウンド：週１
- 感染対策委員会：月１回
- 管理診療会議：月１回
- 感染リンクスタッフ連絡会議：月１回
- 耐性菌対策会議：月１回
- 抗菌薬使用支援カンファレンス：週１回
- 結核DOTSカンファレンス：２か月に１回
- 感染対策向上加算１：相互評価（加算１施設と相互に１回ずつ)、地域連携カンファレンス（４回、うち１回は合同訓練)、環境ラウンド４回
- 7A病棟カルバペネマーゼ産生腸内細菌目細菌（CPE）対策会議：月１回
- NICU、MRSA対策会議：週１回
- 院内感染対策マニュアル適宜改訂

＜指導＞

- 病棟や部署の要望に応じた教育やラウンドでの現場教育。
- 院内感染対策講習会、手指衛生直接観察者育成研修会の企画と開催。
- 新採用者（看護師、医師、コメディカル）への感染対策に関する研修。
- 感染リンクスタッフ連絡会議にてサーベイランス報告、トピックスに関するレクチャー。
- 7A病棟CPEアウトブレイク対応：環境調査、水回りに関連した環境調整、職員の手指衛生徹底。
- NICU、MRSAアウトブレイク対応：患者ゾーン内環境調整、職員の手指衛生徹底。

＜相談＞

- メール、電話、リンクスタッフ連絡会議、ラウンド時現場等で、感染対策や環境整備等についての相談あり、必要時病棟へ出向き、現状を確認し、迅速な対応できるように心がけている。
- 相談内容：患者、職員感染症発生時の対応、多剤耐性菌に関する内容など。

■「緩和ケア」認定看護師活動報告

石丸　美幸

■役割

がんなどの治癒が困難な進行性の疾患による病気そのものや治療に伴う様々な苦痛を抱える患者および家族に対して、苦痛を全人的に捉え、患者・家族のQOLを維持・向上するために専門的な知識・技術をもって看護を実践していくこととされている。また、患者・家族への喪失と悲嘆に対するケアの実践も求められている。緩和ケアはがんと診断を受けた段階から臨死期のケアに到るまでと長い療養期間の中で、特に緩和ケア認定看護師の特科技術は、エンゼルケア・呼吸困難・リンパ浮腫・口腔ケアとされ、より専門的な介入が求められる。

■実践報告

＜実　践＞

2016年４月より、緩和ケア専従看護師として配置されており、緩和ケアチーム活動や院内のがん看護啓発のための活動を行っている。各部署において、がん患者の診断・告知の段階からの緩和ケアの介入の視点から、がん患者とその家族の治療に伴う全人的苦痛の緩和のための看護実践を行った。また、がん終末期にある患者・家族の苦痛緩和のための看護ケアやマネジメントの実際について担当看護師と一緒にカンファレンス等で検討し、安楽なケアを提供するための実践を行った。

＜指　導＞

がん診療リンクスナース会議の企画・運営やがん診療システム拡充と浸透のための資料・マニュアル改定を行った。今年度はアドバンスケアプランニングやがん看護に関する質の向上に向けた部署の取り組みについて年間を通した計画を立案し実施している。新たな試みとして、がん性疼痛緩和指導管理料算定に向けて緩和ケア委員会におけるシステム構築やリンクナースへの普及・啓発活動にも貢献できた。緩和ケア研究会や院内における教育活動は、地域も対象とした緩和ケア研究会を再開し、９月に開催した。また、各部署におけるOJTを中心とした教育・指導を継続し、院内の緩和ケア研修会のファシリテーターとして参加し貢献した。

＜相　談＞

医師・看護師を中心として、その他のコメディカルからの緩和ケア・がん看護における相談に対応した。また、苦痛のスクリーニングにおける“緩和ケアに関する相談の希望”に対して、カウンセリングなど、患者・家族と直接面談を行い、入院から外来、病院から在宅など療養の場に関わらず、継続した意思決定支援や精神的なサポートを行っている。キャンサーボードにおける倫理カンファレンスにおいては、症例への介入方法や部署の看護師の対応に関するアドバイスや倫理的な視点での検討を促進するため、部署での倫理・看護カンファレンスに参加した。

【緩和ケア認定看護師の介入による算定件数】

○2024年１月～ 12月まで

- 緩和ケア診療加算（390点）：949件
- 個別栄養食事支援加算（70点）：368件
- 外来緩和ケア管理料（290点）：41件

○2023年１月～ 12月まで

- がん患者指導管理料イ（500点）：７件
- がん患者指導管理料ロ（200点）：１件

■「がん化学療法看護」認定看護師活動報告

村上　摩利　　冨永　美希

■役割

がん薬物療法を受ける患者が、安全で安楽に治療を受けながら、QOLを維持できるように、最新の知識や専門性の高い技術を活用して、患者のニーズに応じた副作用対策やセルフケア支援を実践する。

また、病院内外でがん薬物療法看護の勉強会を開催し、その質の向上に貢献する。

■実践報告

＜実践＞

がん薬物療法を受ける患者とその家族に対し、治療管理やセルフケア支援を実施した。治療の有害事象を含めた苦痛のスクリーニングを行い、必要な部署と連携し対応した。また、がん患者への病状説明への同席や面談を通して意思決定を支援し、治療および療養上における不安や苦痛の軽減を図れるよう介入した。

外来と9A病棟との連携業務において、外来化学療法センターの業務やセルフケア支援に関する手順をチェックリスト化し、効率的な業務ができる体制の整備を行った。連携業務を通じて、がん薬物療法に関する看護ケアをスキルアップや、入院患者の退院支援へ活かすことができるように取り組んだ。

また、ガイドラインの改訂に伴い、院内の血管外漏出に関するマニュアルの改訂、周知を行った。

2024年の外来薬物療法件数：5661件

	病状説明同席	がん患者指導管理料イ算定（500点）	がん患者指導管理料ロ算定（200点）
2024年件数	177件	148件	39件

来年は、現在取り組んでいる、がん薬物療法関連の各種マニュアルの改訂と、抗がん薬IVナース導入へ向けた体制整備と看護師研修を他職種と連携しながら推進していく予定。

＜指導＞

患者支援として、薬物療法の副作用による生活への影響が最小限となるように、皮膚障害のケアや口内炎予防、中心静脈ポートの管理などの患者指導をおこなった。スタッフへの指導としては、がん薬物療法に関する情報提供や指導、各部署のがん薬物療法に関するマニュアルの見直しや新規作成への支援、複数の部署での勉強会（がん薬物療法看護や曝露対策など）の実施、がん診療リンクナースの活動支援を行った。また、ベゼルヒューザーポンプの入院中の管理手順書を作成し、関連部署と共有した。がん看護コースでは、がん看護の基礎と意思決定支援に関すること、がん薬物療法看護の基礎についてそれぞれ講義を担当した。

社会活動として、大村市民病院の看護師を対象としたがん薬物療法看護の講義や九州ブロックのがん診療に関わる多職種の連携チーム医療についての講義、在宅や施設関係者向けの地域連携研修で経口抗がん薬を使用する患者への支援や曝露対策についての講義を担当した。

＜相談＞

がん薬物療法に伴う看護ケアに関して、スタッフからの相談に応じた。相談内容は、主に新規薬剤に関することや曝露対策、がん薬物療法薬の投与管理やレジメンに関すること、皮膚障害のケア、血管外漏出時の対応、中心静脈ポートの管理、がんゲノムパネル検査などであった。

＜学会発表＞

なし

■「皮膚・排泄ケア」認定看護師活動報告

中村裕紀子

■役割

『創傷』、『ストーマ』、『失禁』の分野におけるケアの相談を受け、専門的な知識と熟達した技術により実践および教育を行う。

■実践報告

褥瘡管理者として活動を行っている。

＜実践＞

1．褥瘡回診（毎週金曜日）　回診対象者447名/年

2．新規褥瘡発生患者数、持ち込み褥瘡患者数、発生率、発生要因の分析

3．体圧分散マットレスは中央管理し、各部署で過不足なく使用できるよう管理している
（稼働率は90％以上）

4．褥瘡対策委員会（月１回）では、褥瘡保有患者の動向、褥瘡発生の傾向など報告を行い、予防ケアなどの対策を検討している
2024年の新規発生率は0.82％であった（前年度1.03％）

5．ストーマ外来　場所：外来棟２階相談室１　受診患者数名116/年

6．外来患者ケア（褥瘡ケア・褥瘡予防ケア・創傷ケア）14名/年（医師より相談あり対応）

7．褥瘡リスクアセスメント票・褥瘡予防治療計画書を作成、褥瘡ハイリスク患者に対して重点的なケアを行っている

褥瘡リスクアセスメント票・褥瘡予防治療計画書の作成　1684件/年（前年比＋110）

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
137	151	140	128	141	119	173	141	155	152	104	143

＜指導＞

1．褥瘡リンクスタッフ対象

1月　スキンケアについて	5月　褥瘡予防・管理ガイドラインについて	6月　おむつの正しい使用方法
9月　弾性ストッキングの正しい使用方法	10月　褥瘡と栄養	11月　体圧分散寝具について
12月　座位時の褥瘡について		

褥瘡予防のために必要なケアについてレクチャーを行い、その後各部署でのラウンドを行い、スタッフへの指導を行った。今後も、予防ケアに重点を置き指導を継続していく。

2．新採用者研修

1）褥瘡予防ケアについて

＜相談＞

1）創傷ケア（瘻孔ケア他含む）　375名/年

2）褥瘡予防ケア　126名/年

3）ストーマケア（ストーマサイトマーキング含む）　110名/年

■「集中ケア」認定看護師活動報告

平川　雅子

■役割

集中ケア認定看護師の役割は、侵襲を受けた生体反応を判断し、スタッフへ問題提起しながら相応したケアの提供を行うことである。また、ICUだけにとどまらず、一般病棟の人工呼吸管理中の患者にも安全安楽な人工呼吸療法を受けられるようラウンドを行っている。

■実践報告

＜実践＞

1．クリティカルケア特定認定看護師へ移行

2024年４区分８行為看護師特定行為研修修了し、クリティカルケア特定認定看護師へ移行した。11月３歳小児の気管切開チューブ交換を実施し、母親へ退院前にチューブ交換方法を指導した。

小児科病棟において、人工呼吸器装着中の患児の観察点、呼吸リハビリテーション、清潔ケア等、若手看護師を指導しながら実践を行った。

＜指導＞

4A未熟児病棟において、１年目看護師へネーザルハイフロー装着中の患児の看護、観察点を一緒に実践を行いながら指導した。さらに、２年目看護師へ気管切開をした患児の観察点、沐浴やベルト交換の清潔ケアを一緒に実践しながら指導を行った。

■「新生児集中ケア」認定看護師活動報告

野口　早世

■役割

急性期にあるハイリスク新生児の治療・療養過程中に生じうる身体的及び心理社会的有害事象に対して予防的観点から働きかけ、発達促進的、個別的ケアを実践するため、日々、ベッドサイドケアを中心に活動を行っている。

■実践報告

＜実践＞

新生児集中ケアに関する知識・技術を用いて、急性期にあるハイリスク新生児のベッドサイドケアを行った。周術期の新生児のケアについて、実践を通してケアの振り返りを行い、看護手順マニュアルの見直しを行った。周術期のケアについての勉強会を中堅看護師が行った際には、その内容について助言を行い、当NICUで症例が減っている周術期の看護において、看護の質向上にむけて活動を行った。そのほか、家族看護において、気管切開を受ける家族への支援にも取り組んだ。家族の意思決定支援を支えながら、NICU卒業生への面会や家族間の役割調整などを行った。

県内の新生児医療を担っている総合母子周産期医療センターの認定看護師として行政・地域との連携強化に努めている。会議や研修会に参加し、医療的ケア児とその家族が地域で安心して生活できるためには何を行うべきか、改めて病院の役割を考える機会となった。地域における災害訓練や保育所への研修会などに今後は参加予定である。

＜指導＞

日々、ベッドサイドケアを行う中で、気づいた点について病棟スタッフに対してタイムリーに指導を行った。超低出生体重児の入院受け入れについて、中堅看護師とともにベッドサイドケアを実施後に、ケアの振り返りを行った。体温管理の重要性や家族へのかかわり方など、ケアの振り返りを通して文献学習も併せて行うことで、より効果的な指導ができたと考える。

＜相談＞

看護ケアに対して病棟スタッフからの相談活動を行った。相談を受けた際には、根拠や具体的な方法が理解できるように文献や写真などを用いてスタッフと一緒にディスカッションを行い、理解を深めることができるように関わった。医療安全係による急変時のシミュレーションについては、シナリオの作成について、シミュレーションの目的について助言を行い、より臨床現場で活かすことができるようなシミュレーションの企画・運営ができるよう関わった。

【その他の活動】

・大村市障害者自立支援協議会医療的ケア児等支援特別部会への参加（３か月に１回）
・講義「NICU等における在宅移行支援の実際（オンライン）」：長崎県看護協会主催
・講義「小児臨床看護の実際」：長崎県県央看護学校
・看護研究への取り組み：テーマ「ドナーミルクを使用する母親の思い～ドナーミルクを使用する母親へのアンケートを実施して～」

■「クリティカルケア」認定看護師活動報告

平原　拓馬　　野口　みどり

■役割

クリティカルケア看護は、生命の危機状態にある患者・家族および集団に対し、速やかに恒常性の回復・維持を図り、QOLや自律性の向上を目指す。また、最新の知見や根拠に基づいた高度な実践能力、教育、研究を探求する領域である。その範囲は救命救急・集中治療室にとどまらず、一般病棟・外来から在宅・地域まで及ぶ。

■実践報告

＜実践＞

救命センターにおいて、クリティカルケア看護に関する知識と技術を用いて、急性期にある患者のケアを行っている。週１回の活動日には、救命センターのみならず、各病棟で重症または急性期の患者に対し、病棟の担当看護師と共に観察やケアの看護実践を行い活動した。活動を通して急性期看護に関する指導を看護師へ行った。

＜指導＞

自部署内の看護カンファレンスに参加し、看護ケア方法などについてアドバイスを行った。また、定期的に勉強会を開催し、計７回実施した。

救急看護コースとして、４月から計５回の研修を実施した。

・院内活動

時期	活動内容（勉強会）	件数
7月	急変対応の基本	1件
8月	心電図の基本	1件
9月	急変シミュレーション（記録・挿管介助）	1件
10月	急変の予兆	1件

・院外活動

時期	活動内容（講師）	対象者数	講義形式
1月	「包帯法」長崎県消防学校	40名	WEB
2月	「救急看護・高齢者」長崎県消防学校	40名	WEB
6月	「フィジカルアセスメント」活水大学	70名	対面
9月	長崎救急医学会看護セミナー（症候別）	30名	対面

＜相談＞

認定看護師活動として、RSTラウンド、METラウンドを多職種と共に活動した。看護実践を行うにあたってスタッフの困りごとや気になる患者の状態観察を一緒に行いながら、観察のポイントを説明するなどした。介入件数は計34件であった。

■「糖尿病看護」認定看護師活動報告

土井　広貴

■役割

糖尿病看護分野において、院内のスタッフに対して教育を行い、病院全体の糖尿病看護の質の向上を図る。また、糖尿病を有する患者とその家族に対して、患者がその人らしい生活を送れるように療養支援を行う。

■実践報告

＜実践＞

毎週水曜、木曜にフットケア外来及び療養支援外来を実施した。糖尿病看護認定看護師１名、日本糖尿病療養指導士１名、フットケア担当看護師１名で外来を実践し、下記表のように療養支援を行い、糖尿病合併症指導管理料を算定した。SAP（Sensor Augmented Pump）からAHCL（Advanced Hybrid Closed Loop）の切り替えを援助し、計８名の患者でAHCLを開始した。

フットケア外来における実践報告

2024年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総数
①フットケア（合併症指導管理）	20	22	12	16	19	20	12	17	19	16	15	17	205
②透析予防療養指導	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③CSII ／ SAP指導	5	6	6	7	7	6	7	10	8	7	6	7	82
④FGM指導	16	18	12	35	33	34	32	29	36	32	34	37	348
⑤SMBG、注射製剤自己注射手技	2	0	1	3	1	0	0	0	0	2	1	2	12
⑥妊娠糖尿病療養指導	2	1	1	2	3	3	2	5	4	3	4	4	34
⑦食事、運動、薬物の療養指導	36	48	26	50	50	50	40	46	44	48	41	44	479
⑧患者総数	44	45	30	55	55	56	47	51	56	50	53	55	597

＜指導＞

糖尿病教育入院患者対象の糖尿病教室を５階カンファレンス室にて実施した。医師、薬剤師、検査技師、理学療法士、栄養士、歯科衛生士と協力して１回の教室時間が30分、１クール２週間のスケジュールで糖尿病教室を運営した。参加者は年間を通して述べ114名が参加された。

＜相談＞

医師、看護師からそれぞれの所属部署の入院患者、外来患者に対する療養支援のコンサルテーション依頼を受け、適宜対応を行った。

■「手術看護」認定看護師活動報告

原　健太朗

■役割

患者が手術という侵襲的な治療を受ける場において、いかなる状況下においても医療倫理・看護者としての倫理を遵守し、患者が安全・安楽に周術期を迎えることが出来るよう、化学的根拠に基づく看護技術を提供する。手術看護の専門性を追求し、熟達した実践・指導・相談の役割を遂行し、手術看護の発展に貢献するとともに、他職種との連携を高め、質の高い看護・チーム医療を患者へ提供する。

■実践報告

＜実践＞

患者が手術という侵襲的な治療を受ける場において、科学的根拠に基づく看護技術を提供するとともに、手術看護における質の向上、エビデンスの確立に努めた。

・手術室内における自部署スタッフ主導の勉強会の調整・指導を行った。

時期	テーマ	対象
隔月	急変対応、呼吸管理、手術看護計画、研究実践　など	全手術室看護師

・院外講義

時期	テーマ	対象	開催方法	主催
10月	日本手術看護学会ランチョンセミナー 術中褥瘡対策のポイント	手術室看護師 250名	対面	メンリッケヘルスケア
12月	手術看護の協奏曲：実践と研究が奏でる患者ケアの未来	全国手術室看護師 300名	対面	日本手術医学会

＜指導＞

病棟相談会や月１回の指導者会議などを利用し、教育指導内容の伝達・周知を行った。学生実習は、シャドウイング教育を継続し、知識・理解を深めた。院内看護師の研究指導・相談を４件実施した。

＜相談＞

１）面談等を実施し、新人教育の評価・ニーズの把握に努めた。

２）手術を受ける患者に対し、手術看護の早期介入を行うため、術前外来設置の計画を行った。

＜学会発表＞

１）日本看護研究学会第50回学術集会「手術室看護実習におけるロールモデルを担う手術室看護師の思考過程の分析」

２）第38回日本手術看護学会「皮膚障害を発生させない術前皮膚状態の客観的指標となり得る経表皮水分蒸散量の解析－前向きコホート研究－」

３）第46回日本手術医学会総会「本邦の急性期病院における手術室看護師の感情分析：ChatGPTを用いた周術期看護への情熱の解明」

＜論文投稿＞

１）Kentaro Hara, et al. Development of an estimation formula for preparation time of anesthesia induction and surgery accounting for clinical department factors in optimal surgery schedule management. Scientific Reports, 14(1), 25185, 2024.

２）Kentaro Hara,et al. Emotional analysis of operating room nurses in acute care hospitals in Japan: insights using ChatGPT. BMC Nursing, 24(30), 2025.

■看護師特定行為研修

責任者　本村 秀樹　　記載者　斉藤 昌子

■概要

令和６年度は、院内研修生２名、院外研修生１名の計３名が本研修を受講した。教育に携わった指導者は総数43名であり、その内訳は医師32名、薬剤師１名、診療看護師５名、特定看護師４名、医療安全管理係長であった。

共通科目６科目（252時間）の履修期間を６月～８月、区分別科目４科目（69時間）の履修期間を８月下旬～１月とした。演習および実習は対面とし、双方向的に学習できるシステムを継続した。区分別科目の臨地実習は、10月～ 12月の３か月間とした。ローテートした診療科は、総合診療科、救急科、内分泌・代謝内科、耳鼻咽喉科であった。例年、「非侵襲的陽圧換気の設定の変更」および「持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整」において、修了要件となる症例数確保に困難を要する状況が続いていた。しかし、今年度は研修生が３名であり、順調に症例数を確保することができた。

また、本研修開講後５年目を迎え修了生および指導者の意見や研修の評価等をもとに、特定行為区分を見直し区分変更を行うこととした。令和７年度より「血糖コントロールに係る薬剤投与関連」を休止とし、新たに「血液動脈血ガス分析関連」を追加予定である。九州厚生局に区分変更申請書類一式を提出した。

１月末には修了式、および研修の学びの発表会を執り行い、令和６年度の研修を修了する。院外研修生が所属する施設の看護管理者にも学びの発表会への参加を依頼し、研修生の学修の成果を共有する予定である。その他、研修修了者が自己研鑽を図るとともに、情報共有することを目的に、研修修了者フォローアップ研修を１回／年開催している。フォローアップ研修においては、指導者にも参画を依頼し、知識、技術のみならず、特定看護師としての資質、およびモチベーションの向上をねらいとした企画を行っている。

【実績：看護師特定行為研修修了者数】

看護師特定行為研修修了者数				
	院内	国立病院機構内	その他	合計
第１期生（令和２年度）	１名	０名	２名	３名
第２期生（令和３年度）	２名	０名	１名	３名
第３期生（令和４年度）	１名	１名	２名	４名
第４期生（令和５年度）	４名	１名	０名	５名
第５期生（令和６年度）	２名	１名	０名	３名
総修了者数	18名			

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

看護部教育委員会

委員長　髙松 美穂子

【目的】

教育研修プログラムに沿って、看護職員の学習と成長を支援する

【目標】

1．担当コースの企画・運営に参画し、研修生への動機づけができる
2．教育研修プログラムに沿って、集合教育とOJTの連動ができるような支援を実践できる
3．教育委員として、部署でのリーダーシップを発揮し、生涯学習支援について自己の考えを示すことができる

【活動実績】

日程	実　施　内　容
1月12日	【検討】集合教育研修の評価と次年度に向けた取組み
2月9日	【発表】ACTyナース研修総括と次年度に向けた取組み
3月8日	1．教育委員として各部署における年間活動報告 2．1年間のまとめ、次年度の課題
4月12日	1．2024年度　教育委員会年間計画（案）検討 2．2024年度　院内研修内容、年間計画（案）検討 3．各研修担当・係（案）検討
5月17日	1．委員紹介（自己紹介）・2024年度院内研修担当者 2．看護部教育委員会規程について 3．2024年度　教育委員会年間計画について 4．2023年度　ACTyナース評価報告 5．研修案内 6．研修報告 【講義】生涯学習支援について　＊看護職の生涯学習ガイドライン
6月14日	【報告】各部署の年間教育計画 【発表・意見交換】教育委員としての今年度の活動（取組み）
7月12日	【ワークショップ①】 看護部教育ラダー・教育研修プログラムについて
9月13日	【自部署における教育活動】各コース研修生の学習状況の進捗確認
10月11日	【報告】 1．Actナース中間評価報告 2．教育委員として各部署における活動報告（中間）
11月8日	【発表・意見交換】 ACTyナース中間評価をふまえた自部署の取り組み
12月13日	【ワークショップ②】日常の看護実践の中に存在する倫理について考える

【総括】

昨年度の課題は、集合教育（Off-JT）と機会教育（OJT）の効果的な連動において、教育ニードと学習ニードの一致が不足していることであった。そのため、今年度は、部署全体で教育プログラムの理解を深め、研修生のレディネスを確認しながら、看護職員の学習と成長に向けた関わりができることを目指した。

年間を通して、概ね計画通りに運営できた。ワークショップは、部署で教育のリーダーシップを執る教育委員が看護職員の動機づけを行うために、「生涯学習ガイドライン」や当院の看護師に求められる14能力をもとに作成した「教育ラダー」および「教育研修プログラム」を用いて学習する機会を3回設けた。その結果、ACtyナース研修コースの動機づけ、研修のまとめに活用し、部署内において上司（看護師長・副看護師長）と協働し、機会教育に生かされている。次年度向けた課題は、引き続き、集合教育と機会教育の連動である。教育委員が部署の人材育成のリーダーシップを執り、画期的な教育となるよう活動を目指したい。

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

看護部看護記録委員会

委員長　西田 美香

【目的】

委員会活動を通して記録の質の向上と記録時間の短縮を図る

【目標】

1．実施した看護がプロセスに沿って記載され、また個別性がある看護を提供したことを記録に残すことができる。
　1）看護記録の目的と当院の「看護記録ガイドライン」に記されている内容を理解できる
　2）前年度の課題や記録監査結果から、自部署の記録に関する問題点を明確にすることができる
　3）自部署の看護記録における問題の解決方法を委員会内で検討し、改善することができる
　4）患者・家族の意向や希望、カンファレンス等の内容を踏まえた個別性のある看護計画の立案・追加・修正と定期的な評価をすることができる
2．看護記録ガイドラインの見直しを行い、看護記録ガイドラインに沿った看護記録を記載できる
3．退院後２週間以内の看護サマリーの記載・承認率100％を目指し、継続看護に活用する

【活動内容】

日程	内　　容
4月9日	・年間計画の話し合い
5月7日	・メンバー紹介 ・委員会規定、年間活動計画の説明 ・看護記録について（学研ｅラーニングでの学習） ・看護サマリー作成率・承認率について　（メールでの報告に変更） ・看護記録・自部署の問題点ついて（昨年の監査結果と現状からの課題の明確化）
6月4日	・看護記録監査の監査用紙に関する意見聴取 ・看護記録・看護サマリーに関する各部署の年間取り組み計画立案・発表 ※以降、毎月メールでの提示及び報告
7月2日	・年間取り組み計画の進捗状況報告 ・看護記録ガイドラインの見直し
8月	自部署活動
9月3日	・看護記録ガイドラインの見直し
10月1日	・中間評価：年間取り組み計画の報告と後期への課題 ・看護記録ガイドラインの見直し（各部署ごとの記録基準含む）
11月12日	・看護記録監査用紙の検討
12月4日	・看護記録監査について（項目、集計方法変更等の説明）
1月7日	自部署活動（記録監査及び評価）
2月4日	・看護記録監査の評価の報告、記録ガイドライン見直し（看護用語について）
3月4日	・最終評価及び次年度の計画の検討、記録ガイドラインの差し替え

【評価】

1．看護記録についてｅラーニングを使用し勉強会を実施した。また、全スタッフを対象に記録監査を実施し、部署の問題点を明確にし、院内の看護記録の傾向について把握することができた。
2．「看護記録ガイドライン」の内容について、全体の見直しを実施した。
3．看護サマリーの記載および承認については概ね２週間以内に実施できている。

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

看護部業務委員会

委員長　清水 周二

【目的】

適切な看護を提供するために、分析・検討を行い、看護業務に必要な見直しを行う。

【目標】

1．看護部関連マニュアルの整備ができる

1）「看護補助者基準・手順」「入院生活のしおり」「検査基準（一部）」の改訂

マニュアルの見直しにおいて、今年度は「看護補助者基準手順」「検査基準（残り分）」の改訂の予定である。「入院生活のしおり」は2022年度に見直しを行っているが、さらに更新が必要である。

2）「看護業務基準・手順」の見直しを行う

これまでの見直しが、部署毎に行われていたことから、書式の統一ができていない。また看護体制の変更が生じている部署もあるため改訂を行う。

2．看護業務の見直しを行い、ベッドサイドケアの充実を図る

1）2023年度の業務量調査の結果をもとに、看護体制や業務の見直し等を行い、ケアの充実を図る

2）機能評価の受審に向けて、看護実践が看護業務基準・手順に沿って実施できるよう支援する

3）看護補助者の直接ケアへの参画へ向け、看護師が教育や指示ができるよう支援する

3．重症度、医療・看護必要度の測定の変更点を理解し、必要な要件の割合を満たす

1）重症度、医療・看護必要度の変更点の伝達

2024年度診療報酬改定の評価方法でＢ項目が不要になることから、その内容を職員が理解して適切に評価することができるよう、業務委員会が中心となって学習し、教育を行う。

【活動内容】第２木曜日

日　程	内　　容
4月24日	・規定についての確認 ・年間取り組みについて話し合い
5月９日	・メンバー紹介 ・委員会規定、年間活動計画の説明 ・診療報酬改定に伴う看護必要度の評価指標の変更について ・看護必要度報告（毎月実施、以降記載省略） ・「看護補助者基準・手順」「看護業務基準」「入院生活のしおり」「検査基準（一部）」の改訂について意見交換
6月13日	・「看護補助者基準・手順」改訂作業
7月11日	・学研eラーニングにて看護必要度について視聴 ・「看護補助者基準・手順」改訂作業
9月12日	・「看護補助者基準・手順」の修正について ・各部署「看護業務基準・手順」改訂作業
10月10日	・気切部消毒について ・各部署「看護業務基準・手順」改訂作業
11月14日	・「看護業務基準・手順」差し替えについて ・「入院生活のしおり」改訂作業
12月12日	・「入院生活のしおり」差し替えについて ・「検査手順」改訂作業

【評価】

1．「看護補助者基準・手順」については差し替え終了、「入院生活のしおり」ホームページへの掲載を準備中である。「検査基準」の改訂は作業中であり、年度内に完了予定である。
「看護業務基準・手順」は部署毎の書式を統一し、「看護業務手順」に名称変更した。

2．「看護手順」「看護補助者基準・手順」の改訂を通し、日々行うベッドサイドケアを見直し、整理することにつながった。

3．重症度、医療・看護必要度の変更点についてeラーニングで学びを深め各部署での伝達を行った。

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

3A病棟（高度救命救急センター）

責任者　宮本 瑠美

基本方針

1．安全で質の高い看護の提供
2．根拠に基づいた看護実践ができる看護師の育成
3．病院経営を意識した新規加算の取得
4．関係の質の向上

目標

1．ベッドサイドケアの充実を図り、安全で質の高い看護を提供する。
2．OJTを重視した救命ラダー教育を行い、高い倫理観を持ち、根拠に基づいた看護が実践できる看護師を育成する。
3．経営参画を意識した看護実践と体制整備（急性期充実加算、重症患者対応体制強化加算等の新設加算を取得）する。
4．関係の質を向上させ、労働環境を整えることにより、職員の満足度が向上する。

Ⅰ．病棟の特徴

1．病床数構成　運営病床数：22床
救命センター 14床　HCU 4床　ICU 4床
救急外来９床、救急外来隔離診療棟２床
2．主な疾患・治療・検査
主な疾患は、脳梗塞、脳出血、外傷性頭蓋内損傷、クモ膜下出血、心筋梗塞、高エネルギー外傷などである。治療・検査については、頭蓋内血種除去術、コイル塞栓術、t－PA療法、血栓回収術、TPA、コイル塞栓術、PCI、PCPS、高気圧酸素療法、HD・CHDF、COVID-19感染症患者のECMO装着など行っている。

Ⅱ．患者の動向

	2023年	2024年
入院患者数	1043	1148
一日平均患者数	14.3	14.7
平均在院日数	9.95	8.3
平均年齢	65.6	6
病床利用率	51.0	63.5
ドクヘリ出動件数	710	714
救急搬送患者数	439	4047
看護必要度	86.5	ICU 94.5
		HCU基準①39.6
		HCU基準②88.6
手術件数	35	385

Ⅲ．看護職員数（2024.4.1現在数）

看護師長	副看護師長	看護師	看護補助者	クラーク
１名	２名	31名	３名	１名

有資格者
クリティカルケア認定看護師２名
フライトナース９名
日本DMAT隊員　13名

Ⅳ．看護の概要

1．看護の特徴
1）看護方式：受け持ち看護師制（バディ制）
2）看護の特徴
入院時重症患者対応メディエーターと多職種カンファレンスを随時行い、入院時より早期介入し退院支援を行っている。またABCDEFバンドルを導入により医師と毎日カンファ行い、ケアの標準化を図り、RST介入により早期抜管・離床に向けたチーム看護を行っている。今年度脳死下臓器提供が１例あり多職種と連携し対応を行った。
2．教育
1）スタッフ教育
⑴院外研修参加状況
日本DMAT研修４名、令和６年度救急看護エキスパートナース研修１名、認定看護管理者教育課程セカンドレベル１名、令和６年度ドクターヘリ事業従事者研修（基礎コース）１名、令和６年度ドクターヘリ事業従事者研修（アドバンスコース）１名と参加している。
⑵院内教育の状況
教育委員と担当者を中心に、救急看護の教育にラダー制を導入し教育を実施。OJT強化のため令和５年３月よりバディ制を導入し先輩看護師と共に患者を看ることで、若手看護師の重症患者の対応や救急外来での看護を行う場面が増えている。
2）学生教育
成人看護学急性期を担当。担当者を専任化しオリエンテーションを実施している。2022年より見学を中心とした２日間の実習へ変更している。術後患者の見学や重症患者の清潔ケアを一緒に実践している。
3）看護研究・学会発表
⑴国立病院総合医学会
①救命救急センターにおける医療電子記録を活用した多職種連携の取り組み－効果的なABCDEF Bundle実装を目指して－：百枝裕太郎他
②高度救命救急センターにおける早期経腸栄養プロトコル導入の取り組み：平原拓馬他
③同学会に他３題を発表
⑵第31回日本航空医療学会
①A病院におけるドクターヘリ体験搭乗が及ぼすワーク・エンゲージメントの調査：塩塚築他

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

3B病棟（脳神経疾患センター）

責任者　山下 由起子

基本方針

1．脳疾患患者を積極的に受け入れ地域医療に貢献する
2．患者・家族に適した看護の実践
3．笑顔の見える環境の推進

目標

1．効果的な病床運用を行う
2．働きやすい職場をつくる
3．安心・安全な医療を提供する
4．急性期看護の実践能力を備えた看護師の育成

Ⅰ．病棟の特徴

1．病床数構成　総病床数：　48床
　脳外科30床　　脳神経内科18床
2．主な疾患・治療・検査
　脳梗塞・脳出血・クモ膜下出血・未破裂脳動脈瘤・脳腫瘍・てんかん・頭部外傷・神経難病・脳血管内治療・動脈瘤クリッピング術・開頭腫瘍摘出術・脳梁離断術・脳血管造影検査・長時間脳波モニタリング

Ⅱ．患者の動向

項　　目	2023年	2024年
入院患者数	483	434
一日平均患者数	43.4	46.3
平均在院日数	25.0	31.0
平均年齢	67.6	70.0
病床利用率	90.4	97.6
CP使用率	32.3	14.9
看護必要度	23.8	①14.4
		②18.1
手術件数	195	179

Ⅲ．看護職員数（2024．4．1現在数）

看護師長	1名
副看護師長	2名
看護師	31名
看護補助者	5名
診療看護師（診療部・脳外科）：2名	2名

有資格者
・特定行為研修修了者　1名
・てんかん診療支援コーディネーター　2名
・DMAT隊員　1名

Ⅳ．看護の概要

1．看護の特徴
　1）看護方式
　　固定チーム＋プライマリーナーシング
　2）看護の特徴
　　脳疾患や高齢化に伴い、誤嚥性肺炎の発症や栄養状態の悪化のため重症化する患者の受け入れをしており、褥瘡予防対策チームや摂食嚥下チーム、NSTと協働しながら回復期に移行できるよう介入している。
　　毎週水曜日は、リハビリカンファレンスを開催しており、患者に応じたリハビリの目標やADL面で予後を見据え、医師・看護師・リハビリスタッフ・栄養士・JNP・MSW等多職種で検討を行っている。
　　令和６年度より週２回開催していた入退院支援カンファレンスは、月～金曜日に実施し、入院早期からの退院支援に繋げている。特定看護師１名配置となっており、JNPと協働し、呼吸器患者の管理や、呼吸器離脱に向けた介入を行っている。また、病棟看護師に対しても教育的介入を行っており、看護の質の向上に努めている。
2．教育
　1）スタッフ教育
　　実地指導担当者が中心となり、教育計画を作成し、個々の状況を加味しながらOJTを実施している。
　　⑴院外研修参加状況
　・2024年度長崎県保健師助産師看護師実習指導者講習会６月～ 12月　平尾早苗
　・令和６年度幹部看護師任用候補者選考研修　６月～９月　寺坂賢太
　・令和６年度医療安全対策研修Ⅰ11月～ 12月　山下由起子
　・2024年度第２回てんかん診療支援コーディネーター研修会12月　長野みのり
　2）学生教育
　　活水女子大学看護学部
　　基礎看護学実習・基礎看護学実習Ⅱ
　　看護学統合実習

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

4A病棟

責任者　菅 明美

基本方針

1．安全で質の高い看護を提供する
2．総合周産期母子医療センター、てんかん拠点病院としての機能を果たす
3．リスペクトしあえる職場風土を醸成する

目標

1．自部署の特性を活かし、地域医療・看護との連携を図る
2．働きやすい職場環境を作る
3．マニュアルに沿った行動を遵守し、安全な看護が提供できる
4．個別性に応じた質の高い看護の提供とOJTでの後輩指導

Ⅰ．病棟の特徴

1．病床数構成　総病床数：　58床
NICU　9床　GCU　21床　小児病棟　28床
2．主な疾患・治療・検査
1）主な疾患
小　児：てんかん、急性気管支炎、肺炎、急性腸炎・嘔吐症、川崎病、滲出性中耳炎、血管腫　等
未熟児：超出生体重児、極低出生体重児、早産児、重症仮死、新生児呼吸障害、先天性心疾患　等
2）治療・検査
小児病棟では、てんかん診療拠点病院として脳波モニタリングや脳梁離断術等のてんかん手術があり、小児の耳鼻科・眼科・整形外科・形成外科の手術も受け入れている。また、未熟児病棟では人工呼吸器管理、保育器管理、点滴による呼吸・循環管理を行い、未熟児網膜症による眼底検査や光凝固治療を行っている。脳低温療法やNO吸入療法も実施している。

Ⅱ．患者の動向

	小児		未熟児	
	2023年	2024年	2023年	2042年
入院患者数	1115	1105	135	108
一日平均患者数	14.4	14.9	15.6	13.7
平均在院日数	4.6	4.8	57.3	66.4
平均年齢	5.6	4.4	0	0
病床利用率	51.4	53.3	51.8	45.7
CP使用率	22.4	24.6	0	0
手術件数	151	163	4	5
人工呼吸器管理	516	816	1754	1639

Ⅲ．看護職員数（2024.4.1現在）

看護師長	1名
副看護師長	3名
看護師	57名
看護助手	3名
クラーク	2名

有資格者

新生児集中ケア認定看護師	1名
集中ケア認定看護師	1名
てんかん診療支援コーディネーター	1名
特定行為研修修了者	1名

Ⅳ．看護の概要

1．看護の特徴
1）看護方式
受け持ち看護師制＋チームナーシング
2）看護の特徴
当病棟は、長崎県最大の総合周産期母子医療センターとしてのNICUを有しており、R６年８月にはBFNICUの認定を受けた。また、小児病棟はてんかん拠点病院としての役割を担っており、24時間体制で入院患者を受け入れている。産婦人科、精神科、脳外科、MSW、薬剤科、栄養科など多職種と連携し、周産期精神リエゾンカンファレンスやCPT（Child Protection Team）カンファレンスなど様々なカンファレンスを実施し、患者個々の状況に応じた看護を提供している。特に今年度は、てんかんカンファランスの充実を図った。
2．教育
1）スタッフ教育
人工呼吸器装着時の看護ができるスタッフの育成のため、Actyのレベル毎の進捗状況の確認、指導方法の検討を毎月実施している。
⑴院外研修参加状況
・感染管理エキスパートナース研修　1名
・実習指導者養成講習会　1名
・成育医療エキスパートナース研修　1名
2）学生教育
⑴活水女子大学看護学部　小児看護学実習
⑵活水女子大学看護学部　母性看護学実習
⑶向陽高等学校看護専攻科　小児看護学実習
3）看護研究・学会発表
⑴院内研究：
①ドナーミルクを使用する母親の思い～母親へのアンケートを実施して～
森結菜　野口早世

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

4B病棟

責任者　西田 美香

基本方針

1．すべての妊産褥婦・新生児と家族に安心と安全な治療と看護を提供する
2．女性のライフステージに応じて寄り添う看護を実践する

目標

1．総合周産期母子センターとして、妊産褥婦・新生児と家族に寄り添う看護を実践する
2．患者及び家族の希望に沿った支援ができるよう調整や連携、看護実践を行う

Ⅰ．病棟の特徴

1．病床数構成　総病床数：41床（LDR含）
主な診療科：産婦人科
2．主な疾患・治療・検査
疾患（産科）：切迫流早産､既往帝王切開後妊娠、子宮内発育不全　等
検査・治療：CTG、安静、薬物療法
疾患（婦人科）：卵巣癌、子宮体癌 等
検査・治療：手術療法、薬物（抗がん剤）治療、放射線治療

Ⅱ．患者の動向

	2023年	2024年
入院患者数	1391	1352
一日平均患者数	31.4	31.1
平均在院日数	8.3	8.5
平均年齢	38.4	39.0
病床利用率	76.6	75.8
看護必要度（%）	43.4	39.7/60.2
手術件数	473	387
分娩件数	608	557
経膣分娩数(再掲)	390	348
帝王切開数(再掲)	218	209
救急搬送数（件）	164	119

Ⅲ．看護職員数（2024.4.1現在）

看護師長	1名
副看護師長	2名
看護師	6名
助産師	31名
看護助手	5名

有資格者
アドバンス助産師７名（4B在籍者のみ）

Ⅳ．看護の概要

1．看護の特徴
1）看護方式
プライマリーナーシングと一部機能別看護
２交代制勤務
2）看護の特徴
看護職員の構成は、助産師と看護師である。幅広い年齢層及びライフステージの女性を対象として看護実践を行っている。特に、婦人科疾患では、外科的治療や薬物療法や放射線治療および、ターミナル期のケアを行っている。産科では、BFHの施設の認定を更新し、精神的・社会的ハイリスクの妊産褥婦への支援も行っている。助産師として、妊娠期の保健指導、産後の母乳外来、１か月健診での支援と乳腺炎の患者へのケアを実施している。

2．教育
1）スタッフ教育
・医師や等と協働でシミュレーション教育や勉強会を実施している。成育医療エキスパートナース研修を主催した。
⑴院外研修参加状況
・がん化学療法：チーム医療推進（NHO主催：１名）
・看護教員インターンシップ研修（NHO主催：１名）
・ALSO研修：２名、NCPR研修（更新含む）：９人
・成育医療エキスパートナース研修（NHO主催）：１名
2）学生教育（看護学実習：主に母性領域）
⑴西九州大学　看護科
⑵向陽高等学校　看護学科・看護専攻科
⑶活水女子大学　看護学部看護学科：統合実習
ゲストスピーカー：母性看護学方法論、看護医療情報論
3）地域活動
⑴思春期こころとからだの健康づくり事業（大村市）における講話（高校２校、中学校６校）
4）看護研究・学会発表
⑴第43回日本思春期学会
①病棟助産師による性教育が中学生の自尊感情に与える影響
宇田川　真希　平野　絵梨
②新生児への人工乳補足に対するスタッフの認識踏査～人工乳の原料・中止の判断に影響する要因について～
田尻　亜希　金子　和佳奈（4A）

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

5A病棟

責任者　辻 智子

基本方針

1．患者一人ひとりに沿った専門的で質の高い看護の提供
2．安全で安心な療養環境の提供
3．専門職として自己研鑽に努め責任のある看護

目標

1．患者のニーズをとりいれた質の高い看護の提供
2．医療事故の予防・再発防止に努め、患者の安全で安心できる療養環境を提供できる
3．キャリアニーズに沿った自己研鑽を図り、看護師としての役割を果たすことができる
4．病院経営の積極的参加、排尿自立支援加算の取得
5．働き方改革の推進と良好な人間関係に基づく風土作り

Ⅰ．病棟の特徴

1．病床統数構成　　総病床数：49床
泌尿器科　29床　　腎臓内科　10床
皮膚科　　５床　　内分泌・代謝内科　５床
2．主な疾患・治療・検査
疾患：慢性腎不全・前立腺腫瘍・膀胱腫瘍
上部尿路疾患・２型糖尿病など
治療：手術・血液透析・腹膜透析・化学療法
献腎移植（２件）・生体腎移植（４件）
3．保健指導

栄養指導 個人	栄養指導 集団	薬剤指導	糖尿病 教室	腎臓病 教室 10 ～ 12月
273件	34件	624件	114名	６名

Ⅱ．患者の動向

	2023年	2024年
新入院患者数	1339	1124
退院患者数	1340	1195
一日平均患者数	37.6	39.7
平均在院日	10.4	9.4
平均年齢	68.1	68.7
病床利用率	76.7	81.1
病床稼働率	84.2	89.1
手術件数	673	749
重症度、医療 看護必要度（%）	36.7	①21.1 ②29.9

Ⅲ．看護職員数（2024.4.1現在）

看護師長	１名
副看護師長	２名
看護師	29名
看護補助者	３名

有資格者　特定看護師　玉屋さつき　（４区分８行為）
田中恵里　（４区分８行為）
認定看護師　土井広貴　（糖尿病看護）
レシピエント移植コーディネーター
濱村みどり

Ⅳ．看護の概要

1．看護体制
1）看護方式：
固定チームナーシング＋プライマリーナーシング
夜勤体制：二交替制
2）看護の特徴
外科系・内科系の混合病棟であり、急性期、回復期、慢性期、終末期の幅広い患者を受け入れている。
有資格者が多数在籍しており、腎移植前後・透析導入前後・ストーマケア・化学療法患者・糖尿病患者に対して、専門性の高い看護を実践している。中止していた腎臓病教室を10月より再開した。
2．教育
1）スタッフ教育
個々の成長に合わせ、看護実践・患者・家族指導が行えるように業務内容の見直しや勉強会の開催を実施した。また医師、MSWと協働しカンファレンスを開催し、退院後の生活を見据えた退院指導の検討など積極的に取り組んでいる。
⑴院外研修参加状況
・実習指導者講習会　玉屋さつき
・長崎県看護管理者育成研修　岸川しおり
2）学生教育
活水女子大学看護学部学生の基礎看護学実習ⅠⅡ、成人看護学実習Ⅱ、統合実習を受け入れている。
3）看護研究・学会発表
⑴国立病院総合医学会
①糖尿病教育患者の理解度と心理的負担感の関連性について～糖尿病問題領域質問票（PAID）を用いて～：土井広貴

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

5B病棟

責任者　尾上 嘉周子

基本方針

1．ベッドサイドケアの充実
2．急性期看護の実践能力を備えた看護師の育成
3．関係の質を向上し、働きやすい職場をつくる

目標

1．ベッドサイドケアの充実と入退院支援の強化
2．対人関係能力を備えた専門性の高い看護師育成
3．安全・感染の視点での看護実践
4．WLBと関係の質向上

Ⅰ．病棟の特徴

1．病床数構成　総病床数：48床
　頭頚部耳鼻咽喉科、形成外科、眼科、整形外科
2．主な疾患・治療・検査
　【頭頚部耳鼻咽喉科】
　悪性疾患（咽頭、舌、上顎、口腔底、上中下咽頭、甲状腺、頸部、頬部）急性・慢性中耳炎、副鼻腔炎、めまい、突発性難聴、顔面神経麻痺
　【形成外科】
　熱傷、褥瘡、四肢切断、皮膚腫瘍、鼻骨・頬骨骨折、口蓋裂、口唇裂
　【眼科】白内障、緑内障、網膜剥離
　【整形外科】圧迫骨折、外傷で形成との併診

Ⅱ．患者の動向

	2023年	2024年
入院患者数	1,550	1,532
一日平均患者数	37.6	39.9
平均在院日数	8.8	9.4
平均年齢	64.7	67.6
病床利用率	78.5	83.1
病床稼働率	87.8	83.1
CP使用率	54.8	
看護必要度	33.85	
手術件数	1,114	1,105
DPCⅡ期以内	76.1	69.6

Ⅲ．看護職員数（2024.4.1現在）

看護師長	1名
副看護師長	2名
看護師	25名
看護助手	3名
ナースサポーター	1名

Ⅳ．看護の概要

1．看護の特徴
　1）看護方式
　　固定チームナーシング＋プライマリーナーシング
　2）看護の特徴
　　外科的手術治療・放射線治療・化学療法・創傷治療を行っている。喉頭摘出や四肢断裂、熱傷などによりボディイメージが変化した患者や放射線・化学療法による有害事象が生じている患者が多く入院されており、退院後の生活サポートや精神的ケアなどの看護を行っている。
2．教育
　1）スタッフ教育
　⑴院外研修参加状況
　・実習指導者講習会　服部美里　舩原一穂
　　九州グループ主催
　・管理研修（ファーストレベル）大塩あゆみ
　　長崎県看護協会主催
　・メンタルヘルス・ハラスメント研修 尾上嘉周子
　　九州グループ主催
　2）学生教育
　　活水女子看護大学の基礎看護学Ⅰ,Ⅱ、成人看護学Ⅰ、統合実習を受け入れ、実習指導者の専任化を実施
3．業務改善
　術後の重症個室の利用の適正な使用のため、ベッドコントロールの状況を朝に看護業務技術員とミーティングを実施しスムーズに受け入れができるよう調整した。業務終了前に残務を確認し業務を分担し調整を図った。耳鼻科診察に看護師を配置し、医師とのコミュニケーションを図り、情報共有を行うことで退院時の煩雑さを避けるようにした。
4．医療事故防止
　転倒事例は37件（3b以上０件）、排泄に関連した事象は多い。アセスメント力を高めるため､カンファレンスを実施し、情報共有に努め、アセスメント力を高めるよう努めた。

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

6A病棟

責任者　田淵 貴子

基本方針

1．循環器・呼吸器外科、総合診療科の急性期に対応できる質の高い看護の提供
2．多職種での入退院支援を実施し、患者一人一人に寄り添った看護の提供
3．職種を超えリスペクトし、職員一人一人を大切にする職場環境の整備

目標

1．科学的根拠に基づいた循環器、急性期看護実践能力の高い看護師育成
2．看護専門職として必要なスキルを身につけ、看護チームの一員として能力を発揮し、対人関係構築ができるスタッフの育成
3．医療安全の質の向上のもとに入院環境を患者に提供できる
4．職員が経営を意識した行動をとり、経営参画することができる
5．多様な働き方を支援し、職員が働きやすく、働き続ける体制構築

Ⅰ．病棟の特徴

1．病床数構成　総病床数：50床
（重症個室４床　有料個室７床　CCU ３床
４人部屋36床）
2．主な診療科：循環器内科　心臓血管外科
呼吸器外科　総合診療内科
3．主な疾患・治療・検査
【循環器内科】狭心症、心筋梗塞・心不全、完全房室ブロックなど不整脈に対する精査及び薬物療法や血管内治療
◎心臓カテーテル検査及び治療、ペースメーカー植え込み術
【心臓血管外科】心筋梗塞、狭心症、弁疾患、腹部大動脈瘤、大動脈解離、閉塞性動脈硬化症、下肢血栓症に対する手術療法
◎冠動脈バイパス術、弁置換術、弁形成術、人工血管置換術、血栓除去術、ステントグラフト内挿術
【呼吸器外科】肺癌、気胸、膿胸、縦隔腫瘍に対する手術療法
◎肺切除術
【総合診療内科】内科系疾患（肺炎、膠原病、敗血性ショックなど）に対する幅広い領域の検査から診断、症状のコントロール

Ⅱ．患者の動向

	2023年	2024年
入院患者数	1125	116
一日平均患者数	36.4	39.7
平均在院日数	13.2	11.5
平均年齢	70.4	71.9
病床利用率	78.0	82.8
CP使用率	53.6	65.9
看護必要度	38.0	①26.9 ②31.9
手術件数	274	263
心リハ実績	462単位	522単位

Ⅲ．看護職員数（2024.4.1現在）

看護師長	副看護師長	看護師	看護助手	クラーク
１名	２名	29名	３名	１名

有資格者：心不全療養指導士３名
BLSプロバイダー４名　　ACLSプロバイダー３名
特定行為看護師１名

Ⅳ．看護の概要

1．看護の特徴
1）看護方式
固定チームナーシング＋プライマリナーシング
2）看護の特徴
CCU ４床、重症個室４床を有し、術後や重症心不全に対し、専門的知識を活かし全身状態の観察を行う。術後や心不全患者に対し、心臓リハビリ、また呼吸器リハビリを実施するとともに、心不全療養指導士が中心となり積極的な退院指導を実施している。心臓カテーテル検査及び治療患者などには安心して診療を受けることができるようにクリティカルパスに沿い統一した看護を提供している。総合診療科は精査や治療が多種多様なため、医師と協働し、安全な看護提供を行っている。
2．教育
1）スタッフ教育
⑴院外研修参加状況
・心不全療養士学習会の定期的な参加
・重症看護　心臓リハビリテーション看護教育
・循環器学会、循環器看護学会への参加
2）学生教育
活水女子大学の基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、成人看護学実習Ⅰ、看護学統合実習の受け入れ専任化体制の実践

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

6B病棟

責任者　川﨑 多恵子

基本方針

1．整形外科、総合診療内科等の患者に対する安全で質の高い医療・看護の提供
2．地域拠点病院として地域の医療機関や行政と密に連携し患者から信頼を得る
3．病院経営への積極的参画

目標

1．チーム医療を推進し連携を図ることで患者個々に応じた質の高い看護を提供できる
2．病院経営を意識した病床管理を行い、病床利用率の増加を図る
3．患者の療養環境を整え、患者、家族の思いに寄り添った看護の提供

Ⅰ．病棟の特徴

1．病床数構成　総病床数：49床
　整形外科25床　　総合診療内科24床
2．主な疾患・治療・検査
　整形外科では、大腿骨頚部骨折をはじめとする大腿骨近位部骨折や変形性股関節、膝関節症の手術療法、脊椎や腰椎疾患、事故等による多発外傷、脊髄損傷患者を受け入れている。総合診療内科は、幅広い領域について総合的かつ高度な診断能力を有する診療科であり検査目的の患者や、膠原病、関節リウマチ等の症状コントロール目的の患者を受け入れている。

Ⅱ．患者の動向

	2023年	2024年
入院患者数	711	721
一日平均患者数	36.5	39.0
平均在院日数	16.4	17.0
平均年齢	69.2	70.6
病床利用率	74.5	79.5
CP使用率	12.2	7.3
看護必要度	38.6	①29.8 ②34.8
手術件数	455	462
二次性骨折予防継続管理料	157	155
緊急整復・緊急挿入加算（人工骨頭）件数	87	79
DPCⅡ期以内退院率	61.8	59.4

Ⅲ．看護職員数（2024.4.1現在）

看護師長	副看護師長	看護師	看護補助者
1名	2名	28名	3名

有資格者：特定行為研修終了者　2名

Ⅳ．看護の概要

1．看護の特徴
　1）看護方式
　　固定チームナーシング
　2）看護の特徴
　　整形外科領域では外傷や転倒による骨折など運動機能を障害された急性期から回復期の患者のQOLの維持、向上に向け早期離床を促し日常生活が自立できるように援助している。総合診療内科領域では、疾患が幅広く症状に応じた看護を提供している。合併症や重症化しやすい症例が多く、多岐に渡るアセスメント能力や対応を求められており、他職種との連携を図りながら患者、家族支援を行い看護の質の向上に努めている。

2．教育
　1）スタッフ教育
　　Actyのラダーコースに沿ってレベルⅠ～Ⅳの各研修生20名へそれぞれの目標が達成できるような課題を設け、1年を通して計画的に達成に向けて取り組めるように支援した。JNPや特定行為研修終了者のリソースNsを活用し勉強会を実施し、知識、技術の向上を図った。
　⑴院外研修参加状況
　　・長崎県看護協会　ファーストレベル：江濱弥生
　　・九州グループ実習指導者講習会：玉屋さつき
　2）学生教育
　　活水女子大学より、基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱと成人看護学実習Ⅰ、統合実習の学生を受け入れている。
　3）看護研究・学会発表
　⑴国立病院総合医学会
　①大腿骨近位部骨折患者に行った早期離床介入後のADLに関する実態調査：山口由香里

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

7A病棟

責任者　川畑 貴寛

基本方針

1．外科患者の積極的な受け入れ
2．ワークライフバランスの推進
3．寄り添ったがん看護の実践

目標

1．看護体制の確立と業務内容の見直しを行い職員がワークライフバランスを保てるようにする。
2．5Sの充実を図り、患者満足度の高い療養環境を提供するとともに、職員も働きやすい職場環境を整える。
3．ベッドサイドケアの充実を図り、看護の質を向上させる。
4．がん看護と周手術期看護の知識と技術を高め、専門性の高い看護実践ができる看護師を育成する。

Ⅰ．病棟の特徴

1．病床数構成　総病床数：48床
　　外科・乳腺外科48床
2．主な疾患・治療・検査
　大腸がん、胃がん、肝がん、膵がん、
　胆のう炎、乳がん
　腹腔鏡下胆のう摘出術、乳房切除術、
　結腸切除術、胃切除術、
　亜全胃温存膵頭十二指腸切除術、肝切除術

Ⅱ．患者の動向

	2023年	2024年
入院患者数	1059	1056
一日平均患者数	34.7	36.1
平均在院日数	11.5	11.9
平均年齢	65.9	67.2
病床利用率	73.1	75.2
病床稼働率	80.0	82.0
CP使用率	77.1	65.0
看護必要度①	51.7	43.4
看護必要度②		54.6
手術件数	719	782

Ⅲ．看護職員数（2024.4.1現在）

看護師長	1名
副看護師長	2名
看護師	27名
看護補助者	6名

Ⅳ．看護の概要

1．看護の特徴
　1）看護方式
　　モジュール・セル方式混合
　2）看護の特徴
　　消化器、食道、肝・胆・膵、乳房、甲状腺の予定手術や外傷・穿孔・閉塞等による緊急手術に対し、術前から術後まで全身管理を行いながら、早期離床、合併症予防を図り、安全安楽に回復が促進されるよう援助を行っている。また、がん化学療法看護、放射線療法看護やがん再発の緩和ケアについては、がん関連認定看護師に相談・介入を依頼しながら患者の状態把握、症状緩和に努め、その人らしく生を全うできるよう患者やその家族の支えとなる看護を提供している。
2．教育
　1）スタッフ教育
　　7階フロアの特定行為看護師と勉強会を月1回程度開催し、病棟全体の知識の向上を図っている。今年度は手術室や脳神経病棟の見学にスタッフを派遣し、また、肝臓内科病棟よりスタッフを受け入れるなど、院内の看護実践力向上となるような教育も行った。
　⑴院外研修参加状況
　　・クリティカルパス実践研修：大原千奈美
　　・実習指導者講習会：山下主税
　　・院内感染対策研修会：川畑貴寛
　　・入退院支援の実践力向上研修：松尾真帆
　　・がん看護エキスパートナース研修：髙見栞
　　・看護補助者の更なる活用のための看護管理者研修：牧山隼人
　2）学生教育
　　活水女子大学（令和5年）受け入れ状況
　　4～8月までは感染管理上、受け入れ休止
　　成人看護学実習Ⅰ：20名
　　基礎看護学実習Ⅱ：4名
　3）看護研究・学会発表
　⑴院内研究
　①術後の誤嚥性肺炎の予防に対する看護師の口腔ケアに関する意識調査～認識と実践について～：小西由香・木佐貫真子・牧山隼人
　（令和7年院外発表予定）

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

7B病棟

責任者　酒谷 紀子

基本方針

1．第２種指定感染症病棟の役割を担っている。
2．MDRA感染患者とCOVID-19感染患者の対応を行っており、感染症に強い病院としての役割を担っている。
3．感染対策チームとして多剤耐性菌対策等の情報発信や感染管理の実践を行っている。

目標

1．アフターコロナを見据えた病床運営
2．他病棟応援体制の整備
3．リソースナースと協働しジェネラリスト看護師のアセスメント力向上

Ⅰ．病棟の特徴

1．病床数構成
第２種指定感染症病床　４床
MDRA病床 総合診療科３床　COVID-19病床
2．主な疾患・治療・検査
COVID-19感染症　結核疑い、くも膜下出血後　うっ血性心不全、急性硬膜下血種

Ⅱ．患者の動向

	2023年	2024年
入院患者数	247	238
一日平均患者数	7.8	8.4
平均在院日数	12.6	15.4
平均年齢	63.4	68.6
病床利用率	17.4	13.2
CP使用率	2	0.8
看護必要度	28.0	①23.7 ②28.5
手術件数	8	4

Ⅲ．看護職員数（2024.4.1現在）

看護師長	１名
副看護師長	１名
看護師	23名
看護補助者	１名

有資格者　感染管理認定看護師、感染症看護専門看護師
中村みさ
特定看護師　中村裕子（４区分８行為）
原文佳（２区分３行為）

Ⅳ．看護の概要

1．看護の特徴
1）看護方式
チームナーシング、受け持ち看護師制
2）看護の特徴
第２種指定感染症病棟であり、第２種感染症病床、MDRA感染患者病床、COVID-19感染患者病床を担っている。手指衛生実施率100％を保持し、感染対策の実施を行っている。また、小児科を含め、様々な診療科の治療や看護が実践できるよう、知識、技術の向上に努めると共に、多職種で連携して患者が安心して療養ができるような関わりを行っている。
2．教育
1）スタッフ教育
部署内学習会状況
１回/月を計画　同じ内容を２～３回実施
内容：「倫理４分割表」「NHFについて」「身体拘束について」等
参加できないスタッフは資料を用いて自己学習。
⑴院外研修参加状況
・認定看護管理者教育課程ファーストレベル
：酒谷紀子
・九州・沖縄ブロックDMAT実働訓練
：中村裕子
・第２回九州・沖縄ブロックDMAT技能維持研修
：中村裕子

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

8A病棟

責任者　廣瀬 智美

基本方針

1．看護の質の向上
2．働きやすい環境づくり
3．看護能力の開発、自己研鑽

目標

1．患者・家族の意向を尊重した看護の実践
2．適切な労務管理とWLBの推進
3．スタッフ個々の学習意欲を高め専門性のある看護の提供

Ⅰ．病棟の特徴

1．病床数構成　総病床数：42床
　　肝臓内科：42床
2．主な疾患・治療・検査
【疾患】1．総胆管結石　2．肝細胞癌
　　3．膵癌　4．胆管癌　5．膵炎
　　6．肝硬変　7．胆嚢炎.胆管炎
【治療・検査】
内視鏡的逆行性胆管膵管造影（ERCP）、超音波内視鏡下穿刺術（EUS-FNA）、経皮的ラジオ波焼灼両方（RFA）、食道静脈瘤治療（EVL）、肝生検、腫瘍生検、経皮的肝胆嚢ドレナージ（PTGBD）

Ⅱ．患者の動向

	2023年	2024年
入院患者数	887	943
一日平均患者数	29.95	32.5
平均在院日数	11.9	12.2
平均年齢	70.7	73.12
病床利用率	73.5	77.4
入院Ⅱ期間内率	53.6	50.5
看護必要度	37.8	36.6
ERCP件数	307	475
血管造影件数	59	62
肝・腫瘍生検件数	70	66
RFA件数	27	27

Ⅲ．看護職員数（2024.4.1現在）

看護師長	1名
副看護師長	2名
看護師	26名
看護補助者	2名

新卒割合15.4％
看護師平均年齢29.7歳

・有資格者　特定行為研修終了者：磯本　莉穂

Ⅳ．看護の概要

1．看護の特徴
1）看護方式
モジュール型看護方式＋一部機能別看護方式
2）看護の特徴
肝疾患診療連携拠点病院としての役割を担い、主に肝臓・胆嚢・膵臓疾患患者の入院を受け入れている。肝がんの治療として、高周波ラジオ波（RFA）、TAE、TACEなどクリティカルパスを活用し看護を提供している。医師、MSW、病棟担当薬剤師、管理栄養士と連携を取りながら退院支援を行っている。
2．教育
1）スタッフ教育
ACTyラダーⅠ～Ⅳ対象者の支援者会議を定期的に開催した。その中でもレベルⅠの支援者会議は毎月開催し、病棟教育計画に沿った進捗状況を確認し、実地指導者間との情報共有を行い、方向性の検討し、スタッフ間で共有して、連携した指導を行った。研修生からも研修報告を行い、off-JTで学んだ内容がOJTに繋がるよう関わりを行った。また、個人の進捗に合わせ、夜勤やリーダー、化学療法、処置などのデビュー時期の検討を行い、スタッフ個々が出来る技術を増やすことで、病棟全体のスキルアップを図った。ERCP見学研修や医師・栄養士などからの勉強会を行い、知識や技術習得の機会とした。
⑴院外研修参加状況
・実習指導者講習会　直塚愛
・認知症ケア研修　三浦成大
3．医療・看護の質の向上
毎日カンファレンスを行い、転倒防止策や抑制の必要性などを検討すると共に、他職種も一緒に患者や家族の気持ちに寄り添った看護について話す機会を設けていった。今年度のヒヤリハット総件数は88件と前年度より10件減少した。一番多くを占めていたのは内服関連であり、88件中28件と全体の32％を占めていた。内訳としては確認不足が一番の要因であった。次いで、注射17件、転倒転落11件であった。毎日の転倒防止策の検討を継続し、転倒転落は11件（前年度20件）と大幅に減少した。Pm-SHELL分析やKYTを用いて、分析・改善策の検討を行った。
4．経営参画
4月より医師と協働し、ベッドコントロール強化を行い、病床利用率増加に繋げていっている。

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

8B病棟

責任者　清水 周二

基本方針

1．高い知識・技術・倫理観に基づいた看護の実践
2．多職種と連携しチームとして適切な看護の提供
3．専門職業人としての主体的な行動

目標

1．医療・看護の質の向上
2．安全な医療の提供
3．各職種に応じた責任と役割を果たせる人材育成
4．病院経営への積極的参画
5．WLBの向上と、働き方の改善を図る

Ⅰ．病棟の特徴

1．病床数構成　総病床数　49床
　消化管内科　32床　　呼吸器内科　17床
2．主な疾患・治療・検査
　消化管内科の疾患として胃・大腸・食道の悪性疾患、潰瘍性大腸炎などの炎症性疾患。
　検査・治療は、内視鏡検査、治療・化学療法放射線治療。
　呼吸器疾患の疾患として悪性腫瘍、間質性肺炎、検査・治療は、内視鏡検査、呼吸器管理・化学療法、放射線治療、結核疑い患者においては簡易陰圧室での感染管理を実施。

Ⅱ．患者の動向

	2023年	2024年
新入院患者数	1,311	1490
一日平均患者	37.7	40.3
平均在院日数	10.5	9.7
平均年齢	67.4	69.7
病床利用率	76.9	82.2
CP使用率	43.9	35.0
重症度、医療・看護必要度	28.7	①17.7 ②37.2
手術件数	59	52

Ⅲ．看護職員数（2024.4.1現在）

看護師長	1名
副看護師長	2名
看護師	31名
看護補助者	3名
ナースサポーター（派遣）	2名

Ⅳ．看護の概要

1．看護の特徴
　1）看護方式
　　固定チームナーシング看護方式＋一部機能別
　2）看護の特徴
　　確定診断や治療のため、検査に伴う不安の軽減や化学療法、放射線治療、呼吸器管理を行う患者の管理など、看護の領域は多岐にわたる。コ・メディカルと連携を図り在宅支援を必要とする患者の支援に積極的に取り組み、早期介入を図っている。内視鏡治療は、大腸EMRは166件、大腸ESDは47件、胃ESDは39件、食道ESDは10件であった。院内卒後インターンシップ研修で内視鏡センターでの学びを得て、これまで以上に検査前・治療前の説明の充実を図ろうとしている。

2．教育
　1）スタッフ教育
　　レベルⅠでは個々の成長に合わせ、看護実践できるよう業務内容を調整した。「全員が実地指導者」というスタンスで、1回／月　実習指導者会議を開催し、進捗状況を確認。2年目以上の看護師が教育・看護実践に関わることができた。レベルⅡ以上の研修生に対しても実践できる業務内容を拡大し、病棟内での存在感を発揮できるよう支援した。
　(1)院外研修参加状況
　・長崎県実習指導者講習会　城彩子
　・実習指導者講習会　清水周二　宮崎千佳
　・がん看護エキスパートナース研修　田端久美子
　2）学生教育
　　実習における指導者の専任化を継続した。チームメンバーとの情報共有や業務調整を実施し学生のレディネスやレジリエンスに応じた関わりを実施し目標が達成できるよう支援を行い、担当教員とも連携・情報共有を図った。臨地実習前には、実習の目的・目標、実習要綱をスタッフへ周知し、実習中は専任看護師が、看護計画の確認や清潔ケアなどの看護実践、患者の観察を共に行うことで、統一した指導へ繋がった。

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

9A病棟

責任者　原 知里

基本方針

1．患者・家族の意向の最大限の尊重と支援に向けた活発なチーム医療実践
2．安全な化学療法管理と患者の安楽を目指した症状マネジメントの実践
3．病院経営への参画と入院から外来までのシームレスなケアの提供

目標

1．シームレスな入退院支援・継続看護・病床管理の実践による看護の質向上と医業収支への貢献
2．良好な人間関係に基づく多職種連携とOJTの強化によるベッドサイドケアの充実
3．ルールに基づく看護実践の徹底による医療の質の保証
4．共に学び・支えあい・成長しあう職場風土づくり

Ⅰ．病棟の特徴

1．病床数構成

総病床数	56床
血液内科（内婦人科５床）	33床
呼吸器内科	23床

2．主な疾患

血液疾患（白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫）や呼吸器内科系疾患（肺がん・肺炎）に対する、検査・診断・治療が行われている。

Ⅱ．患者の動向

1．病棟運営状況

項目	2023年	2024年
新入院患者数	1083	1110
一日平均患者数	45.7	48.0
平均在院日数	15.3	15.9
病床利用率	81.1	85.7
平均年齢	70.1	69.9
看護必要度Ⅰ/Ⅱ	24.6	26.6/37.2

2．主たる治療・検査・処置件数

	2023年	2024年
手術件数	64	64
化学療法件数	3289	4037
輸血件数	1392	1307
骨髄穿刺	81	100
末梢血幹細胞採取／自家移植	3/5	1/1
気管支鏡	69	37

3．保健指導件数

個人栄養指導	116
薬剤管理指導	663

Ⅲ．看護職員数（2024.4.1現在）

看護師長	副看護師長	看護師	看護補助者
１名	２名	31名	４名
有資格者：臨床輸血看護師･特定行為看護師　各１名			

・有資格者　特定行為研修終了者：磯本　莉穂

Ⅳ．看護の概要

1．看護・体制

1）看護方式：固定チーム＋プライマリーナーシング

反復入院における信頼関係構築と対患者やスタッフ間の継続支援を目的にプライマリーナーシングと３チームの固定チームナーシングを併用している。

2）看護の特徴

悪性疾患に伴う全人的苦痛に対するケアが主軸となる。がん化学療法看護認定看護師と連携し、安全で質の高い化学療法看護を目指している。2023年度より週１回の外来化学療法センター勤務と外来看護師の病棟カンファレンス参加を開始し、密な情報共有と連携による継続看護の質向上に取り組んでいる。

2．教育

1）スタッフ教育

４～６月：胸腔ドレーンの管理、輸血時の看護、がん化学療法の概要（CN主催）、がん化学療法（血管外漏出、IR、過敏症）、人工呼吸器装着中の看護（JNP主催）、CVポート管理、CO2ナルコーシス病態、がん化学療法（暴露予防）

７～12月：レブラミド管理、気切管理、急変事例・痙攣事例・METシミュレーション演習

⑴院外研修参加状況（一部抜粋）

・がんチーム医療研修会　西山果穂
・チーム医療推進のための研修会(輸血）木下結希加

2）学生教育：実習指導者専任化

3）看護研究・学会発表

⑴日本手術医学会総会

①大腿骨近位部骨折手術におけるVirtial Realityを用いた器械出し看護教育の効果の検討
市原幸大

⑵国立病院総合医学会

①組織内における心理的安全性の醸成に向けた取り組み～副看護師長として活動した１分間スピーチ導入後の変化～　瀧口　尚

4）施設外活動：成人看護学（血液疾患の看護）講義
嬉野医療センター　渡邊依里

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

手術センター

責任者　榊原 チハル

基本方針

1．効率的な手術室運営
2．安全で安心できる周術期看護の提供
3．高い専門性を持った手術室看護師の育成

目標

1．効果的な手術室運営（処置の取り漏れ、不動在庫削減、ME機器の破損削減）病院経営の積極的参画を行う。
2．手術を受ける患者・家族へ安心・安全な質の高い看護を提供し､周術期看護の質の向上を図る。
3．スタッフ間の関係の質を向上し、ハラスメントのない職場風土、適切な時間管理を行い働きやすい職場にできる。
4．マニュアル遵守を徹底し、安全・安心な周術期看護の提供ができる。
5．教育体制に沿って個々の能力向上を目指した人材育成ができる。

Ⅰ．病棟の特徴

1．手術室数：10室(空気清浄度：クラス100　1室、10000　9室（1室は陰圧システム))
＊クラス100のBCR（バイオクリンルーム）は人工関節置換術や生体腎移植に使用
2．主な診療科
外科・乳腺外科・呼吸器外科・脳外科・心臓血管外科・耳鼻科・整形外科・泌尿器科・産婦人科・眼科・皮膚科・循環器内科・腎臓内科・麻酔科・消化器内科

Ⅱ．患者の動向

	2023年	2024年
手術件数	5094	5210
緊急手術	976	907
全身麻酔件数	3198	2892
脳死下臓器摘出術	1	1

＊緊急手術：当日申し込み、当日手術のこと

2．主たる治療・検査・処置件数

看護師長	1名	副看護師長	2名
看護師	36名	非常勤看護師	1名
看護補助者	3名	クラーク	1名

有資格者：手術看護認定看護師　1名

Ⅳ．看護の概要

1．看護の特徴
1）看護体制：2交代制、1人夜勤（1名拘束体制）
＊土曜日、日曜日の日勤及び土曜日の夜間は2名拘束体制

2）看護の特徴
安全で安心できる周術期看護を提供するために、術前、術後訪問を継続して実施し、シームレスな看護実践を行っている。また、令和6年4月～術後疼痛管理チームを立ち上げ術後の疼痛管理を行い評価している。R5年ダビンチ手術が導入され、R6年12月で77件の手術実績があり、手術を担当できる看護師の育成にも力を入れている。

2．教育
1）スタッフ教育
新人看護師、配置換え者に対し、OJTで機械出し看護、外回り看護を行い、一人立ちできるように支援している。また、1年間3人1組のパートナー制とし、個別的に段階を踏み、進捗状況を確認しながら、全ての診療科の手術に対応できるよう教育している。
⑴院外研修参加状況
・実習指導者講習会（九州グループ）：弓削亜矢香
・医療安全管理研修Ⅰ（九州グループ）：泉野真樹
・メンタルヘルス・ハラスメント研修（機構本部主催）：榊原チハル

2）学生教育
活水女子大学3年生の成人看護学実習（2日間）を受け入れており、体位固定や機械出し看護の体験、術前訪問で病棟との連携について学び、手術を受ける患者の特徴と手術看護の専門性について考えられるよう環境を整えている。

3）看護研究・学会発表
⑴日本医療マネジメント学会学術集会
①急性期充実加算取得施設における手術室看護師の配置人数の解析：原健太朗
⑵日本環境感染学会総会・学術集会
①手術室看護師におけるルミノール化学発光法を用いた外回り介助時のプラスチックガウンの血液暴露の実態：橋口里佳
⑶日本手術看護学会年次大会
①褥瘡を発生させない術前皮膚状態の客観的指標となり得る経表皮水分蒸散量（TEWL）の解析：前向きコホート研究：原健太朗
②高度肥満患者（MMI46）の呼吸器外科緊急手術における手術看護でみえた外回り看護の実際と課題：高見宗太郎
⑷日本看護研究学会第50回学術集会
①手術室看護実習におけるロールモデルを担う手術室看護師の思考過程の分析：原健太朗
⑸日本手術医学会総
①本邦の急性期病院における手術室看護師の感情ChatGPTを用いた周術期看護への情熱の解明：原健太朗

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

治療検査センター

責任者　芦刈 智美

基本方針

1．病む人個々の生活信条を大切にし、ひとりひとりに気持ちを傾け寄り添う看護を行う
2．科学的根拠に基づいた当院にしかできない専門的治療および看護を提供する
3．お互いをリスペクトし職業人として誇りと品性をもち職務に専念する

目標

1．他部門とのコミュニケーションを図り、協働し安心・安全な検査・治療を行う
2．わかりやすい説明と情報提供を行い患者・家族が納得のいく検査・看護ケアの提供を行う
3．常に自己研鑽し、専門的知識・技術の向上を図る

Ⅰ．部署の特徴

1．内視鏡、透析、放射線３部署の機能を備え、他施設ではできない専門的治療を行っている
2．放射線科看護師は24時間拘束体制を取っている
3．子育て世代の働きやすい職場環境

Ⅱ．主な検査・治療件数、拘束呼び出し件数

1．病床数構成

	2023年	2024年
上部内視鏡	2468	2496
下部内視鏡	1257	1261
肝膵系　ERCP	476	475
気管支内視鏡　BF	359	395
透析総件数	3894	3917
腹膜透析指導件数	113	129
血管造影総件数	1023	1047
心カテ、PCI	636	641
放射線治療件数	7540	7086
PET /CT	831	883
拘束呼び出し件数	94	89

Ⅲ．看護職員数（2024.4.1現在）

看護師長	1名
副看護師長	1名
看護師	28名
看護補助者	5名

有資格者
第１種消化器内視鏡技師認定看護師：６名
透析技術認定士：１名
INE（インターベーションエキスパートナース）１名
放射線看護専門看護師・がん放射線療法認定看護師：１名

Ⅳ．看護の概要

1．看護師配置

内視鏡センター、透析センター、放射線科部門に配置し、患者の治療検査の介助を行っている。常に情報交換をし、業務の補完や人員調整を行い、スタッフ間のリリーフ体制をとっている。

2．看護の特徴

内視鏡センターでは、精密検査及び大腸内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）・食道静脈瘤の治療、胆膵の治療・気管支内視鏡及び胸腔鏡等の高度な治療を行うと同時に、手術室にて食道ESDや、消化器外科や呼吸器外科と合同で手術を実施し、高度な医療の介助において安全で質の高い看護を実践している。

透析センターでは、外来・入院患者の透析導入と維持透析患者の専科の検査・治療後の透析を行っている。また、PD（腹膜透析）外来を開設し、在宅にて腹膜透析を行っている患者への指導管理を実施している。穿刺等、看護師の技術・質向上を目指し技術チェック等教育の再構築を図っている。

放射線科では、放射線看護専門看護師の活動で、放射線治療を受ける患者の身体・精神・社会的側面から患者の意向を取り入れた看護が提供できるよう、医師・放射線技師・病棟看護師・放射線科看護師間のチーム医療・連携を図っている。また、遠隔操作密封小線源治療に組織内照射も加わったことにより、組織照射を含み件数が増加している。

3．教育

1）スタッフ教育

内視鏡センター、透析センター、放射線科の3セクションで各々の専門的な知識・技術の向上、介助方法の習得を行っている。配置換えや育児休業からの復帰のスタッフに対しては、担当看護師を付け、マニュアルに沿って段階的に業務の拡大を図っている。

2）学生教育

病棟実習期間に受け持ち患者の検査・処置時の見学などで実習生を受け入れている。今年度は臨床検査技師をめざす実習生の内視鏡センター見学実習の受け入れも行っている。

3）看護研究・学会発表

⑴第37回日本放射線腫瘍学会学術大会
①ポリウレタンフィルムによるPMRTの急性放射線皮膚炎の予防効果：大石景子

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

外来

責任者　稲田 鮎美

基本方針

1．地域住民の医療ニーズに合わせた地域・外来・病棟での連携体制の構築
2．患者に意向を中心とした在宅診療支援の充実
3．在宅療養支援における看護師に人材育成

目標

1．患者にあった看護の提供を行い、外来受診を満足したものにできる
2．患者の訴えを聞き、看護観を高めていくことで、スタッフの育成ができる
3．複数の診療科の業務ができるスタッフを増やすことで、協力体制を図る

Ⅰ．外来の特徴

1．標榜診療科：38科

病気に対する認識や生活状況について患者に確認し、地域や病棟からの情報提供を基に継続看護を行い、患者満足度及び看護の質の向上に努めている。

2．主な疾患・治療・検査

外来治療センターでは、医師と連携を図り患者の対応を行っている。また、化学療法では抗がん剤治療の知識を有す医師や薬剤科、看護師を配属しソーシャルワーカーなど他部署と連携を図りながら患者の情報を共有して、外来通院患者に医療を実施している。

Ⅱ．患者の動向

	2023年	2024年
外来診療日数	246	186
外来患者数	170,543	167.032
１日平均患者数	693.2	684.6
新患者数	14,601	14.817
新患率	8.5	8.9
手術件数	421	375
外来化学療法	5505	5661

Ⅲ．看護職員数

看護師長	１名
副看護師長	２名
看護師	41名
看護補助者	１名
事務助手	８名

有資格者
がん化学療法看護認定看護師：１名

Ⅳ．看護の概要

1．看護の特徴

1）看護方式

外来看護、各診療科のブースに分かれ４～６名の看護師を配置し、診療介助、各種処置介助、検査説明等を実施している。化学療法センターでは、専任看護師を配置し多職種で担当している。

2）看護の特徴

地域医療連携室や地域の医療施設と連携し診療を行っている。化学療法センターでは、がん化学療法認定看護師を中心として専門的な知識を活かし医療安全や抗がん剤曝露対策で安全な医療・看護を提供できるよう努めている。各科外来での診療介助、各種検査介助等さまざまな分野の看護知識・技術が必要とされる。入院から通院へ移行する際には、外来看護師の継続した関りができるようなシステムを整え、外来看護の質向上に努めている。

2．教育

1）スタッフ教育

各ブースでの補完業務を見直し複数診療科業務ができるように教育体制を整えた。また、可能な限り他ブース間応援ができるように改善した。今後は、化学療法看護ができるスタッフの育成が課題である。

⑴院外研修参加状況

・医療安全対策研修Ⅰ：稲田鮎美

2）学生教育

活水女子大学看護学部看護学科母性看護実習の産婦人科外来における実習、小児科看護学実習の小児科外来における実習について、それぞれ実習指導担当看護師により指導を行った。

3）看護研究・学会発表

⑴第65回日本母性衛生学会総会・学術集会

①当院に搬送となった病院前分娩の新生児予後についての検討：石丸絢　本多菜美

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

医療相談支援センター

責任者　芦刈 智美

Ⅰ．基本方針

医療相談支援センターは地域医療連携室・患者サポート室・予約入院支援室の3部署からなる。それらの部署で病診、病病連携を推進し、患者、家族が安心して治療・療養を行うことが出来るような体制を整えている。また、入院前から退院後までの生活を見据えた支援を病棟と共に行う。

目標

1．地域の病院や診療所などの医療施設から、新患の診療予約、検査予約を増加させ、入院患者の退院、転院などの退院支援・調整をスムーズに行うために病棟と協働して行う。
2．医療相談支援の質の向上を図り、患者が安心して治療ができる環境を整える。
3．入院前から退院支援までシームレスな支援を行う。

Ⅱ．地域医療連携室実績

	2023年	
全退院者数		13,578
	病棟	地域医療連携室
入退院支援加算１算定数	0	2,554
入退院支援加算１算定率		19

	2024年	
全退院者数		13,825
	病棟	地域医療連携室
入退院支援加算１算定数	4,698	2,323
入退院支援加算１算定率		51

Ⅲ．患者サポート室実績

	2023年	2024年
新規相談者	1,005	962
実人数	1,586	1,629
延べ件数	3,364	2,855

Ⅳ．予約入院支援室実績

	2023年	2024年
全対応件数	4,096	4,289
療養計画書作成件数	378	2,307
入院時支援加算件数	221	1,490

Ⅳ．医療相談支援センター職員数（22024.4.1現在）

看護職員		事務職員	
看護師長	１名	MSW	４名
副看護師長	１名	事務助手	５名
看護師	９名		
看護師（非）	５名		
クラーク	１名		

有資格者
がん看護専門看護師：１名
緩和ケア認定看護師：２名
がん化学療法看護認定看護師：１名

Ⅴ．看護の概要

１．看護の特徴

地域医療連携室の看護師は各部署の入退院支援コアナースと共に入退院支援の質を向上させるための取り組みを行っている。2024年２月からは入退院支援加算１を病棟のコアナースが算定できる取り組みを開始し、７月からは全患者を病棟看護師がスクリーニングをかけている。その結果、算定率は19％から51％に増加した。患者サポート室の看護師はがん関連の有資格者であり院内外のがん看護やがん化学療法看護に携わっている。2024年１月からはがん性疼痛緩和指導管理料を算定する体制を整えた。予約入院支援室の看護師は今年度からケアマネージャーが介入している予定入院患者に対して入院前に情報提供を行っている。また、入退院支援加算１を病棟看護師が算定することに伴って、入院時支援加算１の算定数も年間221件を1,490件と大幅に増加させた。

２．教育

１）看護研究・学会発表

⑴第38回日本がん看護学会：シンポジウム
①次世代のがん医療を支える“多職種協働型人材養成”：田中圭

⑵第３回頭頸部がんサポート研究会：大会長
①大会長講演：田中圭

⑶地域緩和ケア連携調整員フォーラム
①九州がんセンター・長崎医療センターでの地域緩和ケア連絡調整員の取り組み：田中圭

National Hospital Organization **NAGASAKI** Medical Center

診療看護師（JNP）

責任者　**本田 和也・本村 秀樹**

診療部門の特色

診療看護師（Japanese Nurse Practitioner：JNP）の概要

国立病院機構では、全国に先駆けて2010年より東京医療保健大学大学院看護学研究科（NP養成大学院）と連携し、クリティカル領域で高度な看護実践能力を持ち、スキルミックスによるチーム医療を提供できる看護師の育成を行っている。５年以上の看護師経験があり、さらにNP養成大学院で特定行為研修を修了し、一般社団法人日本NP教育大学院協議会の実施する資格試験に合格した者を診療看護師（Japanese Nurse Practitioner：JNP）と認証している。JNPは、医学的視点と元々看護師経験で培った看護の視点を持ち合わせており、なおかつ、特定行為の実施も可能であることから臨床で様々な役割が期待されている医療職である。

2024年度は６名のJNPが所属している。当院のJNPは、特定行為を補助的に活用しながら、臨床で培った看護師としての知識･経験を基盤とした患者の個別性に合わせた全人的ケアと医師の思考（治療的視点、臨床推論の能力）の融合をイメージした活動をしている。また、「チーム医療の要」「地域医療の担い手」としての役割を果たすことを目標に、地域、施設の機能、診療科の特徴を踏まえ、患者・家族のニーズにあった活動を心がけている。特徴としては、①医師不在時の急変時の初期対応や患者の全身管理、処置ができること（例：21区分38行為の特定行為の実施が可能）、②個々の患者に対する情報・診療方針を医師と共有し、その指示のもとに各種検査のオーダー・指示簿の変更が可能であること、③他診療科へのコンサルテーションや多職種との連携によりチーム医療の中核的役割が担えること、④離島等医療連携ヘリ事業（Remote Island Medical Co-oporation Air Service：RIMCAS）ヘリや民間航空機を利用した転院搬送時の調整・患者と同乗し直接的ケアを提供する権限があること、⑤各診療科における診療データーベースの構築、臨床研究等がある。JNPはこのような役割を担いながら、配属先の診療科・病棟の診療・看護の質維持、向上を図っている。

【JNPの活動理念】

1．チーム医療の要：患者を取り巻くあらゆる職種・環境とのコミュニケーション・連携を図り、円滑かつ安全安楽な医療の提供に寄与する。
2．地域医療の担い手：クリティカルケア、プライマリケア両領域における患者の健康回復・保持増進に向けた思考力や実践力を養う。

【JNPの活動目標】

専門性の高い判断力と実践力を持つJNPが、日々、多職種との関わりを持ちながら診療の一部分を担い、患者や家族・関わりを持つ他職種職員にとっての存在意義を高めること。

【構成メンバー】

所　属	役　職	氏　名
責任者	統括診療部長	本村秀樹
教育センター・脳神経外科	副看護師長・JNP	本田和也
新生児科	JNP	津野崎絹代
脳神経外科	JNP	森塚倫也
高度救命救急センター	JNP	江口貴彦
整形外科	JNP	溝上佳史
卒後臨床研修	JNP	河野陽子
外科（2024年３月まで在籍）	JNP	吉岡未智

入院診療実績

転院搬送実績（2024年１月－12月）

総搬送件数：18症例（うち、RIMCASヘリ２件、航空機１件）

【チーム医療、等】

NSTラウンド介入件数：19件（2024年４月－12月）

RSTラウンド介入件数：38件（2024年４月－12月）

研修・教育

１．カンファレンス

名称	開催頻度
脳神経外科/脳神経内科/救急科合同カンファレンス	１回/週
脳血管リハビリテーションカンファレンス	１回/週
NICUカンファレンス・心理士外来カンファレンス	１回/週
産科・NICU合同カンファレンス	１回/週
モニターカンファレンス（NICU）	計５回（不定期）
周産期リエゾンカンファレンス（NICU）	１－２回/月
退院支援カンファレンス（NICU）	１回/月
退院支援カンファレンス（整形外科）	２回/週

２．研修会等参加

本田和也	日本プライマリ・ケア連合学会 第１回PCAT導入研修（受講）
森塚倫也	令和６年度 原子力研修（DMAT）（受講）
	NHO 特定行為研修指導者講習会タスク（講師）２回/年
	令和６年度 第２回 長崎市医師会主催 開業医向け災害初期対応コース（講師）
溝上佳史	令和６年度外傷AO ORPコース（受講）
	令和６年度 原子力災害医療派遣チーム研修（受講）
	令和６年度 第２回 長崎市医師会主催 開業医向け災害初期対応コース（講師）
江口貴彦	令和６年度 MCLS多数傷病者への対応標準化トレーニング（受講）
	令和６年度 第32回佐賀外傷セミナー（JPTEC）プロバイダーコース（受講）
	令和６年度 JNTEC プロバイダーコース（受講）
	令和６年度 第２回 長崎市医師会主催 開業医向け災害初期対応コース（講師）

３．教育（講義・演習）活動

１）看護師特定行為研修

当院は2020年より看護師特定行為研修（４区分８行為）を実施している。看護師特定行為研修修了者であるJNPは、知識や臨床現場での経験等を活かし、研修の講義・演習・実習の指導を担っている。

科　目	単　元
フィジカルアセスメント	身体診察基本手技
	フィジカルアセスメント総論
	頭頚部の診察
	高位脊椎損傷の診察
	膝、肩の診察

科　目	単　元
疾病臨床・病態概論	看取り
	褥瘡管理
医療安全学・特定行為実践	臨床倫理
	チーム医療～終末期患者の退院支援～
	コンサルテーション～症例①せん妄～
	コンサルテーション～症例②高カリウム血症～
	チーム医療（多職種との協働）の事例検討
	インフォームド・コンセント（PICC留置）
	意思決定支援
	手順書の作成
	手順書の評価
	手順書の改良
	医療安全学/特定行為実践統合実習
血糖コントロールに係る薬剤投与関連	インスリン投与量の調整（手順書の作成）
呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連	気管カニューレの交換（手順書の作成）
	気管カニューレの交換の手技（実技）
	気管カニューレの交換　OSCE支援者

2）院内BLS研修指導

2024年9月～ 11月に12回研修指導を担当した。

3）その他、教育機会（院内外）

担当	内容（テーマ）	対象
本田和也	令和６年度 第１回交流会 （N特看護師の現在と未来図）	長崎県特定行為研修修了者
	ナーシング・スキル 動画講義 （看護の専門性を深めるキャリア）	エルゼビア・ジャパン ナーシング・スキルを導入している施設に勤務する看護師
	看護師の特定行為研修 実践サポート 特定行為アセスメントコース （気管カニューレの交換）	学研メディカルサポートを導入している施設に勤務する特定行為研修修了者
	科目：看護の臨床判断 科目担当者	長崎市医師会看護専門学 第１看護学科 ２年次生
	令和６年度メディカルスタッフ喀痰吸引研 （説明会、講義・演習）	理学療法士３名、臨床工学技士１名
津野崎絹代	急変対応シミュレーション	NICU看護師
	新生児蘇生勉強会	４B看護師・助産師
	新生児勉強会	４階フロア新人看護師
	NCPR（Ｓコース）	医師・看護師・助産師
	NCPR（Ａコース）	医師・看護師・助産師
森塚倫也	成人臨床看護の実際 Ⅱ 中枢神経機能障害	長崎県央看護学校
溝上佳史	長崎大学病院看護師特定行為研修区分別科目実施試験評価	長崎大学病院特定行為研修者
	第10回長崎県臨床工学技士会呼吸療法セミナー	臨床工学技士
	令和６年度メディカルスタッフ喀痰吸引研 （説明会、講義・演習）	理学療法士３名、臨床工学技士１名

担当	内容（テーマ）	対象
江口貴彦	長崎大学病院看護師特定行為研修区分別科目実施試験評価	長崎大学病院特定行為研修者
	第10回長崎県臨床工学技士会呼吸療法セミナー	臨床工学技士
	ルート確保、採血演習	初期臨床研修医
	臨床推論	3A・救急外来看護師

4．委員会活動

1）JNP研修・管理運営委員会

JNPについての統括、労務管理、業務内容・体制、研修、その他JNPに関わる全ての事柄について審議・決定を行う。2024年は、６回（１月、３月、５月、７月、９月、11月）委員会を企画・運営した。

2）その他委員会参加

院内：教育委員会、副看護師長会議、広報委員会、NST委員会、特定行為研修指導者委員会、特定行為運営委員会、特定看護師ミーティング、虐待防止委員会、医療安全委員会、安全衛生委員会、周産期リエゾン委員会

院外：

本田和也	長崎県病院企業団離島等医療連携ヘリ運営協議会
	国立病院機構JNP協議会
	日本NP学会理事会
	日本看護系学会協議会APN推進委員会
津野崎絹代	日本新生児・成育医学会　倫理委員会
	日本新生児・成育医学会　CLDガイドライン作成委員会
	日本新生児看護学会　痛みのケアガイドライン作成委員会
森塚倫也	日本NP学会九州地方会理事

治験、共同臨床研究（症例登録する研究）

競争的研究費一覧

No.	項目（財源別） ①文部科学省科学研究費、②科学研究費助成事業（科学研究費補助金）、③科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）、④科学技術振興機構科学研究費、⑤その他文部科学省関連研究費、⑥厚生労働科学研究費、⑦国立高度専門医療センター等研究費、⑧その他厚生労働省関連研究費、⑨日本医療研究開発機構研究費、⑩その他財団等からの研究費、⑪民間セクターからの寄附金	研究課題名	研究者名	研究事業名 （依頼業者名）	主任 分担	新規 継続
1	①文部科学省科学研究費	脳卒中診療におけるナースプラクティショナー（NP）を活用した適正マンパワーの提案	本田和也		主任	継続
2	⑩その他財団等からの研究費	離島等医療連携ヘリ事業（Remote Island Medical Co-operation Air Service: RIMCAS）ヘリコプターを活用した体動困難患者の離島転院搬送の定量的評価と国際的比較	本田和也	へき地・離島救急医療学会 研究助成	主任	新規

学会・論文など

1）原著論文　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	（　2　）	0	0	0

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

2）学会発表　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	14	0	2

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

3）学術講演　　**（件数）**

種類	教育講演			
件数	1			

4）学会座長　　**（件数）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	4	0	0

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

研究業績

論　文　発　表

A：英文

A-a1：英文原著

1）Nurse Practitioner Placement in A Nursing Home in Japan.
Masahide Koda, Nahoko Harada, Naoko Sato, Tomoko Araki, Kazuya Honda, Takemi Kudo, Takao Watanabe, Miho Suzuki.
The journal of Nurse Practitioner 2024；20(1).

2）Comparing health care outcomes before and after employing nurse practitioners in cardiovascular hospitals in Japan: A retrospective chart review.
Miho Suzuki, Natsuko Sekiguchi, Masato Saitoh, Masahide Koda, Nahoko Harada, Kazuya Honda, Tomoko Araki,Takemi Kudo, Takako Watanabe.
Journal of the American Association of Nurse Practitioners 2024；36(11)：629-636.

B：和文

B-e：その他（ラジオ・新聞・雑誌等）

1）看護のリーダーシップ「看護エキスパート」の経験から学ぶ－看護の旅をとおして、看護のリーダーシップを振り返る－.
本田和也.
看護展望 2024；49(1)：80-83.

2）高度実践看護師の社会ニーズに即した実践を考える②－看護管理者と診療看護師（NP）から－.
本田和也、太田恵子.
看護管理 2024；34(3)：232-237.

3）現代医療に必要不可欠なリソースナースとしての診療看護師（NP）.
本田和也.
看護部長通信 2024；22(2)：92-96.

学会・研究会・講演

B：国内学会

B-a：特別講演，教育講演

＜座長＞

1）看護師血管エコーの現状と教育－看護師の役割拡大に向けて－
本田和也
ランチョンセミナー . 第22回日本看護技術学会. 札幌, 2024.10.26.

＜教育講演＞

1）The Current Situation of NPs in Japan, Exploring NP roles, challenges, and future in Japanese healthcare.
Kazuya Honda
第10回日本NP学会学術集会. 東京, 2024.11.24.

2）看護の未来を拓く－診療看護師（NP）の看護実践からの提言－
本田和也
第24回東邦看護学会学術集会. web, 2024.12.21.

B-b1：シンポジウム，パネルディスカッション

＜座長＞

1）アジアにおけるプライマリ・ケア領域ナース・プラクティショナー最前線.
本田和也
第15回日本プライマリ・ケア連合学会学術集会. 浜松, 2024.6.9.

2）診療看護師（NP）のこれまでとこれから
森塚倫也
第20回日本クリティカルケア看護学会学術集会. 沖縄, 2024.6.22

＜シンポジウム＞

1）長崎県の看護提供体制の課題に光を当てる－長崎県産看護師の立場から－.
本田和也
令和６年度長崎県看護学会学術集会. 長崎, 2024.9.7

2）NICUで始めるタスクシフト／シェア－今後を見据えNPがどのように活動できるか－.
津野崎絹代.
患者・家族中心の新生児医療へのイノベーション－特定行為研修修了者を活用したタスクシフト／シェア－.
第68回新生児成育医学会. 第33回新生児看護学会. 松本, 2024.11.9.

＜シンポジスト＞

1）航空医療における診療看護師（NP）の介入の実際－タスクシフト・シェアの観点から－
江口貴彦、本田和也、森塚倫也、中道親昭
第31回日本航空医療学会総会・学術集会. 沖縄, 2024.11.16.

2）多職種連携によるプレホスピタルシステムの構築と診療看護師（NP）の役割開発－脳卒中ホットラインシステム構築と帰島支援の取り組みを通して－.
森塚倫也、本田和也、江口貴彦、案田岳夫、中道親昭.
第10回日本NP学会学術集会. 東京, 2024.11.24.

3）総人口減時代の医療を支えるナースプラクティショナーの可能性：臨床でのインパクト検証から考える
原田奈穂子、本田和也、森一直.
第28回日本遠隔医療学会学術大会. 岡山, 2024.11.10.

B-b2：一般演題

＜口演＞

1）高血圧患者の受診状況と脳卒中発症との関連性：LIFE Study.
本田和也、前田恵、村田典子、福田治久.
脳卒中の臨床研究, STROKE2024. 横浜, 2024.3.8.

2）複雑な家庭環境をもつ若年女性の縦頚CPA後の家族に対しチーム医療で取り組んだ一例.
河野陽子、江口貴彦、高崎美穂、内田雄三、中道親昭.
役割開発. 第10回日本NP学会学術集会. 東京, 2024.11.23.

＜ポスター＞

1）高血圧患者の受療状況と脳内出血発症との関連性についての検討：LIFE Study.
本田和也、後藤健一、福田治久.
Young Investigator's Promotion（YIP）Session. 第46回日本高血圧学会総会. 福岡, 2024.10.13.

2）診療看護師（JNP）の配属初期の役割構築に向けた前向き検討－Will-Can-Mustフレームワークを用いた目標達成戦略アプローチー.
溝上佳史、本田和也、川崎多恵子、伊藤勇人、向井順哉、下永吉洋平、山口圭太、梅木雅史、森圭介、太田真悟、宮本俊之.
働き方改革. 第78回国立病院総合医学会. 横浜, 2024.10.18.

B-c：研究会発表

＜口演＞

1）NICUの診療看護師（NP）.
津野崎絹代.
ICUforKids. 熱海, 2024.9.21.

2）NICUでの診療看護師の活動と今後の展望.
津野崎絹代.
京浜新生児懇話会. 第28回フレッシュパーソンセミナー . Web, 2024.11.25.

F，G：学術講演他

F-b：学会・研究会座長［国内学会］

＜座長＞

1）診療看護師（NP）の実践とエビデンス構築.
本田和也.
第２回Neuro NP Round Table Conference. web, 2024.1.13.

G：その他

＜教育講演＞

1）診療看護師（NP）の役割と実践
本田和也
長崎大学病院講演会. 長崎, 2024.1.9.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

薬剤部

責任者　三角 紳博

診療科の特色

薬剤部は治療に用いられる医薬品を安全かつ適正に使用することを目的として業務を行っている。薬剤業務としては処方せんに基づく調剤・監査の他、抗がん薬・TPN調製、病棟薬剤業務・薬剤管理指導、チーム医療、DIを含めた医薬品管理、治験業務、病院経営への参画など多岐にわたっている。

入院患者に対する医薬品の適正使用に関しては、2014年７月より病棟薬剤業務実施加算の施設基準を取得し業務を展開している。病棟薬剤業務として入院時の持参薬確認を始め、服薬計画の提案や医薬品の使用状況把握、副作用モニタリング等を行っている。これらを実施することで安全で適正な医薬品使用につながり、医師、看護師等の業務負担軽減にも寄与している。2017年には持参薬のチェックセンターを開設し、2018年１月から救急救命病棟を除く全病棟での運用を開始。薬剤師が直接患者や患者家族、施設職員などから聞き取りを行うことで、内服薬だけでなく外用薬や自己注射製剤の確認、確実な術前休薬が行えているか等の付加情報も得られ、入院後の医療安全向上に寄与している。さらに2022年６月から、内服薬を経管投与する際に粉砕法より安定した血中濃度が得られる簡易懸濁法を全病棟で導入し、薬物療法の最適化にも取り組んでいる。

一方、外来患者に対しては、がん薬物療法や周術期薬剤管理に関する医療安全向上を視野に外来化学療法センターおよび予約入院支援センターに各々専従薬剤師を配置して取組みを行っている。がん薬物療法に対しては副作用マネジメントを中心に、手術目的の患者に対しては術前中止薬に関する情報収集と医師への共有など、外来を受診した患者が安心安全な薬物療法を享受できるように注力している。2020年６月からは保険薬局薬剤師とお薬手帳を介したレジメン情報・副作用情報等の共有を行い外来化学療法における連携充実加算の算定を開始、2024年６月には専任薬剤師が「診察前面談」で得られた副作用などの患者情報を医師の診察へ活用できる体制を構築し、がん薬物療法体制充実加算の算定を開始している。また、患者の自宅における服薬状況が客観的に共有可能なトレーシングレポート等を活用して地域の薬剤師会との薬薬連携にも積極的に取り組んでいる。予約入院支援センターでは専任薬剤師による入院予定患者の常用薬のチェック、術前中止薬においては医師へ継続の必要性を確認し、内服中止の場合には患者・家族へ指導を実施している。

教育・研修に関しては、ジェネラリストとしてだけでなく、スペシャリストとして、がん、緩和ケア、感染など各種認定・専門薬剤師の資格取得を視野に日々努力を重ねている。薬学生対象の長期実務実習（11週）受入れ施設として、また、保険薬局薬剤師の研修受入れ施設（日本医療薬学会、日本臨床腫瘍薬学会の研修施設）として、臨床薬剤師の育成にも精力的に取り組んでいる。

最近の薬剤部の取組みとしては、2023年２月から病棟－薬剤部の連携強化・業務効率向上を目的に「調剤状況進捗管理システム」を導入、７月からは周術期薬剤管理強化を目的に手術室専従薬剤師の養成を開始した。さらに経営面を考慮して11月からはバイオ後続品の使用率向上にも取り組んだ。早期に取り組みを開始した結果、2024年度からは「周術期薬剤管理加算」、「術後疼痛管理チーム加算」、「がん薬物療法体制充実加算」、「バイオ後続品使用体制加算」といった加算が算定可能となっている。

2025年は前年までに取り組んだ業務を強化し、さらに他職種との連携強化によって患者安全を確保した質の高い医療の推進に取り組んでいきたいと考えている。その一つとして薬剤師や医師の働き方改革につながるPBPMの構築にも積極的に取り組んでいきたい。

※Protocol Based Pharmacotherapy Management

入院診療実績

■薬剤部定員（2025年１月現在）

薬剤部（地下１階）

薬剤部長	副薬剤部長	主任薬剤師	薬剤師	薬剤助手	*治験主任	*治験薬剤師
1名	1名 （1名欠員）	9名	14名	11名	1名 （1名欠員）	1名

*治験主任及治験薬剤師は臨床研究センター治験管理室に配属

■業務実績

１．処方箋

2022年		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
注射処方せん枚数	入院	13,968	11,638	12,752	12,615	13,625	13,110	13,545	13,197	13,076	13,894	14,214	14,911	160,545	13,379
	外来	1,989	1,927	2,183	1,958	2,077	2,126	2,128	2,363	2,173	2,172	2,331	2,368	25,795	2,150
処方せん枚数	入院	11,611	10,055	11,731	10,899	11,869	12,297	12,204	11,403	10,969	11,388	12,321	12,278	139,025	11,585
	院内	716	613	705	640	685	667	723	779	722	667	655	744	8,316	693
	院外	6,074	5,947	6,856	6,219	5,914	6,441	6,237	6,682	6,543	6,227	6,555	6,749	76,444	6,370
院外処方せん発行率		89.5%	90.7%	90.7%	90.7%	89.6%	90.6%	89.6%	89.6%	90.1%	90.3%	90.9%	90.1%		90.2%

2023年		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
注射処方せん枚数	入院	14,872	13,110	13,391	13,957	14,752	13,637	14,592	14,337	13,554	14,852	13,278	13,928	168,260	14,022
	外来	2,206	2,032	2,225	2,208	2,273	2,216	2,454	2,532	2,322	2,277	2,131	2,332	27,208	2,267
処方せん枚数	入院	11,396	11,401	11,710	11,880	12,769	12,427	12,162	12,447	11,877	12,647	11,045	11,848	143,609	11,967
	院内	799	699	551	607	634	635	660	673	602	685	646	746	7,937	661
	院外	6,413	6,241	6,831	6,287	6,306	6,598	6,501	6,785	6,370	6,705	6,427	6,638	78,102	6,509
院外処方せん発行率		88.9%	89.9%	92.5%	91.2%	90.9%	91.2%	90.8%	91.0%	91.4%	90.7%	90.9%	89.9%		90.8%

2024年		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
注射処方せん枚数	入院	14,765	13,721	12,913	13,272	14,878	13,610	15,539	14,538	14,058	14,680	13,271	14,600	169,845	14,154
	外来	2,274	2,211	2,256	2,207	2,209	2,242	2,687	2,515	2,285	2,234	2,071	2,485	27,676	2,306
処方せん枚数	入院	12,287	11,251	11,530	11,569	12,184	11,031	12,697	12,063	11,935	11,945	10,906	12,064	141,462	11,789
	院内	743	532	489	516	546	476	635	550	460	512	462	675	6,596	550
	院外	6,380	6,200	6,301	6,108	6,150	5,793	6,310	5,917	5,942	6,304	5,840	6,125	73,370	6,114
院外処方せん発行率		89.6%	92.1%	92.8%	92.2%	91.8%	92.4%	90.9%	91.5%	92.8%	92.5%	92.7%	90.1%		91.8%

２．薬剤管理指導料（件数）

2022年	点数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
①安全管理が必要な医薬品	380	482	451	365	253	228	295	219	218	242	264	241	222	3,480	290
②その他の患者	325	496	400	346	166	178	177	160	152	220	224	218	199	2,936	245
①②の合計		978	851	711	419	406	472	379	370	462	488	459	421	6,416	535
配置薬剤師数		19	19	18.5	11	13	12	12	12	14	14	14	14		14
薬剤師１人当り		51	45	38	38	31	39	32	31	33	35	33	30		36

2023年	点数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
①安全管理が必要な医薬品	380	216	278	287	283	297	362	300	300	247	316	265	209	3,360	280
②その他の患者	325	213	197	265	260	279	339	312	331	215	280	240	269	3,200	267
①②の合計		429	475	552	543	576	701	612	631	462	596	505	478	6,560	547
配置薬剤師数		14	14	14	15	15	15	15	15	17	17	17	17		15
薬剤師１人当り		31	34	39	36	38	47	41	42	27	35	30	28		36

2024年	点数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
①安全管理が必要な医薬品	380	294	324	259	308	269	228	222	216	225	277	272	287	3,181	265
②その他の患者	325	287	262	301	350	318	275	316	310	283	365	327	345	3,739	312
①②の合計		581	586	560	658	587	503	538	526	508	642	599	632	6,920	577
配置薬剤師数		17	17	17	16	16	16	16	16	16	18	18	18		17
薬剤師１人当り		34	34	33	41	37	31	34	33	32	36	33	35		34

3．病棟薬剤業務（件数）

2022年	点数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
病棟薬剤業務実施加算⑴*	120	2,280	1,941	2,263	2,129	2,403	2,447	2,363	2,232	2,157	2,347	2,474	2,470	27,506	2,292
病棟薬剤業務実施加算⑵*	100	880	249	281	239	277	280	269	271	264	296	305	263	3,874	323
持参薬確認件数		790	650	765	728	797	805	812	704	731	819	842	746	9,189	766

2023年	点数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
病棟薬剤業務実施加算⑴*	120	2,333	2,311	2,311	2,335	2,548	2,390	2,410	2,482	2,289	2,487	2,258	2,303	28,457	2,371
病棟薬剤業務実施加算⑵*	100	282	299	299	286	261	247	266	260	236	300	219	295	3,250	271
持参薬確認件数		777	780	788	792	817	820	845	798	757	860	774	788	9,596	800

2024年	点数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
病棟薬剤業務実施加算⑴*	120	2,524	2,377	2,282	2,364	2,421	2,185	2,567	2,461	2,353	2,468	2,115	2,425	28,542	2,379
病棟薬剤業務実施加算⑵*	100	286	259	287	277	245	279	297	253	278	276	303	323	3,363	280
持参薬確認件数		903	785	795	863	827	840	1,023	899	860	893	793	927	10,408	867

*病棟薬剤業務実施加算⑴：週１回100点　加算⑵（救急救命入院料病棟）：１日につき80点

4．がん診療関係（件数）

2022年	点数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
外来化学療法センター（指導）		350	370	434	281	295	222	224	323	305	276	272	253	3,605	300
外来化学療法加算１	580	407	412	479										1,298	433
外来腫瘍化学療法診療料１	700				372	385	423	385	441	438	389	427	434	3,694	410
がん患者指導管理料ハ	200	46	37	42	3	1	4	2	2	4	2	2	4	149	12
連携充実加算*	200	143	157	151	148	161	166	161	198	184	165	175	162	1,971	164

2023年	点数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
外来化学療法センター（指導）		271	245	329	232	208	232	224	252	225	222	223	225	2,888	241
外来腫瘍化学療法診療料1	700	386	400	447	409	408	373	367	372	340	384	388	388	4,662	389
がん患者指導管理料ハ	200	0	0	0	2	0	0	0	2	1	1	1	2	9	1
連携充実加算*	200	166	171	157	155	155	147	150	142	164	167	169	172	1,915	160

2024年	点数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
外来化学療法センター（指導）		215	224	226	211	226	266	267	266	278	278	253	268	2,978	248
外来腫瘍化学療法診療料1	580	367	386	362	398	418	335	403	412	374	412	350	367	4,584	382
がん患者指導管理料ハ	200	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	4	0
連携充実加算*	200	161	168	167	178	180	180	188	187	174	193	192	193	2,161	180
がん薬物療法体制充実加算*	100						84	145	146	128	141	151	147	942	135

2022年４月抗悪性腫瘍剤を使用した場合の外来化学療法加算１が廃止、外来腫瘍化学療法診療料１が新設
*2020年６月より連携充実加算算定開始　*2024年６月よりがん薬物療法体制充実加算算定開始

5．無菌処理料（件数）

2022年	点数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
①無菌製剤処理料１　イ*	100	39	53	52	43	36	55	57	48	50	42	37	35	547	46
②無菌製剤処理料１　ロ*	50	650	580	697	615	650	733	658	687	723	691	720	749	8,153	679
③無菌製剤処理料２*	40	118	45	40	88	22	79	45	48	73	101	102	60	821	68
④未熟児の無菌調製	40	60	33	38	68	16	65	9	3	30	65	22	37	446	37
⑤未熟児の無菌調製(CV)*	非算定	198	104	97	205	25	145	83	94	114	193	238	113	1,609	134
無菌製剤処理料(①②③の合計)		807	678	789	746	708	867	760	783	846	834	859	844	9,521	793

2023年	点数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
①無菌製剤処理料１　イ*	100	26	25	27	22	33	32	35	41	28	32	35	25	361	30
②無菌製剤処理料１　ロ*	50	670	703	758	719	683	673	639	689	617	703	713	656	8,223	685
③無菌製剤処理料２*	40	104	97	129	152	92	79	76	58	106	135	92	157	1,277	106
④未熟児の無菌調製	40	12	15	56	77	4	26	35	14	42	130	66	157	634	53
⑤未熟児の無菌調製(CV)*	非算定	206	155	187	230	112	126	119	117	201	188	195	253	2,089	174
無菌製剤処理料(①②③の合計)		800	825	914	893	808	784	750	788	751	870	840	838	9,861	822

2024年	点数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
①無菌製剤処理料１　イ*	100	25	25	23	31	31	32	29	29	34	42	62	72	435	36
②無菌製剤処理料１　ロ*	50	678	711	693	787	753	632	731	782	731	804	656	678	8,636	720
③無菌製剤処理料２*	40	59	90	62	55	66	86	73	62	71	57	83	124	888	74
④未熟児の無菌調製	40	59	47	55	62	13	16	32	21	24	40	56	76	501	42
⑤未熟児の無菌調製(CV)*	非算定	103	140	121	93	75	105	96	99	118	75	166	208	1,399	117
無菌製剤処理料(①②③の合計)		762	826	778	873	850	750	833	873	836	903	801	874	9,959	830

*イ（閉鎖式接続機器を使用した場合：2015年３月より算定開始）　*ロ（イ以外の場合）
*無菌製剤処理料２（無菌製剤処理料１以外のもの）　*2017年11月より未熟児病棟のCVルート分の輸液調製を開始（非算定）

6．周術期関係（件数）

2024年	点数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
術後疼痛チーム管理加算	100				33	127	113	55	60	71	128	120	88	795	88
周術期薬剤管理加算	75				0	22	32	70	91	95	124	140	115	689	77

2024年4月より算定開始

7．後発品関係（件数）

2024年	点数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
後発医薬品使用体制加算1*	87	810	724	735	788	738	758	923	852	790	844	709	875	9,546	796
バイオ後続品導入初期加算	150	3	2	2	1	9	13	16	19	27	19	10	12	133	11
バイオ後続品使用体制加算*	100									101	142	150	140	533	133

■医薬品採用数と後発医薬品の割合（購入実績より）

年度区分		2021年度 （2021.4-2022.3）	2022年度 （2022.4-2023.3）	2023年度 （2023.4-2024.3）
採用医薬品目数 （３月末現在）	内用	821	825	832
	外用	263	250	248
	注射	651	673	662
	合計	1,735	1,748	1,742
後発品採用品目数 （３月末現在）	内用	309	314	331
	外用	83	72	77
	注射	173	168	174
	合計	565	554	582
後発品比率 （品目割合）	内用	76%	75%	81%
	外用	74%	71%	71%
	注射	74%	73%	70%
	合計	75%	74%	76%
後発品比率 （金額割合）	内用	45%	57%	63%
	外用	74%	71%	65%
	注射	38%	45%	45%
	合計	40%	47%	48%
後発品比率 （数量割合）	内用	87%	93%	95%
	外用	95%	96%	94%
	注射	89%	89%	90%
	合計	89%	93%	94%

割合は全て新指標で算出
新指標＝後発医薬品購入数量／（後発品のある先発医薬品購入数量＋後発医薬品購入数量）*100

■病棟業務

●３Ａ

➢持参薬の確認

➢注射薬の投与量、流速計算、点滴ルートの確認

➢副作用、相互作用の確認

➢薬剤情報提供

➢TDM解析

➢服薬指導

➢バイタル、尿量、血液検査データなどの情報による薬剤適正使用のモニタリング

➢定数薬および救急カート内の確認、定数薬の品目と数量の見直し

➢RSTカンファレンス参加（週１回）

➢麻薬管理状況確認

➢定数配置薬確認

●３Ｂ
- ➢持参薬、処方薬の用法・用量、禁忌、相互作用のチェック
- ➢医師、看護師への医薬品情報の提供
- ➢TDM解析
- ➢処方薬についての服薬指導と副作用確認
- ➢定数配置薬処方の代行入力

●４Ａ（小児）
- ➢年齢・体重に応じた内服薬・注射薬の用法用量、相互作用のチェック
- ➢持参薬の確認・報告
- ➢家族・本人への服薬指導、副作用の確認
- ➢定数薬のチェック
- ➢週１回の病棟カンファレンスへの参加
- ➢医師や看護師への医薬品情報の提供
- ➢抗菌薬の調製方法及びメインの輸液との配合変化表の改訂
- ➢特殊配送医薬品の搬入および病棟への運搬
- ➢高額医薬品の投与スケジュール管理および購入手続き

●４Ａ（未熟児）
- ➢年齢・体重に応じた内服薬・注射薬の用法用量、相互作用のチェック
- ➢配合変化のある薬剤を複数投与する場合の投与ルートの提案
- ➢TDM解析
- ➢依頼された家族への服薬指導
- ➢定数薬のチェック
- ➢中心静脈より投与する薬剤の無菌調製（平日）
- ➢無菌調製に関する運用管理およびマニュアルの作成・改訂
- ➢職種間での医薬品情報の共有

●４Ｂ
- ➢入院時の持参薬チェック
- ➢内服薬、注射薬の相互作用、禁忌等の確認
- ➢処方薬についての服薬指導
- ➢化学療法時のパンフレットでの治療スケジュールと服薬指導、副作用の対処法の説明
- ➢両親学級（オンライン）

●５Ａ
- ➢化学療法時のパンフレットでの治療スケジュールと服薬指導、副作用の対処法の説明
- ➢内服薬、注射薬の相互作用、禁忌等の確認と処方薬についての服薬指導
- ➢入院時の持参薬報告
- ➢病棟ストック薬の代行処方
- ➢腹膜透析液の管理
- ➢月１回の腎臓病教室
- ➢カンファレンス参加

●５Ｂ
- ➢入院時持参薬の確認、代替薬の提案
- ➢入院時患者情報収集（アレルギー、副作用歴、服薬状況の確認等）
- ➢化学療法の投与量確認、パンフレットを用いた患者への説明、副作用モニタリング
- ➢内服薬、注射薬の処方チェック
- ➢内服薬や注射薬の配合変化、併用注意などスタッフへ医薬品適正使用に関する情報提供
- ➢TDM解析と処方提案
- ➢患者への服薬指導
- ➢プレアボイド報告

●６Ａ
- ➢緊急入院時持参薬の報告、また、院内処方切り替え時の薬剤の確認、アレルギー、副作用歴、服薬状況の確認、院内同効薬の処方提案
- ➢内服薬、注射薬の配合変化・相互作用の確認と処方薬についての服薬指導
- ➢病棟スタッフからの注射剤の投与ルート等についての問い合わせに対する回答
- ➢麻薬の管理状況の確認（週１回）
- ➢定数保管薬（内服）の代行処方
- ➢心リハカンファレンスへの参加（週１回）
- ➢心リハ委員会への参加（２か月に１回）
- ➢心臓病教室（週１回）
- ➢循環器内科および心臓血管外科カンファレンスへの参加
- ➢TDM解析

●６Ｂ
- ➢入院時持参薬の報告（特に抗血栓薬等）および残薬整理、院内同効薬の処方提案
- ➢医師－看護師へ医薬品適正使用に関する情報提供
- ➢内服薬、注射薬の処方チェックと処方薬についての服薬指導
- ➢TDM解析と処方提案
- ➢整形外科カンファレンスへの参加（週２回）

●７Ａ
- ➢持参薬報告、術前中止薬のチェックや処方薬についての服薬指導
- ➢化学療法時の吐き気、末梢神経障害、便秘、下痢等、副作用軽減のための処方提案
- ➢病棟スタッフからの注射剤の配合変化についての問い合わせにする回答
- ➢TDM解析
- ➢病棟会議への参加

●７Ｂ
- ➢入院患者経過確認と投薬状況確認
- ➢処方薬の継続処方薬依頼とMDRA検査依頼
- ➢病棟スタッフとの情報共有
- ➢病棟管理薬チェック
- ➢入院時の持参薬報告

●８Ａ
➢持参薬の報告、代替薬の提案
➢入院患者の内服・注射の投薬状況の把握と用法用量、投与速度、相互作用の確認
➢用法・用量、副作用も含めた服薬指導のほか、肝臓病教室にて患者指導を実施
➢病棟スタッフへの配合変化等の医薬品情報の提供
➢病棟保管薬の代行入力
➢肝臓内科カンファレンス、回診への参加
➢TDM解析
➢入院中に転倒があった患者に対する、多職種カンファレンス

●８Ｂ
➢医薬品の投薬・注射状況の把握
➢患者等に対するハイリスク薬等に係る投与前の詳細な説明
➢薬剤の投与にあたり、流量又は投与量の計算等の実施
➢持参薬報告
➢TDM解析
➢患者等に対する処方薬についての服薬指導
➢化学療法時のパンフレットでの治療スケジュール、副作用およびその対処法の説明

●９Ａ
➢入院患者経過確認・治療方針等確認
➢入院時の持参薬鑑別・院内採用薬報告
➢化学療法時のパンフレットでの治療スケジュール、副作用およびその対処法の説明
➢内服薬、注射薬の処方チェック
➢病棟スタッフからの注射剤の配合変化、投与ルート等についての問い合わせ
➢麻薬の管理状況の確認
➢診療科カンファレンスへの参加
➢TDM解析
➢レブメイト患者登録・ID失効手続き
➢DI情報の収集と主治医への情報提供

●９Ｂ
➢薬物療法の適正使用の確認
➢服薬指導（理解可能な患者のみ)、服薬支援（一包化等）及び服用法の説明
➢病棟ストック薬の確認など医薬品の管理

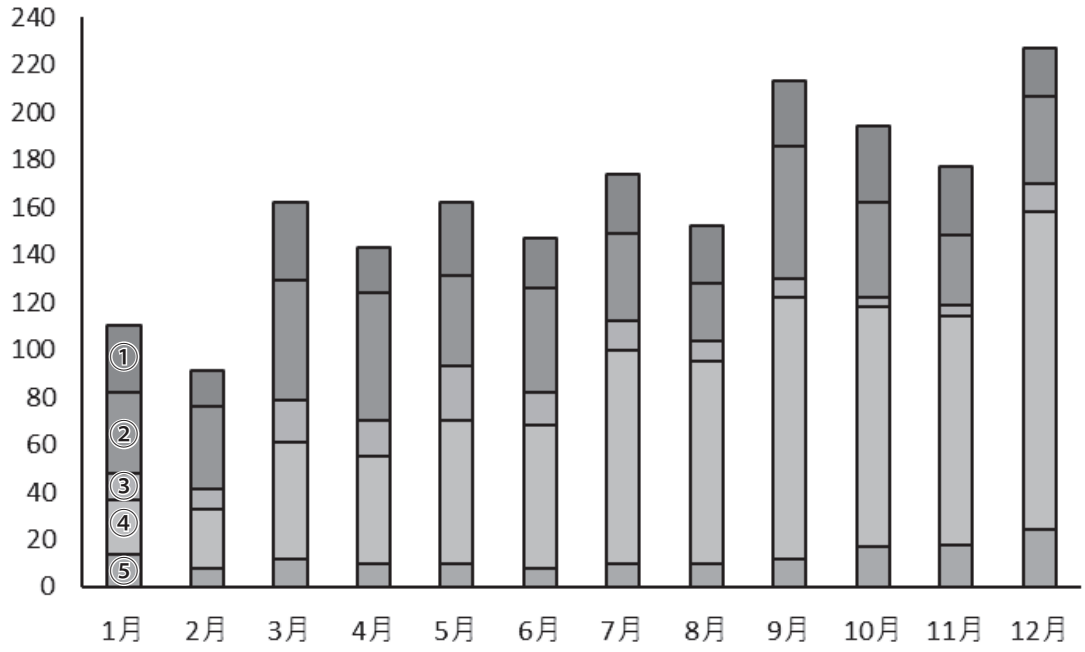
●病棟活動の事例報告について
　2021年６月より医療安全の質向上の観点から、「情報共有」の目的で業務の可視化を行うこととして病棟活動事例の集積を開始した。また事例を以下の５つに分類し、優良事例を薬剤管理運営委員会にて紹介している。

①薬学的観点（薬理作用、相互作用、配合変化等からの判断）
②医薬品情報（添付文書、インタビューフォーム等から確認できる情報）
③主観的情報（患者面談、患者の訴え、アドヒアランス等）
④客観的情報（副作用歴、アレルギー歴、薬歴、検査値等（腎機能低下事例を除く））
⑤腎機能低下（客観的情報のうち、腎機能低下）

全体の件数および採択率

2024年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
件　数（件）	110	91	162	143	162	147	174	152	213	194	177	227	163
採択率（%）	83	89	83	91	90	81	86	82	87	84	91	85	86

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
①薬学的観点	28	15	33	19	31	21	25	24	27	32	29	20
②医薬品情報	34	35	50	54	38	44	37	24	56	40	29	37
③主観的情報	11	8	18	15	23	14	12	9	8	4	5	12
④客観的情報	23	25	49	45	60	60	90	85	110	101	96	134
⑤腎機能低下	14	8	12	10	10	8	10	10	12	17	18	24



■外来業務

●外来化学療法センター

外来化学療法センターで治療を受けられる患者や家族に対し、2011年９月から薬剤管理指導を行っている。抗がん薬の投与量・投与スケジュールのチェックや化学療法前の患者のバイタル、検査値などを確認して、治療中の患者に対する薬剤管理指導を通した副作用マネジメントなどを行い、適切で安全な化学療法の実施を支援している。2020年６月から連携充実加算の算定を開始し、お薬手帳への副作用情報提供シールの貼付など、がん薬物療法における地域の保険薬局との連携強化を図っている。

外来化学療法センターにおける医師へのオーダー確認および処方提案件数

2024年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
件数	54	69	67	51	53	56	53	106	110	128	110	149

●薬剤師外来

近年、分子標的治療薬をはじめとする注射薬と同等以上の効果を持った経口抗がん薬が多数開発され、がん治療のキードラッグとして積極的に使用されている。2013年10月から腫瘍内科の診察枠に薬剤師外来を開設して予約制で経口抗がん薬の初回導入時やレジメン変更時に説明を行い、治療が継続できるよう支援を行っている。2024年６月から化学療法患者を対象とした医師診察前面談用ブースを開設した。専任薬剤師が副作用の聞き取り等を実施し、医師への情報共有・副作用対策の処方提案など行い、患者満足度上昇や化学療法の継続率向上、医師の診察時間短縮に寄与する取り組みとなっている。

●予約入院支援センター

2012年４月より予約入院支援センターにて、クリティカルパス適応患者を対象に入院前の内服薬確認を開始し、現在では対応診療科すべての患者においても適宜内服薬確認を行っている。観血的治療（手術・内視鏡などの処置）や心臓カテーテル検査、血管造影検査時に休薬が必要とされる薬剤をスクリーニングし、該当する薬があれば医師へ確認し、患者・家族へ説明を行っている。また、電子カルテに持参薬を記録し、病棟スタッフと情報共有している。2024年１月から12月までの12ヶ月の確認件数は4,660件で休薬対象薬を含んでいた件数は210件であった。この内、カルテに休薬等の指示がなく医師に確認後休薬となった件数は151件であった。

予約入院支援センターでの薬剤業務状況（2024年）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
患者数	401	323	391	398	373	373	464	368	375	409	400	385
内服あり	328	262	305	315	318	307	375	295	295	329	321	297
休薬対象あり	16	17	12	22	14	21	17	12	20	22	21	16
休薬を確認した件数（注）	12	13	9	13	12	16	11	9	14	13	15	14

（注）：カルテに指示がなく医師に休薬するかどうかの確認をした結果、休薬となった件数

■手術室業務

チーム医療の一環として、2024年４月から手術室専任薬剤師を配置し、周術期における薬剤管理の取組を開始している。手術前中止薬の確認、麻酔科医・手術室看護師との連携、術中使用薬に関する対応、術後病棟の担当薬剤師との連携、術後疼痛管理チームの一員として術後疼痛管理への介入などの業務を実施している。

委員会における薬剤師の役割

■がん薬物療法及びレジメン審査委員会

院内で施行されるがん薬物治療の妥当性と科学的根拠を審査する当該委員会に薬剤師３名が参加している。薬剤師は、新規に実施される臨床研究を含むがん薬物療法のレジメン申請書・投与計画表・根拠論文を受理・審査後、事前審査委員へ審査を依頼している。レジメン審査委員会では申請されたレジメンの妥当性について答申を行い、承認レジメンを電子カルテのレジメンシステムへの登録・管理のほか、委員会議題・議事録作成、レジメン申請窓口などの事務局業務を行っており、2024年（１月～ 12月）は新規申請４件、迅速審査27件であった。

■ICT

毎週火曜日に開催されているミーティングに薬剤師が参加し、抗菌薬の使用状況、指定抗菌薬（カルバペネム系薬剤・抗MRSA薬剤）の長期使用患者などについてICD、ICNまたはコメディカルスタッフなどに対して報告を行っている。ミーティング後の院内の環境ラウンドへも同行し、アドバイスを行っている。毎週金曜日の感染症内科のカンファレンスでは指定抗菌薬の長期使用患者、許可制抗菌薬の使用患者および感染症コンサルテーションの対象患者に関する抗菌薬適正使用について協議している。職員対象に年に１～２回講習会を行っている。

また、毎月、全国規模の耐性菌サーベイランスであるJANIS（院内感染対策サーベランス）、J-SIPHE（感染対策連携共通プラットフォーム）への報告を行っている。

感染対策向上加算に係る合同カンファレンスを年に４回、相互評価を２施設とそれぞれ年に１回行っている。合同カンファレンスでは、抗菌薬使用状況に関する連携４施設すべてのデータ整理、情報提供を担当している。

当院では指定抗菌薬（カルバペネム系薬剤・抗MRSA薬剤）の適正使用に向けた届出率向上、使用状況確認の効率化を目的に、電子カルテの抗菌薬管理機能を用いる方法を導入しており、届出率は100％を維持している。

AUD（抗菌薬使用密度）を用いた耐性菌サーベイランスへの取り組みを行い、耐性菌検出率と抗菌薬使用量との関連性について研究を開始しており、今後に期待されている。

■NST

毎週木曜日に行われるカンファレンス・回診へ参加し、投薬状況の確認、輸液メニューの組成チェック、血液データの確認、薬剤の提案等を行っている。月１回のNST委員会ではNST加算件数や問題点等を報告している。

■緩和ケア

当院の緩和ケアチームは身体症状担当の緩和ケア科医師、精神症状担当の精神科医師、緩和ケアチーム専従のがん性疼痛認定看護師、緩和ケア認定看護師、薬剤師、栄養士、作業療法士、ソーシャルワーカーなどの多職種からなるチームである。週に１回カンファレンスを行い、薬剤師は、患者の症状に合わせた適切な薬剤の選択、投与量の調節、副作用のモニタリングなどを通して、患者の苦痛緩和へ貢献している。

■RST

呼吸ケアサポートチーム（RST）は人工呼吸器を装着している患者に対し、人工呼吸器の使用上の問題に関するサポートを多職種連携で行うことで、患者ケアを向上させ人工呼吸器の早期離脱を目指している。毎週火曜日に回診とカンファレンスを実施し、主に鎮痛薬、鎮静薬について薬剤師として助言を行うなど薬学的介入を行っている。

■医療安全

週１回開催の医療安全管理部会、月１回開催の医療安全管理委員会、医療安全推進担当者会議があり、特に医薬品関連のインシデントについてはシステム等を活用した防止策を講じ、再発防止に取り組んでいる。また部内ではインシデント発生時の対応や事例分析、対策等を共有し、部員全員で医療安全における意識の向上と業務改善を行っている。

■クリティカルパス委員会

２か月に１回のパス委員会と２か月に１回の推進部会への参加を通して、事務も含めた他職種と情報交換を行いながらよりよいパス作成に取り組んでいる。

■腎臓病教室

月に１回開催されている腎臓病教室に参加している。教室では医師・看護師・栄養士・MSWと協力し、腎臓内科に通院もしくは入院されている患者様とそのご家族に対して各スタッフ10分前後の講義を行っている。

■糖尿病教室

毎週木曜日に開催される入院患者向け糖尿病教室には、薬剤師担当回の講師として２名参加している。主として血糖コントロールを目的に入院した患者を対象に、薬物治療に関した講義を実施している。当院では年１回、糖尿病患者の教育及び交流を目的として「みんなの健康教室」を開催しており、そこでも担当テーマに沿った講義を薬剤師が実施している。

■肝臓病教室

1年に4回開催される肝臓病教室に薬剤師1名が参加している。医療スタッフは専門医、薬剤師、看護師、栄養士の4名である。入院・外来患者に対してスライドを用いて肝疾患の薬物療法（肝炎、肝硬変などをテーマに）について説明し患者の理解を得ながら適切な薬物療法の支援を行っている。

■両親学級

『妊娠とお薬について』をテーマに妊娠期特有の薬の処方やサプリメントについての説明を中心にweb講義を行っている。

■心臓病教室

週に1回、医師・看護師・薬剤師より、心疾患で入院されている患者さんとそのご家族を対象に講義を行う。心疾患患者に対する薬物治療の目的、薬剤の特徴、副作用、内服における注意点、服用継続の意義に対して理解を目的とした講義を実施し、積極的な患者教育に取り組んでいる。また、心不全患者サポートの質向上を目指し、心不全療養指導士の資格取得にも取り組んでいる。

研修・教育

■カンファレンス・勉強会

名称	開催頻度
薬剤勉強会（製薬会社説明）	適宜

■薬学部学生実務実習

薬学部の薬剤師養成課程が6年制に移行し、5年時に病院での11週間の実務実習が義務付けられたことに伴い、当院でも2010年5月より薬学部の学生を受入れ、実習指導を行っている。2024年度も2期6名、3期6名の学生を受入れ、調剤業務、製剤業務などの基礎的なものから、服薬指導、疑義照会、TDM解析、病棟業務、チーム医療などより臨床に密着した業務を、カリキュラムに基づいて、指導・教育を行っている。

名　　称	対　象	受入人数	実施月
2023年度 第2期 長崎国際大学	5年生学生	6名	5月～8月
2023年度 第3期 長崎国際大学	5年生学生	6名	8月～11月
2023年度 第3期 国際医療福祉大学	5年生学生	1名	8月～11月

■長崎県大村東彼地区薬剤師会講習会及び院内化学療法セミナー

名　　称	参加職種	参加人数	実施日
2024年度第1回臨床連携セミナー	薬剤師	63名	7月11日
大村東彼薬剤師会薬学講習会	薬剤師	76名	9月5日

■各種研修（機構主催；本部、ブロック）

名　　称	参加者	参加人数	実施月
令和5年度クリティカルパス実践研修会	吉田	1	2
令和5年度災害医療従事者研修	永田	1	3
令和6年度新規採用者研修	白石他	3	4
令和6年度新任中間管理者研修	松藤	1	6
令和6年度チーム医療推進のための研修（NST）	中川	1	9
令和6年度薬剤師交換研修	津山	1	11

■認定薬剤師・専門薬剤師など

名　　称	氏　　名
日本医療薬学会 医療薬学指導薬剤師	三角紳博
日本医療薬学会 医療薬学専門薬剤師	三角紳博
日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師	濱野麻子
日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師	濱野麻子
日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師	三角紳博，橋本未雷，副島啓司，白川敦規，川﨑美幸
日本臨床栄養代謝学会 栄養治療専門療法士	橋本未雷
日本臨床栄養代謝学会NST専門療養士	三角紳博，橋本未雷，松藤敬佑，松尾待池
日本病院薬剤師会　感染制御認定薬剤師	白川敦規
日本循環器学会　心不全療養指導士	松永望東子
日本アンチ・ドーピング機構スポーツファーマシスト	小園晃生，白川敦規，永江一徳
日本臨床薬理学会 日本臨床薬理学会認定CRC	川﨑美幸，小園晃生
日本リウマチ財団 リウマチ登録薬剤師	大津貴寛
厚生労働省 DMAT登録	綱脇徹意，相川実穂

学会・論文など

1）原著論文　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	0	0	0	0

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

2）学会発表　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	6	0	2

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

3）その他　　**（件数）**

種類	講演
件数	7

4）学会座長　　**（件数）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	0	1

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

研究業績

学会・研究会・講演

B：国内学会

B-b1：シンポジウム，パネルディスカッション等

＜講演＞

1）バイオシミラー推進に向けた長崎医療センターでの取り組み
橋本未雷.
BS目標達成と持続可能な病院経営. 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.19.

B-b2：一般演題

＜ポスター＞

1）COVID-19患者におけるヘパリンカルシウムを用いた予防的抗凝固療法と活性化部分トロンボプラスチン時間（APTT）延長に関する調査.
永田健太郎、松尾待池、野田晃洋、堤国章、橋本未雷、福山雄卯介、三角紳博.
ポスター 11：臨床応用. 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.18.

2）エンパグリフロジン服用患者における心血管イベント発生率に対するBMIの影響についての調査.
福嶋尚子、松永望東子、福山雄卯介、橋本未雷、三角紳博.
ポスター 102：調査報告. 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.18.

3）メロペネム供給停止の影響－多施設共同後ろ向き観察研究－.
副島啓司、高武嘉道、平田亮介、西裕美、塚田寛子、濱崎翔平、長崎洋司、橋本雅司.
ポスター 151：感染対策・がん関連. 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.19.

4）セフメタゾール投与中にPT-INRの過延長を認めた一例.
野田晃洋、橋本未雷、福山雄卯介、三角紳博.
ポスター 28. 感染制御（治療薬）1 . 第34回日本医療薬学会年会. 千葉, 2024.11.2.

5）アンデキサネット　アルファのセット処方使用開始後のアンケート調査結果.
相川実穂、松尾待池、大津貴寛、橋本未雷、福山雄卯介、木場みちよ、里吉拓海、辻村美希代、宮本瑠美、権志成、中道親昭、三角紳博.
使用状況調査・意識調査２. 第34回日本医療薬学会. 千葉, 2024.11.3.

6）タゾバクタム/ピペラシリンとバンコマイシン併用時の急性腎障害発現におけるバンコマイシン投与設計方法の影響に関する検討.
井上愛菜、橋本未雷、中川未菜、吉本辰暁、福山雄卯介、三角紳博、今泉芳孝.
有害事象・副作用 1 . 第34回日本医療薬学会. 千葉, 2024.11.3.

B-c：研究会発表

＜口演＞

1）ヘパリンカルシウムを用いた予防的抗凝固療法を施されているCOVID-19患者における活性化部分トロンボプラスチン時間（APTT）延長に関する調査.
永田健太郎、松尾待池、野田晃洋、堤国章、橋本未雷、福山雄卯介、三角紳博.
一般演題Ｂ－３. 第48回九州地区国立病院薬剤師会薬学研究会. 福岡, 2024.6.1.

2）タゾバクタム/ピペラシリンとバンコマイシン併用時の急性腎障害発現におけるバンコマイシン投与設計方法の影響に関する検討.
井上愛菜、橋本未雷、中川未菜、吉本辰暁、三角紳博.
令和６年度佐賀・長崎地区国立病院薬剤師会薬学研究会. 嬉野, 2024.12.14.

C，D，F：学術講演他

C-b：学術講演［国内］

＜講演＞

1）がん患者の鎮痛薬の使い方.
濱野麻子.
令和５年度第２回薬薬連携勉強会. 大村, 2024.1.18

2）当院での慢性便秘症治療薬の使用状況と課題.
吉田翔平.
精神疾患合併の慢性便秘症治療を考える～便通異常症診療ガイドライン2023～. 長崎（Web), 2024.3.8.

3）高齢者肺癌治療に対する薬剤師フォローアップ.
堤国章.
Lung Cancer Web Seminor. 長崎（Web), 2024.4.24.

4）当院のimAEに対するチームの取り組み.
堤国章.
長崎肝細胞癌治療Meeting. 長崎（Web), 2024.05.13.

5）薬剤師外来の立ち上げと当院の活動状況.
堤国章.
乳がん診療を考える in 長崎 県央. 長崎（Web), 2024.9.10.

D：学会・研究会開催

＜講演＞

1）オピオイド導入時の副作用管理について.
津山昌子.
2024年度大村東彼薬剤師会薬学講習会. 大村, 2024.9.5.

F-b：学会・研究会座長［国内学会］

＜座長＞

1）橋本未雷.
アップグレードした疼痛治療を目指す～タリージェ OD錠の製剤設計～令和５年度第２回薬薬連携勉強会.
大村, 2024.1.18.

2）橋本未雷.
進行・再発子宮体癌の薬物療法～レンバチニブ・ベムブロリズマブ療法を中心に～令和６年度第１回臨床連携セミナー. 大村, 2024.7.11.

3）橋本未雷.
がん患者さんの痛みを再考する！～薬剤師の視点でオピオイド鎮痛薬を使いこなす～ 2024年度大村東彼薬剤師会薬学講習会. 大村, 2024.9.5.

4）堤国章.
令和６年度佐賀・長崎地区国立病院薬剤師会薬学研究会. 嬉野, 2024.12.14.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

病理診断科

責任者　三浦 史郎

診療部門の特色

病理部門は常勤病理医３名、後期研修医１名、非常勤病理医１名で病理診断、病理解剖を行っています。腎生検、悪性リンパ腫の診断は特殊なため産業医科大学病理と久留米大学の専門家にコンサルトしています。てんかん病理は秋田県立脳血管研究センターの専門医に依頼しています。日本病理学会認定専門医が４名で、２名が日本臨床細胞学会認定指導医資格を有しています。主な病理の業務内容は①細胞診断、②生検組織診断、③手術で摘出された臓器・組織の診断、④手術中の迅速診断、⑤病理解剖、⑥臨床との合同カンファレンス、院内、大村医師会CPCの主催、⑦研修医の指導などです。病理診断は最終診断として治療方針の決定に重要な役割を担っています。当院では細胞診、組織診とも全例トリプルチェックを行い、診断精度の向上と良質な医療の提供を心がけています。さらに症例によっては国立がんセンター、日本病理学会九州支部のコンサルテーションシステムなどを積極的に活用しています。近年の傾向はがん診療の発達で、病理検体を用いた生物製剤・ホルモン受容体薬の選択の為の免疫染色検査やがんゲノムパネル検査を含む遺伝子検査が急増しています。コロナ後も減少傾向にあった組織診断数は、昨年は5,893件でしたが、本年は6,134件であり、コロナ前の水準に回復しています。さらに、迅速診断件数も昨年は286件でしたが、本年は327件と増加しており、手術数の増加を反映しているものと思われます。一方、全国的に減少傾向にある剖検は、昨年は18体と県内トップでしたが、本年は10体と本院でも減少しています。研修医教育を兼ねたCPCは例年通り年5回実施し、複数の診療科が一堂に会し多面的に討議する貴重な教育の場になっています。

入院診療実績

病理解剖	10体	組織検体数	8,233件
組織診断	6,135件	作製ブロック数	20,494個
細胞診断	6,214件	作製標本枚数	35,437枚
迅速組織診断	327件	免疫組織枚数	8,236枚
特殊染色	4,442枚	治験・外注未染色枚数	5,953枚

研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
院内CPC	5 /年
大村医師会CPC	2 /年
肝病理カンファランス	1 /週
皮膚病理カンファランス	1 /月
抄読会	1 /月
九州スラコン症例検討会	隔月

治験、共同臨床研究（症例登録する研究）

治験等参加研究一覧

No.	項目 ①治験、②医師主導治験、③GCP準拠製造販売後臨床試験、④受託臨床研究（文書同意あり）、⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）、⑥公費臨床試験、⑦製造販売後調査（文書同意あり）、⑧製造販売後調査（文書同意なし）、⑨その他	研究課題名	同意書有無	依頼者（または試験母体）	責任医師（または担当研究者名）
1	⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）	Semi-dry dot-blot（SDB）法を応用した新規乳癌リンパ節転移診断キットに関する多施設共同臨床性能試験（再試験）	有	㈱ニッポンジーン	三浦史郎（分担）

NHOネットワーク共同研一覧

No.	区分（NHO/EBM）	研究課題名（採択番号）	研究代表者名	研究代表者施設名	研究責任者名	同意書の有無
1	NHO	メトトレキサート（MTX）関連リンパ増殖性疾患の遺伝子変異プロファイルの解析（H31-NHO（多共同）-02）	星田義彦	大阪南医療センター	伊東正博	無
2	NHO	国立病院機構内に組織した『病理診断ネットワーク』によるデジタルパソロジーをつかつた病理診断ダブルチェックの実現性と有効性に関する研究（H31-NHO（癌般）-04）	寺本典弘	四国がんセンター	伊東正博	無

競争的研究費一覧

No.	項目（財源別） ①文部科学省科学研究費、②科学研究費助成事業（科学研究費補助金）、③科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）、④科学技術振興機構科学研究費、⑤その他文部科学省関連研究費、⑥厚生労働科学研究費、⑦国立高度専門医療センター等研究費、⑧その他厚生労働省関連研究費、⑨日本医療研究開発機構研究費、⑩その他財団等からの研究費、⑪民間セクターからの寄附金	研究課題名	研究者名	研究事業名（依頼業者名）	主任分担	新規継続
1	①文部科学省科学研究費	発達性てんかん性脳症における皮質アストロサイトの未熟性を遺伝子レベルで解析する	三浦 史郎	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究（C）	分担	新規
2	①文部科学省科学研究費	発達性てんかん性脳症における皮質アストロサイトの未熟性を遺伝子レベルで解析する	伊東 正博	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究（C）	分担	新規
3	①文部科学省科学研究費	原発性胆汁性胆管炎の門脈域におけるPOU2AF1とその関連分子の解析	伊東 正博	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究（C）	分担	継続
4	⑩その他財団等からの研究費	チェルノブイリ周辺地域と本邦の自然発症性甲状腺癌の病理組織学的検討	伊東 正博	「放射線災害・医科学研究拠点」共同利用・共同研究	主任	継続
5	⑩その他財団等からの研究費	腫瘍組織登録の標準化	三浦 史郎	長崎県医師会	主任	継続

学会・論文など

1）原著論文　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	2（ 4 ）	2	0	1

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

2）学会発表　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0（ 1 ）	20（ 1 ）	15	2

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

3）学術講演　　**（件数）**

種類	教育講演			
件数	3			

4）学会座長　　**（件数）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	2	0

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

研究業績

論　文　発　表

A：英文

A-a1：英文原著

1）Characteristics and immune checkpoint status of radioiodine-refractory recurrent papillary thyroid carcinomas from Ukrainian Chornobyl Tissue Bank donors.
Bogdanova T, , Rogounovitch TI, Zurnadzhy L, Mitsutake N, Tronko M, Ito M, Bolgov M, Chernyshov S, Gulevatyi S, Masiuk S, Yamashita S, Saenko VA.
Front Endocrinol (Lausanne). 14：1343848. doi: 10.3389/fendo.2023.1343848. eCollection 2023, 2024 Jan 8.

2）Prevalence and diagnostic significance of non-invasive follicular thyroid neoplasm with papillary-like nuclear features in Japan-A multi-institutional study.
Hirokawa M, , Ito M, Motoi N, Chiba T, Imamura Y, Yasuoka H, Hino R, Higuchi M, Miyauchi A, Akamizu T.
Pathol Int. 74(1)：26-32. doi：10.1111/pin.13393. Epub 2023 Dec 5, 2024 Jan.

3）A genome-wide association study identified PTPN2 as a population-specific susceptibility gene locus for primary biliary cholangitis.
Hitomi Y, Ueno K, Aiba Y, Nishida N, Kono M, Sugihara M, Kawai Y, Kawashima M, Khor SS, Sugi K, Kouno H, Kouno H, Naganuma A, Iwamoto S, Katsushima S, Furuta K, Nikami T, Mannami T, Yamashita T, Ario K, Komatsu T, Makita F, Shimada M, Hirashima N, Yokohama S, Nishimura H, Sugimoto R, Komura T, Ota H, Kojima M, Nakamuta M, Fujimori N, Yoshizawa K, Mano Y, Takahashi H, Hirooka K, Tsuruta S, Sato T, Yamasaki K, Kugiyama Y, Motoyoshi Y, Suehiro T, Saeki A, Matsumoto K, Nagaoka S, Abiru S, Yatsuhashi H, Ito M, Kawata K, Takaki A, Arai K, Arinaga T, Abe M, Harada M, Taniai M, Zeniya M, Ohira H, Shimoda S, Komori A, Tanaka A, Ishigaki K, Nagasaki M, Tokunaga K, Nakamura M.
Hepatology. doi：10.1097/HEP.0000000000000894. Online ahead of print, 2024 Apr 23.

4）The effect of recent antirheumatic drug on features of rheumatoid arthritis-associated lymphoproliferative disorders.
Hoshida Y, , Tsujii A, Ohshima S, Saeki Y, Yagita M, Miyamura T, Katayama M, Kawasaki T, Hiramatsu Y, Oshima H, Murayama T, Higa S, Kuraoka K, Hirano F, Ichikawa K, Kurosawa M, Suzuki H, Chiba N, Sugiyama T,

Minami Y, Niino H, Ihata A, Saito I, Mitsuo A, Maejima T, Kawashima A, Tsutani H, Takahi K, Kasai T, Shinno Y, Tachiyama Y, Teramoto N, Taguchi K, Naito S, Yoshizawa S, Ito M, Suenaga Y, Mori S, Nagakura S, Yoshikawa N, Nomoto M, Ueda A, Nagaoka S, Tsuura Y, Setoguchi K, Sugii S, Abe A, Sugaya T, Sugahara H, Fujita S, Kunugiza Y, Iizuka N, Yoshihara R, Yabe H, Fujisaki T, Morii E, Takeshita M, Sato M, Saito K, Matsui K, Tomita Y, Furukawa H, Tohma S.
Arthritis Rheumatol. 76(6)：869-881. doi：10.1002/art.42809. Epub 2024 Mar 13, 2024 Jun.

A-a2：英文症例報告

1）Two Cases of Lobular Capillary Hemangioma in the Finger Suspected of Malignancy due to Rapid Growth.
Fujioka M, , Koga K, Soeda M and Miura S.
Ann Plast Reconstr Surg. 8(1)：1116, 2024 Apr 22,

2）Primary Malignant Melanoma of the Esophagus Treated with Surgical Resection at an Early Stage.
Yoneda A, , Ogata R, Ryu S, Yoshino K, Fukui S, Ikeda T, Kitasato A, Sugiyama N, Takeshita H, Minami S, Ito M, Kuroki T.
Case Rep Gastroenterol. 18(1)：189-194. doi：10.1159/000538161. eCollection 2024 Jan-Dec, 2024 Mar 28.

B：和文

B-a2：和文症例報告

1）膵壊死,胃壊死を伴った特発性脾梗塞の1例.
門田優太、釘山統太、吉野恭平、岡本辰哉、福井彩恵子、池田貴裕、米田晃、北里周、竹下弘明、南恵樹、三原裕美、三浦史郎、黒木保.
長崎医学会雑誌. 99(1)：25-29, 2024.6.

2）矢状断により評価した両側の固有鼻腔内逆生歯牙例.
沖田奈菜、吉田晴郎、田中藤信、三浦史郎.
日本鼻科学会会誌. 63(1)：112-118, 2024.4.22.

B-b：和文総説

1）【十二指腸・小腸疾患アトラス】腫瘍,腫瘍様病変　粘膜下腫瘍/粘膜下腫瘍様病変　神経内分泌腫瘍(NEN)：十二指腸乳頭部/副乳頭部.
黒木保、釘山統太、福井彩恵子、北里周、佐伯哲、三浦史郎.
消化器内視鏡. 36(4)：510-511, 2024.4.25.

学会・研究会・講演

A：国際学会, 国際会議

A-b2：一般演題

＜国際会議＞

1）A new approach to develop computer-aided screening system using artificial intelligence for gastric biopsy specimens.
Daiki Taniyama, Kiyomi Taniyama, Kazuya Kuraoka, Masayuki Mano, Norihiro Teramoto, Shiro Miura, Morihisa Akagi, Norihiko Katayama, Tomonori Kawasaki, Chika Nakajima.
Pathology Informatics Summit 2024. Michigan, USA, 2024.5.20-23.

B：国内学会

B-a：特別講演, 教育講演

＜特別講演＞

1）チェルノブイリ組織バンク（CTB）を振り返って.
伊東正博.
第11回日本甲状腺病理学会. 長崎, 2024.7.6.

B-b1：シンポジウム，パネルディスカッション等

＜シンポジウム＞

1）長崎県尿細胞診報告様式ワーキンググループの取り組み.
林洋子、市来奈津子、片渕直樹、佐田勇樹、陣内紗永子、田中圭、松尾朋博.
シンポジウム10；泌尿器報告様式パリシステムの普及を目指して, 第63回日本臨床細胞学会秋期大会. 幕張, 2024.11.16.

＜特別企画＞

1）サルコイドーシスを合併した自己免疫性肝炎の一例.
釘山有希, 末廣智之, 三浦史郎, 小森敦正.
特別企画；症例に学ぶ（自己免疫性肝疾患）(1), 第45回日本肝臓学会東部会. 仙台, 2024.12.6.

B-b2：一般演題

1）遺伝性平滑筋腫症腎細胞癌が疑われた若年発症腎細胞癌の 1 例.
大仁田亨、松島俊樹、鹿子木圭、錦戸雅春、添田李子、伊東正博、三浦史郎、山口純子、岩田隆寿、柿田聖太、青木大勇.
第102回長崎泌尿器科学会. 長崎, 2024.6.15.

2）縦隔血管腫に対して胸腔鏡下部分切除施行した一例.
兼行勇輔、朝重耕一、松本理宗、三原裕美、三浦史郎、田川努.
JATS Case Presentation Awards1；肺 1 , 第57回日本胸部外科学会九州地方会総会. 福岡, 2024.8.1.

3）アルカリによる化学損傷の３例.
西園馨子、藤岡正樹、藤原洸平、古賀一史、日吉尚、三浦史郎、三原裕美、添田李子.
第124回九州・沖縄形成外科学会学術集会. 熊本, 2024.10.26.

＜Oral＞

1）A new approach to develop computer-aided diagnosis using artificial intelligence for gastric biopsy specimens - 5th report.
Kiyomi Taniyama, Daiki Taniyama, Kazuya Kuraoka, Masayuki Mano, Norihiro Teramoto, Shiro Miura, Morihisa Akagi, Norihiko Katayama, Tomonori Kawasaki, Chika Nakajima.
一般口演（英語), 第22回日本デジタルパソロジー・AI研究会総会. 沖縄, 2024.8.29.

＜ワークショップ＞

1）空間トランスクリプトーム解析を用いた，原発性胆汁性胆管炎肝組織における空間的炎症および組織可塑性の検証.
小森敦正、釘山有希、三浦史郎.
ワークショップ３；自己免疫性肝胆疾患を探究する, 第45回日本肝臓学会東部会. 仙台, 2024.12.7.

＜口演＞

1）手術から10年後に心膜転移から心臓浸潤をきたした甲状腺乳頭癌の 1 例.
松井彰子、田中藤信、永井友基、三浦史郎、佐藤俊輔、有吉毅子男、熊井良彦.
第39群；甲状腺 4 , 第33回日本頭頸部外科学会総会. 愛媛, 2024.2.1.

2）シェーグレン症候群、関節リウマチの治療中に発症した肺原発悪性リンパ腫の一例.
塚田裕介、岩永希、赤城翠、三浦史郎、岡田覚丈、和泉泰衛、伊東正博、川上純.
初期研修医セッション 1 , 第67回九州リウマチ学会. 宮崎, 2024.3.2.

3）SARS-CoV-2 ワクチン 7 回目接種後、血小板減少と皮膚血管炎を契機に悪性リンパ腫の診断に至った1例.
森 民生、和泉泰衛、塩塚高史、安田淳、赤城翠、岡田覚丈、三浦史郎、今泉芳孝、岩永希.
一般演題８；血管炎, 第67回九州リウマチ学会. 宮崎, 2024.3.3.

4）膵・胆管合流異常に合併したBillNとIPNBの一例.
古賀潤紀、釘山統太、笠伸大郎、吉野恭平、福井彩恵子、米田晃、北里周、杉山望、竹下浩明、南恵樹、三浦史郎、

黒木保.
研修医セッション；肝胆膵, 第60回九州外科学会／第60回九州小児外科学会／第59回九州内分泌外科学会. 大分, 2024.3.8.

5）血小板増多症で発症しG分染法でフィラデルフィア染色体が検出されなかった慢性骨髄性白血病.
小谷龍太郎、榊智佳、西村紗央里、小林裕児、三浦史郎、伊東正博、今泉芳孝、吉田真一郎.
セッション１；骨髄系腫瘍, 第14回日本血液学会九州地方会. 福岡, 2024.3.9.

6）診断に苦渋した多発神経根病変を伴う神経サルコイドーシスの一例.
馬場あかね、安田淳、吉原聖智、最勝寺佑介、足利裕哉、原敦子、添田李子、伊東正博、和泉泰衛.
第121回日本内科学会総会. 東京, 2024.4.12-14.

7）コロナウイルスワクチン7回目接種後に血小板減少を伴う皮膚血管炎を発症した１例.
森民生、和泉泰衛、塩塚高史、安田淳、赤城翠、岡田覚丈、岩永希、添田李子、三浦史郎、今泉芳孝.
第68回日本リウマチ学会総会・学術集会. 神戸, 2024.4.19.

8）肝生検が診断に有用であった医原性免疫不全症関連リンパ増殖性疾患の一例.
中野颯斗、岡田覚丈、岩永希、和泉泰衛、末廣智之、三原裕美、伊東正博、川上純.
近未来のリウマチ医セッション４；臨床研修医 症例報告, 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会. 神戸, 2024.4.20.

9）診断に苦慮した粘膜類天疱瘡による喉頭横隔膜症の１例.
最勝寺佑介、岩永希、森彩加、鳥巣裕一、永井友基、三浦史郎、石井文人、和泉泰衛.
一般, 第345回日本内科学会九州地方会. 宮崎, 2024.5.25.

10）Cladosporium属による壊死性筋膜炎を伴う黒色真菌症を発症した維持血液透析患者の１例.
奥平雅之、岡哲、伊達雅浩、山下由恵, 三浦史郎, 牟田久美子, 西野友哉.
一般演題（口演）；血液透析２, 第54回日本腎臓学会西部学術大会. 姫路, 2024.10.6.

11）多巣性のミスセンス変異を伴う小児濾胞性甲状腺結節の１例.
松田勝也、三好寛明、森坪麻友子、渡邊順子、佐藤文彦、コーヘン朋子、上田真由、三嶋博之、木下晃、吉浦孝一郎、光武範吏、伊東正博、中島正洋.
一般演題２；甲状腺・膵, 第28回日本臨床内分泌病理学会学術総会. 長崎, 2024.10.11.

12）血液疾患に合併した自己免疫性肺胞蛋白症の1例.
村橋舞、夫津木遼、末原照大、乗富大地、原敦子、池田喬哉、近藤晃、添田李子、三浦史郎、迎寛.
一般演題12；嚢胞性肺疾患・肺胞蛋白症・その他. 第93回日本呼吸器学会・日本結核非結核性抗酸菌症学会・日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会 九州支部秋季学術講演会. 福岡, 2024.10.11.

13）縦隔リンパ節腫大を認め、気胸術後検体評価で肺腺癌の診断に至った１例.
野田知生、末原照大、池田喬哉、原敦子、松本博文、松岡優毅、三浦史郎、近藤晃、田川努、迎寛.
一般演題１；肺腫瘍, 第93回日本呼吸器学会・日本結核 非結核性抗酸菌症学会・日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会九州支部秋季学術講演会, 福岡, 2024.10.11.

14）中咽頭転移が疑われたKRAS G12C変異陽性肺多形癌術後再発の１例.
木場杏夏、菅崎七枝、峯慧輔、古賀哲、林徳真吉、竹本真之輔、西秀昭、三浦史郎、田川努、迎寛.
一般演題19；遺伝子変異陽性肺癌１, 第93回日本呼吸器学会・日本結核 非結核性抗酸菌症学会・日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会 九州支部秋季学術講演会. 福岡, 2024.10.12.

15）モガムリズマブ併用化学療法後に長期寛解を維持している成人T細胞白血病リンパ腫.
西村紗央里、今泉芳孝、榊智佳、小林裕児、三原裕美、三浦史郎、伊東正博、吉田真一郎.
一般演題；ATL・HTLV-1；その他, 第86回日本血液学会学術集会. 京都, 2024.10.13.

＜ポスター＞

１）Bypassを併用しAVMを摘出した一例.
案田岳夫、内田大貴、定方英作、吉田道春、原口渉、小野智憲、佐藤俊輔、三浦史郎.
一般ポスター２（卒外 P02）；出血性脳血管障害, STROKE 2024. 横浜, 2024.3.7-9.

２）甲状腺乳頭癌により癌性心膜炎を来した１剖検例.
三浦史郎、佐藤俊輔、二宮直樹、田中藤信、松井彰子、ムサジャノワ ジャンナ、中島正洋、添田李子、三原裕美、

伊東正博.
ポスター（一般）52；内分泌２, 第113回日本病理学会総会. 名古屋, 2024.3.29.

３）全身転移をきたした類粘液平滑筋肉腫の１例.
鹿島星林、平野純、小島真代、佐田勇樹、豊岡辰明、染矢賢俊、三浦史郎、伊東正博、山下洋.
ポスター；地域推薦演題２. 第65回日本臨床細胞学会総会（春期大会）. 大阪, 2024.6.8.

４）発熱、盗汗を伴う多発皮下結節に対して皮下脂肪織炎様 T 細胞リンパ腫（SPTCL）と診断した1例.
野口栞、三原裕美、三浦史郎、森英毅.
一般演題（ポスター）２;診断/検査/治療②（血液/内分泌/代謝）, 第15回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会. 浜松, 2024.6.8.

５）頸部に発生したLangerhans cell sarcomaの一例.
森彩加、田中藤信、沖田奈菜、二宮直樹、吉田晴郎、三原祐美、三浦史郎.
P第３群 唾液腺, 第48回日本頭頸部癌学会. 浜松, 2024.6.20.

６）自験11例から見た乳腺扁平上皮癌に対する診療の検討.
杉山望、南恵樹、織方良助、笠伸太郎、福井彩恵子、吉野恭平、釘山統太、米田晃、北里周、竹下浩明、三浦史郎、黒木保.
e-Poster；薬物療法（転移・再発）；その他（薬物療法）, 第32回日本乳癌学会学術総会. 仙台, 2024.7.11.

７）男性腋窩副乳原発と考えられるアポクリン癌の１例.
南恵樹、杉山 望、三原裕美、三浦史郎、伊東正博.
e-Poster；病理診断；特殊型, 第32回日本乳癌学会学術総会. 仙台, 2024.7.11.

８）急激な経過をたどった気腫性胃炎の２例.
梅木悠希、森英毅、伊東正博、和泉泰衛.
感染症２, 第346回日本内科学会九州地方会. 久留米, 2024.8.31.

９）悪性の疑いを払拭できなかった急速増大するlobular capillary hemangioma（pyogenic granuloma）の経験.
古賀一史、藤岡正樹、藤原洸平、西園馨子、日吉 尚、三浦史郎、伊東正博.
スター 71；皮膚疾患, 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.18.

10）当院で経験した肝原発平滑筋肉腫の１例.
十時花帆、武藤憲太、喜多なつみ、藤田美和子、浦山智子、藤野達也、釘山有希、添田李子、三原裕美.
スター 218；生理検査, 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.19.

11）甲状腺乳頭癌術後12年後に癌性心膜炎・心臓転移を来した１剖検例.
石飛俊介、三浦史郎、佐藤俊輔、二宮直樹、田中藤信、松井彰子、ムサジャノワ ジャンナ、添田李子、三原裕美、伊東正博.
スター 138；病理検査２, 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.19.

12）診断に苦慮した胸部SMARCA4欠損未分化腫瘍の１例.
添田李子、三浦史郎、石飛俊介、三原裕美、伊東正博、近藤晃、田川努.
スター 138；病理検査２, 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.19.

13）バレメトスタットが有効であった再発難治成人 T 細胞白血病リンパ腫.
西村紗央里、今泉芳孝、渡辺春香、小林裕児、添田李子、三浦史郎、伊東正博、吉田真一郎.
第10回日本HTLV-1学会学術集会. 東京, 2024.11.9.

B-c：研究会発表

１）甲状腺癌のフォロー中に心不全に至って死亡した１例.
二宮直樹、三浦史郎.
大村CPCカンファレンス. 大村, 2024.1.24.

２）遊離空腸による竹輪大の再建食道が狭窄してマカロニになった一例.
藤原洸平, 藤岡正樹, 古賀一史, 日吉 尚, 西園馨子, 三原裕美.
第２回長崎医療センター形成外科研究会. 嬉野, 2024.12.7.

C, F：学術講演他

C-b：学術講演[国内]

＜講義＞

1 ）消化器系　胃腫瘍.
三浦史郎.
長崎大学医学部 系統講義. 長崎, 2024.5.23.

2 ）甲状腺の病理・細胞診.
伊東正博.
第 1 回甲状腺超音波検査者育成講習会. 郡山, 2024.7.14.

F-b：学会・研究会座長[国内学会]

＜座長＞

1 ）三浦史郎.
一般口演. 第38回長崎県臨床細胞学会総会および学術集会. 長崎（web）, 2024.6.29.

2 ）鹿島星林.
『品質保証と安全性管理の統合戦略：検体検査の精度と化学物質リスクアセスメントの最適化』
令和 6 年度国臨協九州支部会卒後教育セミナー . 長崎（web）, 2024.9.21.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

臨床検査部臨床検査科

責任者　長井 一浩・藤野 達也

臨床検査科概要

1．部署の紹介

臨床検査科は、検体検査部門と生理検査部門の２部門よりなります。検体検査部門では総合検査室にある一般・血液検査、生化学・免疫検査、輸血・HLA検査と細菌検査室、病理・細胞診検査室の５部署に分かれており、生理検査部門では心電図・脳波・呼吸機能・聴力等と超音波検査の２部署より構成されています。また、外来部門には外来採血室業務、病棟予約検査用の採血管準備を行うために技師および検査助手を配置しています。

スタッフは医師６名（臨床検査部長１名、臨床検査科長１名、病理診断科医師３名、臨床検査専任医師１名)、臨床検査技師36名、検査助手５名の合計47名で構成されています。当科では患者さんから得られた貴重な試料や情報を適切に用いて、診療現場に向けて「迅速で質の高い検査情報の提供（臨床検査科の理念)」を継続的に実践し医療の最前線を支えてゆくために、日々作業品質の向上に努めています。

2．組織の構成

臨床検査部長	１名
臨床検査科長（病理診断科長）	１名
病理診断科医師	３名
臨床検査専任医師	１名
臨床検査技師長	１名
副臨床検査技師長	２名
主任技師	７名
技師	18名
非常勤職員	13名（臨床検査技師８名、業務技術員５名）

3．臨床検査科品質方針

1）常に自己研鑽に努め、高水準の技術と知識の向上を図り正確で迅速なデータを提供することをもって、診療に貢献します。

2）顧客である当院医師ならびに患者に質の高いサービスを提供するために、ISO15189規格要求事項を厳守し、臨床検査サービスを継続的に改善します。

3）品質マネジメントシステムの有効性維持のため、品質方針に基づいた品質目標を設定し、遂行状況をレビューすることでよりよい品質を追及し続けます。

4）すべての要員がこの品質方針を理解し、品質方針に沿って協調して取り組みます。

4．令和６年運営目標

1）高度な専門知識・技術を有し、高い倫理観を伴った医療人を養成する
個人教育訓練を充実させ、力量評価にてスタッフの遂行能力を確実にレビューし、提供するデータの信頼性を担保する。また、学会・研修会への参加、専門能力の向上を図る。

2）診療に貢献できる高品質なサービスを提供する
検査室利用者の声をマネジメントレビューに反映させ、利用者へのサービス改善と高品質なサービスの提供に生かす。さらに、診療科からの問い合わせに対しアドバイスサービス実施件数を増加させる。

3）迅速な検査実施と高精度の検査情報を提供する
検査業務のTAT（検査所要時間）短縮に向けた活動計画を策定・実行するとともに、精度確保に向けた取組みとレビューを実施する。

4）業務環境改善と医療安全への貢献
作業環境やワークフロー管理状況の改善を図り適切な業務環境を整備する。インシデント報告の収集・分析を通じて潜在的なリスクを発掘、医療事故の発生を未然に防止する。

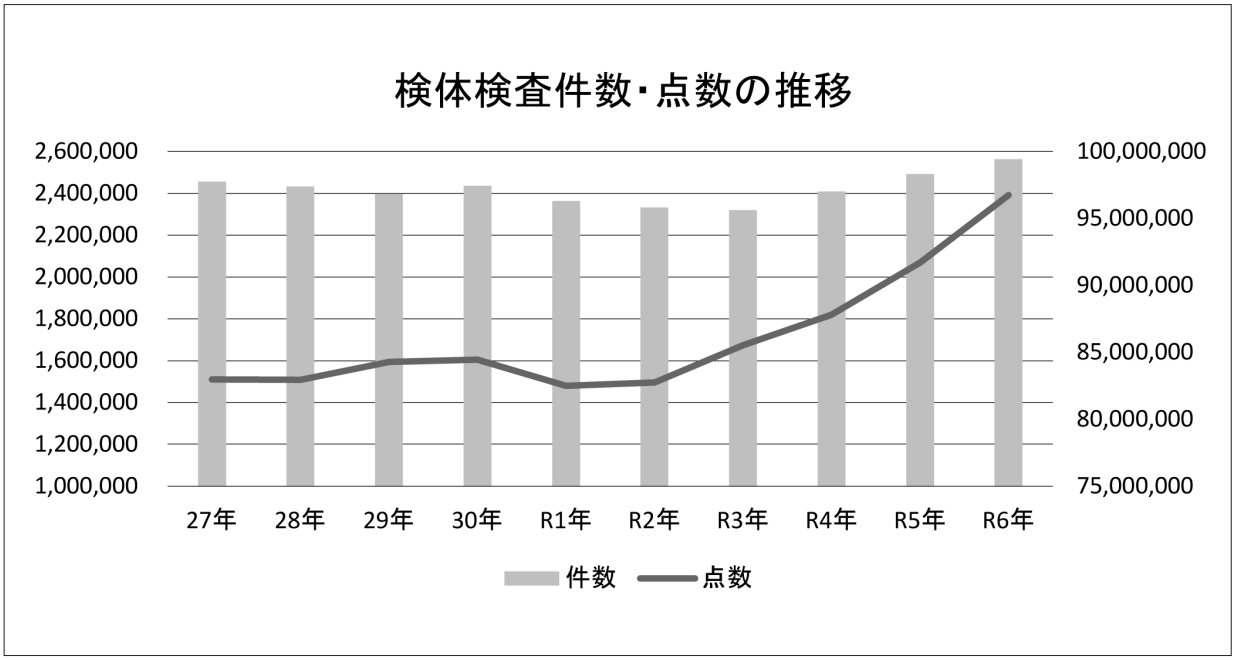
5．結果と展望

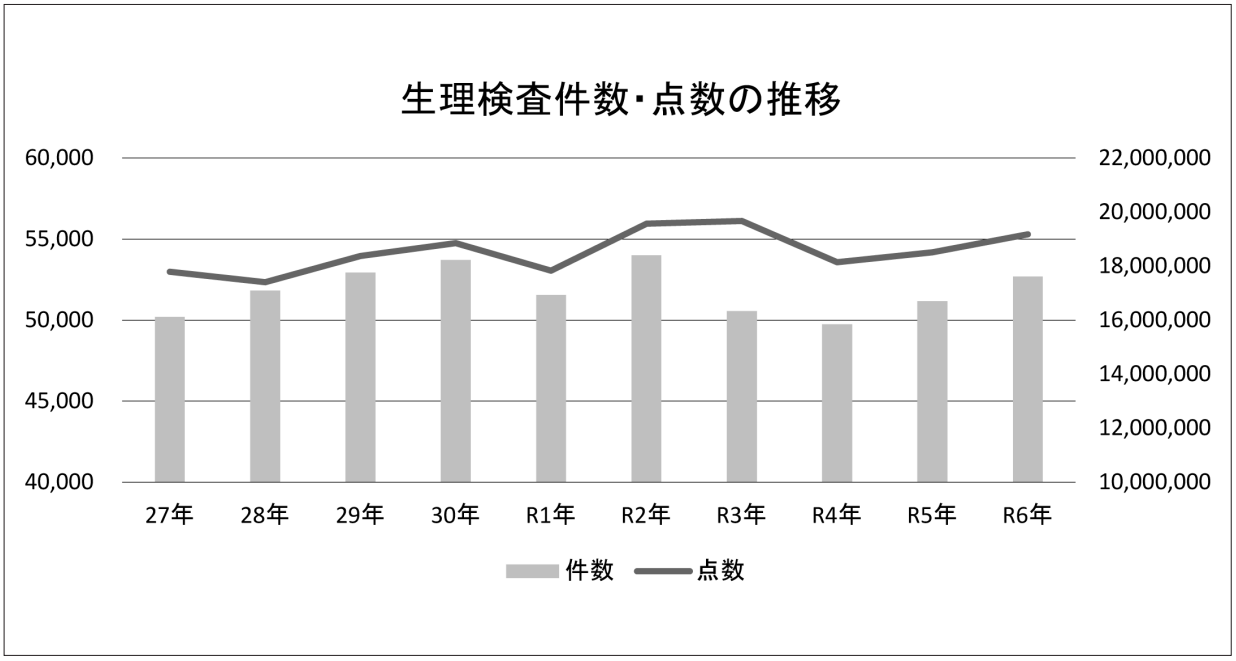
令和６年における臨床検査件数は、前年比で検体検査が３％増加し、生理機能検査でも３％増加しており、令和４年から令和６年にかけて検体検査および生理機能検査総数が徐々に増加していました。診療点数（出来高換算）は、前年比で検体検査が５％、生理機能検査が４％増加していました。輸血部門では、使用製剤数が前年比でRBC、FFP、PC共に減少し、製剤廃棄率でもRBC、FFP、PC共に減少を認め、適正に管理されていることを確認することができました。また、輸血機能評価認定Ｉ＆Ａ（点検・視察と認証）による認証を受けており、更新審査を受審し、更新が認められ認定証（令和６年４月）を受領いたしました。今後も安心・安全な輸血業務の維持継続に取り組んで参ります。検査機器の更新として、６月に心電計解析付き（３台）、９月に誘発反応検査装置（１台）、12月に全自動細菌同定感受性検査装置（２台）、全自動血液凝固測定装置（１台）、全自動糖分析装置（１台）、自動グリコヘモグロビン分析計（１台）を導入していただき、検査の品質維持に役立てています。さらに、当科では医療機関の臨床検査室を運営するための国際規格であるISO15189と、一般社団法人日本臨床衛生検査技師会および特定非営利活動法人日本臨床検査標準協議会による品質保証認定施設の認証を受けております。更新審査を受審し、受理され、更新が認められ認定証を受領いたしました（ISO15189：令和６年４月、品質保証認定：令和６年６月）。現在もそのクオリティマネジメントシステムを継続的に運用しております。令和７年度には定員増（１名常勤技師と１名主任技師）が予定されております。検体検査・生理検査等に対する臨床からの要望に応えるため、新たな診断技術の習得やチーム医療への参画（肝炎ウイルス拾い上げ体制）、さらに人材育成にも力を注ぎ、より質の高い臨床検査室を構築して参ります。

臨床検査件数

令和６年			令和４年	５年	６年	前年比
総　計			2,458,362	2,542,812	2,614,963	1.03
検体検査	総数		2,408,630	2,491,638	2,562,278	1.03
	尿検査		75,563	78,415	80,794	1.03
	糞便検査		953	953	868	0.91
	穿刺液、採取液検査		703	805	750	0.93
	血液学的検査		360,618	374,318	383,325	1.02
		血球算定等（再掲）	120,400	122,260	124,637	1.02
		血液像検査等（再掲）	148,646	152,080	146,729	0.96
	生化学的検査		1,738,854	1,798,532	1,850,335	1.03
	免疫学的検査		169,768	174,994	180,002	1.03
	微生物学的検査		45,328	47,732	50,537	1.06
	病理学的検査		10,135	9,267	9,135	0.99
	細胞学的検査		6,708	6,622	6,532	0.99
生理機能検査	総数		49,732	51,174	52,685	1.03
	心電図検査		18,060	18,551	19,196	1.03
	心音図検査		0	0	0	0.00
	脳波検査		785	775	790	1.02
	基礎代謝検査		0	0	0	0.00
	呼吸機能検査		5,023	5,725	5,940	1.04
	超音波検査		22,731	22,755	23,383	1.03
		検査科実施	11,093	11,139	10,526	0.94
		各科病棟実施	11,638	11,616	12,857	1.11
	脈波等検査		717	815	832	1.02
	筋電図検査（検査科外）		691	762	574	0.75
	聴力検査		1,725	1,791	1,970	1.10
点数医事分	検体検査		87,793,411	91,702,402	96,737,969	1.05
	生理検査		18,145,380	18,513,060	19,175,180	1.04
	検体検査判断料		31,957,792	32,742,302	33,057,334	1.01
	生理検査判断料		559,410	577,680	607,100	1.05
	病理（細胞診）診断料		2,864,920	3,072,720	3,185,040	1.04
	病理診断管理加算（組織＋細胞）		1,899,040	1,963,200	2,021,760	1.03
	輸血管理料（Ⅰ・Ⅱ）		380,380	373,120	375,320	1.01
	管理加算Ⅰ		2,445,800	2,487,360	2,492,840	1.00
	管理加算Ⅳ		6,001,000	6,118,500	6,306,000	1.03
	検体検査時間外緊急院内検査加算		927,600	1,067,400	1,066,000	1.00
	外来迅速検体検査加算		2,070,480	2,097,670	2,283,890	1.09
剖　検　数			11	17	10	0.59
受託検査		他の医療機関等	0	0	0	0.00
外部委託検査		他の医療機関等	99,904	107,138	199,124	1.86
		保険適用外検査件数	1,523	3,062	2,660	0.87
		委託検査金額	229,539,466	236,865,124	262,342,732	1.11
		保険適用外検査金額	17,089,868	19,634,490	17,213,612	0.88
血中薬物濃度			3,591	3,379	2,984	0.88

※脳波検査判断料１：350点、脳波検査判断料２：180点
※病理診断料：組織診断料520点、細胞診断料200点
※病理診断管理加算Ⅰ：組織診断を行った場合120点、細胞診断を行った場合60点
※病理診断管理加算Ⅱ：組織診断を行った場合320点、細胞診断を行った場合160点
※輸血管理料Ⅰ：220点（適正使用加算:120点）、輸血管理料Ⅱ:110点（適正使用加算:60点）
※検体管理加算：Ⅱ 100点、Ⅳ 500点
※外来迅速検体加算：10点（５項目を限度）
※時間外緊急院内検査加算：200点


検体検査件数･点数の推移
2,600,000
2,400,000
2,200,000
2,000,000
1,800,000
1,600,000
1,400,000
1,200,000
1,000,000
100,000,000
95,000,000
90,000,000
85,000,000
80,000,000
75,000,000
27年
28年
29年
30年
R1年
R2年
R3年
R4年
R5年
R6年
件数
点数


生理検査件数･点数の推移
60,000
55,000
50,000
45,000
40,000
22,000,000
20,000,000
18,000,000
16,000,000
14,000,000
12,000,000
10,000,000
27年
28年
29年
30年
R1年
R2年
R3年
R4年
R5年
R6年
件数
点数

入院・外来別臨床検査件数

令和６年

		入院		外来		合計		研究件数
		件数	点数	件数	点数	件数	点数	
総計		917,395	*******	1,697,568	*******	2,614,963	*******	4,312,531
検体検査	総数	895,989	*******	1,666,289	*******	2,562,278	*******	13,483
	尿検査	19,143	*******	61,651	*******	80,794	*******	1,000
	糞便検査	732	*******	136	*******	868	*******	284
	穿刺液、採取液検査	574	*******	176	*******	750	*******	0
	血液学的検査	159,674	*******	223,651	*******	383,325	*******	2,115
	血球算定等（再掲）	48,693	*******	75,944	*******	124,637	*******	1,052
	血液像検査等（再掲）	52,967	*******	93,762	*******	146,729	*******	1,063
	生化学的検査	621,383	*******	1,228,952	*******	1,850,335	*******	10,084
	血中薬物濃度測定（再掲）	1,318	*******	1,666	*******	2,984	*******	6,312
	免疫学的検査	55,833	*******	124,169	*******	180,002	*******	0
	微生物学的検査	30,805	*******	19,732	*******	50,537	*******	0
	病理学的検査	6,198	*******	2,937	*******	9,135	*******	0
	細胞学的検査	1,647	*******	4,885	*******	6,532	*******	0
生理機能検査	総数	21,406	*******	31,279	*******	52,685	*******	0
	心電図検査	8,639	*******	10,557	*******	19,196	*******	0
	脳波検査	413	*******	377	*******	790	*******	0
	呼吸機能検査	987	*******	4,953	*******	5,940	*******	0
	超音波検査　＊	10,100	*******	13,283	*******	23,383	*******	0
	脈波等検査	817	*******	15	*******	832	*******	0
	筋電図検査　＊	59	*******	515	*******	574	*******	0
	聴力検査	391	*******	1,579	*******	1,970	*******	0
点数 医事分	検体検査	*******	45,579,805	*******	51,158,164	*******	96,737,969	0
	生理検査	*******	7,933,980	*******	11,241,200	*******	19,175,180	0
	検体検査判断料	*******	7,070,966	*******	25,986,368	*******	33,057,334	0
	生理検査判断料	*******	191,480	*******	415,620	*******	607,100	0
	病理診断料（病理＋細胞）	4,392	1,922,560	3,322	1,262,480	7,714	3,185,040	0
	病理診断管理加算（組織＋細胞）	4,327	1,208,960	3,263	8,128,000	7,590	2,021,760	0
	輸血管理料Ⅰ	1,398	307,560	308	67,760	1,706	375,320	0
	管理加算Ⅰ	*******	*******	62,321	2,492,840	62,321	2,492,840	0
	管理加算Ⅳ	12,612	6,306,000	*******	*******	12,612	6,306,000	0
	検体検査時間外緊急院内検査加算	2,625	525,000	2,705	541,000	5,330	1,066,000	0
	外来迅速検体検査加算	*******	*******	227,905	228,389	227,905	2,283,890	0
剖検数		10	******	******	******	10	******	0
受託検査	他の医療機関等	******	******	******	******	0	*******	0
外部委託検査	他の医療機関等	******	******	******	******	196,464	37,257,303	0
	保険適用外検査件数	******	******	******	******	2,660	0	0

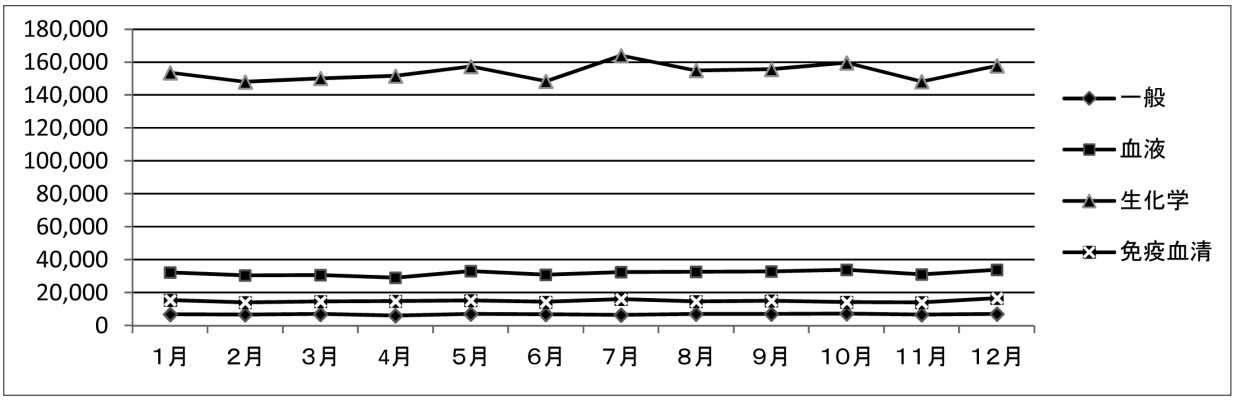
＊検査科外実施検査を含む

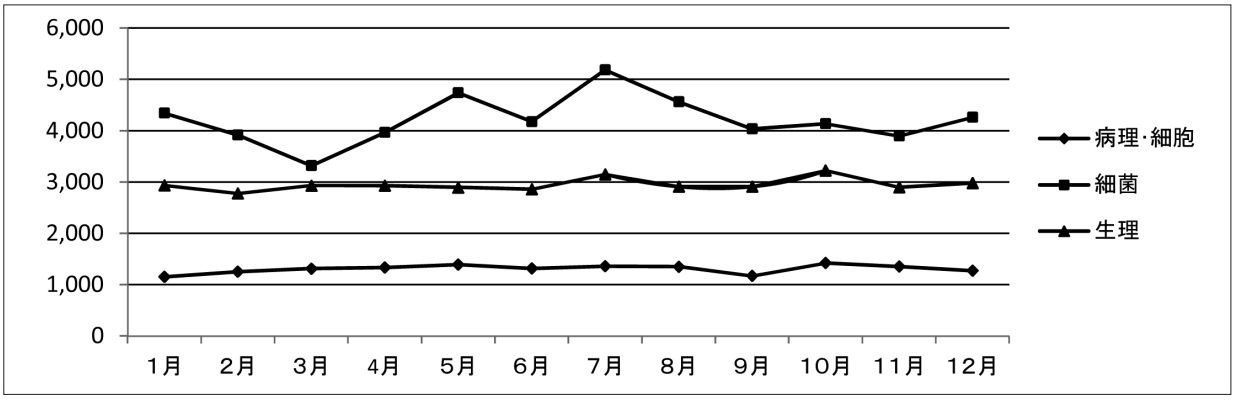
部門別検査件数の推移

部門	1月	2月	3月	4月	5月	6月	合計
一　般	6,920	6,664	6,993	6,141	7,172	6,819	40,709
血　液	32,223	30,527	30,673	29,053	33,101	30,841	186,418
生化学	153,728	148,080	150,196	151,694	157,489	148,577	909,764
免疫血清	15,560	14,155	14,668	14,919	15,283	14,395	88,980
病理・細胞	1,150	1,252	1,312	1,336	1,388	1,313	7,751
細　菌	4,344	3,917	3,318	3,966	4,737	4,177	24,459
生　理	2,937	2,781	2,933	2,930	2,895	2,858	17,334
計	216,862	207,376	210,093	210,039	222,065	208,980	1,275,415

部門	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	総計
一　般	6,437	7,023	7,039	7,324	6,719	7,161	41,703	82,412
血　液	32,488	32,673	32,849	33,813	31,157	33,927	196,907	383,325
生化学	164,051	154,991	155,725	159,774	148,213	157,817	940,571	1,850,335
免疫血清	16,155	14,720	15,012	14,305	14,134	16,696	91,022	180,002
病理・細胞	1,360	1,349	1,168	1,419	1,350	1,270	7,916	15,667
細　菌	5,185	4,564	4,034	4,138	3,897	4,260	26,078	50,537
生　理	3,151	2,912	2,912	3,227	2,898	2,980	18,080	35,414
計	228,827	218,232	218,739	224,000	208,368	224,111	1,322,277	2,597,692

図. 令和６年月別件数の推移





月別検査点数

検査実施料

項　目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	小　計
検体検査点数	8,127,291	7,569,002	7,679,940	7,780,807	8,340,968	7,836,478	47,334,486
生理検査点数	1,530,300	1,434,020	1,579,760	1,510,570	1,626,320	1,588,640	9,269,610
合　計	9,657,591	9,003,022	9,259,700	9,291,377	9,967,288	9,425,118	56,604,096

項　目	7月	8月	9月	10月	11月	12月	小　計	合　計
検体検査点数	8,806,875	8,257,432	7,976,022	8,352,525	7,649,543	8,361,086	49,403,483	96,737,969
生理検査点数	1,746,590	1,649,720	1,574,070	1,689,780	1,526,730	1,718,680	9,905,570	19,175,180
合　計	10,553,465	9,907,152	9,550,092	10,042,305	9,176,273	10,079,766	59,309,053	115,913,149

検体検査判断料

項　目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	小　計
尿・便判断料（34）	69,156	66,096	70,142	68,510	69,326	66,062	409,292
血液学的（125）	711,250	676,625	714,000	707,000	705,375	687,250	4,201,500
生化学Ⅰ（144）	826,128	790,704	832,896	823,968	824,256	802,656	4,900,608
生化学Ⅱ（144）	316,944	312,048	327,888	333,072	329,328	315,360	1,934,640
免疫学的（144）	628,416	596,016	607,968	603,648	614,880	592,128	3,643,056
微生物学的（150）	184,650	169,500	168,000	161,850	170,250	167,100	1,021,350
病理学的（130）	28,080	26,780	30,160	31,330	30,160	29,250	175,760
合　計	2,764,624	2,637,769	2,751,054	2,729,378	2,743,575	2,659,806	16,286,206

項　目	7月	8月	9月	10月	11月	12月	小　計	合　計
尿・便判断料（34）	71,706	68,816	69,734	71,332	66,402	68,748	416,738	826,030
血液学的（125）	745,375	701,750	718,500	733,500	689,750	724,125	4,313,000	8,514,500
生化学Ⅰ（144）	866,880	813,888	839,088	857,376	802,944	843,696	5,023,872	9,924,480
生化学Ⅱ（144）	340,128	308,736	342,576	340,560	315,648	335,088	1,982,736	3,917,376
免疫学的（144）	648,864	609,984	620,208	626,400	589,392	650,304	3,745,152	7,388,208
微生物学的（150）	203,700	186,450	164,850	167,700	160,050	149,700	1,032,450	2,053,800
病理学的（130）	27,950	27,690	28,860	33,410	29,770	27,300	174,980	350,740
合　計	2,904,603	2,717,314	2,783,816	2,830,278	2,653,956	2,798,961	16,688,928	32,975,134

生理検査判断料

項　目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	小　計
生理検査判断料	46,790	43,990	51,800	51,680	44,810	44,440	283,510

項　目	7月	8月	9月	10月	11月	12月	小　計	合　計
生理検査判断料	61,140	64,160	44,920	53,630	47,970	51,770	323,590	607,100

加算料

＊その他の加算（検体検査時間外緊急院内検査＋外来迅速検体検査加算＋生化学検査（Ⅰ）初回加算）

項　目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	小　計
管理加算Ⅰ（40）	209,600	198,600	210,760	206,920	208,360	199,920	1,234,160
管理加算Ⅳ（500）	510,500	514,000	507,500	497,500	511,500	517,000	3,058,000
その他の加算	294,180	271,660	277,140	272,170	279,210	263,630	1,657,990
合　計	1,014,280	984,260	995,400	976,590	999,070	980,550	5,950,150

項　目	7月	8月	9月	10月	11月	12月	小　計	合　計
管理加算Ⅰ（40）	216,080	203,640	210,000	213,680	201,560	213,720	1,258,680	2,492,840
管理加算Ⅳ（500）	578,500	551,000	527,000	534,000	499,500	558,000	3,248,000	6,306,000
その他の加算	309,700	288,190	273,080	266,450	260,970	311,890	1,710,280	3,368,270
合　計	1,104,280	1,042,830	1,010,080	1,014,130	962,030	1,083,610	6,216,960	12,167,110

病理診断料

項　目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	小　計
病理診断料（520）	192,400	196,040	205,920	226,720	237,120	239,720	1,297,920
細胞診断料（200）	38,600	44,200	39,000	42,200	47,200	41,400	252,600
合　計	231,000	240,240	244,920	268,920	284,320	281,120	1,550,520

項　目	7月	8月	9月	10月	11月	12月	小　計	合　計
病理診断料（520）	249,080	221,000	214,240	237,640	217,880	230,880	1,370,720	2,668,640
細胞診断料（200）	43,200	44,400	45,200	45,600	45,400	40,000	263,800	516,400
合　計	292,280	265,400	259,440	283,240	263,280	270,880	1,634,520	3,185,040

病理診断管理加算２

項　目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	小　計
病理診断管理加算(組織診断)(320)	116,800	118,400	123,840	136,000	142,080	144,000	781,120
病理診断管理加算(細胞診断)(160)	29,920	34,720	30,560	33,600	37,600	32,320	198,720
合　計	146,720	153,120	154,400	169,600	179,680	176,320	979,840

項　目	7月	8月	9月	10月	11月	12月	小　計	合　計
病理診断管理加算(組織診断)(320)	152,000	131,520	129,920	145,600	133,760	140,800	833,600	1,614,720
病理診断管理加算(細胞診断)(160)	34,400	34,720	36,000	36,480	35,680	31,040	208,320	407,040
合　計	186,400	166,240	165,920	182,080	169,440	171,840	1,041,920	2,021,760

輸血管理料Ⅰ

項　目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	小　計
輸血管理料Ⅰ（220）	34,760	27,500	29,040	34,100	35,640	30,140	191,180

項　目	7月	8月	9月	10月	11月	12月	小　計	合　計
輸血管理料Ⅰ（220）	31,460	27,500	32,120	34,320	30,140	35,860	191,400	382,580

輸血適正使用加算

項　目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	小　計
輸血適正使用加算(輸血管理料Ⅰ)	18,960	15,000	15,840	18,600	19,440	16,440	104,280

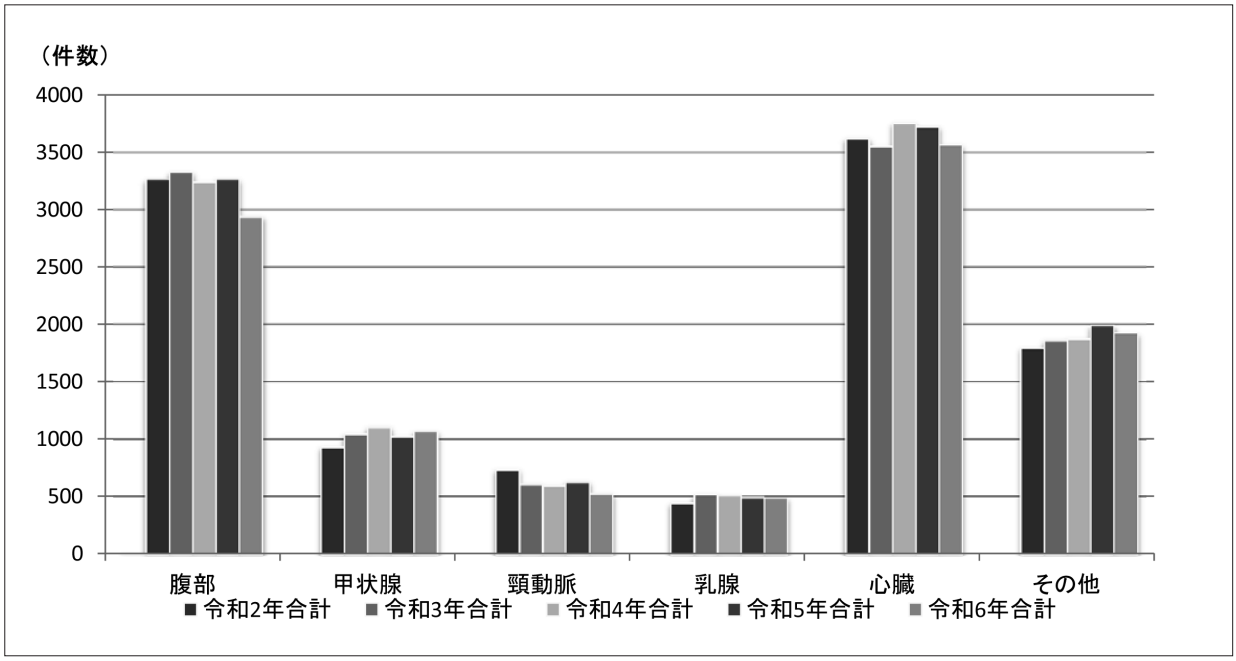
項　目	7月	8月	9月	10月	11月	12月	小　計	合　計
輸血適正使用加算(輸血管理料Ⅰ)	17,160	14,880	17,520	18,600	16,320	19,560	104,040	208,320

超音波検査年度別推移

	腹部	甲状腺	頸動脈	乳腺	心臓	その他	合計
令和２年合計	3,269	932	738	446	3,625	1,795	10,723
令和３年合計	3,330	1,046	608	519	3,551	1,863	10,917
令和４年合計	3,244	1,110	594	510	3,758	1,877	10,917
令和５年合計	3,271	1,023	630	494	3,727	1,994	11,139
令和６年合計	2,944	1,071	529	488	3,568	1,926	10,526

（その他：体表・下肢血管・関節・TCD・肝硬度）

※診療部除く



輸血およびHLA検査取扱い件数

血液製剤取り扱い件数

	令和３年	令和４年	令和５年	令和６年	前年比
RBC　納入製剤数	3,193	3,297	3,312	3,216	0.97
使用製剤数（総数）	3,313	3,338	3,495	3,278	0.94
（外来）	643	842	792	762	0.96
（入院）	2,670	2,499	2,703	2,516	0.93
廃棄製剤数	14	9	2	2	1.00
廃棄率（％）	0.44	0.27	0.06	0.06	＊＊＊
FFP　納入製剤数	815	759	841	662	0.79
使用製剤数（総数）	838	757	864	675	0.78
（外来）	122	150	148	115	0.78
（入院）	716	607	716	560	0.78
廃棄製剤数	5	10	6	1	0.17
廃棄率（％）	0.61	1.32	0.71	0.15	＊＊＊
PC　納入製剤数	1,684	1,119	1,295	1,117	0.86
使用製剤数（総数）	1,686	1,030	1,294	1,125	0.87
（外来）	256	356	310	272	0.88
（入院）	1,430	728	984	853	0.87
廃棄製剤数	0	6	5	3	0.60
廃棄率（％）	0.00	0.54	0.39	0.27	＊＊＊
全製剤依頼件数（外来）	1,163	1,387	1,262	1,245	0.99
（入院）	6,615	5,791	6,145	5,850	0.95
全納入製剤数	5,692	5,175	5,448	4,995	0.92
全使用製剤数（総数）	5,837	5,125	5,653	5,078	0.90
（外来）	1,021	1,348	1,250	1,149	0.92
（入院）	4,816	3,834	4,403	3,929	0.89
全廃棄製剤数	19	25	13	6	0.46
全廃棄率（廃棄数／納入数）％	0.33	0.48	0.24	0.12	＊＊＊
自己血400ml貯血（総数）	69	60	42	31	0.74
（外来）	25	25	16	15	0.94
（入院）	44	35	26	16	0.62
200ml貯血（総数）	0	1	0	0	0.00
（外来）	0	1	0	0	0.00
（入院）	0	0	0	0	0.00
自己血400ml輸血（総数）	44	44	34	24	0.71
（外来）	3	3	1	1	0.00
（入院）	41	41	33	23	0.70
200ml輸血（総数）	0	0	0	0	0.00
（外来）	0	0	0	0	0.00
（入院）	0	0	0	0	0.00

輸血状況と交差適合試験

	令和３年	令和４年	令和５年	令和６年	前年比
輸血管理室取扱い患者数	3,101	3,447	3,457	3,489	1.01
輸血実施人数（総数）	2,031	2,179	2,206	2,190	0.99
RBC輸血実施人数　（外来）	336	437	423	416	0.98
（入院）	1,002	1,062	1,086	1,087	1.00
FFP輸血実施人数　（外来）	57	69	59	65	1.10
（入院）	221	210	221	239	1.08
PC輸血実施人数　（外来）	96	124	123	98	0.80
（入院）	319	277	294	285	0.97
輸血未実施人数　（総数）	1,070	1,268	1,251	1,299	1.04
（外来）	13	42	50	27	0.54
（入院）	1,057	1,226	1,201	1,272	1.06
交差適合試験件数	3,704	3,704	3,885	3,659	0.94
輸血実施	3,313	3,341	3,495	3,278	0.94
輸血未実施	391	363	390	381	0.98
（再掲）　交差適合試験件数（外来）	705	900	864	826	0.96
（輸血実施）	643	842	792	762	0.96
（輸血未実施）	62	58	72	64	0.89
交差適合試験件数（入院）	2,999	2,804	3,021	2,833	0.94
（輸血実施）	2,670	2,499	2,703	2,516	0.93
（輸血未実施）	329	305	318	317	1.00

HLA検査件数の状況

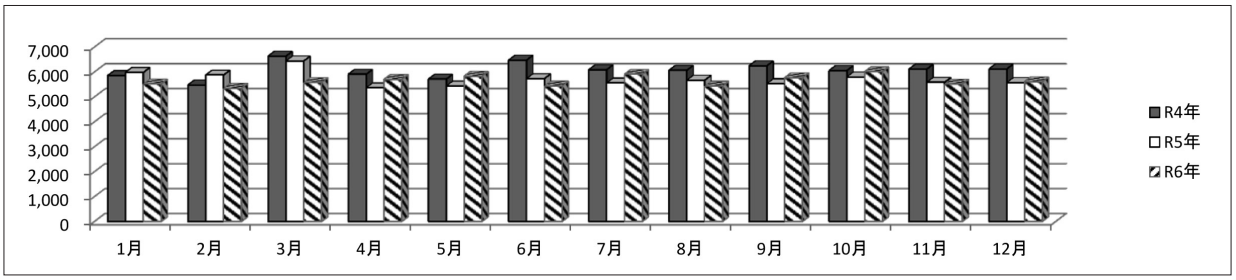
	令和３年	令和４年	令和５年	令和６年	前年比
HLAタイピング　（総数）	17	22	7	16	2.29
長崎医療センター（外来）	0	0	0	0	0.00
長崎医療センター（入院）	0	0	0	0	0.00
腎移植ネットワーク登録	17	22	7	16	2.29
HLAダイレクトクロスマッチ（総数）	0	0	0	0	0.00
長崎医療センター	0	0	0	0	0.00
他施設受託	0	0	0	0	0.00
ドナー・レシピエントタイピング（総数）	0	0	0	0	0.00
長崎医療センター（ドナータイピング）	0	0	0	0	0.00
（レシピエントタイピング）	0	0	0	0	0.00
他施設受託　（ドナータイピング）	0	0	0	0	0.00
（レシピエントタイピング）	0	0	0	0	0.00

採血（管準備）支援件数の推移

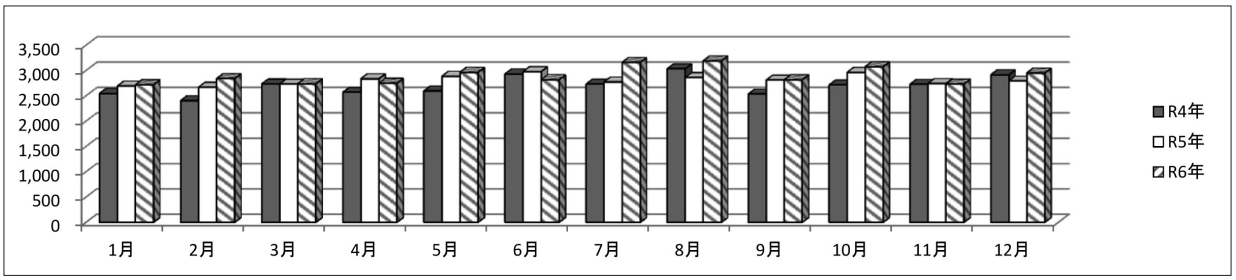
（外来）	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
R4年	5,856	5,475	6,634	5,906	5,712	6,473	6,090	6,066	6,249	6,056	6,114	6,118	72,749
R5年	5,983	5,875	6,439	5,361	5,438	5,729	5,557	5,668	5,528	5,800	5,584	5,570	68,532
R6年	5,519	5,346	5,579	5,701	5,829	5,438	5,907	5,432	5,771	6,009	5,517	5,609	67,657

（病棟）	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
R4年	2,545	2,403	2,732	2,567	2,596	2,930	2,730	3,033	2,534	2,713	2,727	2,915	32,425
R5年	2,693	2,668	2,730	2,836	2,885	2,976	2,773	2,860	2,810	2,961	2,741	2,791	33,724
R6年	2,719	2,840	2,738	2,747	2,964	2,819	3,160	3,191	2,817	3,073	2,730	2,950	34,748

外　来



病　棟



研修・教育

開催日	演　　題	人数
2024/4/3-4/17 2024/8/7-9/19	新任者オリエンテーション：検査部門組織、配属予定セクション、施設・設備、労働衛生サービス、休暇取得手続き、超過勤務手続き、各種提出書類の提出方法、医療安全、電子カルテ及び検査システム、感染性物質の取扱い、感染防護具の取扱い、防災対策、スタンダードプリコーション、品質マネジメントシステム、文書管理、教育訓練、設備管理、技術管理	8 1
2024/4/3	採血業務前の勉強会	7
2024/7/1-	感染対策・抗菌薬使用支援講習会	全員
2024/6/18	2024年６月検査科勉強会 検体処理の注意点～マイクロテナー編～ 日赤照射赤血球の有効期限延長に伴う廃棄率への影響	全員
2024/7/23	2024年７月検査科勉強会 化学物質の取扱い	全員
2024/7/1-	医療倫理・個人情報保護・接遇、虐待（高齢者・児童）	全員
2024/8/1-	医療安全に係る安全研修	全員

開催日	演　　題	人数
2024/8/1-	医療倫理・個人情報保護・接遇、虐待（高齢者・児童）	全員
2024/9/24	2024年９月検査科勉強会 文書管理・教育について	全員
2024/9/26	内部監査養成セミナー	5
2024/10/31	2024年10月検査科勉強会 『患者情報の守秘義務・倫理』について	全員
2024/11/27	2024年11月検査科勉強会 微生物・生化学部門	全員

治験、共同臨床研究（症例登録する研究）

治験等参加研究一覧

No.	項目 ①治験、②医師主導治験、③GCP準拠製造販売後臨床試験、④受託臨床研究（文書同意あり）、⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）、⑥公費臨床試験、⑦製造販売後調査（文書同意あり）、⑧製造販売後調査（文書同意なし）、⑨その他	研究課題名	同意書有無	依頼者（または試験母体）	責任医師（または担当研究者名）
1	⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）	化学発光免疫測定法（ECLIA法）におけるB型肝炎検査試薬における血漿検体の基礎評価	無	シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス（株）	藤野達也 八橋　弘

競争的研究費一覧

No.	項目（財源別） ①文部科学省科学研究費、②科学研究費助成事業（科学研究費補助金）、③科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）、④科学技術振興機構科学研究費、⑤その他文部科学省関連研究費、⑥厚生労働科学研究費、⑦国立高度専門医療センター等研究費、⑧その他厚生労働省関連研究費、⑨日本医療研究開発機構研究費、⑩その他財団等からの研究費、⑪民間セクターからの寄附金	研究課題名	研究者名	研究事業名（依頼業者名）	主任分担	新規継続
1	⑥厚生労働科学研究費	へき地・離島等での血液製剤の有効利用のための研究（課題番号：24CA2015）	長井一浩	厚生労働行政推進調査事業	分担	新規
2	⑨日本医療研究開発機構研究費	低分子化合物による自己肝前駆細胞を用いた革新的肝硬変治療（24bk0104152h0003）	長井一浩	再生医療等実用化研究事業研究開発	分担	継続
3	⑩その他財団等からの研究費	離島医療圏への無人航空機を用いた血液製剤搬送体制の実用化に関する研究；社会実装へ向けた課題の視覚化	長井一浩	血液製剤使用適正化方策調査研究事業	主任	新規
4	⑩その他財団等からの研究費	無人航空機を用いた血液製剤搬送の実行可能性と品質への影響に関する研究：濃厚血小板製剤搬送技術の最適化	長井一浩	日本輸血・細胞治療学会臨床研究推進事業	主任	新規

学会・論文など

1）原著論文　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	1（ 2 ）	0（ 1 ）	0	0

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

2）学会発表　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0（ 1 ）	4（ 3 ）	0（ 1 ）	2（ 2 ）

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

3）学術講演　　**（件数）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	3	1

4）学会座長　　**（件数）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	1	1	3

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

その他

1）施設認定

日本病理学会施設認定
日本病理学会研修施設認定
ISO15189認定施設
日本臨床細胞学会施設認定
日本臨床細胞学会教育研修施設認定
日本輸血細胞治療学会認定医制度「指定施設認定証」
日本輸血細胞治療学会輸血検査技師制度「指定施設認定証」
日本輸血細胞治療学会I＆A認定証
日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設
日本臨床衛生検査技師会品質保証施設認定

2）各種認定免許（検査部長）

医学博士
日本内科学会総合内科専門医
日本血液学会専門医・指導医
日本輸血・細胞治療学会認定医
日本輸血・細胞治療学会細胞治療認定管理師
日本再生医療学会認定医
日本臨床医学会検査管理医

3）各種認定免許と取得者数（臨床検査技師）

免許の種類	取得者数
薬学博士	1
細胞検査士	4
国際細胞検査士	1
超音波検査士（循環器）	3
超音波検査士（消化器）	2
超音波検査士（泌尿器）	1
超音波検査士（血管）	1
認定血液検査技師	1
認定輸血検査技師	3
認定一般検査技師	1
認定臨床化学者	1
認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師	1
二級臨床検査士（循環生理学）	2
緊急臨床検査士	3
認定心電検査技師	2
NST専門療法士	1
特定化学物質等作業主任者	4
有機溶剤作業主任者	5
化学物質管理者	1
保護具着用管理責任者	1

4）日本医師会臨床検査精度管理調査結果

過去７年間の成績

参加年度	参加項目満点数	参加項目点数	参加項目修正点	備　考
H29年度	630	586	93.0	
H30年度	590	580	98.0	
R1年度	645	635	98.4	
R2年度	655	651	99.4	
R3年度	655	649	99.1	
R4年度	655	647	98.8	
R5年度	655	644	98.3	

研究業績

論　文　発　表

A：英文

A-a1：英文原著

1）Development of Innate-Immune-Cell-Based Immunotherapy for Adult T-Cell Leukemia-Lymphoma.
Nakashima Maho, Tanaka Yoshimasa, Okamura Haruki, Kato Takeharu, Imaizumi Yoshitaka, Nagai Kazuhiro, Miyazaki Yasushi, Murota Hiroyuki.
Cells. 13(2), doi：10.3390/cells13020128. 2024.1.10.

2）Feasibility evaluation of a blood rotation system for efficient blood product utilization in remote island settings
Nagai Kazuhiro, Tomari Noriyuki, Egawa Satoko, Koga Yoshito, Itonaga Hidehiro, Imanishi Daisuke, Yoshida Shinichiro, Kinoshita Ikuo, Miyazaki Yasushi, Tanaka Asashi.
Vox Sang. 119(6)：548-555, 2024.6.

3）Efficacy of chemically induced human hepatic progenitor cells from diseased liver against nonalcoholic steatohepatitis model.

Miyamoto Daisuke, Matsuguma Kunihito, Naga Kazuhiro, Miyoshi Takayuki, Hara Takanobu, Matsushima Hajime, Soyama Akihiko, Ochiya Takahiro, Miyazaki Yasushi, Eguchi Susumu.
Journal of hepato-biliary-pancreatic sciences. 31(10)：697-704, 2024.1.

B：和文

B-a1：和文原著

1）当院の肝臓専門医と臨床検査技師による未診断C 型肝炎患者拾い上げの新たな取り組み.
伊藤葉子、伊藤葉子、藤野達也、荒武良総、松下義照、荒川仁香、國府島庸之、福泉公仁隆、中牟田誠.
医学検査. 73(2)：308–315, 2024.4.

学会・研究会・講演

A：国際学会, 国際会議

A-b2：一般演題

1）Utilization of fresh whole blood on remote Japanese islands.
Tanaka Asashi, Nagai Kazuhiro, Oki Hiroshi, Matsuzaki Kouji.
38th International Society of Blood Transfusion International Congress. Barcelona, 2024.6.23.

B：国内学会

B-a：特別講演, 教育講演

1）新型コロナウイルス感染症第7波流行後における抗ヌクレオカプシド抗体陽性率の検討.
迫田真明、大當千香、清美紗紀、隈元英明、下田直幸、藤野達也.
第29回国立病院臨床検査技師協会九州支部学会. 都城, 2024.7.6.

B-b1：シンポジウム, パネルディスカッション等

＜シンポジウム＞

1）CLiP（Chemically-induced liver progenitor）を用いた肝硬変治療の開発.
丸屋安広、原貴信、宮本大輔、福本将之、曽山明彦、長井一浩、山原研一、落谷孝広、江口晋.
日本消化器病学会とのジョイントシンポジウム（肝胆膵）. 第23回日本再生医療学会総会. 新潟市, 2024.3.21.

2）新たな血液製剤のサプライチェーンは離島地域の輸血医療をどう変えるか.
長井一浩.
「各地域の血液製剤の有効利用の実態と成果・これからver.3」-皆で共有しよう！有効利用のために-. 第72回日本輸血・細胞治療学会学術総会. 東京都, 2024.5.30.

B-b2：一般演題

1）超音波検査で観察し得た木村病の一例.
武藤憲太、西浦哲哉、片山絢郁、十時花帆、喜多なつみ、藤田寿之、染矢賢俊.
第73回日本医学検査学会. 石川, 2024.5.11.

2）新型コロナウイルス感染症５回目ワクチン接種後における抗S1抗体測定値の検討.
迫田真明、大當千香、清美紗紀、隈元英明、下田直幸、富園正朋、藤野達也.
第56回日本医療検査科学会. 横浜, 2024.10.4.

3）当院で経験した肝原発平滑筋肉腫の１例.
十時花帆、武藤憲太、喜多なつみ、藤田美和子、浦山智子、藤野達也、釘山有希、添田李子、三原裕美.
第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.18.

＜ポスター＞

1）全身転移をきたした類粘液平滑筋肉腫の1例.
鹿島星林、平野純、小島真代、佐田勇樹、豊岡辰明、染矢賢俊、三浦史郎、伊東正博、山下洋.
第65回日本臨床細胞学会春期大会. 大阪, 2024.6.8.

2）肝硬変治療に向けた硬変肝由来リプログラミング化ヒト肝前駆細胞移植治療の確立.

宮本大輔、福本将之、松隈国仁、三好孝之、長井一浩、丸屋安広、原貴信、松島肇、今村一歩、足立智彦、曽山明彦、日高匡章、落谷孝広、江口晋.
第60回日本移植学会総会. 長崎市, 2024.9.14.

B-c：研究会発表

1）新型コロナウイルス感染症5回目ワクチン接種後における抗S1抗体測定値の検討.
迫田真明、大當千香、清美紗紀、隈元英明、下田直幸、富園正朋、藤野達也.
第３回Clinical Assay Academia. 東京, 2024.9.7.

2）全国国立病院機構関連施設アンケート結果報告　～ウイルス陽性者拾い上げの現状～.
迫田真明、橋本規雅、山本将義、藤野達也、広瀬亮介、丸山晃二.
肝炎撲滅のためのWEB Seminar. 福岡（Web）, 2024.11.8.

＜講演＞

1）HCV検査の過去・現在・未来.
藤野達也.
第12回長崎ロシュセミナー. 長崎, 2024.12.6.

C, E, F：学術講演他

C-b：学術講演[国内]

＜口演＞

1）離島地域への効率的な血液製剤供給～その対策と課題～.
長井一浩.
令和５年度広島県合同輸血療法委員会. 広島市, 2024.2.3.

2）輸血療法に係るアンケート調査報告.
長井一浩.
令和５年度長崎県輸血研修会. 長崎市, 2024.3.9.

3）血液製剤使用適正化方策調査研究事業について.
長井一浩.
令和５年度長崎県輸血研修会. 長崎市, 2024.3.9.

4）免疫染色の運用方法.
鹿島星林.
国臨協九州支部 病理・細胞診研究班. WEB, 2024.8.20.

5）免疫染色の運用方法.
鹿島星林.
国臨協九州支部 病理・細胞診研究班. WEB, 2024.8.20.

6）労働安全衛生規則について.
鹿島星林.
国臨協九州支部 病理・細胞診研究班. WEB, 2024.11.19.

E：研究会世話人

1）長井一浩.
令和５年度長崎県輸血研修会. 長崎市, 2024.3.9.

F-b：学会・研究会座長[国内学会]

1）長井一浩.
第72回日本輸血・細胞治療学会学術総会. 東京都, 2024.5.31.

2）藤野達也.
第３回Clinical Assay Academia. 東京, 2024.9.7.

3）鹿島星林.

令和６年度国臨協九州支部会卒後教育セミナー . WEB, 2024.9.21.

４）藤野達也.
第58回日本臨床衛生検査技師会九州支部医学検査学会. 鹿児島, 2024.11.9.

５）藤野達也.
肝炎撲滅のためのWEB Seminar. 福岡（Web）, 2024.11.15.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

栄養管理室

責任者　四元 有吏

診療科の特色

栄養管理室では、管理栄養士８名が入院時より全患者の栄養状態を評価し、早期に栄養介入できる体制をとっている。また、食事提供に関しては、富士産業（株）と協力し各患者さんの病態に応じた食事を安全管理に留意し提供している。

当院ではここ数年、脳血管障害や悪性腫瘍などの疾患、また加齢による嚥下機能低下を来した患者の食事調整の依頼が著しく増加している。このことから昨年度に引き続き、今年度も提供数の多い粥食、形態調整食の食事内容を見直した。担当病棟の栄養士が現在提供している食事の問題点を抽出し改善事項を整理したうえで、調理スタッフと作業工程も見直し、安定した形態調整の美味しい粥食、形態調整食を完成することができた。

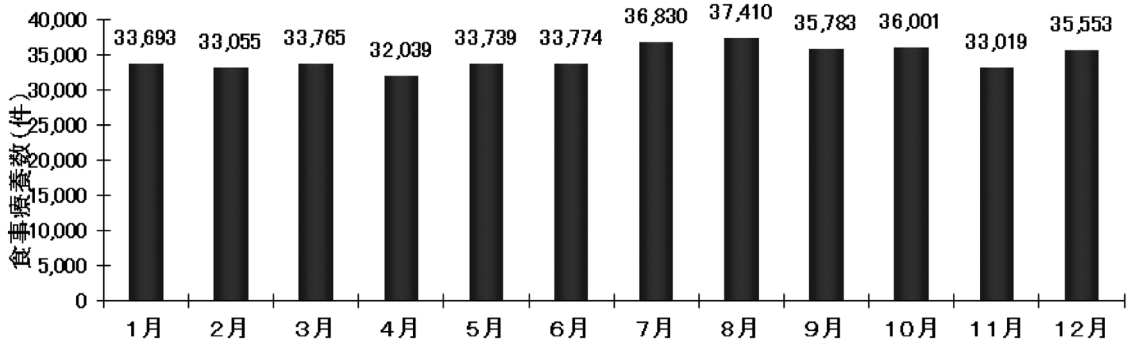
また、昨年度からの案件となっていた早期栄養介入管理加算についても立ち上げを経験した主任栄養士を中心に体制を整備した。栄養管理室では、すべての患者に対し画一的な栄養介入の実施にとどまることなくひとり一人の生活背景や食生活に応じた対応ができるよう、関係部門と連携しながら安全で美味しい食事の提供を基本とした栄養管理の実践に取り組んでいく。

入院診療実績

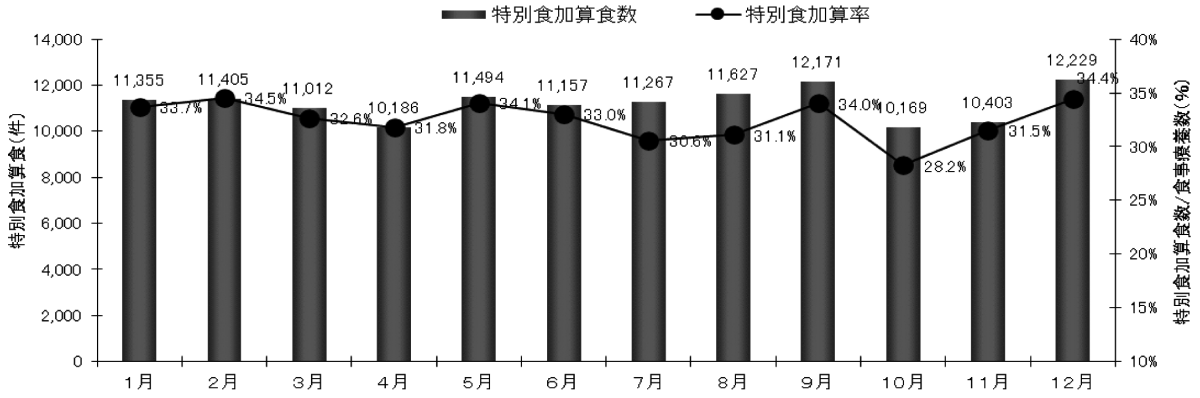
1）食事療養数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
取扱患者数	13,742	12,354	12,963	12,570	12,654	13,378	14,481	14,620	13,963	14,121	13,036	14,158	13,503
食事療養数	33,693	33,055	33,765	32,039	33,739	33,774	36,830	37,410	35,783	36,001	33,019	35,553	34,555
特別食加算食数	11,355	11,405	11,012	10,186	11,494	11,157	11,267	11,627	12,171	10,169	10,403	12,229	11,206
特別食加算率	33.7%	34.5%	32.6%	31.8%	34.1%	33.0%	30.6%	31.1%	34.0%	28.2%	31.5%	34.4%	32.4%
食堂加算数	12,202	12,072	12,362	11,719	12,345	12,327	13,530	13,630	12,932	13,162	12,025	13,000	12,609

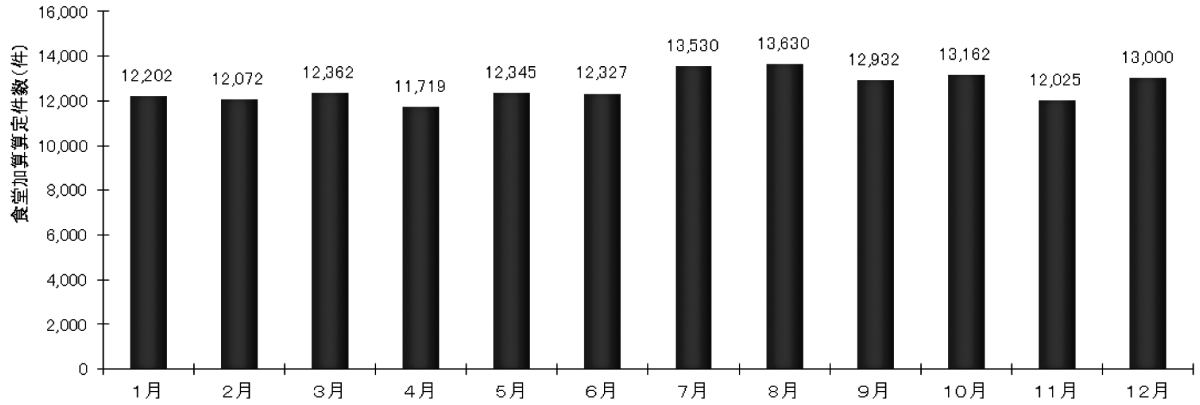
【食事療養数】



【特別食加算数・特別食加算率】



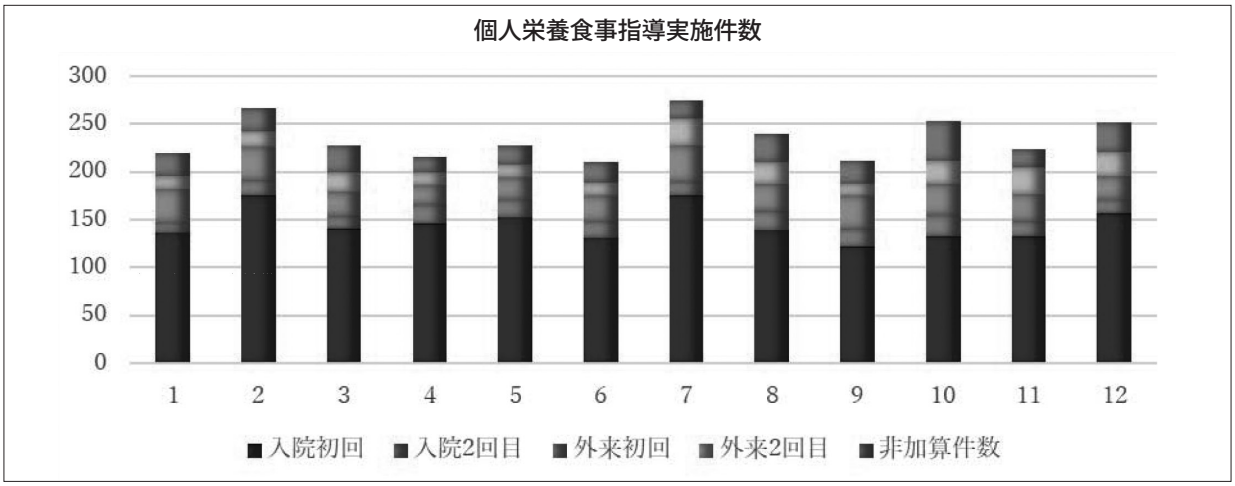
【食堂加算件数】



栄養食事指導

1）個人栄養食事指導件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
入院初回	137	175	140	146	153	131	175	139	122	133	133	156	1,740
入院2回目	10	16	14	20	19	17	15	21	19	22	15	16	204
外来初回	35	35	25	20	22	27	38	28	35	33	29	24	351
外来2回目	13	16	20	14	14	14	28	22	11	23	28	25	228
非加算件数	25	24	28	15	19	21	19	29	24	42	19	31	296
指導件数合計	220	266	227	215	227	210	275	239	211	253	224	252	2,819

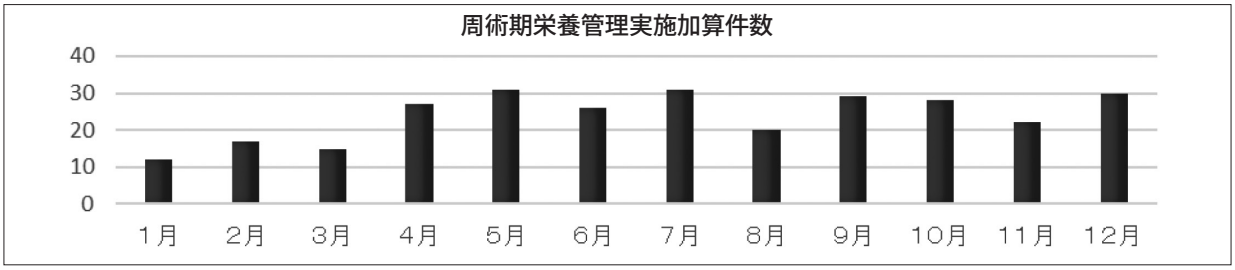


2）集団栄養指導件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
両親学級				1	3	2	2	1	2	4	5	1	21
腎臓病教室										3		2	5
糖尿病教室	3		3	4	3	4	6			6	3	2	34
指導件数合計	3	0	3	5	6	6	8	1	2	13	8	5	60

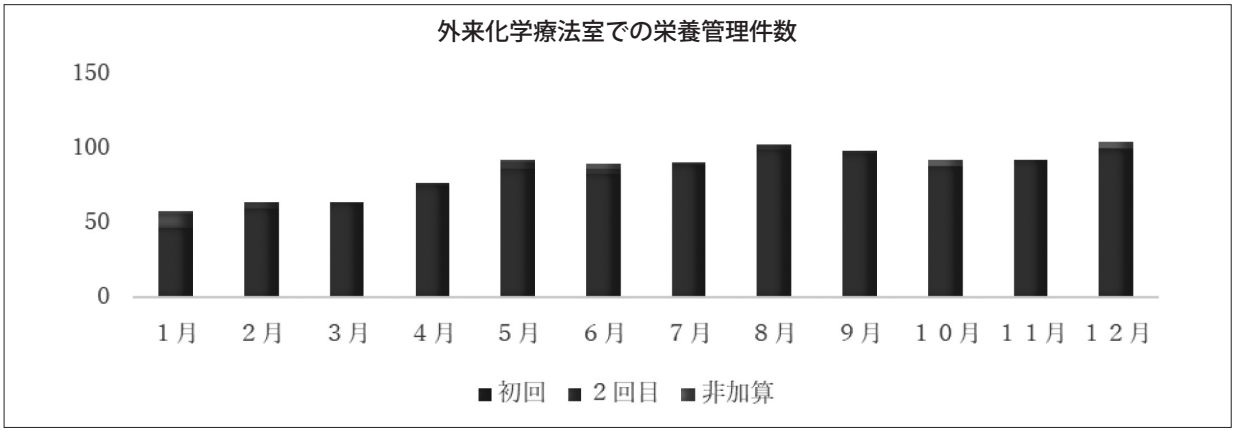
3）周術期栄養管理実施加算

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
加算件数	12	17	15	27	31	26	31	20	29	28	22	30	288



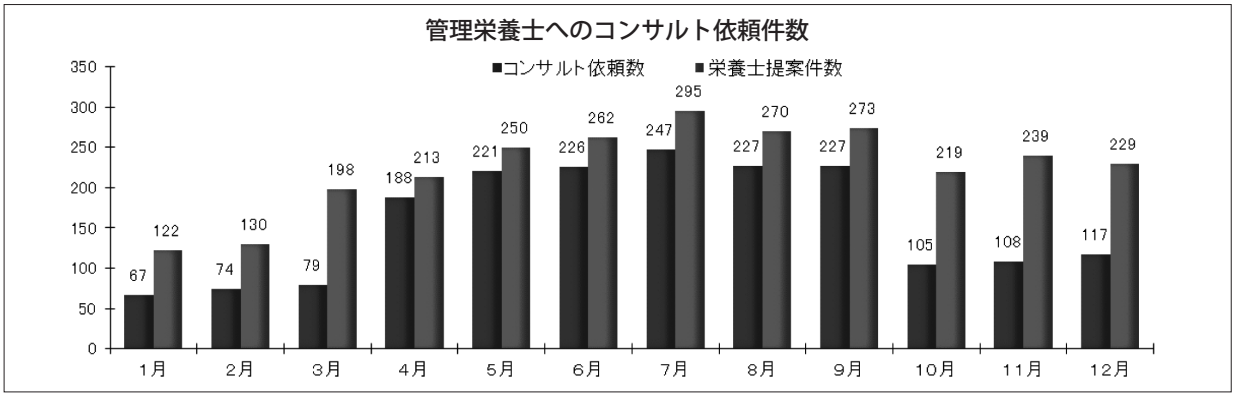
4）外来化学療法室での栄養管理件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
初回	47	60	63	75	86	83	89	99	97	88	92	99	978
2回目	9	4	1	2	5	3	1	3	1			1	30
非加算	2				1	4	1	1		4		4	17



5）管理栄養士へのコンサルト依頼件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
コンサルト依頼数	67	74	79	188	221	226	247	227	227	105	108	117	1,886
栄養士提案件数	122	130	198	213	250	262	295	270	273	219	239	229	2,700



研修・教育

管理栄養士養成校大学臨地実習受け入れ

養成大学	学部学科	実習期間	人数
長崎国際大学	健康管理学部	6月17日～21日	3名
長崎国際大学	健康管理部	8月22日～23日	1名
活水女子大学	健康生活学部	8月19日～30日	2名

学会・論文など

1）原著論文　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数				

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

2）学会発表　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数		1		

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

3）学術講演　　**（件数）**

種類				
件数				

4）学会座長　　**（件数）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数				

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

研究業績

学会・研究会・講演

B：国内学会

B-b2：一般演題

＜口演＞

1）透析導入となった急速進行性腎炎患者に対して栄養管理を行った一例.
岡田郁香、加來正之、井上聡美、杉谷珠美、深山美香、梶原健吾.
栄養指導【O-0327】. 第69回日本透析医学会学術集会・総会. 神奈川, 2024.6.7.

G：学術講演他

G：その他

1）多職種と協働しNSTの質向上に向けた体制の構築 ～人材育成および経営参画の視点を通して～ .
瀧口尚、川畑貴寛、菅明美、森塚倫也、荒木光.
長崎県NST研究会. 長崎, 2024.10.5.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

緩和ケアチーム：Palliative Care Team

責任者　蓬莱 彰士・石丸 美幸

診療科の特色

がん医療における緩和ケアとは、がんに伴う体と心の痛みを和らげ、生活やその人らしさを大切にする考え方です。がん患者さんやご家族は、がんと診断されたとき、治療中、あるいは再発や転移がわかったときなどのさまざまな場面でつらさやストレスを感じます。緩和ケアでは患者さんとご家族が「その人らしく」過ごせるように、医学的な側面に限らず、いろいろな場面で幅広い対応をしていきます。また、がん治療と緩和ケアは、いつどちらからどちらへ移行するという類のものではなく、いつでも平行して存在しています。がん診療連携拠点病院である当院は「がんと診断された時からの緩和ケア」を推進しています。長崎医療センター緩和ケアチームは2007年２月に発足した、身体症状緩和医師、精神症状緩和医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、MSW等による専門チームです。がんと診断された時から患者さんやご家族に生じるさまざまな問題に対応しサポートしています。

【緩和ケアチーム活動】

緩和ケア依頼の患者さんやご家族に対し、週１回の多職種によるカンファレンスや回診を行っています。回診時には、病棟看護師（可能な場合は主治医）とともにカンファレンスを行い、患者さんやご家族のご要望に応えられるよう努めています。2009年４月から緩和ケア専従看護師が配置され、2011年からリハビリテーション科のスタッフ、2014年からMSW、2016年よりJNP（診療看護師）と歯科衛生士を新たに迎えサポート体制がより充実しました。2017年より緩和ケア内科医師の配置は専従より専任へ変更となりました。2023年４月より緩和ケアチーム専従看護師・専任看護師の各１名の配置で増員。2024年８月より、専従看護師１名体制へ変更となりました。

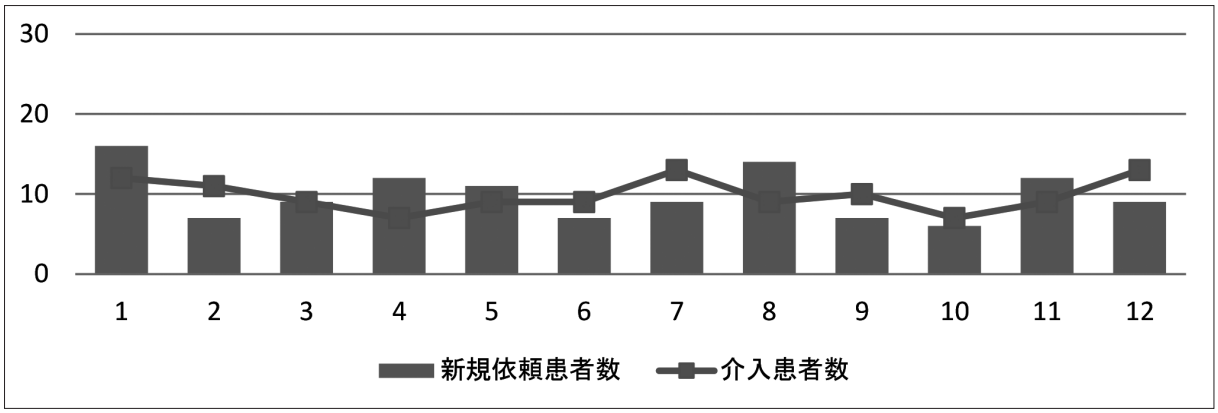
チーム依頼は、年間119件で急性期病院として特徴的ながん診断時から抗がん剤治療中の比較的早期からの相談が５割程度を占めております。依頼内容としては、全身症状・精神症状・消化器症状・疼痛・しびれの順に多く、診療科としては、乳腺内分泌外科・婦人科・耳鼻科・肝臓内科の依頼数が半数を超える状況でした。2018年４月より、緩和ケア診療加算と個別栄養食事支援加算の算定を再開しました。2019年より、心不全終末期も対象疾患に加わっており、非腫瘍の患者は４件の介入依頼がありました。

【緩和ケア外来】

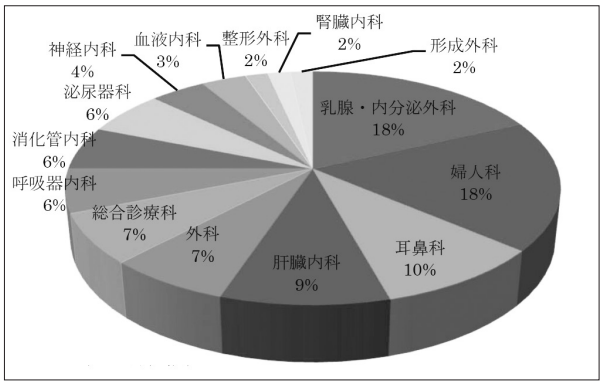
2014年に緩和ケア内科外来を開始し、2024年は年間延べ312名（前年284名）の患者さんの診療にあたりました。AYA世代にある患者層の増加やACPや在宅療養調整などに継続して関わる症例も年々増加傾向にあります。

入院診療実績

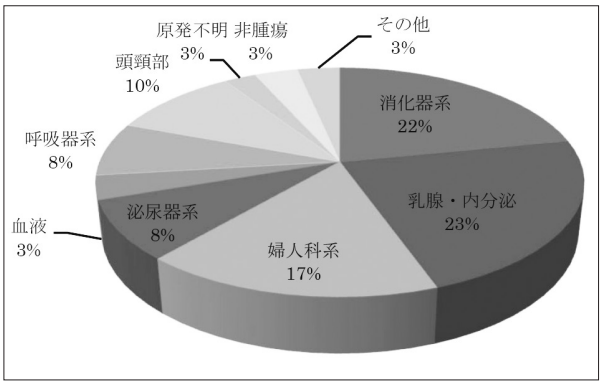
令和６年　月別緩和ケア新規依頼患者数（総数119）と介入患者数の推移



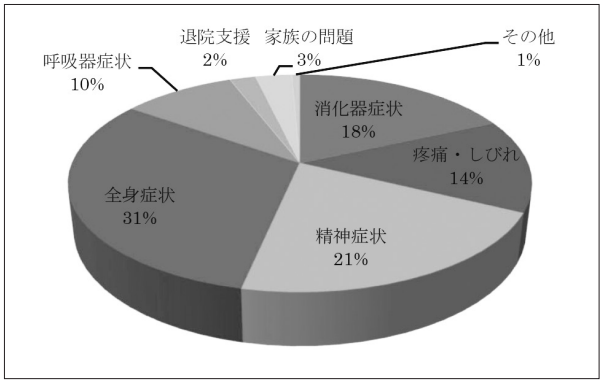
令和６年　診療科別依頼数（総数119）



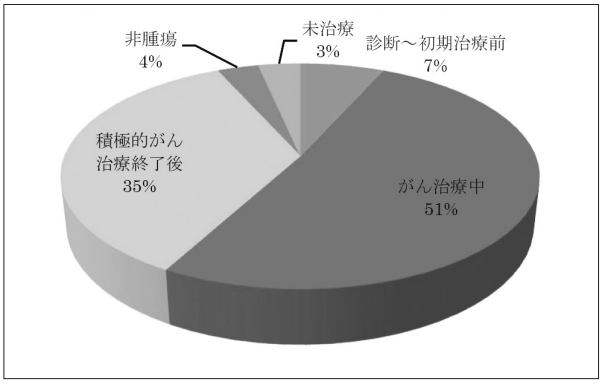
令和６年　部位別内訳（総数119）



令和６年　依頼内容内訳（重複あり）



令和６年　緩和ケア依頼の時期（総数119）



研修・教育

カンファレンス

名　称	参　加　職　種	開催頻度
緩和ケアカンファレンス	医師（2）、薬剤師（3）、栄養士（1）、看護師（1）、理学療法士（2）、言語聴覚士（1）、MSW（1）、臨床心理士（1）	1回/週
緩和ケアラウンド	医師（2）、薬剤師（1）、栄養士（1）、看護師（1）、臨床心理士（1）	1回/週

PEACEプロジェクト（医師に対する緩和ケア教育プログラム）

開催日	研　修　名	参加数
2024年12月７日	令和６年度 長崎医療センター緩和ケア研修会 （新カリキュラム　eラーニング）	18名

緩和ケア研究会

開催日	テ　ー　マ	参加数
第45回研究会 2024年２月６日	『想いをつなぐスピリチュアル・ケア～在宅緩和ケア支援の実際も含めて～』 演者：愛野記念病院 認定臨床宗教師　原　信太郎先生	会場：６名 Web：23名
第46回研究会 2024年９月12日	『緩和ケア診療Up to Date ～強オピオイドと在宅PCAポンプ使用を中心に～』 演者：長崎大学病院 麻酔科・緩和ケアセンター　石井　浩二先生	会場：13名 Web：34名

治験、共同臨床研究（症例登録する研究）

様式１－１　治験等症例数一覧

No.	項目 （①治験、②医師主導治験、③GCP準拠製造販売後臨床試験、④受託臨床研究（文書同意あり）、⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）、⑥公費臨床試験、⑦製造販売後調査（文書同意あり）、⑧製造販売後調査（文書同意なし）、⑨その他）	研究課題名	同意書有無	依頼者（または試験母体）	責任医師（または担当研究者名）
1	⑧製造販売後調査（文書同意なし）	ジクトルテープ一般使用成績調査	無	久光製薬株式会社	濵脇正好

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

褥瘡対策委員会

責任者　藤岡 正樹・中村 裕紀子

診療部門の特色

1．褥瘡対策活動褥瘡発生予防、適正な治療、教育・研究活動は褥瘡対策の３本柱である。

1）褥瘡予防

褥瘡発生母体である寝たきり患者における褥瘡発生の傾向や、個々の患者の全身状態を的確に把握し、褥瘡発生危険性の高い患者に対して重点的な看護や体圧分散寝具使用などの注意を払い、発生を未然に防いでいる。2012年度の診療報酬改定にて、褥瘡対策は入院基本料算定の施設基準となり、褥瘡リンクスタッフを中心に、適切にリスクアセスメントが行われ、ケア介入ができるようスタッフ指導を行っている。

2）適正な治療とその効果

週に一度の褥瘡回診を開始し、wound bed preparation理論に則った創処置と閉鎖療法の徹底・創傷治療教育の施行によって看護スタッフの褥瘡治療に対する意識・技術の向上と啓蒙を図った。褥瘡治癒日数は2024年9.2日であった。（前年6.9日）

発足当初は、形成外科医師，医療安全管理係長、医療安全対策の褥瘡ワーキンググループの構成メンバーのみであった。2008年からは、皮膚・排泄ケア認定看護師、2011年からは褥瘡リンクスタッフが回診へ参加し、ケアの充実を図るようにしている。

3）教育・研究活動

褥瘡対策委員会では褥瘡リンクスタッフに対し勉強会を開催し、褥瘡に対する知識の啓蒙と処置、観察技術の向上を図っている。

2．当院における持ち込み褥瘡患者の現状

2024年持ち込み褥瘡184名（前年183名）、褥瘡発生場所が自宅であったものが100名（前年106名）であった。介護者が高齢であることによる介護力不足や、知識不足が原因であると推測された。これら在宅・介護施設の患者を病院に搬送・受診させることは医療費、搬送手段、付添い者などの問題が存在し、介護者にとって負担となるため、早期の医療介入ができていない。また長崎県が抱える問題として、離島での寝たきり老人に対するケア、特に褥瘡をはじめとする皮膚のケアは全く体系的になされていない。

3．褥瘡リンクスタッフ（病棟看護師）の導入と褥瘡対策委員会

2011年度より院内全体の褥瘡予防に関する知識を向上させるとともに、院内発生の褥瘡の減少、治癒期間の短縮を図ることを目的として手術室を含む各病棟に褥瘡リンクスタッフが配置された。そして、2012年10月より、発生した褥瘡に対して褥瘡リンクスタッフが認識し、安全かつ適切なケア方法を実施できるように院内の状況をスタッフに情報提供できることなどを目的に、褥瘡リンクスタッフミィーティングを行っていた。2018年度からは褥瘡対策委員会との合同開催となり（第３金曜日の15時～ 16時）、褥瘡リンクスタッフが院内の状況について把握し、スタッフへ情報提供することでリーダーシップがとれるようになることなどを期待している。2024年も、部署でのラウンドを行い、病棟の現状の把握、スタッフ指導への指導を重点的に行った。

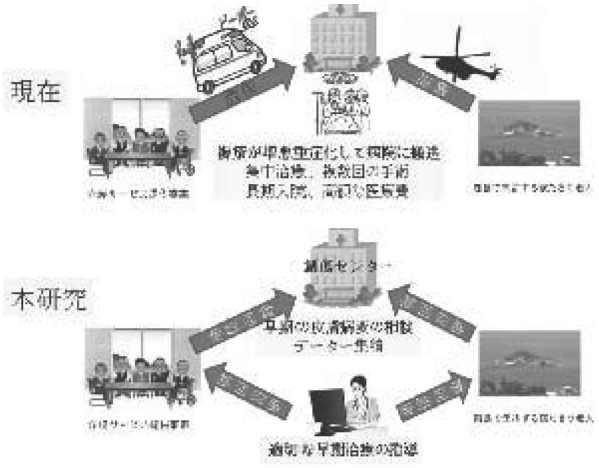
4．体圧分散マットレスの中央管理

2007年より院内保有のエアマットレスおよび静止型マットレスの体圧分散寝具を褥瘡対策委員会で一括管理

している。各部署（3A病棟を除く）が、過不足なく適切に体圧分散寝具を使用できるような体制を整えている。

5．創傷センターを中心とした在宅褥瘡ケアシステムの構築

在宅褥瘡発生背景の推移にいち早く対応し、在宅・介護施設の褥瘡発生を予防するため、容易に医療機関に相談できるシステムの構築が急務であった。褥瘡対策委員会では、国立長崎医療センター創傷センターを中心に県内の全ての介護サービス提供事業者（約500）をインターネット回線で結ぶシステムを構築し、各介護施設と画像送信し、専門医や専門看護師がアドバイスできるシステムの構築を行った。



6．褥瘡ハイリスク患者ケア加算

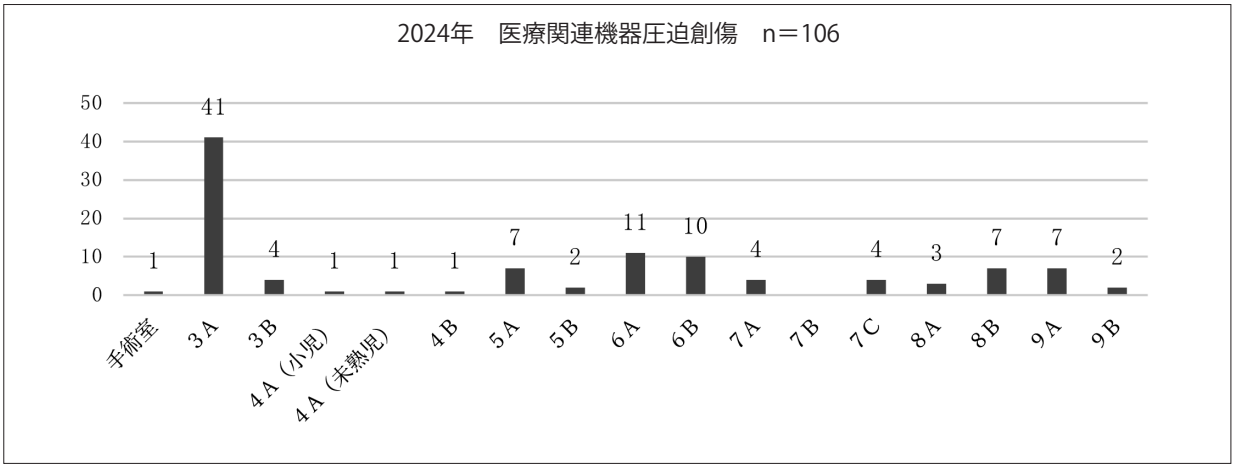
2013年５月より、褥瘡リスクアセスメントの結果を踏まえ、特に重点的なケアが必要と思われる患者について褥瘡予防等に関する治療計画書を作成し、計画に基づき重点的な褥瘡ケアを実施している。

2024年　褥瘡リスクアセスメント票・褥瘡予防治療計画書の作成件数（1684件）

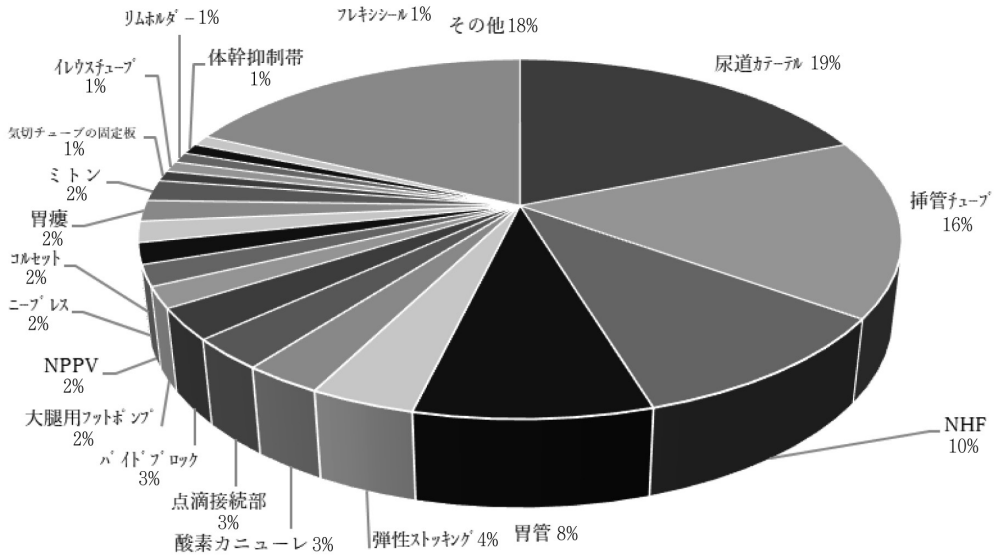
1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
137	151	140	128	141	119	173	141	155	152	104	143

7．医療関連機器圧迫褥瘡の現状

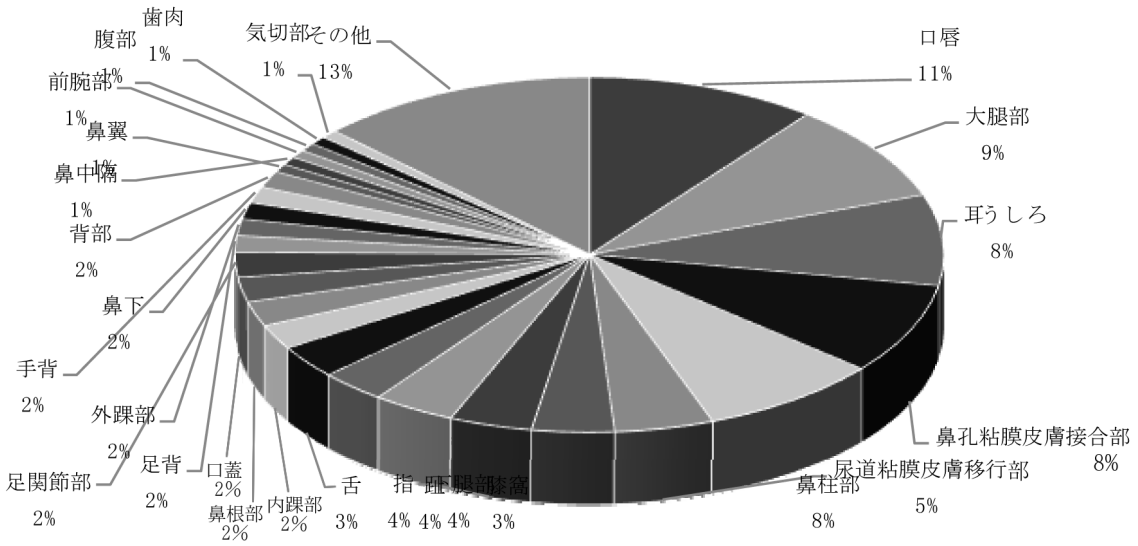
医療関連機器圧迫褥瘡とは、「機器装着時に局所的な外力によって発生する創傷」のことである。当院でも、NPPVマスクや尿道留置カテーテル、弾性ストッキングなどによる創傷が発生しており、褥瘡対策委員会においても発生予防のための対策を検討している。



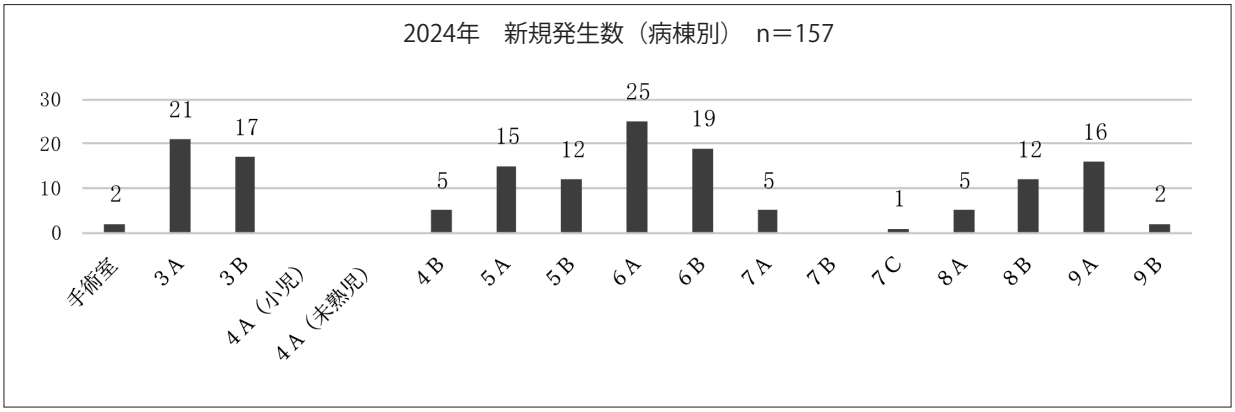
2024年　医療関連機器圧迫創傷　n＝106

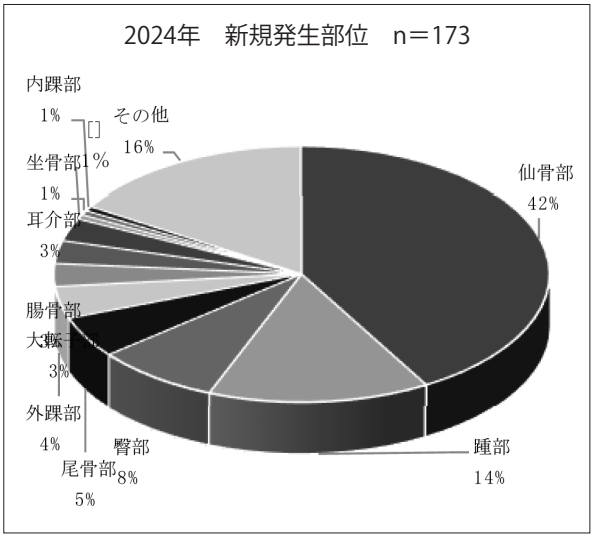


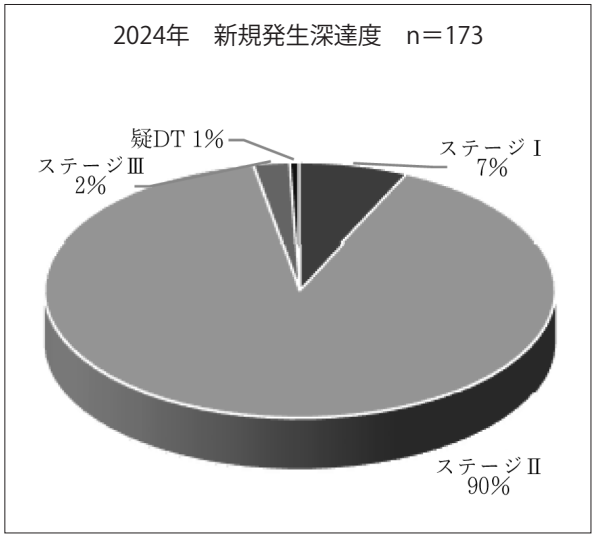
2024年　医療関連機器圧迫創傷発生部位　n ＝133



	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
新規発生数	138	154	162	178	157	169	190	157
新規発生率	0.64	0.7	0.8	0.94	0.89	0.9	1.03	0.82
医療関連機器圧迫褥瘡数						150	126	106
医療関連機器圧迫褥瘡発生率						0.82	0.67	0.55
持ち込み数	160	167	167	180	167	157	183	184
持ち込み率	0.74	0.75	0.83	0.95	0.93	1.02	0.99	0.96







研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
褥瘡対策委員会	1回/月
褥瘡回診	1回/週

教育講演

日時	テーマ	研修内容	研修方法・準備
2024年 1月16日（金）	スキンケアについて	保湿ケア	・講義 ・講義資料
2024年 5月24日（金）	褥瘡予防・管理ガイドラインについて	ガイドラインの内容 体圧分散寝具の種類・選択	・講義 ・講義資料
2024年 6月21日（金）	おむつの正しい使用について	サイズの選択、着用方法	・講義と演習 ・講義資料
2024年 9月20日（金）	弾性ストッキングについて	弾性ストッキング使用時のケア	・講義と演習 ・講義資料
2024年 10月18日（金）	褥瘡と栄養について	褥瘡発生時の栄養管理	・講義 ・講義資料
2024年 11月15日（金）	体圧分散マットレスについて	種類と選択方法	・講義 ・講義資料
2024年 12月20日（金）	座位時の褥瘡について	発生要因とケア方法	・講義 ・講義資料

学会・論文など

1）原著論文　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数		1	1	

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

2）学会発表　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数		2		

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

3）学術講演　　**（件数）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数				

研究業績

論　文　発　表

A：英文

A-a1：英文原著

1）Prevention of Postoperative Skin Disorders and Pressure Injuries in the Neurosurgical Park Bench Position Surgery：
Kentaro Hara, Takahiro Uemura, Reika Tachibana, Ryosuke Kumashiro, Michiko Yamaguchi, Ichiro Kawahara, Masaki Fujioka.
A Prospective Cohort Study. Cureus. 16(4)：e58552. 2024.4.

2）Development of an estimation formula for preparation time of anesthesia induction and surgery accounting for clinical departmentfactors in optimal surgery schedule management.
Kentaro Hara, Reika Tachibana,Shohei Kaneko, Michiko Yamaguchi, Masaki Fujioka, Tamostu Kuroki, Sumihisa Honda, Terumitsu Sawai.
Scientific Reports. volume 14, Article number：25185. 2024.

3）Investigation of Unavoidable Pressure Injuries in the Actively Dying Stage.
Masaki Fujioka.
Advances in Skin & Wound Care. in publish,. accepted in revised form 2024.5.20.

学会・研究会・講演

B：国内学会

B-b1：シンポジウム，パネルディスカッション等

＜Poster＞

1）防ぎきれない褥瘡の実態調査.
藤岡正樹、藤原洸平、古賀一史、藤原洸平、日吉尚、西園馨子.
第78回国立病院総合医学会. 大坂, 2024.10.18-19.

＜シンポジウム＞

1）急性期病院での褥瘡発生患者のうち9％は防ぎきれない褥瘡である.
藤岡正樹.
「防ぎきれない褥瘡」にどう向き合うか？　第26回日本褥瘡学会学術集会. 姫路, 2024.9.6-7.

B-b2：一般演題

＜口演＞

1 ）防ぎきれない褥瘡の実態調査.
藤岡正樹、福井季代子、出光茉莉江、古賀一史.
第21回日本褥瘡学会九州・沖縄地方会学術集会. 熊本, 2024.2.27.

F：学術講演他

F-b：学会・研究会座長[国内学会]

＜シンポジウム＞

1 ）藤岡正樹.
「防ぎきれない褥瘡」にどう向き合うか？　第26回日本褥瘡学会学術集会. 姫路, 2024.9.6-7.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

ＮＳＴ（栄養サポートチーム）

責任者　安井 順一・荒木 光

診療科の特色

『栄養サポートチーム Nutrition Support Team（以下:NST)』は、複雑な病態下や栄養障害を有した患者に対して、最適な栄養管理を行う医療チームである。患者それぞれに応じた栄養量・栄養素・投与経路を多角的な視点で検討し、栄養状態の改善をサポートするために取り組んでいる。

長崎医療センター NSTは、2004年１月に設立され、医師、管理栄養士、看護師、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の専門スタッフがチームを組んで全科型NSTとして集学的治療を行なっている。

活動状況

全患者を対象に入院時の栄養スクリーニング並びに栄養状態の評価判定を行い、栄養不良の早期発見及び早期対応を行っている。また、主治医及び看護師が「患者の栄養状態に何らかの問題がある」と判断し、NST介入を依頼した場合には、NST専任を中心にNSTスタッフが患者の詳細な栄養アセスメント及び適切な栄養補給法を提案し、主治医と共に患者の栄養状態の改善を図っている。

2023年から開始したNSTラウンドへのJNPの参加、リンクナースの同行は継続し、当院の新たなラウンド体制について検討を行った。看護師のNSTへの参加は、JNPと特定の研修を受けた専任の看護師がローテーションでラウンドするようにした。その結果、NSTからは、患者の思いやQOLだけではなく、医療デバイスを含めた診療方針に係る部分なども考慮した幅広い視点で最適・最良な栄養管理を提案できるようになった。また、リンクナースのNSTラウンドへの参加は、所属している病棟とは異なる病態や、それに応じた栄養管理などを考える機会となり、スタッフの栄養管理に対する見識を深めることにつながっている。

また、本年は第27回長崎県NST研究会において、当院のNSTを代表して看護部の瀧口副看護師長が「多職種と協働しNSTの質向上に向けた体制の構築 ～人材育成および経営参画の視点を通して～」について発表を行い、看護部の積極的な取り組みについて評価いただいた。

本年も昨年に引き続き、NST勉強会を実施した。また、NST加算要件である栄養管理に係る所定の実地研修を薬剤師１名、管理栄養士１名が受講した。患者の栄養管理に興味を持つスタッフ、さらには栄養に関連した専門知識を持ったスタッフが院内に一人でも増え、今後さらに患者の栄養状態改善を多職種でサポートできる施設に発展することが期待される。

≪NSTカンファレンス・ラウンド≫

○実施日

毎週木曜日　15：00 ～

○メンバー

専任（医師、看護師、薬剤師、管理栄養士）

臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士のNSTスタッフと、主治医、病棟看護師

○内容

必要栄養量の算出、栄養管理プランの検討、食事内容の検討、経管栄養の種類・投与方法の検討、輸液栄養の検討、報告書作成など

研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
NST回診・カンファレンス	毎週１回
NST委員会	毎月１回

学会認定状況

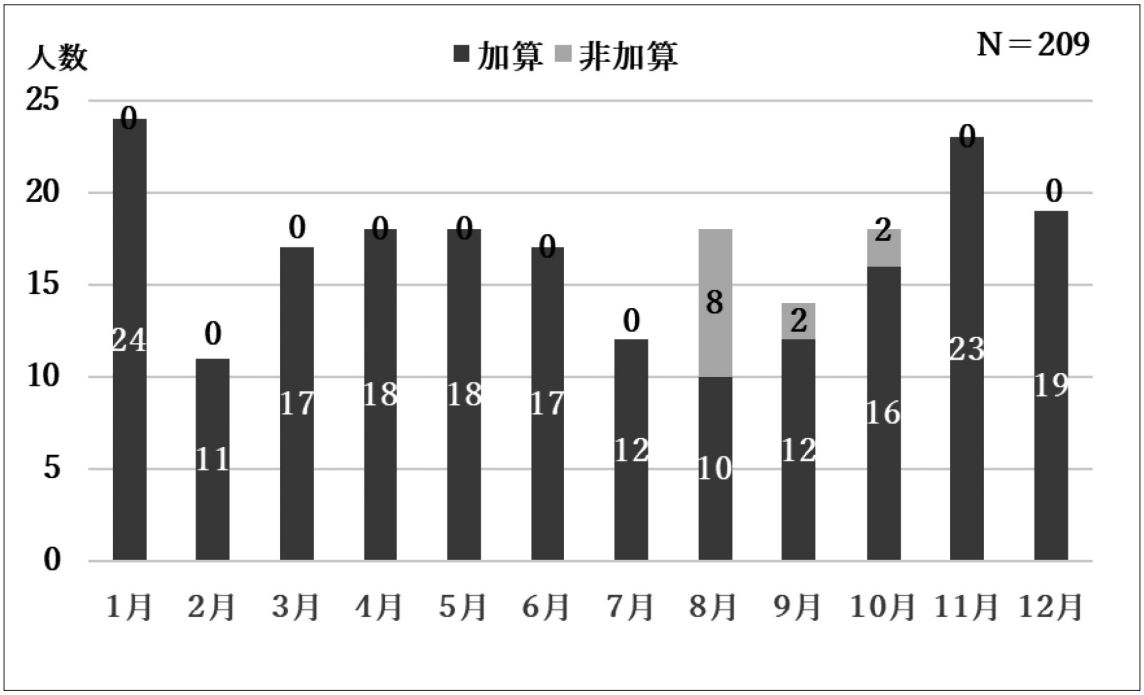
認定名称	認定学会	認定日
NST稼動施設認定	日本臨床栄養代謝学会 （旧名称：日本静脈経腸栄養学会）	2005年11月１日～ （５年毎更新）

NSTスタッフ

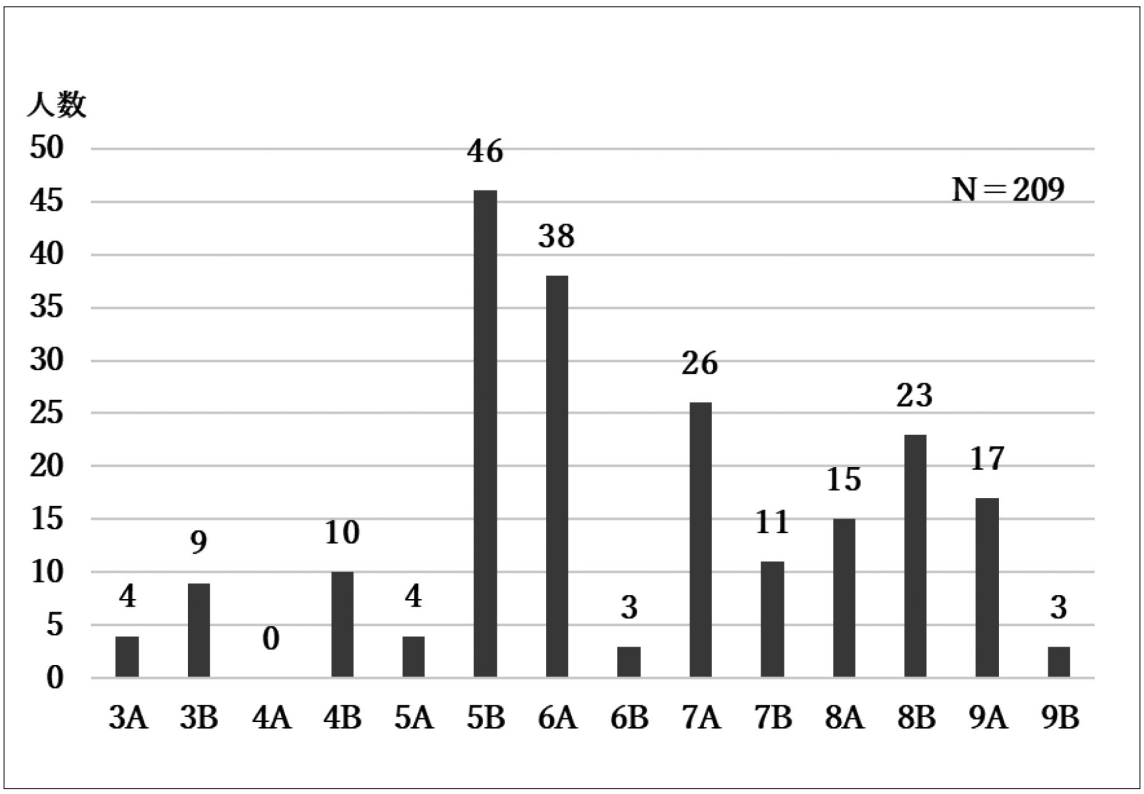
役　割	職　種	人数／（ ）内はNST加算要件を満たす研修修了者数	NST関連認定等
スーパーバイザー	副院長	１（0）	
チェアマン	内分泌・代謝内科医長	１（1）	ＴＮＴ１名
ディレクター	外科医長	１（0）	
バイス・ディレクター	栄養管理室長	１（1）	
コアスタッフ	内分泌・代謝内科医師	２（2）	NST医師-歯科医師教育セミナー２名
	副看護部長	１（0）	
	看護師長	２（0）	
	副看護師長	４（1）	
	JNP	１（1）	
	管理栄養士	６（6）	NST専門療法士２名
	薬剤師	３（3）	
	臨床検査技師	１（0）	
	理学療法士	２（0）	
	作業療法士	１（0）	
リンクナース	看護師	12（2）	
事務	経営・企画係	１（0）	

入院診療実績

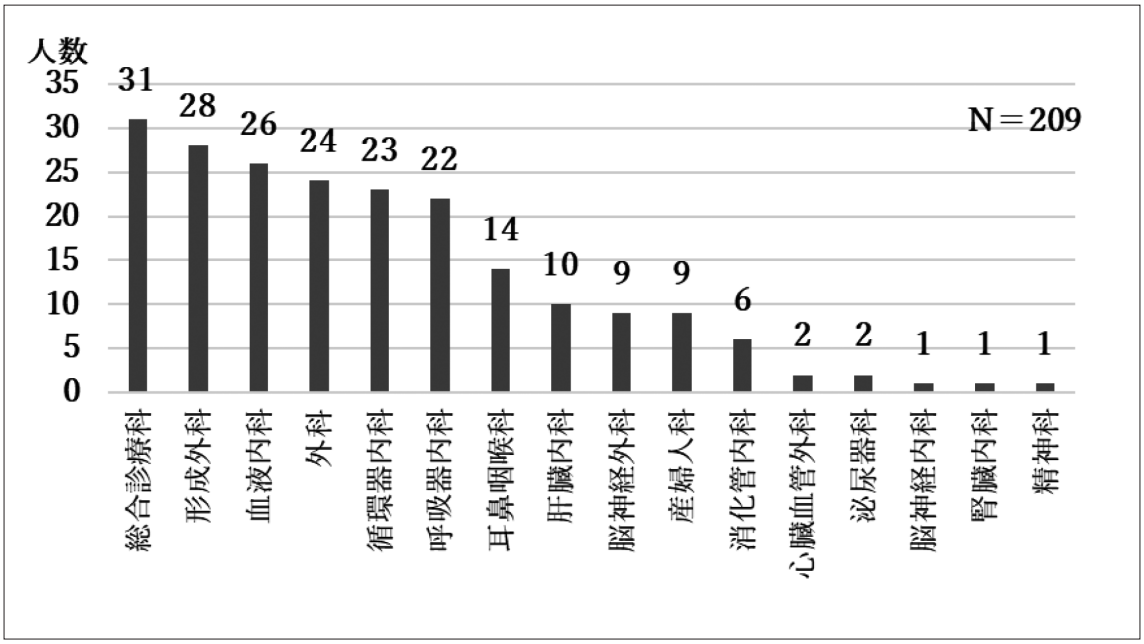
【2024年　NST介入患者数の推移】



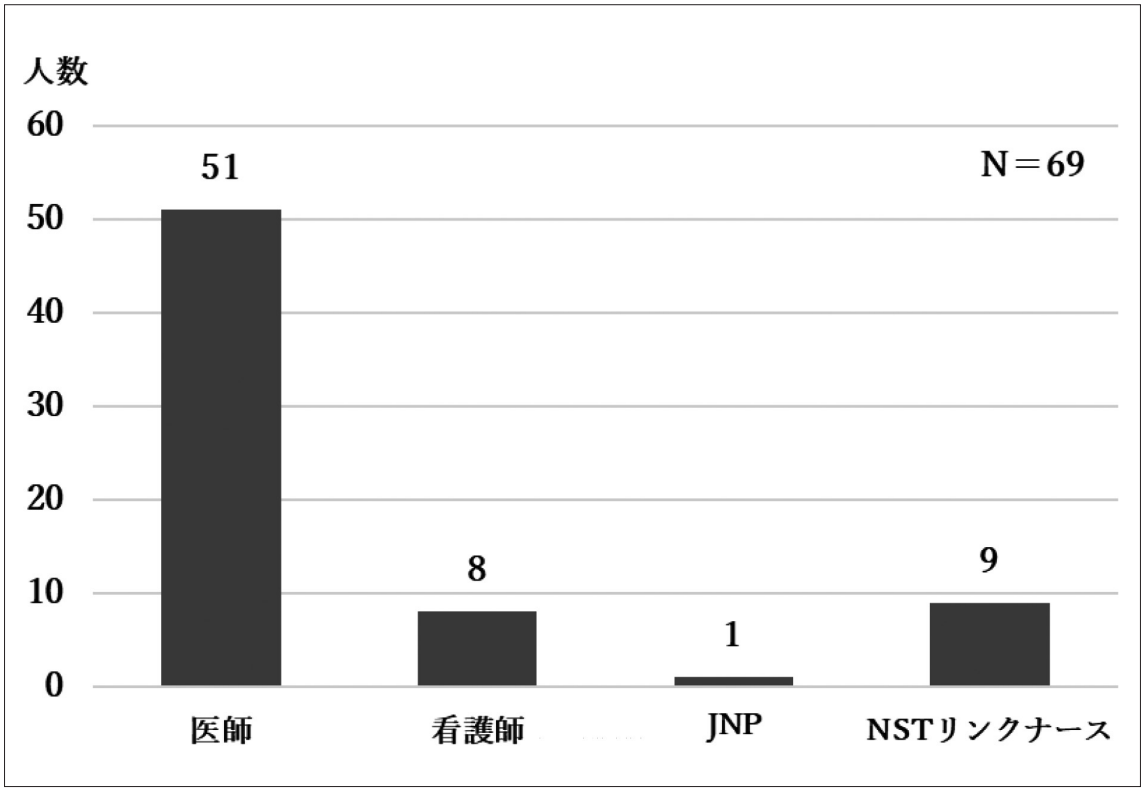
【2024年　病棟別NST介入件数】



【2024年　診療科別NST介入件数】



【2024年　NST介入依頼者】



研修・教育

NST関連勉強会・研修会

開催日・場所	名称・開催場所	内容	参加人数
2024年10月５日	第27回長崎県NST研究会	発表	発表者 １名 参加者 １名

NST40時間実地研修

研修施設	取得者
九州医療センター	中川未菜（薬剤師）
長崎大学病院	津田美怜（管理栄養士）

学会・論文など

１）原著論文　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	0	0	0	0

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

２）学会発表　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	0	1

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

３）学術講演　　**（件数）**

種類	0	0	0	0
件数	0	0	0	0

４）学会座長　　**（件数）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	0	0

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

研究業績

学会・研究会・講演

G：その他

１）多職種と協働しNSTの質向上に向けた体制の構築～人材育成および経営参画の視点を通して～.
瀧口尚、川畑貴寛、菅明美、森塚倫也、荒木光.
長崎県NST研究会. 長崎, 2024.10.5.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

臨床工学室

責任者　中道 親昭・田代 博崇

診療部門の特色

臨床工学室には臨床工学技士が９名在籍し生命維持管理装置の操作等を行う臨床業務と、医療機器の点検等を行う医療機器管理業務を通じて高度医療の提供と医療安全に貢献している。またオンコール体制をとっており、休日や時間外の緊急症例にも24時間対応している。

臨床業務では人工透析をはじめ各種アフェレシスや末梢血幹細胞採取、心臓カテーテル検査・治療、不整脈治療、ペースメーカ、補助循環、人工心肺、自己血回収、脳神経モニタリング、ロボット支援手術などで技術支援を行っている。また毎週多職種で実施される呼吸ケアサポートチームに参加するとともに臨床工学室独自でも稼働中の人工呼吸器のラウンドを毎日行っている。

医療機器管理業務では輸液ポンプやシリンジポンプ、人工呼吸器などをME機器センターで中央管理し、日常点検や定期点検を行うことで安全で効率的な医療機器の提供に努めている。また生体情報モニターや保育器など病棟配置の機器に関しても定期点検やトラブル対応を行っている。

教育に関して2024年は、４学会合同体外循環技術認定士を１名、日本アフェレシス学会認定技士を１名が取得した。また臨床実習生も１名受け入れた。

2023年12月に初症例を行ったロボット支援手術が2024年から本格的に稼働した。臨床工学室では手術センターなどと協力し設備や運用の検討など行い術式や症例数の増加に対応した。増員なしでロボット支援手術を毎日実施できる体制にするために自部門内の業務の見直しも行った。今後さらなる術式の増加にチーム一丸となって取り組んでいきたい。

入院診療実績

【2024年医療機器管理業務件数】

	輸液ポンプ	シリンジポンプ	人工呼吸器	酸素飽和度モニター	低圧吸引機	フットポンプ	経腸栄養ポンプ	バッグバルブマスク	血液浄化	生体情報モニター
日常点検	357	845	593	21	228	167	63	216	23	137
定期点検	711	591	28	41	81	162	37	2	2	242
修理	32	10	14	4	10	21	4	1	0	85
業者依頼	1	0	4	0	0	0	0	0	2	16
総数	1101	1446	639	66	319	350	104	219	27	480

	高流量システム	内視鏡	除細動器	体外式ペースメーカ	電気メス	麻酔器	保育器	体温管理装置	AED	
日常点検	214	1	1	49	1	6	0	1	3	
定期点検	1	0	10	2	55	7	19	0	5	
修理	2	0	1	2	10	23	1	0	2	
業者依頼	2	0	0	0	2	14	4	1	0	
総数	219	1	12	53	68	50	24	2	10	

【2024年臨床業務件数】

	透析（センター）	透析（救命）	持続血液浄化	白血球吸着	血漿交換 血漿吸着	吸着式 潰瘍治療	吸着式 血液浄化	腹水濾過
定　例	3823	9	51	53	17	23	0	21
緊　急	25	2	0	0	0	0	0	0
総　数	3848	11	51	53	17	23	0	21
	幹細胞採取	NO療法	呼吸器巡回	呼吸器搬送	人工心肺	自己血回収	ロボット支援手術	術中脳神経モニタリング
定　例	1	0	3932	15	33	47	76	26
緊　急	0	1	12	0	2	10	0	0
総　数	1	1	3944	15	35	57	76	26
	ペースメーカ（埋込、交換）	ペースメーカ（チェック）	ペースメーカ（手術立会）	シャント PTA	IABP	ECMO	心カテ（CAG）	心カテ（PCI）
定　例	54	741	38	23	0	16	180	170
緊　急	1	26	6	12	10	7	3	31
総　数	55	767	44	35	10	23	183	201
	アブレーション	高気圧治療	頚動脈ステント治療	低体温療法	血管焼灼	心臓外科手術介助		
定　例	69	151	1	0	17	2		
緊　急	0	2	0	12	0	1		
総　数	69	153	1	12	17	3		

研修・教育

カンファレンス等

名称	開催頻度
臨床工学室カンファレンス	1回／月
透析センターカンファレンス	1回／週
アブレーションカンファレンス	1回／週
呼吸ケアサポートチーム（RST）	1回／週

講義等

名称	開催日	対象	担当講師
新研修医オリエンテーション　医療機器	4月2～3日	研修医	杉山哲司 加来泰司
医療安全研修　生体情報モニター使用時の注意点	8～12月	全職員	加来泰司
新規導入研修　NPPV（NKV-330）について	6～7月	該当病棟	川満　守
IABPについて	7月23日	3A看護師	下野恭平
CHDFについて	7月25日	3A看護師	加来泰司

臨床実習

学校名	実習期間	学年	人数
博多メディカル専門学校	10月21日～11月7日	3年	1

学会・論文など

1）原著論文　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	0	0	0	0

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

2）学会発表　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	2	5	1

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

3）学術講演　　**（件数）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	2	0

4）学会座長　　**（件数）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	2	2

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

研究業績

学会・研究会・講演

B：国内学会

B-a：特別講演, 教育講演

＜教育講演＞

1）アフェレシスの基礎.
松本育海.
長崎県臨床工学会主催第 4 回卒後教育セミナー . 大村市, 2024.9.8.

＜講演＞

1）心血管治療の最前線.
杉山哲司.
第30回鹿児島県臨床工学会. 鹿児島市, 2024.1.21.

＜座長＞

1）CIEDs患者の心不全検索と設定.
寺下真吾.
第 7 回循環器関連セミナー . 長崎市, 2024.1.21.

2）後半の部 「不整脈治療の基礎」「人工呼吸器の基礎」.
石川真聖.
長崎県臨床工学会主催第 4 回卒後教育セミナー . 大村市, 2024.9.8.

B-b1：シンポジウム, パネルディスカッション等

＜Oral＞

1）国立病院機構における臨床工学部門の組織運営を考える.
田代博崇.
第10回全国国立病院機構臨床工学技士協議会学術大会. 札幌市, 2024.7.13.

＜座長＞

1）THE徳洲会「徳」を知り「徳」を積む.
杉山哲司.
第36回日本心血管インターベンション治療学会九州沖縄地方会. 福岡市, 2024.1.12.

B-b2：一般演題

＜Oral＞

1）再狭窄病変治療にIVUS・OCTが有用であった症例.
井手下清香.
第36回日本心血管インターベンション治療学会九州沖縄地方会. 福岡市, 2024.1.12.

2）人工呼吸器回路における呼気側回路の水分蒸散性能評価.
石川真聖.
第34回日本臨床工学会. 福井市, 2024.5.19.

3）再狭窄病変治療にIVUS・OCTが有用であった症例.
川満守.
第16回長崎県臨床工学会. 長崎市, 2024.6.2.

4）この業務って大丈夫？　～グレーゾーンと感じる業務にどう対応するか？～.
松本育海.
2024年度全国国立病院機構臨床工学技士協議会九州支部学術大会. 熊本市, 2024.9.14.

＜ポスター＞

1）多剤耐性アシネトバクター感染症に対する隔離病棟での血液透析を経験して.
加来泰志、田代博崇、松本育海.
ポスター３. 第56回九州人工透析研究会総会. 長崎市, 2024.12.15.

＜座長＞

1）松本育海.
一般演題６. 第56回九州人工透析研究会総会. 長崎市, 2024.12.15.

E, G：学術講演他

E：研究会世話人

＜世話人＞

1）松本育海.
長崎県臨床工学会主催第４回卒後教育セミナー. 大村市, 2024.9.8.

G：その他

＜Oral＞

1）体外循環における○○管理.
　八尋智基.
　第２回長崎　meeting. 長崎市, 2024.2.3.

2）施設紹介.
　下野恭平.
　体外循環セミナー in 鹿児島. 鹿児島市, 2024.5.11.

＜コメンテーター＞

1）大質問大会.
　杉山哲司.
　体外循環セミナー in 鹿児島. 鹿児島市, 2024.5.11.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

医療安全管理室

責任者　黒木 保・井手 時枝

部署の特色

医療施設においては、安全な医療の提供が基本である。そのためには、全職員がその重要性を認識し医療行為を遂行しなければならない。医療安全管理室の業務としては、１）現場の情報収集および実態調査、２）マニュアルの作成・点検・見直しの提言、３）インシデント・アクシデント報告事例の収集・分析・保管、４）分析結果の現場へのフィードバックと集計結果の管理、５）改善策の提案・推進とその評価、などである。

毎週火曜日に医療安全管理部会を開催し事例検討や各部門との情報共有を行い、改善策やマニュアル改訂の必要性等を検討している。多職種間で検討することで、さまざまな観点から問題解決の糸口を見つけることができより組織横断的に医療安全に取り組むことが出来るようになった。改善内容は、看護師長会議・医療安全推進担当者会議・管理診療会議・医局会などでの伝達や独自の活動広報誌を作成し周知を図るとともに、日々のラウンドで改善および実践状況の確認を行っている。

１．医療安全管理室活動実績

月	内　　容
１月	・医療安全Newsレター（Vol.11）発行 ・令和５年度　医療安全対策地域連携評価の開催 （連携加算Ⅰ：嬉野医療センターを評価） ・「人工鼻の加湿器との併用」「アレルギーに登録されている薬剤の投与」事例の情報共有と再発防止策の検討・周知 ・医療安全講習会「患者さんに安心安全な睡眠を」開催
２月	・MRI検査時におけるCVポート留置針の取り扱いの検討 ・「救急外来ヒューマリンＲを予定量の100倍で準備」「救急外来MRI中のCPA」事例の情報共有と再発防止策の検討・周知 ・医師のオカレンスに関する報告基準Ver.1の作成
３月	・医療安全Newsレター（Vol.12）発行 ・人工呼吸器指示表、人工呼吸器チェック表の運用開始 ・「アレルギー患者へアレルギー成分の入った濃厚流動を提供摂取した」「食物アレルギーの患者にアレルギー食が提供された」事例の情報共有と再発防止策の検討・周知 ・人工呼吸器マニュアルの改訂 ・アナフィラキシーマニュアルの内容検討 ・医療安全研修受講実績、BLS研修受講実績の報告
４月	・医療安全Newsレター 2024年度（Vol.1、Vol.2、Vol.3）発行 ・「人工鼻使用患者のアクアパック併用」「CT画像診断報告書の確認不足」事例の情報共有と再発防止策の検討・周知 ・令和６年度BLS研修年間計画の提示 ・オカレンスレポートの運用開始 ・ヒューマリンRと専用シリンジをセットにした払い出しを開始
５月	・医療安全Newsレター（Vol.4、Vol.5）発行 ・医療安全関連マニュアル改訂について年間計画の提示 ・条件付きMRI対応ペースメーカー挿入患者のMRI検査運用見直しの検討 ・令和６年度医療安全研修年間計画の提示 ・窒息・誤嚥に関連した病棟の現状について情報共有

6月	・「イレウス管を挿入した患者へMRI検査をオーダーした」「差し歯の脱落による誤飲」「脳槽ドレーン管理中のオーバードレナージにより一時的に意識レベルが低下」「ナースコールコードによる絞首」「院内喫煙」事例の情報共有と再発防止策の検討・周知 ・MRIチェックリストの改定
7月	・医療安全Newsレター（Vol.6、Vol.7、Vol.8）発行 ・BLS研修　対象：レベルⅣ研修生 ・「アレルギー薬剤投与によるアナフラキシーの発症」「開放式三方活栓のロック忘れによる出血」事例の情報共有と再発防止策の検討・周知 ・「ストック薬使用前の確認フローチャートの作成」「ストック薬使用前の確認事項」試験運用の開始 ・アナフィラキシーマニュアルの改訂 ・身体拘束最小化委員会の開催、身体的拘束最小化チームの設置
8月	・医療安全Newsレター（Vol.9）発行 ・医療法で規定された職員研修（医薬品・MRI検査・原子力災害・医療ガス・医療機器・診療用放射線）開催 ・「レベル１にて開封数か月間経過した薬剤と回路を使用」「壁配管に直接吸引チューブを接続」事例の情報共有と再発防止策の検討・周知 ・練習用の注射薬管理に関する取り決め ・院内で取り扱う三方活栓の種類と使用場面の統一 ・注射マニュアルの改訂
9月	・患者誤認防止対策に関する検討 ・BLS研修　対象：レベルⅠ、レベルⅡ、レベルⅢ研修生 ・生体情報モニターマニュアルの改訂 ・気管カニューレMRI対応表の改訂 ・身体拘束最小化チームによる定期ラウンドの開始 ・「医療事故防止のための要点と対策２」の改訂
10月	・患者誤認ゼロ月間に向けた各部署の対策立案 ・全職員へのBLS研修開催 ・令和６年度病院間医療安全相互チェック「生体情報モニター・人工呼吸器のアラーム対応」（10月21日　名古屋医療センターより当院評価） ・令和６年度病院間医療安全相互チェック（10月31日　相模原病院を評価） ・「ニフレックにとろみ剤を混ぜて服用させた」「７日分の一包化薬を１回で全て内服」「セーフタッチプラグの誤操作」事例の情報共有と再発防止策の検討・周知
11月	・医療安全Newsレター（Vol.10、Vol.11）発行 ・令和６年度病院間医療安全相互チェック（11月７日　オブザーバー） ・全職員「患者誤認ゼロ月間」の取り組み ・「シュアプラグADの誤操作による出血」「転倒による脳挫傷・左頭頂骨骨折」「生体情報モニター管理下での死亡」事例の情報共有と再発防止策の検討・周知
12月	・医療安全Newsレター（Vol.12）発行 ・MRI磁性体管理区域の設定 ・造影検査におけるステロイド前投薬の推奨を廃止 ・「アレルギー薬剤の投与」「ベッドからの転落による鼻骨骨折・硬膜下血腫」「転倒による右母指骨折」事例の情報共有と再発防止策の検討・周知 ・生体情報モニターのアラーム音色、アラーム音量の統一 ・推奨する不眠、不穏時の使用薬剤の決定

２．報告状況

＜インシデント報告、医療事故報告＞

報告件数は2209件で、昨年より231件増加した。医療事故事例は28件であった。４月より「医師のオカレンスに関する報告基準」を作成し、重症合併症・偶発症の報告促進を行った。その結果、オカレンスは８件であった。事故の分類としては、治療・処置に関すること８件、療養上の世話に関すること６件、薬剤に関すること３件、医療機器等・医療材料の使用・管理に関すること２件、検査に関すること２件、ドレーン・チューブ類の使用・管理に関すること２件、その他５件であった。医療事故事例は、日本医療機能評価機構及び国立病院機構への報告を行った。周知が必要なインシデントや医療事故発生時は、「周知・警鐘事例」としてタイムリーに情報を発信し、再発

防止に努めた。活動広報誌としてNewsレターを作成し、できるだけタイムリーに周知するための工夫を行った。各部署での振り返りを行う際には、医療安全管理室より参加し一緒に再発防止策の検討を行った。

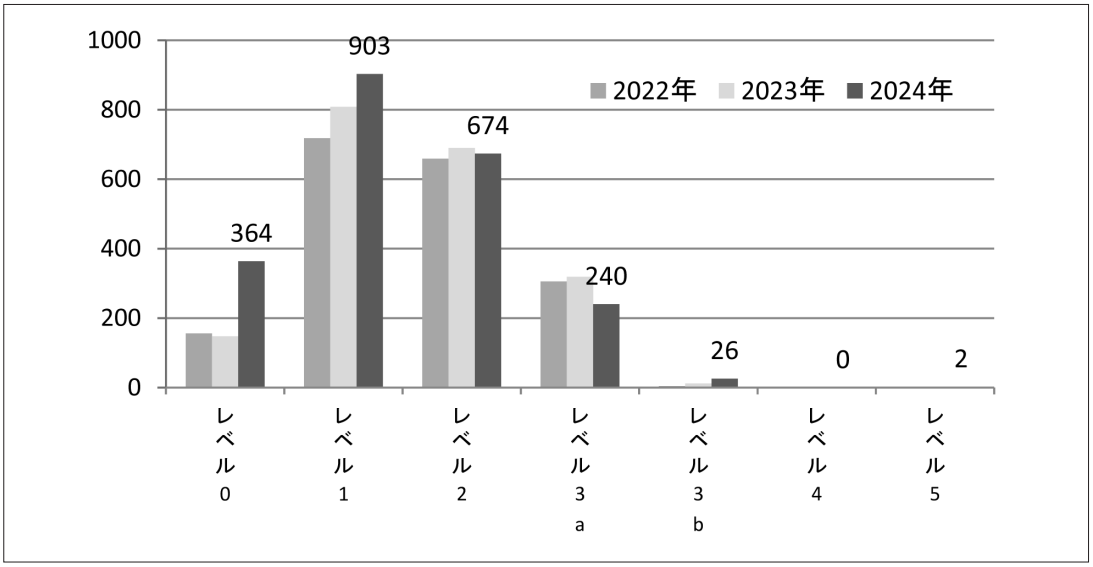
○発生件数年間推移

	2022年	2023年	2024年
発生報告件数全体	1843件	1978件	2209件
医療事故等状況報告	4件	13件	28件
MP報告	3件	7件	8件

○施設外報告状況

報告管理施設	報告内容	件数もしくは報告頻度
日本医療機能評価機構	医療事故報告、ヒヤリ・ハット報告	10件
	ヒヤリ・ハット事例発生件数報告	4回／年
国立病院機構	医療事故報告、ヒヤリ・ハット報告	10件

＜患者影響レベル別報告件数＞



報告件数2209件に対して各患者影響レベルの報告件数割合は、レベル０が16.5％、レベル１が40.9％、レベル２が30.5％、レベル3aが10.9％、レベル3bが1.2％、レベル５が0.1％であった。積極的なレポート提出を呼びかけた効果もあり2023年より全体件数が231件増え、優良レポートは61件増加した。11月は患者誤認防止月間として院内での取り組みを行ったが、患者誤認に関するインシデントは147件（6.5％）を占めた。しかし、患者影響レベルの大きな事例の発生はなかった。今後も、事例を通し確認行動の定着に繋げていく。

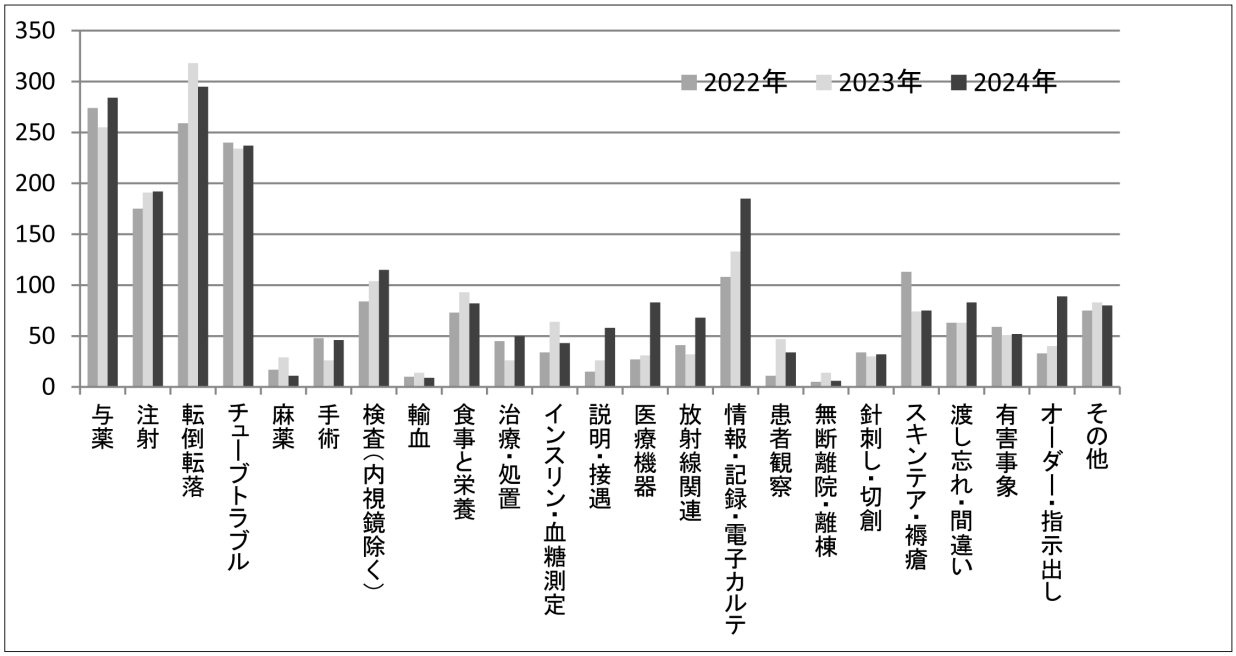
＜部門別報告件数＞

看護部	医師	研修医	薬剤部	放射線	リハビリ	栄養	検査	ME	事務	その他	合計
1724	152	10	22	139	16	29	25	13	38	41	2209

全報告件数の78.0％が看護部であり、前年より5.3％減少した。看護部以外は485件（22％）で、前年より5.4％増加した。医師部門（レジデント・研修医含む）は162件で前年より73件増加した。薬剤部は、払い出し間違いや持参薬報告に関連した内容があり前年より16件減少した。放射線科は、患者影響レベル０やレベル１での報告が多く上がり前年より102件増加した。リハビリは、リハビリ中の転倒やチューブトラブルがあり前年より８件減少

した。栄養科は、異物混入や乗せ間違いがあり前年より22件減少した。検査科は、検体の取り扱いに関する報告が主で前年より６件減少した。事務は書類の取り込み間違いや紛失が主で前年と同じ件数であった。医療安全管理部会で事例を共有し要因分析や検討を重ね、システムの改善や再発防止に向け組織横断的に活動することが出来た。

＜出来事分類別報告件数＞



前年と比較し、与薬・注射・転倒転落・チューブトラブルの発生傾向に大きな変化はなかった。検査では、検体採取時のミスや検体取り扱いの不備により11件増加した。医療機器関連では、生体情報モニターの確認不足や医療機器の取り扱い不備があり2023年より報告が52件増加し、患者影響レベル3b事例も２件発生した。情報・記録・電子カルテでは、書類の取り込み間違いやカルテの誤記載が多く2023年より52件増加した。オーダー・指示出しでは、点滴や内服薬の処方に関するオーダー間違いもあったが、投与前にオーダー間違いに気づけた報告も増え、2023年より49件増加した。

研修・教育

１．カンファレンス

名　称	参加職種	構成人数	実施回数
医療安全管理部会	医師・看護師・薬剤師・放射線技師・検査技師・理学療法士・栄養士・臨床工学技士・専門職・医療安全管理係長	17人	１回/週

２．確認行動チェック

名　称	監査委員	実施回数
確認行動チェック （内服・注射・インスリン）	副看護師長・医療安全推進担当者	６回/年

３．病棟ラウンド

名　称	監査委員	実施回数
生体情報モニター 身体拘束の現状	副看護師長・医療安全推進担当者	３回/年

4．研修会開催状況

医療ガス・医薬品・医療機器・診療放射線・MRI・原子力災害の６つの分野において、医療安全職員研修を開催した。働き方改革を考慮し研修動画の視聴及びWeb上のテスト問題に回答する形で実施した。BLS研修においても全職員を対象に各自、自己学習を行った上で15分ずつの実技試験のみを受ける形で実施した。

開催日	研修名	講師 実技試験チェック者 e-ラーニング教育媒体	対象者	実施回数	受講者数
7/2・7/23 7/25・9/4 9/10・9/12 9/18・9/20 9/25・9/26 9/30・10/10 10/23・11/4 11/27・12/12 12/25	BLS研修	高度救命救急センター医師 総合診療科医師、JNP 医療安全管理係長 医療安全専従看護師 副看護師長	レベルⅠ看護師 レベルⅡ看護師 レベルⅢ看護師 レベルⅣ看護師 医療従事者	17	705
4/1・4/4 4/8・6/2 6/10・7/1 7/8・10/1	新採用者職員研修	医療安全管理係長	医師・看護師・ 事務・その他 （新採用者）	8	70
8/1 ～ 12/31	医療ガスの取り扱い 酸素ボンベの取り扱い	公益財団法人医療機器センター作成動画	全職員	各自 Web	1202
	医療安全（医薬品） 医薬品の安全使用	薬剤部作成動画			
	原子力災害医療に 関する基礎知識	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構作成動画			
	MRI検査の安全使用	放射線科作成動画			
	生体情報モニター 使用時の注意点	臨床工学技士作成動画	医師・看護師		859
	診療用放射線の安全利用	日本医師会作成動画	医師・看護師 診療放射線技師 言語聴覚士		888

5．講　義

1）看護学統合実習「組織で取り組む医療安全の実際」活水女子大学看護学部４年生　2024.7.11

2）医療安全管理論「組織で取り組む医療安全の実際」活水女子大学看護学部２年生　2024.12.3

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

BLS研修

責任者　中道 親昭・井手 時枝

診療科の特色

BLS（Basic Life Support；一次救命処置）は、日常生活において突発する健康危機に対して、即座に判断し、とるべき行動をまとめたプログラムであり、反復教育が有効とされている。2004年より本格的にBLS研修が開始され、2024年で21年目となった。長崎医療センターに勤務している職員としての自覚を持ち、いつでも救命処置や自動体外式除細動器（AED）が使えるようにすることを目的とし開催している。2020 ～ 2021年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対象を限定し開催した。

2023年より全職員を対象に感染対策と働き方改革を考慮し各自、自己学習（動画視聴と資料閲覧）を行った上で15分ずつのBLS実技試験のみを受ける形式へ変更した。BLS研修受講者には、右記のシールを発行し受講終了したことを把握している。



BLS研修の周知

救急患者や急変時に対応する機会の少ない場合は、６ヶ月で知識が薄れ、即座には対応出来なくなる。患者急変はいつ起こるかわからないため、対応するスタッフへ繰り返し開催することで、急変時の対応能力の向上を目指したい。

METコールを有効に活用するため、2024年２月よりドクターコールの要請基準を呼びかけに反応なしから、呼吸・循環なしの要請基準へ変更した。その結果、2024年のドクターコール発生件数は25件となり前年より12件減少し、METコール件数は３件から14件へ増加した。急変時教育の年間計画としてMETシミュレーションや高度救命救急センター看護師によるMETラウンドを行い、予期せぬ心停止を防ぐためのアセスメント能力向上のための機会を設けている。ドクターコール事例は、MET運営委員会内や医療安全管理室が参加し６件の振り返りを行った。

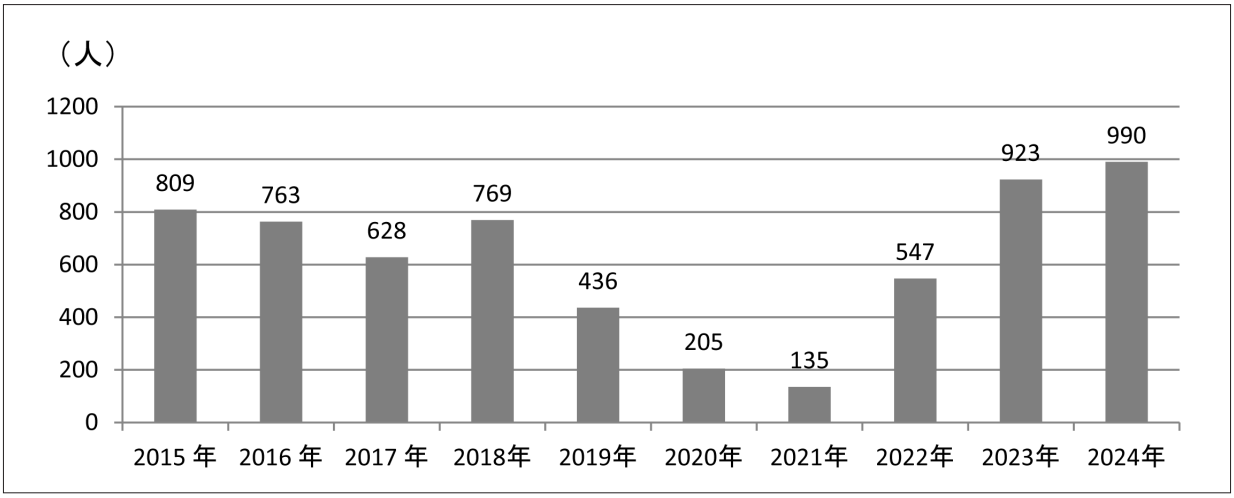
ドクターコールの要請者別件数は、看護師21件、医師１件、臨床工学技師１件、医療職以外２件であった。発生場所は、病棟19件、透析室２件、アンギオ室・会計受付前・救急外来駐車場・MRI室がそれぞれ１件ずつであった。

2020年の心肺蘇生ガイドラインでは、質の高いCPRを目標に胸骨圧迫の重要性が増し、少しでも早く胸骨圧迫を開始し、中断時間を短くすることが求められている。2012年には各病棟の救急カートに、2015年５月には人材育成センター 1F入口ホールにAEDを備え付けあらゆる場所での早期の除細動が可能となった。また小児対応として、小児科外来ブース以外にも9A病棟に小児用緊急セットを配置している。急変時により多くの職員が適切に対応できるよう、全職員を対象としたBLS研修を継続して開催していく。

また、部署での学習会等でも急変時対応の有効例や成功体験例を紹介し職員間で共有できるようにしていきたい。

BLS研修受講状況

1．年間のBLS受講者の推移（件）



2．月別にみたBLS受講者数の推移（人）

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	合計
2015	96	94	48	56	65	80	79	78	84	87	42	809
2016	78	73	38	38	81	79	72	70	93	93	48	763
2017	75	64	26	10	52	62	83	80	80	48	48	628
2018	42	75	71	48	65	83	83	79	80	75	68	769
2019	47	42	33	33	17	0	0	0	82	90	92	436
2020	41	85	0	0	0	0	79	0	0	0	0	205
2021	0	0	0	0	38	0	97	0	0	0	0	135
2022	0	0	0	0	0	34	80	89	147	92	105	547
2023	125	98	99	0	0	19	133	167	118	74	90	923
2024	64	66	153	0	0	0	40	329	144	107	87	990

3．BLS受講者数（人）とドクターコール件数・METコール件数（件）

	BLS受講者数	ドクターコール件数	METコール件数
2015年	809	35	
2016年	763	29	
2017年	628	30	6
2018年	769	47	5
2019年	436	48	5
2020年	205	52	10
2021年	135	30	2
2022年	547	44	5
2023年	923	37	3
2024年	990	25	14

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

感染対策チーム

責任者　近藤 晃

診療部門の特色

安心、安全で良質な医療は、検査や手術といった診断・治療手技の充実だけでは達成できない。病院で生じる危険性のある様々な感染症（医療関連感染）を未然に防ぎ、万一の場合は迅速かつ適切に対応することが不可欠である。感染対策チーム（以下ICT）は、感染対策委員会の下部組織として、院内で起こる様々な感染症から患者さんや職員の安全を守るために活動を行う組織である。

ICTのコアメンバーは、感染制御部室の部長（副院長）、ICDの室長と副室長、専従看護師である。さらにメンバーとして、ICD、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、栄養士、放射線技師、療法士、事務職員など多職種が参加し、週１回のミーティングで感染対策に関する報告や協議を行っている。

ICTの任務は、感染症の発生状況調査と報告（サーベイランス）、日頃の感染症発生予防と対策についての検討、さらに病院全職員への教育、啓発等であり、アウトブレイク時には、感染対策委員会メンバーと臨時の緊急ミーティングを開催し、収束に向けた対応を行っている。地道な作業と迅速な対応が求められる。

令和３年10月１日、第２種感染症指定医療機関の指定を受け「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」６条３号に規定する第２種感染症に対応できるように、陰圧病床を確保し空気感染予防策が必要な患者を対象に稼働している。

その他、HIV/エイズ診療拠点病院でもあり、地域連携として、長崎県内の相談を受ける体制も整えている。

【沿革】

平成11年４月	リンクナース会議に向けての準備委員会発足
平成11年10月	リンクナース会議発足。１名のリンクナースが各病棟に配置
平成16年１月	院内感染予防委員会傘下の活動部隊として感染対策チーム（ICT）発足
平成18年４月	看護部以外からもメンバー（薬剤師、検査技師、栄養士）が参加し、リンクナース会議からリンクスタッフ会議へ名称変更
平成26年４月	リンクスタッフから感染リンクスタッフへ名称変更
平成28年11月	ICT会議および感染リンクスタッフ会議に放射線科とリハビリセンターより参加
平成31年４月	院内感染予防委員会より感染対策委員会へ名称変更
令和元年９月	感染制御部室発足
令和６年４月	感染リンクスタッフ会議に診療看護師（JNP）参加

入院診療実績

1．会議

名　称	参　加　職　種	参加人数（平均）	実施回数
感染対策委員会	医師、看護師、薬剤師、検査技師、事務、研修医	14	12回/年
ICTミーティング	医師、看護師、薬剤師、検査技師、放射線技師、栄養士、療法士、事務	16	1回/週
ICTラウンド	医師、看護師、薬剤師、検査技師、放射線技師、栄養士、療法士、事務	5	1回/週
感染リンクスタッフ連絡会議	看護師、薬剤師、検査技師、放射線技師、栄養士、療法士、JNP	31	1回/月

2．ICT活動

1）サーベイランス

名称	対象	目標	結果
手指消毒回数	全部署	16回以上/患者/日	平均19.6回/患者/日
手指衛生観察数		100機会以上/月	平均273機会/月
手術部位感染	結腸	感染０件/年	４件/年
	直腸		１件/年
	人工関節		０件/年
	脳外科		５件/年
中心静脈カテーテル	全病棟		21件/年
尿道留置カテーテル	全病棟		94件/年
針刺し切創・粘膜汚染	全職員	13件以下/年	30件/年
インフルエンザ（院内発生）	全患者	０件/年	２件/年
新型コロナウイルス感染症（院内発生）	全患者	０件/年	11件/年
多剤耐性菌 （院内発生・持ち込み含む）	全患者	０件/年	MDRA：０件/年 MDRP：０件/件 CRE・CPE：９件/年 VRE：１件/年

耐性菌発生防止や感染症対策として基本である標準予防策の徹底、特に手指衛生の向上を目標に活動している。手指衛生直接観察法を取り入れ、観察者の育成も集合教育で実施している。観察数の目標を100機会/月以上、患者一人当たりの手指衛生回数16回/日を目標とし、目標達成できている部署が増加傾向である。WHO手指衛生「５つのタイミング」別の手指衛生実施率は80％以上を概ね達成できているが、使用量との乖離がある部署もあり、教育の継続が必要である。厚生労働省院内感染サーベイランス（JANIS）、厚生労働省委託事業AMRサーベイランス（J-SIPHE）、職業感染制御研究会（EPNET）、長崎県耐性菌ネットワーク等に参加し、近隣や全国の施設との比較を行っている。耐性菌はMRSAは減少傾向であるが、ESBL産生菌、多剤耐性菌の検出が増加傾向であり、今年度はカルバペネマーゼ産生腸内細菌目細菌（CPE）のアウトブレイクを経験した。標準予防策の徹底とともに、抗菌薬適正使用についても教育が必要である。

2）ICTラウンド

毎週のICTミーティング後に、高度救命救急センター、小児病棟（未熟児）は毎週、他の病棟はテーマごとに毎月１回、病棟以外の部署は２か月に１回、ICTメンバーにてラウンドし、チェック表に基づき感染対策が適切に遂行されているか確認し、環境改善について指導している。ラウンド結果は報告書として部署へ提示し改善活動を行ってもらい、改善できているかについても確認を行っている。７月には「リキャップ禁止キャンペーン」を実施し、各部署で針刺し防止対策について考える機会を持ち、職業感染防止の組織風土の醸成に努めた。

3）アウトブレイク対応

平成31年３月、多剤耐性アシネトバクター（MDRA）によるアウトブレイクが高度救命救急センターで発生した。以降保菌患者３名が入院中である。５月に消化器外科病棟にて合計10名のカルバペネマーゼ産生腸内細菌目細菌（CPE）によるアウトブレイクが発生した。原因と考えられる水回りの管理と職員の手指衛生徹底への教育、抗菌薬適正使用への支援などに取り組み収束させることができた。当該病棟以外の病棟シンクの清掃・消毒方法についても頻度、方法を取り決め管理の徹底をしている。８月に新型コロナウイルス感染症５件、12月にインフルエンザ２件の院内発生があった。感染対策を強化し、早期収束に努めた。この時の経験より「感染症警戒レベル」別の対策を取り決め、地域と院内の感染症流行状況から判断し、ICTからの感染対策レベルの発信を開始した。

4）抗菌薬使用支援

抗菌薬適正使用支援チーム（AST）として、感染症治療に難渋する症例に対して、感染対策チーム所属の医師が主治医と情報共有し、治療法を評価し、週１回の抗菌薬使用支援チームで検討している。血液培養陽性約600症例の治療法の評価、薬剤耐性の抑制、広域抗菌薬使用量の削減に取り組んでいる。抗MRSA薬と広域抗菌薬は、届出制または許可制としている。届出方法の改善、届出の意義の浸透により、届出率は100％である。２週間以上の長期投与薬に関しては、抗菌薬支援チームで検討、使用法の改善等を提案した。

抗菌薬使用動向調査システムに参加し、抗菌薬使用密度（AUD）を算出して、当院の抗菌薬の使用状況を確認しており、地域連携医療機関と比較検討も行っている。

検査部門においては、エンピリック治療を開始する際に重要な情報源として、当院主要臨床分離株の薬剤感受性情報であるアンチバイオグラムを作成している。これにより、当院検出菌の薬剤感受性および耐性菌の動向を把握し、現場にフィードバックしている。

5）広報

院内外の感染症情報を収集し、院内に広報している。インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症に関しては「大村市パンデミック対策協議会」からの情報をまとめ、注意喚起している。

6）医療用器材の管理

ラウンドを行い、スポルディングの分類（器具の使用目的による洗浄消毒等の処理の分類）に沿って正しく管理されているか確認している。５月のCPEアウトブレイク時に長崎大学病院感染制御部教育センターサイトビジットを受けた際に、0.01％次亜塩素酸ナトリウム液の濃度低下の指摘を受け、全部署0.02％へ濃度を変更した。

7）ワクチン接種

今年度より職員の小児ウイルス性疾患ワクチン接種に関しては、入職時に証明書を提出してもらい、ICTと一緒に結果について確認し、追加接種が必要な職員には職員係により連絡、管理してもらっている。インフルエンザワクチンは接種計画に協力し、11月に実施（接種率約89％）した。

8）結核接触者健診

今年度は、患者や職員の接触者健診を行うことはなかった。

9）結核カンファレンス

DOTSカンファレンスを県央保健所、県南保健所と一緒に、２か月に１回実施した。

10）地域連携

感染対策向上加算および外来感染対策向上加算の新設により狭義の感染対策に加え、抗菌薬適正使用および新興感染症対策を含めた、地域における感染対策ネットワークの構築が推進されている。連携医療機関や医師会、保健所との連携により感染対策のレベル向上を目的に、年４回のカンファレンスや訓練に参加し、耐性菌や抗菌薬使用の報告を受け、フィードバックを行った。

（1）相互評価

開催日	内　　容
７月８日	諫早総合病院と国立病院機構嬉野医療センターが国立病院機構長崎医療センターを評価
８月19日	国立病院機構長崎医療センターが諫早総合病院を評価
10月24日	国立病院機構長崎医療センターが国立病院機構嬉野医療センターを評価

（2）カンファレンス

感染症、抗菌薬、耐性菌、手指衛生について検討している。３回目は県央地域の加算１医療機関とその連携医療機関、医師会、保健所の参加で、諫早総合病院会議室にて、新興感染症対応について合同訓練を実施した。

開催日	参加施設
６月10日	県央保健所、大村医師会、南野病院、国立病院機構長崎川棚医療センター、国立病院機構長崎病院
８月５日	県央保健所、大村医師会、南野病院、国立病院機構長崎川棚医療センター、国立病院機構長崎病院
10月25日	県央保健所、大村医師会、南野病院、国立病院機構長崎川棚医療センター、国立病院機構長崎病院、諫早総合病院、市立大村市民病院、諫早原爆病院

（3）連携指導

開催日	訪問医療機関
11月28日	国立病院機構長崎病院
11月29日	南野病院
12月18日	国立病院機構長崎川棚医療センター
2025年 １月17日	海江田耳鼻咽喉科

研修・教育

院内研修会（ICT主催）

開催日	研修名称	参加数
6/19 ～８/26（10回）	手指衛生直接観察者育成研修	175名
前期（7/1 ～ 9/30）	感染対策の基本と標準予防策	1198名
	薬剤耐性菌の院内感染	1198名
後期 （11/14 ～ 2025/1/31）	医療従事者として知っておきたい抗菌薬の取り扱い	833名
	薬剤耐性菌の基礎と近年の動向 ノロウイルス感染症の感染対策 ノロウイルス感染者への対応	1071名

院外研修会

開催日	主催	テーマ	担当
７月11日	活水女子大学	看護学統合実習「感染管理体制」	中村みさ
５月21日	長崎県看護協会	感染管理の基本	木場みちよ
９月21日	長崎県看護協会	侵襲的な器具や処置の感染予防策の実際	木場みちよ

学会・論文など

1）原著論文　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数				

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

2）学会発表　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数		4		

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

3）学術講演　　**（件数）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数				

4）学会座長　　**（件数）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数				

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

研究業績

学会・研究会・講演

B：国内学会

B-b2：一般演題

＜口演＞

1）当院における肺結核診療の現況.
平野優大、瀬戸口大地、伊藤裕也、吉田将孝、武田和明、岩永直樹、井手昇太郎、近藤晃、高園貴弘、泉川公一、栁原克紀、迎寛.
第99回日本結核・非結核性抗酸菌症学会総会・学術講演会. 長崎, 2024.5.31.

＜ポスター＞

1）海外からの帰国者に端を発した多剤耐性アシネトバクターのアウトブレイク事例.
近藤晃、瀬戸口大地、永井友基、三原智、迎寛.
第98回日本感染症学会学術講演会. 第72回日本化学療法学会総会　合同学会. 神戸, 2024.6.28.

2）当院での多剤耐性アシネトバクターアウトブレイク事例における感染対策.
近藤晃、瀬戸口大地、永井友基、三原智、迎寛.
第98回日本感染症学会学術講演会. 第72回日本化学療法学会総会　合同学会. 神戸, 2024.6.28.

3）当院における肺結核診療の現況.
原田英鷹、瀬戸口大地、伊藤裕也、吉田将孝、武田和明、岩永直樹、井手昇太郎、近藤晃、高園貴弘、泉川公一、栁原克紀、迎寛.
第98回日本感染症学会学術講演会. 第72回日本化学療法学会総会　合同学会. 神戸, 2024.6.28.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

クリティカルパス

責任者　松尾 崇史

委員会の紹介

本委員会は、医療の標準化、質の向上、効率化を目指し、２か月毎に定例会を開催している。定例会ではパスの使用率向上を目指し、新規パスの開発、既存パスの見直し・改訂、運用上の問題など検討を行っている。

2009年９月にパスが新電子カルテへ移行され、電子化されたパスの作成、運用方法やバリアンス分析方法の標準化を行ってきた。また、看護師の業務効率化を図る目的でパスのアウトカム評価を看護記録として使用できるようにアウトカムの表現の見直し作業を継続的に行い、昨年より一部のパスで実際に運用を開始し、本年もその数を増やしてきた。運用開始ができていないパスがまだ多く残っており、今後、すべてのパスで運用できるように作業を進めていく方針である。アウトカム評価を看護記録として使用していくためには、アウトカム未評価率やパス未終了率０%にすることが重要であり、各病棟のパス委員から診療科医師、診療にかかわるコメディカルスタッフに働きかけを行っており、パスを使用している各診療科、各病棟スタッフの方々の協力が必須である。

2024年２月６日に数年ぶりにパス大会を開催することができた。診療に関わる全てのスタッフのパスへの理解を深めることが一番の目的であり、当日はパス利用がもたらす医業収益について、パス作成のポイント、実際に新規に作成したパスについての発表があった。前述した看護師の業務軽減についても、8B病棟にて行われたアンケート調査にて、アウトカム評価を看護記録とすることで、記録時間の削減効果があり、他の業務や患者ケアに時間を有効に利用できるようになったとの報告もあった。それと同時に、適切なアウトカム評価を行うためのスタッフの教育や、運用開始にあたって医師を含めたスタッフへの周知が重要であることが課題として挙がった。クリパス使用を通じた医療の標準化・質の向上・業務の効率化・病院の収益向上の為にも、普段のクリパスに関する活動についての医師への働きかけや各スタッフへの周知徹底が今後の課題である。2024年の改定パス15件、新規パス４件、削除パス12件であり、登録パス数は206件となった。

パス適用率は全体が43.3％（前年比＋0.4％）。パス使用件数が100件を超える科の中で、呼吸器外科110.1％、眼科102.4％、乳腺内分泌外科101.0%、肝臓内科99.6％、外科91.6％の５診療科が90％以上の高い適用率であった。病棟別では、適用率が高い順に7A病棟82.8％、8A病棟72.6％、6A病棟63.6％、4B病棟61.4％であった。

研修・教育

2024年２月６日　パス大会を開催

2024年２月16日　令和５年度クリティカルパス実践研修会への参加

入院診療実績

1）使用実績

2024年

診療科別	パス開始数	新入院患者数	適用率（%）	前年比
総合診療科	14	2,006	0.7	0.0
血液内科	21	551	3.8	0.1
腎臓内科	212	308	68.8	2.9
内分代謝	6	126	4.8	2.7
救急科	2	163	1.2	1.2
消化管内科	525	996	52.7	△ 1.0
肝臓内科	717	720	99.6	△ 2.4
呼吸器内科	71	719	9.9	2.0
循環器内科	569	705	80.7	△ 5.6
脳神経内科	48	407	11.8	4.1
精神科	29	20	145.0	111.1
小児科	214	1,174	18.2	1.4
新生児科	0	0	0.0	0.0
外科	685	748	91.6	0.8
乳腺内分泌外	300	297	101.0	4.4
呼吸器外科	120	109	110.1	0.0
心臓血管外科	36	116	31.0	4.1
整形外科	56	574	9.8	△ 1.1
形成外科	26	444	5.9	1.0
脳神経外科	107	524	20.4	△ 3.7
皮膚科	82	144	56.9	△ 5.1
泌尿器科	455	640	71.1	2.9
産婦人科	824	1,264	65.2	0.4
眼科	504	492	102.4	△ 0.3
耳鼻咽喉科	391	571	68.5	△ 3.3
リウマチ科	2	64	3.1	0.0
麻酔科	0	0	0.0	0.0
放射線科	0	7	0.0	0.0
総計	6,016	13,889	43.3	0.4

※新生児科及び乳腺外科はR4.1新設

病棟別	パス開始数	新入院患者数	適用率（%）	前年比
3 A	17	1,148	1.5	0.0
3 B	140	434	32.3	△ 1.2
4 A（児）	323	1105	29.2	2.2
4 A（未）	1	108	0.9	0.9
4 B	830	1352	61.4	△ 0.5
5 A	750	1445	51.9	2.1
5 B	854	1,532	55.7	△ 0.4
6 A	739	1162	63.6	△ 3.5
6 B	90	721	12.5	0.3
7 A	874	1056	82.8	6.0
7 B（感）	1	238	0.4	0.4
7 B	0	16	0.0	0.0
8 A	685	943	72.6	△ 0.6
8 B	613	1490	41.1	△ 2.6
9 A	79	1110	7.1	△ 1.0
9 B	20	29	69.0	32.0
総計	6,016	13,889	43.3	0.4

National Hospital Organization **NAGASAKI** Medical Center

総合管理センター

責任者　山崎 一美

診療科の特色と歴呈

国立病院機構長崎医療センターにおける病院情報システムの目的は、①医療情報の蓄積・共有化による医療の質的向上を図り、患者中心の医療に寄与すること、②国立病院等総合情報ネットワークシステム（HOSPnet）、政策医療ネットワーク等と連携しつつ高度先駆的医療をサポートすることである。

上記の目的に対し、総合情報センターでは、電子カルテの管理と運用フローの最適化、システム障害の対応と解決、機器の保守・点検、および院内向け情報の発信、病院ホームページの管理などを行っている。さらに個人情報保護およびコンピューターウイルス感染の問題などの課題に対して、職員教育、セキュリティ強化対策を日々検討している。院内の情報ネットワークはHOSPnetと独自ネットワークのNMCnet（2014年１月開始）を併用してきた。またグループウェアを用い、院内業務の作業および費用の効率化の一助を担ってきた。2018年はセキュリティ強化のため新情報系HOSPnetへ移行した。これに伴い独自のネットワークであったNMCnetは廃止され、NHO本部管理の新たなネットワークが始まった。

当院の地域医療連携の推進のために、2004年10月からNPO法人「あじさいネット」に参加した。同意が得られた当院患者の診療情報を地域診療所へ開示し情報共有をしている。運用開始から16年が経過し、この間あじさいネットを利用した連携患者数は１か月200例前後で、2020年は年間連携数が調剤薬局・在宅医療との連携も含めて1,899件で累計連携患者数は38,572件となった。地域連携システムは2011年１月からクラウド型システム（HumanBridge）に移行し、双方向性連携としてWEB紹介状や地域連携メールによる、かかりつけ医からの情報提供も行われている。2012年10月からは診療所からの放射線機器利用のWEB予約システムを稼働させ、在宅医療においても本システムを利用した運用を開始した。2017年12月あじさいネットによる長崎大学病院との病病連携の締結をし、2018年運用を開始した。当院のあじさいネット会員は24名となった。

2009年９月14日に更新した電子カルテシステム（富士通EGMAIN-GX）は順調に稼働していたが、2012年５月のV02からV04へのレベルアップを経て2014年９月16日にV06へのバージョンアップとハードウェアおよび部門システムの全面更新を行った。200を超える新機能を搭載した最新のシステムとなり、透析システムおよびモバイル端末を使用した電子カルテ参照システム（Pocket Chart）の新規追加、レジメン機能や持参薬管理システムを導入した。上記のような変更に伴い2015年３月には院内情報システム運用規定集の改定を行った。2015年８月にはリビジョンアップを行った。2016年は電子カルテの代行入力を開始。なお外来診療のみの限定とした。2016年11月には特定共同指導を受け、カルテ１号用紙の再確認を行った。2019年8月には電子カルテシステムのレベルアップを行いGX Ver.08に移行した。

また災害時対策として、2012年２月より日本で初めてとなる緊急時参照機能を装備した遠隔地バックアップシステムを稼働させ、災害時の拠点病院としての役割が果たせるようBCP（事業継続計画）の実行を進めている。

2021年８月９日あじさいネットで病病連携を開始した。

2021年12月19日病院情報システムの全面更新を行った。本部指示に対応して予定より１年３カ月遅れての更新となった。同時に看護業務支援システム（スポットチェックモニター）を導入した。当院が策定した更新の予算額にNHO本部の同意が得られず、予算を減額せざるをえず、ネットワークの更新を断念した。ネットワークは2023年で９年目を超え、突発的に停止するリスクがあるため、緊張感をもって対応してきた。

2023年度、改めてネットワーク更新について本部に説明を行ったが、更新は終了済みとして同意いただけなかった。実際は更新できていない。診療継続に支障を来さないよう、引き続き本部に説明を継続し、理解をいただく。

2024年度も再度ネットワーク更新の費用について要望したが、いまだ同意の返事がない。経年劣化によるエッジスイッチの損傷も発生し診療に障害が発生した。引き続き本部に説明を継続し、理解をいただく。

入院診療実績

新採用者電子カルテ操作研修

	日	対象	参加人数
第１回	2024/4/2	医師	23
第２回	2024/4/3	研修医	15
第３回	2024/6/4	医師	5
第４回	2024/6/11	医師	2
第５回	2024/7/8	医師	2
第６回	2024/10/1	医師	1
第７回	2024/11/1	医師	1
第８回	2024/11/26	医師	2
合計			51名

研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
SV会議	1回/月
情報セキュリティ講座（動画）	1回/年

National Hospital Organization **NAGASAKI** Medical Center

診療情報管理室

責任者　**本村 秀樹**

診療部門の特色

診療情報管理室は、病院における診療録等を中央管理する目的で設けられました。また、インフォームド・コンセントの理念に基づいて診療録等に必要な情報を適切に記録するように、医療従事者に対して指導を行い、これを適切に保管管理するとともに診療内容の説明又は診療録等の開示の求めがあった場合には、適切・迅速かつ正確な情報提供ができるように努めています。このことで診療に対して患者さんが積極的に参加できるようになり、患者さんと医療従事者との一層強固な信頼関係の確保を図ることで、より良質な医療提供体制を構築することができると考えています。また、がん登録は、病院におけるがん診療の向上と診療への支援、患者・家族、一般への情報提供、並びに地域及び国の“がん政策”医療のための情報提供を目的としており、院内で診断・治療・受診を行ったがん患者さんについてその診断・治療・予後に関する情報を登録しています。現在のスタッフは診療情報管理士10名を含む13名です。

1．診療録・統計委員会

診療情報管理室長を委員長とし、隔月１回の定例会を開催し以下の項目に関して審議する。

①診療記録等の管理

②DPC

③年報作成

④がん登録

⑤診療録多職種監査

⑥その他、診療録・統計

2．DST委員会（DPCサポートチーム）

診療報酬管理運営部長を委員長とし年４回開催。診療情報管理室としては適切なコーディング体制確保のため問題提起を行っている。

3．診療情報管理室カンファレンス

診療報酬管理運営部長と診療情報管理室長、診療情報管理室スタッフで月１回、日常業務などに関してカンファレンスを行っている。

4．がん登録部門カンファレンス

診療情報管理室のがん登録部門と副院長、診療報酬管理運営部長、診療情報管理室長、経営企画室長で隔月カンファレンスを行っている。がん登録部門と医事課の情報交換の場となっている。

5．県央がんセンター運営会議

県央がんセンター長を委員長とし、隔月開催。がん診療に関する情報を共有している。

6．業務内容

―診療情報管理部門―

①診療録等の整理・保管・修正依頼・貸出・閲覧に関する業務

②退院サマリー受取業務
・退院日の翌日から14日以内に退院サマリーを完成させるよう推進・受取・督促する
③オーディット業務
・診療録のオーディット（診療科別）
・入院日から３日目、６日目、７日目に入院診療計画書をチェックする
・看護サマリーの作成状況を確認する
④DPCに関する業務
・様式１の病名を確認する
・様式１データを入力・確認・督促する
・DPCデータを厚生労働省に提出する
⑤各種統計作成
・年報データ作成、統計依頼データ、輸血療法委員会データ
⑥病歴管理システム・eXChartへの退院患者登録業務
⑦その他、診療録の作成、整理に関する事項（詳細は診療録等整理要綱に記載）

－がん登録部門－
①対象患者の登録と予後調査
長崎医療センターで運用されている各種データベース並びに診療録情報を用い、診断・治療・受診に関する腫瘍毎の登録を行う。また、患者毎の予後調査に関する情報を登録する。
②がん登録情報の集計・報告・公開
がん登録情報の集計・解析を行い、院内外へ報告・公開する。
③がん登録情報の院内への提供
登録情報の集計結果に関する院内への情報提供、並びに「研究者」への情報提供。
④国立がん研究センターへの届出
⑤全国がん登録への届出
⑦長崎県がん拠点病院定例TV会議・研修会・実務者会議への参加
⑧提供資料に関する問い合わせへの対応

研修・教育

＜長崎県診療情報管理研究会＞

名誉会長：　中原　賢一　医療法人和光会恵寿病院　院長
　　濵脇　正好　長崎県県北保健所　所長
会　　長：　本村　秀樹　長崎医療センター　統括診療部長
副 会 長：　山岡　早苗　聖フランシスコ病院　医療情報管理科長
　　松永　直樹　佐世保市総合医療センター　診療情報管理係
事務局長：　尾﨑　真人　長崎医療センター　診療情報管理係長
事 務 局：　長崎医療センター　診療情報管理室

■日時：2024年１月27日（土）
【医療講演】「下部消化管に対する外科的治療と大腸癌に対する集学的治療」
講師：独立行政法人国立病院機構　長崎医療センター
消化器外科部長　竹下　浩明先生

【特別講演】「Missionから始める病院生き残り戦略とデータ分析－地域医療構想時代を生き抜くデータ分析の力とは何か－」

講師：一般社団法人福岡県社会保険医療協会　社会保険田川病院
経営企画室長　小塩　　誠先生

■日時：2024年４月20日（土）
【医療講演】「輸血療法と血液製剤の適正使用」

講師：国立病院機構　長崎医療センター　臨床検査科部長　　長井　一浩先生

【特別講演１】「令和６年度診療報酬改定について」

講師：長崎市立病院機構　長崎みなとメディカルセンター
医事課 兼 がん診療統括センター　係長　　西山　晶子先生

【特別講演２】「慢性期の診療報酬および介護報酬改定の内容、その意図について」

講師：特定医療法人谷田会　谷田病院経営企画部長　　吉橋　謙太郎先生

■日時：2024年８月３日（土）
【グループワーク】診療報酬改定への関わり

■日時：2024年10月12日（土）
【医療講演】「麻酔」について

講師：独立行政法人国立病院機構　長崎医療センター　麻酔科部長　山口　美知子先生
【事例発表】４施設

学会・論文など

１）原著論文　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数				

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

２）学会発表　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数		1		

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

３）学術講演　　**（件数）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数				

４）学会座長　　**（件数）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数				3

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

研究業績

学会・研究会・講演

A：国際学会, 国際会議

B-b2：一般演題

＜口演＞

1）診療密度向上への取り組み.
尾崎真人.
第50回日本診療情報管理学会学術大会. 福岡, 2024.8.23.

F：学術講演他

＜座長＞

1）下部消化管に対する外科的治療と大腸癌に対する集学的治療.
濵脇正好.
第58回長崎県診療情報管理研究会. 長崎, 2024.1.27.

2）Missionから始める病院生き残り戦略とデータ分析－地域医療構想時代を生き抜くデータ分析の力とは何か－.
尾崎真人.
第58回長崎県診療情報管理研究会. 長崎, 2024.1.27.

3）「麻酔」について.
本村秀樹.
第61回長崎県診療情報管理研究会. 長崎, 2024.10.12.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

県央がんセンター

責任者　田川 努・吉田 真一郎

センターの特色

長崎医療センターは、県央地区唯一の厚生労働省指定「地域がん診療連携拠点病院」で、以前より質の高いがん医療の提供に努めて参りました。

2014年10月１日からは診療部門の一組織であった「がん診療センター」を格上げし、「県央がんセンター」を設置し、がん治療における高度医療提供をさらに推進しています。

具体的には、内科系、外科系、中央診療部門など各専門診療科に緩和ケア内科や腫瘍内科を新規開設したがん診療に加え、がん診療支援部として多職種からなる緩和ケアチームや、患者さんとその家族が安心・納得して治療を受けられるよう支援する患者サポートチームの強化、さらには最新のがん診断装置であるPET／CTと高精度放射線治療装置が導入され、がん診療に対する当院の機能が拡充されました。

2015年４月から長崎医療センターの目抜き通りともいうべき病院受付から病棟に至る通路に面して、「県央がんセンター」の窓口を「患者サポート室」とともに開設しました。これによりがん相談は通常の相談とともに増加し、「県央がんセンター」の大きな目的である相談支援部門の充実が実現しました。2018年からは､「がん患者就労支援」や「Advance Care Planning（ACP）」にも相談窓口を広げています。2022年は、長崎県のピアサポーター養成研修を受講したがんサバイバーの参加によるがんサロンを開催しました。また、ハローワーク諫早による長期療養者就職支援事業に基づく出張相談に加え、患者の治療と仕事の両立を目的とした長崎産業保健総合支援センターによる出張相談も開設しました。2023年は、毎月の「キャンサーボード」の際に「がん関連の倫理カンファレンス」を同時に開催することとしました。これまで治療法の検討が中心であった「キャンサーボード」の内容が拡がり、医師のみでなく病棟看護師などの参加が増加することになって、さらに患者さんに寄り添った議論や検討が多職種で行えるように改善されました。

2024年は、診療報酬改定で、薬剤師外来に関連するがん薬物療法体制充実加算が新設され、順調に算定できています。また、相談支援部門では、県の派遣事業を利用して、若い世代のピアサポーターにご参加いただき、39歳以下のAYA世代がん患者の集まりを企画し、大変好評でした。今後も関係部署と連携し、AYA世代患者の支援に取り組んでいきます。

以上のように、県央地域の「地域がん診療連携拠点病院」としてがん診療に邁進し、地域の皆様及び連携医療機関様に対し質の高いがん医療を提供します。

がん診療支援部　診療実績

①がん登録：院内がん登録室の頁を参照

②薬物療法：

2024年の入院・外来における抗がん剤無菌調製件数

2024年	１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	合計
2024年入院	290	335	280	330	294	280	254	349	337	389	329	307	3774
2024年外来	435	468	451	500	508	444	524	516	467	499	446	485	5743
計	725	803	731	830	802	724	778	865	804	888	775	792	9517
2023年	１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	合計
2023年入院	280	305	317	321	289	320	273	323	290	323	299	231	3571
2023年外来	454	463	516	482	476	453	425	447	439	456	474	467	5552
計	734	768	833	803	765	773	698	770	729	779	773	698	9123

2024年の外来における「薬剤管理指導」件数

2024年外来	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
化学療法センター	215	224	226	211	226	266	312	266	278	278	446	485	3433
（2023年）	271	245	329	484	208	232	224	252	225	222	223	225	3140

2024年の外来における「連携充実加算」算定件数

2024年外来	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
算定件数	165	179	178	189	184	182	197	192	182	199	199	211	2257
（2023年）	172	180	165	166	160	158	158	149	170	174	177	184	2013

2024年の外来における「がん薬物療法体制充実加算」件数

2024年外来	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
算定件数						91	149	149	133	147	155	161	985
薬剤師外来面談数						102	197	180	164	180	180	195	1198

③緩和医療部門：緩和ケアチームの頁を参照

④相談支援・診療連携部門：

【がん相談支援】

○患者サポート室におけるがん相談件数2024年１月～ 12月

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
実人数（人）	62	70	57	61	66	55	61	59	47	54	57	55	501
延べ件数（件）	93	87	63	74	87	64	61	73	58	62	73	69	864

○相談内容分類（がん相談支援センター「全国統一版　相談記入シート」に基づく）

がんの治療	11	食事・服薬・入浴・運動・外出など	2
がんの検査	2	介護・看護・養育	9
症状・副作用・後遺症	13	社会生活（仕事・就労・学業）	26
セカンドオピニオン（一般）	5	医療費・生活費・社会保障制度	586
セカンドオピニオン（受入）	1	補完代替療法	0
セカンドオピニオン（他へ紹介）	3	不安・精神的苦痛	25
治療実績	0	告知	1
臨床試験・先進医療	0	医療者との関係・コミュニケーション	7
受診方法・入院	12	患者-家族間の関係・コミュニケーション	15
転院	9	友人・知人・職場の人間関係・コミュニケーション	0
医療機関の紹介	28	患者会・家族会（ピア情報）	3
がん予防・検診	1	生きがい・価値観	1
在宅医療	49	不明	
ホスピス・緩和ケア	51		

・就労・両立支援

就職などの雇用に関係する相談をハローワーク諫早による出張相談は毎週木曜日11時～ 15時開催、仕事復帰や仕事と治療の両立についての相談を長崎産業保健総合支援センターの保健師による出張相談は毎月第３火曜日11時～ 15時開催。

・がんサロン

長崎県のピアサポーター研修を受けたピアサポーター３名と共同でがんサロン「語らん場」を毎月第２火曜日第４金曜日10時半から12時まで開催。ピアサポーターが自身のがんの経験を話したり、患者・家族の悩みに寄り添って話を聞いたり情報交換を行っている。

⑤研修教育部門：

1）キャンサーボード実施状況（全12回・総参加者数458名）

	開催日	担当科	医師	研修医	看護師	薬剤師	PT/OT	MSW	合計
第130回	1月22日	呼吸器外科	24	2	10	1		2	39
第131回	2月26日	膵臓胆道外科	12	2	9				23
第132回	3月25日	消化器内科	28	1	17				46
第133回	4月22日	乳腺内分泌外科	21	1	16			1	39
第134回	5月27日	消化器内科	20		15			1	36
第135回	6月24日	泌尿器科	21		21			1	43
第136回	7月22日	消化管外科	19	1	13			2	35
第137回	8月26日	血液内科	12		17			1	30
第138回	9月30日	脳神経外科	11		10			1	22
第139回	10月28日	呼吸器内科	22		25			1	48
第140回	11月25日	産婦人科	31		17			1	49
第141回	12月23日	肝臓内科	21	1	24	2			48

2）倫理カンファレンス実施状況

	開催日	担当病棟	テーマ
第9回	1月22日	5B病棟	療養場所の意思決定支援～本人と家族との意向のズレか～
第10回	2月26日	6A病棟	BSCの方針の患者への身体拘束について
第11回	3月25日	6B病棟	身寄りがない患者の看取り時のケアについて
第12回	4月22日	8B病棟	全身状態が悪化するなかで、医師と家族との今後の捉え方に差を感じた事例
第13回	5月27日	7A/7B	多剤耐性菌保菌患者の在宅支援で必要なものは何か
第14回	6月24日	5A病棟	患者・家族に寄り添った看護とは
第15回	7月22日	外来/9B	鼻腔腺様嚢胞がん（希少がん）患者の外来看護を振り返って
第16回	8月26日	9A病棟	治療継続に向けた介入～入院規則を守ることが難しい患者の事例～
第17回	9月30日	3B/治検	よりよい治療環境を目指して
第18回	10月28日	6B/医相	終末期患者の時期を逃さない意思決定支援とは
第19回	11月25日	4A/4B	子宮頸がんの治療中にうつ症状が悪化した患者の治療継続に向けた関わり
第20回	12月23日	8A病棟	膵癌患者の看護を振り返る

⑥放射線治療部門：放射線科の頁を参照

⑦地域連携パス部門：

【がん地域連携パス：連携患者数】

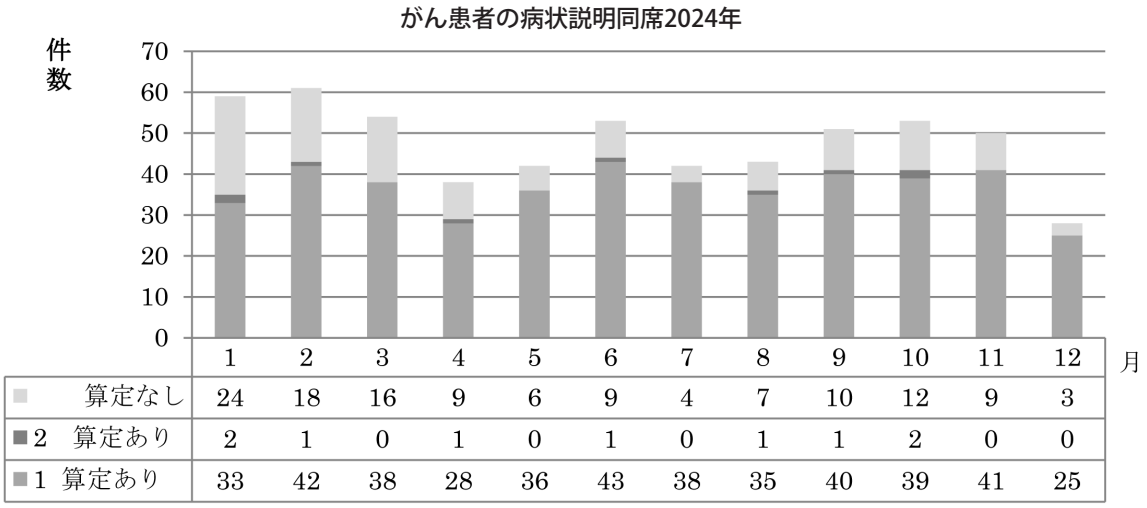
乳がん	肺がん	肝がん	胃がん	大腸がん	膵がん	前立腺がん	緩和ケア
30	0	0	0	0	0	0	4

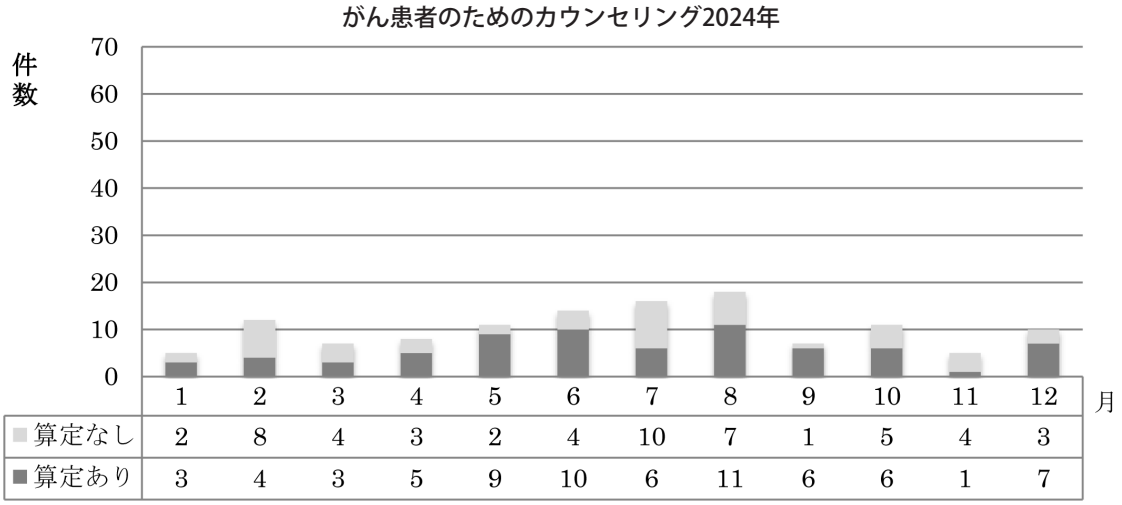
⑧がん診療支援部門：

○がん関連専門・認定看護師による活動

がん化学療法看護認定看護師2名、放射線看護専門看護師兼がん放射線療法看護認定看護師1名、緩和ケア認定看護師1名、緩和ケア所定研修修了者1名にてがん患者の病状説明同席や精神的サポートのための面談を行う。各診療科医師と協働し、患者・家族の診療のサポートを行う。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
病状説明同席　※1	59	61	54	38	42	53	42	43	51	53	50	28	574
がん患者　※2 カウンセリング	3	11	7	7	11	13	16	17	6	9	5	10	115





がん患者指導管理料

※1（イ）　がん患者さんへの告知や病状説明にがん関連の認定看護師が同席し、患者さんやご家族の病状理解への支援や精神的サポートを行う。

※2（ロ）　がん患者さんの心理的不安を軽減するために認定看護師が面談を行う。

○がん看護コースの企画・担当

がん看護における知識・技術の習得と自部署での看護実践能力の向上につながるよう研修を企画した。今年度は、臨床でのがん看護経験が少ない研修生が大半であったため、がん看護に関する基礎的な内容で講義内容を構成した。

・第1回：がん看護の基礎と意思決定支援のための看護師の役割（がん化学療法看護：冨永）
・第2回：がん患者の全人的苦痛の理解と苦痛緩和のためのマネジメント（緩和ケア：石丸）

・第３回：がん薬物療法看護の基礎（がん化学療法看護：村上）
・第４回：がん放射線療法看護の基礎（がん放射線療法看護：大石）

○がん診療リンクナース会議の運営

今年度はがん看護コースと分け、２か月に１回の開催に変更された。

内容は、１回目の会議で各専門･認定看護師より、がん看護に関する内容（ACP、がん薬物療法、がん放射線療法、緩和ケア、がんゲノム医療）について講義・情報発信を行い、各がん診療リンクナースが自部署のがん看護の問題点を明確にした上で、年間を通して改善活動に取り組めるよう会議の運営を行った。

○各部署がん診療リンクナース活動

16部署に各１名がん診療リンクナースを配置し、がん関連の専門・認定看護師と協力して活動を行っている。今年度は、各がん診療リンクナースが作成した年間計画書の内容に応じて、専門･認定看護師で活動を支援した。その他、部署内カンファレンスや勉強会の企画・開催、がん関連の専門・認定看護師との連携による患者ケアを行っている。

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

治験管理室

責任者　小森 敦正

診療科の特色

医薬品や医療機器が国（厚生労働省）に承認されるには、患者さんを対象とした臨床試験（治験）により、有効性や安全性の確認が必要である。

私たちは、GCP（Good Clinical Practice，臨床試験の実施の基準に関する省令）をはじめとする国の定めた基準を遵守し、倫理性・科学性・信頼性が確保された質の高い治験を円滑に実施することを目標とし、患者さんが安心して治験に参加いただけるよう、治験開始から終了時までサポートしている。

【本年の目標と活動】

目標;「ワークシェアと非属人化“パズルをシャッフルし、新しい地図を目指して”」を治験管理室の目標とした。特定の業務が一人仕事にならないよう、ワークシェアを目標に取り組んでいく中で、スタッフ間で協力して効率よく業務を行いながらも、患者さんに不利益が生じないよう、安全で確実な治験を実施することを心掛けている。

活動；院内の臨床研究支援を目的とした研究サポートチームの活動を進め、イントラへの掲載を行った。また、臨床研究のCRC支援へ向けた準備を進めた。

また、治験実施途中からのSMO導入から始め、次に新規治験での立ち上げ時からのSMO導入を進めた。

業務ミーティングは適宜開催し、業務改善を行っている。「CRCと臨床試験のあり方を考える会議」では３演題の発表を行った。

一方で、治験の裾野を広げ、より多くの診療科に治験に携わっていただくように、依頼者、機構本部、院内医師へ働きかけを行っている。過去の実績に関わらず各診療科の希望とニーズを充分に評価し、治験獲得へとサポートすることがますます重要であると思われる。

研修・教育

カンファレンス

名称	参加職種	参加人数（平均）	開催頻度
治験管理室ミーティング	医師、薬剤師、 看護師、事務職員	17人	1回/月

【６年制薬学実習生への講義】

薬剤部において薬学部実務実習の実習生を受け入れている。

治験管理室では、治験及び臨床研究に関して、２時間×２期＝４時間の講義を担当した。

受託研究関連実績

1）受託研究契約数・契約症例数

2023年度（2023年４月～ 2024年３月）

	新規・継続	種類	契約数	契約症例数
治験	継続	Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ 相	1	8
		Ⅱ相	7	17
		Ⅱ/Ⅲ相	1	5
		Ⅲ 相	18	201
	継続　集計		27	231
	新規	Ⅱ相	1	3
		Ⅲ相	6	20
	新規　集計		7	23
	治験　合計		**34**	**254**
受託研究	継続	使用成績調査	22	957
		特定使用成績調査	34	128
		その他	11	469
		その他（体外診）	7	6,727
		その他（特定臨床研究）	10	26
		その他（医師/研究者主導臨床研究）	6	31
	継続　集計		90	8,338
	新規	使用成績調査	1	60
		特定使用成績調査	11	19
		副作用	4	5
		その他	3	70
		その他（体外診）	6	3,859
		その他（特定臨床研究）	3	14
	新規　集計		28	4,027
	受託研究　合計		118	12,365
総　数　計			**152**	**12,619**

その他

1）日本臨床薬理学会認定CRC（認定取得年）

木村　梨沙　（2015年）
川﨑　美幸　（2015年）
久保　三紀子（2016年）
大久保　房庫（2022年）
冨田　英里　（2023年）

学会・論文など

1）原著論文　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	0	0	0	0

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

2）学会発表　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	3	0	0

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

3）学術講演　　**（件数）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	0	0

4）学会座長　　**（件数）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	0	0

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

研究業績

学会・研究会・講演

B：国内学会

B-b2：一般演題

＜ポスター発表＞

1）予測不能なアクシデント～ある日突然電子カルテが使用不能になったら～.
木村梨沙、大久保房庫、久保三紀子、冨田英里、川﨑美幸、小森敦正.
第24回CRCと臨床試験のあり方を考える会議2024inSapporo. 札幌, 2024.9.15.

2）長崎医療センターにおけるSMO導入に向けた取り組み.
川﨑美幸、白川敦規、久保三紀子、木村梨沙、大久保房庫、冨田英里、松井亜紀、小森敦正.
第24回CRCと臨床試験のあり方を考える会議2024inSapporo. 札幌, 2024.9.15.

3）治験薬承認時の取り組み～創薬から育薬への橋渡し～.
木村梨沙、冨田英里、久保三紀子、大久保房庫、川﨑美幸、野田晃洋、小川志帆、本田涼子、小森敦正.
第24回CRCと臨床試験のあり方を考える会議2024inSapporo. 札幌, 2024.9.16.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

教育センター

責任者　長岡 進矢・本村 秀樹

教育センターの概要

1）部署の紹介

教育センターは2007年４月に開設され、17年が経過しました。開設当初は、研修医教育や医学生の病院見学の支援を中心に活動を開始しました。2011年よりレジデントや専修医を対象とする後期研修委員会を立ち上げ、2012年に医学生を主な対象とする卒前研修委員会を研修管理委員会の分科会として設けました。2013年からは教育センター運営委員会を通し、看護師や薬剤師、放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、MEなどのコメディカルの教育の支援を開始しました。2014年度は診療看護師研修病院の指定を受け、実地研修を開始しました。JNP研修管理運営委員会を設けて､診療看護師の周知や研修内容などについて検討しました｡ラボ室は2009年に開設し、新人看護師、看護師、指導医、研修医、レジデントなどへのシミュレーション研修を実施しています。

2015年４月に人材育成センターが開設され、教育センターとラボ室も移転しました。今まで会議室で実施していたBLS研修や新人看護師・研修医の技術研修など、数十人の研修がラボ室でできるようになり活用件数・人数も増加しています。

2）構成メンバー

センター長	本村　秀樹（統括診療部長兼任）１名
室長	長岡　進矢（教育研修管理運営部長）１名
係長	髙松三穂子（教育担当係長）１名
副看護師長	本田　和也・斉藤晶子　２名
看護師	松本　温子　１名
事務助手	本田　未菜・一瀬　愛伽・馬場真由美・冨樫　智美・大石　杏弥　５名
	岡　裕美（長崎県病院企業団派遣）

3）教育センターの理念・役割

（1）教育センターの理念

長崎医療センター教育センターは、高度で専門的な知識のみならず、人間や社会についても深い理解を有する医療人の育成を目指します。

（2）教育センターの役割

①当院における臨床教育を統括し、一貫した研修教育が行われる体制を築く。（統括機能）

②当院の教育理念を浸透させるために、各部署の指導者層を対象とした研修を企画する。（ＦＤ機能）

③地域医療への貢献のため、当院での研修内容などについて発信し、積極的に参加を募る。（情報発信機能）

④当院での研修教育修了者を組織化し、生涯教育の核となる。（バックアップ機能）

4）教育センター 2024年度目標

（1）教育センターの統括機能を強化する

（2）業務内容の多様化、増加に伴う業務の効率化を目的に作成した「教育センター手順書」の実用と追加、修正を行う

（3）看護部門：ACTナースキャリアラダーに沿った看護師の育成

（4）メディカルスタッフ部門：各部門との職員教育・研修の支援

（5）医師部門：研修プログラムの検討・研修医評価表運用の検討
（6）診療看護師（JNP）：研修管理体制の構築、運営

5）教育センター運営会議

＜活動目的＞

長崎医療センターの職員研修についての統括、各部署の指導者層育成、情報発信、臨床研修教育修了者のバックアップをするため、教育センター運営委員会を置く。

＜概要＞

教育センターは、医師のみならず、看護師他コメディカルの教育・研修を広くつかさどる。教育・研修において蓄積したノウハウを生かし、各部署での教育をサポートする。ひいては病院全体の教育活性化に繋げていく。

会議を行うことで教育センターは各部門の研修を把握出来た。新たに各部門の研修の窓口や実習の連絡調整を行い、教育センターの経験を活かすことが出来ている。

＜構成メンバー＞

本村　秀樹（統括診療部長）、長岡　進矢（教育研修管理運営部長）、森　　英毅・増田　幸子（臨床研修管理委員会副委員長）、中道　親昭（高度救命救急センター長）、穴井久美子（副看護部長）、髙松三穂子（教育担当係長、看護部教育委員会委員長）、四元　有吏（栄養管理室長）福山雄卯介、橋本　未蕾（副薬剤部長）、山川　　彩（副検査技師長）、小濱　義幸（副放射線科技師長）、増田　賢武（管理課長）

＜活動報告＞

（1）運営委員会：年2回　　2024年3月（メールでの活動報告）、2024年5月23日

（2）各部署の活動報告

診 療 部：採用時採血演習、CVC挿入講習会、NMCコアセミナー
救 急 科：長大医学部学生臨床実習、救急救命士病院実習、消防学校救急科病院実習、BLS・ACLS研修
薬 剤 科：薬学部学生研修、病棟薬剤業務見学
放射線科：MRI院内安全講習、災害医療従事者研修Ⅱ
検 査 科：各部門における学習会、実習生受け入れ
リハビリ：吸引研修
栄 養 科：経管栄養、化学療法中の栄養管理等の学習会
看 護 部：集合教育研修
事 務 部：九州グループの研修計画に沿った研修（新任係長、2～4年目事務職員等）

＊全職員研修は、「個人情報の保護」「接遇」「虐待」「ハラスメント」について、学研 e ラーニング視聴を計画し、実施した。

6）スキルラボ室の概要

シミュレータ・備品保有状況（2024年12月現在）

	備品・シミュレーター	保有数		備品・シミュレーター	保有数
1	装着式採血静注キット　SASUKE	5	24	小児人形　Baby Anne	4
2	装着式採血静注キット　かんたんくん	12	25	AIRSIMエアウェイ トレーニングシステム（黒）	1
3	採血静注シミュレータ　シンジョーⅢ	2	26	Pediatric Intubation Trainer	3
4	採血・静脈シミュレータ　シンジョーⅡ	4	27	Resusci Ann　Skill Guide	2
5	新CVC穿刺挿入シミュレータ	2	28	Airway Managemenp Trainer	1
6	CVポート穿刺トレーニングモデル	2	29	挿管用喉頭鏡（ハンドル）	1
7	装着型女性導尿シミュレータⅡ	2	30	挿管用喉頭鏡（ブレード）	1
8	透明男性導尿模型	1	31	Resusci Ann	1
9	男性導尿・浣腸シミュレータ	1	32	ALS skill master	1
10	女性導尿・浣腸シミュレータⅡ	1	33	SCENARIO	1
11	装着式上腕筋肉注射シミュレータ	6	34	PHYSICO	1
12	装着型摘便シミュレータ	1	35	さくら	1
13	口腔ケアモデル“セイケツくん”	1	36	縫合練習キット	1
14	吸引シミュレータ“Qちゃん”	5	37	スタンド型手洗いチェッカー BLB	4
15	CPS実習装置	1	38	輸液ポンプ　TE-161SA	1
16	直結式酸素湿潤器　FS-500型	1	39	シリンジポンプ　TE-351	1
17	壁掛け式吸引器　HK-500型	1	40	救急カート	2
18	低圧持続吸引器　TK-300型	1	41	ベッド	2
19	さっぱりさん（洗髪器）	1	42	ストレッチャー	1
20	足湯専科	2	43	オーバーテーブル	2
21	褥瘡ケアシミュレータ①	4	44	車椅子	2
22	Save Manアドバンス 二次救命処置訓練人形	2	45	点滴スタンド	4
23	CardioLife AED トレーニングユニット	1			

教育センター実績

ここでは教育センターが介入した研修のみ挙げる。その他は、各部署の年報を参照する。

実習・研修

＜研修＞

1）看護部教育研修（集合教育）：2024年１月～ 12月　受講生338名

2）研修医採用時オリエンテーション 採血演習：2024年４月　受講生16名

3）令和６年度コメディカル喀痰吸引研修：2024年８月～ 2025年１月（予定）　受講生４名

4）CVC挿入講習会（初期研修医）：2024年１月～ 12月　受講生20名

5）キャンサーボード支援：2024年１月～ 12月　参加者458名

6）看護師特定行為研修：2024年６月１日～ 2025年１月31日（予定）　受講生３名

ラボ室活用状況

年月	使用人数（延べ）/使用件数	内容	対象
2024年１月	171/10	BLS、ACLS、研修医OSCE、研修医技術練習、METシミュレーション	研修医、医療安全管理室、救急科、教育センター、外来、治療・検査センター
2024年２月	134/5	BLS、METシミュレーション	医療安全管理室、救急科、4A病棟、4B病棟
2024年３月	217/10	BLS、病院説明会、ME室学習会、看護部研修、METシミュレーション	医療安全管理室、教育センター、認定看護師、副看護師長、臨床工学士、看護助手、看護クラーク、6A病棟、6B病棟
2024年４月	48/8	新採用看護師研修、技術練習、１年次研修医研修、看護補助者オリエンテーション	看護部、教育センター、研修医、5B看護師、3B看護師、3A看護師、ナースサポーター
2024年５月	105/8	BLS、技術練習、医師トレーニング、自己研鑽	医療安全管理室、救急科、産婦人科、8B看護師、3A看護師
2024年６月	90/12	特定行為研修、BLS、看護部研修、METシミュレーション、技術練習	特定行為研修、救急科、3B病棟、6B看護師、看護助手
2024年７月	111/13	特定行為研修、ACLS、METシミュレーション	特定行為研修、医療安全管理室、救急科、5B病棟
2024年８月	10/4	特定行為研修、病院見学会、自己研鑽	特定行為研修、看護部、4B看護師
2024年９月	436/14	特定行為研修、BLS、ACLS、METシミュレーション、吸引研修、技術練習	特定行為研修、医療安全管理室、救急科、6A病棟、6B病棟、理学療法士、臨床工学士、3B看護師
2024年10月	183/4	BLS、METシミュレーション	医療安全管理室、救急科、7A病棟、7B病棟
2024年11月	156/7	技術練習、BLS、ACLS、METシミュレーション、さくらんぼの会、病院説明会	理学療法士、臨床工学士、医療安全管理室、救急科、8A病棟、8B病棟、4A病棟
2024年12月	119/4	BLS、病棟学習会	医療安全管理室、3A看護師

その他

１）広報活動

（１）メディア掲載

以下の媒体にて研修情報を掲載

・長崎県医師臨床研修ガイドブック2024年長崎医療センターの紹介」（製本版・WEB版）

・国立病院機構ガイドブック2024年度版「長崎医療センターの紹介」（製本版・WEB版）

・臨床研修病院ガイドブック（P-MET）2024年度版「長崎医療センターの紹介」（WEB版）

・長崎大学病院群たすきがけ病院ガイドブック2024年度版（製本版）

（２）長崎医療センター初期・後期臨床研修Instagram2024年６月開設。フォロワー数33名。

（３）Facebookの運用（http://www.facebook.com/nmc.kensyu）

ブログに連動させる形で2014年４月よりFacebookに教育センターアカウントを開設。当院OBを含めた医師・コメディカルの交流の場になること、フレッシュな情報を届けることで、当院の臨床研修の認知力向上を推進している。フォロワー数：1,273名。

（４）２月に長崎県内合同説明会が開催され参加。　訪問者数37名　２月23日（金）長崎大学病院

（５）６月に長崎県内合同説明会及び合同面接が開催され、説明会にのみ参加。前回開催からの期間が短かったためか、参加人数は少なく16名だった。

（６）前年は３月に実施されていた民間医局レジナビフェアが７月に開催され、３年ぶりに参加。来場者は会場全体 約763名、長崎県ブース来訪者142人計当院ブースへは23名だった。

（７）例年６月に実施されてるNHOの臨床研修合同説明会は、今年度５月開催で当院の個別説明ブース参加者：６名。

２）同窓会

長崎医療センター研修医同窓会「あかしや医師の会」事務局

・同窓会会員へ・医療センター報(毎月)・医学生向け見学会開催情報（逐次）・採用試験開催情報（逐次）送付

医師関係

1）初期研修　　責任者　長岡 進矢

歴史

当院では1971年より全国に先駆けてスーパーローテート方式の研修医教育を開始しました。研修医教育は主に離島へ赴く医師の初期教育が当初の目的でしたが、徐々に離島のみならず一般の医師の初期研修を重視するようになりました。2004年より新臨床研修制度が始まり、18年目を迎えるに至っていますが、採用研修医数は10名/年から19名/年に増え、市中病院では研修医数の多い病院になっています。2010年には長崎県医師臨床研修協議会（新・鳴滝塾）が設立され、長崎県主体の取り組みが始められました。研修病院見学旅費助成金給付、長崎県全体でのレジナビ参加、海外研修支援など様々な企画が行われ、県全体の研修医数の増加に寄与しています。2011年３月にあかしや新館（42個室、１会議室）が完成し研修医の居住環境は整備され、2007年から始まった中期改善計画は目標を達成しました。また広報の充実の一環としてブログ形式のホームページを2011年11月から開設し、日々の研修状況を外部向け施設ホームページとブログから全国に発信しています。研修医評価は2013年度からはEPOCに替わり新研修医手帳で運用を開始しました。2014年度から２年次修了前に全国共通試験の基本的臨床能力評価試験（全国約2,000名受験）を受験しています。2015年３月にNPO法人卒後臨床研修評価機構の２回目の審査結果を受け、ホームページの大幅な刷新、他種職種評価、ICTラウンドや医療安全推進担当者会議への参加など新たな取り組みを始めました。教育センターの効率的な運営を図るために、毎週火曜日、定例運営会議を開催し細やかな活動計画を立てています。昨年の研修医マッチングは８年ぶりにマッチ割れとなり、注目された今年度でしたが、無事フルマッチ復活となりました。見学者数、受験者数が例年並みに戻り、中間発表の１位指名率が62.5%と非常に高い結果となりました。最終的にプライマリケア能力養成プログラム15名、周産期プログラム（小児科）２名、同プログラム（産婦人科）２名ともにフルマッチとなりました。来年度採用予定（第55期）は、これに自治医大の２名が加わり21名となります。内訳は長崎大12名、佐賀大２名、産業医大１名、岩手医大１名、筑波大１名、岐阜大１名、琉球大１名、自治医大２名、男性12名、女性９名です。現時点での志望科は特定の科に偏ることなく、外科系、内科系幅広い志望があるようです。

長崎医療センターの実績

1）研修修了者：1000名以上（概算）

2）研修修了者の出身大学：50大学以上

3）2019年７月、公益財団法人　日本医療機能評価機構の審査を受け2023年までの４年間を特に指摘事項もなく承認を得る結果となる。

4）厚生労働省認定研修医指導医資格を有する割合（2024年末時点）：74.3%

2024年度　長崎大学病院群臨床研修指導医養成講習会受講　　４名受講

2024年度　令和６年度NHO九州グループ臨床研修指導医養成講習会受講　５名受講

臨床研修管理委員会の概要

1）委員会の紹介

臨床研修管理委員会は、公的な基準を満たし且つ質の高い研修を行うため、本院卒後臨床研修プログラムの総括的な評価・問題点の検討等を行い、到達目標達成のために、臨床研修医自らがその能力を十分に発揮し、適正な疾病の診療に関する（とくにPrimary Careを中心とした）知識、態度ならびに技術を習得することを目的とする。

①臨床研修プログラムの作成、研修プログラム相互間の調整。

②臨床研修医の採用・中断・修了の際の評価等臨床研修の実施の統括管理。

③その他、臨床研修のために必要なことを審議する。

原則として年２回は定期開催とし、必要に応じ追加の開催をする。

総括責任者：髙山　隼人（病院長）
委　員　長：長岡　進矢（プログラム責任者・肝臓内科医長）
副 委 員 長：森　　英毅（プログラム副責任者・総合診療科医長）
　　増田　幸子（プログラム副責任者・高度救命救急センター医長）
教育センター長：本村　秀樹（統括診療部長）
院 内 委 員：和泉　泰衛（内科部長）、青木　幹弘（新生児科部長）、髙松三穂子（教育担当係長）、
　　三角　紳博（薬剤部長）、酒本　　司（診療放射線技師長）、
　　藤野　達也（臨床検査技師長）、増田　賢武（管理課長）
協力型病院・施設委員：
　　内藤　愼二（嬉野医療センター教育研修部長）、
　　福留　隆泰（長崎川棚医療センター臨床研究部長）、
　　八坂　貴宏（長崎県対馬病院院長）、向原　茂明（長崎県壱岐病院院長）、
　　一宮　邦訓（長崎県上五島病院院長）、
　　大塚　俊弘（長崎県精神医療センター院長）、
　　松島加代子（長崎大学病院医療教育開発センター）、
　　山下　雅巳（平戸市立生月病院院長）、中桶　了太（平戸市民病院副院長）、
　　柿添　三郎（柿添病院副院長兼診療部長）、常光　信正（青洲会病院院長）
　　栗原　隆二（小値賀町国民健康保険診療所）、
外 部 委 員：牟田　幹久（長崎県医師会常任理事）、渡海　俊明（元長崎県立長崎北高等学校校長）

臨床研修運営委員会の概要

1）委員会の紹介

臨床研修運営委員会は、医師法に基づき臨床研修を適正、かつ円滑に実施するために必要な事項を定めることを目的とする。①臨床研修プログラムの作成、内容見直し、プログラム間の調整等、全体的な管理に関すること。②臨床研修医の教育、研究、診療等の管理に関すること。③臨床研修医の受け入れ、採用、中断、評価に関することなどを審議する。原則として月１回は開催するものとして必要に応じ追加の開催をする。

2024年４月より、山領・藤原（専攻医）、宮岡・江良（職員係）、鬼頭・犬養・中島（研修医１年）が新メンバーとして参加することとなった。

令和２（2020年）年４月には、副委員長増田（救命救急科医師）を任命。

令和４（2022年）年４月より、構成委員の変更に伴い副委員長を森英毅（総合診療科医長）に任命。

2）構成メンバー

委 員 長：長岡　進矢（教育研修管理運営部長）
副委員長：森　　英毅（総合診療科医長）
　　増田　幸子（救命救急科医師）
委　　員：本村　秀樹（教育センター長・統括診療部長）、小森　敦正（難治性疾患研究部長）、福田　雅史（産婦人科部長）、蓬莱　彰士（精神科長）、山口美知子（麻酔科医長）、中道　親昭（救命センター長）、北里　　周（外科医長）、和泉　泰衛（内科部長）、森　　英毅（総合診療科医長）、本田　涼子（小児科医師）、青木　幹弘（新生児科部長）、山領　優斗（後期研修医代表）、藤原もも佳（後期研修医代表）、宇佐　俊哉（２年次研修医代表）、川添　綾子（２年次研修代表）、山下　　慶（２年次研修医代表）、鬼頭　貴之（１年次研修医代表）、犬養　真衣（１年時研修医代表）、中島　健翔（１年時研修医代表）、宮岡　良衣（庶務班長）、江良　準一（職員係）、髙松三穂子（教育担当係長）、本田　未菜、一瀬　愛伽、馬場真由美、冨樫　智美、大石　杏弥（教育センター事務）

事務職員の業務内容と臨床研修運営委員会の活動報告

A．事務職員の業務内容

学生に関すること：病院見学会や研修合同説明会から採用試験、採用までの手続き等

研修医に関すること：研修プログラム、宿舎、進路、協力病院、その他研修中に生じる研修関連の事務業務

レジデント（専攻医）に関すること:後期研修説明会、後期研修プログラム、進路、同門会（あかしや医師の会）、宿舎に関する事務業務

B．臨床研修運営委員会の活動報告

（1）研修委員会：毎月１回（第１水曜）定例会を開催。

①事務担当：専任事務：本田、一瀬、馬場、冨樫、大石　兼任事務：宮岡（庶務班長）、江良（職員係）

②現研修医数は、１年次16名、２年次20名　計36名である。

（2）医学生見学会について

		期間	申込人数（人）	参加人数（人）	
1	1 - 2月見学会	1/19-2/16	0	0	参加者無し
2	春の見学会	3/1-3/19	18	18	夜間見学無し
3	5 - 6月見学会	5/10-6/21	15	15	夜間見学無し
4	WEB説明会	6/14	3	3	
		6/21	4	3	
5	夏の見学会	7/2-8/22	16	15	１名忌引き
6	10-11月見学会	10/4-11/22	4	4	
7	冬の見学会	12/10-12/20	7	7	夜間見学無し

（3）在籍研修医状況

2024年度（第54期）採用の研修医は男性７名、女性９名、合計16名。

出身大学の内訳：長崎大学３名、佐賀大学３名、久留米大学１名、産業医科大学１名、自治医科大学２名、岩手医科大学１名、島根大学２名、信州大学１名、川崎医科大学１名、千葉大学１名

（4）研修プログラム

2025年度（令和７年度）採用については３つのプログラムで募集を行った。

①従来と同様プライマリ・ケア能力養成プログラム（募集人数15名）

②小児科医を目指すための周産期研修プログラム（小児科）（募集人数２名）

③産婦人科医を目指すための周産期研修プログラム（産婦人科）（募集人数２名）

（5）2025年度（令和７年度）採用研修医選考試験について

①試験日程は、期間を４日間にて開催した。

②試験内容は、書類審査、小論文、個人WEB面接（面接官は３名）。

小論文試験は事前課題とし、WEB面接前日までに郵送とした。

③受験者数は、34名（前年28名）であった。（長崎県養成医23名（前年11名）含む）

④第１志望中間発表数は20名（前年13名）であった。

⑤2025年４月より、マッチング採用研修医19名、自治医生２名の併せて21名が採用予定。

（6）2024年度研修修了者の後期研修先について　（合計19名）

当院３名、長崎大学２名、慶応大学１名、久留米大学病院１名、長崎県対馬病院３名、長崎県五島中央病院１名、長崎県島原病院１名、長崎県富江病院１名、福岡大学病院１名、長崎県上対馬病院１名、東京都立小児総合医療センター１名、神奈川県立こどもセンター１名、聖マリアンナ医科大学病院１名、総合医療センター１名合計20名

専攻診療科：総合診療科６名、救命科１名、産婦人科２名、腎臓内科２名、小児科３名、外科２名、整形外科１名、精神科１名、血液内科１名

（7）研修医　準夜勤・日直・深夜勤務は、１人月３～４回程度で行っている。
　平日は１人体制、土日祝日は２人体制に変更。診療科ごとの区別は廃止。
（8）研修医　コロナ患者対応の為、拘束担当者を決めて対応にあたっている。
　2023年１月以降　　毎日（１名）
　2023年６月19日以降　　平日のみ17：00～翌8：30まで（１名）
　※2023年９月20日よりコロナ拘束廃止。流行した際は随時対応。
（9）研修医・指導医合同ワークショップ
　１．ワークショップテーマ【プロフェッショナリズムについて】
　　日　時：９月14日（土）あかしやホール
　　9：00-12：00　研修医手帳及びサマリーファイル作成
　　13：00-17：25　ワークショップ
　２．参加者
　　研修医33名（２年次研修医18名・１年次研修医15名）指導医　14名　　47名参加
（10）令和７年度入職予定者　21名の内　20名参加
　12月６日（金）16：00～17：00　第一応接室にて　リモート懇親会を実施（Webex）
（11）初期実践ＮＭＣコアセミナーは毎週金曜日に行い、2024年１月から12月末までに43回実施した。

【初期実践ＮＭＣコアセミナー年間スケジュール】　　43回実施/総参加者数903名

	開催日	講　義　名	担当医師		開催日	講　義　名	担当医師
1	1/5	消化性潰瘍について	消化管内科 西山　仁	23	7/26	PICCについて、ドレーン管理について	外科 福井彩恵子
2	1/12	消化管出血のアプローチ	消化管内科 西山　仁	24	8/2	術後鎮痛、緩和鎮痛、具体的な処方例や考え方	外科 森田　道
3	1/19	不整脈について	循環器内科 松尾　崇史	25	8/9	緊急手術の適応と術式に関する考え方、外傷外科	外科 釘山　統太
4	1/26	胸痛へのアプローチ	総合診療科 最勝寺佑介	26	8/23	女性の病歴聴取	産婦人科 濵﨑　創平
5	2/2	高血圧へのアプローチ	循環器内科 於久　幸治	27	8/30	妊娠・出産について	産婦人科 前川　泰輝
6	2/9	心不全へのアプローチ	循環器内科 深江　貴芸	28	9/6	虐待対応について	小児科 本村　秀樹
7	2/16	大動脈瘤・大動脈解離について	心臓血管外科 有吉毅子男	29	9/13	母乳について	小児科 青木　幹弘
8	3/1	糖尿病診療の基本	内分泌代謝内科 安井　順一	30	9/20	PALSに応じた小児救急対応	小児科 舩原　知香
9	3/8	小児輸液の基本	小児科 石橋　信弘	31	9/27	新生児対応の基礎	小児科 西口　亮
10	3/15	脂質異常症へのアプローチ	内分泌代謝内科 明島　淳也	32	10/4	成長・発達の異常について研修医が知っておくべきこと	小児科 濱口　陽
11	4/26	臨床推論の考え方	総合診療科 永井　友基	33	10/11	脊椎圧迫骨折の診断と初期治療と整形外科コンサルとのタイミング	整形外科 下永吉洋平
12	5/10	サマリーの書き方と意義	総合診療科 永井　友基	34	10/25	大腿骨近位部骨折の診断と初期治療と整形外科コンサルトのタイミング	整形外科 森　圭介
13	5/17	プレゼンテーションのお作法	総合診療科 永井　友基	35	11/1	整形外科トピック	整形外科 向井　順哉
14	5/24	腰背部痛のアプローチ	総合診療科 鳥巣　裕一	36	11/8	慢性腎臓病	腎臓内科 岡　哲
15	5/31	身体診察へのアプローチ	総合診療科 森　英毅	37	11/15	研修医に知っていてほしい精神科の知識	精神科 蓬莱　彰士

	開催日	講　義　名	担当医師		開催日	講　義　名	担当医師
16	6/7	泌尿器救急（救急外来Ver）	泌尿器科 松島　俊樹	38	11/22	内分泌の救急疾患の病態と診療	肝臓内科 山﨑　悠介
17	6/14	災害カルテ	救命救急 日宇　宏之	39	11/29	しびれのみかた（救急外来Ver）	脳神経内科 徳田　昌紘
18	6/21	急性腎障害へのアプローチ	腎臓内科 岡　　哲	40	12/6	褥瘡のみかた	形成外科 日吉　　尚
19	6/28	関節痛・関節炎のみかた	膠原病リウマチ科 岩永　　希	41	12/13	肝障害のアプローチ	肝臓内科 長岡　進矢
20	7/5	皮膚疾患へのアプローチ	皮膚科 石川　博士	42	12/20	肝硬変について	肝臓内科 長岡　進矢
21	7/12	当直で役立つ外科知識（CT、対応）	外科 福田　明子	43	12/27	ウイルス性肝炎	肝臓内科 長岡　進矢
22	7/19	縫合糸、モスキート、コッヘルなど細かな手術器具の使い分け	外科 吉野　恭平				

（12）院内CPC回数及び内容CPCは年間４回（２、８、９、10月）実施した。

開催日	臨床診断	症例担当	担当指導医	担当病理	コメンテーター
2/20 （木）	非結核性抗酸菌症って	福田　裕大、池田真比人、 江川　航星、後藤すみれ	永井　友基 西浦　壮志 樋口　悠真	添田　李子	
8/20 （火）	白血球増加症	平戸　優樹、古賀　万貴、 出口　大智	森　　英毅	三浦　史郎 村田実佳子	今泉芳孝
9/24 （火）	MSSA菌血症	橋本　康史、奥平　雅之、 森崎　大空	大野　　渚	石飛　俊介 山下　　慶	
10/1 (火)	痙攣が止まらなかっただけなのに。	松尾　大輔、古賀　潤紀、 谷口裕太郎、近藤　聡太	森　　隆浩 馬場あかね	添田　李子	松尾崇史

研修会、セミナー、講習会等の参加

令和５年　第343回　日本内科学会　九州地方会　初期研修医奨励賞受賞受賞	11/26	宇佐　俊哉（研修医）
令和５年　第56回　日本胸部外科学会九州地方会総会受賞	7/27	江川　航星（研修医）
令和６年　第147回西日本整形、災害外科学会学術集会　受賞	6/2	江川　航星（研修医）
令和６年　第347回九州地方会　初期研修医奨励賞　受賞	5/25	柴田　直人（研修医）
令和６年　第347回日本内科学会九州地方会　受賞	11/17	相浦　章吾（研修医）
令和６年　第93回日本呼吸器学会・日本結核非結核性抗酸菌症学会九州支部秋季学術講演会　受賞	10/11	村橋　　舞（研修医）
令和６年　第22回日本乳癌学会九州地方会　受賞	9/28	吉岡　奈那（研修医）

良質な医師を育てる研修

令和６年　良質な医師を育てる研修 「病院勤務医に求められる総合診療スキル」	7/13	江川　航星
令和６年　良質な医師を育てる研修 「病院勤務医に求められる総合診療スキル」	7/13	原田　英鷹

研究業績

学会・研究会・講演

期間：2015年４月～ 2025年３月（予定含む）

（２年次研修期間での学会発表数を修了年度ごとに集計したデータ）

（年度）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4
発表回数	63	71	86	83	52	15	42	31
研修医数	16	21	19	25	21	22	22	18
発表平均回数	3.9	3.4	4.5	3.3	2.4	0.68	1.9	1.7
	2023年	2024年						
	R5	R6						
発表回数	48	44						
研修医数	23	20						
発表平均回数	2.1	2.2						

２）後期研修　　責任者　長岡 進矢

後期研修運営委員会の概要

１）委員会の紹介

後期研修委員会は、2011年に設置され、①後期研修内容の質の向上、②後期研修医の待遇改善、③後期研修医間の親睦、④後期研修終了後の援助などを主な活動としている。

平成30年度（2018年）から開始となった新専門医制度に対応すべく、後期研修運営委員会と名称を変え、上記の活動に加え、①後期研修医の採用・中断・修了の際の評価、研修実施の統括管理、②研修協力施設との連絡、調整（各プログラムの研修管理委員会開催を含む）などを審議している。

新専門医制度における、当院の専攻医プログラムは以下の６プログラムである。

１．Nagasaki-MC内科専門医プログラム　　４．ながさき家庭医療学専門研修プログラム、
２．救急科専門研修プログラム　　５．小児科専門研修プログラム、
３．形成外科専門研修プログラム　　６．産婦人科専門研修プログラム

当院管理型の専攻医は現在40名である。（2025年開始予定者含まず）

平成30年2018年開始	総合診療科：１名
平成31年2019年開始	総合診療科：１名、内科：２名、産婦人科：１名
令和２年2020年開始	総合診療科：３名、内科：３名、産婦人科：２名、 救急科：２名、小児科：１名
令和３年2021年開始	産婦人科：１名
令和４年2022年開始	総合診療科：２名、内科：３名、産婦人科：１名、 小児科：２名
令和５年2023年開始予定 ※2023年１月時点	総合診療科：１名、内科：４名、小児科：３名
令和６年2024年開始予定 ※2024年１月時点	総合診療科：１名、内科：６名、救急科：３名、産婦人科：２名
令和７年2025年開始予定 ※2025年２月時点	内科：５名、産婦人科：２名、小児科：１名

2）構成メンバー

委 員 長：長岡　進矢（教育研修管理運営部長）
副委員長：本村　秀樹（統括診療部長）
委　　員：和泉　泰衛（内科部長）
中道　親昭（高度救命救急センター長）
藤岡　正樹（形成外科部長）
森　　英毅（総合診療科医長）
本田　涼子（小児科医長）
山下　　洋（産婦人科医長）
宮岡　良衣（庶務班長）
江良　準一（職員係）
髙松三穂子（教育担当係長）
山領　優斗（専攻医）
藤原もも佳（専攻医）
本田　未菜・一瀬　愛伽・馬場真由美・冨樫　智美・大石　杏弥（教育センター事務）

年３回実施している。

後期研修委員会の実績

院　外　広　報

病院ホームページ後期研修ページの新専門医制度に対応した刷新。

そ　の　他

1）新専門医制度の各プログラムの見直し及び申請、後期研修運営委員会の組織作り、規約作成。
2）Nagasaki-MC 内科専門医プログラム、ながさき家庭医療学専門研修プログラム管理委員会（６月、３月開催）
3）６月に後期研修医面談（28名）の実施
4）リクルート活動
４月に総合診療科専門研修プログラム及びNagasaki-MC内科専門研修プログラム説明及びレクチャーをWEBにて開催した。

3）卒前研修　　責任者　和泉 泰衛

卒前委員会の概要

1）委員会の紹介

卒前研修委員会は、主に医学部学生の卒前研修教育質向上を目的として、研修委員会下部組織として2012年に新たに立ち上げられた。当院で担う医学部学生の卒前研修教育は大きく二つに分けられる。一つは長崎大学医学部・自治医科大学医学部６年生に行う高次臨床実習（クリニカルクラークシップ）で、もう一つは長崎大学を含む諸大学から受け入れる１ヶ月以下の短期間の臨床実習である。定期的な委員会の開催はなく、研修管理委員会の際に当該問題について随時話し合う形式をとっている。

2）構成

委員長：和泉　泰衛（内科部長）
委　員：中道　親昭（高度救命救急センター長）
黒木　　保（副院長）

3）高次臨床実習（クリニカルクラークシップ）

①長崎大学

第１ターム６名、第２ターム６名、第３ターム６名、第４ターム３名、第５ターム６名、第６ターム６名

②自治医科大学

5月　２名

卒前委員会の実績

2012年から受け入れ体制として、カリキュラム、手順、規約、同意書等を作成した。各診療科単位で行っている短期の医学生実習（ポリクリ）に加え、2013年５月から、長崎大学医学部６年生の高次臨床実習の受け入れを開始した。その後、2014年度からは自治医科大学などからも臨床実習の受け入れを開始した。

National Hospital Organization **NAGASAKI** Medical Center

高度救命救急センター

責任者　**中道 親昭**

診療部門の特色

・長崎県で３次救急医療を行う高度救命救急センターである。
・長崎県ドクターヘリ及び医師等同乗救急車（EMTAC）に搭乗し、病院前での早期治療を行っている。
・24時間体制で、一次二次医療施設から紹介された重症患者を受け入れている。
・日本DMAT ５チーム以上の人員がおり、国内の大規模災害や集団災害に即時対応できる体制を有している。
・統括DMAT研修の修了者が７名在籍、県内での災害時に県庁や実際の現場での調整を担うことになる。長崎DMATの中心的役割を担っている。
・原子力災害拠点病院である当院の中心的役割を担い、原子力災害医療派遣チームを有する。
・へき地中核親元病院として、長崎県の離島で発生した救急患者を長崎県ドクターヘリや自衛隊・海上保安庁・防災ヘリにて受入を行っている。
・離島医療支援として、画像伝送システムを活用し、当院の専門医や救急医が支援を行っている。
・医師や看護師、消防関係者など医療関係者に対して救急医療に関する教育を行っている。
・BLS、ACLS、JMECC、JATEC、JPTEC、MCLS、DMAT、TNTなどインストラクターを擁し、多方面にわたる指導を展開している。
・陰圧対応病床８床対応病床を有し、集中治療を要する感染患者の受入を行っている。

入院診療実績

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	（再掲）死亡	
5,392人	14.7人	1,148人	159人	39人	14.7日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
				３件	7.7%

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
495人（43.1%）	249人（21.7%）	45人（3.9%）	22人（1.9%）	６人（0.5%）	78人（6.8%）

島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
26人（2.3%）	39人（3.4%）	44人（3.8%）	３人（0.3%）	２人（0.2%）	15人（1.3%）

平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町
１人（0.1%）	１人（0.1%）	27人（2.4%）	19人（1.7%）		

壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外
18人（1.6%）	13人（1.1%）	15人（1.3%）	30人（2.6%）

合計
1,148人

入院患者主要疾患分類

疾患名	ICD-10コード	件数
1）脳梗塞	I63	94
2）脳内出血	I61	89
3）大腿骨骨折	S72	88
4）頭蓋内損傷	S06	77
5）急性薬物中毒	T36-50	54
6）急性心筋梗塞	I21	50
7）くも膜下出血	I60	49
8）肋骨・胸骨・胸椎骨折	S22	35
9）てんかん	G40-41	28
10）心不全	I50	27
11）腰椎・骨盤骨折	S32	25

入院患者主要手術

術式名	Kコード	件数
1）骨折観血的手術	K046	79
2）頭蓋内血腫除去術	K164	33
3）脳血管内手術	K178	31
4）テブリードマン	K002	25
5）人工骨頭挿入術	K081	24
6）脳動脈瘤頸部クリッピング	K177	15
7）一時的創外固定骨折治療術	K046-3	14
8）慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	K164-2	13
9）創傷処理	K000	12
10）小腸切除術	K716	11

厚生労働省　救命救急センター　重篤救急患者数

番号	疾病名	基準（基準を満たすもののみ数えること）	患者数(人)
1	病院外心停止	病院前心拍再開例、外来での死亡確認例を含む	66
2	重症急性冠症候群	切迫心筋梗塞、急性心筋梗塞又は緊急冠動脈カテーテル施行例	50
3	重症大動脈疾患	急性大動脈解離又は大動脈瘤破裂	14
4	重症脳血管障害	来院時JCS 100以上または開頭術もしくは血管内手術施行例、あるいはtPA療法施行例	176
5	重症外傷	Max AISが３以上または緊急手術施行例	262
6	重症熱傷	Artzの基準による	10
7	重症急性中毒	来院時JCS 100以上又は血液浄化法施行例	12
8	重症消化管出血	緊急内視鏡施行例	24
9	重症敗血症	感染性SIRSで臓器不全、組織低灌流又は低血圧を呈する例	55
10	重症体温異常	熱中症又は偶発性低体温症で臓器不全を呈する例	6
11	特殊感染症	ガス壊疽、壊死性筋膜炎、破傷風等	6
12	重症呼吸不全	人工呼吸器管理症例（１～11を除く）	68
13	重症急性心不全	人工呼吸器管理症例もしくはSwan-Ganzカテーテル、PCPSまたはIABP使用症例（１～11を除く）	28
14	重症出血性ショック	24時間以内に10単位以上の輸血必要例（１～11を除く）	11
15	重症意識障害	JCS 100以上が24時間以上持続（１～11を除く）	22
16	重篤な肝不全	血漿交換または血液浄化療法施行例（１～11を除く）	0

17	重篤な急性腎不全	血液浄化療法施行例（1 ～ 11を除く）	7
18	その他の重症病態	重症膵炎、内分泌クリーゼ、溶血性尿毒症性症候群などで持続動注療法、血漿交換または手術療法を実施した症例（1 ～ 17を除く）	101
	計		918

研修・教育

カンファランス

名　　称	開催頻度
救命センターカンファランス	毎日８時45分及び16時30分
脳神経カンファランス	毎週木曜日午前中
脳卒中カンファランス	毎週火曜日午後
リハビリカンファランス	毎週水曜日午後
栄養カンファランス	毎週金曜日午後
RSTカンファランス	毎週火曜日午後
抄読会	毎週水曜日17時30分
院内講義（研修医・JNP・医学生対象）	毎週木曜日夕方
院内研修会（AHA BLS、ACLS、EP等）	年間約10回
長崎県ドクターヘリ症例検討部会	３、５、７、９、11月第２水曜日
長崎県消防学校救急科教育	１～３月
県央県南MC協議会症例検討会	２月、９月

治験、共同臨床研究（症例登録する研究）

・ICUレジストリー
・心停止症例、MET対応症例レジストリー
・外傷症例レジストリー
・RSTレジストリー

学会・論文など

1）原著論文　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	2	0	0	0

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

2）学会発表　　**筆頭者が当院職員（それ以外）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	7	3	1

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

3）学術講演　　**（件数）**

種類	学術講演会			
件数	9			

4）学会座長　　**（件数）**

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	1	2	1

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

研究業績

論　文　発　表

A：英文

A-a2：英文症例報告

1）A Case of 5-Fluorouracil-Induced Hyperammonemia and Lactic Acidosis Successfully Treated With Continuous Hemodiafiltration Dialysis.
Taro Asano, Narumi Yamada, Chikaaki Nakamichi, Takayuki Miyoshi, Hiroaki Takeshita.
Cureus. 16(10)：28-Oct-24.

2）Concurrent Bacteremia and Severe Fever With Thrombocytopenia Syndrome: A Report of Two Cases.
Kubota Y, Hiu H, Masuda Y, Nakamichi C.
Cureus. 16(12)：12/09/2024

学会・研究会・講演

B：国内学会

B-b1：シンポジウム, パネルディスカッション等

＜シンポジウム＞

1）超高齢者救急医療におけるメディエーターとの連携体制について.
白水春香、荒木健志、西園和起、森貴昭、堀川修一、松尾徳久、小渕幸稔、淺野太郎、重野晃宏、内田雄三、鳥巣藍、日比野愛子、中原知之、窪田佳史、権志成、日宇宏之、増田幸子、中道親昭.
超高齢救急患者の問題点. 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.18.

2）当院のRRS（Rapid Response System）における現状と課題について.
増田幸子、荒木健志、西園和起、森貴昭、堀川修一、松尾徳久、小渕幸稔、淺野太郎、重野晃宏、内田雄三、鳥巣藍、日比野愛子、中原知之、権志成、白水春香、日宇宏之、中道親昭.
NHO病院におけるRapid Response System. 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.19.

3）長崎県における離島医療政策グランドデザインに基づいた航空医療体制構築～継続的な中核親元病院救急医参画の重要性～.
増田幸子、荒木健志、西園和起、森貴昭、堀川修一、松尾徳久、小渕幸稔、淺野太郎、重野晃宏、内田雄三、鳥巣藍、日比野愛子、中原知之、権志成、白水春香、日宇宏之、中道親昭.
島嶼地域・へき地医療をエリアで担う航空医療体制～行政の壁を越えた「タテ」の連携「ヨコ」の連携.
第 31回日本航空医療学会総会学術集会. 浦添, 2024.11.15.

4）航空医療における診療看護師（NP）の介入の実際　－タスクシフト・シェアの観点から－.
江口貴彦、本田和也、森塚倫也、中道親昭.
航空医療におけるタスクシェア・タスクシフト　～職種を超えた「タテ」の連携「ヨコ」の連携～ . 第31回日本航空医療学会総会学術集会. 浦添, 2024.11.16.

＜座長＞

1）中道親昭.
超高齢救急患者の問題点. 第78回国立病院総合医学会. 大阪, 2024.10.18.

B-b2：一般演題

＜口演＞

1）能登半島地震における当院派遣DMATの活動報告.
権志成、中原知之、日宇宏之、中道親昭.
一般演題E. 第32回長崎救急医学会. 島原, 2024.9.7.

2）壁側胸膜下気腫を形成し急性呼吸不全に陥った降下性壊死性縦隔炎.
小渕幸稔、権志成、中道親昭、森彩加、田中藤信、朝重耕一、田川努.
一般演題C. 第32回長崎救急医学会. 島原, 2024.9.7.

3）複雑な家庭環境をもつ若年女性の縊頚CPA後の家族に対しチーム医療で取り組んだ一例.
河野陽子、江口貴彦、高崎美穂、内田雄三、中道親昭.
役割開発. 第10回日本NP学会学術集会. 東京, 2024.11.23.

＜ポスター＞

1）菌血症を合併した重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の２症例.
窪田佳史、吉岡瑞姫、淺野太郎、中原知之、権志成、白水春香、内田雄三、日宇宏之、増田幸子、中道親昭.
第51回集中治療学会総会. 札幌, 2024.3.16.

＜座長＞

1）中道親昭.
一般演題E. 第32回長崎救急医学会. 島原, 2024.9.7.

2）権志成.
一般演題A. 第32回長崎救急医学会. 島原, 2024.9.7.

＜一般演題＞

1）誤飲歴不明の異物誤食により２度開腹手術を施行した一例.
林田啓佑、増田幸子、窪田佳史、権志成、白水春香、日宇宏之、中道親昭、北里周.
一般演題C. 第32回長崎救急医学会. 島原, 2024.9.7.

B-c：研究会発表

＜口演＞

1）当院で経験された重症熱性血小板減少症候群（SFTS）５例の凝固障害について.
窪田佳史.
県央敗血症治療講演会. 大村, 2024.2.16.

F, G：その他

F-b：学会・研究会座長 [国内学会]

＜座長＞

1）中道親昭.
県央敗血症治療講演会. 大村, 2024.2.16.

G：その他

＜パネルディスカッション＞

1）離島等医療連携ヘリ事業の紹介.
中道親昭.
南西諸島の航空医療を考える. 第31回日本航空医療学会総会学術集会市民公開フォーラム. 浦添, 2024.11.16.

＜講演＞

1）長崎医療センター高度救命救急センター概要説明.
中道親昭.
国立病院機構長崎医療センターにおける救急医療提供体制について. 令和５年度（第59回）日本医師会生涯教育講座. 大村, 2024.1.17.

2）災害医療に対する取組.
日宇宏之.
国立病院機構長崎医療センターにおける救急医療提供体制について. 令和５年度（第59回）日本医師会生涯教育講座. 大村, 2024.1.17.

3）Medical Emergency Team.
増田幸子.
国立病院機構長崎医療センターにおける救急医療提供体制について. 令和５年度（第59回）日本医師会生涯教育講座. 大村, 2024.1.17.

4）離島救急医療支援体制.
権志成.
国立病院機構長崎医療センターにおける救急医療提供体制について. 令和５年度（第59回）日本医師会生涯教育講座. 大村, 2024.1.17.

5）移植医療.
鳥巣藍.
国立病院機構長崎医療センターにおける救急医療提供体制について. 令和５年度（第59回）日本医師会生涯教育講座. 大村, 2024.1.17.

6）入院診療体制.
窪田佳史.
国立病院機構長崎医療センターにおける救急医療提供体制について. 令和５年度（第59回）日本医師会生涯教育講座. 大村, 2024.1.17.

7）病院前救急医療システム.
日比野愛子.
国立病院機構長崎医療センターにおける救急医療提供体制について. 令和５年度（第59回）日本医師会生涯教育講座. 大村, 2024.1.17.

8）救急外来診療体制.
白水春香.
国立病院機構長崎医療センターにおける救急医療提供体制について. 令和５年度（第59回）日本医師会生涯教育講座. 大村, 2024.1.17.

9）救急医における働き方改革の取組.
中原知之.
国立病院機構長崎医療センターにおける救急医療提供体制について. 令和５年度（第59回）日本医師会生涯教育講座. 大村, 2024.1.17.

10）長崎県ドクターヘリのさらなる活用を目指して　～現状と課題～ .
中道親昭.
令和６年度長崎県消防長会救急隊員研修会. 諫早, 2024.11.29

11）診療看護師による人工呼吸器管理の実践と看護の視点.
江口貴彦、溝上佳史.
2024年度第10回長崎県臨床工学技士会呼吸療法セミナー . 大村, 2024.12.1.

＜コメンテーター＞

１）中道親昭.
多数傷病者対応訓練. 令和６年度長崎県消防長会救急隊員研修会. 諫早, 2024.11.29.

２）中道親昭.
救急出場件数増加に伴う救急隊員の負担軽減について. 令和６年度長崎県消防長会救急隊員研修会. 諫早, 2024.11.29.

３）中道親昭.
各消防本部における救急隊の負担軽減、労務管理の取り組みについて. 令和６年度長崎県消防長会救急隊員研修会. 諫早, 2024.11.29.

４）中道親昭.
内因性外因性想定訓練. 令和６年度五島市消防本部救急業務研修会. 五島, 2024.12.10.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

長崎県ドクターヘリ

責任者　中道 親昭

診療部門の特色

・長崎県事業主体で、基地病院を当院として2006年12月より開始し、要請基準として生命の危機がある場合に加え2011年よりキーワード要請方式も追加して運用している。
・2024年は、714件の出動を行った。
・運航時間は、毎日365日８：30から日没30分前まで運航している。
・フライトドクターは11名、フライトナースは10名で活動を行っており、今後も育成予定である。
・使用機種は、エアバス社製BK117D2/H145を使用している。
・2014年８月に駐機場と格納庫ができ、機体の保守点検・機体入れ替えを行っている。
・運航調整委員会が年１回行われ運営方針などを決定している。
・症例検討部会にて事例の検討を年５回実施している。
・安全管理部会を、年２回開催している。
・毎月フライトドクター・ナース及び運航部とミーティングを開催している。
・2006年12月１日～ 2024年12月31日にて、総出動件数13,089件であった。

運行実績

2024年１月から12月までの運航状況

12ヶ月の要請件数は931件で、出動件数は714件であった。

2024年		全要請件数	931	全出動件数	714
大項目		中項目		小項目	小計
現場要請	709	出動	354	出動	354
		出動後キャンセル	138	天候不良	4
				消防よりキャンセル	132
				その他	2
		出動前キャンセル	217	天候不良	59
				出動中	139
				日没・時間外	18
				消防よりキャンセル	1
				その他	0

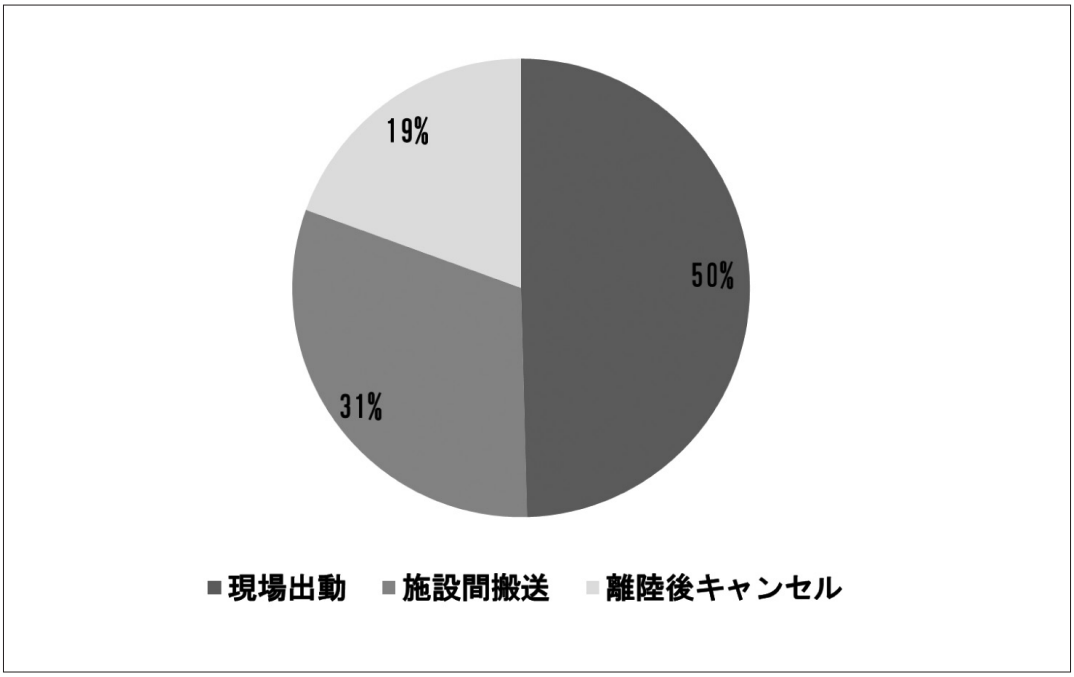
施設間	222	出動	221	出動	221
		出動後キャンセル	1	天候不良	0
				施設よりキャンセル	0
				その他	1
		出動前キャンセル	0	天候不良	0
				出動中	0
				日没・時間外	0
				施設よりキャンセル	0
				その他	0

714件の要請機関を以下に示します。

2024年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	小計
長崎市	4	1	3	6	5	2	5	4	3	8	4	9	**54**
佐世保市	12	9	19	8	18	12	10	14	9	13	12	14	**150**
平戸市	3	6	3	4	3	2	9	2	1	3	3	6	**45**
島原	15	8	13	5	8	12	11	9	14	10	7	10	**122**
県央	16	13	13	8	12	7	8	5	13	7	10	18	**130**
松浦	3	2	1	2	3	3	3	3	2	4	3	4	**33**
対馬	2	0	1	2	2	3	2	1	3	2	5	3	**26**
壱岐	2	2	1	3	7	1	5	1	2	4	3	2	**33**
五島	3	1	2	0	1	1	0	0	1	2	1	1	**13**
新上五島	5	2	1	2	5	1	5	3	2	5	3	3	**37**
診療所・離島	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
その他要請機関	4	3	5	9	3	5	5	6	5	7	5	6	**63**
佐賀広域	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
唐津市	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	**1**
伊万里・有田	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
杵藤地区	0	0	1	1	0	0	2	0	1	1	1	0	**7**
鳥栖・三養基地区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
佐賀県その他医療機関	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
その他要請機関（長崎・佐賀以外）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
海上保安庁	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
	69	47	63	50	67	50	65	48	56	66	57	76	**714**

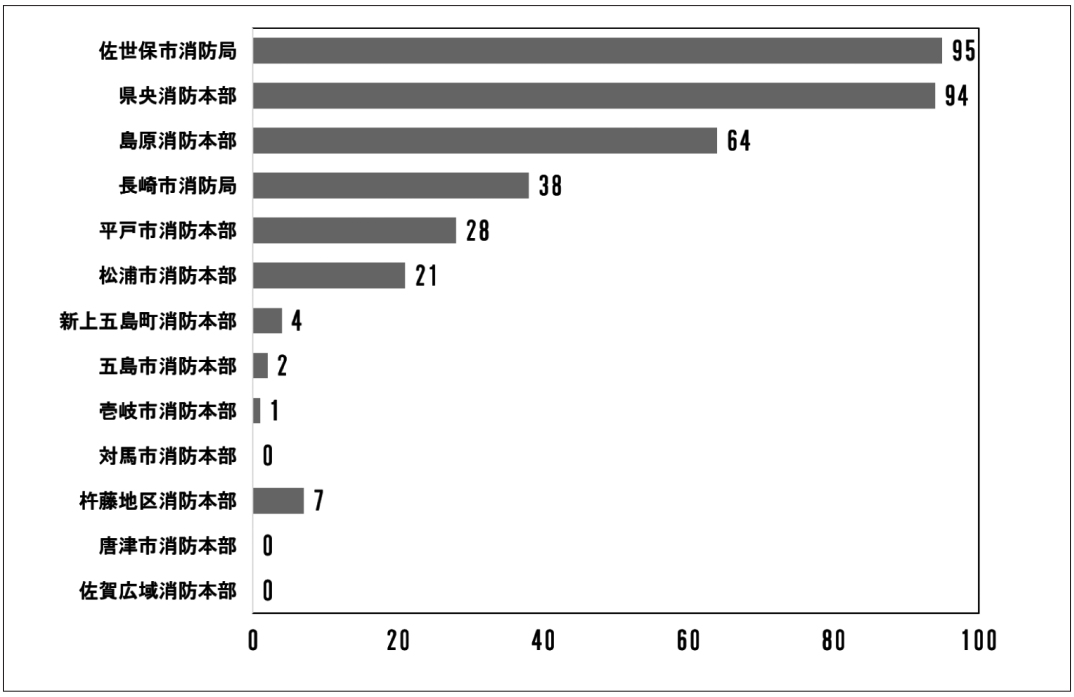
＊その他の要請機関は、長崎県内のヘリポートを有する医療機関である。

現場出動と施設間搬送の割合

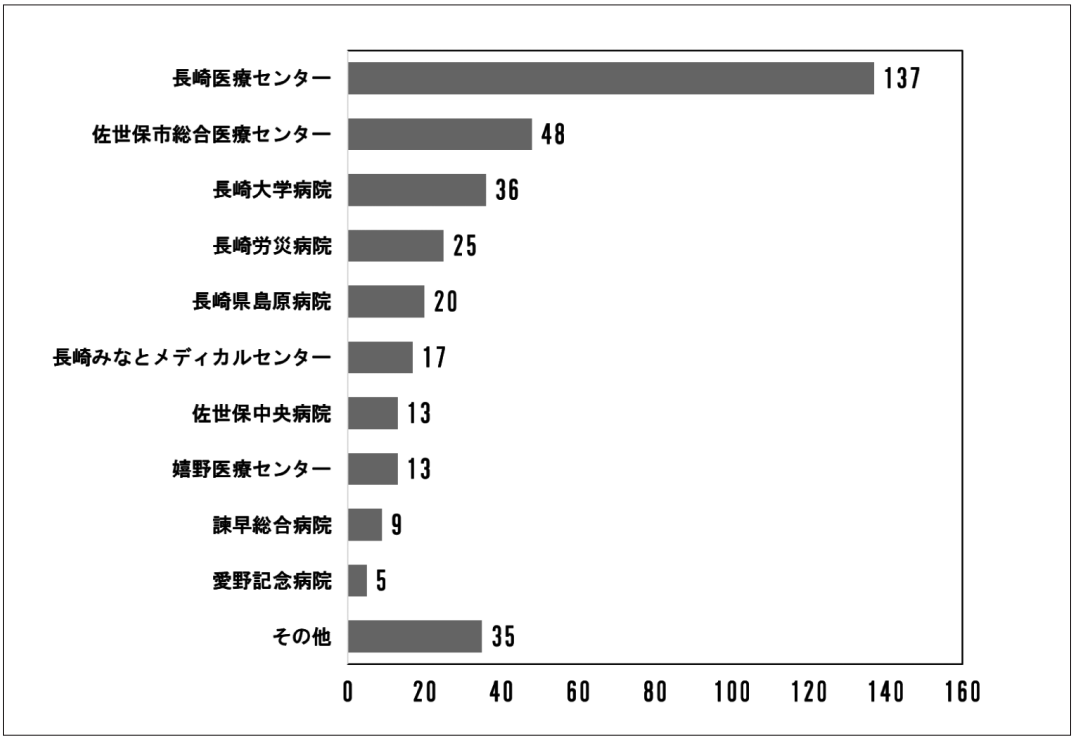


現場要請（354件）に関して

1．消防本部別の件数

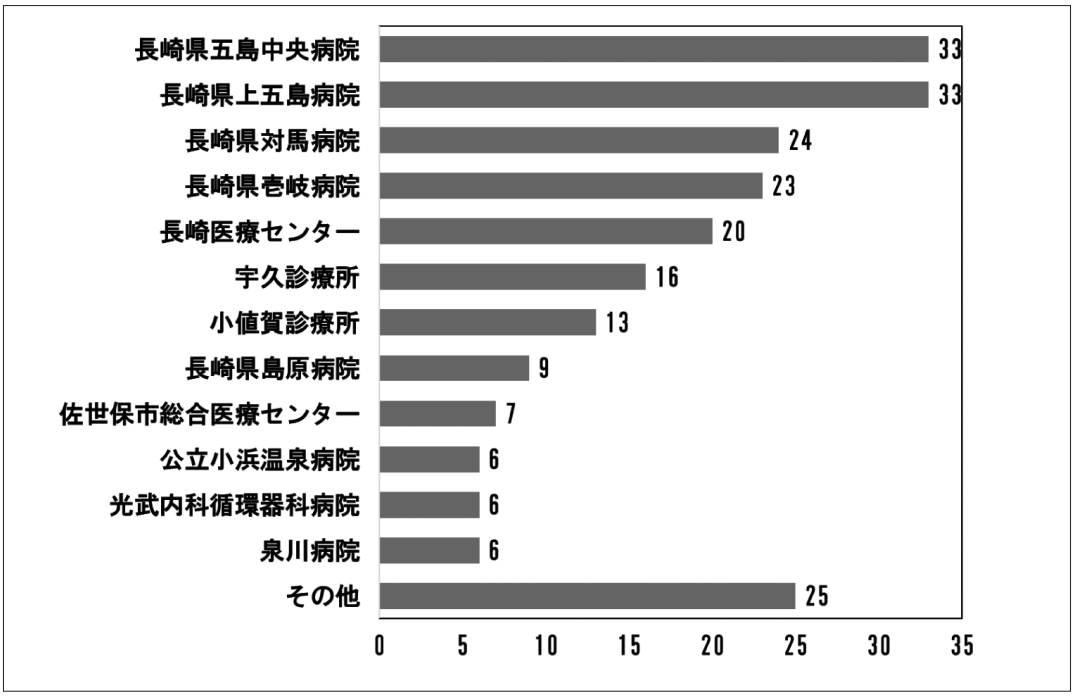


2．受入医療機関別件数

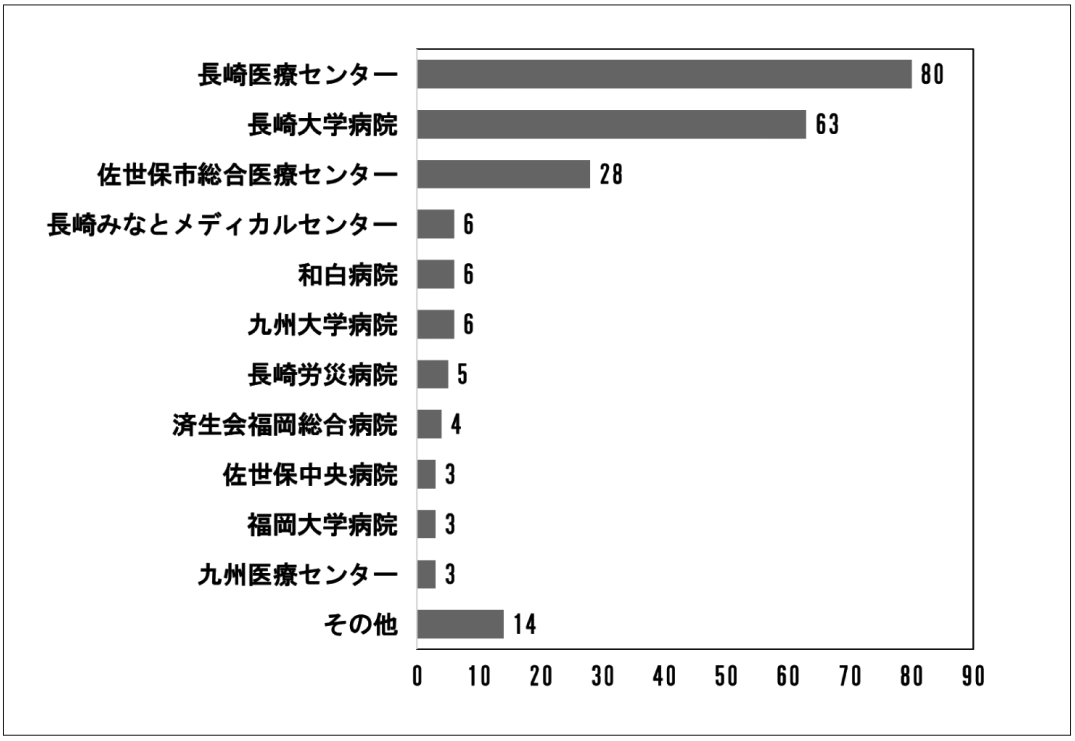


施設間搬送（221件）に関して

1．搬送元医療機関別の件数



2．搬送先医療機関別の件数



予後の改善効果に関して

予後の改善効果に関して(集計可能であった460例での解析)
死亡を回避できた事例（防ぎえた死亡）は、15例であった。

	ドクターヘリ転帰（例）	救急車推定転帰（例）	
死亡	42	57	15減
植物状態	3	5	2減
重症後遺症	57	91	34減
中等度後遺症	104	121	17減
回復・社会復帰	254	187	67増
計	460	461	

14.6%（67例/460例）に予後改善効果あり
3.3%（15例/460例）に死亡回避効果あり

学会・論文など

1）原著論文　　筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	0	0	0	0

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

2）学会発表　　筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	3	0	0

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

3）学術講演　　（件数）

種類	学術講演会			
件数	0			

4）学会座長　　（件数）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	0	0

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

防災センター・ベッドセンター・車庫

責任者　増田 賢武

防災センター

設備年間整備計画

機械・設備名	項　　目	整備回数
エネルギー設備		
ガスタービン発電機	法定・機能維持に伴う整備	2
ボイラー設備洗缶工事	機能維持に伴う整備	1
第一種圧力容器	法定・機能維持に伴う整備	1
冷暖房設備		
冷凍機設備点検	法定・機能維持に伴う整備	2
排ガス測定	法定・機能維持に伴う整備	1
フィルター清掃	機能維持に伴う整備	2
フィルター取り替え（空調機用）	機能維持に伴う整備	2
建築設備		
受水槽清掃	法定・機能維持に伴う整備	1
消防設備点検	法定・機能維持に伴う整備	2
昇降機点検（エレベーター）	法定・機能維持に伴う整備	24
排水除外設備	機能維持に伴う整備	12
９階無菌室点検	機能維持に伴う整備	1
RO水製造設備点検	機能維持に伴う整備	4
医療ガス設備		
医療ガス保守点検（吸引・非治療用空気）	法定・機能維持に伴う整備	4
医療ガス保守点検（空気）	法定・機能維持に伴う整備	12
医療ガス保守点検（CE）	法定・機能維持に伴う整備	1
医療ガス保守点検（マニホールド）	法定・機能維持に伴う整備	4
医療ガス保守点検（アウトレット）	法定・機能維持に伴う整備	4

エネルギー使用量

	市水使用料	雨水使用料	都市ガス使用量	電力使用料
2024年1月	9,226㎥	471㎥	127,884㎥	500,774Kwh
2024年2月	8,481㎥	736㎥	102,917㎥	525,293Kwh
2024年3月	8,698㎥	1,020㎥	103,590㎥	934,762Kwh
2024年4月	8,781㎥	938㎥	59,080㎥	933,888Kwh
2024年5月	9,605㎥	1,422㎥	66,364㎥	955,766Kwh
2024年6月	9,861㎥	2,081㎥	98,776㎥	959,962Kwh
2024年7月	11,316㎥	3,819㎥	159,981㎥	1,090,186Kwh
2024年8月	13,637㎥	2,268㎥	187,143㎥	1,139,856Kwh
2024年9月	13,320㎥	1,271㎥	152,800㎥	1,071,667Kwh
2024年10月	12,145㎥	873㎥	97,027㎥	992,736Kwh
2024年11月	10,146㎥	529㎥	69,559㎥	891,859Kwh
2024年12月	10,511㎥	512㎥	129,603㎥	956,534Kwh
年間	125,727㎥	15,940㎥	1,354,724㎥	10,953,283Kwh

車庫

救急車患者搬送エリア別（2024年１月～ 12月）

区分	エリア	搬送件数
県内	県央地域（95件）	
	大村地区	53件
	長崎空港	1件
	航空隊	0件
	諫早地区	39件
	県南地域（20件）	
	雲仙・小浜地区	4件
	島原地区	10件
	愛野地区	2件
	長崎地域（33件）	
	長崎地区	35件
	佐世保地域（20件）	
	佐世保地区	8件
	東彼杵地区	4件
	五島・壱岐・対馬地域（０件）	
	五島地区	0件
	県内　計	156件
県外	佐賀県（８件）	
	福岡県（11件）	
	熊本県（１件）	
	県外　計	20件
	合計	176件

ベッドセンター

マットレス洗浄・消毒（2024年）　　単位：枚

病棟	種類	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
3A	清掃	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**	0.0
	貸出	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	**2**	0.2
3B	清掃	33	40	60	50	46	46	47	36	47	55	54	41	**555**	46.3
	貸出	36	42	63	52	47	56	54	41	55	55	57	44	**602**	50.2
4A	清掃	7	8	3	2	0	1	1	1	0	1	0	1	**25**	2.1
	貸出	5	8	3	3	1	1	2	3	0	1	0	1	**28**	2.3
4B	清掃	4	2	6	1	1	1	0	31	60	57	70	74	**307**	25.6
	貸出	8	2	4	3	7	1	2	31	60	59	71	74	**322**	26.8
4C	清掃	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**	0.0
	貸出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**	0.0
5A	清掃	0	60	75	74	78	87	85	85	91	92	81	66	**874**	72.8
	貸出	7	66	77	84	81	93	94	92	96	99	85	75	**949**	79.1
5B	清掃	83	70	92	109	105	106	135	109	78	105	89	103	**1,184**	98.7
	貸出	93	79	98	114	112	118	143	122	89	116	92	108	**1,284**	107.0
6A	清掃	73	85	78	73	74	65	63	64	68	80	59	68	**850**	70.8
	貸出	81	95	85	92	83	77	75	67	79	90	68	78	**970**	80.8
6B	清掃	62	55	69	67	73	70	70	66	50	65	53	64	**764**	63.7
	貸出	67	58	68	71	82	72	76	70	50	71	54	67	**806**	67.2
7A	清掃	74	75	70	67	54	39	58	66	68	80	59	78	**788**	65.7
	貸出	77	82	71	72	61	44	64	77	75	87	61	85	**856**	71.3
7B	清掃	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**	0.0
	貸出	0	0	0	0	0	0	4	2	0	0	0	0	**6**	0.5
8A	清掃	0	0	75	71	62	72	94	86	73	84	67	69	**753**	62.8
	貸出	12	17	80	81	70	80	97	93	79	89	74	77	**849**	70.8
8B	清掃	75	94	83	71	90	91	122	95	84	113	88	115	**1,121**	93.4
	貸出	81	103	89	77	95	97	132	105	94	123	95	125	**1,216**	101.3
9A	清掃	50	56	68	55	66	44	70	56	63	58	52	54	**692**	57.7
	貸出	59	66	68	68	72	51	76	69	75	70	62	69	**805**	67.1
9B	清掃	0	1	2	2	0	0	0	0	8	0	2	11	**26**	2.2
	貸出	14	11	7	0	0	0	0	0	0	0	0	2	**34**	2.8
計	清掃	461	546	681	642	649	622	745	695	690	790	674	744	**7,939**	661.6
	貸出	540	630	713	717	711	690	819	772	752	860	719	806	**8,729**	727.4
稼働日数		**19**	**19**	**20**	**21**	**21**	**20**	**22**	**21**	**19**	**22**	**20**	**20**	**244**	**20.3**
1日平均	清掃	24.3	28.7	34.1	30.6	30.9	31.1	33.9	33.1	36.3	35.9	33.7	37.2	年間1日平均	32.5
	貸出	28.4	33.2	35.7	34.1	33.9	34.5	37.2	36.8	39.6	39.1	36.0	40.3		35.8

シーツ交換定期・臨時（2024年）　　単位：台

病棟	種類	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
3B	清掃	51	18	69	52	52	52	55	68	53	51	60	35	**616**	51.3
	貸出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**	0.0
4A	清掃	21	23	17	23	30	27	35	28	28	33	27	25	**317**	26.4
	貸出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**	0.0
4B	清掃	73	74	56	70	87	73	92	79	79	100	79	80	**942**	78.5
	貸出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**	0.0
5A	清掃	43	85	66	84	72	75	91	81	79	105	78	73	**932**	77.7
	貸出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**	0.0
5B	清掃	72	30	44	56	47	60	56	44	46	50	44	62	**611**	50.9
	貸出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**	0.0
6A	清掃	62	65	56	73	36	76	78	61	63	79	61	77	**787**	65.6
	貸出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**	0.0
6B	清掃	104	125	104	108	152	110	113	137	110	132	109	107	**1,411**	117.6
	貸出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**	0.0
7A	清掃	90	88	65	78	109	42	105	89	91	113	82	85	**1,037**	86.4
	貸出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**	0.0
8A	清掃	55	48	70	59	55	54	60	73	60	59	75	41	**709**	59.1
	貸出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**	0.0
8B	清掃	59	86	87	70	86	93	93	83	99	92	87	78	**1,013**	84.4
	貸出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**	0.0
9A	清掃	99	73	121	97	99	103	98	123	99	95	115	68	**1,190**	99.2
	貸出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**	0.0
透析	清掃	66	110	88	88	110	88	88	110	88	110	88	91	**1,125**	93.8
	貸出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**	0.0
計	清掃	795	825	843	858	935	853	964	976	895	1,019	905	822	**10,690**	890.8
	貸出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**	0.0
稼働日数		**18**	**19**	**20**	**21**	**21**	**20**	**22**	**21**	**19**	**22**	**20**	**20**	**243**	**20.3**
1日平均	清掃	44.2	43.4	42.2	40.9	44.5	42.7	43.8	46.5	47.1	46.3	45.3	41.1	年間1日平均	44.0
	貸出	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0

National Hospital Organization **NAGASAKI** Medical Center

NHO共同研究、その他研究等（治験含む）【2023年度】

責任者　田川 努

1．NHO共同研究・EBM研究

区分	課題名	研究代表者名	研究代表者施設名	責任医師	責任医師診療科
NHO	胎児のホルモン異常と停留精巣発生リスクに関する研究（採択番号：H28-NHO(成育)-03）	生野　猛	小倉医療センター	青木幹弘	小児科
NHO	頭蓋内主幹脳動脈狭窄症の進行に関する血行力学的予測因子の探索研究（採択番号：R2-NHO(心脳)-02）	福田俊一	京都医療センター	案田岳夫	脳神経外科
NHO	メトトレキサート（MTX）関連リンパ増殖性疾患の遺伝子変異プロファイルの解析（採択番号：H31-NHO(多共)-02）	星田義彦	大阪南医療センター	伊東正博	病理診断科
NHO	メトトレキサート（MTX）関連リンパ増殖性疾患の病態解明のための多施設共同研究（採択番号：H28-NHO(多共)-02）	星田義彦	大阪南医療センター	伊東正博	病理診断科
NHO	国立病院機構内に組織した『病理診断ネットワーク』によるデジタルパソロジーをつかった病理診断ダブルチェックの実現性と有効性に関する研究（H31-NHO(癌般)-04）	寺本典弘	四国がんセンター	伊東正博	病理診断科
NHO	LiquidbiopsyをいたMTX-LPDの診断及び病態予測の検討（採択番号：R4-NHO(多共)-01）	星田義彦	大阪南医療センター	岩永　希	膠原病・リウマチ科
NHO	腎移植後BKポリオーマウイルス感染症克服に向けた観察研究（採択番号：H30-NHO(糖尿)-02）	圷　尚武	千葉東病院	大仁田亨	泌尿器科
NHO	リウマチ性多発筋痛症の診断・治療バイオマーカーの探索（採択番号：R2-NHO(免アレ)-03）	野木真一	相模原病院	岡田覚丈	膠原病・リウマチ科
NHO	関節リウマチに対する分子標的薬治療における免疫学的寛解のマーカーの探索（採択番号：H31-NHO(免アレ)-03）	大島至郎	大阪南医療センター	岡田覚丈	膠原病・リウマチ科
NHO	関節リウマチに伴う肺非結核性抗酸菌症の新規バイオマーカーの探索（採択番号：R4-NHO(免アレ)-02）	古川　宏	東京病院	岡田覚丈	膠原病・リウマチ科
NHO	体幹部定位放射線療法後の潜在的Abscopal効果による肝細胞癌再発抑制：探索的観察研究（採択番号：H31-NHO(消化)-04）	小森敦正	長崎医療センター	小森敦正	肝臓内科
NHO	間質性肺疾患に合併した気胸症例における治療方針と治療成績の前向きリアルワールドデータ調査（採択番号：H31-NHO(呼吸)-01）	原田洋明	東広島医療センター	田川　努	呼吸器外科
NHO	原発性胆汁性胆管炎の新しい病型分類と創薬のための長期観察研究（採択番号：R2-NHO(消化)-01）	中村　稔	長崎医療センター	中村　稔	肝臓内科
NHO	卵巣未熟奇形種の悪性度を判定するバイオマーカーの同定を目指した臨床研究（採択番号：R3-NHO(癌般)-01）	安彦　郁	京都医療センター	福田雅史	産婦人科
NHO	グラム染色画像深層学習による新規薬剤耐性菌診断モデルの開発と検証（採択番号：R5-NHO(感染)-03）	森　英毅	長崎医療センター	森　英毅	総合診療科
NHO	人工知能を用いた分娩時大量出血症例における凝固障害の病態解明と新しい産科DICスコアの開発（採択番号：H31-NHO(小産)-02）	多田克彦	岡山医療センター	安日一郎	産婦人科
NHO	B型慢性肝疾患に対する核酸アナログ長期投与例の課題克服および電子的臨床検査情報収集（EDC）システムを用いた多施設大規模データベースの構築（採択番号：H31-NHO(消化)-03）	阪森亮太郎	大阪医療センター	山﨑一美	肝臓内科
NHO	薬物性肝障害および急性発症型自己免疫性肝炎を含む急性肝炎の発生状況および重症化、劇症化に関する因子に関する研究（採択番号：R3-NHO(消化)-03）	山﨑一美	長崎医療センター	山﨑一美	肝臓内科
NHO	B細胞性急性リンパ性白血病におけるターゲットキャプチャー RNA-seqを用いたサブタイプ診断の実行可能性に関する研究（採択番号:H31-NHO(血液)-02）	安田貴彦	名古屋医療センター	吉田真一郎	血液内科
NHO	レジストリーデータを利用したAYA世代DLBCLの臨床的・生物学的特性を明らかにする後方視的研究（NHO-AYA-DLBCL研究）（採択番号:R3-NHO(血液)-01）	鈴木康裕	名古屋医療センター	吉田真一郎	血液内科
NHO	成人初発未治療びまん性大細胞型B細胞リンパ腫におけるRCHOP単独治療と放射線併用療法の治療成績、QOL、費用、費用対効果の多施設共同前向きコホート研究（採択番号：H28-NHO(血液)-02）	堤　育代	水戸医療センター	吉田真一郎	血液内科
NHO	未治療濾胞性リンパ腫におけるObinutuzumabの治療成績、QOL、費用対効果、予後に関する多施設前向きコホート研究（採択番号:H31-NHO(血液)-01）	堤　育代	水戸医療センター	吉田真一郎	血液内科
NHO	先天性および若年性に発症する難聴の遺伝的原因および詳細な臨床的特徴の解明（採択番号：R3-NHO(感覚)-02）	松永達雄	東京医療センター	吉田晴郎	耳鼻咽喉科

区分	課題名	研究代表者名	研究代表者施設名	責任医師	責任医師診療科
EBM	膵がん切除後の補助化学療法におけるS-1単独療法とS-1とメトホルミンの併用療法の非盲検ランダム化第Ⅱ相比較試験（ASMET）（採択番号：H26-EBM(介入)-03）	古川正幸	九州がんセンター	佐伯　哲	肝臓内科
EBM	我が国における左冠動脈主幹部インターベンションに対するコホート研究（LM-JANHO）（採択番号：H29-EBM(観察)-02）	村里嘉信	九州医療センター	深江貴芸	循環器内科
EBM	免疫抑制患者に対する13価蛋白結合型肺炎球菌ワクチンと23価莢膜多糖体型肺炎球菌ワクチンの連続接種と23価莢膜多糖体型肺炎球菌ワクチン単独接種の有効性の比較－二重盲検無作為化比較試験－（CPI STUDY）（採択番号：H27-EBM(介入)-01）	丸山貴也	三重病院	吉田真一郎	血液内科

2．競争的研究資金他

●区分（財源別）
①文部科学省科学研究費
②科学研究費助成事業（科学研究費補助金）
③科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）
④科学技術振興機構科学研究費
⑤その他文部科学省関連研究費
⑥厚生労働科学研究費
⑦国立高度専門医療センター等研究費
⑧その他厚生労働省関連研究費
⑨日本医療研究開発機構研究費
⑩その他財団等からの研究費
⑪民間セクターからの寄附金

区分	研究課題名	責任医師	研究事業名（依頼業者名）	主任分担	新規継続	研究種別	責任医師等診療科
②	日本におけるナースプラクティショナーの展開に向けた費用対効果等のアウトカム研究【20H03918】	本田和也	基盤（B）一般	分担	継続	補助金	JNP
③	原発性胆汁性胆管炎の門脈域におけるPOU2AF1とその関連分子の解析【23K07471】	相葉佳洋	基盤（C）一般	主任	新規	補助金	臨床研究センター
③	原発性胆汁性胆管炎の新たな病態解明と治療標的の同定を目指した臨床ゲノム解析【23K07366】	相葉佳洋	基盤（C）一般	分担	新規	補助金	臨床研究センター
③	原発性胆汁性胆管炎の門脈域におけるPOU2AF1とその関連分子の解析【23K07471】	伊東正博	基盤（C）一般	分担	新規	補助金	病理診断科
③	チェルノブイリ放射線誘発甲状腺がんの遺伝子バンク設立と分子遺伝疫学国際共同研究【20KK0217】	伊東正博	国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B））	分担	継続	補助金	病理診断科
③	原発性胆汁性胆管炎の新たな病態解明と治療標的の同定を目指した臨床ゲノム解析【23K07366】	中村　稔	基盤（C）一般	主任	新規	補助金	臨床研究センター
③	手術室における滅菌有効期限を事象依存型無菌性維持に設定するための基礎学研究【23K17255】	原健太朗	若手研究	主任	新規	補助金	看護部
③	bFGFの組織再生能力に着目した統合失調症治療法の開発【22K07615】	藤岡正樹	基盤（C）一般	分担	継続	補助金	形成外科
③	脳卒中診療におけるナースプラクティショナー（NP）を活用したマンパワーの提案【22K10433】	本田和也	基盤（C）一般	主任	継続	補助金	JNP
③	脳卒中診療におけるナースプラクティショナー（NP）を活用したマンパワーの提案【22K10433】	森塚倫也	基盤（C）一般	分担	継続	補助金	JNP
③	難聴児見逃しゼロを目指した小児聴覚スクリーニングシステムの構築【22K02409】	吉田晴郎	基盤（C）一般	主任	継続	補助金	耳鼻咽喉科
⑤	ヒト初代培養細胞による３次元灌流型血液脳関門モデルの確立【JPJSBP120223802】	諸藤陽一	二国間交流事業 共同研究	主任	継続	補助金	脳神経外科
⑥	難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究【23FC1026】	小森敦正	難治性疾患政策研究事業	分担	新規	補助金	肝臓内科
⑥	希少てんかんの診療指針と包括医療の研究【23FC1013】	本田涼子	難治性疾患政策研究事業	分担	新規	補助金	小児科
⑥	様々な生活の場における肝炎ウイルス感染者の人権への望ましい配慮に関する研究【23HC2004】	八橋　弘	肝炎等克服政策研究事業	主任	新規	補助金	肝臓内科
⑥	薬害Ｃ型肝炎患者救済の実態把握のための調査研究【22KC2008】	八橋　弘	医薬品･医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業	分担	継続	補助金	肝臓内科
⑥	血液製剤によるHIV/HCV重複感染患者に対する肝移植を含めた外科治療に関する研究【21HB2002】	八橋　弘	エイズ対策政策研究事業	分担	継続	補助金	肝臓内科

区分	研究課題名	責任医師	研究事業名（依頼業者名）	主任分担	新規継続	研究種別	責任医師等診療科
⑥	オーダーメードな肝炎ウイルス感染防止・重症化予防ストラテジーの確立に資する研究【21HC2001】	八橋　弘	肝炎等克服政策研究事業	分担	継続	補助金	肝臓内科
⑥	エイズ発症予防に資するための血液製剤によるHIV感染者の調査研究事業	八橋　弘	友愛福祉財団委託事業	分担	継続	補助金	肝臓内科
⑥	全国規模の肝炎ウイルス感染状況把握及びウイルス性肝炎eliminationに向けた方策の確立に資する疫学研究【22HC1001】	山﨑一美	肝炎等克服政策研究事業	分担	継続	補助金	肝臓内科
⑨	成人Ｔ細胞白血病/リンパ腫の治療を目指したHTLV-1ウイルス標的樹状細胞ワクチン療法の確立【23ck0106742s0202】	今泉芳孝	革新的がん医療実用化研究事業	分担	継続	委託	血液内科
⑨	肝類洞内皮のバリア破綻を契機とする非アルコール性脂肪性肝炎の発症と肝発がん機序の解明【23fk0210129h0001】	小森敦正	肝炎等克服実用化研究事業 肝炎等克服緊急対策研究事業	分担	継続	委託	肝臓内科
⑨	難病のゲノム医療実現に向けた全ゲノム解析の実施基盤の構築と実践【22ek0109617h0001】	中村　稔	難治性疾患実用化研究事業	分担	新規	委託	臨床研究センター
⑨	難病のゲノム医療実現に向けた全ゲノム解析の実施基盤の構築と実践【23ek0109617h0002】	中村　稔	難治性疾患実用化研究事業	分担	継続	委託	臨床研究センター
⑨	インターフェロンフリー治療がC型肝硬変患者の予後を含めたアウトカムに与える影響を明らかにする研究【23fk0210113h0002】	八橋　弘	肝炎等克服実用化研究事業 肝炎等克服緊急対策研究事業	分担	継続	委託	肝臓内科
⑨	Ｂ型肝炎の個別化医療を目指した臨床ゲノム解析に関する研究と肝炎データストレージの利活用【23fk0210111h0002】	山﨑一美	肝炎等克服実用化研究事業 肝炎等克服緊急対策研究事業	分担	継続	委託	肝臓内科
⑨	Nucleotide analog製剤の宿主免疫賦活能を利用してＢ型肝炎のHBs抗原消失率向上を目指す治療法の開発および創薬に関する研究【23fk0210112h702】	山﨑一美	肝炎等克服実用化研究事業 肝炎等克服緊急対策研究事業	分担	継続	委託	肝臓内科
⑨	Ｂ型肝炎再活性化に対する、費用対効果に優れた予防および治療法の開発【23fk0210085s1003】	山﨑一美	肝炎等克服実用化研究事業 肝炎等克服緊急対策研究事業	分担	継続	委託	肝臓内科
⑩	全身麻酔下側臥位手術患者における術前皮膚状態と術後皮膚障害・褥瘡発生の関連	原健太朗	木村看護教育振興財団 看護研究助成	主任	新規	委託	看護部
⑩	脳神経外科パークベンチ体位における術中褥瘡・神経障害発生予防対策の効果の検討	原健太朗	コメディカル臨床研究助成	主任	新規	委託	看護部
⑩	形成外科の研究への援助	藤岡正樹	医療法人城内会新生病院	主任	新規	委託	形成外科
⑩	形成外科の研究への援助	藤岡正樹	医療法人城内会新生病院	主任	新規	委託	形成外科
⑩	腫瘍組織登録の標準化のため	三浦史郎	長崎県医師会	主任	新規	委託	病理診断科
⑩	肝硬変治療薬の開発を促進する肝機能回復メカニズムの解明研究	八橋　弘	公益財団法人東京都医学総合研究所感染制御プロジェクト	分担	継続	共同	肝臓内科
⑪	腎疾患や透析、動脈硬化、高血圧についての研究活動	岡　　哲	中外製薬株式会社	主任	新規	委託	腎臓内科
⑪	食道癌患者に対する術前十全大補湯投与が宿主の栄養・免疫能に及ぼす影響の検討	黒木　保	大鵬薬品工業株式会社	主任	新規	委託	外科
⑪	外科手術後の予後予測における医師のVisual Analogue Scale（VAS）の有用性	黒木　保	中外製薬株式会社	主任	新規	委託	外科

区分	研究課題名	責任医師	研究事業名（依頼業者名）	主任分担	新規継続	研究種別	責任医師等診療科
⑪	外科手術後の予後予測における医師のVisual Analogue Scale（VAS）の有用性の研究助成	黒木　保	コヴィディエンジャパン株式会社	主任	新規	委託	外科
⑪	肝発癌、および免疫チェックポイント阻害剤を用いた肝癌治療反応の予測における、血中酸化アミノ酸と脂肪酸酸化関連メタボライト測定の意義	小森敦正	中外製薬株式会社	主任	新規	委託	肝臓内科
⑪	肺がん切除術を含む呼吸器外科手術直後のフェンタニルクエン酸塩、NSAIDs静注およびアセトアミノフェン静注による鎮痛効果および安全性についての検討	田川　努	中外製薬株式会社	主任	新規	委託	呼吸器外科
⑪	呼吸器外科手術直後のフェンタニルクエン酸塩、NSAIDs静注およびアセトアミノフェン静注による鎮痛効果および安全性についての検討への助成	田川　努	協和キリン株式会社	主任	新規	委託	呼吸器外科
⑪	呼吸器外科学における教育研究助成のため	田川　努	KMバイオロジクス株式会社	主任	新規	委託	呼吸器外科
⑪	「救急医学、集中治療に関する研究」への助成	中道親昭	旭化成ファーマ株式会社	主任	新規	委託	救命救急科
⑪	乳癌診療と脂質代謝異常との関連	南　恵樹	中外製薬株式会社	主任	新規	委託	乳腺・内分泌外科
⑪	舌表面画像の深層学習解析による急性虫垂炎の新規診断法の開発	森　英毅	一般財団法人キヤノン財団	主任	継続	委託	総合診療科
⑪	造血器悪性腫瘍の標準的治療確立に向けた研究活動	吉田真一郎	中外製薬株式会社	主任	新規	委託	血液内科
⑪	造血器悪性腫瘍の治療に関する研究への助成	吉田真一郎	協和キリン株式会社	主任	新規	委託	血-液内科

3．治験・医師主導治験

区分	研究課題名	依頼者（試験母体）	責任医師	責任医師診療科
治験	過去２年間に尿路感染症の既往がある60歳以上の成人を対象にExPEC9Vを接種したときの侵襲性腸管外病原性大腸菌感染症の予防における有効性，安全性及び免疫原性を評価するランダム化，二重盲検，プラセボ対照，多施設共同，第３相試験（実施計画書№：VAC52416BAC3001）	ヤンセンファーマ（株）	和泉　泰衛	総合診療科
治験	一次治療のステロイドで十分な効果が得られなかったか治療後に再発した特発性血小板減少性紫斑病（ITP）患者を対象としてエルトロンボパグに追加するianalumab（VAY736）をプラセボと比較して評価する第Ⅲ相、ランダム化、二重盲検試験（VAYHIT2）（実施計画書№：CVAY736Q12301）	ノバルティスファーマ（株）	今泉　芳孝	血液内科
治験	抗CD38抗体及びレナリドミドを含む１～４ラインの前治療歴がある再発又は難治性の多発性骨髄腫患者を対象として，talquetamab及びポマリドミドの併用療法（Tal-P），talquetamab及びteclistamabの併用療法（Tal-Tec），並びに治験責任（分担）医師が選択するエロツズマブ，ポマリドミド，及びデキサメタゾン併用療法（EPd）又はポマリドミド，ボルテゾミブ，及びデキサメタゾン併用療法（PVd）を比較する第3相ランダム化試験　（実施計画書№：64407564MMY3009）	ヤンセンファーマ（株）	今泉　芳孝	血液内科
治験	標準治療（SOC）で効果不十分な活動性全身性エリテマトーデス（SLE）患者を対象としてRozibafusp Alfa（AMG 570）の有効性及び安全性を評価する第Ⅱb相用量設定試験　（実施計画書№：20170588）	アムジェン（株）	岩永　希	リウマチ科
治験	A Multicenter, Parallel-group, Double-blind, 2-Arm, Phase IIIStudy to Investigate the Efficacy and Safety of AnifrolumabAdministered as Subcutaneous Injection and Added to Standard ofCare Compared with Placebo Added to Standard of Care in AdultParticipants with Polymyositis　多発性筋炎の成人被験者を対象に標準治療に上乗せしてアニフロルマブを皮下投与したときの有効性及び安全性をプラセボと比較検討する第Ⅲ相、多施設共同、並行群間、二重盲検、２群試験（実施計画書№：D3463C00003）	アストラゼネカ（株）	岩永　希	リウマチ科

区分	研究課題名	依頼者 （試験母体）	責任医師	責任医師 診療科
治験	OPC-131461 の心性浮腫（うっ血性心不全）に対する、無作為化、二重盲検、プラセボ対照、並行群間、多施設共同、用量探索試験（実施計画書№：351-102-00004）	大塚製薬（株）	於久　幸治	循環器内科
治験	心血管系リスクが高い患者を対象に主要心血管系イベントの抑制におけるMK-0616の有効性及び安全性を評価する第Ⅲ相、無作為化、プラセボ対照試験（実施計画書№：015）	MSD（株）	於久　幸治	循環器内科
治験	A Randomized, Double-blind, Placebo-controlled, Multicenter Study to Evaluate the Efficacy and Safety of Cenobamate Adjunctive Therapy in Subjects with Partial Onset Seizures, with Optional Open-Label Extension 部分てんかん患者に対するcenobamate追加療法の有効性及び安全性を評価する無作為化、二重盲検、プラセボ対照、多施設共同試験及び非盲検継続試験（実施計画書№：YKP3089C035）	IQVIAサービシーズジャパン合同会社	小野　智憲	脳神経外科
治験	STEREOTYPICAL PROLONGED SEIZUREを有する12歳以上の患者を対象として、STACCATO ALPRAZOLAMの有効性及び安全性を評価する二重盲検、無作為化、プラセボ対照、多施設共同、外来、並行群間比較試験（実施計画書№：EP0162）	ユーシービージャパン（株）	小野　智憲	脳神経外科
治験	STEREOTYPICAL PROLONGED SEIZUREを有する12歳以上の患者を対象として、STACCATO ALPRAZOLAMの安全性及び忍容性を評価する非盲検、多施設共同、外来継続試験（実施計画書№：EP0165）	ユーシービージャパン（株）	小野　智憲	脳神経外科
治験	A Phase 2, Multicenter Open-Label Extension Study to Evaluate the Long-term Safety of Cenobamate in Japanese Subjects with Partial Onset Seizures 部分発作を有する日本人てんかん患者を対象としたCenobamateの長期安全性を評価する第２相多施設共同非盲検継続投与試験（実施計画書№：ONO-2017-02）	小野薬品工業（株）	小野　智憲	脳神経外科
治験	非肝硬変の原発性硬化性胆管炎を有する被験者を対象として、Cilofexorの安全性、忍容性及び有効性を評価する、第３相、ランダム化、二重盲検、プラセボ対照試験 （実施計画書№：GS-US-428-4194）	ギリアド・サイエンシズ（株）	小森　敦正	肝臓内科
治験	Long-term Safety and Tolerability Study of Linerixibat for the Treatment of Cholestatic Pruritus in Participants with Primary Biliary Cholangitis（実施計画書№：212358）	グラクソ・スミスクライン（株）	小森　敦正	肝臓内科
治験	A Phase IIb Multi-Center, Randomised, Open Label Study to Assess the Efficacy and Safety of Sequential Treatment with GSK3228836 followed by Pegylated Interferon Alpha 2a in Participants with Chronic Hepatitis B Virus（B-Together）（実施計画書№：209348）	グラクソ・スミスクライン（株）	小森　敦正	肝臓内科
治験	A two-part, randomized, placebo controlled, double blind, multicenter, Phase 3 study to evaluate the efficacy and safety of linerixibat for the treatment of cholestatic pruritus in participants with primary biliary cholangitis（PBC）.（実施計画書№：212620）	グラクソ・スミスクライン（株）	小森　敦正	肝臓内科
治験	A Phase Ⅱb/Ⅲ Randomized, Double-blind, Placebo-controlled Study to Evaluate the Safety and Efficacy of Cotadutide in Participants with Non-cirrhotic Non-alcoholic Steatohepatitis with Fibrosis 線維化を伴う非肝硬変非アルコール性脂肪肝炎の患者を対象にcotadutideの安全性及び有効性を評価する第Ⅱb/Ⅲ相ランダム化二重盲検プラセボ対照試験（実施計画書№：D5671C00006）	アストラゼネカ（株）	小森　敦正	肝臓内科
治験	成人の肝硬変移行前の非アルコール性脂肪肝炎患者を対象としたGSK4532990の有効性及び安全性を評価する二重盲検、プラセボ対照、第Ⅱb相試験 A Double-Blind, Placebo-Controlled Phase 2b Study to Evaluate the Efficacy and Safety of GSK4532990 in Adults with Pre-Cirrhotic Non-Alcoholic Steatohepatitis（HORIZON）（実施計画書№：218672）	グラクソ・スミスクライン（株）	小森　敦正	肝臓内科
治験	Phase 3 Multicenter, Randomized, Double-Blind, Study to Assess the Efficacy and Safety of Treatment with Bepirovirsen in Nucleos（t）ide Analogue-treated Participants with Chronic Hepatitis B Virus（B-Well 2） 核酸アナログ治療を受けているB型肝炎ウイルス持続感染患者を対象としたbepirovirsen投与の有効性及び安全性を評価する第Ⅲ相、多施設共同、ランダム化、二重盲検試験（B-Well 2）（実施計画書№：219288）	グラクソ・スミスクライン（株）	小森　敦正	肝臓内科

区分	研究課題名	依頼者 （試験母体）	責任医師	責任医師 診療科
治験	A Randomised, Double-blind, Placebo-controlled, Multi-centre Phase 2b Study to Evaluate the Efficacy, Safety and Tolerability of AZD2693 in Participants with Non-cirrhotic Non-alcoholic Steatohepatitis（NASH）with Fibrosis Who Are Carriers of the PNPLA3 rs738409 148M Risk Allele リスク対立遺伝子PNPLA3 rs738409148Mを保有する、線維化を伴う非肝硬変非アルコール性脂肪肝炎（NASH）の患者を対象にAZD2693の有効性、安全性、及び忍容性を評価するランダム化二重盲検プラセボ対照多施設共同第Ⅱb相試験（実施計画書№：D7830C00004）	アストラゼネカ（株）	小森　敦正	肝臓内科
治験	ウルソデオキシコール酸及び/又はオベチコール酸の治療で効果不十分な原発性胆汁性胆管炎患者を対象とした、K-808（ペマフィブラート）の２用量の有効性及び安全性を評価する第２相、ランダム化、プラセボ対照、並行群間比較、多施設共同、52週間継続評価を伴う12週間試験（実施計画書№：K-808-2.01）	興和（株）	小森　敦正	肝臓内科
治験	ソリスロマイシンの臨床第Ⅲ相試験　市中肺炎を対象としたアジスロマイシンとの非劣性検証－層別ランダム化，多施設共同，二重盲検試験－（実施計画書№：T4288-306）	富士フイルム富山化学（株）	近藤　晃	呼吸器内科
治験	早発型重症妊娠高血圧腎症患者を対象としたKW-3357の第Ⅲ相ランダム化プラセボ対照二重盲検比較試験（実施計画書№：3357-101）	協和キリン（株）	菅　幸恵	産婦人科
治験	小児及び成人レノックス・ガストー症候群（LGS）患者を対象とした二部構成ZX008評価試験：パート１：小児及び成人LGS患者の発作に対する補助療法として２種類の固定用量のZX008（fenfluramine hydrochloride）経口液剤を評価する無作為化、二重盲検、プラセボ対照試験；後続のパート２：小児及び成人LGS患者におけるZX008の長期安全性を評価する非盲検継続試験（実施計画書№：ZX008-1601）	サイネオス・ヘルス・クリニカル（株）	本田　涼子	小児科
治験	小児及び若年成人のドラベ症候群（DS）患者を対象に併用療法として投与したときのsoticlestatの有効性、安全性及び忍容性を検討する、多施設共同、無作為化、二重盲検、プラセボ対照、並行群間比較試験（実施計画書№：TAK-935-3001）	武田薬品工業（株）	本田　涼子	小児科
治験	小児及び成人のレノックス・ガストー症候群（LGS）患者を対象に併用療法として投与したときのsoticlestatの有効性、安全性及び忍容性を検討する、多施設共同、無作為化、二重盲検、プラセボ対照、並行群間比較試験（実施計画書№：TAK-935-3002）	武田薬品工業（株）	本田　涼子	小児科
治験	ドラベ症候群又はレノックス・ガストー症候群患者を対象に併用療法として投与したときの soticlestat の長期的な安全性及び忍容性を評価する、第３相、前向き、非盲検、多施設共同、第３相試験からの継続投与試験（ENDYMION 2）（実施計画書№：TAK-935-3003）	武田薬品工業（株）	本田　涼子	小児科
治験	An open-label study to investigate the safety and efficacy of cannabidiol oral solution（GWP42003-P）in Japanese children and adults as adjunctive treatment for seizures associated with Lennox-Gastaut syndrome, Dravet syndrome, or tuberous sclerosis complex 日本人小児および成人患者を対象にレノックス・ガストー症候群、ドラベ症候群または結節性硬化症と関連する発作に対する併用療法として、カンナビジオール経口液剤（GWP42003-P）の安全性および有効性を検討する非盲検試験（実施計画書№：GWEP19186）	IQVIA サービシーズ ジャパン合同会社	本田　涼子	小児科
治験	A PHASE 3, RANDOMIZED, DOUBLE-BLIND, PLACEBO-CONTROLLED, FIXED-DOSE, MULTICENTER STUDY TO EXAMINE THE EFFICACY AND SAFETY OF ZX008 IN SUBJECTS WITH CDKL5 DEFICIENCY DISORDER FOLLOWED BY AN OPEN-LABEL EXTENSION / CDKL5欠損症患者を対象としたZX008の有効性及び安全性を検討する第Ⅲ相、無作為化、二重盲検、プラセボ対照、固定用量、多施設共同試験、及び非盲検継続投与試験（実施計画書№：ZX008-2103/EP0216）	ユーシービージャパン（株）	本田　涼子	小児科
治験	CLCZ696B2319試験を終了した左室収縮機能障害による心不全を有する小児患者を対象に，非盲検のLCZ696を長期投与した時の安全性及び忍容性を評価する多施設共同試験（実施計画書№：CLCZ696B2319E1）	ノバルティスファーマ（株）	本村　秀樹	小児科
治験	５歳から11歳の被験者を対象としたS-268019の第１/２/３相無作為化オブザーバーブラインド試験（Part 2）（実施計画書№：2211U0233）	塩野義製薬（株）	本村　秀樹	小児科
治験	５歳から11歳の被験者を対象にS-268019又はコミナティ筋注を追加接種した時の免疫原性を評価する第３相無作為化オブザーバーブラインド実薬対照試験（実施計画書№：2214U0234 ）	塩野義製薬（株）	本村　秀樹	小児科

区分	研究課題名	依頼者（試験母体）	責任医師	責任医師診療科
治験	CLCZ696B2319E1試験を完了した左室収縮機能障害による日本人小児心不全患者を対象にLCZ696の安全性情報を収集する多施設共同非盲検試験（実施計画書№：CLCZ696B2319E2）	ノバルティスファーマ（株）	本村　秀樹	小児科
治験	再発性の低悪性度B細胞性非ホジキンリンパ腫患者を対象としたcopanlisib（リツキシマブ併用）の有効性及び安全性を評価する無作為化、二重盲検、プラセボ対照、第Ⅲ相臨床試験：CHRONOS-3（実施計画書№：17067）	バイエル薬品（株）	吉田真一郎	血液内科
医師主導治験	成人T細胞白血病・リンパ腫を対象としたウイルス抗原を標的とする樹状細胞ワクチン療法　多施設共同非盲検無作為化比較試験（第Ⅱ相試験）（実施計画書№：ATL-DC-101-JP-P201）	医師主導治験	吉田真一郎	血液内科

4．製造販売後調査、受託臨床研究、公費臨床試験他

区分	研究課題名	依頼者（試験母体）	責任医師	責任医師等診療科
受託臨床研究（文書同意あり）	癌性胸膜炎を伴う非小細胞肺癌に対するラムシルマブ、ドセタキセル併用療法の第Ⅱ相試験（PLEURAM study）	国立大学法人長崎大学	池田　喬哉	呼吸器内科
受託臨床研究（文書同意あり）	メトトレキサート（MTX）抵抗性関節リウマチ患者を対象としたウパダシチニブ＋MTX併用による臨床的寛解達成および臨床的寛解達成後のMTX休薬における臨床的非再燃の維持を評価する他施設共同前向き試験（DOPPLER STUDY）	国立大学法人長崎大学	岡田　覚丈	膠原病・リウマチ科
受託臨床研究（文書同意あり）	メトトレキサート抵抗性関節リウマチ患者を対象としたフィルゴチニブ単剤治療のトシリズマブ単剤治療に対する有用性の非劣性を検証する多施設共同ランダム化比較試験 Efficacy and safety of selective JAK 1 inhibitor Filgotinib in active rheumatoid arthritis patients with inadequate response to methotrexate: Comparative study with Filgotinib and Tocilizumab examined by clinical index as well as musculoskeletal ultrasound assessment（TRANSFORM STUDY）	国立大学法人長崎大学	岡田　覚丈	膠原病・リウマチ科
受託臨床研究（文書同意あり）	間質性肺疾患合併多発性筋炎/皮膚筋炎患者を対象とした肺病変の進行を規定するバイオマーカー探索研究（PMDM-ILD）	国立大学法人長崎大学	岡田　覚丈	膠原病・リウマチ科
受託臨床研究（文書同意あり）	Comprehensive Outcomes Registry in Subjects with Epilepsy Treated with Vagus Nerve Stimulation Therapy（迷走神経刺激療法で治療されたてんかん患者における、包括的な転帰に関する登録研究：CORE-VNS）	リヴァノヴァ（株）	小野　智憲	脳神経外科
受託臨床研究（文書同意あり）	てんかん患者におけるペランパネル一次単剤療法の有効性・安全性に関する観察研究（PORTABLE study）（実施計画書№：E2007-M081-515）	国際医療福祉大学成田病院	小野　智憲	脳神経外科
受託臨床研究（文書同意あり）	HAMRET Study切除不能肝細胞癌における薬物療法の前向き観察研究	一般社団法人九州消化器癌化学療法研究会	小森　敦正	肝臓内科
受託臨床研究（文書同意あり）	新型コロナワクチン追加接種（３回目接種）にかかわる免疫持続性および安全性調査（コホート調査）	学校法人順天堂	小森　敦正	肝臓内科
受託臨床研究（文書同意あり）	新型コロナワクチン第二期追加接種（４回目接種）にかかわる免疫持続性および安全性調査（コホート調査）	学校法人順天堂	小森　敦正	肝臓内科
受託臨床研究（文書同意あり）	新型コロナ組換えタンパクワクチン初回シリーズおよび追加接種にかかわる免疫持続性および安全性調査（コホート調査）（ノババックス）	学校法人順天堂	小森　敦正	肝臓内科
受託臨床研究（文書同意あり）	市中肺炎に対するラスクフロキサシン（LSFX）スイッチ療法の有効性および安全性を評価する多施設共同単群非盲検試験	国立大学法人長崎大学	近藤　　晃	呼吸器内科
受託臨床研究（文書同意あり）	重症化リスク因子を有する軽症/中等症ⅠのSARS-CoV-2感染症患者を対象としたエンシトレルビル フマル酸の有効性及び安全性を評価する無作為化モルヌピラビル対照比較試験	（株）リニカル	近藤　　晃	呼吸器内科
受託臨床研究（文書同意あり）	呼吸器外科術後神経障害性疼痛患者にミロガバリンを追加併用した際の有効性と安全性の検討－他施設共同、無作為化、非盲検、並行群間、介入研究－	シミック（株）	田川　　努	呼吸器外科
受託臨床研究（文書同意あり）	早期特発性肺線維症患者に対するニンテダニブ投与の有効性と安全性に関する解析	国立大学法人長崎大学	原　　敦子	呼吸器内科
受託臨床研究（文書同意あり）	「エンハーツ点滴静注用100mg特定使用成績調査（乳癌）」患者を 登録対象としたトラスツズマブ デルクステカン中止後の後治療に関するコホート研究	イーピーエス（株）	前田　茂人	乳腺・内分泌外科

区分	研究課題名	依頼者（試験母体）	責任医師	責任医師等診療科
受託臨床研究（文書同意あり）	閉経後ホルモン受容体陽性切除不能および転移・再発乳癌に対するパルボシクリブ療法の観察研究 （CSPOR-BC）	一般社団法人CSPOR-BC	南　恵樹	乳腺・分泌外科
受託臨床研究（文書同意あり）	JBCRG-M06「HER2陽性進行・再発乳癌におけるトラスツズマブ、ペルツズマブ、タキサン併用療法とトラスツズマブ、ペルツズマブ、エリブリン併用療法を比較検討する第Ⅲ相臨床研究」	一般社団法人JBCRG	南　恵樹	乳腺・内分泌外科
受託臨床研究（文書同意あり）	化学療法既治療の転移乳がんに対するアベマシクリブ療法の観察研究	一般社団法人CSPOR-BC	南　恵樹	乳腺・内分泌外科
受託臨床研究（文書同意あり）	HER2陽性及び低発現乳癌のT-DXd治療に対するオランザピン併用制吐療法の有効性を検討するプラセボコントロール二重盲検ランダム化第Ⅱ相比較試験（ERICA）（WJOG14320B）	特定非営利活動法人西日本がん研究機構	南　恵樹	乳腺・内分泌外科
受託臨床研究（文書同意あり）	小児侵襲性肺炎球菌感染症患者から分離された肺炎球菌株の莢膜血清型分布及び薬剤感受性に関する多施設共同観察研究（実施計画書№：V114-NIS-7998）	MSD（株）	本村　秀樹	小児科
受託臨床研究（文書同意あり）	オミクロン株対応2価ワクチンの追加接種にかかわる免疫持続性および安全性調査（コホート調査）	学校法人順天堂	本村　秀樹	小児科
受託臨床研究（文書同意あり）	新型コロナワクチン接種（初回シリーズおよび追加接種）にかかわる免疫原性および安全性調査（５歳から11歳）	学校法人順天堂	本村　秀樹	小児科
受託臨床研究（文書同意あり）	新型コロナワクチン接種（初回接種）にかかわる免疫原性および安全性調査（６か月～４歳）	学校法人順天堂	本村　秀樹	小児科
受託臨床研究（文書同意あり）	オミクロン株XBB.1.5対応１価ワクチンの初回接種および追加接種にかかわる免疫持続性および安全性調査（コホート調査）	学校法人順天堂	本村　秀樹	小児科
受託臨床研究（文書同意あり）	切除不能肝細胞癌に対するアテゾリズマブ＋ベバシズマブにTACE療法を追加することの有効性を検証する多施設共同第Ⅲ相臨床研究（IMPACT Study）	一般社団法人九州消化器癌化学療法研究会	本吉　康英	肝臓内科
受託臨床研究（文書同意あり）	１型糖尿病におけるイプラグリフロジン補助療法による腎機能変化の検討（IPRA-CKD）	国立大学法人長崎大学	安井　順一	内分泌・代謝内科
受託臨床研究（文書同意あり）	再生不良性貧血におけるウサギATG＋シクロスポリン＋エルトロンボパグ療法の有用性に関する検討（W-JHS AA02）	一般社団法人九州臨床研究支援センター	吉田真一郎	血液内科
受託臨床研究（文書同意あり）	少量レナリドミド療法に再発・難治性となったMM患者に対するIld療法の効果と安全性（W-JHS　MM02）	一般社団法人九州臨床研究支援センター	吉田真一郎	血液内科
受託臨床研究（文書同意あり）	日本における初発ホジキンリンパ腫に対するA-AVD療法の成績　前向き登録研究（W-JHS HL01）	一般社団法人九州臨床研究支援センター	吉田真一郎	血液内科
受託臨床研究（文書同意あり）	未治療びまん性大細胞型B細胞リンパ腫患者（以下、「DLBCL」という。）に対するポラツズマブ ベドチン（以下「Pola」という。）＋R-CHP療法の有効性と安全性を検討する多機関共同前向き観察研究－W-JHS NHL03（POLASTAR）－	一般社団法人九州臨床研究支援センター	吉田真一郎	血液内科
受託臨床研究（文書同意あり）	Tucidinostat（HBI 8000）の開発第Ⅱb 相試験に参加した再発・難治末梢性Ｔ細胞リンパ腫患者における病型と治療効果との関連についての多施設共同後方視研究（研究計画書番号：Tucidinostat-TFH）	独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター	吉田真一郎	血液内科
受託臨床研究（文書同意あり）	術前化学療法を施行する食道癌・胃癌における十全大補湯によるQOL改善を検討するオープンラベル比較第Ⅱ相試験（QuEST study）	一般社団法人九州消化器癌化学療法研究会	米田　晃	外科
受託臨床研究（体外診断用医薬品）	レジオネラ症診断における尿中抗原検査と臨床的特徴に関する全国サーベイランス研究－多施設共同前向き観察研究－	一般社団法人日本感染症学会	近藤　晃	呼吸器内科
受託臨床研究（体外診断用医薬品）	Semi-dry dot-blot（SDB）法を応用した新規乳癌リンパ節転移診断キットに関する多施設共同臨床性能試験（再試験）	（株）ニッポンジーン	南　恵樹	乳腺・内分泌外科
受託臨床研究（体外診断用医薬品）	医療従事者を対象としたSARS-CoV-2抗体モニタリング	シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス（株）	八橋　弘	肝臓内科
受託臨床研究（体外診断用医薬品）	肝炎患者におけるHISCL M2BPGi試薬の臨床有用性の検討	シスメックス（株）	八橋　弘	肝臓内科
受託臨床研究（体外診断用医薬品）	化学発光免疫測定法（CLIA法）におけるHBs定量試薬の基礎評価	シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス（株）	八橋　弘	肝臓内科

区分	研究課題名	依頼者（試験母体）	責任医師	責任医師等診療科
受託臨床研究（体外診断用医薬品）	HCV感染者における治療前後の抗体価推推移および、ルミパルスHCV・ルミパルスプレストHCVの基本的性能比較	富士レビオ（株）	八橋　弘	肝臓内科
受託臨床研究（体外診断用医薬品）	鼻腔拭い液及び唾液検体を用いた「ケミルミ SARS-CoV-2Ag」によるSARS-CoV-2感染の臨床性能の検証	シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス（株）	八橋　弘	肝臓内科
受託臨床研究（体外診断用医薬品）	慢性肝疾患におけるWFA（＋）M2BP、AFP-L3とautotaxinの病態生理学的意義の検討	東ソー（株）	山﨑　一美	肝臓内科
受託臨床研究（体外診断用医薬品）	慢性肝疾患における可溶性免疫チェックポイント分子測定の有用性の検証	国立研究開発法人国立国際医療研究センター 国立大学法人 東京大学 シスメックス（株）	山﨑　一美	肝臓内科
受託臨床研究（体外診断用医薬品）	肝疾患関連バイオマーカーを用いたＢ型肝炎持続感染患者における予後予測の検討	富士レビオ（株）	山﨑　一美	肝臓内科
受託臨床研究（体外診断用医薬品）	ルミパルスプレストグリピカン-3の肝細胞癌診断補助における臨床性能試験	富士レビオ（株）	山﨑　一美	肝臓内科
受託臨床研究（体外診断用医薬品）	血清HBs抗原糖鎖異性体を用いたＢ型肝炎持続感染患者における臨床的有用性の検討	（株）RCMG	山﨑　一美	肝臓内科
受託臨床研究（体外診断用医薬品）	慢性肝疾患におけるサイトケラチン18フラグメントの有用性に関する検討	（株）特殊免疫研究所	末廣　智之	肝臓内科
製造販売後調査（文書同意あり）	Horizon AG5300の製品性能調査	（株）バイタル	有吉毅子男	心臓血管外科
製造販売後調査（文書同意あり）	ピヴラッツ点滴静注液150mg　特定使用成績調査（長期観察）	イドルシアファーマシューティカルズジャパン（株）	案田　岳夫	脳神経外科
製造販売後調査（文書同意あり）	エンハーツ点滴静注用100㎎ 特定使用成績調査　－癌患者を対象とした間質性肺疾患の検討－	第一三共（株）	池田　喬哉	呼吸器内科
製造販売後調査（文書同意あり）	クリースビータ皮下注　特定使用成績調査－FGF23関連低リン血症性くる病・骨軟化症患者の長期使用に関する調査－	協和キリン（株）	和泉　啓	小児科
製造販売後調査（文書同意あり）	イムブルビカカプセル140mg 原発性マクログロブリン血症/リンパ形質細胞リンパ腫を対象とした特定使用成績調査	ヤンセンファーマ（株）	今泉　芳孝	血液内科
製造販売後調査（文書同意あり）	イラリス皮下注用150mg、イラリス皮下注射液150mg　使用成績調査 既存治療で効果不十分な家族性地中海熱，TNF受容体関連周期性症候群，高IgD 症候群（メバロン酸キナーゼ欠損症）	ノバルティスファーマ（株）	岩永　希	膠原病・リウマチ科
製造販売後調査（文書同意あり）	ソリリス点滴静注300mg視神経脊髄炎スペクトラム障害に関する特定使用成績調査	アレクシオンファーマ合同会社	岩永　洋	脳神経内科
製造販売後調査（文書同意あり）	バフセオ錠150mg/300mg特定使用成績調査（長期使用に関する調査）VIOLET survey	田辺三菱製薬（株）	岡　哲	腎臓内科
製造販売後調査（文書同意あり）	エナロイ　特定使用成績調査（長期）	鳥居薬品（株）	岡　哲	腎臓内科
製造販売後調査（文書同意あり）	レパーサ皮下注　特定使用成績調査（長期使用）	アステラス製薬（株）	於久　幸治	循環器内科
製造販売後調査（文書同意あり）	ビンダケルカプセル特定使用成績調査－トランスサイレチン型心アミロイドーシス患者に対する調査－	ファイザー（株）	於久　幸治	循環器内科
製造販売後調査（文書同意あり）	ユルトミリス®全身型重症筋無力症に関する特定使用成績調査	アレクシオンファーマ合同会社	徳田　昌紘	神経内科
製造販売後調査（文書同意あり）	潰瘍性大腸炎患者を対象としたジセレカ錠特定使用成績調査	エーザイ（株）	中島悠史郎	消化管内科
製造販売後調査（文書同意あり）	バベンチオ点滴静注200mg　特定使用成績調査（根治切除不能又は転移性の腎細胞癌）	メルクバイオファーマ（株）	錦戸　雅春	泌尿器科
製造販売後調査（文書同意あり）	バベンチオ点滴静注200mg　特定使用成績調査（根治切除不能な尿路上皮癌における化学療法後の維持療法）	メルクバイオファーマ（株）	錦戸　雅春	泌尿器科
製造販売後調査（文書同意あり）	ローブレナ錠特定使用成績調査	ファイザー（株）	平野　優大	呼吸器内科
製造販売後調査（文書同意あり）	ゼジューラ特定使用成績調査「卵巣癌」	武田薬品工業（株）	福田　雅史	産婦人科

区分	研究課題名	依頼者（試験母体）	責任医師	責任医師等診療科
製造販売後調査（文書同意あり）	自家培養表皮ジェイスの先天性巨大色素性母斑に対する使用成績調査	（株）ジャパン・ティッシュエンジニアリング	藤岡　正樹	形成外科
製造販売後調査（文書同意あり）	サブリル散分包500mg使用成績調査（点頭てんかん）	アルフレッサファーマ（株）	本田　涼子	小児科
製造販売後調査（文書同意あり）	タリージェ錠　特定使用成績調査－末梢性神経障害性疼痛患者における有効性の検討－（TLG017-041）	第一三共（株）	宮本　俊之	整形外科
製造販売後調査（文書同意あり）	イラリス皮下注用150mg、イラリス皮下注射液150mg　特定使用成績調査　全身型若年性特発性関節炎	ノバルティスファーマ（株）	安　　忠輝	小児科
製造販売後調査（文書同意あり）	ノクサフィル錠100mg及びノクサフィル点滴静注300mg特定使用成績調査：低体重かつ高年齢の患者における安全性の確認	MSD（株）	吉田真一郎	血液内科
製造販売後調査（文書同意あり）	ハイヤスタ錠10mg　再発または難治性の成人T細胞白血病リンパ腫（ATL）患者における一般使用成績調査（全例調査）	Meiji Seika ファルマ（株）	吉田真一郎	血液内科
製造販売後調査（文書同意あり）	ハイヤスタ錠10mg再発又は難治性の末梢性T細胞リンパ腫（PTCL）患者における一般使用成績調査（全例調査）	Meiji Seika ファルマ（株）	吉田真一郎	血液内科
製造販売後調査（文書同意あり）	エザルミア錠一般使用成績調査	第一三共（株）	吉田真一郎	血液内科
製造販売後調査（文書同意なし）	閉頭に用いる薄型チタンプレートシステムの有効性及び安全性調査	（株）ベアーメディック	案田　岳夫	脳神経外科
製造販売後調査（文書同意なし）	製品の性能調査及び薄型チタンプレート使用による整容的効果	サンエー精工（株）	案田　岳夫	脳神経外科
製造販売後調査（文書同意なし）	オンデキサ静注用200mg　一般使用成績調査	アストラゼネカ（株）	案田　岳夫	脳神経外科
製造販売後調査（文書同意なし）	ヤーボイ®点滴静注液特定使用成績調査 －切除不能な進行・再発の悪性胸膜中皮腫に対するオプジーボとの併用療法－	ブリストル・マイヤーズ　スクイブ（株）	池田　喬哉	呼吸器内科
製造販売後調査（文書同意なし）	日本におけるがん化学療法後に増悪したKRAS G12C変異陽性の切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌患者を対象としたルマケラスの特定使用成績調査（全例調査）	アムジェン（株）	池田　喬哉	呼吸器内科
製造販売後調査（文書同意なし）	イジュド点滴静注25mg　イミフィンジ点滴静注120mg・500mg　切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）	アストラゼネカ（株）	池田　喬哉	呼吸器内科
製造販売後調査（文書同意なし）	イミフィンジ点滴静注120mg・500mg副作用・感染症詳細調査	アストラゼネカ（株）	池田　喬哉	呼吸器内科
製造販売後調査（文書同意なし）	オンパットロ点滴静注２mg/mL　特定使用成績調査（全例調査）	Alnylam Japan（株）	和泉　泰衛	総合診療科
製造販売後調査（文書同意なし）	アムヴトラ®皮下注25mgシリンジ　特定使用成績調査（全例調査）	Alnylam Japan（株）	和泉　泰衛	総合診療科
製造販売後調査（文書同意なし）	ラパリムス錠1㎎（難治性リンパ管疾患）一般使用成績調査（全例調査）	ノーベルファーマ（株）	出光茉莉江	形成外科
製造販売後調査（文書同意なし）	タズベリク錠200mg　特定使用成績調査 －再発又は難治性のEZH2遺伝子変異陽性の濾胞性リンパ腫患者（標準的な治療が困難な場合に限る）における安全性に関する調査（全例調査）－	エーザイ（株）	今泉　芳孝	血液内科
製造販売後調査（文書同意なし）	ベンリスタ点滴静注用　ベンリスタ皮下注　特定使用成績調査（全例調査）	グラクソ・スミスクライン（株）	岩永　　希	膠原病・リウマチ科
製造販売後調査（文書同意なし）	サフネロー点滴静注300mg特定使用成績調査　全身性エリテマトーデス患者を対象とした全例調査	アストラゼネカ（株）	岩永　　希	膠原病・リウマチ科
製造販売後調査（文書同意なし）	ヒュミラ®皮下注 副作用詳細調査	アッヴィ合同会社	岩永　　希	膠原病・リウマチ科
製造販売後調査（文書同意なし）	コパキソン皮下注シリンジ　特定使用成績調査（全例調査）「多発性硬化症の再発予防」	武田薬品工業（株）	岩永　　洋	脳神経内科
製造販売後調査（文書同意なし）	リューブリンSR注射用キット　11.25mg　特定使用成績調査「全例調査：球脊髄性筋萎縮症（SBMA）」	武田薬品工業（株）	岩永　　洋	脳神経内科
製造販売後調査（文書同意なし）	ソリリス点滴静注300mg全身型重症筋無力症に関する特定使用成績調査	アレクシオンファーマ合同会社	岩永　　洋	脳神経内科
製造販売後調査（文書同意なし）	オンパットロ点滴静注２mg/mL　特定使用成績調査（全例調査）	Alnylam Japan（株）	岩永　　洋	脳神経内科

区分	研究課題名	依頼者（試験母体）	責任医師	責任医師等診療科
製造販売後調査（文書同意なし）	エンスプリング皮下注　一般使用成績調査（全例調査）－視神経脊髄炎スペクトラム障害（視神経脊髄炎を含む）の再発予防－	中外製薬（株）	岩永　洋	脳神経内科
製造販売後調査（文書同意なし）	アムヴトラ®皮下注25mgシリンジ　特定使用成績調査（全例調査）	Alnylam Japan（株）	岩永　洋	脳神経内科
製造販売後調査（文書同意なし）	パドセブ点滴静注　副作用・感染症詳細調査	アステラス製薬（株）	大仁田　亨	泌尿器科
製造販売後調査（文書同意なし）	サムスカ一般使用成績調査（SIADHにおける低ナトリウム血症）	大塚製薬（株）	岡　哲	腎臓内科
製造販売後調査（文書同意なし）	オンパットロ点滴静注２mg/mL　特定使用成績調査（全例調査）	Alnylam Japan（株）	於久　幸治	循環器内科
製造販売後調査（文書同意なし）	アムヴトラ®皮下注25mgシリンジ　特定使用成績調査（全例調査）	Alnylam Japan（株）	於久　幸治	循環器内科
製造販売後調査（文書同意なし）	ビムパット点滴静注　一般使用成績調査	第一三共（株）	小野　智憲	脳神経外科
製造販売後調査（文書同意なし）	ビムパット点滴静注　一般使用成績調査　－強直間代発作に対する調査－	第一三共（株）	小野　智憲	脳神経外科
製造販売後調査（文書同意なし）	エドルミズ特定使用成績調査〔がん悪液質：非小細胞肺癌、胃癌、膵癌、大腸癌〕＿肝臓内科	小野薬品工業（株）	佐伯　哲	肝臓内科
製造販売後調査（文書同意なし）	イミフィンジ点滴静注120mg・500mg 治癒切除不能な胆道癌患者を対象とした特定使用成績調査	アストラゼネカ（株）	佐伯　哲	肝臓内科
製造販売後調査（文書同意なし）	イブリーフ静注20mg　一般使用成績調査	千寿製薬（株）	末永　英世	小児科
製造販売後調査（文書同意なし）	エドルミズ特定使用成績調査〔がん悪液質：非小細胞肺癌、胃癌、膵癌、大腸癌〕	小野薬品工業（株）	竹下　浩明	外科
製造販売後調査（文書同意なし）	スキリージ点滴静注600mg　副作用詳細調査	アッヴィ合同会社	中島悠史郎	消化管内科
製造販売後調査（文書同意なし）	献血ヴェノグロブリンIH静注　一般使用成績調査（抗ドナー抗体陽性腎移植における術前脱感作）	一般社団法人日本血液製剤機構	錦戸　雅春	泌尿器科
製造販売後調査（文書同意なし）	エンハーツ点滴静注用100mg　特定使用成績調査-胃癌患者を対象とした間質性肺疾患の検討-	第一三共（株）	西山　仁	消化管内科
製造販売後調査（文書同意なし）	ジクトルテープ一般使用成績調査	久光製薬（株）	濵脇　正好	緩和ケア科
製造販売後調査（文書同意なし）	ブコラム口腔用液　特定使用成績調査	武田薬品工業（株）	本田　涼子	小児科
製造販売後調査（文書同意なし）	エンハーツ点滴静注用100mg　特定使用成績調査－乳癌患者を対象とした間質性肺疾患の検討－（ENH019-061）	第一三共（株）	南　恵樹	乳腺・内分泌外科
製造販売後調査（文書同意なし）	JMSマイクロカテーテル【販売名：ナデシコ】症例報告	（株）ジェイ・エム・エス	宮崎　敦史	放射線科
製造販売後調査（文書同意なし）	スピンラザ髄注12mg　使用成績調査	バイオジェン・ジャパン（株）	安　忠輝	小児科
製造販売後調査（文書同意なし）	C型非代償性肝硬変患者におけるエプクルーサ配合錠の長期有効性（生存状況及び肝細胞癌の発症）を評価することが目的の特定使用成績調査	ギリアド・サイエンシズ（株）	八橋　弘	肝臓内科
製造販売後調査（文書同意なし）	ベルケイド注射用　３mg　マントル細胞リンパ腫患者を対象とした使用成績調査	ヤンセンファーマ（株）	吉田真一郎	血液内科
製造販売後調査（文書同意なし）	リツキシマブBS点滴静注100mg 「KHK」，500mg「KHK」特定使用成績調査	協和キリン（株）	吉田真一郎	血液内科
製造販売後調査（文書同意なし）	デファイテリオ静注200mg 一般使用成績調査	日本新薬（株）	吉田真一郎	血液内科
製造販売後調査（文書同意なし）	ガザイバ点滴静注1000mg　特定使用成績調査　CD20陽性濾胞性リンパ腫（GAZ180IN）	日本新薬（株）	吉田真一郎	血液内科
製造販売後調査（文書同意なし）	ノクサフィル錠100mg及びノクサフィル点滴静注300mg特定使用成績調査：希少真菌感染症患者における有効性の確認	MSD（株）	吉田真一郎	血液内科
製造販売後調査（文書同意なし）	ベネクレクスタ錠　特定使用成績調査　－急性骨髄性白血病を対象とした全例調査－	アッヴィ合同会社	吉田真一郎	血液内科
製造販売後調査（文書同意なし）	カルケンスカプセル100mg　一般使用成績調査	アストラゼネカ（株）	吉田真一郎	血液内科
製造販売後調査（文書同意なし）	イジュド点滴静注25mg・300mg　イミフィンジ点滴静注120mg・500mg　切除不能な肝細胞癌患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）	アストラゼネカ（株）	長岡　進矢	肝臓内科

区分	研究課題名	依頼者（試験母体）	責任医師	責任医師等診療科
その他	開発品の製剤形態に関する学術相談	小野薬品工業（株）	橋本　未雷	薬剤部
公費臨床試験	中枢神経系再発高リスクの未治療びまん性大細胞型B細胞リンパ腫に対する中枢神経系再発予防を組み入れた治療法のランダム化第Ⅲ相試験（JCOG2201）	JCOGリンパ腫グループ	今泉　芳孝	血液内科
公費臨床試験	中等度障害の心停止後症候群に対する低体温療法と常温療法の30日神経学的予後に関する比較：多施設無作為化比較試験	岡山大学病院	中道　親昭	救命救急科
公費臨床試験	HER2陽性の進行再発乳癌に対するペルツズマブ再投与の有用性を検証する第Ⅲ相臨床研究－ペルツズマブ再投与試験－	一般社団法人JBCRG	南　　恵樹	乳腺・内分泌外科
公費臨床試験	JCOGバイオバンクジャパン連携バイオバンク	JCOG乳がんグループ	南　　恵樹	乳腺・内分泌外科
公費臨床試験	エストロゲン受容体陽性・低リスク非浸潤性乳管癌に対する非切除＋内分泌療法の有用性に関する単群検証的試験（JCOG1505）	JCOG乳がんグループ	南　　恵樹	乳腺・内分泌外科
公費臨床試験	高齢者HER2陽性進行乳癌に対するT-DM1療法とペルツズマブ＋トラスツズマブ＋ドセタキセル療法のランダム化比較第Ⅲ相試験（JCOG1607）	JCOG乳がんグループ	南　　恵樹	乳腺・内分泌外科
公費臨床試験	高齢者乳癌における治療法、予後及びQOLに関する多施設共同観察研究	長崎大学病院	南　　恵樹	乳腺・内分泌外科
公費臨床試験	再発高リスク乳癌術後患者の標準的フォローアップとインテンシブフォローアップの比較第Ⅲ相試験（JCOG1204）	JCOG乳がんグループ	南　　恵樹	乳腺・内分泌外科
公費臨床試験	日本人乳癌患者を対象とし仮想的市場評価法を用いて患者が考える「生命」や「健康」に対する金銭的価値を支払い意思額（Willingness to pay：WTP）として検証する前向き観察研究（JCOG1709A）	JCOG乳がんグループ	南　　恵樹	乳腺・内分泌外科
公費臨床試験	薬物療法により臨床的完全奏効が得られたHR陰性HER2陽性原発乳癌に対する非切除療法の有用性に関する単群検証的試験（JCOG1806）	JCOG乳がんグループ	南　　恵樹	乳腺・内分泌外科
公費臨床試験	薬物療法非抵抗性Stage Ⅳ乳癌に対する原発巣切除の意義（原発巣切除なしversusあり）に関するランダム化比較試験（JCOG1017）	JCOG乳がんグループ	南　　恵樹	乳腺・内分泌外科
公費臨床試験	オリゴ転移を有する進行乳癌に対する根治的局所療法追加の意義を検証するランダム化比較試験（OLIGAMI）（JCOG2110）	JCOG乳がんグループ	南　　恵樹	乳腺・内分泌外科
公費臨床試験	高齢者急性骨髄性白血病（AML）の層別化により化学療法が可能な症例に対して若年成人標準化学療法の近似用量を用いる第Ⅱ相臨床試験（JALSG GML219）	Japan Adult Leukemia Study Group（JALSG）	吉田真一郎	血液内科
公費臨床試験	初発BCR-ABL1陽性急性リンパ性白血病（Ph＋ALL）を対象としたダサチニブ、ポナチニブ併用化学療法および造血幹細胞移植の臨床第Ⅱ相試験（JALSG PhALL219）	Japan Adult Leukemia Study Group（JALSG）	吉田真一郎	血液内科
公費臨床試験	再発または難治性のFLT3 遺伝子変異陽性急性骨髄性白血病患者を対象とする MEC（ミトキサントロン/エトポシド/シタラビン）とギルテリチニブの逐次療法の非盲検、多施設共同、前向き介入試験（JALSG-RR-FLT3-AML220）	Japan Adult Leukemia Study Group（JALSG）	吉田真一郎	血液内科
公費臨床試験	t（8；21）およびinv（16）陽性AYA・若年成人急性骨髄性白血病に対する微小残存病変を指標とするゲムツズマブ・オゾガマイシン治療介入の有効性と安全性に関する臨床第Ⅱ相試験（JALSG-CBF-AML220）	Japan Adult Leukemia Study Group（JALSG）	吉田真一郎	血液内科
公費臨床試験	本邦の初発APLに対するATRA＋ATO療法の多施設共同第Ⅱ相試験（JALSG APL220 Study）	Japan Adult Leukemia Study Group（JALSG）	吉田真一郎	血液内科
公費臨床試験	高齢者急性骨髄性白血病における遺伝子異常と予後の関連に関する研究（JALSG GML219-Molecular）	Japan Adult Leukemia Study Group（JALSG）	吉田真一郎	血液内科
公費臨床試験	小児・AYA・成人に発症したB前駆細胞性急性リンパ性白血病に対する多剤併用化学療法の多施設共同第Ⅲ相臨床試験（JPLSG ALL-B19）	Japan Adult Leukemia Study Group（JALSG）	吉田真一郎	血液内科
公費臨床試験	小児・AYA・成人に発症したT前駆細胞性急性リンパ性白血病に対する多剤併用化学療法の多施設共同第Ⅲ相臨床試験（JPLSG ALL-T19）	Japan Adult Leukemia Study Group（JALSG）	吉田真一郎	血液内科
公費臨床試験	未治療低腫瘍量進行期濾胞性リンパ腫対するリツキシマブ療法早期介入に関するランダム化比較第Ⅲ相試験 ver1.0（JCOG1411）	JCOGリンパ腫グループ	吉田真一郎	血液内科

区分	研究課題名	依頼者（試験母体）	責任医師	責任医師等診療科
公費臨床試験	高齢者または移植拒否若年者の未治療多発性骨髄腫患者に対するダラツムマブ＋メルファラン＋プレドニゾロン＋ボルテゾミブ（D-MPB）導入療法後のダラツムマブ単独療法とダラツムマブ＋ボルテゾミブ併用維持療法のランダム化第Ⅲ相試験（JCOG1911）	JCOGリンパ腫グループ	吉田真一郎	血液内科
公費臨床試験	多発性骨髄腫に対するダラツムマブ併用化学療法における効果予測因子および抵抗性機序に関する探索的研究（JCOG1911A1）	JCOGリンパ腫グループ	吉田真一郎	血液内科
公費臨床試験	未治療高腫瘍量濾胞性リンパ腫に対するオビヌツズマブ＋ベンダムスチン療法後のオビヌツズマブ維持療法の省略に関するランダム化第Ⅲ相試験（JCOG2008）	JCOGリンパ腫グループ	吉田真一郎	血液内科
公費臨床試験	JCOGバイオバンクプロジェクト	JCOGリンパ腫グループ	吉田真一郎	血液内科
公費臨床試験	移植非適応初発多発性骨髄腫患者に対するレナリドミドーデキサメタゾン（Rd）療法に効果不十分の症例に対しボルテゾミブを追加するレスポンスガイドセラピーの有用性と安全性（W-JHS MM01）	西日本血液臨床研究グループ（W-JHS）	吉田真一郎	血液内科
公費臨床試験	日本における初発ホジキンリンパ腫に対するA AVD療法の成績（W-JHS HL01）	西日本血液臨床研究グループ（W-JHS）	吉田真一郎	血液内科
公費臨床試験	アグレッシブATLの予後に影響する因子について検討する多施設共同前向き観察研究	福田隆浩（国立がん研究センター中央病院）	吉田真一郎	血液内科
公費臨床試験	成人T細胞白血病・リンパ腫に対する同種造血幹細胞移植療法を組み込んだ治療法に関する非ランダム化検証的試験（JCOG0907）	JCOGリンパ腫グループ	吉田真一郎	血液内科
公費臨床試験	高リスクDLBCLに対する導入化学療法（bi-R-CHOP療法またはbi-R-CHOP/CHASER療法）と大量化学療法（LEED）の有用性に関するランダム化第Ⅱ相試験（JCOG0908）	JCOGリンパ腫グループ	吉田真一郎	血液内科
公費臨床試験	Interim PETに基づく初発進行期ホジキンリンパ腫に対するABVD療法およびABVD/増量BEACOPP療法の非ランダム化検証的試験（JCOG1305）	JCOGリンパ腫グループ	吉田真一郎	血液内科
公費臨床試験	成人T細胞白血病/リンパ腫の治癒を目指したHTLV-1ウイルス標的樹状細胞ワクチン療法の確立：薬事承認を目的とした第Ⅱ相医師主導治験	革新的がん医療実用化研究事業	吉田真一郎	血液内科
公費臨床試験	MAGE A4陽性かつHLA-A*02：01陽性の切除不能進行・再発を有する固形がん患者を対象にMU-MA402Cの安全性及び忍容性を検討することを目的とした多施設共同第Ⅰ相試験付随臨床研究１　腫瘍組織検体を用いた腫瘍抗原発現及びHLAの解析	三重大学大学院医学系研究科	米田　　晃	外科

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

COVID-19

統括診療部長　本村 秀樹

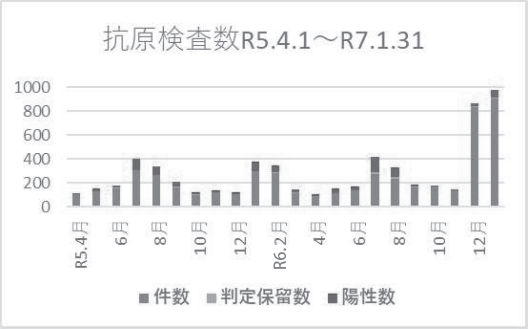
新型コロナ抗原検査、PCR検査の運用の状況

抗原検査件数の推移（R5.4.1 ～ R7.1.31）

	R5.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R6.1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R7.1月
件数	111	129	157	304	266	166	100	123	104	298	283	116	90	112	137	276	238	164	173	141	838	909
判定保留数	0	1	3	6	4	6	5	1	1	5	8	5	4	7	3	15	13	8	2	0	2	7
陽性数	2	24	21	91	70	36	15	15	21	75	58	28	13	33	29	125	81	16	8	7	25	63
判定保留率	0.0%	0.8%	1.9%	2.0%	1.5%	3.6%	5.0%	0.8%	1.0%	1.7%	2.8%	4.3%	4.4%	6.3%	2.2%	5.4%	5.5%	4.9%	1.2%	0.0%	0.2%	0.8%
陽性率	1.8%	18.6%	13.4%	29.9%	26.3%	21.7%	15.0%	12.2%	20.2%	25.2%	20.5%	24.1%	14.4%	29.5%	21.2%	45.3%	34.0%	9.8%	4.6%	5.0%	3.0%	6.9%

PCR検査件数の推移（R5.4.1 ～ R7.1.31）　※2024年12月５日（木）より遺伝子検査機器（ID-NOW）一時中止

	R5.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R6.1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R7.1月
件数	502	544	539	769	716	586	584	561	719	747	616	644	527	592	624	866	714	514	463	483	131	28
陽性数	9	19	28	113	107	70	28	20	29	85	58	46	21	39	49	150	88	29	13	12	4	0
陽性率	1.8%	3.5%	5.2%	14.7%	14.9%	11.9%	4.8%	3.6%	4.0%	11.4%	9.4%	7.1%	4.0%	6.6%	7.9%	17.3%	12.3%	5.6%	2.8%	2.5%	3.1%	0.0%





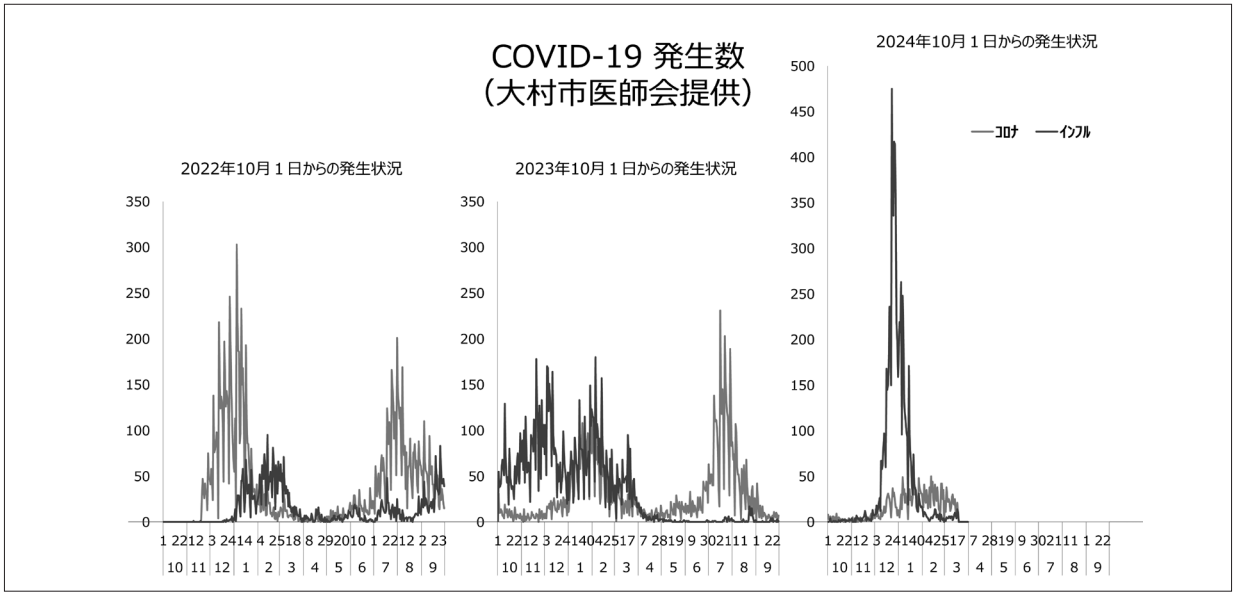
抗原検査・PCR件数（目的別）2023年４月～ 2025年１月31日

		R5.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R6.1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R7.1月
抗原	臨床提出分	63	116	156	300	259	165	94	123	104	298	281	116	89	112	137	276	238	164	173	141	838	909
	職員チェック	111	8	0	1	3	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	付添者・立会者・刑務官他	40	4	1	3	4	0	1	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
PCR	臨床提出分	502	544	539	769	716	586	584	561	719	747	616	644	527	592	624	866	714	514	463	483	131	28
	入院時SCR	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

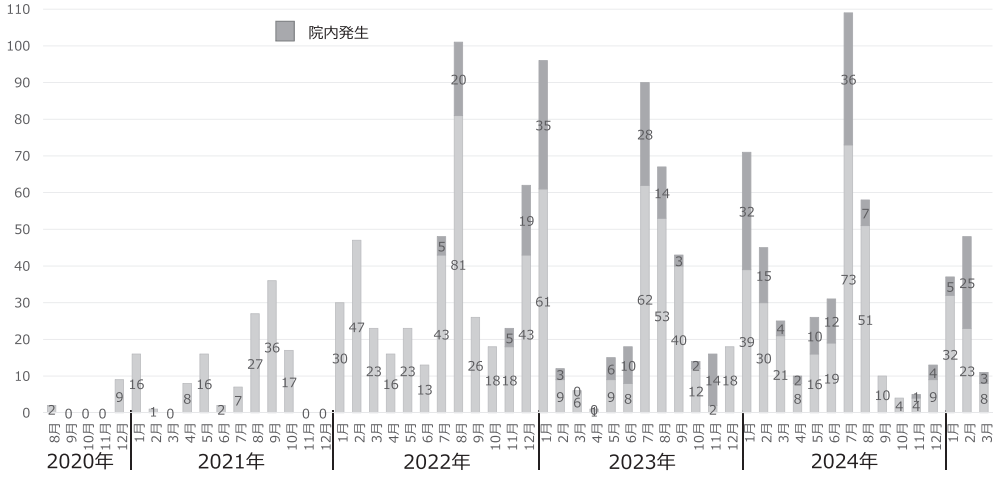
※2024年12月５日（木）より遺伝子検査機器（ID-NOW）一時中止

抗原検査・PCR件数（検査方法別）2020年６月～ 2025年１月31日

抗原検査				PCR				
ルミパルス（抗原定量）	エスプライン	クイックナビ	クイックナビFlu＋COVID19	ミュータス	フィルムアレイ	ID-NOW	TRCR	Light・Cycler
36,545	83	36	879	907	616	25,966	512	87



新入院患者数の推移（院内発生を含む）



COVID-19　診療体制（2024年）

・**入院病棟**：7B病棟，3A病棟(重症)，4B病棟(産科的管理を要する)

＊緊急入院患者の全例スクリーニング検査を継続

・**院内発生**：陽性者は原則同病棟内で隔離

＊同室者の検査を実施，陰性でも5日目までは陽転リスク有りとして経過観察

・**陽性者の隔離期間**：発症日を0日として10日目まで，院内では10日目で隔離解除とする

＊隔離解除にあたってウイルス検査は実施しない　（症状，基礎疾患等に応じて検討）

・**職員の休業期間**：発症日を0日として6日目より就業可，10日目までは感染対策を徹底

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center
医療情報統計部門

患者数（診療科別）

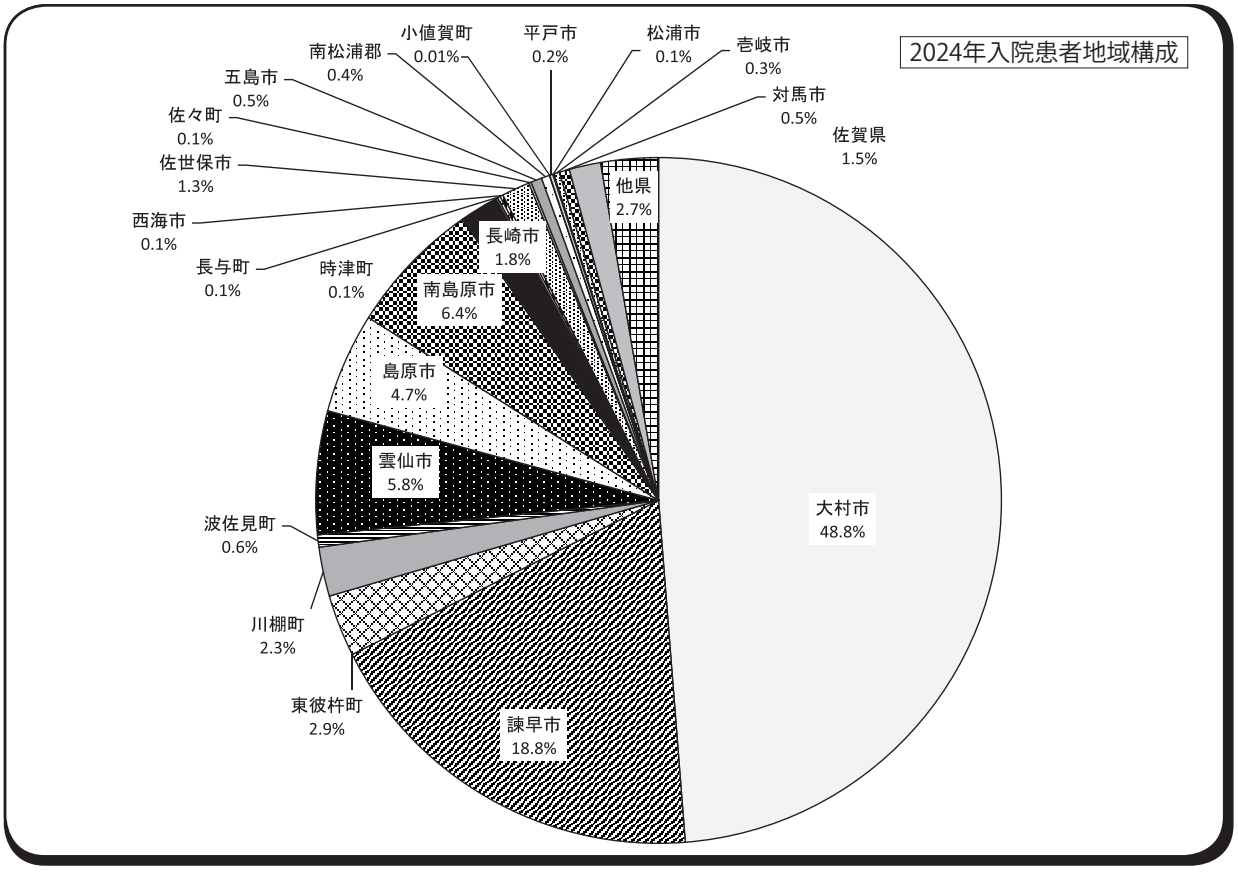
2024年

診療科	入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数	外来患者数		新外来患者数		紹介率		逆紹介率		剖検数	
	延患者数	一日平均		総数	(再掲) 死亡退院		延患者数	一日平均	新患数	新患率	紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
	人	人	人	人	人	日	人	人	人	%	件	%	件	%	件	%
内科	19,528	53.4	2,006	1,191	70	12.2	6,974	28.6	2,390	34.3	856	94.2	1,498	104.2	2	2.9%
血液内科	11,729	32.0	551	600	37	20.4	7,269	29.8	149	2.0	122	85.2	323	216.8	0	0.0%
腎臓内科	4,651	12.7	308	357	11	14.0	5,453	22.3	124	2.3	112	94.4	679	547.6	1	9.1%
内分泌・代謝内科	1,562	4.3	126	153	3	11.2	6,552	26.9	189	2.9	146	79.3	481	255.9	0	0.0%
消化器内科	7,828	21.4	996	1,102	15	7.5	6,289	25.8	317	5.0	277	92.4	863	273.1	1	6.7%
肝臓内科	10,120	27.7	720	862	28	12.8	11,236	46.0	481	4.3	418	90.4	677	140.7	1	3.6%
呼吸器内科	12,372	33.8	719	894	56	15.3	9,018	37.0	371	4.1	265	77.3	527	142.4	0	0.0%
循環器内科	6,535	17.9	705	777	12	8.8	8,807	36.1	484	5.5	368	88.2	826	170.7	0	0.0%
脳神経内科	8,796	24.0	407	440	19	20.8	4,971	20.4	388	7.8	236	90.9	498	129.7	1	5.3%
精神科	986	2.7	20	47	0	29.4	1,944	8.0	22	1.1	12	59.1	417	0.0	0	0.0%
小児科	10,560	28.9	1,174	1,175	1	9.0	13,807	56.6	1,986	14.4	649	94.3	1,405	140.6	0	0.0%
再）新生児科	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0%
外科	10,486	28.7	748	816	14	13.4	3,417	14.0	292	8.5	200	82.9	933	325.1	0	0.0%
乳腺内分泌外科	1,850	5.1	297	300	3	6.2	5,563	22.8	244	4.4	230	94.7	399	163.5	0	0.0%
呼吸器外科	1,281	3.5	109	123	0	11.0	957	3.9	39	4.1	20	55.3	83	218.4	0	0.0%
心臓血管外科	1,629	4.5	116	116	1	14.0	1,442	5.9	131	9.1	113	94.7	175	133.6	0	0.0%
整形外科	8,369	22.9	574		2	14.8	4,414	18.1	688	15.6	319	89.0	609	124.5	0	0.0%
形成外科	4,880	13.3	444	447	8	11.0	4,625	19.0	813	17.6	443	93.7	356	68.5	0	0.0%
脳神経外科	13,335	36.4	524	507	22	25.9	4,299	17.6	610	14.2	267	94.6	495	122.5	0	0.0%
皮膚科	830	2.3	144	150	1	5.6	6,433	26.4	445	6.9	284	73.6	224	57.9	0	0.0%
泌尿器科	4,757	13.0	640	656	4	7.3	10,627	43.6	417	3.9	323	88.3	417	108.3	0	0.0%
産婦人科	11,156	30.5	1,264	1,256	8	8.9	16,653	68.3	727	4.4	658	95.5	851	119.9	2	25.0%
眼科	1,056	2.9	492	491	0	2.1	7,109	29.1	628	8.8	545	93.8	1,814	310.6	0	0.0%
耳鼻咽喉科	6,592	18.0	571	574	4	11.5	8,662	35.5	753	8.7	602	88.5	585	85.2	0	0.0%
リハビリテーション科	0	0.0	0	0	0	0.0	2	0.0	0	0.0	0	0.0	124	0.0	0	0.0%
放射線科	92	0.3	7	8	0	12.3	4,981	20.4	1,073	21.5	1,050	97.9	1,266	118.0	0	0.0%
麻酔科	0	0.0	0	0	0	0.0	145	0.6	2	1.4	0	0.0	9	0.0	0	0.0%
リウマチ科	1,967	5.4	64	91	0	25.4	4,113	16.9	81	2.0	62	79.0	240	296.3	0	0.0%
救急科	616	1.7	163	130	7	4.2	1,139	4.7	973	85.4	77	36.1	319	62.3	2	28.6%
小児外科	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0%
腫瘍内科	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0%
感染症内科	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0%
緩和ケア科	0	0.0	0	0	0	0.0	131	0.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0%
合計	163,563	446.9	13,889	13,263	326	11.8	167,032	684.6	14,817	8.9	8,654	88.5	17,093	148.8	10	3.1%

地域別新入院患者数

2024年（単位：人）

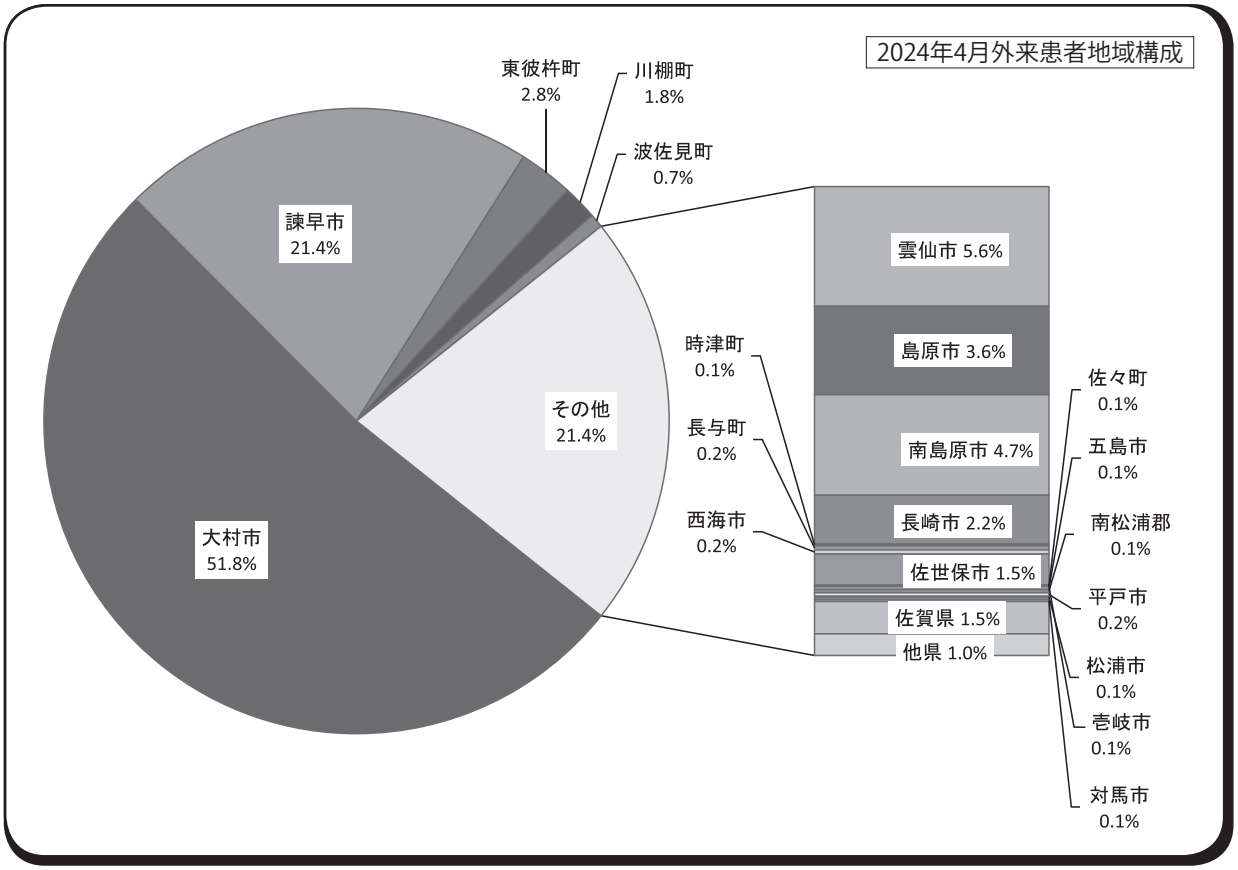
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計		
県央	大村市	567	510	543	560	514	568	654	601	549	547	528	631	6,772	48.8%	
	諫早市	236	210	198	227	206	209	256	217	220	221	189	226	2,615	18.8%	
	東彼杵町	29	31	40	36	46	33	35	29	25	38	23	40	405	2.9%	10,194
	川棚町	34	22	30	20	21	30	21	31	28	31	22	32	322	2.3%	
	波佐見町	8	4	6	10	10	8	4	6	6	7	6	5	80	0.6%	
県南	雲仙市	66	68	66	63	71	69	69	57	62	75	57	85	808	5.8%	
	島原市	51	37	45	47	56	60	62	70	57	62	61	50	658	4.7%	2,348
	南島原市	73	58	75	79	70	72	90	80	84	73	74	54	882	6.4%	
長崎	長崎市	30	19	20	16	23	15	26	20	21	21	22	20	253	1.8%	
	時津町	1	1	2	0	2	1	1	1	2	0	2	1	14	0.1%	305
	長与町	4	1	2	2	1	0	1	2	2	0	1	2	18	0.1%	
	西海市	2	1	3	2	1	0	0	4	5	1	0	1	20	0.1%	
佐世保	佐世保市	15	20	14	16	10	10	19	19	15	11	17	18	184	1.3%	200
	佐々町	2	0	3	1	2	0	2	1	1	2	0	2	16	0.1%	
五島・上五島	五島市	9	5	10	9	6	5	6	4	6	5	4	3	72	0.5%	
	南松浦郡	7	2	3	2	5	2	5	7	7	5	5	4	54	0.4%	128
	小値賀町	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2	0.01%	
県北	平戸市	0	6	0	2	3	2	1	1	0	1	2	3	21	0.2%	28
	松浦市	0	1	0	1	1	1	0	1	0	1	0	1	7	0.1%	
壱岐・対馬	壱岐市	3	4	3	2	5	4	3	6	2	1	0	4	37	0.3%	104
	対馬市	7	4	2	4	4	5	10	6	5	5	5	10	67	0.5%	
他県	佐賀県	21	16	19	25	14	19	16	13	17	17	12	17	206	1.5%	582
	他県	24	17	29	33	28	32	40	32	34	37	33	37	376	2.7%	
合計		1,189	1,037	1,113	1,157	1,099	1,145	1,322	1,208	1,149	1,161	1,063	1,246	13,889		



地域別外来患者数

		人口（推計）	2023年４月			2024年４月		
		2024.12現在	延患者数（人）	一日平均（人）	構成比率	延患者数（人）	一日平均（人）	構成比率
県央	大村市	97,749人	7,157	357.9	52.1%	7,299	347.6	51.8%
	諫早市	131,174人	2,849	142.5	20.7%	3,021	143.9	21.4%
	東彼杵町	7,293人	324	16.2	2.4%	396	18.9	2.8%
	川棚町	12,571人	241	12.1	1.8%	253	12.0	1.8%
	波佐見町	13,821人	77	3.9	0.6%	101	4.8	0.7%
県南	雲仙市	39,078人	811	40.6	5.9%	770	36.7	5.5%
	島原市	40,902人	563	28.2	4.1%	568	27.0	4.0%
	南島原市	38,438人	635	31.8	4.6%	647	30.8	4.6%
長崎	長崎市	387,829人	340	17.0	2.5%	313	14.9	2.2%
	時津町	28,940人	11	0.6	0.1%	12	0.6	0.1%
	長与町	38,945人	38	1.9	0.3%	26	1.2	0.2%
	西海市	24,185人	29	1.5	0.2%	27	1.3	0.2%
佐世保	佐世保市	230,118人	208	10.4	1.5%	200	9.5	1.4%
	佐々町	13,778人	10	0.5	0.1%	9	0.4	0.1%
五島・上五島	五島市	31,835人	23	1.2	0.2%	19	0.9	0.1%
	南松浦郡	15,705人	13	0.7	0.1%	20	1.0	0.14%
	小値賀	2,057人	2	0.1	0.0%	1	0.0	0.01%
県北	平戸市	26,911人	20	1.0	0.2%	22	1.0	0.2%
	松浦市	19,532人	10	0.5	0.1%	10	0.5	0.1%
壱岐・対馬	壱岐市	22,660人	11	0.6	0.1%	12	0.6	0.09%
	対馬市	25,912人	15	0.8	0.1%	12	0.6	0.1%
他県	佐賀県	-	213	10.7	1.6%	208	9.9	1.5%
	他県	-	136	6.8	1.0%	139	6.6	1.0%
合計		-	13,736	687.5	-	14,085	670.7	-

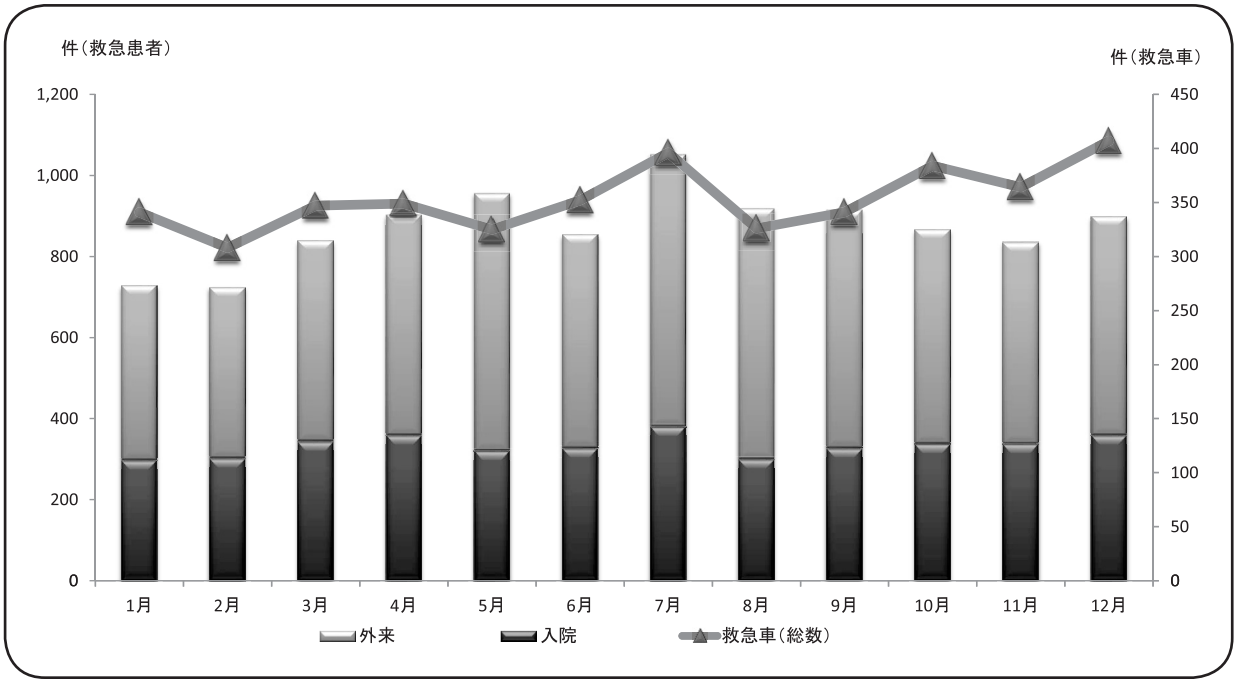
※「人口（推計）」については、長崎県ホームページによる。



救急患者受入状況

2024年

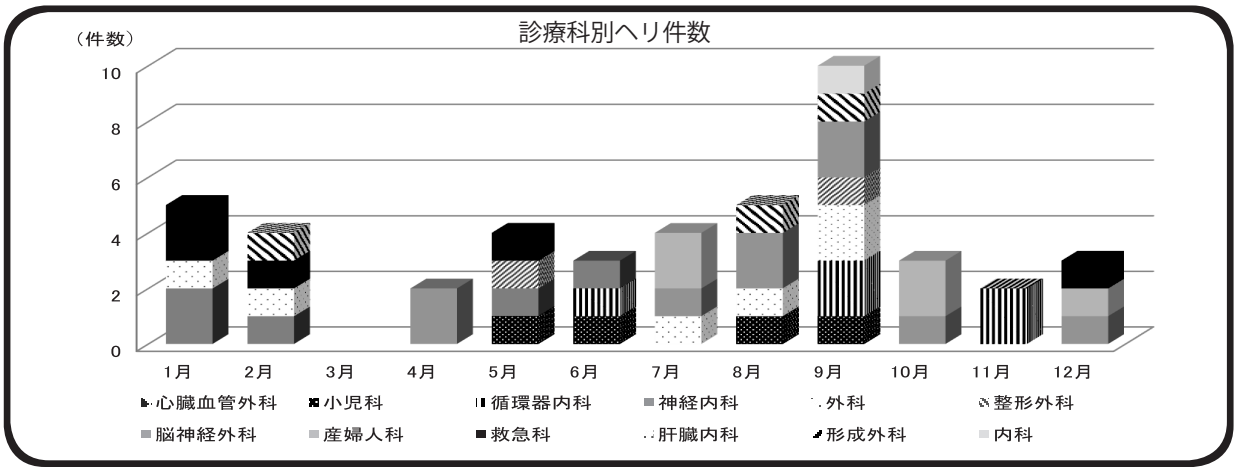
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
救急患者来院件数			677	534	610	844	942	870	1,132	1,101	929	877	872	1,261	10,649
入院	件数		407	327	363	322	348	369	431	443	372	339	344	469	4,534
	比率		60.1%	61.2%	59.5%	38.2%	36.9%	42.4%	38.1%	40.2%	40.0%	38.7%	39.4%	37.2%	42.6%
外来	件数		270	207	247	522	594	501	701	658	557	538	528	792	6,115
	比率		39.9%	38.8%	40.5%	61.8%	63.1%	57.6%	61.9%	59.8%	60.0%	61.3%	60.6%	62.8%	57.4%
受付時間別	入院	時間内	97	93	111	105	101	89	124	122	98	101	93	112	1,246
		時間外	310	234	252	217	247	280	307	321	274	238	251	357	3,288
		(再)深夜	86	42	66	60	59	83	83	71	62	57	66	95	830
	外来	時間内	92	87	99	50	48	60	82	73	47	65	56	77	836
		時間外	178	120	148	472	546	441	619	585	510	473	472	715	5,279
		(再)深夜	50	20	36	122	139	114	178	138	125	109	114	145	1,290
	合計	時間内	189	180	210	155	149	149	206	195	145	166	149	189	2,082
		時間外	488	354	400	689	793	721	926	906	784	711	723	1,072	8,567
		(再)深夜	136	62	102	182	198	197	261	209	187	166	180	240	2,120
救急車搬送件数	入院	時間内	63	54	50	96	90	86	108	109	90	90	85	104	1,025
		時間外	600	498	482	114	118	123	171	170	152	114	132	209	2,883
		(再)深夜	149	127	129	32	31	36	45	42	37	26	38	53	745
		計	663	552	532	210	208	209	279	279	242	204	217	313	3,908
	外来	時間内	55	45	44	49	41	54	70	54	39	62	51	69	633
		時間外	114	106	121	118	79	76	131	116	93	80	92	148	1,274
		(再)深夜	29	29	32	32	24	19	38	30	19	15	26	35	328
		計	169	151	165	167	120	130	201	170	132	142	143	217	1,907
	合計	時間内	118	99	94	145	131	140	178	163	129	152	136	173	1,658
		時間外	714	604	603	232	197	199	302	286	245	194	224	357	4,157
		(再)深夜	178	156	161	64	55	55	83	72	56	41	64	88	1,073
		計	832	703	697	377	328	339	480	449	374	346	360	530	5,815



2024年　ヘリコプター急患搬送実績【自衛隊ヘリ・防災ヘリ】

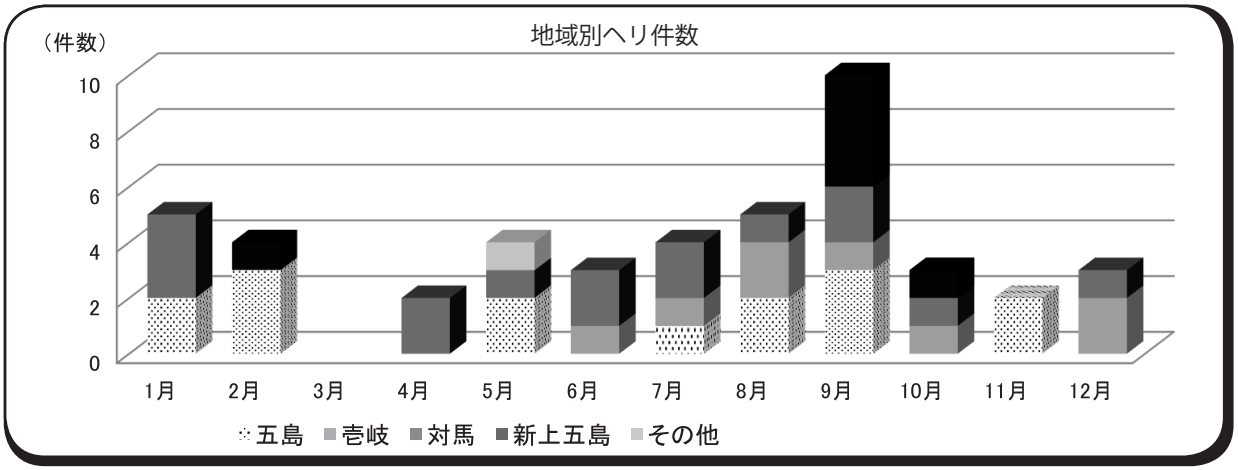
○診療科別

診療科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
心臓血管外科													
小　児　科					1	1		1	1				4
循環器内科						1			2		2		5
神　経　内　科	2	1			1	1							5
外　　科	1	1					1	1	2				6
整　形　外　科					1				1				2
脳神経外科				2			1	2	2	1		1	9
産　婦　人　科							2			2		1	5
救　急　科	2	1			1							1	5
肝　臓　内　科													
形　成　外　科		1						1	1				3
内　　科									1				1
計	5	4		2	4	3	4	5	10	3	2	3	45



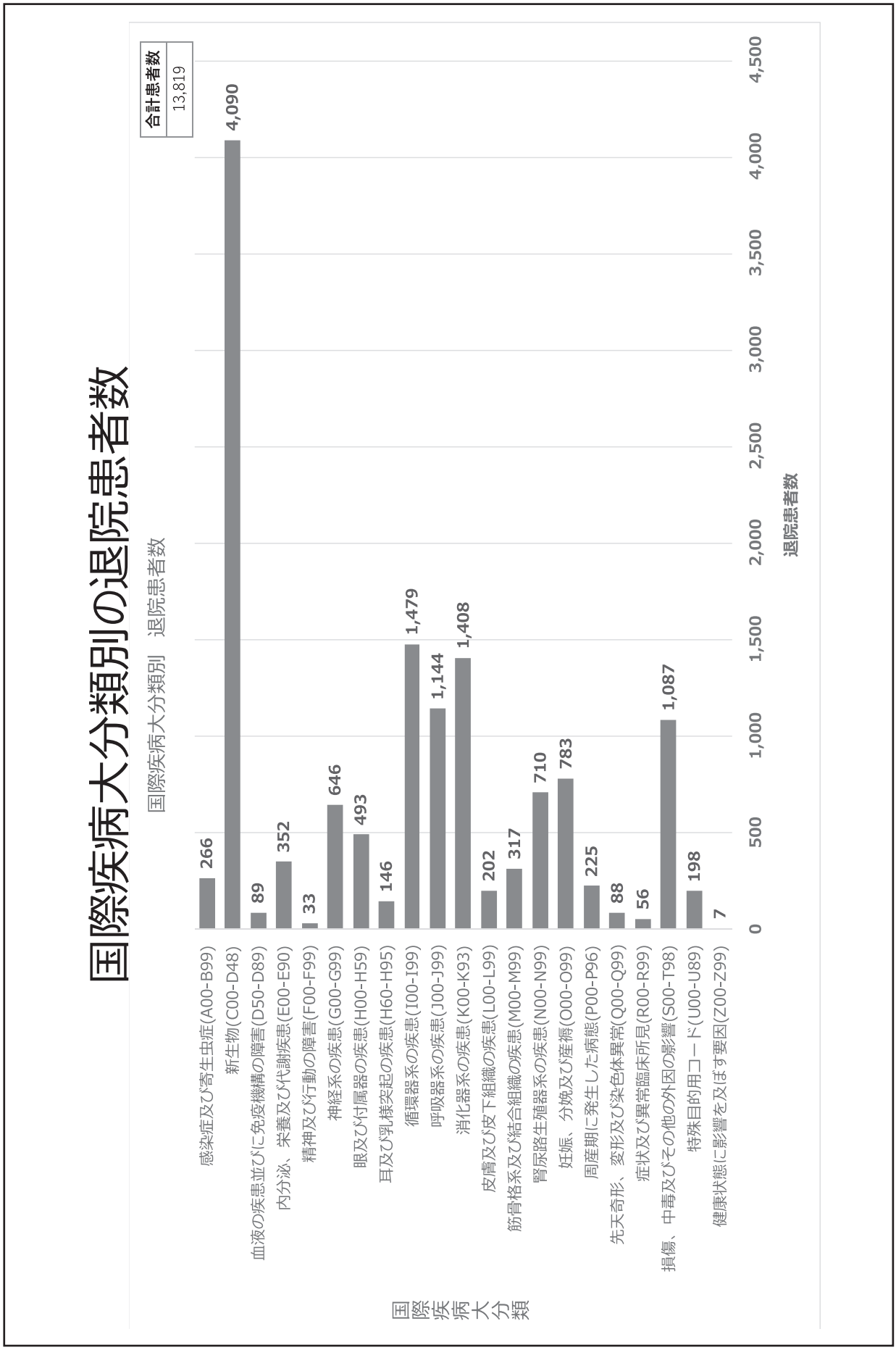
○地域別

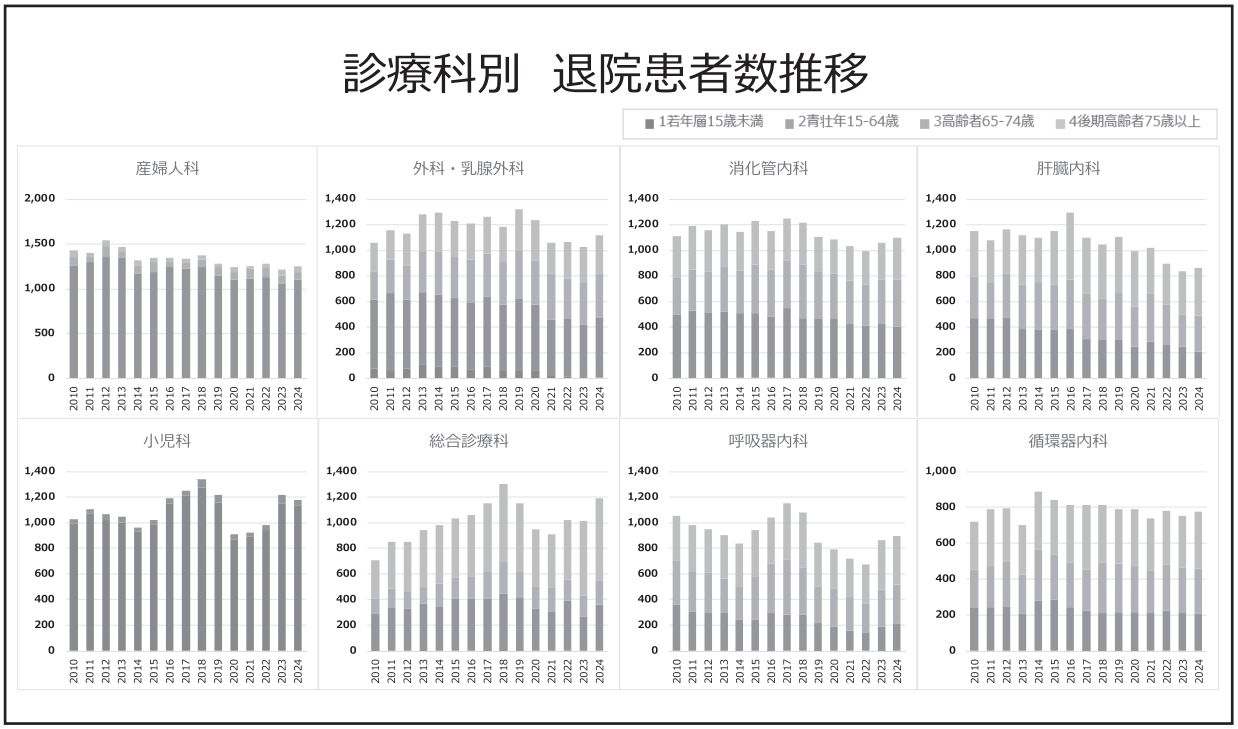
地区	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
五　　島	2	3			2		1	2	3		2		15
壱　　岐						1	1	2	1	1		2	8
対　　馬	3			2	1	2	2	1	2	1		1	15
新　上　五　島		1							4	1			6
そ　の　他					1								1
計	5	4		2	4	3	4	5	10	3	2	3	45

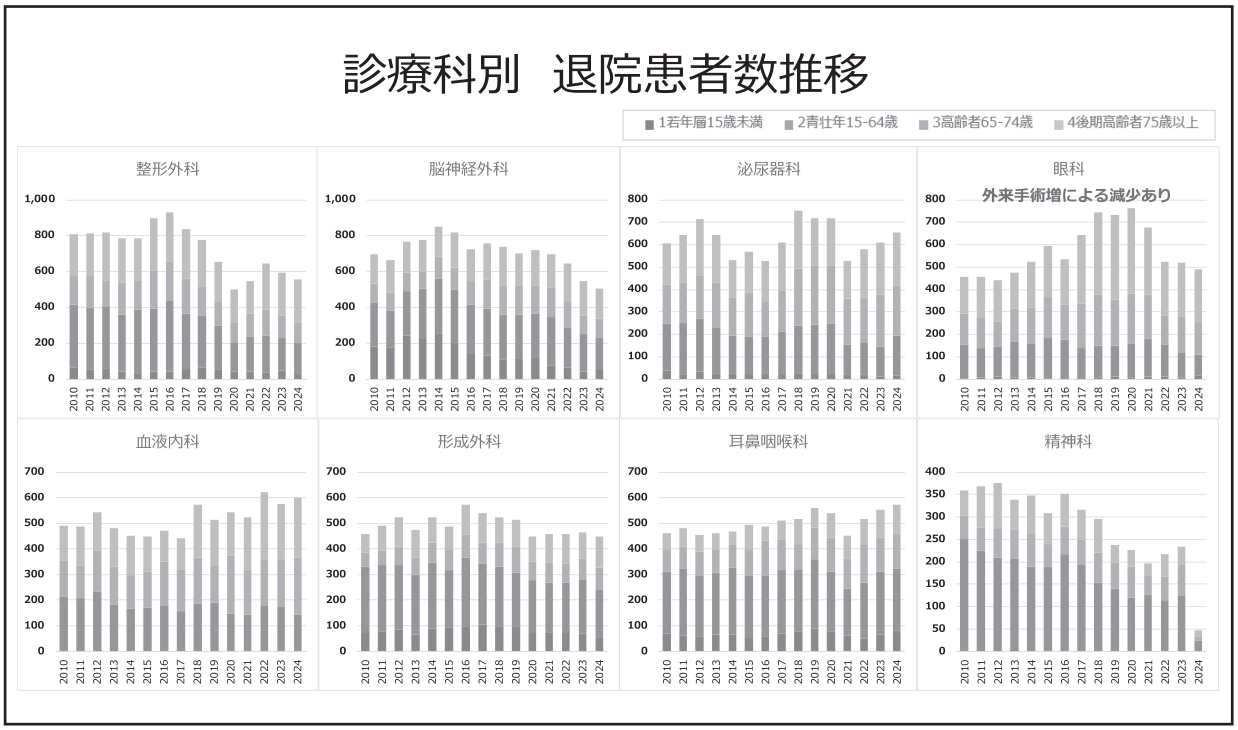


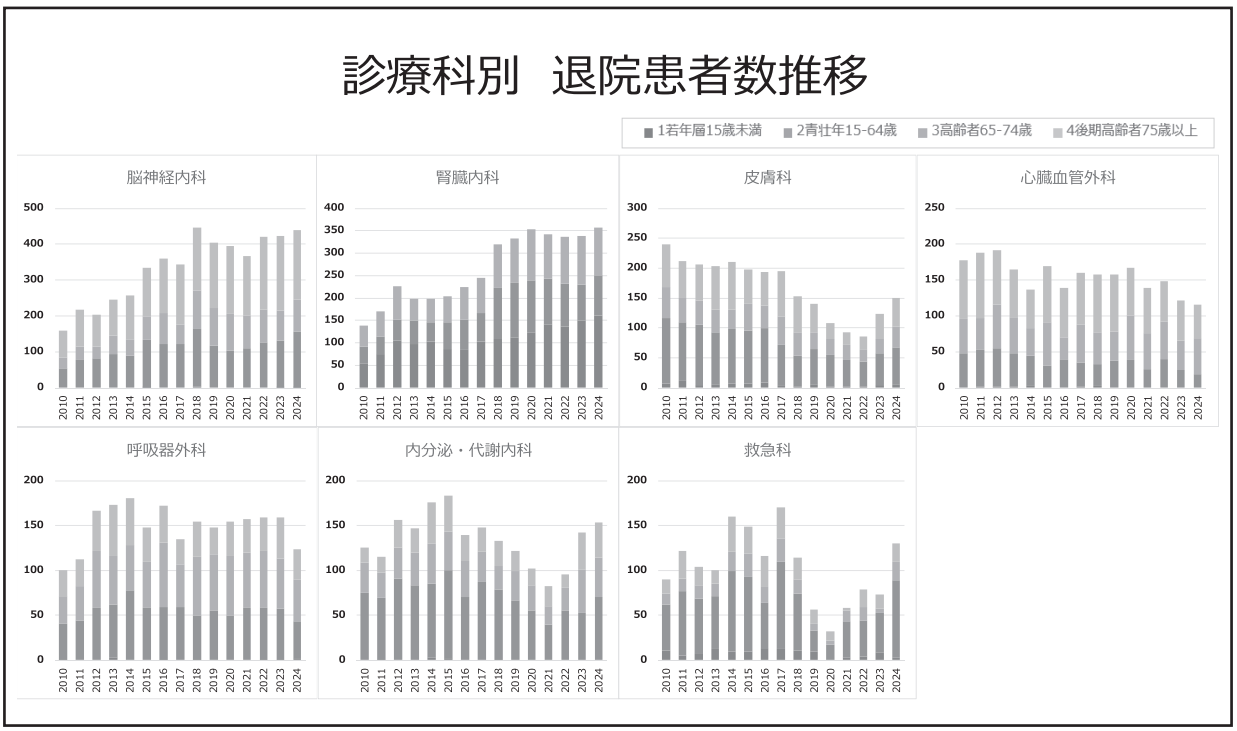


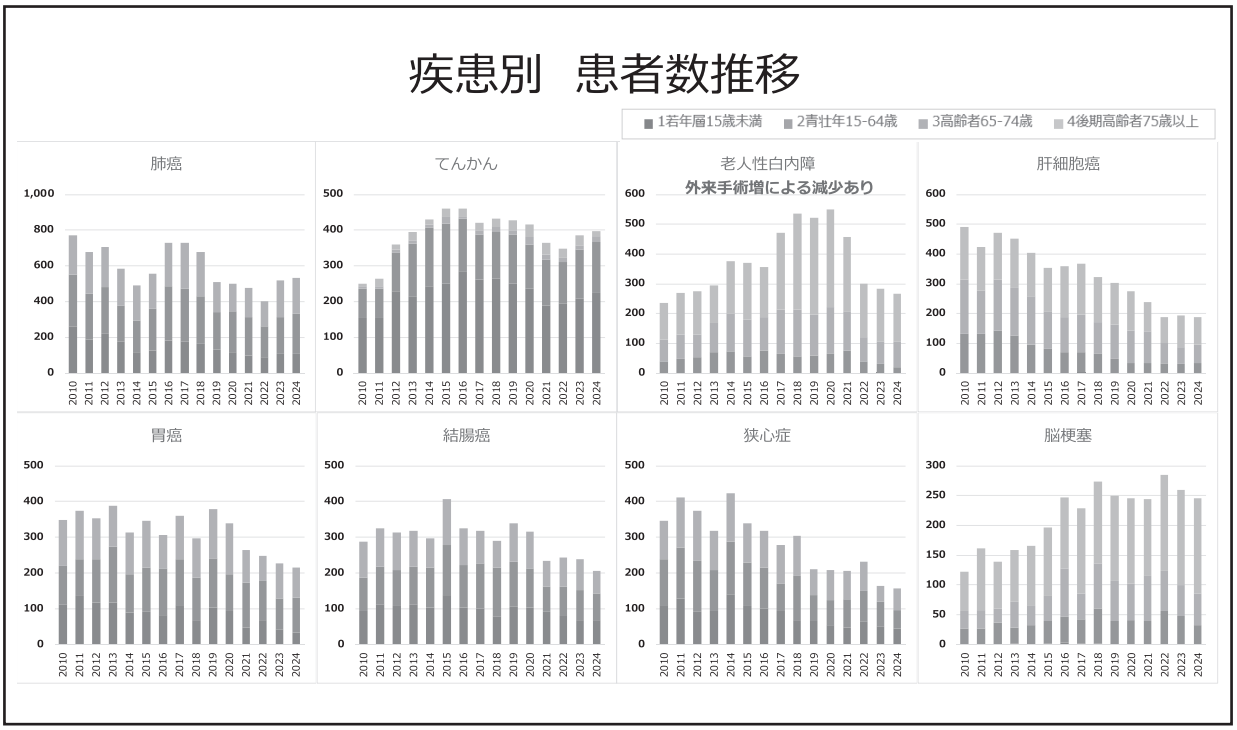
独立行政法人国立病院機構長崎医療センター
診療情報管理室

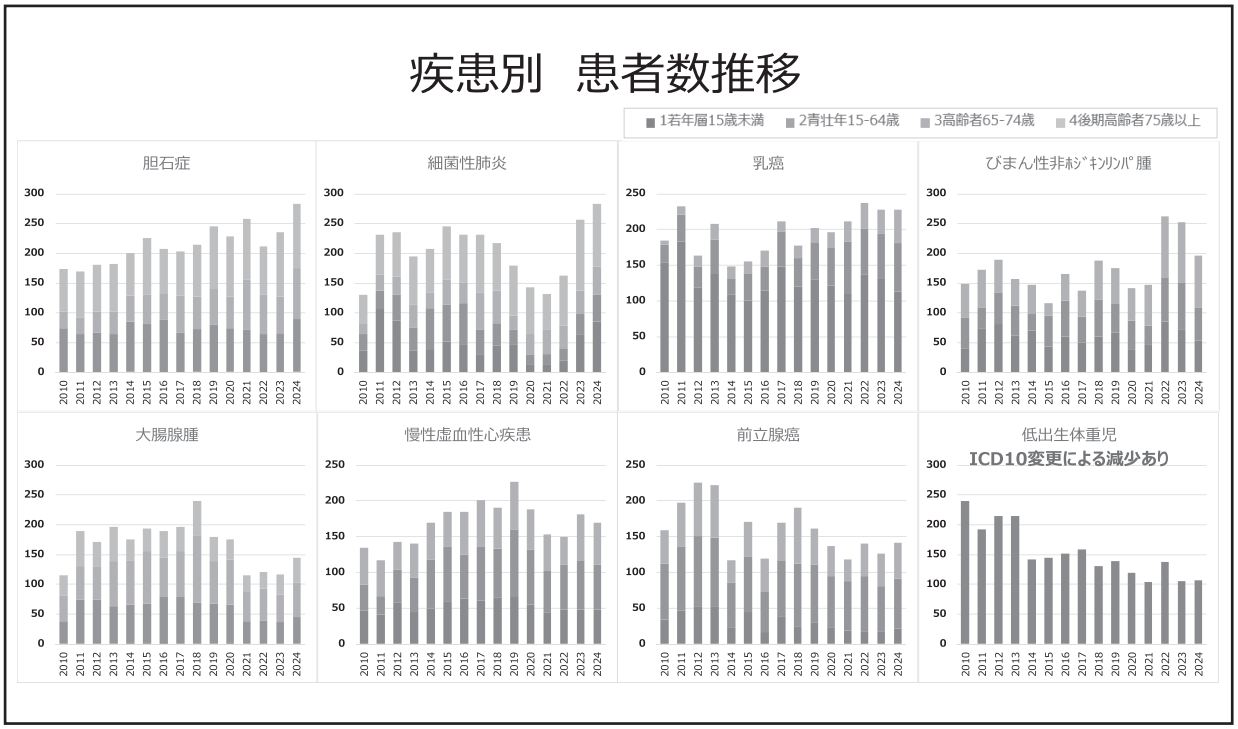

国際疾病大分類別の退院患者数
国際疾病大分類別　退院患者数
合計患者数
13,819
国際疾病大分類
感染症及び寄生虫症(A00-B99) 266
新生物(C00-D48) 4,090
血液の疾患並びに免疫機構の障害(D50-D89) 89
内分泌、栄養及び代謝疾患(E00-E90) 352
精神及び行動の障害(F00-F99) 33
神経系の疾患(G00-G99) 646
眼及び付属器の疾患(H00-H59) 493
耳及び乳様突起の疾患(H60-H95) 146
循環器系の疾患(I00-I99) 1,479
呼吸器系の疾患(J00-J99) 1,144
消化器系の疾患(K00-K93) 1,408
皮膚及び皮下組織の疾患(L00-L99) 202
筋骨格系及び結合組織の疾患(M00-M99) 317
腎尿路生殖器系の疾患(N00-N99) 710
妊娠、分娩及び産褥(O00-O99) 783
周産期に発生した病態(P00-P96) 225
先天奇形、変形及び染色体異常(Q00-Q99) 88
症状及び異常臨床所見(R00-R99) 56
損傷、中毒及びその他の外因の影響(S00-T98) 1,087
特殊目的用コード(U00-U89) 198
健康状態に影響を及ぼす要因(Z00-Z99) 7
0
500
1,000
1,500
2,000
2,500
3,000
3,500
4,000
4,500
退院患者数

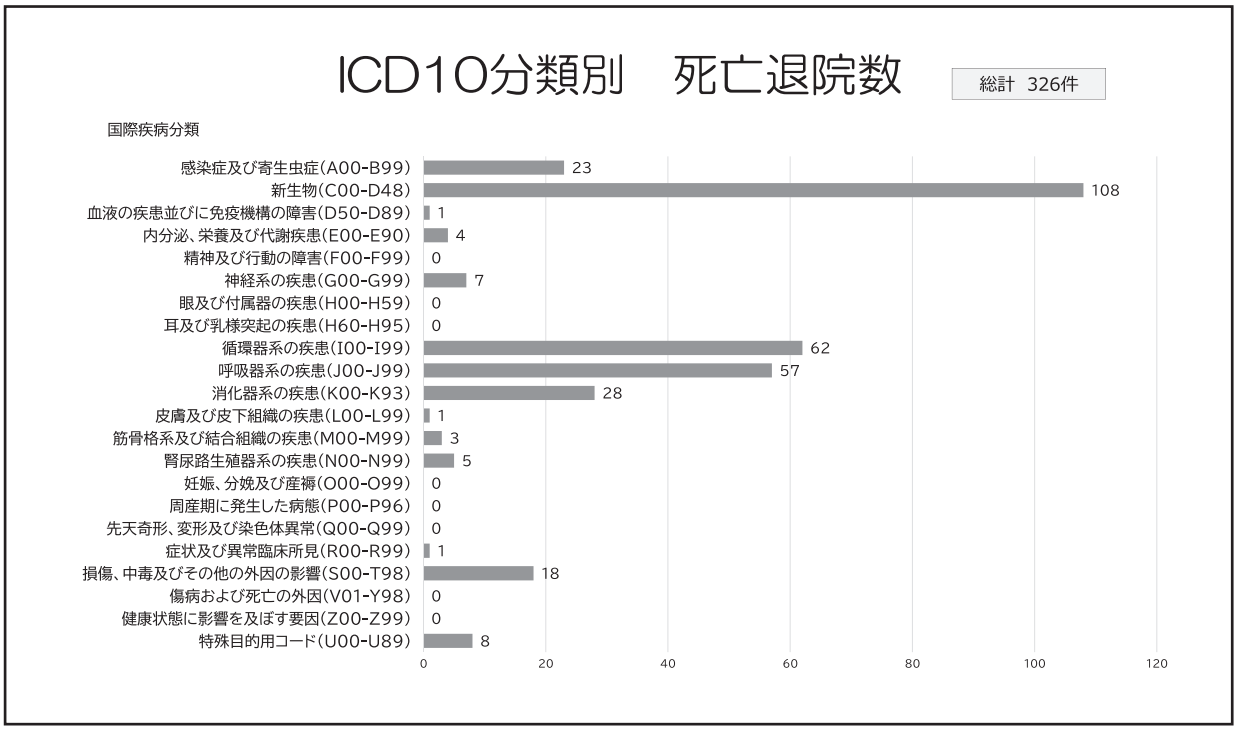

診療科別　退院患者数推移
1若年層15歳未満
2青壮年15-64歳
3高齢者65-74歳
4後期高齢者75歳以上
産婦人科
外科・乳腺外科
消化管内科
肝臓内科
小児科
総合診療科
呼吸器内科
循環器内科


診療科別　退院患者数推移
1若年層15歳未満
2青壮年15-64歳
3高齢者65-74歳
4後期高齢者75歳以上
整形外科
脳神経外科
泌尿器科
眼科
外来手術増による減少あり
血液内科
形成外科
耳鼻咽喉科
精神科

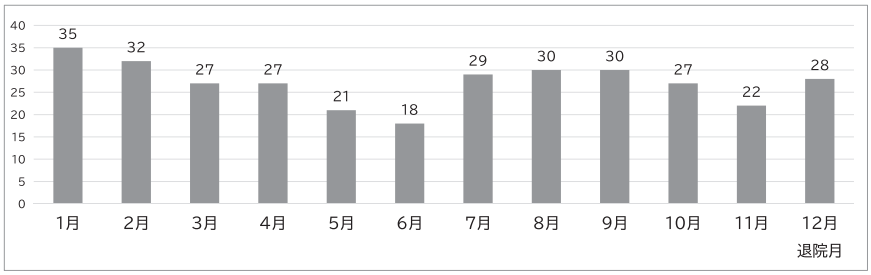

診療科別　退院患者数推移
1若年層15歳未満
2青壮年15-64歳
3高齢者65-74歳
4後期高齢者75歳以上
脳神経内科
腎臓内科
皮膚科
心臓血管外科
呼吸器外科
内分泌・代謝内科
救急科


疾患別　患者数推移
1若年層15歳未満
2青壮年15-64歳
3高齢者65-74歳
4後期高齢者75歳以上
肺癌
てんかん
老人性白内障
外来手術増による減少あり
肝細胞癌
胃癌
結腸癌
狭心症
脳梗塞

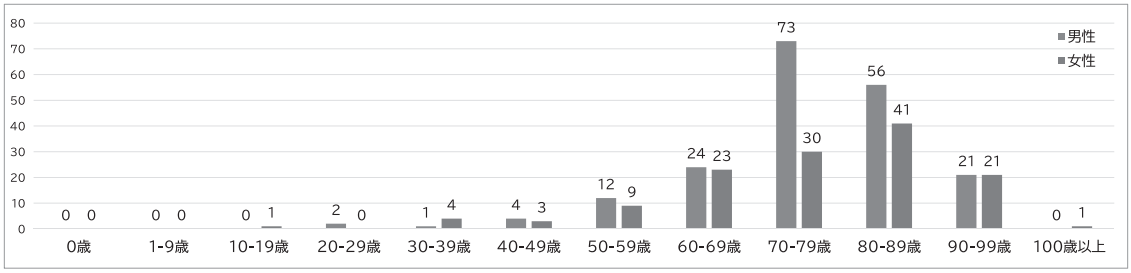

疾患別　患者数推移
1若年層15歳未満
2青壮年15-64歳
3高齢者65-74歳
4後期高齢者75歳以上
胆石症
細菌性肺炎
乳癌
びまん性非ﾎｼﾞｷﾝﾘﾝﾊﾟ腫
大腸腺腫
慢性虚血性心疾患
前立腺癌
低出生体重児
ICD10変更による減少あり


ICD10分類別　死亡退院数
総計　326件
国際疾病分類
感染症及び寄生虫症(A00-B99) 23
新生物(C00-D48) 108
血液の疾患並びに免疫機構の障害(D50-D89) 1
内分泌、栄養及び代謝疾患(E00-E90) 4
精神及び行動の障害(F00-F99) 0
神経系の疾患(G00-G99) 7
眼及び付属器の疾患(H00-H59) 0
耳及び乳様突起の疾患(H60-H95) 0
循環器系の疾患(I00-I99) 62
呼吸器系の疾患(J00-J99) 57
消化器系の疾患(K00-K93) 28
皮膚及び皮下組織の疾患(L00-L99) 1
筋骨格系及び結合組織の疾患(M00-M99) 3
腎尿路生殖器系の疾患(N00-N99) 5
妊娠、分娩及び産褥(O00-O99) 0
周産期に発生した病態(P00-P96) 0
先天奇形、変形及び染色体異常(Q00-Q99) 0
症状及び異常臨床所見(R00-R99) 1
損傷、中毒及びその他の外因の影響(S00-T98) 18
傷病および死亡の外因(V01-Y98) 0
健康状態に影響を及ぼす要因(Z00-Z99) 0
特殊目的用コード(U00-U89) 8

月別／性別・年齢階層別　死亡退院患者数

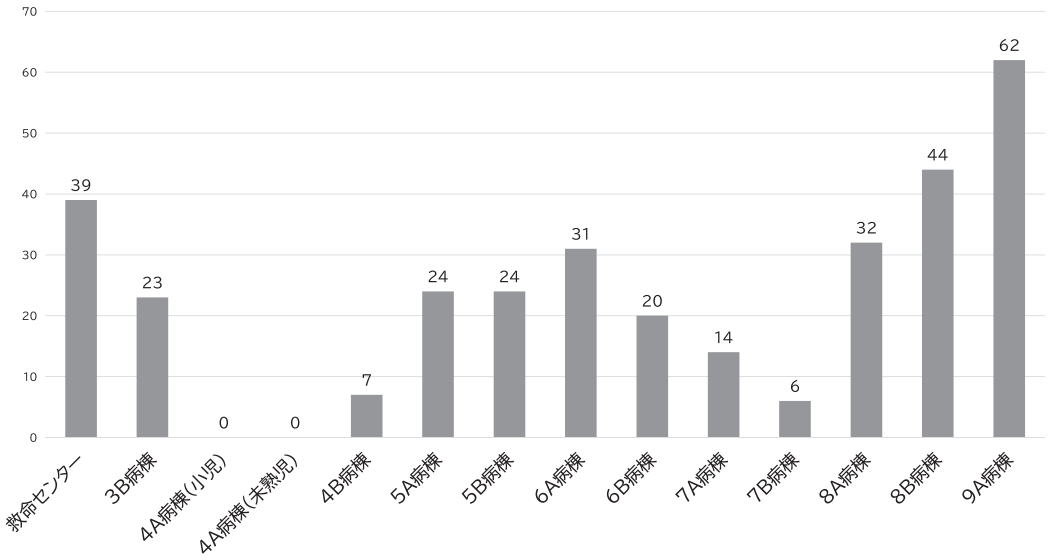


総計　326件
（男性193　女性133）



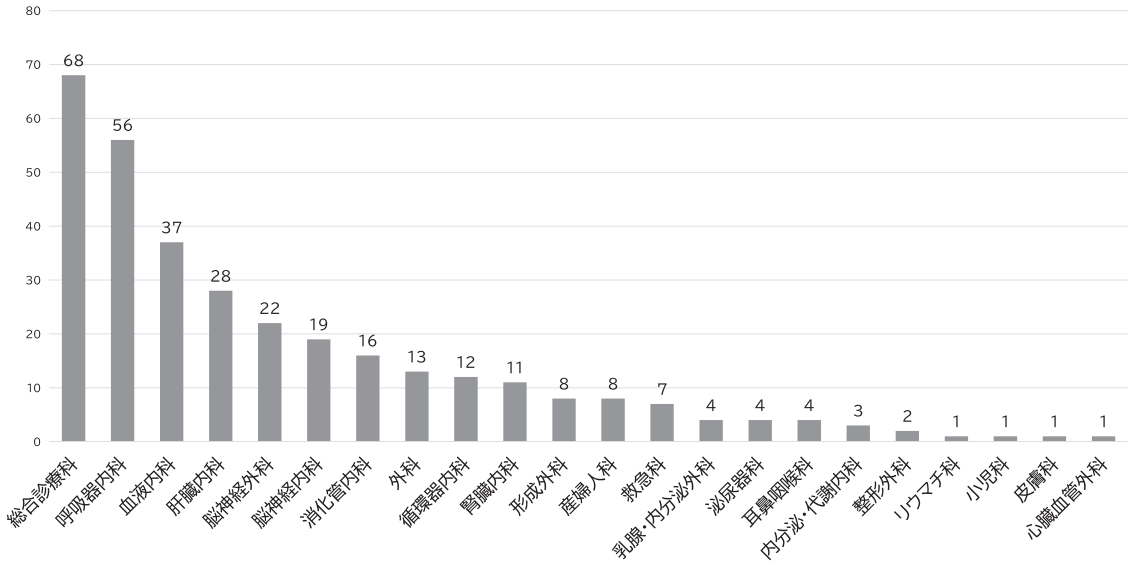
病棟別　死亡退院患者数

総計　326件



診療科別　死亡退院患者数

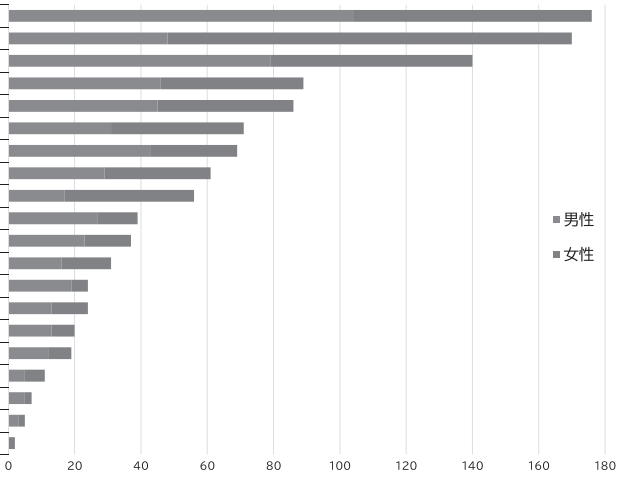
総計 326件



外傷：ICD10分類疾病別件数

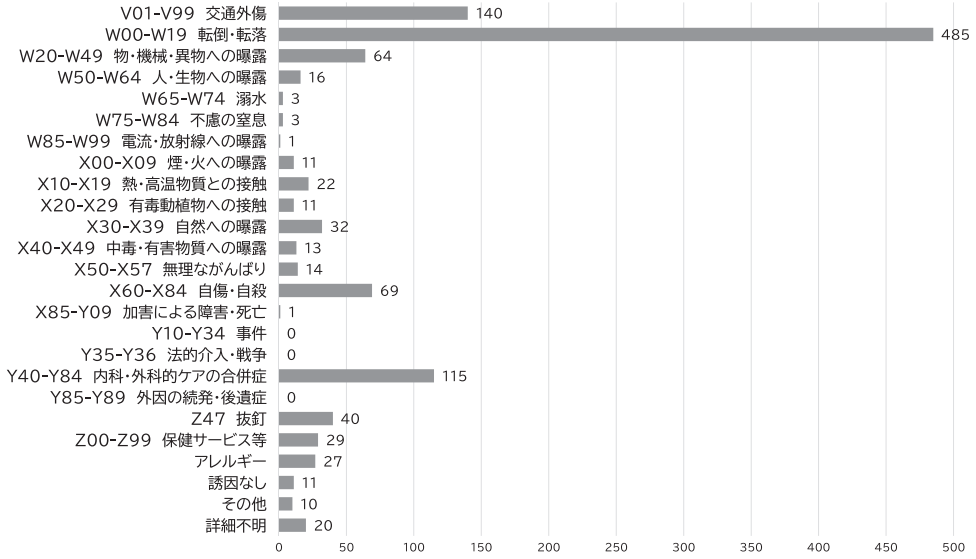
総計 1137件
（男性578 女性559）

男性	女性	総計	
104	72	176	頭部損傷
48	122	170	股関節部および大腿の損傷
79	61	140	外科的および内科的ケアの合併症、他に分類されないもの
46	43	89	腹部、下背部、腰椎及び骨盤部の損傷
45	41	86	膝および下腿の損傷
31	40	71	肘および前腕の損傷
43	26	69	外因のその他および詳細不明の作用
29	32	61	胸部＜郭＞損傷
17	39	56	薬物、薬剤および生物学的製剤による中毒
27	12	39	肩および上腕の損傷
23	14	37	熱傷および腐食
16	15	31	頸部損傷
13	11	24	薬用を主としない物質の毒作用
19	5	24	手首および手の損傷
13	7	20	足首および足の損傷
12	7	19	自然開口部からの異物侵入の作用
5	6	11	多部位の損傷
5	2	7	外傷の早期合併症
3	2	5	部位不明の体幹もしくは(四)肢の損傷または部位不明の損傷
0	2	2	損傷、中毒およびその他の外因による影響の続発・後遺症
578	559	1137	



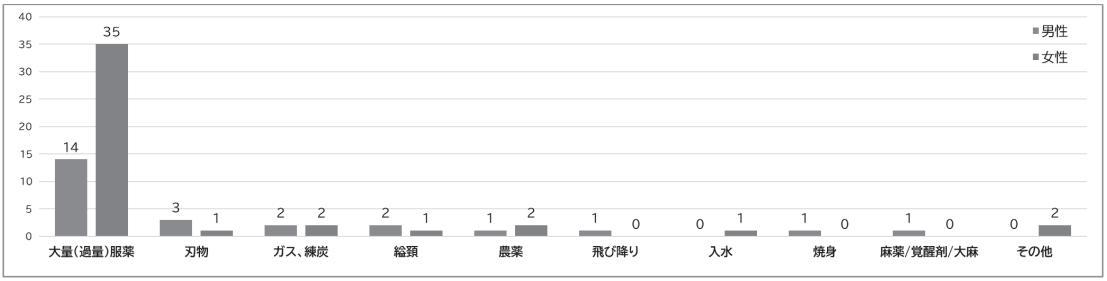
外傷：受傷機転別件数

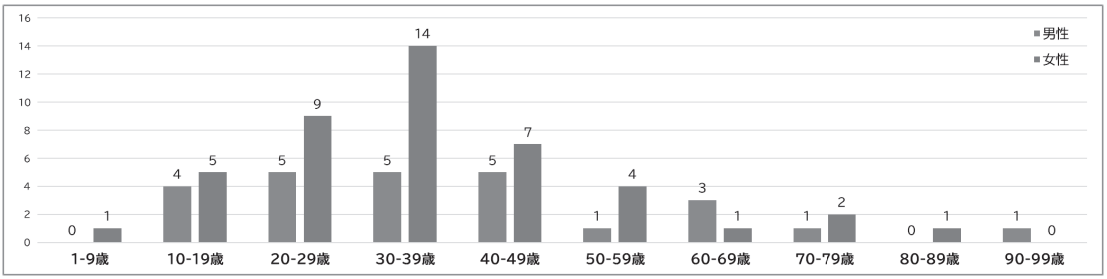
総計 1137件



自殺・自殺企図　手段別件数／年代別件数

総計 69件
（男性25 女性44）





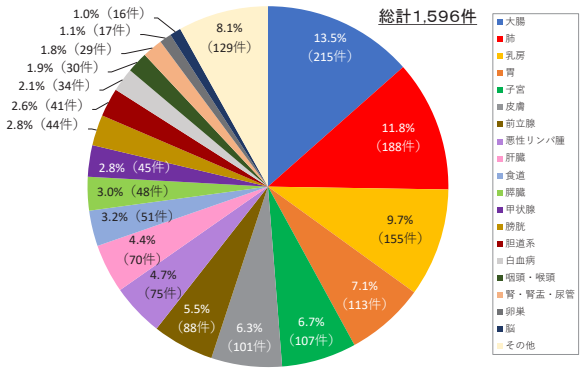
2023 年

長崎医療センター

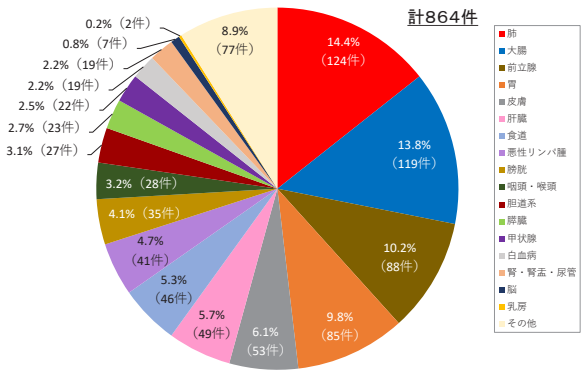
腫瘍集計報告

2023年 1 月～ 2023年12月

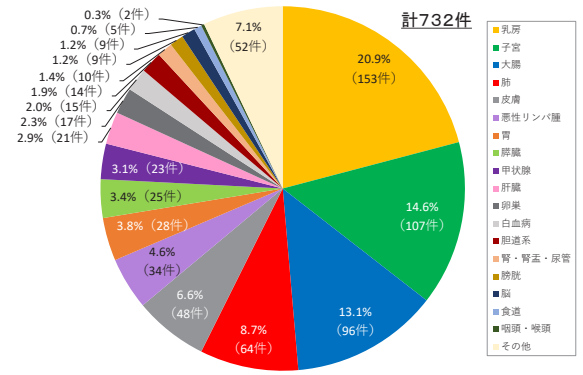
全がん　部位別登録件数



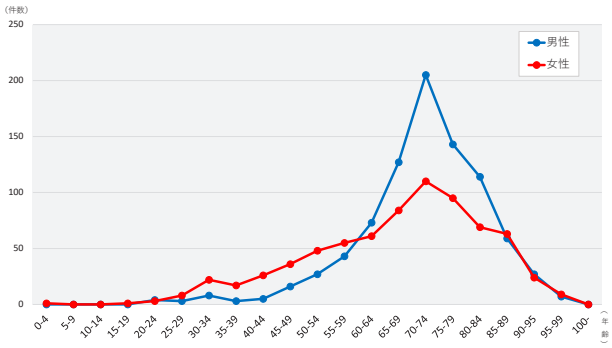
全がん　部位別登録件数〔男性〕



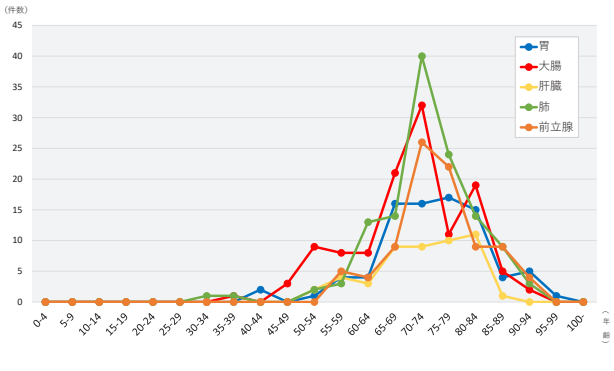
全がん　部位別登録件数〔女性〕



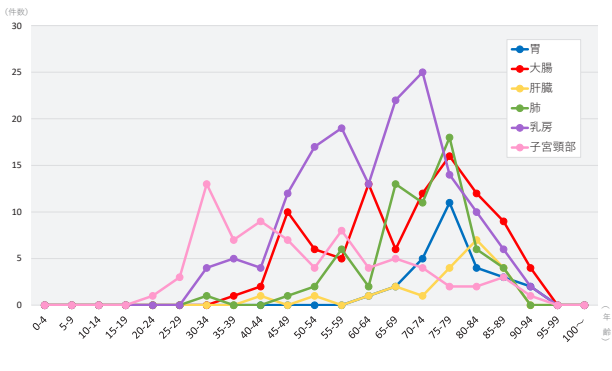
全がん　年齢別登録件数

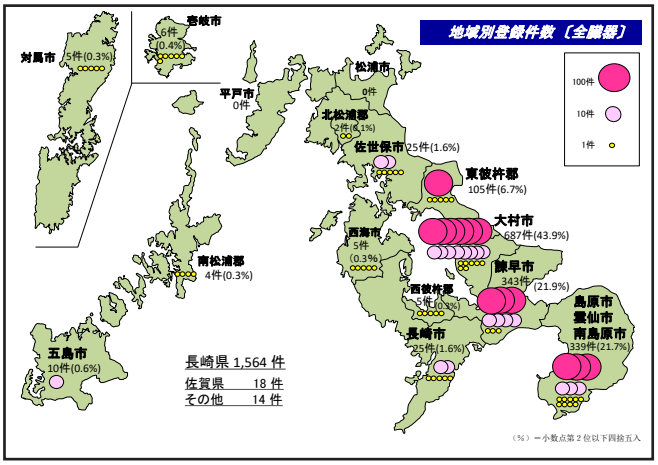


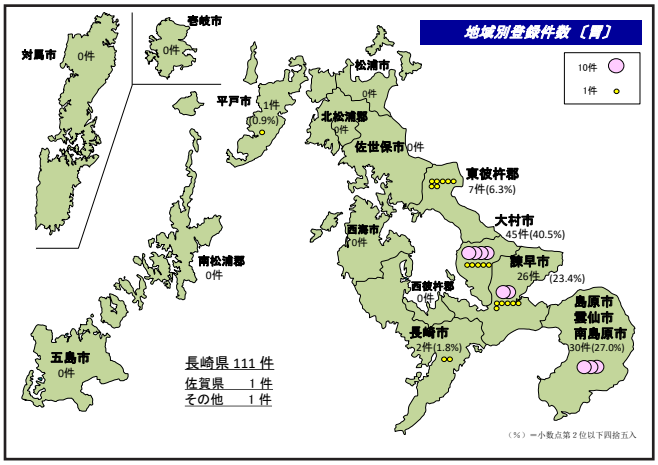
年齢別登録件数　〔男性〕

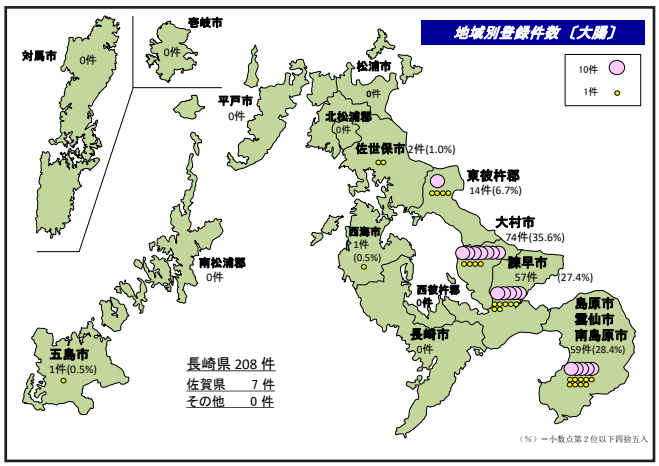


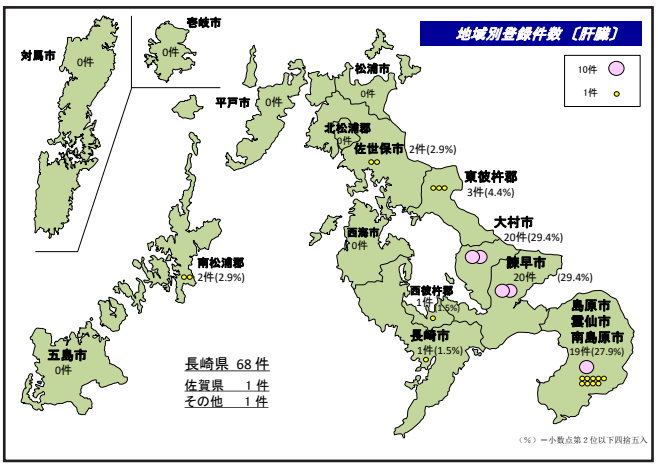
年齢別登録件数　〔女性〕

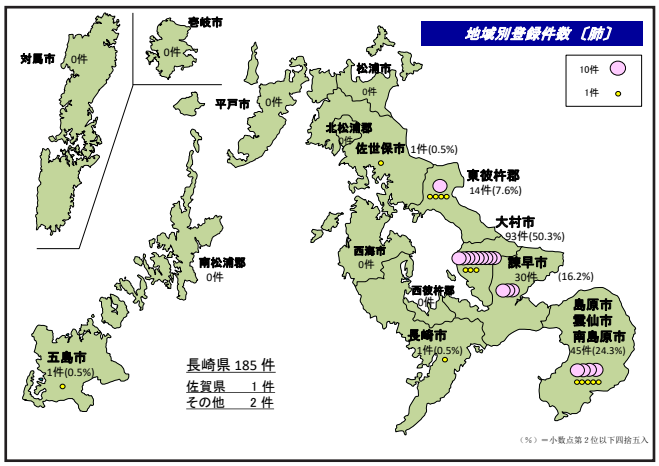


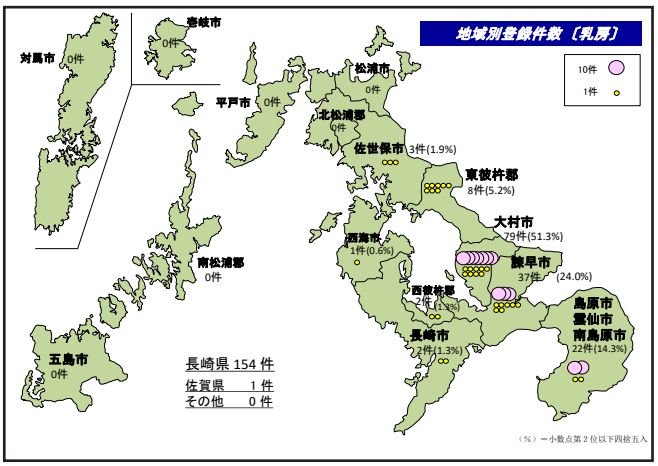

地域別登録件数〔全臓器〕
壱岐市
6件(0.4%)
対馬市
5件(0.3%)
平戸市
0件
松浦市
0件
北松浦郡
2件(0.1%)
佐世保市 25件(1.6%)
東彼杵郡
105件(6.7%)
大村市
687件(43.9%)
西海市
5件(0.3%)
諫早市
343件(21.9%)
西彼杵郡
5件(0.3%)
島原市
雲仙市
南島原市
339件(21.7%)
長崎市
25件(1.6%)
南松浦郡
4件(0.3%)
五島市
10件(0.6%)
100件
10件
1件
長崎県 1,564 件
佐賀県　18 件
その他　14 件
（%）＝小数点第２位以下四捨五入


地域別登録件数〔胃〕
壱岐市
0件
対馬市
0件
平戸市
1件
(0.9%)
松浦市
0件
北松浦郡
0件
佐世保市 0件
東彼杵郡
7件(6.3%)
大村市
45件(40.5%)
西海市
0件
諫早市
26件 (23.4%)
西彼杵郡
0件
島原市
雲仙市
南島原市
30件(27.0%)
長崎市
2件(1.8%)
南松浦郡
0件
五島市
0件
10件
1件
長崎県 111 件
佐賀県　1 件
その他　1 件
（%）＝小数点第２位以下四捨五入

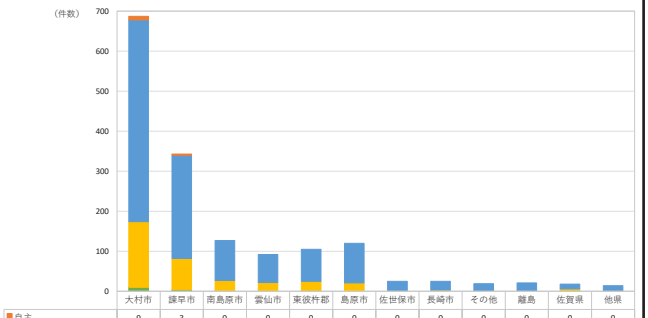

地域別登録件数〔大腸〕
壱岐市
0件
対馬市
0件
平戸市
0件
松浦市
0件
北松浦郡
0件
佐世保市 2件(1.0%)
東彼杵郡
14件(6.7%)
大村市
74件(35.6%)
西海市
1件
(0.5%)
諫早市
57件 (27.4%)
西彼杵郡
0件
島原市
雲仙市
南島原市
59件(28.4%)
長崎市
0件
南松浦郡
0件
五島市
1件(0.5%)
10件
1件
長崎県 208 件
佐賀県　7 件
その他　0 件
（%）＝小数点第２位以下四捨五入


地域別登録件数〔肝臓〕
壱岐市
0件
対馬市
0件
平戸市
0件
松浦市
0件
北松浦郡
0件
佐世保市 2件(2.9%)
東彼杵郡
3件(4.4%)
大村市
20件(29.4%)
西海市
0件
諫早市
20件 (29.4%)
西彼杵郡
1件
(1.5%)
島原市
雲仙市
南島原市
19件(27.9%)
長崎市
1件(1.5%)
南松浦郡
2件(2.9%)
五島市
0件
10件
1件
長崎県 68 件
佐賀県　1 件
その他　1 件
（%）＝小数点第２位以下四捨五入


地域別登録件数〔肺〕
壱岐市
0件
対馬市
0件
平戸市
0件
松浦市
0件
北松浦郡
0件
佐世保市 1件(0.5%)
東彼杵郡
14件(7.6%)
大村市
93件(50.3%)
西海市
0件
諫早市
30件 (16.2%)
西彼杵郡
0件
島原市
雲仙市
南島原市
45件(24.3%)
長崎市
1件(0.5%)
南松浦郡
0件
五島市
1件(0.5%)
10件
1件
長崎県 185 件
佐賀県　1 件
その他　2 件
（%）＝小数点第２位以下四捨五入

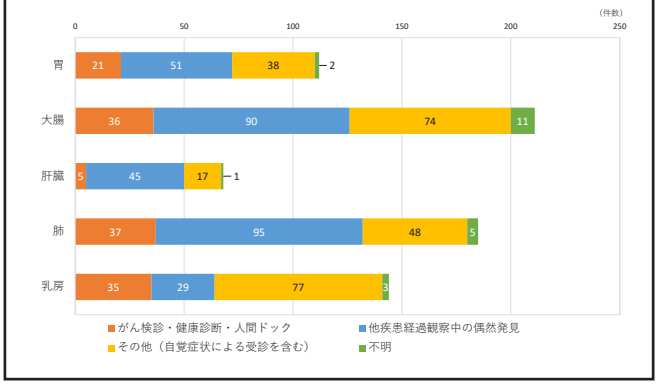

地域別登録件数〔乳房〕
壱岐市
0件
対馬市
0件
平戸市
0件
松浦市
0件
北松浦郡
0件
佐世保市 3件(1.9%)
東彼杵郡
8件(5.2%)
大村市
79件(51.3%)
西海市
1件(0.6%)
諫早市
37件 (24.0%)
西彼杵郡
2件
(1.3%)
島原市
雲仙市
南島原市
22件(14.3%)
長崎市
2件(1.3%)
南松浦郡
0件
五島市
0件
10件
1件
長崎県 154 件
佐賀県　1 件
その他　0 件
（%）＝小数点第２位以下四捨五入

来院経路（地域別）

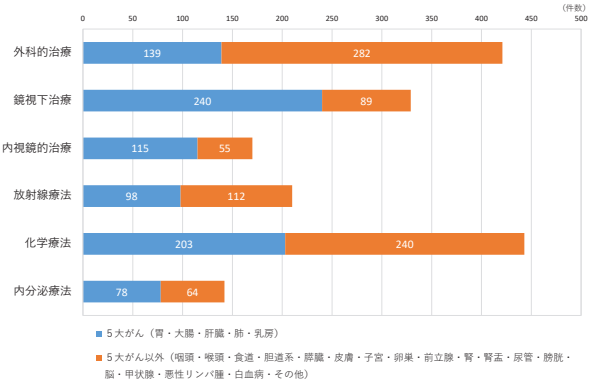


	大村市	諫早市	南島原市	雲仙市	東彼杵郡	島原市	佐世保市	長崎市	その他	離島	佐賀県	他県
自主	9	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
紹介（他院より）	504	258	100	70	80	99	24	22	17	19	12	13
他疾患経過観察（当院）	164	78	26	21	24	21	1	3	2	2	5	1
その他	10	4	1	1	1	0	0	0	0	0	1	0

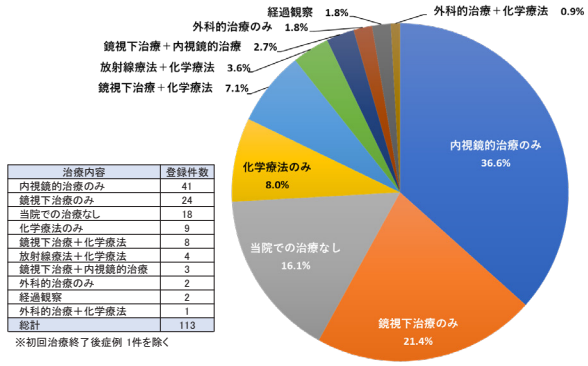
発見経緯（5大がん）



初回治療方法



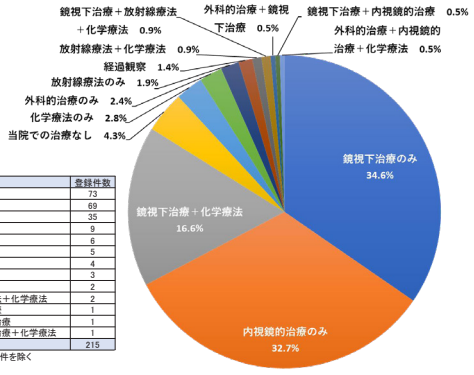
胃がん　初回治療内容［2023年診断症例］



治療内容	登録件数
内視鏡的治療のみ	41
鏡視下治療のみ	24
当院での治療なし	18
化学療法のみ	9
鏡視下治療＋化学療法	8
放射線療法＋化学療法	4
鏡視下治療＋内視鏡的治療	3
外科的治療のみ	2
経過観察	2
外科的治療＋化学療法	1
総計	113

※初回治療終了後症例 1件を除く

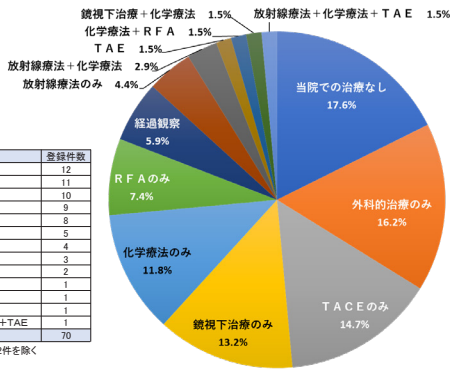
大腸がん　初回治療内容［2023年診断症例］



治療内容	登録件数
鏡視下治療のみ	73
内視鏡的治療のみ	69
鏡視下治療＋化学療法	35
当院での治療なし	9
化学療法のみ	6
外科的治療のみ	5
放射線療法のみ	4
経過観察	3
放射線療法＋化学療法	2
鏡視下治療＋放射線療法＋化学療法	2
外科的治療＋鏡視下治療	1
鏡視下治療＋内視鏡的治療	1
外科的治療＋内視鏡的治療＋化学療法	1
総計	215

※初回治療終了後症例 4件を除く

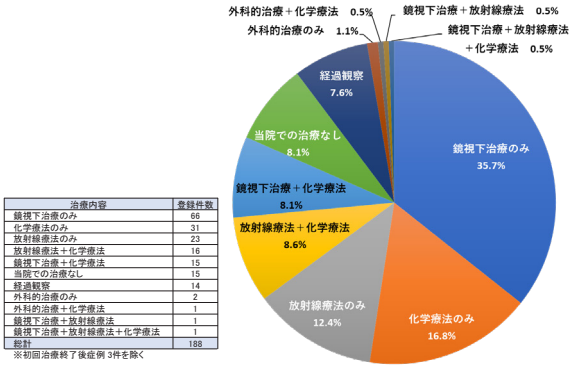
肝がん　初回治療内容［2023年診断症例］



治療内容	登録件数
当院での治療なし	12
外科的治療のみ	11
TACEのみ	10
鏡視下治療のみ	9
化学療法のみ	8
RFAのみ	5
経過観察	4
放射線療法のみ	3
放射線療法＋化学療法	2
TAE	1
化学療法＋RFA	1
鏡視下治療＋化学療法	1
放射線療法＋化学療法＋TAE	1
総計	70

※初回治療終了後症例 2件を除く

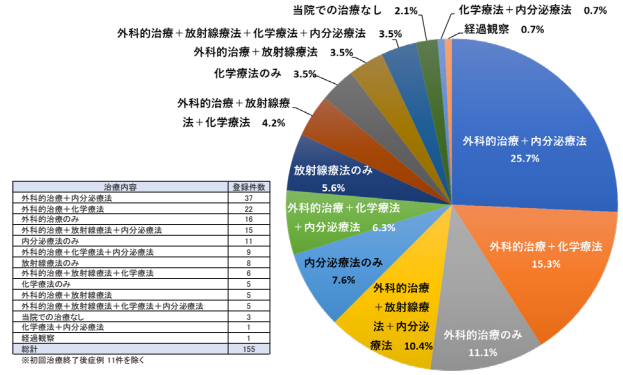
肺がん　初回治療内容［2023年診断症例］



治療内容	登録件数
鏡視下治療のみ	66
化学療法のみ	31
放射線療法のみ	23
放射線療法＋化学療法	16
鏡視下治療＋化学療法	15
当院での治療なし	15
経過観察	14
外科的治療のみ	2
外科的治療＋化学療法	1
鏡視下治療＋放射線療法	1
鏡視下治療＋放射線療法＋化学療法	1
総計	188

※初回治療終了後症例 3件を除く

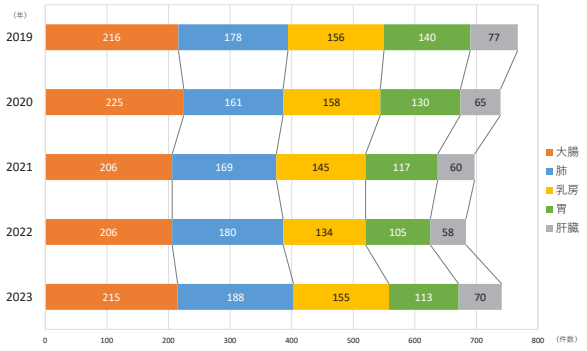
乳がん　初回治療内容［2023年診断症例］



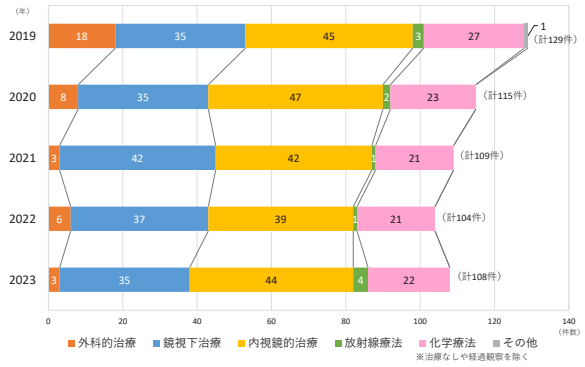
治療内容	登録件数
外科的治療＋内分泌療法	37
外科的治療＋化学療法	22
外科的治療のみ	16
外科的治療＋放射線療法＋内分泌療法	15
内分泌療法のみ	11
外科的治療＋化学療法＋内分泌療法	9
放射線療法のみ	8
外科的治療＋放射線療法＋化学療法	6
化学療法のみ	5
外科的治療＋放射線療法	5
外科的治療＋放射線療法＋化学療法＋内分泌療法	5
当院での治療なし	3
化学療法＋内分泌療法	1
経過観察	1
総計	155

※初回治療終了後症例 11件を除く

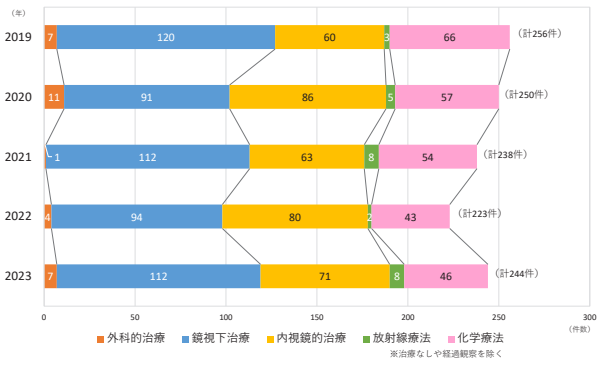
登録件数（5大がん）の推移



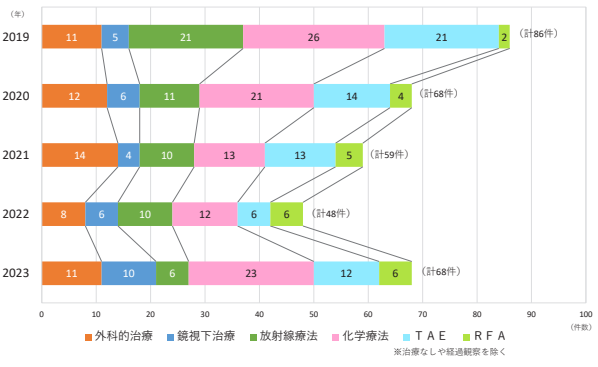
初回治療方法（胃）の推移

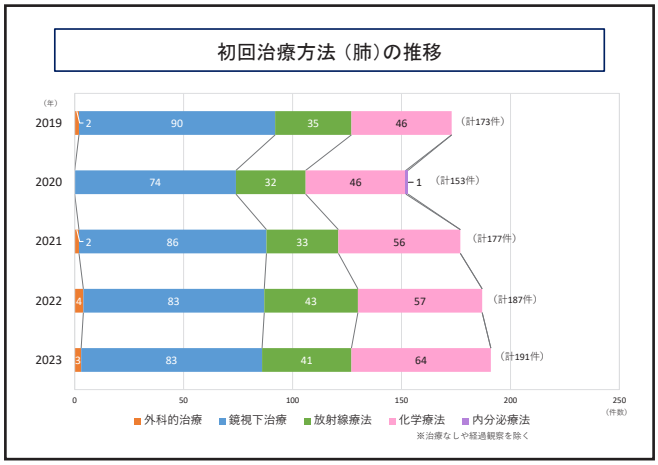


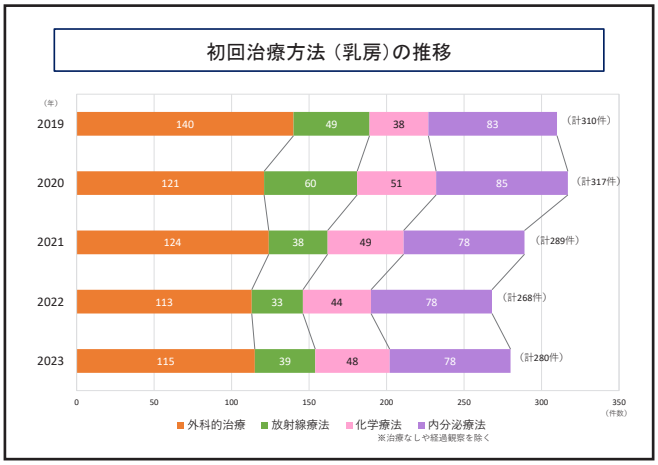
初回治療方法（大腸）の推移

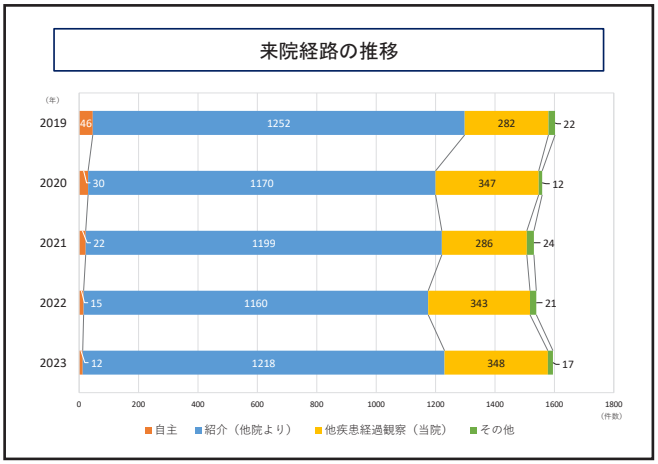


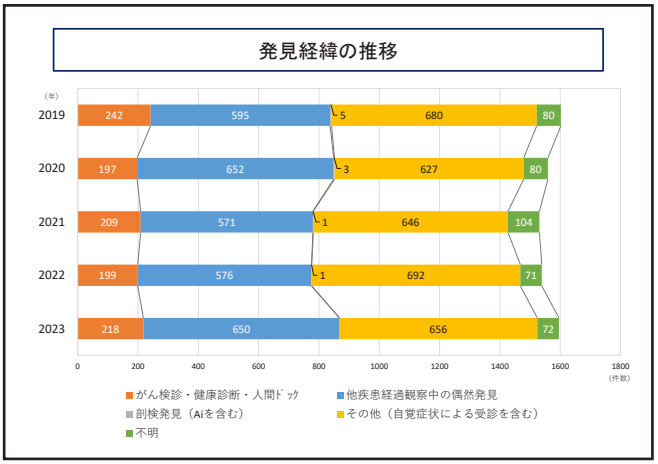
初回治療方法（肝臓）の推移




初回治療方法（肺）の推移
（年）
2019
2020
2021
2022
2023
2 90 35 46 （計173件）
74 32 46 1 （計153件）
2 86 33 56 （計177件）
4 83 43 57 （計187件）
3 83 41 64 （計191件）
0 50 100 150 200 250
（件数）
外科的治療
鏡視下治療
放射線療法
化学療法
内分泌療法
※治療なしや経過観察を除く


初回治療方法（乳房）の推移
（年）
2019
2020
2021
2022
2023
140 49 38 83 （計310件）
121 60 51 85 （計317件）
124 38 49 78 （計289件）
113 33 44 78 （計268件）
115 39 48 78 （計280件）
0 50 100 150 200 250 300 350
（件数）
外科的治療
放射線療法
化学療法
内分泌療法
※治療なしや経過観察を除く


来院経路の推移
（年）
2019
2020
2021
2022
2023
46 1252 282 22
30 1170 347 12
22 1199 286 24
15 1160 343 21
12 1218 348 17
0 200 400 600 800 1000 1200 1400 1600 1800
（件数）
自主
紹介（他院より）
他疾患経過観察（当院）
その他


発見経緯の推移
（年）
2019
2020
2021
2022
2023
242 595 5 680 80
197 652 3 627 80
209 571 1 646 104
199 576 1 692 71
218 650 656 72
0 200 400 600 800 1000 1200 1400 1600 1800
（件数）
がん検診・健康診断・人間ﾄﾞｯｸ
他疾患経過観察中の偶然発見
剖検発見（Aiを含む）
その他（自覚症状による受診を含む）
不明

編　集　後　記

2024年は４月から病院長に髙山隼人先生が就任され、新たな体制が始まりました。医療従事者にとって長かく辛いコロナ時代がようやく終了し、新たな世界が本格的にはじまりました。しかし、病院経営にとってはとても厳しいものでした。病院を受診する患者さんは回復せず、医療に厳しい診療報酬・介護報酬のダブル改訂もあり、日本中の病院が大変な年になりました。当院は４月からは精神科医師が一人となったので精神科病床が休止となりました。赤字については国立病院機構本部から重点支援病院に指定され、６月には訪問指導も受けました。全国中の病院経営が厳しい中、当院の病床稼働率は秋から上昇しはじめ、月次決算では黒字になる月もみられるようになりました。残念ながら年度決算は赤字でしたが、回復の兆しもみえてきました。ご協力ありがとうございました。重点支援病院の指定が解除されるためには今年度の実績がとても重要となります。黒字病院だけに支給されるという春の幻の手当を来春には頂きたいものです。

来年度は８月に病院機能評価を受審します。とても大変な労力と時間が必要になりますが、これを機会に客観的に見直しを行い、よりよい医療を行うことができればと思います。

とても残念ですが、初期研修医の先生が急逝されました。いつも明るくやさしく患者さんに接していた姿が忘れられません。

今回から病院ホームページからこの年報を公開するようにいたしました。そのため、CDの発送は今回から原則終了とさせていただきます。今後とも変わらぬご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

令和７年３月

診療情報管理室長

本　村　秀　樹

独立行政法人国立病院機構長崎医療センター

年　　報

（2024年）

発 行 日　令和７年３月

編集・発行　独立行政法人
国立病院機構 長崎医療センター
〒856-8562　長崎県大村市久原2丁目1001-1
TEL（0957）52-3121　FAX（0957）54-0292

印刷・製本　株式会社 陽文社
〒812-0893　福岡県福岡市博多区那珂５丁目７番37号
TEL（092）412-7331　FAX（092）412-7332

独立行政法人 国立病院機構